

2022年度 理工・生命科学部教養科目 講義概要（シラバス）



法政大学

科目一覧

〔発行日：2022/5/2〕 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

英語科目	【H3001】	コミュニケーション・ストラテジー	[ALAN D MORGAN]	春学期授業/Spring	1
英語科目	【H3002】	コミュニケーション・ストラテジー	[太田 美智子]	春学期授業/Spring	2
英語科目	【H3003】	コミュニケーション・ストラテジー	[細野 まゆみ]	春学期授業/Spring	3
英語科目	【H3005】	コミュニケーション・ストラテジー	[川島 るり子]	春学期授業/Spring	4
英語科目	【H3006】	コミュニケーション・ストラテジー	[NEIL CONWAY]	春学期授業/Spring	5
英語科目	【H3007】	コミュニケーション・ストラテジー	[細野 まゆみ]	秋学期授業/Fall	6
英語科目	【H3010】	コミュニケーション・ストラテジー	[ALAN D MORGAN]	秋学期授業/Fall	7
英語科目	【H3011】	コミュニケーション・ストラテジー	[磯部 芳恵]	春学期授業/Spring	8
英語科目	【H3012】	コミュニケーション・ストラテジー	[磯部 芳恵]	秋学期授業/Fall	9
英語科目	【H3014】	コミュニケーション・ストラテジー	[ALDER mark]	春学期授業/Spring	10
英語科目	【H3016】	コミュニケーション・ストラテジー	[ALDER mark]	秋学期授業/Fall	11
英語科目	【H3017】	コミュニケーション・ストラテジー	[川島 るり子]	秋学期授業/Fall	12
英語科目	【H3018】	コミュニケーション・ストラテジー	[太田 美智子]	秋学期授業/Fall	13
英語科目	【H3020】	コミュニケーション・ストラテジー	[NEIL CONWAY]	秋学期授業/Fall	14
英語科目	【H3022】	コミュニケーション・ストラテジー	[久慈 美貴]	春学期授業/Spring	15
英語科目	【H3023】	コミュニケーション・ストラテジー	[KOPROWSKI MARK]	春学期授業/Spring	16
英語科目	【H3024】	コミュニケーション・ストラテジー	[花崎 一夫]	春学期授業/Spring	18
英語科目	【H3026】	コミュニケーション・ストラテジー	[早船 由紀見]	春学期授業/Spring	19
英語科目	【H3027】	コミュニケーション・ストラテジー	[小畑 美貴]	春学期授業/Spring	20
英語科目	【H3028】	コミュニケーション・ストラテジー	[小林 直樹]	春学期授業/Spring	22
英語科目	【H3029】	コミュニケーション・ストラテジー	[吉川 直澄]	春学期授業/Spring	23
英語科目	【H3030】	コミュニケーション・ストラテジー	[早船 由紀見]	秋学期授業/Fall	24
英語科目	【H3031】	コミュニケーション・ストラテジー	[小畑 美貴]	秋学期授業/Fall	25
英語科目	【H3032】	コミュニケーション・ストラテジー	[小林 直樹]	秋学期授業/Fall	26
英語科目	【H3033】	コミュニケーション・ストラテジー	[吉川 直澄]	秋学期授業/Fall	27
英語科目	【H3035】	コミュニケーション・ストラテジー	[KOPROWSKI MARK]	秋学期授業/Fall	28
英語科目	【H3036】	コミュニケーション・ストラテジー	[鈴木 幸]	秋学期授業/Fall	30
英語科目	【H3037】	コミュニケーション・ストラテジー	[花崎 一夫]	秋学期授業/Fall	31
英語科目	【H3039】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[バリー ヘイタ]	春学期授業/Spring	32
英語科目	【H3040】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[柏原 俊樹]	春学期授業/Spring	33
英語科目	【H3042】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[久慈 美貴]	春学期授業/Spring	34
英語科目	【H3043】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[渡邊 晶子]	春学期授業/Spring	35
英語科目	【H3045】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[バリー ヘイタ]	春学期授業/Spring	36
英語科目	【H3046】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[花崎 一夫]	春学期授業/Spring	37
英語科目	【H3047】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[柏原 俊樹]	春学期授業/Spring	38
英語科目	【H3048】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[梨本 邦直]	春学期授業/Spring	39
英語科目	【H3050】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[小畑 美貴]	春学期授業/Spring	40
英語科目	【H3051】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[島田 顕]	春学期授業/Spring	41
英語科目	【H3052】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[小林 直樹]	春学期授業/Spring	43
英語科目	【H3053】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[中野 里美]	春学期授業/Spring	44
英語科目	【H3054】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[川島 多加子]	春学期授業/Spring	45
英語科目	【H3056】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[島田 顕]	春学期授業/Spring	46
英語科目	【H3057】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[小屋 多恵子]	春学期授業/Spring	48
英語科目	【H3058】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[井上 敏郎]	春学期授業/Spring	49
英語科目	【H3059】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[RYAN HARTLEY]	春学期授業/Spring	50
英語科目	【H3060】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I	[KOPROWSKI MARK]	春学期授業/Spring	52
英語科目	【H3062】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[バリー ヘイタ]	秋学期授業/Fall	54
英語科目	【H3063】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[柏原 俊樹]	秋学期授業/Fall	55
英語科目	【H3065】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[久慈 美貴]	秋学期授業/Fall	56
英語科目	【H3066】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[渡邊 晶子]	秋学期授業/Fall	57
英語科目	【H3068】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[バリー ヘイタ]	秋学期授業/Fall	58
英語科目	【H3069】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[花崎 一夫]	秋学期授業/Fall	59
英語科目	【H3070】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I	[柏原 俊樹]	秋学期授業/Fall	60

英語科目	【H3071】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔梨本 邦直〕	秋学期授業/Fall	61
英語科目	【H3073】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔小畑 美貴〕	秋学期授業/Fall	62
英語科目	【H3074】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔島田 顕〕	秋学期授業/Fall	63
英語科目	【H3075】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔小林 直樹〕	秋学期授業/Fall	65
英語科目	【H3076】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔中野 里美〕	秋学期授業/Fall	66
英語科目	【H3077】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔川島 多加子〕	秋学期授業/Fall	67
英語科目	【H3079】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔島田 顕〕	秋学期授業/Fall	68
英語科目	【H3080】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔小屋 多恵子〕	秋学期授業/Fall	70
英語科目	【H3081】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔井上 敏郎〕	秋学期授業/Fall	71
英語科目	【H3082】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔RYAN HARTLEY〕	秋学期授業/Fall	72
英語科目	【H3083】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔KOPROWSKI MARK〕	秋学期授業/Fall	74
人文・社会・自然科学系	【H3085】	哲学入門	〔沖本 龍哉〕	秋学期授業/Fall	76
人文・社会・自然科学系	【H3086】	哲学入門	〔沖本 龍哉〕	春学期授業/Spring	77
人文・社会・自然科学系	【H3087】	哲学入門	〔美頭 千不美〕	春学期授業/Spring	78
人文・社会・自然科学系	【H3088】	言語学概論	〔小屋 多恵子〕	春学期授業/Spring	80
人文・社会・自然科学系	【H3089】	言語学概論	〔梨本 邦直〕	秋学期授業/Fall	81
人文・社会・自然科学系	【H3090】	日本文化論	〔横山 泰子〕	春学期授業/Spring	82
人文・社会・自然科学系	【H3091】	日本文化論	〔谷村 玲子〕	春学期授業/Spring	83
人文・社会・自然科学系	【H3092】	アジア文化論	〔呉 曉林〕	秋学期授業/Fall	85
人文・社会・自然科学系	【H3093】	ヨーロッパ・アメリカ文化論	〔川口 悠子〕	春学期授業/Spring	86
人文・社会・自然科学系	【H3094】	アフリカ文化論	〔元木 淳子〕	春学期授業/Spring	87
人文・社会・自然科学系	【H3095】	比較文化論	〔横山 泰子〕	秋学期授業/Fall	88
人文・社会・自然科学系	【H3096】	比較文化論	〔横山 泰子〕	秋学期授業/Fall	89
人文・社会・自然科学系	【H3097】	映像芸術	〔佐藤 正和〕	春学期授業/Spring	90
人文・社会・自然科学系	【H3098】	映像芸術	〔佐藤 正和〕	秋学期授業/Fall	91
人文・社会・自然科学系	【H3099】	音楽芸術	〔竹内 誠〕	秋学期授業/Fall	92
人文・社会・自然科学系	【H3100】	音楽芸術	〔竹内 誠〕	春学期授業/Spring	93
人文・社会・自然科学系	【H3101】	こころの働き	〔伊藤 隆一〕	秋学期授業/Fall	94
人文・社会・自然科学系	【H3102】	パーソナリティ	〔伊藤 ひろみ〕	春学期授業/Spring	95
人文・社会・自然科学系	【H3103】	知的所有権	〔武生 昌士、安田 和史〕	秋学期授業/Fall	96
人文・社会・自然科学系	【H3104】	知的所有権	〔武生 昌士、安田 和史〕	春学期授業/Spring	97
人文・社会・自然科学系	【H3105】	社会科学の方法論	〔福澤 レベッカ〕	春学期授業/Spring	98
人文・社会・自然科学系	【H3106】	国際関係論	〔元木 淳子〕	秋学期授業/Fall	99
人文・社会・自然科学系	【H3107】	基礎経済学	〔呉 曉林〕	春学期授業/Spring	100
人文・社会・自然科学系	【H3108】	応用経済学	〔明城 聡〕	春学期授業/Spring	101
人文・社会・自然科学系	【H3109】	企業マネジメント	〔田名網 尚〕	春学期授業/Spring	102
人文・社会・自然科学系	【H3110】	現代政治学	〔川口 悠子〕	秋学期授業/Fall	103
人文・社会・自然科学系	【H3111】	キャリアデザイン	〔斎藤 真一郎〕	秋学期授業/Fall	104
人文・社会・自然科学系	【H3112】	法学（日本国憲法）	〔浅野 毅彦〕	春学期授業/Spring	106
人文・社会・自然科学系	【H3113】	法学（日本国憲法）	〔浅野 毅彦〕	春学期授業/Spring	107
人文・社会・自然科学系	【H3114】	法と社会	〔浅野 毅彦〕	秋学期授業/Fall	108
人文・社会・自然科学系	【H3115】	法と社会	〔浅野 毅彦〕	秋学期授業/Fall	110
人文・社会・自然科学系	【H3116】	科学技術史	〔馬場 敏幸〕	春学期授業/Spring	112
人文・社会・自然科学系	【H3117】	科学技術史	〔馬場 敏幸〕	秋学期授業/Fall	113
人文・社会・自然科学系	【H3119】	先端技術・社会論	〔原 昌己〕	秋学期授業/Fall	114
人文・社会・自然科学系	【H3120】	先端技術・社会論	〔原 昌己〕	春学期授業/Spring	115
人文・社会・自然科学系	【H3121】	技術者倫理	〔詫間 直樹〕	秋学期授業/Fall	116
人文・社会・自然科学系	【H3122】	情報倫理	〔笹原 和織〕	秋学期授業/Fall	118
人文・社会・自然科学系	【H3123】	環境と資源	〔中嶋 吉弘〕	春学期授業/Spring	119
人文・社会・自然科学系	【H3124】	環境と資源	〔中嶋 吉弘〕	秋学期授業/Fall	121
人文・社会・自然科学系	【H3125】	環境と資源	〔片谷 教孝〕	春学期授業/Spring	123
人文・社会・自然科学系	【H3126】	宇宙と地球	〔石川 壮一〕	春学期授業/Spring	125
人文・社会・自然科学系	【H3127】	宇宙と地球	〔石川 壮一〕	秋学期授業/Fall	126
人文・社会・自然科学系	【H3128】	生命の起源と進化	〔田島 寛隆〕	秋学期授業/Fall	127
人文・社会・自然科学系	【H3129】	生命の起源と進化	〔石黒 亮〕	春学期授業/Spring	128
人文・社会・自然科学系	【H3130】	生命の起源と進化	〔田島 寛隆〕	春学期授業/Spring	129
人文・社会・自然科学系	【H3131】	生物の多様性	〔青木 誠志郎、柴尾 晴信〕	春学期授業/Spring	130

人文・社会・自然科学系	【H3132】 生物の多様性 [村上 雄秀]	秋学期授業/Fall	131
人文・社会・自然科学系	【H3133】 生物の多様性 [村上 雄秀]	春学期授業/Spring	132
人文・社会・自然科学系	【H3134】 物質科学と先端技術 [尾池 秀章]	春学期授業/Spring	133
選択語学系	【H3175】 英語中級コミュニケーション [長谷川 秀子]	秋学期授業/Fall	134
選択語学系	【H3176】 英語中級コミュニケーション [KOPROWSKI MARK]	春学期授業/Spring	135
選択語学系	【H3178】 英語中級コミュニケーション [KOPROWSKI MARK]	秋学期授業/Fall	137
選択語学系	【H3179】 英語中級リーディング [長谷川 秀子]	春学期授業/Spring	139
選択語学系	【H3180】 英語中級リーディング [早船 由紀見]	秋学期授業/Fall	140
選択語学系	【H3181】 英語中級リーディング [宗像 俊輔]	秋学期授業/Fall	141
選択語学系	【H3182】 英語中級リーディング [宗像 俊輔]	春学期授業/Spring	142
選択語学系	【H3185】 ビジネス英語 [NEIL CONWAY]	秋学期授業/Fall	143
選択語学系	【H3186】 ビジネス英語 [小林 直樹]	秋学期授業/Fall	144
選択語学系	【H3189】 基礎英語 [小林 直樹]	春学期授業/Spring	145
選択語学系	【H3190】 基礎英語 [RYAN HARTLEY]	春学期授業/Spring	146
選択語学系	【H3191】 基礎英語 [島田 顕]	春学期授業/Spring	147
選択語学系	【H3193】 基礎英語 [川口 悠子]	春学期授業/Spring	149
選択語学系	【H3194】 基礎英語 [川島 多加子]	秋学期授業/Fall	150
選択語学系	【H3195】 英語資格試験準備講座 [島田 顕]	秋学期授業/Fall	151
選択語学系	【H3196】 英語資格試験準備講座 [井上 敏郎]	春学期授業/Spring	152
選択語学系	【H3198】 基礎ドイツ語 I [鈴木 淳子]	春学期授業/Spring	153
選択語学系	【H3199】 基礎ドイツ語 I [鈴木 淳子]	春学期授業/Spring	154
選択語学系	【H3200】 基礎ドイツ語 I	春学期授業/Spring	155
選択語学系	【H3204】 ドイツ語表現 [高橋 完治]	春学期授業/Spring	156
選択語学系	【H3205】 ドイツ語表現 [浦田 智]	春学期授業/Spring	157
選択語学系	【H3206】 ドイツ語中級 [高橋 完治]	秋学期授業/Fall	158
選択語学系	【H3207】 ドイツ語中級 [浦田 智]	秋学期授業/Fall	159
選択語学系	【H3208】 基礎フランス語 I [荻野 文隆]	春学期授業/Spring	161
選択語学系	【H3209】 基礎フランス語 I [元木 淳子]	春学期授業/Spring	162
選択語学系	【H3211】 基礎フランス語 I I [荻野 文隆]	秋学期授業/Fall	163
選択語学系	【H3212】 基礎フランス語 I I [元木 淳子]	秋学期授業/Fall	164
選択語学系	【H3214】 フランス語表現 [荻野 イザベル]	春学期授業/Spring	165
選択語学系	【H3215】 フランス語表現 [佐藤 正和]	春学期授業/Spring	166
選択語学系	【H3216】 フランス語中級 [佐藤 正和]	秋学期授業/Fall	167
選択語学系	【H3217】 フランス語中級 [元木 淳子]	秋学期授業/Fall	168
選択語学系	【H3218】 基礎スペイン語 I [渡辺 雅哉]	春学期授業/Spring	169
選択語学系	【H3219】 基礎スペイン語 I [渡辺 雅哉]	春学期授業/Spring	170
選択語学系	【H3220】 基礎スペイン語 I I [渡辺 雅哉]	秋学期授業/Fall	171
選択語学系	【H3221】 基礎スペイン語 I I [渡辺 雅哉]	秋学期授業/Fall	172
選択語学系	【H3222】 スペイン語表現 [日高 憲三]	春学期授業/Spring	173
選択語学系	【H3223】 スペイン語表現 [日高 憲三]	春学期授業/Spring	174
選択語学系	【H3224】 スペイン語中級 [日高 憲三]	秋学期授業/Fall	175
選択語学系	【H3228】 基礎中国語 I [渡辺 浩司]	春学期授業/Spring	176
選択語学系	【H3231】 基礎中国語 I I [渡辺 浩司]	秋学期授業/Fall	177
選択語学系	【H3232】 中国語表現 [平井 新]	春学期授業/Spring	178
選択語学系	【H3233】 中国語表現 [杉本 公子]	春学期授業/Spring	179
選択語学系	【H3236】 基礎朝鮮語 I [松本 ジュン]	春学期授業/Spring	180
選択語学系	【H3237】 基礎朝鮮語 I [松本 ジュン]	春学期授業/Spring	181
選択語学系	【H3238】 基礎朝鮮語 I I [松本 ジュン]	秋学期授業/Fall	182
選択語学系	【H3239】 基礎朝鮮語 I I [松本 ジュン]	秋学期授業/Fall	183
選択語学系	【H3240】 朝鮮語表現 [魏 聖銓]	春学期授業/Spring	184
選択語学系	【H3241】 朝鮮語表現 [魏 聖銓]	秋学期授業/Fall	185
選択語学系	【H3242】 朝鮮語中級 [魏 聖銓]	秋学期授業/Fall	186
リテラシー系	【H3244】 文章作法 [矢口 貢大]	春学期授業/Spring	187
リテラシー系	【H3245】 情報リテラシーと表現技術 [三牧 宏彬]	春学期授業/Spring	188
リテラシー系	【H3246】 情報リテラシーと表現技術	春学期授業/Spring	189
リテラシー系	【H3247】 情報リテラシーと表現技術 [若林 哲]	春学期授業/Spring	190
リテラシー系	【H3249】 情報リテラシーと表現技術 [三牧 宏彬]	春学期授業/Spring	191

リテラシー系	[H3250]	情報リテラシーと表現技術 [小鍋 哲] 春学期授業/Spring	192
リテラシー系	[H3251]	情報処理技法 [東原 正智] 秋学期授業/Fall	193
リテラシー系	[H3252]	情報処理技法 [陸名 雄一] 秋学期授業/Fall	194
リテラシー系	[H3253]	情報処理技法 [三橋 秀生] 秋学期授業/Fall	195
リテラシー系	[H3254]	情報処理技法 [三橋 秀生] 秋学期授業/Fall	196
リテラシー系	[H3255]	情報処理技法 [須河 光弘] 秋学期授業/Fall	197
リテラシー系	[H3256]	情報リテラシーと表現技術 [三牧 宏彬] 春学期授業/Spring	198
理系教養科目 (数学系)	[H3258]	線形代数学及び演習 I I [佐藤 巖] 秋学期授業/Fall	199
理系教養科目 (数学系)	[H3263]	線形代数学及び演習 I [磯島 伸] 春学期授業/Spring	200
理系教養科目 (数学系)	[H3264]	線形代数学及び演習 I [磯島 伸] 春学期授業/Spring	201
理系教養科目 (数学系)	[H3265]	線形代数学及び演習 I [伊藤 賢太郎] 春学期授業/Spring	202
理系教養科目 (数学系)	[H3267]	線形代数学及び演習 I [本多 恭子] 春学期授業/Spring	203
理系教養科目 (数学系)	[H3268]	線形代数学及び演習 I [本多 恭子] 春学期授業/Spring	204
理系教養科目 (数学系)	[H3269]	線形代数学及び演習 I I [佐藤 巖] 秋学期授業/Fall	205
理系教養科目 (数学系)	[H3271]	線形代数学及び演習 I I [間下 克哉] 秋学期授業/Fall	206
理系教養科目 (数学系)	[H3272]	線形代数学及び演習 I I [加田 修] 秋学期授業/Fall	207
理系教養科目 (数学系)	[H3273]	線形代数学及び演習 I I [間下 克哉] 秋学期授業/Fall	208
理系教養科目 (数学系)	[H3274]	線形代数学及び演習 I I [三橋 秀生] 秋学期授業/Fall	209
理系教養科目 (数学系)	[H3275]	線形代数学及び演習 I I [三橋 秀生] 秋学期授業/Fall	210
理系教養科目 (数学系)	[H3276]	線形代数学及び演習 I I [磯島 伸] 秋学期授業/Fall	211
理系教養科目 (数学系)	[H3277]	線形代数学及び演習 I I [磯島 伸] 秋学期授業/Fall	212
理系教養科目 (数学系)	[H3278]	線形代数学及び演習 I I [伊藤 賢太郎] 秋学期授業/Fall	213
理系教養科目 (数学系)	[H3280]	線形代数学及び演習 I I [本多 恭子] 秋学期授業/Fall	214
理系教養科目 (数学系)	[H3281]	線形代数学及び演習 I I [本多 恭子] 秋学期授業/Fall	215
理系教養科目 (数学系)	[H3284]	微分積分学及び演習 I [加田 修] 春学期授業/Spring	216
理系教養科目 (数学系)	[H3290]	微分積分学及び演習 I [寺杣 友秀] 春学期授業/Spring	217
理系教養科目 (数学系)	[H3291]	微分積分学及び演習 I [寺杣 友秀] 春学期授業/Spring	218
理系教養科目 (数学系)	[H3292]	微分積分学及び演習 I [伊藤 賢太郎] 春学期授業/Spring	219
理系教養科目 (数学系)	[H3293]	微分積分学及び演習 I [伊藤 賢太郎] 春学期授業/Spring	220
理系教養科目 (数学系)	[H3294]	微分積分学及び演習 I [伊藤 賢太郎] 春学期授業/Spring	221
理系教養科目 (数学系)	[H3296]	微分積分学及び演習 I I [清田 正夫] 秋学期授業/Fall	222
理系教養科目 (数学系)	[H3297]	微分積分学及び演習 I I [加田 修] 秋学期授業/Fall	223
理系教養科目 (数学系)	[H3298]	微分積分学及び演習 I I [森田 純] 秋学期授業/Fall	224
理系教養科目 (数学系)	[H3299]	微分積分学及び演習 I I [森田 純] 秋学期授業/Fall	225
理系教養科目 (数学系)	[H3300]	微分積分学及び演習 I I [塚田 和美] 秋学期授業/Fall	226
理系教養科目 (数学系)	[H3301]	微分積分学及び演習 I I [陸名 雄一] 秋学期授業/Fall	227
理系教養科目 (数学系)	[H3302]	微分積分学及び演習 I I [清田 正夫] 秋学期授業/Fall	228
理系教養科目 (数学系)	[H3303]	微分積分学及び演習 I I [高澤 兼二郎] 秋学期授業/Fall	229
理系教養科目 (数学系)	[H3304]	微分積分学及び演習 I I [高澤 兼二郎] 秋学期授業/Fall	230
理系教養科目 (数学系)	[H3305]	微分積分学及び演習 I I [伊藤 賢太郎] 秋学期授業/Fall	231
理系教養科目 (数学系)	[H3306]	微分積分学及び演習 I I [伊藤 賢太郎] 秋学期授業/Fall	232
理系教養科目 (数学系)	[H3307]	微分積分学及び演習 I I [伊藤 賢太郎] 秋学期授業/Fall	233
理系教養科目 (理科系)	[H3308]	物理学基礎 I [篠原 俊二郎] 春学期授業/Spring	234
理系教養科目 (理科系)	[H3309]	物理学基礎 I [篠原 俊二郎] 春学期授業/Spring	235
理系教養科目 (理科系)	[H3310]	物理学基礎 I [小鍋 哲] 春学期授業/Spring	236
理系教養科目 (理科系)	[H3311]	物理学基礎 I [西村 征也] 春学期授業/Spring	237
理系教養科目 (理科系)	[H3312]	物理学基礎 I [池田 浩治] 春学期授業/Spring	238
理系教養科目 (理科系)	[H3313]	物理学基礎 I [赤松 茂] 春学期授業/Spring	240
理系教養科目 (理科系)	[H3314]	物理学基礎 I [池田 浩治] 春学期授業/Spring	241
理系教養科目 (理科系)	[H3315]	物理学基礎 I [西村 征也] 春学期授業/Spring	243
理系教養科目 (理科系)	[H3316]	物理学基礎 I [小鍋 哲] 春学期授業/Spring	244
理系教養科目 (理科系)	[H3317]	物理学基礎 I [小鍋 哲] 春学期授業/Spring	245
理系教養科目 (理科系)	[H3318]	物理学基礎 I I [篠原 俊二郎] 秋学期授業/Fall	246
理系教養科目 (理科系)	[H3319]	物理学基礎 I I [篠原 俊二郎] 秋学期授業/Fall	247
理系教養科目 (理科系)	[H3320]	物理学基礎 I I [小鍋 哲] 秋学期授業/Fall	248
理系教養科目 (理科系)	[H3321]	物理学基礎 I I [西村 征也] 秋学期授業/Fall	249
理系教養科目 (理科系)	[H3322]	物理学基礎 I I [池田 浩治] 秋学期授業/Fall	250

理系教養科目 (理科系)	[H3323]	物理学基礎 I I [赤松 茂]	秋学期授業/Fall	252
理系教養科目 (理科系)	[H3324]	物理学基礎 I I [池田 浩治]	秋学期授業/Fall	253
理系教養科目 (理科系)	[H3325]	物理学基礎 I I [西村 征也]	秋学期授業/Fall	255
理系教養科目 (理科系)	[H3326]	物理学基礎 I I [小鍋 哲]	秋学期授業/Fall	256
理系教養科目 (理科系)	[H3327]	物理学基礎 I I [小鍋 哲]	秋学期授業/Fall	257
理系教養科目 (理科系)	[H3328]	化学基礎 I [落合 剛]	春学期授業/Spring	258
理系教養科目 (理科系)	[H3329]	化学基礎 I [落合 剛]	春学期授業/Spring	260
理系教養科目 (理科系)	[H3330]	化学基礎 I [普神 敬悟]	春学期授業/Spring	262
理系教養科目 (理科系)	[H3331]	化学基礎 I [尾池 秀章]	春学期授業/Spring	264
理系教養科目 (理科系)	[H3332]	化学基礎 I [加藤 尚之]	春学期授業/Spring	265
理系教養科目 (理科系)	[H3333]	化学基礎 I [普神 敬悟]	春学期授業/Spring	266
理系教養科目 (理科系)	[H3334]	化学基礎 I [島田 恵理子]	春学期授業/Spring	268
理系教養科目 (理科系)	[H3335]	化学基礎 I [大波 英幸]	春学期授業/Spring	270
理系教養科目 (理科系)	[H3336]	化学基礎 I [島田 恵理子]	春学期授業/Spring	271
理系教養科目 (理科系)	[H3338]	化学基礎 I I [落合 剛]	秋学期授業/Fall	273
理系教養科目 (理科系)	[H3339]	化学基礎 I I [落合 剛]	秋学期授業/Fall	275
理系教養科目 (理科系)	[H3340]	化学基礎 I I [普神 敬悟]	秋学期授業/Fall	277
理系教養科目 (理科系)	[H3341]	化学基礎 I I [尾池 秀章]	秋学期授業/Fall	278
理系教養科目 (理科系)	[H3342]	化学基礎 I I [加藤 尚之]	秋学期授業/Fall	279
理系教養科目 (理科系)	[H3343]	化学基礎 I I [普神 敬悟]	秋学期授業/Fall	280
理系教養科目 (理科系)	[H3344]	化学基礎 I I [島田 恵理子]	秋学期授業/Fall	281
理系教養科目 (理科系)	[H3345]	化学基礎 I I [大波 英幸]	秋学期授業/Fall	283
理系教養科目 (理科系)	[H3346]	化学基礎 I I [島田 恵理子]	秋学期授業/Fall	284
理系教養科目 (理科系)	[H3348]	科学実験 I [三牧 宏彬]	春学期授業/Spring	286
理系教養科目 (理科系)	[H3349]	科学実験 I [小鍋 哲、西村 征也]	春学期授業/Spring	287
理系教養科目 (理科系)	[H3350]	科学実験 I [西村 征也、小鍋 哲]	秋学期授業/Fall	288
理系教養科目 (理科系)	[H3351]	科学実験 I [三牧 宏彬]	秋学期授業/Fall	289
理系教養科目 (理科系)	[H3352]	物理学実験 [吉野 理貴]	秋学期授業/Fall	290
理系教養科目 (理科系)	[H3353]	科学実験 I [吉野 理貴]	春学期授業/Spring	291
理系教養科目 (理科系)	[H3354]	科学実験 I I [尾池 秀章]	春学期授業/Spring	292
理系教養科目 (理科系)	[H3355]	科学実験 I I [大波 英幸]	春学期授業/Spring	293
理系教養科目 (理科系)	[H3356]	科学実験 I I [尾池 秀章]	秋学期授業/Fall	294
理系教養科目 (理科系)	[H3357]	科学実験 I I [尾池 秀章]	秋学期授業/Fall	295
理系教養科目 (理科系)	[H3358]	化学実験 [大波 英幸]	秋学期授業/Fall	296
理系教養科目 (理科系)	[H3359]	科学実験 I I [尾池 秀章]	春学期授業/Spring	297
理系教養科目 (理科系)	[H3360]	科学実験 I I I [田島 寛隆]	春学期授業/Spring	298
理系教養科目 (理科系)	[H3361]	科学実験 I I I [細谷 茂生]	秋学期授業/Fall	299
理系教養科目 (理科系)	[H3362]	科学実験 I I I [細谷 茂生]	春学期授業/Spring	300
理系教養科目 (理科系)	[H3363]	生物学実験 [田島 寛隆]	秋学期授業/Fall	301
理系教養科目 (理科系)	[H3364]	科学実験 I I I [水澤 直樹]	秋学期授業/Fall	302
理系教養科目 (理科系)	[H3365]	科学実験 I I I [水澤 直樹]	春学期授業/Spring	303
理系教養科目 (理科系)	[H3380]	生物学基礎 I [石黒 亮]	春学期授業/Spring	304
理系教養科目 (理科系)	[H3381]	生物学基礎 I [水澤 直樹]	春学期授業/Spring	305
理系教養科目 (理科系)	[H3382]	生物学基礎 I [細谷 茂生]	春学期授業/Spring	306
理系教養科目 (理科系)	[H3383]	生物学基礎 I [細谷 茂生]	春学期授業/Spring	307
理系教養科目 (理科系)	[H3384]	生物学基礎 I I [田島 寛隆]	秋学期授業/Fall	308
理系教養科目 (理科系)	[H3385]	生物学基礎 I I [水澤 直樹]	秋学期授業/Fall	309
理系教養科目 (理科系)	[H3386]	生物学基礎 I I [細谷 茂生]	秋学期授業/Fall	310
理系教養科目 (理科系)	[H3387]	生物学基礎 I I [細谷 茂生]	秋学期授業/Fall	311
理系教養科目 (数学系)	[H3396]	線形代数学及び演習 I [加田 修]	春学期授業/Spring	312
英語科目	[H3439]	アカデミック・リーディング I [村上 弥生]	春学期授業/Spring	313
英語科目	[H3440]	アカデミック・リーディング I [ALAN D MORGAN]	春学期授業/Spring	314
英語科目	[H3441]	アカデミック・リーディング I [吉川 直澄]	春学期授業/Spring	316
英語科目	[H3442]	アカデミック・リーディング I [児玉 真希]	春学期授業/Spring	318
英語科目	[H3443]	アカデミック・リーディング I [中野 里美]	春学期授業/Spring	319
英語科目	[H3444]	アカデミック・リーディング I [荒木 友嗣]	春学期授業/Spring	320
英語科目	[H3445]	アカデミック・リーディング I [川島 多加子]	春学期授業/Spring	321

英語科目	[H3446]	アカデミック・リーディングⅠ	[福澤 レベッカ]	春学期授業/Spring	322
英語科目	[H3447]	アカデミック・リーディングⅠ	[川口 悠子]	春学期授業/Spring	323
英語科目	[H3448]	アカデミック・リーディングⅠ	[吉川 直澄]	春学期授業/Spring	324
英語科目	[H3449]	アカデミック・リーディングⅠ	[梨本 邦直]	春学期授業/Spring	326
英語科目	[H3450]	アカデミック・リーディングⅠ	[川島 るり子]	春学期授業/Spring	327
英語科目	[H3451]	アカデミック・リーディングⅠ	[尾関 裕子]	春学期授業/Spring	328
英語科目	[H3452]	アカデミック・リーディングⅠ	[安田 孝子]	春学期授業/Spring	329
英語科目	[H3453]	アカデミック・リーディングⅠ	[磯部 芳恵]	春学期授業/Spring	331
英語科目	[H3454]	アカデミック・リーディングⅠ	[安田 孝子]	春学期授業/Spring	332
英語科目	[H3455]	アカデミック・リーディングⅠ	[ALAN D MORGAN]	春学期授業/Spring	334
英語科目	[H3457]	アカデミック・リーディングⅠ	[久慈 美貴]	春学期授業/Spring	336
英語科目	[H3458]	アカデミック・リーディングⅠ	[花崎 一夫]	春学期授業/Spring	337
英語科目	[H3459]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[村上 弥生]	秋学期授業/Fall	338
英語科目	[H3460]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[ALAN D MORGAN]	秋学期授業/Fall	339
英語科目	[H3461]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[吉川 直澄]	秋学期授業/Fall	341
英語科目	[H3462]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[児玉 真希]	秋学期授業/Fall	343
英語科目	[H3463]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[中野 里美]	秋学期授業/Fall	344
英語科目	[H3464]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[荒木 友嗣]	秋学期授業/Fall	345
英語科目	[H3465]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[川島 多加子]	秋学期授業/Fall	346
英語科目	[H3466]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[福澤 レベッカ]	秋学期授業/Fall	347
英語科目	[H3467]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[川口 悠子]	秋学期授業/Fall	348
英語科目	[H3468]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[吉川 直澄]	秋学期授業/Fall	349
英語科目	[H3469]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[梨本 邦直]	秋学期授業/Fall	351
英語科目	[H3470]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[川島 るり子]	秋学期授業/Fall	352
英語科目	[H3471]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[尾関 裕子]	秋学期授業/Fall	353
英語科目	[H3472]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[安田 孝子]	秋学期授業/Fall	354
英語科目	[H3473]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[磯部 芳恵]	秋学期授業/Fall	356
英語科目	[H3474]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[安田 孝子]	秋学期授業/Fall	357
英語科目	[H3475]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[ALAN D MORGAN]	秋学期授業/Fall	359
英語科目	[H3477]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[久慈 美貴]	秋学期授業/Fall	361
英語科目	[H3478]	アカデミック・リーディングⅠⅠ	[花崎 一夫]	秋学期授業/Fall	362
英語科目	[H3479]	アカデミック・ライティング	[小林 直樹]	春学期授業/Spring	363
英語科目	[H3480]	アカデミック・ライティング	[川島 多加子]	春学期授業/Spring	364
英語科目	[H3481]	アカデミック・ライティング	[荒木 友嗣]	春学期授業/Spring	365
英語科目	[H3482]	アカデミック・ライティング	[中野 里美]	春学期授業/Spring	366
英語科目	[H3483]	アカデミック・ライティング	[川島 多加子]	秋学期授業/Fall	367
英語科目	[H3484]	アカデミック・ライティング	[中野 里美]	秋学期授業/Fall	368
英語科目	[H3485]	アカデミック・ライティング	[荒木 友嗣]	秋学期授業/Fall	369
英語科目	[H3487]	アカデミック・ライティング	[NEIL CONWAY]	春学期授業/Spring	370
英語科目	[H3488]	アカデミック・ライティング	[川島 るり子]	秋学期授業/Fall	371
英語科目	[H3490]	アカデミック・ライティング	[太田 美智子]	春学期授業/Spring	372
英語科目	[H3492]	アカデミック・ライティング	[尾関 裕子]	春学期授業/Spring	373
英語科目	[H3493]	アカデミック・ライティング	[ALDER mark]	秋学期授業/Fall	374
英語科目	[H3494]	アカデミック・ライティング	[川島 るり子]	秋学期授業/Fall	375
英語科目	[H3496]	アカデミック・ライティング	[太田 美智子]	秋学期授業/Fall	376
英語科目	[H3497]	アカデミック・ライティング	[川島 るり子]	春学期授業/Spring	377
英語科目	[H3498]	アカデミック・ライティング	[尾関 裕子]	秋学期授業/Fall	378
英語科目	[H3499]	アカデミック・ライティング	[磯部 芳恵]	春学期授業/Spring	379
英語科目	[H3500]	アカデミック・ライティング	[ALAN D MORGAN]	春学期授業/Spring	380
英語科目	[H3501]	アカデミック・ライティング	[村上 弥生]	春学期授業/Spring	381
英語科目	[H3502]	アカデミック・ライティング	[長谷川 秀子]	春学期授業/Spring	383
英語科目	[H3504]	アカデミック・ライティング	[川口 悠子]	秋学期授業/Fall	384
英語科目	[H3505]	アカデミック・ライティング	[ALDER mark]	秋学期授業/Fall	385
英語科目	[H3506]	アカデミック・ライティング	[尾関 裕子]	秋学期授業/Fall	386
英語科目	[H3508]	アカデミック・ライティング	[早船 由紀見]	春学期授業/Spring	387
英語科目	[H3509]	アカデミック・ライティング	[ALDER mark]	春学期授業/Spring	388
英語科目	[H3510]	アカデミック・ライティング	[尾関 裕子]	春学期授業/Spring	389

英語科目	【H3511】	アカデミック・ライティング [早船 由紀見]	秋学期授業/Fall	390
英語科目	【H3512】	アカデミック・ライティング [磯部 芳恵]	秋学期授業/Fall	391
英語科目	【H3514】	アカデミック・ライティング [村上 弥生]	秋学期授業/Fall	392
英語科目	【H3517】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [小畑 美貴]	春学期授業/Spring	393
英語科目	【H3518】	コミュニケーション・ストラテジー [鈴木 幸]	春学期授業/Spring	394
英語科目	【H3519】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [小畑 美貴]	秋学期授業/Fall	395
英語科目	【H3520】	コミュニケーション・ストラテジー [鈴木 幸]	秋学期授業/Fall	396
英語科目	【H3523】	コミュニケーション・ストラテジー [川口 悠子]	秋学期授業/Fall	397
英語科目	【H3524】	コミュニケーション・ストラテジー [鈴木 幸]	春学期授業/Spring	398
英語科目	【H3525】	コミュニケーション・ストラテジー [久慈 美貴]	秋学期授業/Fall	399
英語科目	【H3526】	コミュニケーション・ストラテジー [川口 悠子]	春学期授業/Spring	400
英語科目	【H3527】	コミュニケーション・ストラテジー [川口 悠子]	秋学期授業/Fall	401
英語科目	【H3529】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [神 康介]	春学期授業/Spring	402
英語科目	【H3530】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [渡邊 晶子]	春学期授業/Spring	403
英語科目	【H3531】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [神 康介]	秋学期授業/Fall	404
英語科目	【H3532】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [渡邊 晶子]	秋学期授業/Fall	405
英語科目	【H3533】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [バリー ヘイタ]	春学期授業/Spring	406
英語科目	【H3534】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [バリー ヘイタ]	秋学期授業/Fall	407
英語科目	【H3535】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [井上 敏郎]	春学期授業/Spring	408
英語科目	【H3536】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [井上 敏郎]	秋学期授業/Fall	409
英語科目	【H3537】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I [小畑 美貴]	春学期授業/Spring	410
英語科目	【H3538】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I I [小畑 美貴]	秋学期授業/Fall	411
選択語学系	【H3541】	基礎ドイツ語 I I [鈴木 淳子]	秋学期授業/Fall	412
選択語学系	【H3542】	基礎ドイツ語 I I [鈴木 淳子]	秋学期授業/Fall	413
選択語学系	【H3543】	基礎ドイツ語 I I	秋学期授業/Fall	414
選択語学系	【H3544】	基礎フランス語 I [荻野 文隆]	春学期授業/Spring	415
選択語学系	【H3545】	基礎フランス語 I I [荻野 文隆]	秋学期授業/Fall	416
選択語学系	【H3546】	基礎中国語 I [平井 新]	春学期授業/Spring	417
選択語学系	【H3547】	基礎中国語 I [渡辺 浩司]	春学期授業/Spring	418
選択語学系	【H3548】	基礎中国語 I I [平井 新]	秋学期授業/Fall	419
選択語学系	【H3549】	基礎中国語 I I [渡辺 浩司]	秋学期授業/Fall	420
選択語学系	【H3550】	ドイツ語表現 [高橋 完治]	春学期授業/Spring	421
選択語学系	【H3552】	中国語表現 [杉本 公子]	春学期授業/Spring	422
選択語学系	【H3553】	中国語中級 [杉本 公子]	秋学期授業/Fall	423
選択語学系	【H3554】	中国語中級 [杉本 公子]	秋学期授業/Fall	424
選択語学系	【H3555】	中国語中級 [平井 新]	秋学期授業/Fall	425
人文・社会・自然科学系	【H3556】	パーソナリティ [伊藤 隆一]	春学期授業/Spring	426
人文・社会・自然科学系	【H3557】	こころの働き [伊藤 ひろみ]	秋学期授業/Fall	427
人文・社会・自然科学系	【H3558】	パーソナリティ [伊藤 ひろみ]	春学期授業/Spring	428
人文・社会・自然科学系	【H3559】	こころの働き [伊藤 ひろみ]	秋学期授業/Fall	429
人文・社会・自然科学系	【H3560】	パーソナリティ [伊藤 隆一]	春学期授業/Spring	430
人文・社会・自然科学系	【H3561】	こころの働き [伊藤 ひろみ]	秋学期授業/Fall	431
人文・社会・自然科学系	【H3562】	日本文化論 [横山 泰子]	春学期授業/Spring	432
人文・社会・自然科学系	【H3563】	比較文化論 [横山 泰子]	秋学期授業/Fall	433
人文・社会・自然科学系	【H3564】	日本文化論 [谷村 玲子]	春学期授業/Spring	434
人文・社会・自然科学系	【H3565】	比較文化論 [谷村 玲子]	秋学期授業/Fall	436
人文・社会・自然科学系	【H3566】	日本文化論 [谷村 玲子]	春学期授業/Spring	438
人文・社会・自然科学系	【H3567】	比較文化論 [谷村 玲子]	秋学期授業/Fall	440
選択語学系	【H3569】	フランス語表現 [荻野 イザベル]	春学期授業/Spring	442
選択語学系	【H3570】	フランス語中級 [荻野 文隆]	秋学期授業/Fall	443
リテラシー系	【H3573】	文章作法 [矢口 貢大]	春学期授業/Spring	444
英語科目	【H3574】	アカデミック・ライティング [川島 るり子]	春学期授業/Spring	445
英語科目	【H3576】	アカデミック・ライティング [早船 由紀見]	春学期授業/Spring	446
英語科目	【H3577】	アカデミック・ライティング [早船 由紀見]	秋学期授業/Fall	447
英語科目	【H3580】	アカデミック・リーディング I [長谷川 秀子]	春学期授業/Spring	448
英語科目	【H3581】	アカデミック・リーディング I I [長谷川 秀子]	秋学期授業/Fall	449
英語科目	【H3582】	アカデミック・リーディング I [吉川 直澄]	春学期授業/Spring	450

英語科目	【H3583】	アカデミック・リーディングⅠⅠ	〔吉川 直澄〕	秋学期授業/Fall	452
英語科目	【H3584】	アカデミック・ライティング	〔太田 美智子〕	春学期授業/Spring	454
英語科目	【H3585】	アカデミック・ライティング	〔太田 美智子〕	秋学期授業/Fall	455
選択語学系	【H3586】	英語資格試験準備講座	〔川島 多加子〕	春学期授業/Spring	456
選択語学系	【H3587】	英語資格試験準備講座	〔バリー ヘイタ〕	秋学期授業/Fall	457
選択語学系	【H3588】	基礎中国語Ⅰ	〔呉 曉林〕	春学期授業/Spring	458
選択語学系	【H3589】	基礎中国語ⅠⅠ	〔呉 曉林〕	秋学期授業/Fall	459
選択語学系	【H3590】	英語資格試験準備講座	〔井上 敏郎〕	秋学期授業/Fall	460
英語科目	【H3592】	コミュニケーション・ストラテジー	〔NEIL CONWAY〕	春学期授業/Spring	461
英語科目	【H3593】	コミュニケーション・ストラテジー	〔ALDER mark〕	春学期授業/Spring	462
英語科目	【H3594】	コミュニケーション・ストラテジー	〔福澤 レベッカ〕	秋学期授業/Fall	463
英語科目	【H3595】	コミュニケーション・ストラテジー	〔NEIL CONWAY〕	秋学期授業/Fall	464
英語科目	【H3596】	コミュニケーション・ストラテジー	〔ALDER mark〕	秋学期授業/Fall	465
英語科目	【H3597】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ	〔児玉 真希〕	春学期授業/Spring	466
英語科目	【H3598】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ	〔村上 弥生〕	春学期授業/Spring	467
英語科目	【H3599】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ	〔長谷川 秀子〕	春学期授業/Spring	469
英語科目	【H3600】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ	〔神 康介〕	春学期授業/Spring	470
英語科目	【H3601】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔児玉 真希〕	秋学期授業/Fall	471
英語科目	【H3602】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔村上 弥生〕	秋学期授業/Fall	472
英語科目	【H3603】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔長谷川 秀子〕	秋学期授業/Fall	473
英語科目	【H3604】	コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠⅠ	〔神 康介〕	秋学期授業/Fall	474
理系教養科目(数学系)	【H3605】	線形代数学及び演習Ⅰ	〔塩谷 勇〕	春学期授業/Spring	475
理系教養科目(数学系)	【H3606】	線形代数学及び演習Ⅰ	〔塩谷 勇〕	春学期授業/Spring	476
理系教養科目(数学系)	【H3607】	線形代数学及び演習ⅠⅠ	〔塩谷 勇〕	秋学期授業/Fall	477
理系教養科目(数学系)	【H3608】	線形代数学及び演習ⅠⅠ	〔塩谷 勇〕	秋学期授業/Fall	478
理系教養科目(数学系)	【H3609】	微分積分学及び演習Ⅰ	〔金沢 誠〕	春学期授業/Spring	479
理系教養科目(数学系)	【H3610】	微分積分学及び演習Ⅰ	〔金沢 誠〕	春学期授業/Spring	480
理系教養科目(数学系)	【H3611】	微分積分学及び演習ⅠⅠ	〔金沢 誠〕	秋学期授業/Fall	481
理系教養科目(数学系)	【H3612】	微分積分学及び演習ⅠⅠ	〔金沢 誠〕	秋学期授業/Fall	482
理系教養科目(理科系)	【H3613】	物理学基礎Ⅰ	〔佐藤 修一〕	春学期授業/Spring	483
理系教養科目(理科系)	【H3614】	物理学基礎Ⅰ	〔佐藤 修一〕	春学期授業/Spring	484
理系教養科目(理科系)	【H3615】	物理学基礎ⅠⅠ	〔佐藤 修一〕	秋学期授業/Fall	485
理系教養科目(理科系)	【H3616】	物理学基礎ⅠⅠ	〔佐藤 修一〕	秋学期授業/Fall	486
選択語学系	【H3617】	基礎ドイツ語Ⅰ	〔外山 知子〕	春学期授業/Spring	487
選択語学系	【H3618】	基礎ドイツ語ⅠⅠ	〔外山 知子〕	秋学期授業/Fall	488
選択語学系	【H3620】	基礎フランス語Ⅰ	〔平岡 敦〕	春学期授業/Spring	489
選択語学系	【H3622】	基礎フランス語ⅠⅠ	〔平岡 敦〕	秋学期授業/Fall	490
選択語学系	【H3625】	基礎中国語Ⅰ	〔平井 新〕	春学期授業/Spring	491
選択語学系	【H3626】	基礎中国語Ⅰ	〔新田 龍希〕	春学期授業/Spring	492
選択語学系	【H3627】	基礎中国語ⅠⅠ	〔平井 新〕	秋学期授業/Fall	493
選択語学系	【H3628】	基礎中国語ⅠⅠ	〔新田 龍希〕	秋学期授業/Fall	494
リテラシー系	【H3631】	文章作法	〔矢口 貢大〕	秋学期授業/Fall	495
選択語学系	【H3681】	ドイツ語中級	〔高橋 完治〕	春学期授業/Spring	496
選択語学系	【H3682】	フランス語中級	〔荻野 文隆〕	春学期授業/Spring	497
選択語学系	【H3683】	ドイツ語表現	〔高橋 完治〕	秋学期授業/Fall	498
選択語学系	【H3684】	フランス語表現	〔荻野 文隆〕	秋学期授業/Fall	499
選択語学系	【H3685】	中国語中級	〔新田 龍希〕	春学期授業/Spring	500
選択語学系	【H3686】	中国語中級	〔杉本 公子〕	春学期授業/Spring	501
選択語学系	【H3687】	中国語表現	〔新田 龍希〕	秋学期授業/Fall	502
選択語学系	【H3688】	中国語表現	〔杉本 公子〕	秋学期授業/Fall	503
選択語学系	【H3689】	基礎中国語Ⅰ	〔杉本 公子〕	春学期授業/Spring	504
選択語学系	【H3690】	基礎中国語Ⅱ	〔杉本 公子〕	秋学期授業/Fall	505
選択語学系	【H3691】	朝鮮語中級	〔魏 聖鎔〕	春学期授業/Spring	506
選択語学系	【H3692】	朝鮮語表現	〔魏 聖鎔〕	秋学期授業/Fall	507
選択語学系	【H3693】	スペイン語中級	〔日高 憲三〕	春学期授業/Spring	508
選択語学系	【H3694】	スペイン語表現	〔日高 憲三〕	秋学期授業/Fall	509
英語科目	【H3711】	アカデミック・ライティング	〔ALAN D MORGAN〕	秋学期授業/Fall	510

英語科目	【H3712】	アカデミック・リーディングⅠ	〔井上 敏郎〕	春学期授業/Spring	511
英語科目	【H3713】	アカデミック・リーディングⅠⅠ	〔井上 敏郎〕	秋学期授業/Fall	512
英語科目	【H3714】	アカデミック・リーディングⅠ	〔細野 まゆみ〕	春学期授業/Spring	513
英語科目	【H3715】	アカデミック・リーディングⅠⅠ	〔細野 まゆみ〕	秋学期授業/Fall	514
英語科目	【H3716】	アカデミック・リーディングⅠ	〔柳川 浩三〕	春学期授業/Spring	515
英語科目	【H3717】	アカデミック・リーディングⅠⅠ	〔柳川 浩三〕	秋学期授業/Fall	516
選択語学系	【H3718】	基礎英語	〔小屋 多恵子〕	秋学期授業/Fall	517
英語科目	【H3719】	アカデミック・リーディングⅠ	〔NEIL CONWAY〕	春学期授業/Spring	518
英語科目	【H3720】	アカデミック・リーディングⅠⅠ	〔NEIL CONWAY〕	秋学期授業/Fall	519
選択語学系	【H3721】	基礎英語	〔小林 直樹〕	秋学期授業/Fall	520
選択語学系	【H3723】	英語中級ライティング	〔鈴木 幸〕	春学期授業/Spring	521
選択語学系	【H3724】	英語中級ライティング	〔鈴木 幸〕	秋学期授業/Fall	522
英語科目	【H3725】	アカデミック・ライティング	〔KOPROWSKI MARK〕	秋学期授業/Fall	523
英語科目	【H3726】	アカデミック・ライティング	〔KOPROWSKI MARK〕	春学期授業/Spring	525
英語科目	【H3727】	アカデミック・ライティング	〔北原 久嗣〕	秋学期授業/Fall	527
英語科目	【H3729】	アカデミック・ライティング	〔小屋 多恵子〕	春学期授業/Spring	528
英語科目	【H3730】	アカデミック・ライティング	〔小屋 多恵子〕	秋学期授業/Fall	529
英語科目	【H3731】	アカデミック・ライティング	〔村上 弥生〕	秋学期授業/Fall	530
英語科目	【H3732】	アカデミック・ライティング	〔北原 久嗣〕	春学期授業/Spring	531
選択語学系	【H3734】	英語資格試験準備講座	〔柳川 浩三〕	春学期授業/Spring	532
英語科目	【H3735】	アカデミック・ライティング	〔川口 悠子〕	春学期授業/Spring	533
選択語学系	【H3741】	英語中級コミュニケーション	〔北原 久嗣〕	春学期授業/Spring	534
選択語学系	【H3742】	英語中級コミュニケーション	〔柳川 浩三〕	秋学期授業/Fall	535
選択語学系	【H3743】	英語中級コミュニケーション	〔北原 久嗣〕	秋学期授業/Fall	536
選択語学系	【H3745】	英語中級リーディング	〔村上 弥生〕	春学期授業/Spring	537
選択語学系	【H3746】	英語中級リーディング	〔村上 弥生〕	秋学期授業/Fall	538
選択語学系	【H3747】	英語中級リーディング	〔宗像 俊輔〕	春学期授業/Spring	539
選択語学系	【H3749】	英語中級ライティング	〔福澤 レベッカ〕	春学期授業/Spring	540
選択語学系	【H3750】	英語中級ライティング	〔KOPROWSKI MARK〕	春学期授業/Spring	541
選択語学系	【H3751】	英語中級ライティング	〔バリー ヘイタ〕	春学期授業/Spring	542
選択語学系	【H3752】	英語中級ライティング	〔RYAN HARTLEY〕	春学期授業/Spring	543
選択語学系	【H3761】	フランス語中級リーディング	〔元木 淳子〕	春学期授業/Spring	545
選択語学系	【H3762】	フランス語中級ライティング	〔佐藤 正和〕	春学期授業/Spring	546
選択語学系	【H3763】	フランス語中級コミュニケーションと文化	〔荻野 イザベル〕	秋学期授業/Fall	547
選択語学系	【H3765】	上級英語	〔ALDER mark〕	春学期授業/Spring	548
選択語学系	【H3766】	上級スペイン語	〔日高 憲三〕	春学期授業/Spring	549
選択語学系	【H3767】	上級ドイツ語	〔高橋 完治〕	春学期授業/Spring	550
選択語学系	【H3768】	上級フランス語	〔元木 淳子〕	春学期授業/Spring	551
選択語学系	【H3769】	上級中国語	〔東 会娟〕	春学期授業/Spring	552
選択語学系	【H3770】	上級朝鮮語	〔魏 聖銓〕	春学期授業/Spring	553
選択語学系	【H3771】	中国語中級リーディング	〔東 会娟〕	春学期授業/Spring	554
選択語学系	【H3772】	中国語中級ライティング	〔呉 曉林〕	春学期授業/Spring	555
選択語学系	【H3773】	中国語中級コミュニケーションと文化	〔東 会娟〕	秋学期授業/Fall	556
選択語学系	【H3775】	中国語中級	〔渡辺 浩司〕	春学期授業/Spring	557
選択語学系	【H3776】	中国語表現	〔渡辺 浩司〕	秋学期授業/Fall	558
選択語学系	【H3778】	ビジネス英語	〔早船 由紀見〕	春学期授業/Spring	559
選択語学系	【H3779】	英語資格試験準備講座	〔宗像 俊輔〕	秋学期授業/Fall	560
英語科目	【H3782】	生命機能学基礎英語Ⅰ	〔金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、常重 アントニオ、 廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔〕	秋学期授業/Fall	561
英語科目	【H3783】	生命機能学基礎英語ⅠⅠ	〔金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、常重 アントニ オ、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔〕	春学期授業/Spring	562
英語科目	【H3785】	生命機能学英语Ⅰ	〔金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、廣野 雅文、水澤 直 樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔〕	秋学期授業/Fall	563
選択語学系	【H3786】	生命機能学英语ⅠⅠ	〔金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔〕	春学期授業/Spring	564
選択語学系	【H3787】	生命機能学英语ⅠⅠⅠ	〔金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、廣野 雅文、水 澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔〕	秋学期授業/Fall	565

理系教養科目 (数学系)	[H3789]	線形代数学演習 I [佐藤 巖]	春学期授業/Spring	566
理系教養科目 (数学系)	[H3790]	線形代数学演習 I [佐藤 巖]	春学期授業/Spring	567
理系教養科目 (数学系)	[H3791]	線形代数学演習 I [間下 克哉]	春学期授業/Spring	568
理系教養科目 (数学系)	[H3792]	線形代数学演習 I [間下 克哉]	春学期授業/Spring	569
理系教養科目 (数学系)	[H3793]	線形代数学演習 I [三橋 秀生]	春学期授業/Spring	570
理系教養科目 (数学系)	[H3794]	線形代数学演習 I [三橋 秀生]	春学期授業/Spring	571
理系教養科目 (数学系)	[H3796]	線形代数学演習 I [大野 修一]	秋学期授業/Fall	572
理系教養科目 (数学系)	[H3797]	線形代数学及び演習 I [神谷 亮]	秋学期授業/Fall	573
理系教養科目 (数学系)	[H3798]	微分積分学演習 I [清田 正夫]	春学期授業/Spring	574
理系教養科目 (数学系)	[H3799]	微分積分学演習 I [清田 正夫]	春学期授業/Spring	575
理系教養科目 (数学系)	[H3800]	微分積分学演習 I [森田 純]	春学期授業/Spring	576
理系教養科目 (数学系)	[H3801]	微分積分学演習 I [森田 純]	春学期授業/Spring	577
理系教養科目 (数学系)	[H3802]	微分積分学演習 I [塚田 和美]	春学期授業/Spring	578
理系教養科目 (数学系)	[H3803]	微分積分学演習 I [陸名 雄一]	春学期授業/Spring	579
理系教養科目 (数学系)	[H3805]	微分積分学演習 I [大野 修一]	秋学期授業/Fall	580
理系教養科目 (数学系)	[H3806]	微分積分学及び演習 I [神谷 亮]	秋学期授業/Fall	581
理系教養科目 (数学系)	[H3807]	入門数学 [大野 修一]	春学期授業/Spring	582
理系教養科目 (数学系)	[H3808]	入門物理学 [湯口 秀敏]	春学期授業/Spring	583
スポーツ健康科学系	[H3810]	スポーツ健康科学実習 I [高橋 正則]	春学期授業/Spring	584
スポーツ健康科学系	[H3811]	スポーツ健康科学実習 I [高橋 正則]	春学期授業/Spring	585
スポーツ健康科学系	[H3812]	スポーツ健康科学実習 I [街 勝憲]	春学期授業/Spring	586
スポーツ健康科学系	[H3813]	スポーツ健康科学実習 I [街 勝憲]	春学期授業/Spring	587
スポーツ健康科学系	[H3814]	スポーツ健康科学実習 I [植村 直己]	春学期授業/Spring	588
スポーツ健康科学系	[H3815]	スポーツ健康科学実習 I [高橋 正則]	秋学期授業/Fall	589
スポーツ健康科学系	[H3816]	スポーツ健康科学実習 I [高橋 正則]	秋学期授業/Fall	590
スポーツ健康科学系	[H3817]	スポーツ健康科学実習 I [街 勝憲]	秋学期授業/Fall	591
スポーツ健康科学系	[H3818]	スポーツ健康科学実習 I [街 勝憲]	秋学期授業/Fall	592
スポーツ健康科学系	[H3819]	スポーツ健康科学実習 I [植村 直己]	秋学期授業/Fall	593
スポーツ健康科学系	[H3820]	スポーツ健康科学実習 II [金光 興二]	春学期授業/Spring	594
スポーツ健康科学系	[H3821]	スポーツ健康科学実習 II [金光 興二]	春学期授業/Spring	595
スポーツ健康科学系	[H3822]	スポーツ健康科学実習 II [金光 興二]	春学期授業/Spring	596
スポーツ健康科学系	[H3823]	スポーツ健康科学実習 II [金光 興二]	春学期授業/Spring	597
スポーツ健康科学系	[H3824]	スポーツ健康科学実習 II [越智 英輔]	春学期授業/Spring	598
スポーツ健康科学系	[H3825]	スポーツ健康科学実習 II [金光 興二]	秋学期授業/Fall	599
スポーツ健康科学系	[H3826]	スポーツ健康科学実習 II [金光 興二]	秋学期授業/Fall	600
スポーツ健康科学系	[H3827]	スポーツ健康科学実習 II [金光 興二]	秋学期授業/Fall	601
スポーツ健康科学系	[H3828]	スポーツ健康科学実習 II [金光 興二]	秋学期授業/Fall	602
スポーツ健康科学系	[H3829]	スポーツ健康科学実習 II [越智 英輔]	秋学期授業/Fall	603
スポーツ健康科学系	[H3830]	スポーツ健康科学実習 III [越智 英輔]	春学期授業/Spring	604
スポーツ健康科学系	[H3831]	スポーツ健康科学実習 III [植田 央]	春学期授業/Spring	605
スポーツ健康科学系	[H3832]	スポーツ健康科学実習 III [越智 英輔]	春学期授業/Spring	606
スポーツ健康科学系	[H3833]	スポーツ健康科学実習 III [高田 佑輔]	春学期授業/Spring	607
スポーツ健康科学系	[H3834]	スポーツ健康科学実習 III [越智 英輔]	春学期授業/Spring	608
スポーツ健康科学系	[H3835]	スポーツ健康科学実習 III [越智 英輔]	秋学期授業/Fall	609
スポーツ健康科学系	[H3836]	スポーツ健康科学実習 III [植田 央]	秋学期授業/Fall	610
スポーツ健康科学系	[H3837]	スポーツ健康科学実習 III [越智 英輔]	秋学期授業/Fall	611
スポーツ健康科学系	[H3838]	スポーツ健康科学実習 III [高田 佑輔]	秋学期授業/Fall	612
スポーツ健康科学系	[H3839]	スポーツ健康科学実習 III [越智 英輔]	秋学期授業/Fall	613
スポーツ健康科学系	[H3840]	スポーツ健康科学実習 IV [植田 央]	春学期授業/Spring	614
スポーツ健康科学系	[H3841]	スポーツ健康科学実習 IV [高田 佑輔]	春学期授業/Spring	615
スポーツ健康科学系	[H3842]	スポーツ健康科学実習 IV [植村 直己]	春学期授業/Spring	616
スポーツ健康科学系	[H3843]	スポーツ健康科学実習 IV [植村 直己]	春学期授業/Spring	617
スポーツ健康科学系	[H3844]	スポーツ健康科学実習 IV [高田 佑輔]	春学期授業/Spring	618
スポーツ健康科学系	[H3845]	スポーツ健康科学実習 IV [植田 央]	秋学期授業/Fall	619
スポーツ健康科学系	[H3846]	スポーツ健康科学実習 IV [高田 佑輔]	秋学期授業/Fall	620
スポーツ健康科学系	[H3847]	スポーツ健康科学実習 IV [植村 直己]	秋学期授業/Fall	621
スポーツ健康科学系	[H3848]	スポーツ健康科学実習 IV [植村 直己]	秋学期授業/Fall	622

スポーツ健康科学系	【H3849】	スポーツ健康科学実習Ⅳ	〔高田 佑輔〕	秋学期授業/Fall		623
スポーツ健康科学系	【H3850】	スポーツ健康科学講義Ⅰ	〔水野 沙洗〕	春学期授業/Spring		624
スポーツ健康科学系	【H3851】	スポーツ健康科学講義Ⅰ	〔水野 沙洗〕	秋学期授業/Fall		625
スポーツ健康科学系	【H3852】	スポーツ健康科学講義Ⅱ	〔高田 佑輔〕	春学期授業/Spring		626
スポーツ健康科学系	【H3853】	スポーツ健康科学講義Ⅱ	〔高田 佑輔〕	秋学期授業/Fall		627
英語科目	【H3854】	アカデミック・ライティング	〔長谷川 秀子〕	秋学期授業/Fall		628
	【H3855】	アカデミック・ライティング	〔RYAN HARTLEY〕	秋学期授業/Fall		629

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALAN D MORGAN

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to enable students to negotiate everyday social and academic situations more confidently using a wider range of grammar and vocabulary to express themselves.

本コースの目的は、学生が日常の社会的および学術的な状況において、より幅広い文法と語彙を用いて、自信をもって伝えたいことを表現できるようにすることです。

【到達目標】

Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocates with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of class structure, grading criteria and rules. Introduction to online content Introductions
2	Unit 1 Jobs	Wh-questions in the simple present Predicting Listening for and identifying main ideas
3	Unit 2 Daily Activities	Yes/No questions in the simple present Brainstorming Asking follow-up questions making eye contact
4	Unit 3 Current Activities	Present continuous questions Using context clues Pausing
5	Unit 4 Emotions	Subject and object pronouns Free writing Using linking words
6	Unit 5 Leisure	Simple Past Previewing Using pictures to tell a story
7	Review & mini test	Review of Units 1-5 and a mini-test
8	Unit 6 Places and directions	Prepositions of place
9	Unit 7 Role models	Simple past of the verb to be Listening for dates/understanding pronoun references
10	Unit 8 Food and Shopping	Count and noncount nouns Listening for key words Writing a topic sentence Involving your audience
11	Unit 10 Cities	Wh-questions with the past of be Showing the order of events Using rhetorical questions
12	Unit 11 Music	Invitations and suggestions Making Plans Focusing the presentation OUTSIDE CLASS Preparing draft presentation
13	Presentation preparation & practice	Editing & Revising

14

FINAL PRESENTATION

FINAL PRESENTATION

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some elements of the units that are suitable may be assigned as work to be done outside class. Initial drafts of the final presentation will be written outside class.

【テキスト（教科書）】

Stretch 1 (Susan Stempelski, Oxford University Press, 2014) ISBN 9780194603126 c. ¥3,200

【参考書】

Online resources are available after registration with an access code provided with the student textbook at www.oxfordlearn.com

【成績評価の方法と基準】

Final Presentation 50%

Participation 25%

Mini-test 25%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to use a computer to access online resources.

【Outline (in English)】

This course aims to provide students basic skills to negotiate everyday social and academic situations using all four core four skills ; listening, speaking, reading and writing. In addition, it aims to instill confidence in students to access content in English by developing viewing skills to process media in English, and to instill confidence in students to express their opinions and ideas in English verbally by instilling fundamental presentation skills.

Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.

Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocates with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

GRADING CRITERIA

Final Presentation 50%

Participation 25%

Mini-test 25%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

太田 美智子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的としている。日常生活に関わる会話になれることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の修得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるようにする。

【到達目標】

The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of Class Rules. Get to know each other.
2	Unit 1	The woman in the Picture
3	Unit 2	Back to Titanic
4	Unit 3	Leaving Port
5	Unit 4	Don't do it!
6	quiz	Quiz
7	Unit 5	Do you love him?
8	Unit 6	I can't see you
9	Unit 7	I'm flying!
10	Unit 8	Iceberg right ahead!
11	quiz	quiz
12	Unit 9	An Honest Thief
13	Unit 10	Goodbye, mother
14	quiz	quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson.

【テキスト（教科書）】

Learn English with TITANIC, Teruhiko Kadoyama, Simon Capper, Sebido, 2016, 2300yen

【参考書】

Ballard, R.D. (1988). Discovery of the Titanic. NY: Warner Madison Preaa

【成績評価の方法と基準】

Class work and participation 30%

Short reports 20%

Examinations 50%

【学生の意見等からの気づき】

Learning English through movies are effective. Let's study English together.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students.

The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

You are expected to preview each lesson.

Grading:

Class work and participation 30%

Short reports 20%

Examinations 50%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

細野 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の構文を正しく理解し、英文の内容と論旨を的確に把握できる。
- ・英文の要旨を、英語で適切にまとめられる。
- ・自分の考えを英語で組み立て、(効果的に) 記述できる。
- ・ニュースなどまとまった内容の英語を聴き取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

演習が主体形式となります。ペアワークやグループワークが大きな比重を占め、文章の要約や練習問題、ディスカッションを行います。学生からの主体的な意見発表が求められます。リスニング練習を多く取り入れ、ニュースやレクチャーなどまとまった内容の英語を聞き取ることができるように訓練します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第 2 回	1	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 3 回	2	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 4 回	3	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 5 回	4	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 6 回	5	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 7 回	6	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 8 回	7	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 9 回	8	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 10 回	9	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 11 回	10	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 12 回	11	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 13 回	12	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 14 回	まとめ	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習が前提の授業なので、指定された箇所を必ず予習しておくこと。
- ・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

【テキスト（教科書）】

「English File Fourth Edition Pre-Intermediate」

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert 著、Oxford

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業態度（出席・貢献度・平常点）： 60 %

課題提出：小テスト： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

毎週の授業への出席は必須です（正当な理由がない限り無断欠席は 2 回まで；遅刻は 2 回で欠席 1 回分にカウント、遅刻常習者にはさらに厳しいペナルティーが科せられる）。期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしないう、など授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち単位取得が不可能となります。授業内外における受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に加算していきます。授業計画は進み具合により、変更される場合があります。詳細は最初の授業でお話しします。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【Course outline】

This class aims to improve students' practical ability of English. Students practice summarizing the contents of reading passages and work on questions in pair and discuss in group. In class, students have many opportunities to practice listening.

【Learning Objectives】

Students will be able to express their ideas in English smoothly and also to understand long news and lectures.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and contribution to the lecture : 60 %

Submission of homework, and the result of mini tests : 40 %

Your attendance to this class is mandatory (you can be absent only twice). Your contribution to the class is highly evaluated. You are required to well prepare for class. Listening test is conducted without notice.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川島 るり子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。基本的な英語の発音・イントネーションの習得から、英語文法を軸に置いた日常会話表現に慣れるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。

【到達目標】

実用的な英語文法を軸におきつつ、具体例を通して様々なコンテキストにおける英語の表現を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。各章の終わりに練習問題を課し、講義内容の理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業を予定していますが、感染症の状況によりオンライン授業となる場合があります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第2回	時制のはなし（1）	現在と過去、現在時制
第3回	時制のはなし（2）	過去時制、時制の一致
第4回	完了形・進行形のはなし（1）	現在完了、過去完了、動態動詞の進行形
第5回	完了形・進行形のはなし（2）	状態動詞と進行形、完了進行形
第6回	法助動詞のはなし（1）	法助動詞、根源の用法、推量的用法
第7回	法助動詞のはなし（2）	擬似法助動詞、未来に言及する色々な表現、縮約形
第8回	命令・依頼・懇願など	文の種類とその用途、遠慮のない命令・要請、要請・依頼・懇願、許可の求め方、依頼その他のイントネーション
第9回	助言・批判・警告など	助言・忠告、勧誘、助力の申し出、文句の付け方、警告・脅かし
第10回	依頼・助言・警告などへの対応	居丈高な命令への対応、依頼・許可要請などに対する応諾、拒絶・謝絶・反発等
第11回	知的情報交換	確認、意見・知見の訊ね方・述べ方、賛成・反対、反論・批判の回避術
第12回	潤滑油としてのことば	交換的言語使用、同情・悔やみなど、come と go、bring と take など、謝辞・賛辞・世辞・祝辞など、格好の付け方
第13回	イントネーション	イントネーションの重要性、どこを強く、どこを弱く発音するか、上昇と下降
第14回	まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各2時間）。

【テキスト（教科書）】

今井邦彦著『英語の使い方』大修館書店 1,600 円＋税 978-4-469-14138-2

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 各章の課題の点数 90 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and weekly assignments (90%).

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrangement of media
- write an effective summary paragraph
- write an analytical book report
- make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
- carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades. 春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be covered.	Students will receive guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.

Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】

Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.

For MLA information:

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html

A good dictionary is required. One example is:

Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Class performance (effort, participation, presentations): 30%

Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.

Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hisei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the “Forums” section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. *You may not use a smartphone for this purpose*

【その他の重要事項】

This class has a strict “NO Smartphones” policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students’ own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

細野 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の構文を正しく理解し、英文の内容と論旨を的確に把握できる。
- ・英文の要旨を、英語で適切にまとめられる。
- ・自分の考えを英語で組み立て、(効果的に) 記述できる。
- ・ニュースなどまとまった内容の英語を聴き取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

演習が主体形式となります。ペアワークやグループワークが大きな比重を占め、文章の要約や練習問題、ディスカッションを行います。学生からの主体的な意見発表が求められます。リスニング練習を多く取り入れ、ニュースやレクチャーなどまとまった内容の英語を聞き取ることができるように訓練します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第 2 回	1	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 3 回	2	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 4 回	3	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 5 回	4	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 6 回	5	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 7 回	6	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 8 回	7	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 9 回	8	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 10 回	9	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 11 回	10	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 12 回	11	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 13 回	12	Listening 練習； 文章の要約・練習問題・ディスカッション
第 14 回	まとめ	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習が前提の授業なので、指定された箇所を必ず予習してくること。
- ・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

【テキスト（教科書）】

「English File Fourth Edition Pre-Intermediate」

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert 著、Oxford

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業態度（出席・貢献度・平常点）： 60 %

課題提出：小テスト： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

毎週の授業への出席は必須です（正当な理由がない限り無断欠席は 2 回まで；遅刻は 2 回で欠席 1 回分にカウント、遅刻常習者にはさらに厳しいペナルティーが科せられる）。期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしないう、など授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち単位取得が不可能となります。授業内外における受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に加算していきます。授業計画は進み具合により、変更される場合があります。詳細は最初の授業でお話しします。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【Course outline】

This class aims to improve students' practical ability of English. Students practice summarizing the contents of reading passages and work on questions in pair and discuss in group. In class, students have many opportunities to practice listening.

【Learning Objectives】

Students will be able to express their ideas in English smoothly and also to understand long news and lectures.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and contribution to the lecture : 60 %

Submission of homework, and the result of mini tests : 40 %

Your attendance to this class is mandatory (you can be absent only twice). Your contribution to the class is highly evaluated. You are required to well prepare for class. Listening test is conducted without notice.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALAN D MORGAN

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to enable students to negotiate everyday social and academic situations more confidently using a wider range of grammar and vocabulary to express themselves.

本コースの目的は、学生が日常の社会的および学術的な状況において、より幅広い文法と語彙を用いて、自信をもって伝えたいことを表現できるようにすることです。

【到達目標】

Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocates with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Explanation of class structure, grading criteria and rules. Introduction to online content Introductions
2	Unit 1 Jobs	Wh-questions in the simple present Predicting Listening for and identifying main ideas
3	Unit 2 Daily Activities	Yes/No questions in the simple present Brainstorming Asking follow-up questions making eye contact
4	Unit 3 Current Activities	Present continuous questions Using context clues Pausing
5	Unit 4 Emotions	Subject and object pronouns Free writing Using linking words
6	Unit 5 Leisure	Simple Past Previewing Using pictures to tell a story
7	Review & mini test	Review of Units 1-5 and a mini-test
8	Unit 6 Places and directions	Prepositions of place
9	Unit 7 Role models	Simple past of the verb to be Listening for dates/understanding pronoun references
10	Unit 8 Food and Shopping	Count and noncount nouns Listening for key words Writing a topic sentence Involving your audience
11	Unit 10 Cities	Wh-questions with the past of be Showing the order of events Using rhetorical questions
12	Unit 11 Music	Invitations and suggestions Making Plans Focusing the presentation OUTSIDE CLASS Preparing draft presentation
13	Presentation preparation & practice	Editing & Revising

14

FINAL PRESENTATION

FINAL PRESENTATION

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some elements of the units that are suitable may be assigned as work to be done outside class. Initial drafts of the final presentation will be written outside class.

【テキスト（教科書）】

Stretch 1 (Susan Stempelski, Oxford University Press, 2014) ISBN 9780194603126 c. ¥3,200

【参考書】

Online resources are available after registration with an access code provided with the student textbook at www.oxfordlearn.com

【成績評価の方法と基準】

Final Presentation 50%

Participation 25%

Mini-test 25%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to use a computer to access online resources.

【Outline (in English)】

This course aims to provide students basic skills to negotiate everyday social and academic situations using all four core four skills ; listening, speaking, reading and writing. In addition, it aims to instill confidence in students to access content in English by developing viewing skills to process media in English, and to instill confidence in students to express their opinions and ideas in English verbally by instilling fundamental presentation skills.

Students will be able to communicate and elicit information in a range of social and academic interactions. Students will acquire an awareness of basic techniques to facilitate communication cross-culturally. Students will acquire basic presentation techniques.

Each unit of the textbook is themed, structures and vocabulary collocates with the theme is presented in a listening, then used as a basis for guided practice in group and pair work. Critical academic skills are introduced with a short reading and a short video based on the theme (which may be done outside the class). A discrete basic presentation skill is the introduced and a short discussion in groups enables students to practice the language and communication skills together, and for the teacher to give encouragement and feedback.

GRADING CRITERIA

Final Presentation 50%

Participation 25%

Mini-test 25%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

磯部 芳恵

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will integrate all language skills by using the teaching material based on the film, especially listening and speaking skills and aims to provide students opportunities to learn colloquial expression and express their opinions on the content of the material. Students will learn about aspects of American culture while building their communication skills.

【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase the knowledge of American culture. The second goal is for students to express their own thoughts and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classroom methods include:

1. watching the video
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition
4. Acting out Exercise F

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	Unit 1 Andy Meets Miranda	単語、リスニング。
第 3 回	Unit 1	内容理解問題、ディスカッション。
第 4 回	Unit 2 Andy's First Day at Runway	単語、リスニング。
第 5 回	Unit 2	リスニング。
第 6 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	内容理解問題、ディスカッション。
第 7 回	Unit 3 Miranda, the Almighty	内容理解問題。
第 8 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	単語、リスニング。
第 9 回	Unit 4 Andy's Metamorphosis	内容理解問題。
第 10 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	単語、リスニング。
第 11 回	Unit 5 Andy Performs a Miracle	内容理解問題。
第 12 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up	単語、リスニング。
第 13 回	Unit 6 Andy's Stock Goes Up TOEIC practice test	内容理解問題と TOEIC 模擬テスト。
第 14 回	Review & wrap up	春学期の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

The Devil Wears Prada(松柏社) 2,200 円。

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円。

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided on the following:

term-end exam 30%, homework 30%, in class contribution 40%.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を多くする。

【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

The first goal of the course is for students to increase the knowledge of American culture. The second goal is for students to express their own thoughts and opinions.

Classroom methods include:

1. watching the video
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition
4. Acting out Exercise F

Grading will be based on participation in class activities(40%), homework(30%), and quizzes and tests(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

磯部 芳恵

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will integrate all language skills by using the teaching material based on the film, especially listening and speaking skills and aims to provide students opportunities to learn colloquial expression and express their opinions on the content of the material. Students will learn about aspects of American culture while building their communication skills.

【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase the knowledge of American culture. The second goal is for students to express their own thoughts and opinions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classroom methods include:

1. watching the video
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition
4. Acting out Exercise F

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明する。
第 2 回	Unit 1 Meeting Truman	単語、リスニング。
第 3 回	Unit 1 Meeting Truman	内容理解問題。
第 4 回	Unit 2 Fear of the Ocean	単語、リスニング。
第 5 回	Unit 2 Fear of the Ocean	内容理解問題。
第 6 回	Unit 3 Lauren & Sylvia	単語、リスニング。
第 7 回	Unit 3 Lauren & Sylvia	内容理解問題。
第 8 回	Unit 4 Something Strange Is Going On	単語、リスニング。
第 9 回	Unit 4 Something Strange Is Going On	内容理解問題。
第 10 回	Unit 5 Truman Tries to Leave	単語、リスニング。
第 11 回	Unit 5 Truman Tries to Leave	内容理解問題。
第 12 回	Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride	単語、リスニング。
第 13 回	Unit 6 Truman and Meryl Go for a Ride TOEIC practice test	内容理解問題と TOEIC 模擬テスト。
第 14 回	Review & wrap up	秋学期の復習。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

The Truman Show(松柏社) 2,100 円。

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円。

【参考書】

必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end exam 30%, homework 30%, in class contribution 40%.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを活用して、いいものは授業で紹介する。

【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30 分以内の遅刻、早退は 3 回で 1 回とみなします。
- ・30 分以上の遅刻、早退は欠席 1 回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

The first goal of the course is for students to increase the knowledge of American culture. The second goal is for students to express their own thoughts and opinions.

Classroom methods include:

1. watching the video
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition
4. Acting out Exercise F

Grading will be based on participation in class activities(40%), homework(30%), and quizzes and tests(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALDER mark

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Personality	Talking about lifestyle choices
3	Family	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Advice	Students will have the opportunity to talk about problems and brainstorm solutions to these problems.
5	Technology	Discussing possessions and tech features
6	Bullying	DVD listening and storytelling
7	Sports and Hobbies	Explaining favourite games to others in small groups.
8	First conversation	Partner work to show consolidation of the first six chapters of the course.
9	Smart cities	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
10	Survival	Talk about different kinds of natural disasters that have happened recently.
11	Work	Students will discuss work, bosses and interesting coworkers.
12	DVD strange stories	Students will discuss Practice listening and storytelling
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

Most of the work done outside class will be listening tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】

Evolve Student book 3B.
Cambridge University Press

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments40%

【学生の意見等からの気づき】

There will be more emphasis on discussing global issues.

【学生が準備すべき機器他】

CD player, Blackboard

【None】

None

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment. Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALDER mark

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Personality	Talking about lifestyle choices
3	Family	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Advice	Students will have the opportunity to talk about problems and brainstorm solutions to these problems.
5	Technology	Discussing possessions and tech features
6	Bullying	DVD listening and storytelling
7	Sports and Hobbies	Explaining favourite games to others in small groups.
8	First conversation	Conversation work to show consolidation of the first six chapters of the course.
9	smart cities	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
10	Survival	Talk about different kinds of natural disasters that have happened recently.
11	Work	Students will discuss work, bosses and interesting coworkers.
12	DVD strange stories	Students will practice listening and storytelling
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation/storytelling to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 All of the work done outside class will be listening tasks and text work assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】

Evolve Student book 3B

Cambridge University Press. 2019

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments 40%

【学生の意見等からの気づき】

There will be more emphasis on talking about small everyday aspects of student life.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionary

【None】

None

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment. Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments 40%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川島 るり子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。基本的な英語の発音・イントネーションの習得から、英語文法を軸に置いた日常会話表現に慣れるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。

【到達目標】

実用的な英語文法を軸におきつつ、具体例を通して様々なコンテキストにおける英語の表現を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。各章の終わりに練習問題を課し、講義内容の理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業を予定していますが、感染症の状況によりオンライン授業となる場合があります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第2回	時制のはなし（1）	現在と過去、現在時制
第3回	時制のはなし（2）	過去時制、時制の一致
第4回	完了形・進行形のはなし（1）	現在完了、過去完了、動態動詞の進行形
第5回	完了形・進行形のはなし（2）	状態動詞と進行形、完了進行形
第6回	法助動詞のはなし（1）	法助動詞、根源の用法、推量的用法
第7回	法助動詞のはなし（2）	擬似法助動詞、未来に言及する色々な表現、縮約形
第8回	命令・依頼・懇願など	文の種類とその用途、遠慮のない命令・要請、要請・依頼・懇願、許可の求め方、依頼その他のイントネーション
第9回	助言・批判・警告など	助言・忠告、勧誘、助力の申し出、文句の付け方、警告・脅かし
第10回	依頼・助言・警告などへの対応	居丈高な命令への対応、依頼・許可要請などに対する応諾、拒絶・謝絶・反発等
第11回	知的情報交換	確認、意見・知見の訊ね方・述べ方、賛成・反対、反論・批判の回避術
第12回	潤滑油としてのことば	交換的言語使用、同情・悔やみなど、come と go、bring と take など、謝辞・賛辞・世辞・祝辞など、格好の付け方
第13回	イントネーション	イントネーションの重要性、どこを強く、どこを弱く発音するか、上昇と下降
第14回	まとめ・解説	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容を復習し課題に取り組みます（各2時間）。

【テキスト（教科書）】

今井邦彦著『英語の使い方』大修館書店 1,600 円＋税 978-4-469-14138-2

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 各章の課題の点数 90 %

【学生の意見等からの気づき】

各章ごとの課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and weekly assignments (90%).

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

太田 美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的としている。日常生活に関わる会話になれることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の修得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるようにする。

【到達目標】

The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of Class Rules. Get to know each other.
2	Unit 1	The woman in the Picture
3	Unit 2	Back to Titanic
4	Unit 3	Leaving Port
5	Unit 4	Don't do it!
6	quiz	Quiz
7	Unit 5	Do you love him?
8	Unit 6	I can't see you
9	Unit 7	I'm flying!
10	Unit 8	Iceberg right ahead!
11	quiz	quiz
12	Unit 9	An Honest Thief
13	Unit 10	Goodbye, mother
14	quiz	quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson.

【テキスト（教科書）】

Learn English with TITANIC, Teruhiko Kadoyama, Simon Capper, Sebido, 2016, 2300yen

【参考書】

Ballard, R.D. (1988). Discovery of the Titanic. NY: Warner Madison Preaa

【成績評価の方法と基準】

Class work and participation 30%

Short reports 20%

Examinations 50%

【学生の意見等からの気づき】

Learning English through movies are effective. Let's study English together.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students.

The goal of this class is to heighten your vocabulary, listening and English communication skills.

You will learn and use key vocabulary and useful phrases. You will be given listening tasks.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Grading:

Class work and participation 30%

Short reports 20%

Examinations 50%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrangement of media
- write an effective summary paragraph
- write an analytical book report
- make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
- carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports / assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be covered.	Students will receive guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.

Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】

Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.

For MLA information:

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html

A good dictionary is required. One example is:

Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Class performance (effort, participation, presentations): 30%

Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.

Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosi University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the “Forums” section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. *You may not use a smartphone for this purpose*

【その他の重要事項】

This class has a strict “NO Smartphones” policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を実社会で使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活にかかわる会話に慣れ、身の回りのことを英語で説明する練習をする。幅広いコミュニケーション力の習得と、異文化に対する理解を深めることを目標とする。

This course is planned to build communication ability required in society when you start to work after graduation. We practice in order to get wide variety of explanation and communication ability and understanding of different cultures.

【到達目標】

日常的に使用する基礎語彙を使い、基礎的な文法に沿って平明な説明を口頭でできる。対話を深め、より多くの情報を取得するために、多面的な質問を多く発することができるようにする。

毎回の課題に沿って、グループディスカッションや個別のプレゼンテーションを行う。

To make clear explanation using everyday language and basic grammar. To make various questions in order to get more information.

To make group discussion and presentation assignments given in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配布プリントのスキットを参考に語彙を増やし、表現練習をする。プリントを配布し、ペア・ワークやグループ・ワークで、トピックに関するインタビュー＆レポートを作成したり、ロールプレイをする。

You will be given handouts of conversation skits or sample writings and practice in pair or group, making interview and report, doing roll playing.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Getting to Know Your Group(Speculating)	かんたんな ice-breaking game とインタビューを通じて、グループ内またはペアワークのパートナーを描写してみよう。
2	Getting to Know Your Group(Role-playing)	4 人程度のグループに分かれ、配布プリントの役割指定にしたがって、会話スキットを作成し、演じてもらいます
3	Annual event	日常会話のスキットを使って、日本の慣習を説明してみましょう。
4	Presentation: Annual event	グループで構成した Annual event の説明会話スキットを演じてみましょう。
5	Lifestyle Survey I (on food)	Interview of your lifestyle (より詳しい情報を得るための follow-up question を考える)
6	Lifestyle Survey II (on expense)	Interview of your lifestyle
7	Transportation	日常会話のスキットを使って、時間・場所・方向などを表す前置詞を練習します。
8	Making up a scene	日常会話のスキットを使って、グループごとにシーンを構成し、演じて見ましょう。
9	Situations from dialogue	一連のインタビューを完成させ、シチュエーションを明確にするために必要な表現を考えてみましょう。
10	Guess What?(Making Questions)	Yes/No Question & Wh-Question
11	Speculation from the appearance of people	詳細情報を得るために有効な質問をできるだけたくさん考えてみましょう。
12	Explaining the Scene	Making explanation on a short movie
13	Review and preparation for the final interview	詳細情報を得るために必要な質問を考えてみましょう。
14	Final Interview	Interview and Report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

会話スキットのプリントやボキャブラリーシートを配布するので、発音・語彙をチェックしてください。グループ指定してインタビューや会話スキットの作成をしますので、事前にどんな表現ができるか、考えてみましょう。より多くの情報を盛り込むために、自分で Further Questions を設定し、それに答えるなどのステップを踏んで、十分な説明を行う練習をしましょう。

Please prepare for and review class activities for 2 hours for each class. Check the handouts and see the vocabulary and grammar, then think what expressions are available in order to make yourself understood.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

You will be given handouts.(We don't use textbook.)

【参考書】

随時プリントを配布します。授業時はかならず辞書を携行してください。

No designated reference book. Please carry dictionary in each class.

【成績評価の方法と基準】

Interview session のレポート 20 %、授業時の発表（レポート、スピーチ）およびボキャブラリークイズなどの提出物 80 %として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。遅刻も回数に応じて減点されるので、注意のこと。スピーチやグループワークでのインタビューなど平常点の評価割合が大きいので、欠席しないようにしてください。

You will be assessed: Final Report(Interview session and Report)20%

Class Activities (Reports, speeches, vocabulary quiz) 80%

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit.

【学生の意見等からの気づき】

When you have any question on what you have to do during the class, please don't hesitate to ask. Try to make sure what you should do to complete the task. Asking questions to get information is important part of this class.

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行してください。

ペアワークやグループワークの際、相手から情報を引き出すために、どんどん follow-up question を考えて、使ってみましょう。とにかく口に出してみる、そして修正する、という練習の繰り返しです。

Please carry dictionary for class activities. Try to make more questions and follow-up questions to get more information from your classmates. We will make try and error, try and error, try and error..... as we do like that, we can build the foundation of language ability.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. Let's try to accustomed to the expressions of everyday-English and try to explain what you do or think of in English. Our goal is to get good communication skills and to have better understanding of foreign culture.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and explanation	The teacher and students will have an opportunity to introduce and talk about themselves
第 2 回	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
第 3 回	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
第 4 回	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
第 5 回	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
第 6 回	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
第 7 回	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	5 to 6-minute speaking test (in pairs)

第 8 回 Unit 7
Friends

Key vocabulary: Friends
Speaking/Listening: Friends
Conversation Strategy 1: Using tag questions

第 9 回 Unit 8
Road Trip

Key Vocabulary: Travel
Speaking/Listening: Travel
Conversation Strategy 1: Making suggestions

第 10 回 Unit 9
Blind Date

Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
Key vocabulary: Dating
Speaking/Listening: Dating
Conversation Strategy 1: Checking for understanding
Conversation Strategy 2: Summarizing

第 11 回 Unit 10 Job Hunting

Key vocabulary: Work
Speaking/Listening: Work
Conversation Strategy 1: Changing direction
Conversation Strategy 2: Changing the topic

第 12 回 Unit 11
Let's Catch a Flick

Key vocabulary: Movies
Speaking/Listening: Movies
Conversation Strategy 1: Sharing news
Conversation Strategy 2: Reacting to news

第 13 回 FINAL EXAMINATION: Part 1 (paper test)

Practice for final speaking examination

第 14 回 FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking)

5 to 6-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley & Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (speaking test): 20%
Final examination (paper test): 20%
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%

Homework assignments: 20%

Mid-term examination (speaking test):20%

Final examination (paper test):20%

Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

花崎 一夫

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

英語を通してコミュニケーション能力を高めるためには、英語をととして自国、とりわけ日本の文化について考察し、その考察をもとに自分の意見を持つことが出発点になる。それを基本として最終的には、英語を通して自らの意見を発信できるようにするのが本授業の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の大学で教鞭をとっているアメリカ人が書いた日本に関するエッセイを読みつつ、まずは日本に関する様々なテーマに関して書かれた本文の内容に関する自らの意見を整理する。その後、自分の考えを発信するために準備された課題に取り組んでもらう。その課題の内容に関して、皆さん同志で議論を深めてもらい、その後、皆さんの意見を発信してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第2回	Unit 1	What's in a Name?
第3回	Unit 2	Country of Eyes
第4回	Unit 3	The Language Dance
第5回	Unit 4	Japan Open and Closed
第6回	Unit 5	Why Ask Me?
第7回	Unit 6	Politics So Far from Home
第8回	Unit 7	Is Japan in Decline?
第9回	Unit 8	A New Era or An Era of Newness?
第10回	Unit 9	Earthquake Life
第11回	Unit 10	Integrating Immigrants
第12回	Unit 11	The Right Amount of Confidence
第13回	Unit 12	Mistake Makers of the World, Unite!
第14回	まとめ	期末テストを実施する予定です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

あらかじめ指定されたテキストを十分に予習してから授業に臨んでください。授業後は、授業中にとりくんだ課題の理解ができていたかどうかを確認するために、十分に復習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

Inbound/ Outbound Japan

金星堂

本体¥1900

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テストを含む課題 50%

定期試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍でオンライン授業だったこともあり、十分なインタラクションができなかったことがあったので、今年度はグループワークを増やしていきたい。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

By the end of the course, students should be able to attain:

A. deepening understanding foreign cultures as well as Japanese culture

B. the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work

C. the basic ability to apply English to research

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

早船 由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

- 1) 英語の正しい発音を身に付ける。
- 2) 英語でコミュニケーションするための表現を身につける。
- 3) クラスメイトと英語でコミュニケーションを取る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、ペアワーク、グループワークで、習った発音を実際に使って確認する。

また、発音が正しく行われているかどうかを一人一人確認し、行われていない場合は適切なフィードバックを行う。

リスニングは課題を行った後、回答とスクリプトを配布し、どこが聞き取れていなかったのかを確認できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lesson 1 Let Me Introduce My Hometown	数字：大きい数、小さい数／情報伝達のためのスピーチ
2	Lesson 2 And Here Is Today's News	数字：年月日／ニュースと天気予報
3	Lesson 3 Support Us!	数字：お金／説得のためのスピーチ
4	Lesson 4 I'm Honored to Be Here	数字：年齢／祝いの場のスピーチ
5	Lesson 5 Thank You for Flying with Us Today	数字：時間／機内アナウンス
6	Lesson 6 Thank You for Calling	数字：慣用表現／電話での音声案内
7	Lesson 7 Enjoy the Rhythm and Rhyme	音のつながり：連結／詩と歌
8	Lesson 8 Swing with the Music!	音のつながり：脱落／チャンツとラップ
9	Lesson 9 Stay Tuned!	音のつながり：同化／ラジオDJ
10	Lesson 10 You'll Love It	音のつながり：まとめ／コマーシャル
11	Lesson 11 Nice Meeting You	上昇イントネーション／パーティでの会話初対面の人と話す
12	Lesson 12 Customer Service. How Can I Help You?	下降イントネーション／クレームを伝える
13	Lesson 13 Oh, No!	イントネーション：感嘆文／予想外の出来事について話す
14	Lesson 14 Let's Do Something Together	イントネーション：列挙、選択／楽しいプランを立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で習った表現の復習
- ・新しい語や表現を調べる
- ・発音練習

【テキスト（教科書）】

「English Sound Box」

Asami Otsuka, Yoko Ueda, Kathy Maruyama, Yumiko Imai 著
金星堂

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物） 50%
小テスト 20%
期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやペアワークを増やす。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【Learning Objectives】

- 1) Acquire correct pronunciation of vocabulary
- 2) Learn appropriate phrases for English communication
- 3) Communicate with classmates

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class (including assignment submissions) 50%

Quizzes in class 20%

Final test 30%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

小畑 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とします。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックについて英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深めます。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図ります。

【到達目標】

- ・日常生活でやりとりされる英語を聞いて理解できる。
- ・自分の身近なことについて、英語で意見が述べられる
- ・会話の内容に応じて、適切に単語や表現などを選択し使用出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では「自分の意見を英語で述べる」ことが出来るようになることを目指します。授業で使用するテキストでは、日常生活においてよく接する話題が取り上げられており、各テーマに関して賛成・反対を議論する形式になっています。授業内では、賛成反対に分かれて議論をしたり、自分の意見を発表してもらったりします。また、その際に必要となる単語や表現、文法なども学習し、翌週の授業で小テストを行うことで、学習内容の定着を目指します。更に、「話す」為には「聞く」力も必要不可欠なので、リスニング力の強化も目指します。特に、長めの内容から、重要な情報を抜き取りメモを取る練習を行います。

課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	テキスト、授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などについての解説をする。
2	Unit2: Dubbing or Subtitling?	聞き手の反応を促す表現を習得する
3	Unit3: Traveling on Your Own or in a Group Tour?	意見を考える為に時間を稼ぐ表現を習得する
4	Unit4: Paper Bags or Plastic Bags?	意見を整理して述べる表現を習得する
5	Unit5: Do We Need TV Broadcasting or Not?	例を示す表現を習得する
6	Unit6: Age-based or Performance-based?	自分の意見を切り出すための表現を習得する
7	Unit7: Buying Music Online or Buying CDs?	同意を示す表現を習得する
8	Unit8: Living with Family or Living Alone?	反対を示す表現を習得する

9	Unit9: Team Sports or Individual Sports?	反論するための表現を習得する
10	Unit10: Online Shopping or In-store Shopping?	議論を深めるための表現を習得する
11	Unit11: Professional Training or Liberal Arts?	因果関係を述べる表現を習得する
12	Unit12: Self-driving Cars or Human-driven Cars?	誤解を解くための表現を習得する
13	Unit15: More Foreign Workers or Not?	まとめ・結論を述べる表現を習得する
14	授業内期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。
・授業前に指定された課題に取り組む。
・前回の授業で学習した単語、表現、文法を確認する。
・前回の授業で学習した Unit の音声を各自で聞き直す。
・次週の授業のテーマを確認し、自分の意見・立場を考え、必要な情報を事前に調べておく。

【テキスト（教科書）】

Iino, Atsushi et al. (2018) "In My Opinion", Kinseido. (¥1,900)
※教科書は教科書販売期間内に指定の場所で必ず購入して下さい。

【参考書】

英和・和英辞書を毎回必ず持参して下さい。（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

課題提出 70 %
授業への積極的な参加姿勢 10 %
期末課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度 ZOOM 授業の経験を活かし、クラス内で安心して、間違えを恐れることなく英語での発言が出来るように努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

初回授業時に、授業履修に関する注意事項を説明します。必ず参加すること。

また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。この教科書は、一般の本屋さんやアマゾンなどでは購入できませんので、必ず大学で購入して下さい。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

[Learning Objectives]

The goals of this course are [1] to listen to ordinary conversation, [2] to give their own opinion, and [3] to choose appropriate words or phrases properly depending on the situation.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

小林 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、実社会において英語を有効に使用して仕事をするために必要な、英語のコミュニケーション能力を養成する事を目的とする。日常会話になれることから、自分の興味のある事柄、専門領域に関することまで、英語で表現できるようにすることを目指す。併せて、会話を楽しみ、異文化への理解を深める授業とする。

【到達目標】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初はリスニングを中心に授業を進めます。授業が進むにつれ、英語で表現することを求めていきます。hoppii に課題を提出してもらうこともあります。出席重視、課題の提出の有無を重視します。学期末には、英文での自己紹介文を提出してもらい、フィードバックを行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法の説明。
第 2 回	Unit 1	基礎文法の確認など。
第 3 回	Unit 2	基礎文法の確認など。
第 4 回	Unit 3	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4	リスニングの練習など。
第 6 回	Unit 5	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第 7 回	Unit 6	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第 8 回	Unit 7	英会話の練習など。
第 9 回	Unit 8	英会話の練習など。
第 10 回	Unit 9	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 11 回	Unit 10	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 12 回	Unit 11	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 13 回	Unit 12	英文タイプの練習など。
第 14 回	Unit 13	自己紹介文の作成など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 必ず復習をすること。

また指示された場合には、予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

On Air (金星堂)

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

土曜一限の授業ですが、頑張ってください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire a broad ability to communicate, starting from daily conversation. The end of this course, students are expected to introduce themselves in English.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end report 80%, in-class contribution 20%.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

The purpose of this course is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【到達目標】

日常生活において出会うコミュニケーション場面の中で、短い会話を構成する基礎的レベルの表現・語彙が習得できる。大抵のハリウッド映画なら字幕に頼らずなんとか聞き取れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回映像を題材に文法、リスニング、スピーキングの基礎を学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから実例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance and Self-Introduction	ガイダンスと自己紹介
第 2 回	Job Interview	Grammar in Focus 過去完了 Language in Focus 別れ際の挨拶
第 3 回	First Day on the Job	Grammar in Focus 助動詞 1 Language in Focus 依頼する
第 4 回	Hurricane on the Weekend	Grammar in Focus 関係代名詞 1 Language in Focus 反論する
第 5 回	Andy's Makeover	Grammar in Focus 現在進行形 Language in Focus 困惑を示す
第 6 回	Andy Meets Christian	Grammar in Focus 助動詞 2 Language in Focus 聞き返す
第 7 回	Miranda's Request	Grammar in Focus 分詞 Language in Focus 希望を伝える
第 8 回	Nate's Birthday	Grammar in Focus 仮定法 Language in Focus 驚きを示す
第 9 回	Andy's Decision	Grammar in Focus 現在完了形 Language in Focus 確認する
第 10 回	Breakup with Nate	Grammar in Focus 動名詞 Language in Focus 提案する
第 11 回	The Dream Job	Grammar in Focus 受動態 Language in Focus 意思・予定を述べる
第 12 回	Announcement at the Party	Grammar in Focus 関係代名詞 2 Language in Focus 称賛する
第 13 回	Andy's Final Choice	Grammar in Focus 使役動詞 Language in Focus 丁寧に依頼する
第 14 回	学期末レポート課題の提示	学期末レポート課題の提示と説明を行う、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。英語のリスニングは、可能な限り、毎日続けてください。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、音読をするように。

【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語、松柏社、2 2 0 0 円、ISBN978-4-88198-712-4

【参考書】

NHK のテレビ・ラジオ英語講座テキストなど、書籍ではないが、BBC Learning English のサイト、特に 6 Minute English を視聴することをお勧めする。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (10%) を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が 5 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

これまでの良好状態を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用して行う。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to:

- extend their vocabulary and expressions composing a short talk in practical, daily conversations.
- acquire their basic listening skills for watching most of Hollywood movies without subtitles.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- keep listening everyday to many different types of material from every aspect of life.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution; 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except extreme circumstances.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

早船 由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

- 1) 英語の正しい発音を身に付ける。
- 2) 英語でコミュニケーションするための表現を身につける。
- 3) クラスメイトと英語でコミュニケーションを取る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、ペアワーク、グループワークで、習った発音を実際に使って確認する。

また、発音が正しく行われているかどうかを一人一人確認し、行われていない場合は適切なフィードバックを行う。

リスニングは課題を行った後、回答とスクリプトを配布し、どこが聞き取れていなかったのかを確認できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lesson 1 Let Me Introduce My Hometown	数字：大きい数、小さい数／情報伝達のためのスピーチ
2	Lesson 2 And Here Is Today's News	数字：年月日／ニュースと天気予報
3	Lesson 3 Support Us!	数字：お金／説得のためのスピーチ
4	Lesson 4 I'm Honored to Be Here	数字：年齢／祝いの場のスピーチ
5	Lesson 5 Thank You for Flying with Us Today	数字：時間／機内アナウンス
6	Lesson 6 Thank You for Calling	数字：慣用表現／電話での音声案内
7	Lesson 7 Enjoy the Rhythm and Rhyme	音のつながり：連結／詩と歌
8	Lesson 8 Swing with the Music!	音のつながり：脱落／チャンツとラップ
9	Lesson 9 Stay Tuned!	音のつながり：同化／ラジオDJ
10	Lesson 10 You'll Love It	音のつながり：まとめ／コマーシャル
11	Lesson 11 Nice Meeting You	上昇イントネーション／パーティでの会話初対面の人と話す
12	Lesson 12 Customer Service. How Can I Help You?	下降イントネーション／クレームを伝える
13	Lesson 13 Oh, No!	イントネーション：感嘆文／予想外の出来事について話す
14	Lesson 14 Let's Do Something Together	イントネーション：列挙、選択／楽しいプランを立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で習った表現の復習
- ・新しい語や表現を調べる
- ・発音練習

【テキスト（教科書）】

「English Sound Box」

Asami Otsuka, Yoko Ueda, Kathy Maruyama, Yumiko Imai 著
金星堂

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度（課題への取り組み度合い、提出物） 50%
小テスト 20%
期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

グループワークやペアワークを増やす。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【Learning Objectives】

- 1) Acquire correct pronunciation of vocabulary
- 2) Learn appropriate phrases for English communication
- 3) Communicate with classmates

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class (including assignment submissions) 50%

Quizzes in class 20%

Final test 30%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

小畑 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とします。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックについて英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深めます。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図ります。

【到達目標】

- ・日常生活でやりとりされる英語を聞いて理解できる。
- ・自分の身近なことについて、英語で意見が述べられる
- ・会話の内容に応じて、適切に単語や表現などを選択し使用出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では「自分の意見を英語で述べる」ことが出来るようになることを目指します。授業で使用するテキストでは、日常生活においてよく接する話題が取り上げられており、各テーマに関して賛成・反対を議論する形式になっています。授業内では、賛成反対に分かれて議論をしたり、自分の意見を発表してもらったりします。また、その際に必要となる単語や表現、文法なども学習し、翌週の授業で小テストを行うことで、学習内容の定着を目指します。更に、「話す」為には「聞く」力も必要不可欠なので、リスニング力の強化も目指します。特に、長めの内容から、重要な情報を抜き取りメモを取る練習を行います。

課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	テキスト、授業の進め方、課題の提出の仕方、評価方法などについての解説をする。
2	Unit2: Dubbing or Subtitling?	聞き手の反応を促す表現を習得する
3	Unit3: Traveling on Your Own or in a Group Tour?	意見を考える為に時間を稼ぐ表現を習得する
4	Unit4: Paper Bags or Plastic Bags?	意見を整理して述べる表現を習得する
5	Unit5: Do We Need TV Broadcasting or Not?	例を示す表現を習得する
6	Unit6: Age-based or Performance-based?	自分の意見を切り出すための表現を習得する
7	Unit7: Buying Music Online or Buying CDs?	同意を示す表現を習得する
8	Unit8: Living with Family or Living Alone?	反対を示す表現を習得する
9	Unit9: Team Sports or Individual Sports?	反論するための表現を習得する
10	Unit10: Online Shopping or In-store Shopping?	議論を深めるための表現を習得する
11	Unit11: Professional Training or Liberal Arts?	因果関係を述べる表現を習得する
12	Unit12: Self-driving Cars or Human-driven Cars?	誤解を解くための表現を習得する
13	Unit15: More Foreign Workers or Not?	まとめ・結論を述べる表現を習得する
14	授業内期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・本授業の準備・復習時間は各2 時間を標準とします。
・授業前に指定された課題に取り組む。

- ・前回の授業で学習した単語、表現、文法を確認する。
- ・前回の授業で学習した Unit の音声を各自で聞き直す。
- ・次週の授業のテーマを確認し、自分の意見・立場を考え、必要な情報を事前に調べておく。

【テキスト（教科書）】

Iino, Atsushi et al. (2018) "In My Opinion", Kinseido. (¥1,900)

※教科書は教科書販売期間内に指定の場所で必ず購入して下さい。

【参考書】

英和・和英辞書を毎回必ず持参して下さい。（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

課題提出 70 %
授業への積極的な参加姿勢 10 %
期末課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度 ZOOM 授業の経験を活かし、クラス内で安心して、間違えを恐れることなく英語での発言が出来るように努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

初回授業時に、授業履修に関しての注意事項を説明します。必ず参加すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業に忘れずに持参すること。この教科書は、一般の本屋さんやアマゾンなどでは購入できませんので、必ず大学で購入して下さい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to listen to ordinary conversation, [2] to give their own opinion, and [3] to choose appropriate words or phrases properly depending on the situation.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

小林 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、実社会において英語を有効に使用して仕事をするために必要な、英語のコミュニケーション能力を養成する事を目的とする。日常会話になれることから、自分の興味のある事柄、専門領域に関することまで、英語で表現できるようになることを目指す。併せて、会話を楽しみ、異文化への理解を深める授業とする。

【到達目標】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

当初はリスニングを中心に、授業を進めます。授業が進むにつれ英語で表現することを求めていきます。hoppii に課題を提出してもらうこともあります。出席重視、課題の提出の有無を重視します。学期末には、英文での自己紹介文を提出してもらい、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法の説明。
第 2 回	Unit 1	基礎文法の確認など。
第 3 回	Unit 2	基礎文法の確認など。
第 4 回	Unit 3	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4	リスニングの練習など。
第 6 回	Unit 5	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第 7 回	Unit 6	日常会話に必要な表現を覚えるなど。
第 8 回	Unit 7	英会話の練習など。
第 9 回	Unit 8	英会話の練習など。
第 10 回	Unit 9	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 11 回	Unit 10	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 12 回	Unit 11	英会話の練習、自己紹介の練習など。
第 13 回	Unit 12	英文タイプの練習など。
第 14 回	Unit 13	自己紹介文の作成など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】必ず復習をすること。
また指示された場合には、予習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

On Air (金星堂)

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

土曜限の授業ですが、頑張ってください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire a broad ability to communicate, starting from daily conversation. The end of this course, students are expected to introduce themselves in English.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end report 80%, in-class contribution 20%.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

The purpose of this course is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【到達目標】

日常生活において出会うコミュニケーション場面の中で、短い会話を構成する基礎的レベルの表現・語彙が習得できる。大抵のハリウッド映画なら字幕に頼らずなんとか聞き取れるようになる。

By the end of the course, students will be able to:

- extend their vocabulary and expressions composing a short talk in practical, daily conversations.
- acquire their basic listening skills for watching most of Hollywood movies without subtitles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回映像を題材に文法、リスニング、スピーキングの基礎を学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから事例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance and Self-Introduction	ガイダンスと自己紹介
第 2 回	Job Interview	Grammar in Focus 過去完了 Language in Focus 別れ際の挨拶
第 3 回	First Day on the Job	Grammar in Focus 助動詞 1 Language in Focus 依頼する
第 4 回	Hurricane on the Weekend	Grammar in Focus 関係代名詞 1 Language in Focus 反論する
第 5 回	Andy's Makeover	Grammar in Focus 現在進行形 Language in Focus 困惑を示す
第 6 回	Andy Meets Christian	Grammar in Focus 助動詞 2 Language in Focus 聞き返す
第 7 回	Miranda's Request	Grammar in Focus 分詞 Language in Focus 希望を伝える
第 8 回	Nate's Birthday	Grammar in Focus 仮定法 Language in Focus 驚きを示す
第 9 回	Andy's Decision	Grammar in Focus 現在完了形 Language in Focus 確認する
第 10 回	Breakup with Nate	Grammar in Focus 動名詞 Language in Focus 提案する
第 11 回	The Dream Job	Grammar in Focus 受動態 Language in Focus 意思・予定を述べる
第 12 回	Announcement at the Party	Grammar in Focus 関係代名詞 2 Language in Focus 称賛する
第 13 回	Andy's Final Choice	Grammar in Focus 使役動詞 Language in Focus 丁寧に依頼する
第 14 回	学期末レポート課題の提示	学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。英語のリスニングは、可能な限り、毎日続けてください。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、音読をするように。

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- keep listening everyday to many different types of material from every aspect of life.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

【テキスト（教科書）】

『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語、松柏社、2200円、ISBN978-4-88198-712-4

【参考書】

NHK のテレビ・ラジオ英語講座テキストなど、書籍ではないが、BBC Learning English のサイト、特に 6 Minute English を視聴することをお勧めする。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (10%) を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

これまでの良好状態を継続する。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用して行う。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】
(Course outline)

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to:

- extend their vocabulary and expressions composing a short talk in practical, daily conversations.
- acquire their basic listening skills for watching most of Hollywood movies without subtitles.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- keep listening everyday to many different types of material from every aspect of life.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except extreme circumstances.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

KOPROWSKI MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Course introduction and explanation	The teacher and students will have an opportunity to introduce and talk about themselves
第 2 回	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
第 3 回	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
第 4 回	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
第 5 回	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
第 6 回	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
第 7 回	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	5 to 6-minute speaking test (in pairs)

第 8 回 Unit 7
Friends

Key vocabulary: Friends
Speaking/Listening: Friends
Conversation Strategy 1: Using tag questions
Conversation Strategy 2: Giving compliments

第 9 回 Unit 8
Road Trip

Key Vocabulary: Travel
Speaking/Listening: Travel
Conversation Strategy 1: Making suggestions
Conversation Strategy 2:

第 10 回 Unit 9
Blind Date

Responding to suggestions
Key vocabulary: Dating
Speaking/Listening: Dating
Conversation Strategy 1: Checking for understanding
Conversation Strategy 2: Summarizing

第 11 回 Unit 10 Job Hunting

Key vocabulary: Work
Speaking/Listening: Work
Conversation Strategy 1: Changing direction
Conversation Strategy 2: Changing the topic

第 12 回 Unit 11
Let's Catch a Flick

Key vocabulary: Movies
Speaking/Listening: Movies
Conversation Strategy 1: Sharing news
Conversation Strategy 2: Reacting to news

第 13 回 FINAL EXAMINATION: Part 1 (paper test)

Practice for final speaking examination

第 14 回 FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking)

5 to 6-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley & Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (speaking test): 20%
Final examination (paper test): 20%
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

The development of pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and conversation strategies in order to have more natural and fluent conversations.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Individual students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%

Homework assignments: 20%

Mid-term examination (speaking test):20%

Final examination (paper test):20%

Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木 幸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

In this class, students will study a specific topic each week, using the textbook. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Introduction Let's introduce ourselves!
2	Day 1 Wish You Were Here	Let's talk about experience!
3	Presentation Day 1	Self-introduction presentation
4	Day 2 Get Well Soon	Let's talk about health!
4	Day 3 Money Makes the World Go Round	Speaking Quiz 1 Let's talk about shopping!
	Day 9 Shop 'Till you Drop	
5	Day 4 May the Force Be with You!	Writing Quiz 1 Let's talk about movies!
6	Day 5 Bon Voyage	Let's talk about traveling!
	Day 10 You Can't Miss It	
7	Day 6 For Here or to Go?	Speaking Quiz 2 Let's talk about eating out!
8	Day 7 What's Your E-mail Address?	Writing Quiz 2 Let's talk about business!
	Day 8 Talking Care of Business	
9	Day 11 Go Team Go	Let's talk about sports!
10	Day 12 Talk to the Animals	Speaking Quiz 3 Let's talk about family!
	Day 15 Family Fun	
11	Day 13 Up, Up and Away	Writing Quiz 3 Let's talk about weather!
	Day 14 On the Sunny Side of the Street	
12	Day 16 Do the Clothes Make the Man?	Let's talk about home!
	Day 18 What's Cooking?	
13	Presentation Day 2	Role-play presentation
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

Students will be expected to have completed the require assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

【テキスト（教科書）】

Shari J. Berman, et al., Topic by Topic TOEIC Listening, SEIBIDO, 2000/2020. 900 yen (+ tax)

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 20%

Assignment: 30% (including presentation)

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you students enjoy studying English.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work.

The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

花崎 一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

英語を通してコミュニケーション能力を高めるためには、英語をととして自国、とりわけ日本の文化について考察し、その考察をもとに自分の意見を持つことが出発点になる。それを基本として最終的には、英語を通して自らの意見を発信できるようにするのが本授業の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本の大学で教鞭をとっているアメリカ人が書いた日本に関するエッセイを読みつつ、まずは日本に関する様々なテーマに関して書かれた本文の内容に関する自らの意見を整理する。その後、自分の考えを発信するために準備された課題に取り組んでもらう。その課題の内容に関して、皆さん同志で議論を深めてもらい、その後、皆さんの意見を発信してもらう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容の説明
第 2 回	Unit 1	What's in a Name?
第 3 回	Unit 2	Country of Eyes
第 4 回	Unit 3	The Language Dance
第 5 回	Unit 4	Japan Open and Closed
第 6 回	Unit 5	Why Ask Me?
第 7 回	Unit 6	Politics So Far from Home
第 8 回	Unit 7	Is Japan in Decline?
第 9 回	Unit 8	A New Era or An Era of Newness?
第 10 回	Unit 9	Earthquake Life
第 11 回	Unit 10	Integrating Immigrants
第 12 回	Unit 11	The Right Amount of Confidence
第 13 回	Unit 12	Mistake Makers of the World, Unite!
第 14 回	まとめ	期末テストを実施する予定です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
あらかじめ指定されたテキストを十分に予習してから授業に臨んでください。授業後は、授業中にとりくんだ課題の理解ができていたかどうかを確認するために、十分に復習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

Inbound/ Outbound Japan

金星堂

本体 ¥1900

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テストを含む課題 50%

定期試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍でオンライン授業だったこともあり、十分なインタラクションができなかったことがあったので、今年度はグループワークを増やしていきたい。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

By the end of the course, students should be able to attain:

A. deepening understanding foreign cultures as well as Japanese culture

B. the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work

C. the basic ability to apply English to research

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

バリー ヘイタ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

- i) Increasing general proficiency in understanding English texts
- ii) Heightening comprehension skills for listening to and reading from English texts

【到達目標】

Development of grammatical, logical, and lexical expression in English through completing classroom tasks, homework assignments, and module tests.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Practical problem solving in pairs for familiarization with the grammar and vocabulary of each unit text; blackboard presentations of cooperative results; individual assignments and recitations; in class personal consultations. Feedback will be provided over the university Hoppii system on both the Assignment Submission page for queries specific to one individual and on the Announcement page for queries of a general nature.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction; Culture and Difference	Class operation and materials; Language Focus: noun/verb/adjective
Class 2	Culture and Difference	Reading Practice: difference/similarity/agreement
Class 3	Culture and Difference	Contrastive Statements; Cause & Effect Sentences; Implied Nouns; Intonation Adjustment.
Class 4	Objects and Items	Language Focus: size/shape/material
Class 5	Objects and Items	Reading Practice: description/usage
Class 6	Foreign and Native culture: Typical Characteristics	Sentence Analysis; Adverbs/ Adjectives; Exaggeration and Generalisation.
Class 7	Reading Practice: Understanding Native Culture	Language Focus: Noun/ Adjective Relationships; Logic/ Truth Value Interpretations
Class 8	Reading Review of 6 and 7	Reading Practice: Statements/Assertions/ Comparisons/ Paraphrases; Adjective/ Adverb Usage.
Class 9	Reading Comprehension: Typical/Exaggerated Items of Japanese Culture	Identifying truthful/exaggerated-statements; Adjective & Adverb Usage/Logical Relations.
Class 10	Language Focus: Characteristics and Definitions	Language Focus: General classes/ Specific examples; Cause/ Effect Statements; Noun/ Adjective Relations
Class 11	Reading Comprehension: Education Anguish of Japanese Parents	Text Analysis: Cause/ Effect Sentences; Fact/ Opinion statements; Adjective/ Adverb/ Transition phrase Identification
Class 12	Paragraph Development: Education Demands for Japanese Teens	Sentence Completion: Grammatical/ Logical Analysis; Identifying Cause/ Effect/ Fact/ Opinion Statements.

Class 13	Reading Practice/ Sentence Composition: Education Pressure for Japanese Teens	Paragraph Development/ Sentence Completion: Cause/Effect/ Fact/ Opinion; Transitions
Class 14	Reading Comprehension: School Drop-outs and Delinquency in Japan	Definitions: Adjective/ Noun Relations; Analysis/ Arguments: Cause/ Result Statements

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Tasks not completed in classroom time will be assigned as homework for presentation at the next class. Therefore, absence from any class will not excuse any student from completing all of such tasks for the next class.

【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】

Topics in English 1@Longman Asia Limited,1994
Practice Tests for the new format of TOEIC(ELS) TOEIC 運営委員会

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%; Assignments 20%; Mid and Final tests 30%/30%

【学生の意見等からの気づき】

Increased practice in oral skills of pronunciation and intonation through recitation practice.

【学生が準備すべき機器他】

Tape Cassette or CD Player

【その他の重要事項】

Forgotten or lost materials will be replaced only once at the start of each class by the instructor. In all other cases, students must supply their own replacements before class begins. Furthermore, photocopies of completed assignments will not be accepted.

【Caution】

Changes to the schedule may be made in accordance to the proficiency level of the class.

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English as well as to meet the need for high levels of English competence. Therefore, this course emphasizes both the development of basic, comprehensive knowledge and the skills to apply this more effectively. A variety of effective approaches will be used to increase general proficiency in understanding written and spoken English as well as to improve the particular active skills for communicating in English.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

柏原 俊樹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な「やや難しい」リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞にいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。日本語のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないのと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: GEORGE'S BEACH SHACK
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: KIMBALL'S DINING ROOM
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: KIMBALL'S KITCHEN
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: COMMUTER TRAIN
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: HOSPITAL ROOM
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: SAN JUAN CAPISTRANO TRAIN STATION
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: GEORGE'S GARAGE
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: GEORGE'S SHACK
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5: GEORGE'S GARAGE
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: GEORGE'S GARAGE
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: JOSH'S PORSCHE
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: GEORGE'S SHACK
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 教科書の予習は必須。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

It is necessary to read the textbook beforehand.

Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.

【テキスト（教科書）】

教科書：『映画シナリオ「海辺の家」』（英宝社）

【参考書】

できれば語源欄のある辞書を使ってください。また、語学習得のかなり発展した段階に至るまでは、紙の辞書のほうが学習効果が高いと思われます。

【成績評価の方法と基準】

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30 %）。

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】

積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We aim to enhance comprehensive language ability in speaking listening and writing using fertile vocabulary and basic grammar. As the first step, we will try to get language skills by reading everyday topics, making interview and practicing conversation skit through pair/group. work

【到達目標】

To read, write, speak and listen to everyday language using basic grammar.

To understand the topics of class materials and report the themes in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

We will practice conversation skit, listening to sample conversation and reading articles on everyday topics. You will be given handouts for the class activities. You have to prepare for the classes checking vocabulary. You will make interviews and reports on given topics. You have to submit assignments for each class and assignment paper will be given back in the next class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Meeting People	Exchanging personal information and Making Self-Introduction.
2	Express Yourself	Review of the expression in the previous class and listening practice.
3	Family and Friends	Describing and talking about people
4	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
5	Life styles	Describing a typical day, talking about lifestyle
6	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
7	Explaining What People Do for a Work	Talking about a job or college life.
8	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
9	Having fun	Talking about free time activities
10	Express Yourself	Review of the expression in the previous class and listening practice.
11	Grammar Review	Review on Basic Grammar
12	Reading session 1	Read a short article and make a summary.
13	Reading session 2	Grammar review 1 Read a short article and make a summary.
14	学期のまとめ	Grammar review 2 Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare for and review class activities for 2 hours for each class. To build up vocabulary, check the dictionary frequently and see not only the meaning of word but idioms and preposition/adverb used with the word.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。資料を配布する。

You will be given handouts.

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: Class activities and homework assignment 70%

Final Report 30%

You have to submit report or homework assignment for each class.

If you don't attend four or more classes, you will not get the credit.

When you will be late for the class 3 times, it will be counted as 1 absence.

【学生の意見等からの気づき】

毎回ペアワークでのインタビューを行います。より多くの情報を得るために、どんな質問を持ち出すとよいか考えてみましょう。一つの質問から派生的に出てくる質問 (follow-up question) を数多く考えることで、表現もひろがっていくでしょう。

Writing 課題で、Topic + Support の形を作り、十分な説明を付け加える練習が必要かと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。

【その他の重要事項】

授業には必ず辞書を携行してください。

毎回の提出物が平常点となりますので、欠席しないよう気をつけてください。遅刻も回数に応じて減点の対象になります。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge. As technicians or scientists, you will need the ability to comprehend and communicate in English. For the beginning, let's check up basic grammar of English, try to get accustomed to the expressions of everyday-English, and try to explain what you do or think of in English.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

渡邊 晶子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。
構文をしっかりと理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、しっかりと準備をしておくこと。

課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・小テスト	授業の進め方について説明する。
2	The Bee Colony	品詞について学ぶ。 ミツバチのコロニーについての英文を読む。
3	Space Junk	動詞について学ぶ。 宇宙ゴミについての英文を読む。
4	The Gift of Energy	句動詞について学ぶ。 エネルギーについての英文を読む。
5	Water and Living Things	時制について学ぶ。 水と生き物についての英文を読む。
6	The Sun, Our Powerful Star	時制について学ぶ。 太陽についての英文を読む。
7	Tomorrow's Transportation	主語と動詞の一致について学ぶ。 近未来の乗物についての英文を読む。
8	All That Glitters, Spread, and Stretches	代名詞について学ぶ。 金についての英文を読む。
9	Bioclock - the Time of Your Life	名詞・冠詞について学ぶ。 体内時計についての英文を読む。
10	Right Brain, Left Brain	前置詞について学ぶ。 右脳と左脳についての英文を読む。
11	The Miracle of Vitamins	助動詞について学ぶ。 ビタミンについての英文を読む。
12	Unlocking Submarine Secrets	海底の謎についての英文を読む。
13	Frozen Foods	冷凍食品の発見についての英文を読む。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの英文の日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】

The Wonders of Science 科学の世界（成美堂）

A Shorter Course in Usage and Vocabulary ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % レポート課題 40 % 期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

提出課題や質問等で気づいたことを解説に織り込んでいく。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire a rich vocabulary, accurate grammatical knowledge and reading skills.

At the end of the course, students are expected to read a text accurately and quickly.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

バリー ヘイタ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

i)Increasing general proficiency in understanding English texts

ii)Heightening comprehension skills for listening to and reading from English texts

【到達目標】

Development of grammatical,logical,and lexical expression in English though completing classroom tasks, homework assignments, and module tests.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Practical problem solving in pairs for familiarization with the grammar and vocabulary of each unit text; blackboard presentations of cooperative results; individual assignments and recitations; in class personal consultations. Feedback will also be provided over the Hoppii system on both the Assignment Submission page for queries specific to one individual and on the Announcement page for queries of a general nature .

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction; Culture and Difference	Class operation and materials; Language Focus: noun/verb/adjective
Class 2	Culture and Difference	Reading Practice: difference/similarity/agreement
Class 3	Culture and Difference	Contrastive Statements; Cause & Effect Sentences; Implied Nouns: Intonation Adjustment.
Class 4	Objects and Items	Language Focus: size/shape/material
Class 5	Objects and Items	Reading Practice: description/usage
Class 6	Foreign and Native culture: Typical Characteristics	Sentence Analysis; Adverbs/ Adjectives; Exaggeration and Generalisation.
Class 7	Reading Practice: Understanding Native Culture	Language Focus: Noun/ Adjective Relationships; Logic/ Truth Value Interpretations
Class 8	Reading Review of 6 and 7	Reading Practice: Statements/Assertions/ Comparisons/ Paraphrases; Adjective/ Adverb Usage.
Class 9	Reading Comprehension: Typical/Exaggerated Items of Japanese Culture	Identifying truthful/exaggerated-statements; Adjective & Adverb Usage/Logical Relations.
Class 10	Language Focus: Characteristics and Definitions	Language Focus: General classes/ Specific examples; Cause/ Effect Statements; Noun/ Adjective Relations
Class 11	Reading Comprehension: Education Anguish of Japanese Parents	Text Analysis: Cause/ Effect Sentences; Fact/ Opinion statements; Adjective/ Adverb/ Transition phrase Identification
Class 12	Paragraph Development: Education Demands for Japanese Teens	Sentence Completion: Grammatical/ Logical Analysis; Identifying Cause/ Effect/ Fact/ Opinion Statements.

Class 13 Reading Practice/ Sentence Composition: Paragraph Development/ Sentence Completion: Cause/Effect/ Fact/ Opinion; Transitions

Class 14 Reading Comprehension: School Drop-outs and Delinquency in Japan Definitions: Adjective/ Noun Relations; Analysis/ Arguments: Cause/ Result Statements

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Tasks not completed in classroom time will be assigned as homework for presentation at the next class. Therefore, absence from any class will not excuse any student from completing all of such tasks for the next class.

【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】

Topics in English 1@Longman Asia Limited,1994
Practice Tests for the new format of TOEIC(ELS) TOEIC 運営委員会

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%; Assignments 20%; Mid and Final tests 30%/30%

【学生の意見等からの気づき】

Increased practice in oral skills of pronunciation and intonation through recitation practice.

【学生が準備すべき機器他】

Tape Cassette or CD Player

【その他の重要事項】

Forgotten or lost materials will be replaced only once at the start of each class by the instructor. In all other cases,students must supply their own replacements before class begins. Furthermore,photocopies of completed assignments will not be accepted.

【Caution】

Changes to the schedule may be made in accordance to the proficiency level of the class.

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge while aiming to develop further the four language skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language and in general society there is an increasing need for the ability to comprehend and communicate in English effectively. Therefore, this course emphasizes the development of basic, comprehensive knowledge and understanding as well as better skills in applying these. A variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency in understanding written and spoken English as well as to improve the particular active skills for communicating in English.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

花崎 一夫

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学のグローバル化が求められている現在、英語力は異文化間コミュニケーションを円滑に進めるための重要なツールとなっているため、大学生にとって英語力の伸長が重要な課題になっている。本授業では、アカデミックな英文を読むことを通して英語の読解力を養成することを目的とする。また、英語の基本的な発音をマスターすることを目指す。

【到達目標】

リーディングでは、様々なリーディングスキルを活用しながら内容を効率よく把握する力を養成する。

リスニングでは、英語の音声の特徴を踏まえた上で、要点を把握・整理しながら聴くことが出来るようになる。

各種資格試験においても求められる実践的な英語力の土台を固める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画におよその学習範囲を提示してありますが、授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。必要に応じて TOEIC などの資格試験対策のための問題演習や音声学に基づいた英語の発音演習も取り入れます。

またこの授業では、学習する部分の内容に関連する課題を各自やって提出してもらうことがあります。それに対するフィードバックは、基本的に次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Chapter1	Concepts We Live By
2.	Chapter2	The Systematicity of Metaphorical Concepts
3.	Chapter3	Metaphorical Systematicity: Highlighting and Hiding
4.	Chapter4	Orientational Metaphors
5.	Chapter5	Metaphor and Cultural Coherence
6.	Chapter6	Ontological Metaphors
7.	Chapter7	Personification
8.	Chapter8	Metonymy
9.	Chapter9	How is Our Conceptual System Grounded?
10.	Chapter10	How Metaphor Can Give Meaning to Form
11.	Chapter11	New Meaning
12.	Chapter12	TBA
13.	Chapter13	TBA
14.	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業中に学習した内容を定着させるために、音読などの演習を自宅などで行う。

【テキスト（教科書）】

1 Metaphors We Live By

メタファーに満ちた日常世界 1700円（税抜き）

【参考書】

授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題50パーセントと期末テスト50パーセントを基準とする。変更がある場合には、Hoppii など事前にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業で実施した TOEIC 対策演習がとてまめになったと学生から言われたこともあり、今年度の授業でも TOEIC 対策演習も取り入れる予定である。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

柏原 俊樹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な[やや難しい]リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞にいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。日本語のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないのと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: MUSEUM ENTRANCE
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: CENTRAL PARK
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 1: Larry takes a step backward.
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: MUSEUM
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: PARTY
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 2: Larry falls backwards.
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: MUSEUM
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: Larry flicks the cowboy off.
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 3: Teddy points to the Tablet.
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: CENTRAL PARK
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 4: Larry laughs derisively.
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5: MUSEUM
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 教科書の予習は必須。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

It is necessary to read the textbook beforehand.

Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.

【テキスト（教科書）】

教科書：『映画総合教材「ナイト ミュージアム」』（松柏社）

【参考書】

できれば語源欄のある辞書を使ってください。また、語学習得のかなり発展した段階に至るまでは、紙の辞書のほうが学習効果が高いと思われます。

【成績評価の方法と基準】

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30 %）。

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】

積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

梨本 邦直

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

英語の論理構成を学ぶとともに語彙力の増強とと言い換え表現を豊かにする。TED によるプレゼンを視聴して、論理構成を理解する。語彙力を高めるにあたって難度の高い語句について文脈に則した言い換え表現を考える。

At the end of this course, students will be able to:

- read pre-intermediate reading topics based on TED presentations
- understand authentic English of TED presentations
- rephrase new words in plain English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、復習として教科書の問題から指定された部分を授業支援システムに提出する。その提出された復習課題から毎回授業中にフィードバックを行う。Students will be asked to submit online exercise questions of the text each week. The feedback of the exercises to students will be done in class every week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	Introduction
2 回目	Unit 1, Inspired Leadership	Lesson A, Reading skills
3 回目	Unit 1, How to Start a Movement	Lesson B, TED TALK comprehension
4 回目	Unit 2, Trouble for the Air Plants	Lesson A, Reading skills
5 回目	Unit 2, Conserving the Canopy	Lesson B, TED TALK comprehension
6 回目	Unit 3, Big Problems, Simple Solutions	Lesson A, Reading skills
7 回目	Unit 3, A Warm Embrace that Saves Lives	Lesson B, TED TALK comprehension
8 回目	授業内中間テスト	復習中間テスト
9 回目	Unit 4, Is Gaming Good for You?	Lesson A, Reading skills
10 回目	Unit 4, Gaming Can make a Better World	Lesson B, TED TALK comprehension
11 回目	Unit 5, Engaging Learners	Lesson A, Reading skills
12 回目	Unit 5, The Key to Success? Grit	Lesson B, TED TALK comprehension
13 回目	Review of Units 4-5	Rephrasing Keywords
14 回目	授業内期末試験	復習期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Lesson A の Pre-Reading と Developing Reading Skills は予習して授業に臨む。テキスト部分は音読する。Lesson B については、冒頭にある背景説明の序文を読んで準備する。TED のプレゼンは、<https://www.ted.com/> でタイトルを検索して見る。その際、教科書 p.148 以降にある Video Transcripts を参照する。ただし、プレゼンによっては教科書の抜粋よりかなり長い。予習に時間をかけてプレゼンの全体を理解しておくことが望ましい。

Please prepare for the texts and exercises of Lesson A before the class. Reading aloud is essential to improve your English. With regard to Lesson B, read the background information beforehand, and also watch the presentation at the TED site <https://www.ted.com/>. The video transcripts at the end of the textbook p.148 onwards will help you to understand the details of the presentations.

【テキスト（教科書）】

Laurie Blass et al. (2016) 21st Century Reading. National Geographic learning/Cengage Learning

【参考書】

教科書のサイト <https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/video>

TED のサイト <https://www.ted.com/talks>

【成績評価の方法と基準】

Assignments : 40%

Mid-semester test : 30% (reviewing Units 1-3)

End-of-semester exam : 30% (reviewing Units 4-5)

【学生の意見等からの気づき】

言い換え表現が分かりやすく習得できるようにスライドを工夫した。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。2回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインでも併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (1)	仮想現実の世界に関する文章を読み解く
3	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (2)	仮想現実の世界に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit2: The Secret of the Stradivarius (1)	ストラディバリウスの音色に関する文章を読み解く
5	Unit2: The Secret of the Stradivarius (2)	ストラディバリウスの音色に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (1)	海からプラスチックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み解く
7	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (2)	海からプラスチックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (1)	アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み解く
9	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (2)	アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (1)	小テスト⑧ 冥王星への旅に関する文章を読み解く
11	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (2)	冥王星への旅に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit6: Archaeologists, Aliens and Earth (1)	考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み解く
13	Unit6: Archaeologists, Aliens and Earth (2)	考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】

Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (¥1,900)

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %
 学期末課題 20 %
 授業への積極的な参加姿勢 10 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
 指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の書店さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

島田 顕

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりとし身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意識ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにする（英作文問題も含めて）。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson 1	Lesson 1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson 2	Lesson 2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson 3	Lesson 3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第 5 回	Lesson 4	Lesson 4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson 5	Lesson 5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson 6	Lesson 6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson 7	Lesson 7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson 8	Lesson 8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Chapter 9	Chapter 9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson 10	Lesson 10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてて。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくること。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

[One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

【テキスト（教科書）】

テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】

豊永彰『大学生のための英文法ビフォー&アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト

評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

*The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方を速くし、小テスト・提出物の回数を多くする。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小林 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図り、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な英語力の向上を目的とする。また、理工・生命系の分野においては、英語が世界の共通語となっていることを受け、将来の技術者・研究者に求められる、英語での理解力・発信力を培うための授業とする。併せて、英文を楽しんで読む機会を設ける。

【到達目標】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。また、英文を楽しんで読む能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英文の読解を中心にしますが、リスニングや英作文の練習も行います。オンラインで授業を進めますが、リスニング、長文読解を問う課題を提出してもらい、フィードバックを行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業と評価方法についての説明。
第2回	教科書以外の英文	使用するテキストの説明、英和辞典のひき方。
第3回	Unit 1	テキストを読む。
第4回	Unit 1	テキストを読む、品詞の違いなど。
第5回	Unit 2	テキストを読む、自動詞、他動詞の違いなど。
第6回	Unit 2	テキストを読む。
第7回	Unit 3	テキストを読む。
第8回	Unit 3	リスニングの練習、TOEICのための語彙。
第9回	TOEIC 対策	テキストを読む。
第10回	Unit 4	テキストを読む。
第11回	Unit 5	テキストを読む。
第12回	Unit 6	英作文の練習。
第13回	Unit 7	テスト前に質問を受け付ける。
第14回	期末テスト	英文和訳を中心に試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Reading Wonders （金星堂）

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 学期末の試験の点数 (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC への対策も多く行っていきたいと思います。
また、英文を読むばかりでなく、書くこと、聞き取ることも授業で多く行っていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire comprehensive English abilities. At the end of this course, students are expected to read various English writings and have higher listening and writing abilities.

After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

中野 里美

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

At the end of the course, students are expected to improve their English comprehensive skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

By listening to recorded materials about social issues and reading some other news reports, participants will be able to understand, think about or discuss the matters in the world. To begin with, you will be given warm-up handout and then engage in some tasks. Feedback will be conducted in each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and guidance	Students will be known about this course
第 2 回	Knowing about the technology	Civilian Drones
第 3 回	Knowing about the technology	Civilian Drones
第 4 回	Reading skills	Reading while young
第 5 回	Reading skills	Reading while young
第 6 回	Thinking about the future	Intelligent assistance
第 7 回	Thinking about the future	Intelligent assistance
第 8 回	Thinking about ecology	Keeping it clean
第 9 回	Thinking about ecology	Keeping it clean
第 10 回	Let Japan be known	Manners in public
第 11 回	Let Japan be known	Manners in public
第 12 回	Knowing about media Literacy	Which news is fake?
第 13 回	Knowing about media Literacy	Which news is fake?
第 14 回	Review	Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Students will be asked to prepare for texts before and after the class.

【テキスト（教科書）】

handouts to be given

【参考書】

Participants will be given some information in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

理由のない半期の欠席 4 回以上（4 回を含む）で授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの病院の領収書など）などは証明できるものを持参すること。遅刻は授業開始 15 分以降の入室から。3 回目の遅刻を 1 回欠席に換算します。こちらも遅延証明書があれば、当授業内に、持参した場合のみ有効とします。期末テスト 50%、平常点やタスク 50%

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【その他の重要事項】

復習を行うこと。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

川島 多加子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- ・演習形式でリスニングとスピーキングの基礎力を身につける。
- ・350 語レベルの英文の論理構成や文脈を把握しおよその内容が理解できる。
- ・スキミングとスキニングの技法を習得し速読できる。
- ・読んで理解したものを簡潔に説明できる。
- ・100 語レベルの空所補充問題で文法・リーディングを強化できる。
- ・各単元で扱ったテーマに関連した会話文でリスニングを強化できる。
- ・各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・各単元で扱った課題をグループやクラスで討議し理解を深め、問題解決ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、リスニング、スピーキング、語彙や文法項目の確認、英文の内容理解の確認、課題演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。また、学生 1 人ひとりが発言できるように授業を進めるため、毎授業、必ず 1 人 1 回以上は発言する場がある。

・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。課題ペーパーは初稿提出後ピア編集を実施し、共通の問題点は授業内で解説し、弱点強化の演習を行う。最終授業回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験、課題などを含めた総括的講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Course Overview Goal Setting
2 回目	Unit 1	College Sports (present tense)
3 回目	Unit 2	Hip Hop Music (past tense)
4 回目	Paragraph/Essay Writing	Structure of paragraph/essay Explanation of writing assignments
5 回目	Unit 3	Travel (progressive forms)
6 回目	Unit 4	Video Games (perfect tense)
7 回目	Review and Midterm Exam	Review of units 1-4, submission of rough draft, peer editing, test taking
8 回目	Unit 5	Recycling (articles/ pronouns)
9 回目	Common Problems in Writing	Feedback and suggestions on rough draft, practices
10 回目	Unit 6	Fast Food (countable/ uncountable nouns) Submission of final paper
11 回目	Unit 7	Extreme Weather (adjectives/ adverbs)
12 回目	Unit 8	Medical Tourism (comparisons)
13 回目	Mini Presentations	It's a small world.
14 回目	Review and Final Exam	Review of units 5-8, feedback, reflection, test taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味や発音を確認すること。
- ・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・教科書の英語の本文については、必ず、オーディオを聞いて音読すること。

【テキスト（教科書）】

・ジョシュア・コーエン他 3 名、『English Indicator 3 < Intermediate > / 英語総合インディケーター (中級)』、南雲堂、2,000 円 + 税、ISBN: 9784523178347

・関根応之、『A Shorter Course in Better Communication / 5 分間英語コミュニケーション』、南雲堂、700 円 + 税、ISBN: 9784523172673

・教員作成ハンドアウト配布予定

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

- ・到達度チェックテスト 60% (30% × 2 回)
- ・課題ペーパー 30%
- ・クラス内課題取り組み状況 10%

※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2% 減、遅刻 1 回につき 1% 減とする。

※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。

※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人材育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

【Outline (in English)】

The class is a combined skills course integrating acquisition of and improving on all four skill areas of English: listening, speaking, reading and writing. The thematic, integrated curriculum provides the students with a balanced approach to learning English authentic literature, informational texts, vocabulary development, and systematic skill and grammar instruction.

By the end of the course, students will be able to 1) heighten their awareness of correct usage of English grammar in writing and speaking, 2) listen to and understand short conversations, 3) develop reading skills and reading speed, 4) expand their vocabulary through university texts, 5) develop abilities as critical thinkers and readers, and 6) write a paragraph.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (10%), writing assignments (30%), midterm and final exams (60%).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

島田 顕

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりとし身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意識ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにする（英作文問題も含めて）。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson 1	Lesson 1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson 2	Lesson 2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson 3	Lesson 3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第 5 回	Lesson 4	Lesson 4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson 5	Lesson 5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson 6	Lesson 6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson 7	Lesson 7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson 8	Lesson 8 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Lesson 9	Lesson 9 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson 10	Lesson 10 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてて。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくこと。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

[One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

【テキスト（教科書）】

テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】

豊永彰『大学生のための英文法ビフォー&アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト

評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

*The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小屋 多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられたライティング力の向上を目的とする。ライティングは高校までの授業で最も学習する機会が少ないにも関わらず、大学以降ますます要求される重要な技能である。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、日本人学習者のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。

【到達目標】

- 1) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認し、正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
- 2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に付けられる。
- 3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
- 4) 2 年次に履修するアカデミック・ライティングの準備として、まとまりのある文章が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の 6 つである。

- 1) warming-up activity: 先週の復習をする。
- 2) 文法・基本例文をおさらいする。
- 3) 音読・リスニングにより学習ポイントを確認する。
- 4) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
- 5) 日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
- 6) 正確な文法に支えられた文をもとに、英語でまとまった文章を書く。
・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力チェック。
2 回目	Introduction	英語力チェック
3 回目	Unit 1 主語の選択	Unusual Weather
4 回目	Unit 2 名詞 (1)	Terrorism
5 回目	Unit 3 名詞 (2)	Vacation Abroad
6 回目	Unit 4 代名詞	Fame and Fortune
7 回目	Unit 5 冠詞	Hosting the Olympics
8 回目	Review	中間試験
9 回目	エッセイを書いてみよう (1)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
10 回目	Unit 6 形容詞 (1)	Convenient Gadgets and Sustainable Lifestyles
11 回目	Unit 8 副詞	Still Addicted to Junk Food
12 回目	Unit 9 比較	A Graying Society
13 回目	Review	期末試験
14 回目	エッセイを書いてみよう (2)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
- ・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
- ・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

【テキスト（教科書）】

Writing Updates - A Grammar-based Approach to English Writing -
『今を表現する英文ライティング入門』
木塚 晴夫/ノースリッジ・ロジャー著
金星堂

【参考書】

必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題・小テスト 30%
中間テスト 35%
学期末試験 35%

【学生の意見等からの気づき】

次の 4 点に留意する。

- 1) 一つ一つの活動には明確な目的や意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
- 2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、授業内容や進度に関して柔軟に対応する。
- 3) わかりやすく見やすい提示を心がける。
- 4) 質問しやすい環境と時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する際は前もって連絡する。

【その他の重要事項】

- ・ 5 回欠席した時点で単位取得不可となる。
- ・ 遅刻・中抜け・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

【Outline (in English)】

Course outline:

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Learning objectives:

The goals of this course are to review correct grammar, usages and collocations, understand the differences between Japanese and English ideas and express them effectively in English.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework, clarify what they haven't understood and resolve it through independent study.

Grading Criteria:

In-class activities, homework and quizzes (30%), mid-term exam (35%), and final exam (35%)

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

井上 敏郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	D V D を使ったのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
5	D V D を使ったのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
6	D V D を使ったのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
7	D V D を使ったのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
14	前期の授業内容の確認 前期試験	前期試験に向けての説明 学力の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 易しい英語の本を 1 冊読む。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

【学生の意見等からの気づき】

前回の確認をしっかり行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるようなので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

The goal of this course is to understand English without translating.

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

RYAN HARTLEY

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

例 1:Every three weeks, students will complete a research project. Two on a science topic and two on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

例 2:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 3:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher.

例 4:At the end of each project 'cycle', students will present their research in small groups using poster or computer aids.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming what issues you are interested in in science.
第 2 回	Reading and discussion	In this class you will practice reading and discussing a text on your first science issue.
第 3 回	Listening and discussion	In this class you will practice listening and discussing a text on your first science issue.
第 4 回	Issue 1 - Presentation	In this class you will be presenting on your first science issue.
第 5 回	Reading and discussion	In this class you will practice reading and discussing a text on your second science issue.
第 6 回	Listening and discussion	In this class you will practice listening and discussing a text on your second science issue.
第 7 回	Issue 2 - Presentation	In this class you will be presenting on your second science issue.
第 8 回	Second half semester goal setting	In this class we will be brainstorming what issues you are interested in in engineering.
第 9 回	Reading and discussion	In this class you will practice reading and discussing a text on your first engineering issue.
第 10 回	Listening and discussion	In this class you will practice listening and discussing a text on your first engineering issue.
第 11 回	Issue 3 - Presentation	In this class you will be presenting on your first engineering issue.

第 12 回	Reading and discussion	In this class you will practice reading and discussing a text on your second engineering issue.
第 13 回	Listening and discussion	In this class you will practice listening and discussing a text on your second engineering issue.
第 14 回	Issue 4 - Presentation	In this class you will be presenting on your second engineering issue.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

【テキスト（教科書）】

Texts and online materials provided in class.

【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 4 x project presentations (20% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】 This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Class Outline

例 1:This course introduces English communication to students.

例 2:The aim of this course is to help students acquire listening and reading skills in order to communicate ideas in discussion and presentation forms.

例 3:This course deals with real life science and engineering topics that will form the basis of students English learning.

例 4:The course will be divided into two halves - first science topics, second engineering topics. Each half will consist of two projects, ending in a presentation.

到達目標（Learning Objectives）

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 4 x project presentations (20% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

Students will develop and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a variety of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English and be able to express themselves more fluently and confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The development and practice of useful grammar, vocabulary, pronunciation and functional language will be a regular feature of the course. Pair work and small group work will be emphasized. English will be used as the medium for instruction at all times.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction & Explanation	Students will receive a self-introduction by the teacher. Students will have a chance to ask questions and introduce themselves to their classmates.
2	Unit 1A My interests	Vocabulary: Interests Speaking: Ask and talk about interests Grammar: Present of 'be'
3	Unit 1B My interests	Speaking: Ask for repetition; ask for someone to speak more slowly Listening: About a party Pronunciation: Intonation of yes/no and Wh-questions
4	Unit 1C My interests	Vocabulary: Sports and exercise Grammar: Simple present Speaking: Ask and talk about sports and exercise habits
5	Unit 1D My interests	Reading: a blog post Speaking: Talk about free-time activities Writing: Write about your interests
6	Unit 2A Descriptions	UNIT 1 QUIZ Vocabulary: Personality adjectives Grammar: What... like? Speaking: Ask and talk about people's personalities
7	Unit 2B Descriptions	Speaking: Say you think something is or isn't true Listening: People's personalities Pronunciation: 'Is he' or 'Is she'

8	Unit 2C Descriptions Unit 2D Descriptions	Vocabulary: Appearance Grammar: What...look like? Speaking: Ask and talk about people's appearance Reading: Online profiles Listening: An online profile Writing: Write a description of yourself UNIT 2 QUIZ Vocabulary: Weather Grammar: adverbs of intensity; quantifiers with verbs Listening: The weather in different cities Speaking: Talk about the weather and seasons Speaking: Ask for and give an opinion Listening: A good time to visit places
9	Unit 3A Rain or shine	Vocabulary: Indoor activities Grammar: would like + infinitive Pronunciation: Reduction of 'would you' Speaking: Talk about what you would like to do Reading: Where would you like to go? Speaking: A Place I'd Like to Visit UNIT 3 QUIZ Final paper examination: UNITS 1, 2, 3
10	Unit 3B Rain or shine	
11	Unit 3C Rain or shine	
12	Unit 3D Review for final examination	
13	FINAL EXAMINATION (paper test)	
14	FINAL EXAMINATION (speaking test)	5 to 6-minute speaking test in pairs

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd Edition) by Jack C. Richards and David Bohlke (Published by Cambridge)
ISBN: 9781108575867

【参考書】

Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd Edition) http://fourcornersowbs.cambridge.org/product_groups/landing
An English-Japanese dictionary will be useful.
A good online English-Japanese dictionary can be found here: <http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes) 20%
Homework assignments (textbook, writing & online workbook) 20%
Quizzes (Units 1, 2, 3) 20%
Final examination (paper) (Units 1, 2, 3) 20%
Final examination (speaking) (Units 1, 2, 3) 20%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Students will develop and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a variety of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English and be able to express themselves more fluently and confidently.

The development and practice of useful grammar, vocabulary, pronunciation and functional language will be a regular feature of the course. Pair work and small group work will be emphasized. English will be used as the medium for instruction at all times.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes) 20%

Homework assignments (textbook, writing & online workbook) 20%

Quizzes (Units 1, 2, 3) 20%

Final examination (paper) (Units 1, 2, 3) 20%

Final examination (speaking) (Units 1, 2, 3) 20%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

バリー ヘイタ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

- i)Increasing general proficiency in understanding English texts.
- ii)More refined comprehension skills for listening to and reciting from English texts.

【到達目標】

- i)Greater development of lexical,logical,and grammatical expression in English
- ii)More refinement in the strategies and analytical methods employed in Comprehensive English I.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course incorporates collaborative learning through practical problem solving. Students study in pairs to accomplish various tasks related to the grammar and vocabulary used in the unit text, give cooperative blackboard presentations of the task results, recite individually the content of both tasks and texts, complete personal assignments, and receive direct in-class consultations with the instructor. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Events,Happenings,Processes and Directions	Language Focus: Verbs, Adjectives & Adverbs within descriptive sentences of events
Class 2	Cultural Directions and Natural Happenings	Reading Practice: Process Descriptive Paragraphs/Titles; Adjectives & Adverbs; Transitions.
Class 3	Cultural Directions & Instructions	Reading Practice: Reordering Sentences/Process Description;Titles; Transitions & Conjunctions
Class 4	Review: Instruction and Event Process Descriptions	Reading Practice: Sentence Re-ordering/ Transition Usage;Combining Graphic & Written Information
Class 5	Actions:To Do/ Not to Do;Taken/ Avoided	Reading Practice: Negative/Positive Instructions;Sentence Re-ordering;Adverb/Adjective Discrimination;Verb Synonyms.
Class 6	Close Shaves/ Averting an Accident.	Reading Practice: Verbs/Adverbs/Adjectives/Conjunctions; Sentence Re-Ordering; Title Affixing.
Class 7	Process Description Conformity	Language Focus: Uniformity of Verb Forms & Transition Expressions.
Class 8	Review: A Highway Happening & Street Directions.	Reading Practice: Conjunctions/ Adverbs/Transitions; Situations/Circumstances.
Class 9	Circumstances, States, and Conditions.	Language Focus :Basic Verb and Grammatical Forms; Adjective/Adverb & Noun/ Verb Corelation.
Class 10	The Red Planet: Possible Past, Present & Future.	Reading Practice: Transitions/ Conjunctions/ Adverbial Phrases; Paraphrase Identification; Sentence Re-ordering

Class 11 Distance, Mass And Space

Language Focus: Verb Forms & Definitions;Word Functions; Noun/Adjective Usage; Reading Practice: Sentence Re-Ordering: Conjunctions/ Transitions.

Class 12 Settling On Mars.

Reading Practice: Question Formation; How/ What & Process/ Fact Relations; Adding Appropriate Details; Identifying Major Process Stages; Synonymous Adjectives/ Adverbs; ReOrdering sentences. Reading Practice: Logical Phrasal Connections/ Conjunctions; Reordering Sentences/ Paragraph Cohesion; Conjunctions/ Transitions.

Class 13 Landing On Mars

Reading Practice: Paragraph Reordering/ Text Cohesion; Process Step Identification; Process Step Nouns; Synonymous Nouns; 'How' Questions/ Answers.

Class 14 A Successful Mars Mission.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】 Work not finished in class time will be given for completion as homework. Absence from a class does not excuse a student from doing assignments or covering class work missed. Photocopies of any assignments will not be accepted as the original work of the student presenting such.

【テキスト（教科書）】

Course materials for each session and module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】

Topics in English 1 @ Longman Asia Limited,1994

【成績評価の方法と基準】

Students are expected both to study sincerely and to make a valuable and positive contribution to the class. Accordingly, students disinclined, asleep, chattering, or otherwise engaged will be considered disruptive. Grades are based on collaborative module tests(65%), assignments(20%), and class contribution(15%).

【学生の意見等からの気づき】

More intensive practice in the oral skills of pronunciation and intonation essential for reciting paragraphs within a text.

【学生が準備すべき機器他】

Cassette Tape or CD Player.

【その他の重要事項】

Forgotten or lost materials will be replaced by the instructor only once for each student at the start of any class.In all other cases students are required to supply their own replacements. Also,photocopies of assignments will not be accepted.

【Caution】

Changes to the schedule may be made in accordance with the general proficiency and progress level in the class.

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English proficiently. Therefore this course emphasizes the further development of basic, comprehensive skills and knowledge as well as the ability to apply these. As in the previous semester, a variety of effective approaches will be used to improve both understanding and communicative competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

柏原 俊樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な

【やや難しい】リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。日本語

のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいといえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: GEORGE'S GARAGE
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: GEORGE'S SHACK
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: ALYSSA'S HOUSE
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: GEORGE'S GARAGE
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: DAVID DOKOS' HOUSE
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 10: GEORGE'S SHACK
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 10: GEORGE'S HOUSE
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 11: ROBIN'S KITCHEN
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 11: GEORGE'S HOUSE
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 12: GEORGE'S GARAGE
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 12: GEORGE'S HOUSE
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 13: COLLEEN'S FAMILY ROOM
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 教科書の予習は必須。リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

It is necessary to read the textbook beforehand.

Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.

【テキスト（教科書）】

教科書：『映画シナリオ「海辺の家」』（英宝社）

【参考書】

できれば語源欄のある辞書を使ってください。また、語学習得のかなり発展した段階に至るまでは、紙の辞書のほうが学習効果が高いと思われます。

【成績評価の方法と基準】

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30 %）。

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】

積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.

Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge and aims at the comprehensive development of the reading, writing, listening and speaking skills. To give and take information in English, we will practice various expressions through pair/group sessions and build comprehensive and practical language ability.

【到達目標】

Our goal is to get the ability to comprehend and communicate in English in the science and engineering fields. Let's try to widen your English expression through pair- or group work in the class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

You will be given handouts of conversation skits or short articles for Reading practices. You will make interviews and reports through pair/group work during class sessions and submit the report on the given topic. The reports and assignments will be given back in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	How Do You Spend Money?	Talking about buying habit, comparing goods
2	Express Yourself	Review of the expression in the previous class and listening practice.
3	What Did You Do?	Talking about vacation and trips
4	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice,
5	Life's experiences and Personal History	Talking about experiences, talking about health
6	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
7	Around town and Transportation	Describing location, giving directions
8	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
9	Planning	Talking about future plan
10	Express Yourself	Review of the expressions in the previous class and listening practice.
11	Grammar Review	Review on Basic Grammar
12	Reading session 1	Read a short article and make a summary. Grammar review.
13	Reading session 2	Read a short article and make a summary. Grammar review.
14	学期のまとめ	Review for U.7-12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare for and review class activities for 2 hours for each class. You will be given handouts of given topics. Check the vocabulary and grammar, then practice expressions. Try to think HOW you can give your opinion or information on the given topic.

【テキスト（教科書）】

You will be given handouts.

【参考書】

No reference book is designated.

【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: Class/Homework assignments 70%
(You have to submit reports on interviews, vocabulary quiz or short writings. Your speeches and presentation within the class will also be the

important elements in the assessment.)

Final Report 30%

If you don't attend the class 4 or more times, you will not get the credit. If you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

毎回 Interview & report として作文を提出していただきます。返却されたレポートは必ずチェックされた部分を確認して、訂正箇所など見直してください。疑問点があれば授業後に対応します。ご質問をお待ちしております。

Writing 課題で、結論を急ぎすぎて途中の説明が不十分に終わる例が多くあります。ライティングプランを作る際に、自分で Topic に関する質問を設定し、それに答える形で説明を展開するようにすれば、他者が読んだとき分かりやすい説明文を作っていると思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。

【その他の重要事項】

Carry your dictionary in each class and try to check words you don't know in order to widen your vocabulary.

【Outline (in English)】

Prepare for and review class activities for 2 hours for each class.

You are required to hand in homework assignment or report on class activities (making interviews and reports through pair/group work.)

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

渡邊 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。
構文をしっかりと理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Your Immune Defense System	不定詞について学ぶ。 免疫防御系についての英文を読む。
2	The Earth We Live On	動名詞について学ぶ。 地球の内部についての英文を読む。
3	Science Looks Twice at Twins	分詞について学ぶ。 双子についての英文を読む。
4	Memory Miracles	比較について学ぶ。 記憶力についての英文を読む。
5	Products of the Sea	否定について学ぶ。 海の産物についての英文を読む。
6	If the Oceans Should Die	受動態について学ぶ。 海についての英文を読む。
7	小テスト	重要構文などの確認と 小テストを行う。
8	Moving Continents	関係詞について学ぶ。 大陸移動についての英文を読む。
9	Who Needs Spiders?	接続詞について学ぶ。 クモについての英文を読む。
10	It's the Humidity	仮定法について学ぶ。 湿気についての英文を読む。
11	Blue Babe - a Messenger from the Ice Age	語彙（紛らわしい語）について学ぶ。 氷河時代の野牛の遺骸の発見についての英文を読む。
12	The New Zoo - a Modern Ark	現代の動物園の意義についての英文を読む。
13	Wonderworker - New Drugs	新薬についての英文を読む。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】

The Wonders of Science 科学の世界（成美堂）
A Shorter Course in Usage and Vocabulary ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % レポート課題 40 % 期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

提出課題や質問等から気づいたことを解説に織り込んでいく。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire a rich vocabulary, accurate grammatical knowledge and reading skills.

At the end of the course, students are expected to read a text accurately and quickly.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

バリー ヘイタ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

- i)Increasing general proficiency in understanding English texts.
- ii)More refined comprehension skills for listening to and reciting from English texts.

【到達目標】

- i)Greater development of lexical,logical,and grammatical expression in English
- ii)More refinement in the strategies and analytical methods employed in Comprehensive English I.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course incorporates collaborative learning through practical problem solving. Students study in pairs to accomplish various tasks related to the grammar and vocabulary used in the unit text, give cooperative blackboard presentations of the task results, recite individually the content of both tasks and texts, complete personal assignments, and receive direct in-class consultations with the instructor. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Events,Happenings,Processes and Directions	Language Focus: Verbs, Adjectives & Adverbs within descriptive sentences of events
Class 2	Cultural Directions and Natural Happenings	Reading Practice: Process Descriptive Paragraphs/Titles; Adjectives & Adverbs; Transitions.
Class 3	Cultural Directions & Instructions	Reading Practice: Reordering Sentences/Process Description;Titles; Transitions & Conjunctions
Class 4	Review: Instruction and Event Process Descriptions	Reading Practice: Sentence Re-ordering/ Transition Usage;Combining Graphic & Written Information
Class 5	Actions:To Do/ Not to Do;Taken/ Avoided	Reading Practice: Negative/Positive Instructions;Sentence Re-ordering;Adverb/Adjective Discrimination;Verb Synonyms.
Class 6	Close Shaves/ Averting an Accident.	Reading Practice: Verbs/Adverbs/Adjectives/Conjunctions; Sentence Re-Ordering; Title Affixing.
Class 7	Process Description Conformity	Language Focus: Uniformity of Verb Forms & Transition Expressions.
Class 8	Review: A Highway Happening & Street Directions.	Reading Practice: Conjunctions/ Adverbs/Transitions; Situations/Circumstances.
Class 9	Circumstances, States, and Conditions.	Language Focus :Basic Verb and Grammatical Forms; Adjective/Adverb & Noun/ Verb Corelation.
Class 10	The Red Planet: Possible Past, Present & Future.	Reading Practice: Transitions/ Conjunctions/ Adverbial Phrases; Paraphrase Identification; Sentence Re-ordering

Class 11 Distance, Mass And Space

Language Focus: Verb Forms & Definitions;Word Functions; Noun/Adjective Usage; Reading Practice: Sentence Re-Ordering: Conjunctions/ Transitions.

Class 12 Settling On Mars.

Reading Practice: Question Formation; How/ What & Process/ Fact Relations; Adding Appropriate Details; Identifying Major Process Stages; Synonymous Adjectives/ Adverbs; ReOrdering sentences. Reading Practice: Logical Phrasal Connections/ Conjunctions; Reordering Sentences/ Paragraph Cohesion; Conjunctions/ Transitions.

Class 13 Landing On Mars

Class 14 A Successful Mars Mission.

Reading Practice: Paragraph Reordering/ Text Cohesion; Process Step Identification; Process Step Nouns; Synonymous Nouns; 'How' Questions/ Answers.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】 Work not finished in class time will be given for completion as homework. Absence from a class does not excuse a student from doing assignments or covering class work missed. Photocopies of any assignments will not be accepted as the original work of the student presenting such.

【テキスト（教科書）】

Course materials for each session and module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】

Topics in English 1 @ Longman Asia Limited,1994

【成績評価の方法と基準】

Students are expected both to study sincerely and to make a valuable and positive contribution to the class. Accordingly, students disinclined, asleep, chattering, or otherwise engaged will be considered disruptive. Grades are based on collaborative module tests(65%), assignments(20%), and class contribution(15%).

【学生の意見等からの気づき】

More intensive practice in the oral skills of pronunciation and intonation essential for reciting paragraphs within a text.

【学生が準備すべき機器他】

Cassette Tape or CD Player.

【その他の重要事項】

Forgotten or lost materials will be replaced by the instructor only once for each student at the start of any class.In all other cases students are required to supply their own replacements. Also,photocopies of assignments will not be accepted.

【Caution】

Changes to the schedule may be made in accordance with the general proficiency and progress level in the class.

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English proficiently. Therefore this course emphasizes the further development of basic, comprehensive skills and knowledge as well as the ability to apply these. As in the previous semester, a variety of effective approaches will be used to improve both understanding and communicative competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

花崎 一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学のグローバル化が求められている現在、英語力は異文化間コミュニケーションを円滑に進めるために必要な重要なツールとなっている。そこでより高度な英語力を養成するために本授業では、パラグラフレベルでの読解力を養成し、アカデミックな内容の文章を読みこなせるようになることを目的に、様々な演習を行う。

【到達目標】

アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに沿って学習をすすめる。1回の授業でどのくらい進むかについては、学習支援システムを通して事前にお知らせする予定です。毎回、授業の内容が理解できているかを確認するための小テストを実施する予定です。皆さんの小テストの出来具合を見て、翌週に必要に応じてコメント・解説をしてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Language and mind rethought
2.	Chapter1	Language and mind rethought
3.	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
4.	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
5.	Chapter3	Are there language universals?
6.	Chapter3	Are there language universals?
7.	Chapter4	Is language innate?
8.	Chapter4	Is language innate?
9.	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
10.	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
11.	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
12.	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
13.	Chapter7	Is thought independent of language?
14.	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の内容に関連する予習用課題を授業前に学習する。授業後は、もう一度その課題に取り組み、授業で学習した内容を定着させる。

【テキスト（教科書）】

The Language Myth

Vyvyan Evans 著

Cambridge University Press

アマゾンで電子書籍版が¥2581で

購入可能です。

ペーパーバックは2022年2月7日現在、¥3661となっております。

【参考書】

授業中などに適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題など：50%

期末テスト：50%

【学生の意見等からの気づき】

小テストを多く実施することで、学生の理解度を確認することができたので、今年度も小テストを多く実施し、その結果を授業にフィードバックしたいと考えている。

【その他の重要事項】

①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）

②初回授業で履修上の注意点を詳細に説明するので、必ず参加すること。

コロナの状況次第では、対面式でなくオンライン形式の授業を実施する場合もある。その場合には Hoppii を通して事前に連絡する。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

By the end of the course, students should be able to attain basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

柏原 俊樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語の豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、映画やインタビューを通じた効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

複雑な英文も英文の流れのままに頭の中で自然に区切っていけること、また、ごく普通にしゃべっているネイティブの英語をある程度聞き取れるようになることを目標に学んでいく。

The goals of this class is to get to understand complicated English sentences and to be able to hear normally spoken English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に 3 つの切り口から学んでいく。1 つには、映画の脚本を通じて、日常よく使う表現の習得やわかりにくい内容の理解に取り組む。もう 1 つには、随時実践的な

【やや難しい】リスニングも取り入れる。さらに、日本語になくて、どんな分野であろうと英語を深く理解し使いこなしていくためには必要不可欠な、けれどもあまり学習されていないと思われる、いわゆる冠詞についても継続的に勉強していく。口語的表現、実践的リスニング、冠詞のいずれについても、まだまだ訓練の余地がある領域と思われるため、重点的に取り組みたい。原則いつでも受け入れる質問やリアクション、期限を設けたリアクションペーパーや課題については、できる限り早いタイミングでいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパーなどにおけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたい。ただし、オンライン授業中心となった場合は、冠詞の勉強に特化するかもしれません。冠詞の勉強に関してご承知おきいただきたいことが 2 つあります。日本語

のネイティブも国語のテストで必ず 100 点を取れるわけではないのと同様、英語のネイティブも冠詞についてすべてわかっているわけではないことと、それ故、冠詞の勉強は、大学レベルの学びにふさわしいともいえる、理論の領域に踏み込まざるを得ないことです。理論が正しいか、もっと優れた理論がないかは、現象から検証しつつ、よくよく考えていくほかありません。みなさんと一緒に、理論の深化に取り組みたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 5: Larry points a finger at Octavius.
2	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: LARRY'S APARTMENT
3	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 6: Dexter taunts Larry with the keys.
4	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: MUSEUM ENTRANCE
5	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: Larry and Nick go up the steps to the museum.
6	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 7: Larry consults his wristwatch.
7	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: IN FRONT OF MUSEUM
8	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 8: Attila whimpers and sobs.
9	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: LOADING DOCK PARKING AREA
10	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 9: CENTRAL PARK
11	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 10: LOADING DOCK
12	文法・語法に基づいた内容の理解	Unit 10: Dexter jumps off Teddy.
13	総復習	総復習
14	まとめと理解度確認試験	まとめと理解度確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 教科書の予習は必須。

リスニングについては、聞き取ってみたい材料があれば、ぜひチャレンジしてみてください。短い範囲をできればわかるまで繰り返し聞き、解答を見るのは最後の最後にすると効果的です。解答がない場合は、できる限り答え合わせに協力します。

It is necessary to read the textbook beforehand.

Also try to write down normally spoken English as much as you can. If you don't have the answers, I'll help you.

【テキスト（教科書）】

教科書：『映画総合教材「ナイト ミュージアム」』（松柏社）

【参考書】

できれば語源欄のある辞書を使ってください。また、語学習得のかなり発展した段階に至るまでは、紙の辞書のほうが学習効果が高いと思われます。

【成績評価の方法と基準】

学習したことを身につけているかを試験（学期末試験その他の試験）によって確認する（70 %）。英語を通じた知識の獲得・拡充に努めていることを授業への取り組み態度（積極的な質問・発表・小テスト・レポートなど）で示すことを評価する（30 %）。

70 % of the grade is the results of the tests given you. 30 % is according to your attitude of studying.

【学生の意見等からの気づき】

リスニングの需要が多いことに改めて気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書必携。その他授業中に指示されたものも忘れないようにしてください。

【その他の重要事項】

辞書必携。積極的に発言・質問してください（思い込み歓迎）。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge of the English language, and, based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them.

Based on the needs of students, a variety of effective approaches through things like films and interviews will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

梨本 邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

英語の論理構成を学ぶとともに語彙力の増強とと言い換え表現を豊かにする。TED によるプレゼンを視聴して、論理構成を理解する。語彙力を高めるにあたって難度の高い語句について文脈に則した言い換え表現を考える。

At the end of this course, students will be able to:

- read pre-intermediate reading topics based on TED presentations
- understand authentic English of TED presentations
- rephrase new words in plain English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎週、復習として教科書の問題から指定された部分を授業支援システムに提出する。その提出された復習課題から毎回授業中にフィードバックを行う。Students will be asked to submit online exercise questions of the text each week. The feedback of the exercises to students will be done in class every week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Unit 6, Food Revolution	Lesson A, Reading skills
2 回目	Unit 6, Teach Every Child about Food	Lesson B, TED TALK comprehension
3 回目	Unit 7, Power Poses	Lesson A, Reading skills
4 回目	Unit 7, Your Body Language Shapes Who You Are	Lesson B, TED TALK comprehension
5 回目	Unit 8, Kite Power	Lesson A, Reading skills
6 回目	Unit 8, How I harnessed the Wind	Lesson B, TED TALK comprehension
7 回目	授業内中間テスト	復習テスト
8 回目	Unit 9, Thinking in Pictures	Lesson A, Reading skills
9 回目	Unit 9, Deep Sea Diving in a Wheelchair	Lesson B, TED TALK comprehension
10 回目	Review of Unit 9	Rephrasing Keywords
11 回目	Unit 10, Information is Beautiful	Lesson A, Reading skills
12 回目	Unit 10, The Beauty of Data Visualization	Lesson B, TED TALK comprehension
13 回目	Review of Unit 10	Rephrasing Keywords
14 回目	授業内期末試験	期末復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Lesson A の Pre-Reading と Developing Reading Skills は予習して授業に臨む。テキスト部分は音読する。Lesson B については、冒頭にある背景説明の序文を読んで準備する。TED のプレゼンは、<https://www.ted.com/> でタイトルを検索して見る。その際、教科書 p.148 以降にある Video Transcripts を参照する。ただし、プレゼンによっては教科書の抜粋よりかなり長い。予習に時間をかけてプレゼンの全体を理解しておくことが望ましい。

Please prepare for the texts and exercises of Lesson A before the class. Reading aloud is essential to improve your English. With regard to Lesson B, read the background information beforehand, and also watch the presentation at the TED site <https://www.ted.com/>. The video transcripts at the end of the textbook p.148 onwards will help you to understand the details of the presentations.

【テキスト（教科書）】

Laurie Blass et al. (2016) 21st Century Reading. National Geographic learning/Cengage Learning

【参考書】

教科書のサイト <https://eltngl.com/sites/21st-century-reading/student/book-2/video>
TED のサイト <https://www.ted.com/talks>

【成績評価の方法と基準】

Assignments : 30%

Mid-semester test : 30% (reviewing Units 1-3)

End-of-semester exam : 40% (reviewing Units 4-5)

【学生の意見等からの気づき】

言い換え表現が分かりやすく習得できるようにスライドを工夫した。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LAnE100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。2 回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインでも併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (1)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み解く
3	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (2)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (1)	顔認識システムに関する文章を読み解く
5	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (2)	顔認識システムに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (1)	緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み解く
7	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (2)	緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (1)	海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み解く
9	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (2)	海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)	ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み解く
11	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)(2)	ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit12: Plastic Surgery (1)	美容整形手術に関する文章を読み解く
13	Unit12: Plastic Surgery (2)	美容整形手術に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する

14 授業内学期末課題 今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】

Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (¥1,900)
※教科書販売期間中に必ず購入すること。

【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %
学期末課題 20 %
授業への積極的な参加姿勢 10 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

[Learning Objectives]

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

島田 顕

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりとし身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意識ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにする（英作文問題も含めて）。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson 11	Lesson 11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson 12	Lesson 12 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson 13	Lesson 13 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第 5 回	Lesson 14	Lesson 14 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson 15	Lesson 15 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson 16	Lesson 16 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson 17	Lesson 17 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson 18	Lesson 18 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Lesson 19	Lesson 19 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson 20	Lesson 20 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてて。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくこと。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

[One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

【テキスト（教科書）】

テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】

豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト

評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

*The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

小林 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図り、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な英語力の向上を目的とする。また、理工・生命系の分野においては、英語が世界の共通語となっていることを受け、将来の技術者・研究者に求められる、英語での理解力・発信力を培うための授業とする。併せて、英文を楽しんで読む機会を設ける。

【到達目標】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。また、英文を楽しんで読む能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英文の読解を中心にしますが、リスニングや英作文の練習も行う。オンラインで授業を進めますが、リスニング、長文読解を問う課題を提出してもらい、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書以外の英文を読む。	テキストを読む。
第2回	Unit 8	テキストを読む。
第3回	Unit 9	テキストを読む。
第4回	Unit 10	テキストを読む。
第5回	教科書以外の英文を読む。	テキストを読む。
第6回	Unit 11	長文を聞き取る練習。
第7回	Unit 12	リスニングの練習など。
第8回	TOEIC 対策	テキストを読む。
第9回	Unit 13	テキストを読む。
第10回	教科書以外の英文	英文を読む楽しみを経験する。
第11回	Unit 14	テキストを読む。
第12回	TOEIC 対策	リスニングの練習など。
第13回	Unit 15	試験前に質問を受け付ける。
第14回	期末テスト	英文和訳を中心に試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Reading Wonders （金星堂）

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】学期末の試験の点数（80%）、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

英語に関して、多様な経験を出来るような授業に出来れば、と思っています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire comprehensive English abilities. At the end of this course, students are expected to read various English writings and have higher listening and writing abilities.

After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

中野 里美

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

To become familiar with and practice a range of listening and reading skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will consist of some materials based on topics from the textbook to some handouts. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Knowing about the world issues	Food self-sufficient
第 2 回	Knowing about the world issues	Food self-sufficient
第 3 回	Learning how to be better off	Whose fish?
第 4 回	Learning how to be better off	Whose fish?
第 5 回	Thinking about yourself	English: necessary or not?
第 6 回	Thinking about yourself	English: necessary or not?
第 7 回	Thinking about yourself	Career education
第 8 回	Thinking about yourself	Career education
第 9 回	Expressing opinions	Hours worked
第 10 回	Expressing opinions	Hours worked
第 11 回	Developing a critical awareness	Gender equality
第 12 回	Developing a critical awareness	Where does the stress come from?
第 13 回	Developing a critical awareness	The age of childlessness
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Outside class, you will need to be prepare and review the contents of the text before class, and review the materials given in the class.

【テキスト（教科書）】

handouts to be given

【参考書】

Students will be given some information in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

【評価方法】出席重視。出席の条件（下記の評価基準）を満たした学生を対象にテストを行う。

【評価基準】半期で 4 回以上の欠席をもって評価の対象外とする。遅刻は開始 15 分以降の入室からとし、3 回目の遅刻で 1 回欠席と換算する。早退も遅刻と同じ扱い。期末テスト 50%, 平常点やタスクなど 50%

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

復習を行うこと

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

川島 多加子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- ・演習形式でリスニングとスピーキングの基礎力を身につける。
- ・350 語レベルの英文の論理構成や文脈を把握しおよその内容が理解できる。
- ・スキミングとスキニングの技法を習得し速読できる。
- ・読んで理解したものを簡潔に説明できる。
- ・100 語レベルの空所補充問題で文法・リーディングを強化できる。
- ・各単元で扱ったテーマに関連した会話文でリスニングを強化できる。
- ・各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・各単元で扱った課題をグループやクラスで討議し理解を深め、問題解決ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、リスニング、スピーキング、語彙や文法項目の確認、英文の内容理解の確認、課題演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。また、学生 1 人ひとりが発言できるように授業を進めるため、毎授業、必ず 1 人 1 回以上は発言する場がある。

・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。最終授業回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験、課題などを含めた総括的講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Orientation	Course Overview Goal Setting
2 回目	Unit 9	Advertising (prepositions/ conjunctions)
3 回目	Unit 10	Business Travel (infinitives/ gerunds)
4 回目	Group Presentation Project (GPP)	Explanation of project What's a presentation?
5 回目	Unit 11	E-commerce (auxiliary verbs)
6 回目	Unit 12	Coffee Shop (passive voice)
7 回目	Review and Midterm Exam	Review of units 9-12, test taking
8 回目	Unit 13	Robots (causative verbs)
9 回目	Unit 14	SNS (relatives)
10 回目	Unit 15	Skyscrapers (subjunctives)
11 回目	TED Talks	Video watching, worksheet, rehearsal
12 回目	Group Presentations	Group presentations, peer Feedback
13 回目	Feedback on GPP Current issue	Feedback and practices Discussion
14 回目	Review and Final Exam	Review of units 13-15, reflection, feedback, test taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味や発音を確認すること。
- ・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・教科書の英語の本文については、必ず、オーディオを聞いて音読すること。

【テキスト（教科書）】

・ジョシュア・コーエン他 3 名、『English Indicator 3 < Intermediate > / 英語総合インディケーター（中級）』、南雲堂、2,000 円＋税。ISBN: 9784523178347

・関根広之、『A Shorter Course in Better Communication / 5 分間英語コミュニケーション』、南雲堂、700 円＋税、ISBN: 9784523172673

・教員作成ハンドアウト配布予定

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

- ・到達度チェックテスト 60% （30% × 2 回）
- ・課題発表 30%
- ・クラス内課題取り組み状況 10%

※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2% 減、遅刻 1 回につき 1% 減とする。
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

【Outline (in English)】

The class is a combined skills course integrating acquisition of and improving on all four skill areas of English: listening, speaking, reading and writing. The thematic, integrated curriculum provides the students with a balanced approach to learning English authentic literature, informational texts, vocabulary development, and systematic skill and grammar instruction.

By the end of the course, students will be able to 1) heighten their awareness of correct usage of English grammar in writing and speaking, 2) listen to and understand short conversations, 3) develop reading skills and reading speed, 4) expand their vocabulary through university texts, 5) develop abilities as critical thinkers and readers, and 6) give a group presentation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (10%), presentation project (30%), midterm and final exams (60%).

LANe100LC
コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I
島田 顕
開講時期：秋学期授業/Fall
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

総合的な英語基礎力を養うことが目標である。英国の歴史に関するテキストを用いる。まずテープを何度も聴いて、イントネーションや速さなどのネイティブの発音になれてほしい。そしてテキストを何度も読み、正しく翻訳し、内容を確実に把握し、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現をしっかりとし身につける。さらには英作文、リスニングを中心とした練習問題を通じて、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を会話、作文で自由に使えるようになるように体得する。総じて英語表現力を豊かなものにする。また英国の歴史についてのテキストを用いることから英国の歴史、さらにはヨーロッパの歴史についていくらかでも知ってほしい。

We aim to cultivate comprehensive English basic skills in this lesson. Using texts about History of England, we read the contents, translate, grasp, hold down the expression used in the text and enrich expressiveness by practice questions centered on English composition and listening. Since the theme of text is British history, we must learn the history of Britain, European history and world history, as a sub-theme of this lesson.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な語彙・基礎的な文法の知識の定着を図ると同時に、それに支えられたリスニング力、リーディング力、ライティング力、スピーキング力を向上させるために、具体的にやることは次の通りである。①テキストを何度も声に出して読むこと（授業内では実際に声に出して読んでもらう）。②テープを何度も聞くこと（授業内では最低 2 回は聴く。できれば予復習でも複数回聴いてほしい）。③ネイティブの発音（イントネーション、速さ）になれること（リスニング問題も含めて。何度も聞くことによりなれてくる）。④テキストを正確に翻訳すること（意識ではなくテキストの表現に沿って訳してほしい。予習では日本語訳をノートに書くことをお勧めする。授業中では正しい訳、内容を知り、自分が書いてきたものを訂正する）。⑤テキストの内容を正確に把握すること。⑥テキストの内容を把握したのちに、テキストで使われる単語、熟語、文法、表現を体得すること（会話、作文で使えるようにする。新出単語を含む文章は書き出しておくこと）。⑦英語表現力（英作文）をより豊かなものにする（英作文問題も含めて）。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson 11	Lesson 11 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson 12	Lesson 12 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson 13	Lesson 13 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第 5 回	Lesson 14	Lesson 14 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson 15	Lesson 15 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	小テスト	小テスト 答え合わせ 復習 その他
第 8 回	Lesson 16	Lesson 16 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson 17	Lesson 17 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 10 回	Lesson 18	Lesson 18 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Lesson 19	Lesson 19 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson 20	Lesson 20 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてて。予習は必ずやること。単語調べだけの「予習」は予習にあらず。必ず訳をノートに書いてくこと。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げる。また原則として遅刻は認めない（遅刻は欠席とみなす）。尚、各学期 4 回以上欠席の場合は、期末試験の受験資格を失うものとする。

[One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

【テキスト（教科書）】

テキスト：『Spotlight on Britain イギリスを探る』（南雲堂）

【参考書】

豊永彰『大学生のための英文法ビフォー＆アフター』（南雲堂）：文法の参考書である。
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト

評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

*The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

【学生の意見等からの気づき】

授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

小屋 多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられた更なるライティング力の向上を目的とする。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、学生のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。また、秋学期は特に次年度アカデミック・ライティングの準備も兼ねて、まとまりのある文章を書く練習を行う。

【到達目標】

- 1) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認し、正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
- 2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に着ける。
- 3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
- 4) 正確な文法に支えられた文から文章へと発展させ、まとまりのある文章の書き方を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の 6 つである。

- 1)warming-up activity: 先週の復習をする。
 - 2) 文法・基本例文をおさらいする。
 - 3) 音読・リスニングにより学習ポイントを確認する。
 - 4) 日本人英語学習者のエラーを項目別に再確認する。
 - 5) 日本人英語学習者のエラー項目に注意して英文を書く。
 - 6) トピックに合った文章を書く。
- ・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な授業への参加が基本となる。
- ・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction エッセイを書いてみよう (3)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
2 回目	Unit 10 動詞	Waiting for "Mr. Right"
3 回目	Unit 12 時制	Seeing What Isn't There
4 回目	Unit 13 態	Cybercrime
5 回目	Unit 14 動名詞	Looking for a Job
6 回目	Unit 15 不定詞	To Smoke or Not to Smoke
7 回目	Review	中間試験
8 回目	エッセイを書いてみよう (4)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。
9 回目	Unit 16 接続詞	Cats and Dogs
10 回目	Unit 17 前置詞	World Heritage Sites
11 回目	Unit 18 関係詞	Keeping the Peace
12 回目	Unit 19 仮定法	But for the Distance
13 回目	Review	期末試験
14 回目	エッセイを書いてみよう (5)	これまで確認してきた文法や 1 文レベルの英文をもとに、まとまった英文を書いてみよう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。

- ・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
- ・教科書の一部指定した箇所を予習し、補足プリントをやってみる。

【テキスト（教科書）】

Writing Updates – A Grammar-based Approach to English Writing –
『今を表現する英文ライティング入門』
木塚 晴夫/ノースリッジ・ロジャー著
金星堂

【参考書】

必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題・小テスト 30%

中間テスト 35%

学期末試験 35%

【学生の意見等からの気づき】

次の 4 点に留意する。

- 1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
- 2) 学生の興味や学習の理解度に応じて、授業内容や進度を調整する。
- 3) わかりやすく見やすい提示を心がける。
- 4) 質問しやすい環境と時間を作る。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用することがあるが、その際は前もって連絡する。

【その他の重要事項】

- ・ 5 回欠席した時点で単位取得不可となる。
- ・ 遅刻・中抜け・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

【Outline (in English)】

Course outline:

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Learning objectives:

The goals of this course are to review correct grammar, usages and collocations, understand the differences between Japanese and English ideas and express them effectively in English.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework, clarify what they haven't understood and resolve it through independent study.

Grading Criteria:

In-class activities, homework and quizzes (30%), mid-term exam (35%), and final exam (35%)

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

井上 敏郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめてやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期試験の確認。リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。
2	リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。パートナーとの応答。
3	500 字程度の文章を読む。	訳さずに理解する練習を行う。
4	500 字程度の文章を読む。	パラグラフリーディングと英語によるまとめを行う。
5	1 分ほどのリスニング。	内容理解とまとめを行う。
6	1 分ほどのリスニング。	内容理解と英語によるまとめを行う。
7	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解とまとめ。
8	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解と英語によるまとめ。
9	一日のルーティンのリスニング。	自分の一日を英語で書く。
10	TOEIC によるリスニング。	TOEIC 英語の特徴を掴む。
11	TOEIC によるリーディング。	文法の確認と TOEIC 英語の特徴を掴む。
12	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
13	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
14	秋学期試験。	英語力の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業内で説明するが、日々英語に触れる時間を作ることを望む。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

【学生の意見等からの気づき】

タスクの解答をしっかりと提示することに気をつける。時々早口になるので、それも気をつける。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

The goal of this course is to understand English without translating.

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

RYAN HARTLEY

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

例 1:Every three weeks, students will complete a research project. Two on a science topic and two on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

例 2:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 3:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher.

例 4:At the end of each project 'cycle', students will present their research in small groups using poster or computer aids.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming what issues you are interested in in science.
第 2 回	Reading and discussion	In this class you will practice reading and discussing a text on your first science issue.
第 3 回	Listening and discussion	In this class you will practice listening and discussing a text on your first science issue.
第 4 回	Issue 1 - Presentation	In this class you will be presenting on your first science issue.
第 5 回	Reading and discussion	In this class you will practice reading and discussing a text on your second science issue.
第 6 回	Listening and discussion	In this class you will practice listening and discussing a text on your second science issue.
第 7 回	Issue 2 - Presentation	In this class you will be presenting on your second science issue.
第 8 回	Second half semester goal setting	In this class we will be brainstorming what issues you are interested in in engineering.
第 9 回	Reading and discussion	In this class you will practice reading and discussing a text on your first engineering issue.
第 10 回	Listening and discussion	In this class you will practice listening and discussing a text on your first engineering issue.
第 11 回	Issue 3 - Presentation	In this class you will be presenting on your first engineering issue.

第 12 回	Reading and discussion	In this class you will practice reading and discussing a text on your second engineering issue.
第 13 回	Listening and discussion	In this class you will practice listening and discussing a text on your second engineering issue.
第 14 回	Issue 4 - Presentation	In this class you will be presenting on your second engineering issue.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

【テキスト（教科書）】

Texts and online materials provided in class.

【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 4 x project presentations (20% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Class Outline

例 1:The course introduces English communication to students.

例 2:The aim of this course is to help students acquire listening and reading skills in order to communicate ideas in discussion and presentation forms.

例 3:The course deals with real life science and engineering topics that will form the basis of students English learning.

例 4:The course will be divided into two halves - first science topics, second engineering topics. Each half will consist of two projects, ending in a presentation.

到達目標（Learning Objectives）

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 4 x project presentations (20% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

KOPROWSKI MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

Students will continue to build and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a number of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English, and they will be able to express themselves more fluently and confidently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The development and practice of useful grammar, vocabulary, pronunciation and functional language will be a regular feature of the course. Pair work and small group work will be emphasized. English will be used as the medium for instruction at all times.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	Speaking: Talk about your summer break Check summer homework
2	Unit 4A Life at home	Vocabulary: Things in a home Grammar: How many/much Speaking: Ask and answer questions about your home
3	Unit 4B Life at home	Speaking: Make and agree to requests Pronunciation: Intonation of questions Listening: Friendly requests
4	Unit 4C Life at home	Vocabulary: Household chores Grammar: Separable two-word phrasal verbs Speaking: Talk about household chores
5	Unit 4D Life at home	Reading: "Unusual houses from around the world" Listening: A tour of Graceland Writing: Dream home
6	Unit 5A Health	UNIT 4 QUIZ Vocabulary: Parts of the Body Grammar: Imperatives; adverbs of manner Pronunciation: Reduction of 'and' Speaking: Give and follow instructions
7	Unit 5B Health	Vocabulary: Health problems Listening: What's wrong? Speaking: Say how you feel; wish someone well
8	Unit 5C Health	Vocabulary: Healthy habits Grammar: 'How' questions Speaking: Ask and talk about healthy habits

9	Unit 5D Health	Reading: "Feeling stressed?" Listening: Creative ways to manage stress Writing: Managing stress Speaking: Discuss ways to manage stress
10	Unit 6A What's on TV?	UNIT 5 QUIZ Vocabulary: Types of TV shows Grammar: Verb + infinitive or gerund Speaking: Talk about types of TV shows you like
11	Unit 6B What's on TV?	Speaking: Agree and disagree with an opinion Listening: What to watch on TV
12	Unit 6C What's on TV? Unit 6D What's on TV?	Vocabulary: Television Grammar: Present continuous for future plans Pronunciation: Sentence stress Speaking: Describe future plans Reading: Reality Shows Listening: Favorite Shows Back Home
13	FINAL EXAMINATION (paper test)	UNIT 4, 5, 6
14	FINAL EXAMINATION (speaking test)	Final paper examination: UNITS 4, 5, 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd edition) by Jack C. Richards and David Bohlke (Published by Cambridge) ISBN: 9781108575867

【参考書】

Four Corners Level 2A Online Workbook Level 2A (2nd edition) http://fourcornersowbs.cambridge.org/product_groups/landing
An English-Japanese dictionary will be useful.
A good online English-Japanese dictionary can be found here: <http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes) 20%
Homework assignments (textbook, online workbook & writing) 20%
Quizzes (Units 4, 5) 20%
Final examination (paper) (Units 4, 5, 6) 20%
Final examination (speaking) (Units 4, 5, 6) 20%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Students will continue to build and practice speaking, listening, reading and writing English communication skills through a number of everyday topics. By the end of the course, students will feel more comfortable using general English, and they will be able to express themselves more fluently and confidently.

Students will also receive individual written feedback and error correction on writing assignments.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes) 20%

Homework assignments (textbook, online workbook & writing) 20%

Quizzes (Units 4, 5) 20%

Final examination (paper) (Units 4, 5, 6) 20%

Final examination (speaking) (Units 4, 5, 6) 20%

PHL100LC

哲学入門

沖本 龍哉

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

17 世紀のフランスの思想家パスカル（1623-1662）の『パンセ』を参考にしながら、人間とは何か、人生とは何か、といった問いについて、哲学的に考える。また、ただ考えるだけでなく、自分の人生に役立つ知恵を得ることを目的に、さまざまなテーマについて学ぶ。

【到達目標】

授業で学ぶ各テーマについて、

- ・パスカルはどのように考えていたか
- ・パスカルの考えについて自分はどう思うか
- ・自分の思ったことを人生にどのように活かせるか

以上の3つの観点から考察して、毎回コメントを書くことにより、自分の思ったことを他の人にも分かりやすく、正確な文章で伝えられるようになることが、授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマの主旨を説明した後で、考察を深めるために、テーマに関する学生のコメントを読み上げて紹介する、という方法をとる。そのため、自分の書いた文章が他の人にどのように伝わるかという点に配慮することで、テーマの理解力だけでなく、表現力も身につくように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか
第 2 回	「死」について考える①	テーマの主旨を説明
第 3 回	「死」について考える②	コメントの紹介
第 4 回	「死」について考える③	コメントの続きとまとめ
第 5 回	「幸せ」について考える①	テーマの主旨を説明
第 6 回	「幸せ」について考える②	コメントの紹介
第 7 回	「幸せ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第 8 回	「習慣」について考える①	テーマの主旨を説明
第 9 回	「習慣」について考える②	コメントの紹介
第 10 回	「習慣」について考える③	コメントの続きとまとめ
第 11 回	「イメージ」について考える①	テーマの主旨を説明
第 12 回	「イメージ」について考える②	コメントの紹介
第 13 回	「イメージ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第 14 回	まとめ	この授業で何を学んだか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題として、コメントを書くときは、誰かの文章を手本にするのではなく、自分なりによく考えて、工夫して表現すること。

【テキスト（教科書）】

各テーマを説明するときに、資料を用意する。

【参考書】

- ・パスカル『パンセ』前田陽一・由木康〔訳〕中公新書、1973 年。
- ・パスカル『パンセ』塩川徹也〔訳〕、岩波文庫（全3巻）、2015 年。
- ・『哲学の歴史 第5巻 デカルト革命』小林道夫〔編〕中央公論新社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

この授業は、平常点のみで評価するため、毎回の授業に参加する姿勢が評価の対象となる。欠席は3回まで可とする。毎回のコメントは、長文を書く必要はないが、自分の考えがしっかりと書かれているかどうかを評価のポイントとする。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生のコメントをよく聞くことで、テーマの理解が深まり、授業が面白くなります。

【Outline (in English)】

This course gives the basic knowledge of philosophical thinking by reading the text *Pensées* of Blaise Pascal (1623- 1662). The objective is to help the students acquire the "wisdom" for their own lives by means of Pascal's philosophical view of humanity and of the world. Final grade will be determined by the total amount of minute papers students submit every week. More than three absences can result in failure of the course.

PHL100LC

哲学入門

沖本 龍哉

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

17 世紀のフランスの思想家パスカル（1623-1662）の『パンセ』を参考にしながら、人間とは何か、人生とは何か、といった問いについて、哲学的に考える。また、ただ考えるだけでなく、自分の人生に役立つ知恵を得ることを目的に、さまざまなテーマについて学ぶ。

【到達目標】

授業で学ぶ各テーマについて、

- ・パスカルはどのように考えていたか
- ・パスカルの考えについて自分はどう思うか
- ・自分の思ったことを人生にどのように活かせるか

以上の3つの観点から考察して、毎回コメントを書くことにより、自分の思ったことを他の人にも分かりやすく、正確な文章で伝えられるようになることが、授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、各テーマの主旨を説明した後で、考察を深めるために、テーマに関する学生のコメントを読み上げて紹介する、という方法をとる。そのため、自分の書いた文章が他の人にどのように伝わるかという点に配慮することで、テーマの理解力だけでなく、表現力も身につくように授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか
第 2 回	「死」について考える①	テーマの主旨を説明
第 3 回	「死」について考える②	コメントの紹介
第 4 回	「死」について考える③	コメントの続きとまとめ
第 5 回	「幸せ」について考える①	テーマの主旨を説明
第 6 回	「幸せ」について考える②	コメントの紹介
第 7 回	「幸せ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第 8 回	「習慣」について考える①	テーマの主旨を説明
第 9 回	「習慣」について考える②	コメントの紹介
第 10 回	「習慣」について考える③	コメントの続きとまとめ
第 11 回	「イメージ」について考える①	テーマの主旨を説明
第 12 回	「イメージ」について考える②	コメントの紹介
第 13 回	「イメージ」について考える③	コメントの続きとまとめ
第 14 回	まとめ	この授業で何を学んだか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題として、コメントを書くときは、誰かの文章を手本にするのではなく、自分なりによく考えて、工夫して表現すること。

【テキスト（教科書）】

各テーマを説明するときに、資料を用意する。

【参考書】

- ・パスカル『パンセ』前田陽一・由木康〔訳〕中公新書、1973 年。
- ・パスカル『パンセ』塩川徹也〔訳〕、岩波文庫（全3巻）、2015 年。
- ・『哲学の歴史 第5巻 デカルト革命』小林道夫〔編〕中央公論新社、2007 年。

【成績評価の方法と基準】

この授業は、平常点のみで評価するため、毎回の授業に参加する姿勢が評価の対象となる。欠席は3回まで可とする。毎回のコメントは、長文を書く必要はないが、自分の考えがしっかりと書かれているかどうかを評価のポイントとする。

【学生の意見等からの気づき】

他の学生のコメントをよく聞くことで、テーマの理解が深まり、授業が面白くなります。

【Outline (in English)】

This course gives the basic knowledge of philosophical thinking by reading the text *Pensées* of Blaise Pascal (1623- 1662). The objective is to help the students acquire the "wisdom" for their own lives by means of Pascal's philosophical view of humanity and of the world. Final grade will be determined by the total amount of minute papers students submit every week. More than three absences can result in failure of the course.

PHL100LC

哲学入門

美頭 千不美

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の学問の伝統において、哲学は諸学の基礎に位置づけられる。ではなぜ諸学問の基礎に哲学が位置づけられるのか。哲学とは何をする学問的営為であるのか。ここでは、哲学にこれまで触れたことのない受講生を対象に、学としての哲学の本質を初級者向けに解説しながら、哲学史の流れに沿って哲学の概論を講ずる。併せて、哲学用語の基礎的な理解を目指す。

【到達目標】

西洋哲学以外の学問分野（たとえば宗教学、芸術学、社会学、歴史学等）との関連づけもはかりながら、古代ギリシア以来の哲学思想を西洋哲学史の流れに沿って近代の入り口まで紹介するので、自分が既に習得しているさまざまな知識とうまく関係づけながら、哲学の歴史の主流とそこで問題となる基本用語を習得すること、それが学習到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 本授業は講義形態の授業であるため、プレゼンテーション等の実践的な演習は一切なく、毎回の授業を通じて受講生に求められるのは、大事なことをひたすら聴き取り学び取る力である。
 - しかしその一方で、授業は、教師と受講生とが時間と場を共有し、互いに学び高め合って成果を得るべき場でもあるため、毎回の授業を通じて当然生じる受講生の自由な思いや意見・質問を、積極的に受けつける。したがって、従来の教場での授業である場合は、毎回配布する出席カードの裏に、授業の感想や質問・意見などを自由に書き込めるようにする。そして、次の回の最初に時間を設け、受講生全員と共有できる内容にまとめて受講生の意見・質問を一つのトピックとして取り上げ、授業内容に活かして次の展開へとつなげるつもりである。
 - また、授業後をオフィス・アワーとし、意見・質問など用のある学生が直接私に口頭でそれを伝えられるよう取り計らう。
 - 詳しくは初回のガイダンスおよび第1回の授業の折に説明する。
- * なお、状況に応じて2021年度同様のオンライン授業に切り替える必要が生じた場合、本授業においてはZoomによる授業は行わず、資料配信型のオンデマンド授業にする予定である。その場合、毎回の平常点・出席点と期末テストは学習支援システムを通じて行ない、お喋りや質問・意見交換などはGmailなどを通じて行なうことにする。いずれにせよ、詳細については初回のガイダンスおよび第1回の授業で知らせることになる。学習支援システム内の「お知らせ」欄に告知することもあるので、学期期間中は注意されたし。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	ガイダンス：講義内容概観、評価方法	西洋の学問的伝統において諸学の基礎と目される「哲学」の特性について。また、古代ギリシアから中世、ルネサンス、近代に至る西洋哲学思想の流れを大まかに辿る。なお、この初回ガイダンスの折に、評価方法の概略を受講生に伝える。

第02回	哲学とは何か：理性をよりどころとする真理の探究、近代日本における「哲学」の導入	哲学において重視される「理性」とは何でありうるかについて、「ロゴス」を参照しながらその重要な意味について解説する。また、「ピロソピアー」に「哲学」の訳語を与えた西周（にし あまね）についても触れる。
第03回	古代ギリシア（1）：ソクラテス以前①：自然哲学	自然哲学。タレス。アナクシマン。ドロス。ヘラクレイトス。ピュタゴラス。デモクリトス。
第04回	古代ギリシア（2）：ソクラテス以前②：ソフィスト	ソフィスト。プロタゴラス。
第05回	古代ギリシア（3）：ソクラテス	ソクラテス概説。無知の知。己の魂の世話。
第06回	古代ギリシア（4）：プラトン①	プラトン概説。イデア論。
第07回	古代ギリシア（5）：プラトン②	プラトンの世界観。想起説。政治思想。
第08回	古代ギリシア（6）：アリストテレス①	アリストテレス概説。形相と質料の形而上学。
第09回	古代ギリシア（7）：アリストテレス②	アリストテレスの倫理・政治思想。
第10回	ヘレニズム期：ストア派とエピクロス派	ヘレニズム期概説。ストア派の世界観と倫理思想。エピクロスの快楽主義。
第11回	西洋中世とルネサンス：スコラ哲学、ルネサンス期の思想家	中世：スコラ哲学、トマス・アキナス。 ルネサンス：古代ギリシア・ローマの文芸復興、ヒューマニズム、ピコ・デラ・ミランドラ。
第12回	ルネサンスから近代へ：宗教改革、モラリスト	宗教改革：ルター、信仰義認、聖書中心主義。カルヴァン、予定説、職業召命観、マックス・ヴェーバー。 モラリスト：モンテーニュ、パスカル、デカルト。カントの倫理思想。
第13回	西洋近代の思想：ベーコン、デカルト、ホッブズ、ロック	フランシス・ベーコン：「知は力なり」、イドラ説、帰納法。 デカルト：良識、方法的懐疑、「我思うゆえに我あり」、演繹法。精神と物体の二元論。 ホッブズ：自然状態、「万人の万人に対する戦い」、「自然権」、社会契約。 ロック：経験論、「タブラ・ラサ」、信託。
第14回	授業時間内期末試験	習得度を確認するための筆記試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする。
- 高等学校で「倫理」を履修した者は、「高校倫理」の復習をする。
- 授業開始以前にしておかなければならない指定された準備学習は特になし。但し、授業終了後は、毎回の授業の復習を各自きちんとこなし、質問があれば質問をし、授業中に適宜紹介される参考文献に当たるなどして授業内容の理解に積極的に努めること。そうしないと、哲学・思想の歴史的流れを踏まえながら、その基本用語の意味を理解し、実際にそれを使いこなせるようにはならない。

【テキスト（教科書）】

教科書の指定はなし。教材・参考資料は随時プリント配布する。

【参考書】

教場にて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（30 点～50 点程度）と期末試験（70 点～50 点程度）とにより総合的に評価する（100 点満点）。
- 詳しくは初回のガイダンスの折に説明するので、受講希望者は初回のガイダンスに出席されたし。
- なお、期末試験で最低ラインの点数に満たないと、全回出席カードを提出して出席点・平常点が満点であったとしても、単位取得のために求められる基礎学力が決定的に不足しているとみなし、評価を「不可」とするなど、独自の評価基準を定めているため、注意が必要である。

【学生の意見等からの気づき】

- ①講義後半の近代の内容をもう少し充実させる。
- ②あまり早口でまくしたてないよう、話し方に注意をする。
- ③書画カメラ上での画面の見せ方、板書の仕方をもう少し工夫する。
- ④講義内容全体の展開を各回吟味し直し、講義の完成度を高める。
- ⑤受講生の反応や理解度に注意を払う。

【Outline (in English)】

- Course outline : In the Western academic tradition, philosophy is positioned as the foundation of various studies. So why is philosophy positioned as the foundation of academics? What is an academic act of doing philosophy? Here, we will explain the essence of philosophy as academic for elementary students for students who have never mentioned before in philosophy, and will give an overview of philosophy along the trend of philosophical history. At the same time, we aim at the fundamental understanding of philosophical terms.
- Grading criteria : class participation (30-50 points) and final exam (70-50 points). Full attendance does not guarantee a credit. More details will be explained in the first week of the class.

LNG100LC

言語学概論

小屋 多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーパスとは「電子化された言語資料」であり、コンピュータの発達により 1960 年代に世界初のコーパス（ブラウンコーパス）が登場して以来様々なコーパスが世界中で編纂されている。その結果、コーパスを用いて、英語の様々な特徴を極めて短時間で科学的・客観的に調査することが可能になった。

本授業では、コーパスに関する基本的知識（定義、歴史、種類）やコーパスの具体的な使用方法を学習した上で、実際に分析調査を行うことを目的とする。この授業を通して、各研究領域にコーパスによる分析手法を活用し、より深い学びや研究に寄与できるようにする。

【到達目標】

- 1) コーパスに関する基礎知識（定義、歴史、種類、問題点）を理解できる。
- 2) コンコルダンスを使用したコーパスの基本的な分析・処理方法を理解できる。
- 3) オリジナルパイロットスタディを実施し、考察できる。
- 4) ワードやエクセルの使い方・レポートの書き方を理解し、最終レポートを完成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式ではなく、実際に各自で調査・実践する授業形式でをとる。1回の授業は次の手順で行う。

- 1) 復習クイズ
- 2) 前回の課題に対するフィードバック
- 3) 今日のポイント解説
- 4) 実践

- 1) は、学習支援システムのテスト機能を使って行う。各自が前回学んだ内容を確認し、また欠席してしまった学生にとっては、前回やった内容を簡単に理解した上で、その日の授業に臨めるようにする。
- 2) のフィードバックは、学生が行った課題の良い例や修正すべき例、間違えやすい例を提示し、解説することによって、さらなる理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	言語を科学するとは？
2	コーパス言語学とは何か コーパス言語学の歴史概観	コーパス言語学とは？ コーパスの種類とは？ コーパスの問題点とは？ 1960 年代からの 4 つの代表的なコーパスとは？ 1990 年代以降からのコーパスとは？
3	コーパスに関する実践・研究例 (1)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
4	コーパスに関する実践・研究例 (2)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
5	コーパスに関する実践・研究例 (3)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
6	コーパスに関する実践・研究例 (4)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう
7	コーパスに関する実践・研究例 (5)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう。レポートにまとめてみよう。
8	コーパスに関する実践・研究例 (6)	解析ソフトを使って実際に分析してみよう。レポートにまとめてみよう。
9	コーパス作成 (1)	自作のコーパスを作ってみよう
10	コーパス作成 (2) コーパスを利用したパイロットスタディ (1)	作成した自作のコーパスを使ってオリジナルな視点から分析してみよう
11	コーパスを利用したパイロットスタディ (2)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
12	コーパスを利用したパイロットスタディ (3)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
13	コーパスを利用したパイロットスタディ (4)	オリジナルな視点からコーパスを使って分析してみよう
14	まとめと評価	レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

前の授業でわからなかった個所を明確にしておく。

授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業時に資料を配布します

【参考書】

石川慎一郎 (2012) 『ベーシックコーパス言語学』 東京：ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 40%

最終レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

次の点に留意する。

- 1) 一つ一つの活動には明確な目的・意図があるが、学生がそれを十分に理解した上で実行できるように分かりやすく説明する。
- 2) 学生の興味や学習の理解度に応じ、いくつか選択肢を用意することによって、各自のニーズに応えられるようにする。
- 3) コンピュータの使い方が苦手な受講者をサポートする。

【学生が準備すべき機器他】

マルチメディア教室のパソコンを使用して授業を行う予定であるが、自分のパソコンを使用しても良い。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces students to language corpora as a resource for linguistic analysis. Students will learn the central concepts of corpus linguistics and some basic skills necessary in conducting a corpus investigation, find out how corpora are influencing recent trends in linguistic research, and have opportunity to apply corpus-based methods in their own work.

Learning objectives:

The goals of this course are to understand basic knowledge about corpora, learn ways of basic processing of corpora using an analysis tool and conduct an original pilot study.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class.

Grading Criteria:

In-class activities and assignments (40%), and project and paper (60%)

LNG100LC

言語学概論

梨本 邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人は言語という直線的な音・記号の連続によって世界を理解し、考えを表現する。連続する音や記号で伝えたい意味を伝達するとはどのようなシステムなのだろうか。この最も基本的な疑問に答えていくのが言語学概論の目的である。

【到達目標】

上記の目的に向けて、音声学、音韻論、形態論、統語論の基本形式を理解する。意味論においては語の意味だけでなく、文法機能と構文の意味について階層構造を考察する。

At the end of this course, students will be able to:

- understand the basics of phonetics, phonology, morphology, and syntax with particular emphasis on determining the Japanese phonemes and basic sentence structures
- understand grammatical categories and their meanings in the framework of the three levels of the sentence structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主として講義形式であるが、理解を助けるために簡単な演習を授業中に行う。教科書の該当箇所を授業後に学習支援システムに載せるスライド資料を参考に復習する。理解確認のため、学習支援システムで毎回復習テストまたは課題を提出を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	言語研究とは	言語学の領域
2	音声学	調音音声学 母音、子音 国際音声字母 IPA
3	音声学	音響音声学 スペクトラム分析
4	音韻論	音素とその数
5	音韻論	モーラ、音節、アクセント
6	構造言語学	ソシユールの考えと構造主義
7	統語論	構成素分析
8	統語論	チョムスキーの生成文法
9	統語論	文法機能と意味1
10	統語論	文法機能と意味2
11	構文意味論	英語の統語構造
12	構文意味論	SVOO の文型と There is 構文
13	構文意味論	日本語の文構造
14	まとめ	主語優勢言語と主題優勢言語 日本語の文型

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

The PDF slides of the lecture will be posted on LMS (Hoppii) after each class. Students should review the lecture using both the slides and the textbook. Then answer the weekly questions through the test function of LMS.

【テキスト（教科書）】

風間喜代三、上野善道、松村一登、町田健『言語学 第2版』東京大学出版（2004 年）

【参考書】

Crystal, David. (2010) The Cambridge Encyclopedia of Language, CUP
他に必要があれば授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

Tests and Assignments: 50%

End-of-semester Exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

これまでは言語学の基礎知識習得を目指したが、今季からテーマを絞った。後半は新たに文法と意味の関係を扱う。

【Outline (in English)】

Humans understand phenomena and express ideas by means of language which is a linear representation of sounds and words. What is the system of communication by which a meaning is conveyed in a series of sounds and language signs? The aim of this class is to answer this fundamental question by learning basic theories of phonetics, phonology, syntax, and semantics.

HIS100LC

日本文化論

横山 泰子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

【到達目標】

世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけではなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	「鬼滅の刃」について 娯楽の対象としての妖怪 鬼について	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	信仰の対象としての妖怪 アマビエの正体	神秘的な存在は、恐怖されるのみならず、崇拜され信仰されることがある。そのメカニズムを考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
8	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
9	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術などに学びながら、自分たちで妖怪を創造しててみる
12	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
13	近代科学と妖怪 寺田寅彦について	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題（ネット等を使った調べ学習）など 1時間程度

【テキスト（教科書）】

教科書を使用する予定はありません。

【参考書】

参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

調べ学習の課題が楽しかったという意見があったので、今年度も取り入れたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

月曜日4時限目をオフィスアワーとします。研究室は W1004 です。

また、いそぎの質問等は

yyoko@hosei.ac.jp

にメールで御願います。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society. After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has been built in Japan. Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in this class will be decided on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC

日本文化論

谷村 玲子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代は“Pax Tokugawa”とも呼ばれる、平和で豊かな時代である。本来は戦国者である「武士」は平和を維持する為政者として、二六〇年という長い時をいかに生きたのであろうか。本授業においては、武家思想のみならず武士の具体的な衣食住から、江戸時代の武士の在り方を学ぶ。武士を核とした授業であるが、おのずから江戸時代における武士と町人との違いも明らかとなる。ある程度具体的な知識を得た後、学期の後半では赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げる。この授業を通じて、学生一人一人が江戸時代に興味を持つと共に、日本人の精神性について考えてもらいたい。

【到達目標】

明治以降の日本人に期待される行動様式は、しばしば「サムライ」と表現される。サムライ（武士）の歴史を理解した上で、江戸時代の武士の文化と精神性を学ぶ。その上で、現代の我々にとって「日本人の理想像とは何か」を考える。思想的な問題にとどまらず、授業中の視覚資料から、江戸時代の生活・文化を広く知ることができ、また日本の伝統文化に触れることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方と方法：大学の判断に従い、原則は対面授業である。対面授業が出来ない場合は、オンライン授業とする。毎回授業内で資料を手渡すが、万一後者の授業の場合は、資料は事前に送信する。できるだけパワーポイントや動画の視聴覚資料を用いて、学生が広く関心を持てるようにする。

前半と後半でそれぞれ授業内完成小作文（感想）を出させる。授業内提出物に関しては、一週間前までの授業内で予告する。提出物から学生の理解が難しかった内容は、次回で再度取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また小作文での興味深い内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバスの内容の確認と、授業で扱うテーマについてのアンケート調査。
2	武士道とは	明治に書かれた新渡戸稲造の「武士道」と、江戸時代の武士道の在り方との相違を考える。
3	戦国者から為政者へ。	慶長二〇年（1615）「武家諸法度」に見る戦国者からの脱皮。徳川政権における政治思想＝儒学とは。
4	参勤交代と武士の生活	幕藩体制の中の武士。江戸城の中の大名。さらに大名に仕える武士の知行と扶持。
5	江戸時代の経済	知行と扶持とは。現実の武士の生活をその石高から考える。
6	大火後の江戸の町	江戸の華（大火）と街並みの変化。江戸の居住空間を知る。
7	武家と町人	井原西鶴「日本永代蔵」を読み、江戸時代の武士と町人の精神性の違いを考える。

8	無事の世の教養	戦国武将に流行した茶の湯は下剋上の芸能である。江戸時代に入り、武士の教養はどのように変化したか。特に参勤交代方で江戸に集まった大名、藩士の生活を芸能から考える。
9	赤穂事件「忠臣蔵」元禄14年（1701）の事件。	「赤穂事件」には、五代将軍綱吉から七石二人扶持の最下位の武士までが関係している。どんな事件だったかを時系列で解説する。
10	元禄15年（1702）の吉良邸への討ち入り。その後の赤穂事件の評価。	討ち入りの夜から朝にかけて、何があったのか。さらに討ち入り直後からの様々な評価から、江戸時代の人々にとって「赤穂事件」とは何だったかを考察する。
11	江戸の教育：藩校と寺子屋	江戸時代の武士と町人の教育の違いを考える。武士（藩士）の通った藩校、また庶民の教育を支えた寺子屋を、俳句や絵から考える。
12	江戸の教育：湯島聖堂と昌平坂学問所。私塾とは。そして江戸時代の女子教育。	幕府の教育機関であった昌平坂学問所。さらに日本特有の「私塾」とは何か。そして江戸時代の女子教育の高さを同時代のイギリスと比べて考察する。
13	「武士の一分」	映画「武士の一分」から、これまでの授業の内容を復習すると共に、日本人にとっての「武士」を考える。
14	江戸の美意識「粋」について。本授業のまとめ。	江戸の美意識「粋」を、武士の有り様と対比する形で考える。その上で本講義のまとめを通して、江戸時代から明治東京への連続性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でその日のテーマに沿った具体的な事項を取り上げ、それに対して学生が気楽にクラス内で発言できる機会を設けたい。また学期中の前半・後半で授業内小作文（感想）を授業中に提出させ、学生の興味を刺激したい。

毎回授業ではその日の内容を記したレジュメと配布資料を配るので、授業の後にも読み返してもらいたい。また参考文献の紹介を通じて、学生の自主的な参加を促したい。例えば第七回、第八回の授業では、武士（武家）をテーマとした江戸時代の文芸作品にも言及したい。現代文を前もって配布するので、予習として読んできて欲しい。またその日の授業内容に応じた参考文献を紹介するので、学生の自主的な参加を促したい。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、特にテキストを準備する必要はない。

【参考書】

参考書については、随時授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価基準】

対面授業の場合は、試験期間中に期末テストを行う。なお授業中の感想は直接は点数に加算しない。

【学生の意見等からの気づき】

江戸時代を様々な面から紹介したいが、情報が広範になりすぎると、学生が理解しにくいことがわかった。その上で視覚教材を大事にしたいと思う。また対面授業中の学生の雑談は、他の学生が大変迷惑に思うことから、厳しく注意していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The Tokugawa regime maintained peace for 260 years. This is called "Pax Tokugawa". The warrior class (samurai) worked as politicians and bureaucrats in this period within a rigid social structure. Bushido was understood as the discipline of samurai's life. This course aims to examine the samurai of the Edo period from the cultural point of view. We will look at the norms of the samurai class including the protocol of high ranked samurai at Edo castle and also the real life of middle and lower ranked samurai, for example food, clothing and so on. We will examine the famous incident known as "Chūshingura", or "the 47 Ronin", in the second half of the class.

Grading Policy

Final grade will be determined by the final exam.

ARSe100LC

アジア文化論

呉 曉林

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はシルクロード関連の世界文化遺産、名所旧跡などの映像資料を題材とし、学生と共にアジア地域の文化交流における人・物の往来・伝播のルートをたどりながら、異なる国と地域の生活習慣、衣食住、宗教と文字の共通性と異質性を再認識、再発見できることを目的とします。

特に漢字文化圏に属する中国、日本、朝鮮半島の交流について考察を行います。

【到達目標】

学生が様々な文化的現象について学習と議論を通して期末個人学習発表会に自ら見解を述べられることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は学習支援システムにアップした授業資料（PPT）の学習、対面（オンラインもある）講義、映像資料の視聴と期末学習発表で構成されます。

NHK スペシャル番組などの映像について種々の文化現象を簡潔に解説します。異文化との交流と文化摩擦の問題について考えます。

映像資料を視聴してメモを取り、期限内に内容の要約や感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：文化とは？ 異文化交流とは？ 考えるポイントを提示します。	映像『縄文遺跡の巨大集落』、『弥生人 DNA で迫る日本人の起源』
第 2 回	世界遺産と中華の源流	映像と解説 NHK スペシャル『中国文明の謎』：二里头遺跡と殷墟（宮廷儀式と漢字の誕生）
第 3 回	世界遺産と中国の世界観	映像と解説 NHK スペシャル『中国文明の謎』：兵马俑・始皇帝と中国の統一
第 4 回	文化の保護・継承と伝播	映像と解説 二つの故宮（北京と台北）とコレクション
第 5 回	日本と中国の文化交流	映像と解説 NHK スペシャル「壁画の旅を行く」「クチャ音楽の旅」
第 6 回	文化交流の壮大なルート：シルクロード、アイアンロードと茶馬古道	解説と映像 陸のシルクロード、中央アジアの製鉄技術と周辺への伝播、お茶と馬の交易ルート
第 7 回	人物と日中文化交流：鑑真和尚と唐招提寺	解説と映像 正倉院コレクション、唐招提寺大改修と新発見
第 8 回	仏教ロード	映像と解説 仏教の誕生と仏教伝来の道（インド・中国・大韓民国）
第 9 回	文化交流と創造：遣唐使・空海と東寺	解説映像 NHK スペシャル空海の留学・人生・宗教観
第 10 回	海のシルクロード：陶磁器の道	解説と映像 NHK スペシャル磁器と韓国・日本・イラン・ドイツ
第 11 回	学習発表と討論	学生が自ら選んだテーマについて 5 分ぐらい発表と議論
第 12 回	学習発表と討論	学生が自ら選んだテーマについて 5 分ぐらい発表と議論
第 13 回	学習発表と討論	学生が自ら選んだテーマについて 5 分ぐらい発表と議論
第 14 回	学習発表と討論	学生が自ら選んだテーマについて 5 分ぐらい発表と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 毎回、授業資料（PPT）の閲読、映像資料を視聴して重要なポイント（事項、年代、人物）などのメモを取り、期限内に内容の要約と感想をワード形式のレポートとして提出してもらいます。

【テキスト（教科書）】

NHK 取材班（2012）『中国文明の謎－中国 4 千年の始まりを旅する』NHK 出版
鈴木薫著（2018）『文字と組織の世界史：新しい「比較文明史」のスケッチ』山川出版社
特に購入することを要求しません。

【参考書】

NHK 取材班（2012）『中夏文明の誕生－持続する中国の源を探る』講談社

【成績評価の方法と基準】

レポートなどの平常点（20 %）、個人学習発表（40 %）、期末レポート（40 %）を合計総合して評価します。

①授業のレポート

②学習発表 PPT

③最終レポート（学習発表 PPT を添削して自分の感想や発見を加え、アジア文化交流の特徴や成果について記述したもの）

注意：期末レポートの提出は最終評価する上で不可欠です。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムの「教材」を読み、学習テーマの予備知識を確認して映像資料の内容の理解に役立てるすること。メモを取る力、要約する力とプレゼンする力の向上を意識してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、また視聴学習の際にメモを取り、授業終了後にレポートを提出してもらいます。

【その他の重要事項】

プロジェクター、DVD を使用する。

【Outline (in English)】

This course focuses on the world cultural heritage and people of Asian countries and discusses cross-cultural exchanges. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Scores will be based on short reports (20%), presentations (40%) and final report (40%).

ARSk100LC

ヨーロッパ・アメリカ文化論

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民や奴隷貿易などの人の移動の結果、米国（アメリカ合衆国）には、世界中の様々な土地にルーツをもつ人々が暮らしています。そのことにともなう文化の多様性や多文化性は米国社会の根幹をなし、そのような社会で人々が互いに、また国家とどのような関係を取り結んできたかは、米国の歴史に一貫するテーマのひとつです。この授業では、米国社会のそのような側面に光をあてて学びます。その際、人種・民族による不平等や差別と、それに対して自由と権利を求める抵抗とのせめぎ合いに着目します。これらは米国の歴史を知るために重要であるだけでなく、私たちが生きている社会について、また世界のあり方について、考える手がかりともなることでしょう。

【到達目標】

- ・多様な人々が暮らす米国の歴史と現状を理解する。
- ・権利や自由、また人種や民族／エスニシティについての理解を深める。
- ・史料の読み方を練習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全般についての説明
2	ヨーロッパ系アメリカ人の歴史と現在（1）	ヨーロッパ系アメリカ人の歴史について学ぶ
3	ヨーロッパ系アメリカ人の歴史と現在（2）	ヨーロッパ系アメリカ人の現在の状況について学ぶ
4	先住民の歴史と現在（1）	先住民の歴史について学ぶ
5	先住民の歴史と現在（2）	先住民の現在の状況について学ぶ
6	アフリカ系アメリカ人の歴史と現在（1）	アフリカ系アメリカ人の歴史について学ぶ
7	アフリカ系アメリカ人の歴史と現在（2）	アフリカ系アメリカ人の現在の状況について学ぶ
8	DVD 鑑賞	授業内容に関連した DVD を鑑賞し、理解を深める
9	ラティーノ／ラティーナの歴史と現在（1）	ラティーノ／ラティーナの歴史について学ぶ
10	ラティーノ／ラティーナの歴史と現在（2）	ラティーノ／ラティーナの現在の状況について学ぶ
11	アジア系アメリカ人の歴史と現在（1）	アジア系アメリカ人の歴史について学ぶ
12	アジア系アメリカ人の歴史と現在（2）	アジア系アメリカ人の現在の状況について学ぶ
13	多文化社会と統合	これまでの授業を、社会統合という観点から総括する
14	まとめと期末試験	これまでの授業を振り返り、期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

基本的に毎回、書籍の一部や新聞記事などを予習教材として配付します。指示されたとおり読んできてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

和田光弘『植民地から建国へ』（岩波新書アメリカ合衆国史（1）、2019 年）
 貴堂嘉之『南北戦争の時代』（岩波新書アメリカ合衆国史（2）、2019 年）
 中野光太郎『20 世紀アメリカの夢』（岩波新書アメリカ合衆国史（3）、2019 年）
 古矢旬『グローバル時代のアメリカ』（岩波新書アメリカ合衆国史（4）、2020 年）
 貴堂嘉之『移民国家アメリカの歴史』（岩波新書、2018 年）
 有賀夏紀・油井大三郎『アメリカの歴史—テーマで読む多文化社会の夢と現実』（有斐閣、2002 年）
 明石紀雄・飯野正子『エスニック・アメリカ—多文化社会における共生の模索 第 3 版』（有斐閣、2011 年）
 ほか、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %

毎回のリアクション・ペーパー 30 %

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

【その他の重要事項】

授業の進み具合や受講生の皆さんからの要望により、シラバスの内容に変更を加えることがあります。

【Outline (in English)】

Since the United States is home to people whose ancestors came from around the world. This lesson will shed light on the racial, ethnic, and cultural diversity in American history. It focuses on racial and ethnic inequality and discrimination, and the numerous acts to change society for the cause of freedom and human rights.

As the students learn the history and current features of the United States, they deepen their understanding of race and ethnicity and of freedom and human rights. They also learn to read historical materials, both texts and statistical data.

The students are expected to read the assigned material before the lecture.

The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and minute papers assigned every week (30%).

ARSi100LC

アフリカ文化論

元木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブサハラ・アフリカの文化や歴史について認識を深める。

【到達目標】

植民地期以降のサブサハラ・アフリカの文学を中心に、映画、音楽等にも触れながら、サブサハラ・アフリカの歴史や文化について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学習支援システムを用いた双方向授業。宗教、歴史などのテーマを設定し、これに対応した文学作品等を検討する。受講者は、掲示板に提示されたさまざまな話題に対して発言し、議論に参加する。受講者の注目すべき発言については授業内で適宜紹介し、さらなる議論に活かす。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介、アフリカ、カリブそして日本	アフリカについて学校教育で学んだことをふり返る
第2回	ウォーレ・ショインカと演劇	ショインカの演劇を通して、神話について考える
第3回	詩の文学運動：ネグリ・チュード	エメ・セゼールとサンゴールの詩を比較する
第4回	自伝的小説：カマラ・ライの『アフリカの子』	植民地期におけるギニアの日常を知る
第5回	民話の想像力：エイモス・チュチュオラの『ヤシ酒飲み』	植民地時代のナイジェリアが民話の枠組みの中でどのように表現されているのかを考える
第6回	歴史の証言：チヌア・アチエベの『崩れゆく絆』	ナイジェリアにおけるキリスト教布教と植民地支配の関係について考える
第7回	独立の光と影：グギ・ワ・ジオンゴの『一粒の麦』	ケニアの独立運動について考える
第8回	アパルトヘイト下の文学：ミリアム・トラウディの『二つの世界のはざま』	アパルトヘイト社会におけるアフリカ人女性の立場について学ぶ
第9回	亡命と文学：ベッシー・ヘッドの『マル』	ボツワナを舞台にしたラブストーリーの成立について考える
第10回	女性の語り：マリア・パーの『かくも長き手紙』	セネガルの結婚制度について考える
第11回	移民の文学：カリクス・ベヤラの『涙、乾くまで』	カメルーン的女性移民の生き方について考える
第12回	内戦の語り：アマドゥ・クルマの『アラーの神にもいわれない』	内戦と少年兵の問題を考える
第13回	作家と政治：ケン・サロウィワの『ナイジェリアの獄中から』	民族・環境問題と作家の社会的使命について考える
第14回	映像と文学：センペス・ウスマンの『モラーデ』	総合討論 映像作品をもとに、西アフリカの女性の伝統と健康について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

授業支援システムの掲示板に示された議題に対して、書き込みをして応答して下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書使用せず

【参考書】

授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % 期末レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業中に受講者がテキストを十分吟味できるよう、時間の配分を工夫します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire better understanding of Modern African literature and cultures.

Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 50%, and in-class contribution: 50%.

HIS100LC

比較文化論

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読み、課題作文等を書く（1時間程度）

【テキスト（教科書）】

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 820円

【参考書】

ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ 2020年

【成績評価の方法と基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

2021年度に教科書として指定した『空気を読んでも従わない』が好評だったので、今回もより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

オフィスアワーは月曜4時限です。研究室は W1004 です。

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp

に御願います。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC

比較文化論

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読み、課題作文等を書く（1時間程度）

【テキスト（教科書）】

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 820円

【参考書】

ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ 2020年

【成績評価の方法と基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

2021年度に教科書として指定した『空気を読んでも従わない』が好評だったので、今回もより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

オフィスアワーは月曜4時限です。研究室は W1004 です。

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp

に御願います。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests 70%

ART100LC

映像芸術

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなものが織り込まれているテキストとしての映画作品は、多様なレクチャー（読み）が可能である。いくつかのレクチャーの方法論を学び、映像芸術としての映画への知識を深めると同時に、理解力を高める。

【到達目標】

映画を見て、内容が面白かった・つまらなかったという「楽しみ」方ばかりでなく、さまざまな基礎知識を学ぶことで、映画の「楽しみ」も味わえるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一作品をとりあげ、テキストとして映画の歴史・撮影・編集技術などさまざまな角度から、他の監督の作品を参考にしながら、読み解いていく。（今回は、マーティン・スコセッシ監督『ヒューゴの不思議な発明』。ジョルジュ・メリエスを扱った作品であり、また初期映画史を知るのに格好の映画である。とはいえ、じっくり見ていくと列車のテーマ、さまざまな「引用」「モンタージュ」なども多く、映画的に「楽しめる」作品となっている。）授業内に質問し、ブログに投稿してもらい、次週までに回答と解説を行う春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について（必ず出席のこと）
2	スコセッシ監督について	オタッキーなマーティン・スコセッシ監督と『ヒューゴの不思議な発明』
3	映像の誕生	はじめに光（リュミエール）ありき
4	映画の黎明期	ジョルジュ・メリエスの再評価
5	映像技術の進歩	フィルムからデジタルそして3Dへ
6	ストーリーの成立	最後にバキューン！ エドウィン・S・ポーター監督『大列車強盗』
7	映画と「おいかげ」	⑦「おいかげ」ロイド、チャプリン、バスター・キートン（『キートンの大列車強盗』『探偵学入門』）
8	モンタージュ	「高速モンタージュ」は疲れます（アベル・ガンス監督『鉄路の白薔薇』『ナボレオン』ほか）
9	引用	「引用」大好き！ デ・パルマ監督（コンチャロフスキー監督『暴走機関車』と『ミッション・インポッシブルI』）
10	引用とモンタージュ	引用とモンタージュといえばゴダール（『映画史』『さらば、愛の言葉よ』）
11	映画における列車	今でもやっぱり列車映画（トニー・スコット監督『アンストッパブル』）
12	ボリウッド	今映画といえばボリウッド！（シャンカール監督『ロボット』）
13	テスト	映像を見ながらテストを行います
14	テストの答え合わせ	テストの答え合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】映画館・レンタルショップ・WEB・TVなどで多くの作品に接してください

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%

レポート20%

授業内送付20%により評価。

【学生の意見等からの気づき】

ありません

【Outline (in English)】

By learning many views for the movie as texture, to have deeper understanding of the movie.

Your overall grade in the class will be decided based on the following criteria: Term-end examination (60%), Short reports(20%), in-class contribution(20%).

ART100LC

映像芸術

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなものが織り込まれているテキストとしての映画作品は、多様なレクチャー（読み）が可能である。いくつかのレクチャーの方法論を学び、映像芸術としての映画への知識を深めると同時に、理解力を高める。

【到達目標】

映画を見て、内容が面白かった・つまらなかったという「楽しみ」方ばかりでなく、さまざまな基礎知識を学ぶことで、映画的「楽しみ」も味わえるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

一作品をとりあげ、テキストとして映画の歴史・撮影・編集技術などさまざまな角度から、他の監督の作品を参考にしながら、読み解いていく。（今回は、マーティン・スコセッシ監督『ヒューゴの不思議な発明』。ジョルジュ・メリエスを扱った作品であり、また初期映画史を知るのに格好の映画である。とはいえ、じっくり見ていくと列車のテーマ、さまざまな「引用」「モンタージュ」なども多く、映画的に「楽しめる」作品となっている。）授業内に質問し、ブログに投稿してもらい、次週までに回答と解説を行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について (必ず出席のこと)
2	スコセッシ監督について	オタッキーなマーティン・スコセッシ監督と『ヒューゴの不思議な発明』
3	映像の誕生	はじめに光（リュミエール）ありき
4	映画の黎明期	ジョルジュ・メリエスの再評価
5	映像技術の進歩	フィルムからデジタルそして3Dへ
6	ストーリーの成立	最後にバキューン！ エドウィン・S・ポーター監督『大列車強盗』
7	映画と「おいかけ」	⑦「おいかけ」ロイド、チャプリン、バスター・キートン（『キートンの大列車強盗』『探偵学入門』）
8	モンタージュ	「高速モンタージュ」は疲れます（アベル・ガンス監督『鉄路の白薔薇』『ナボレオン』ほか）
9	引用	「引用」大好き！ デ・パルマ監督（コンチャ・ロフスキー監督『暴走機関車』と『ミッション・インポッシブル1』）
10	引用とモンタージュ	引用とモンタージュといえばゴダール（『映画史』『さらば、愛の言葉よ』）
11	映画における列車1	今でもやっぱり列車映画（トニー・スコット監督『アンストッパブル』）
12	ハリウッド	今映画といえばハリウッド！（ジャン・カール監督『ロボット』）
13	テスト	映像を見ながらテストを行います
14	テストの答え合わせ	テストの答え合わせ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】映画館・レンタルショップ・WEB・TVなどで多くの作品に接してください

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。

【参考書】

特にありません

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%

レポート20%

授業内送付20%により評価。

【学生の意見等からの気づき】

ありません

【Outline (in English)】

By learning many views for the movie as texture, to have deeper understanding of the movie.

Your overall grade in the class will be decided based on the following criteria: Term-end examination (60%), Short reports(20%), in-class contribution(20%).

ART100LC

音楽芸術

竹内 誠

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ、音楽を好むのでしょうか？
 多くの人に好まれる音楽は、どのような特徴があるのでしょうか？
 音楽の芸術性は、どのように判断されるのでしょうか？
 音楽を好きな人ならば、1度は疑問に思ったことがあるはずです。
 これらの疑問を解き明かすことが、この授業のテーマです。

【到達目標】

西洋の音楽史を一言で言うと、音楽を複雑にした歴史と言えます。これは西洋音楽が、常に新しい表現を求め続けたためです。そして20世紀初頭には、無調音楽を生み出して、表現の限界までに至りました。

音楽の芸術性に関しても、複雑な手法で作られた音楽ほど、芸術性が高いと評価される傾向があります。しかし芸術性の評価は、人それぞれです。

音楽を作る手法、文化的背景、楽器の歴史と進化などを知ることによって、音楽の芸術性を考えられるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回キーワードに基づいたレクチャーを行い、レクチャーに関連する音楽と映像を鑑賞しますが、オンライン授業を余儀なくされた場合は適時対応します。

質問などへの対応は、個人的なものの以外は授業中に行います。

またオンライン授業になった場合は、授業内掲示板で質問などに対応を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 西洋音楽史の概要	授業の進め方と成績評価方法などと、古代ギリシャから始まったとされる西洋音楽史の概要を、授業前の基礎知識として説明します。
2	音楽と記憶	人が音楽を好む理由を、記憶の面から考察します。
3	音階と和音	西洋音楽における音階と和音の変遷と、音楽に与えた影響を考察します。
4	繰り返しの手法	音楽の作られる形式にある、音楽の構造的な周期を解き明かします。
5	クラシック音楽の行き詰まり	複雑化した音楽と無調音楽の特徴と、それが生まれた背景を考察します。
6	黒人音楽の影響	ブルーノートとアフタービートなど、黒人文化が音楽へ与えた影響と、それが生まれた背景を考察します。
7	中南米の音楽	多民族社会から生まれた中南米諸国の音楽的特徴と、それが生まれた背景を考察します。
8	楽器の起源と分類	バイオリン、トランペットなど、現在使われている楽器の起源と発展を学び、人と音楽の関わりを考察します。
9	楽器の発音原理と表現	管楽器、弦楽器、打楽器の仕組みと表現を知り、音楽におけるそれぞれの役割を解き明かします。
10	衰退した楽器とその復刻	リュート、リコーダーなど衰退した楽器と、衰退した楽器が復刻した訳を考察します。
11	電気楽器と電子楽器の発展	電気楽器と電子楽器の発展と、音楽に与えた影響を考察します。
12	音楽とメディア	レコード、映画、放送など、メディアが音楽に与えた影響を考察します。
13	音楽の効果と表現	オペラ、ミュージカルなどの劇音楽の歴史から、音楽の効果と表現を考察します。
14	生活環境と音楽 音楽の芸術性	生活環境の変化による、音楽の聴き方と使われ方の変化を知り、人と音楽の関わりを考察して、音楽の芸術性を探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 現在の私たちの生活は、音楽で満ちあふれています。

その音楽を聞き流すのではなく、表現上の特徴、その場所で使われている理由などを考えてみてください。

また、好きな音楽を聴く時には、自分がなぜその音楽を好むようになったのかを考えてみてください。

授業への理解と興味が、必ず増すはずです。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。

【参考書】

必要に応じて、授業内で指示をします。

【成績評価の方法と基準】

評価はレポートのみで行います。

レポートのタイトルとフォーマットは、授業内で指示をします。

レポートの評価基準は、授業内容と主旨を理解しているかがポイントです。また、授業内で取り上げたキーワードが、レポートに織り込まれていることが重要です。

キーワードが使われていないレポートは、内容に関わらず失格とします。

平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。

オンライン授業となっても、成績評価の方法に変更はありません。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使ったパワーポイントのファイルが欲しいとの要望がありますが、パワーポイントは要点のみに絞ってありますので、配布はいたしません。

出席をしているかどうかは、レポートの内容から授業に参加したかどうかを判断しますので、パワーポイントからの情報ではなく、私の話を聞くことが重要です。

【学生が準備すべき機器他】

学生が授業で準備をする機器などはありませんが、学習支援システムで配布する MuseScore のファイルを使用するためには、PC が必要となります。レポート課題は授業内で説明を行い、レポート作成要旨を授業支援システムで配布します。最終授業でレポートを提出できない場合は、授業支援システムで提出が可能です。

【その他の重要事項】

授業内では、必要に応じて映像や音楽を流します。

この間の教室からの出入りは、他の学生の迷惑となりますので、控えるようお願いします。

【音楽的な知識と能力に関して】

この授業の受講には、音楽の専門的な知識も能力も必要はありません。

楽譜の読めない人や、楽器を演奏したことのない人でも、大部分は理解できる授業内容です。

ある程度、音楽の専門的な話をするもありますが、専門的な内容が理解できなくても、成績評価には全く影響しませんので、安心をして受講してください。

【Outline (in English)】

Why do people like music?

What characteristics do those pieces of music loved by many people have?

How can we judge the value of musical arts?

You may have had such questions once in your lives.

The purpose of this class is to discover the answers to those questions.

Final grade will be determined by the final paper.

ART100LC

音楽芸術

竹内 誠

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人はなぜ、音楽を好むのでしょうか？
 多くの人に好まれる音楽は、どのような特徴があるのでしょうか？
 音楽の芸術性は、どのように判断されるのでしょうか？
 音楽を好きな人ならば、1度は疑問に思ったことがあるはずです。
 これらの疑問を解き明かすことが、この授業のテーマです。

【到達目標】

西洋の音楽史を一言で言うと、音楽を複雑にした歴史と言えます。これは西洋音楽が、常に新しい表現を求め続けたためです。そして20世紀初頭には、無調音楽を生み出して、表現の限界までに至りました。
 音楽の芸術性に関しても、複雑な手法で作られた音楽ほど、芸術性が高いと評価される傾向があります。しかし芸術性の評価は、人それぞれです。
 音楽を作る手法、文化的背景、楽器の歴史と進化などを知ることによって、音楽の芸術性を考えられるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回キーワードに基づいたレクチャーを行い、レクチャーに関連する音楽と映像を鑑賞しますが、オンライン授業を余儀なくされた場合は適時対応します。

質問などへの対応は、個人的なものの以外は授業中に行います。
 またオンライン授業になった場合は、授業内掲示板で質問などに対応を行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス 西洋音楽史の概要	授業の進め方と成績評価方法などと、古代ギリシャから始まったとされる西洋音楽史の概要を、授業前の基礎知識として説明します。
2	音楽と記憶	人が音楽を好む理由を、記憶の面から考察します。
3	音階と和音	西洋音楽における音階と和音の変遷と、音楽に与えた影響を考察します。
4	繰り返しの手法	音楽の作られる形式にある、音楽の構成的な周期を解き明かします。
5	クラシック音楽の行き詰まり	複雑化した音楽と無調音楽の特徴と、それが生まれた背景を考察します。
6	黒人音楽の影響	ブルーノートとアフタービートなど、黒人文化が音楽へ与えた影響と、それが生まれた背景を考察します。
7	中南米の音楽	多民族社会から生まれた中南米諸国の音楽的特徴と、それが生まれた背景を考察します。
8	楽器の起源と分類	バイオリン、トランペットなど、現在使われている楽器の起源と発展を学び、人と音楽の関わりを考察します。
9	楽器の発音原理と表現	管楽器、弦楽器、打楽器の仕組みと表現を知り、音楽におけるそれぞれの役割を解き明かします。
10	衰退した楽器とその復刻	リュート、リコーダーなど衰退した楽器と、衰退した楽器が復刻した訳を考察します。
11	電気楽器と電子楽器の発展	電気楽器と電子楽器の発展と、音楽に与えた影響を考察します。
12	音楽とメディア	レコード、映画、放送など、メディアが音楽に与えた影響を考察します。
13	音楽の効果と表現	オペラ、ミュージカルなどの劇音楽の歴史から、音楽の効果と表現を考察します。
14	生活環境と音楽 音楽の芸術性	生活環境の変化による、音楽の聴き方と使われ方の変化を知り、人と音楽の関わりを考察して、音楽の芸術性を探ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 現在の私たちの生活は、音楽で満ちあふれています。

その音楽を聞き流すのではなく、表現上の特徴、その場所で使われている理由などを考えてみてください。

また、好きな音楽を聴く時には、自分がなぜその音楽を好むようになったのかを考えてみてください。

授業への理解と興味が、必ず増すはずです。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。

【参考書】

必要に応じて、授業内で指示をします。

【成績評価の方法と基準】

評価はレポートのみで行います。
 レポートのタイトルとフォーマットは、授業内で指示をします。
 レポートの評価基準は、授業内容と主旨を理解しているかがポイントです。
 また、授業内で取り上げたキーワードが、レポートに織り込まれていることが重要です。
 キーワードが使われていないレポートは、内容に関わらず失格とします。
 平常評価は、レポートの内容から授業に参加しているかを判断して行います。
 オンライン授業となっても、成績評価の方法に変更はありません。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使ったパワーポイントのファイルが欲しいとの要望がありますが、パワーポイントは要点のみに絞ってありますので、配布はいたしません。
 出席をしているかどうかは、レポートの内容から授業に参加したかどうかを判断しますので、パワーポイントからの情報ではなく、私の話を聞くことが重要です。

【学生が準備すべき機器他】

学生が授業で準備をする機器などはありませんが、学習支援システムで配布する MuseScore のファイルを使用するためには、PC が必要となります。レポート課題は授業内で説明を行い、レポート作成要旨を授業支援システムで配布します。最終授業でレポートを提出できない場合は、授業支援システムで提出が可能です。

【その他の重要事項】

授業内では、必要に応じて映像や音楽を流します。
 この間の教室からの出入りは、他の学生の迷惑となりますので、控えるようお願いをします。

【音楽的な知識と能力に関して】

この授業の受講には、音楽の専門的な知識も能力も必要はありません。
 楽譜の読めない人や、楽器を演奏したことのない人でも、大部分は理解できる授業内容です。
 ある程度、音楽の専門的な話をすることもありますが、専門的な内容が理解できなくても、成績評価には全く影響しませんので、安心をして受講してください。

【Outline (in English)】

Why do people like music?

What characteristics do those pieces of music loved by many people have?

How can we judge the value of musical arts?

You may have had such questions once in your lives.

The purpose of this class is to discover the answers to those questions.

Final grade will be determined by the final paper.

PSY100LC

こころの働き

伊藤 隆一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。
- この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。
- 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
- 成績は、授業中 5 回課すレポートの内容をもとに、算出します。
- 伊藤隆一のメールアドレスは、 momokawa@hosei.ac.jp です。

【到達目標】

さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限 1 週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第 2 回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第 3 回	感覚の種類 (1)	8つの感覚について説明する
第 4 回	感覚の種類 (2)	々 (2)
第 5 回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第 6 回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第 7 回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第 8 回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第 9 回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第 10 回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第 11 回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第 12 回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第 13 回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第 14 回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003 年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業中 5 回課すレポートの内容をもとに、算出する。定期試験は行わない。

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term.

Top point of each report is 20.

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVD を見せることがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term.

Top point of each report is 20.

PSY100LC

パーソナリティ

伊藤 ひろみ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。

- この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
- 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
- 成績は、授業中 5 回程度課すレポートの内容をもとに、算出します。

【到達目標】

「パーソナリティ」「こころの働き」という 2 つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限 1 週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第 2 回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第 3 回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第 4 回	心理学の研究手法	心理学が用いる研究方法について説明する
第 5 回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第 6 回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第 7 回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第 8 回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第 9 回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第 10 回	知能と実際の知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第 11 回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第 12 回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第 13 回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第 14 回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003 年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で 5 回程度レポートを提出してもらう（各 20 点程度）。その成果をもとに成績をつける。定期試験は行わない。

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的に、実践的な授業を行って行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVD を見せることがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests

to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind". Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

LAW100LC

知的所有権

武生 昌士、安田 和史

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法の全体像を把握することを目的とする。特に、エンジニアにとって不可欠な、特許法・著作権法・営業秘密の保護等に関する基礎的な理解を獲得することを目指す。

【到達目標】

知的財産法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後知的財産法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、特許法・著作権法・不正競争防止法等における特定の論点について、関係する条文や概念を十分に理解し、その内容を正確に説明することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の全体像について、重要な論点をピックアップしながら、講義形式で一通り説明していく。担当教員のうち、武生の担当回は教室での対面授業を、安田の担当回はオンライン授業（オンデマンド授業）を予定している。詳細は学習支援システムを通じて改めて案内する。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要（武生）	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	特許法概説（1）（武生）	特許要件など
第3回	特許法概説（2）（武生）	出願・審査手続、職務発明など
第4回	特許出願における特許事務所の役割（安田）	発明の創出から権利化までの具体的説明
第5回	意匠法概説（武生）	意匠法の全体像
第6回	意匠出願と製品デザインの保護（安田）	意匠法活用具体例
第7回	標識法概説（武生）	商標法などの標識法の全体像
第8回	商標出願とブランド・製品名等の保護（安田）	標識法活用具体例
第9回	不正競争防止法概説（武生）	不正競争防止法の全体像
第10回	営業秘密保護の概説（安田）	不正競争防止法による営業秘密の保護の全体像
第11回	不正競争防止法・実務編（安田）	企業活動における不正競争防止法の意義とその実相
第12回	著作権法概説（武生）	著作権法の全体像
第13回	著作権法・実務編（安田）	企業実務における著作権法上の諸問題
第14回	全体の総括・仮想事例の検討（武生・安田）	仮想事例の検討を通じて、講義全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を用意する・インターネットで検索するなどして、知的財産法の条文を常に確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

茶園成樹編『知的財産法入門〔第3版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）。このほか、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験（試験の実施が困難な場合はレポート）を通じて評価する（100%）。詳細は学習支援システム等を通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の受講が可能な環境の整備。Zoomを用いる場合に備え、マイクを用意していることが望ましい。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is grasp the entire structure of Intellectual Property Law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Intellectual Property Law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally 4 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%) / (or Term-end Report (100%)).

LAW100LC

知的所有権

武生 昌士、安田 和史

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法の全体像を把握することを目的とする。特に、エンジニアにとって不可欠な、特許法・著作権法・営業秘密の保護等に関する基礎的な理解を獲得することを目指す。

【到達目標】

知的財産法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後知的財産法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目指す。

より具体的には、特許法・著作権法・不正競争防止法等における特定の論点について、関係する条文や概念を十分に理解し、その内容を正確に説明することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の全体像について、重要な論点をピックアップしながら、講義形式で一通り説明していく。担当教員のうち、武生の担当回は教室での対面授業を、安田の担当回はオンライン授業（オンデマンド授業）を予定している。詳細は学習支援システムを通じて改めて案内する。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等はメール・学習支援システムを通じて随時受け付け、個別に、あるいは次回授業を通じてフィードバックすることとしたい。期末の課題に関しては学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要（武生）	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	特許法概説（1）（武生）	特許要件など
第 3 回	特許法概説（2）（武生）	出願・審査手続、職務発明など
第 4 回	特許出願における特許事務所の役割（安田）	発明の創出から権利化までの具体的説明
第 5 回	意匠法概説（武生）	意匠法の全体像
第 6 回	意匠出願と製品デザインの保護（安田）	意匠法活用具体例
第 7 回	標識法概説（武生）	商標法などの標識法の全体像
第 8 回	商標出願とブランド・製品名等の保護（安田）	標識法活用具体例
第 9 回	不正競争防止法概説（武生）	不正競争防止法の全体像
第 10 回	営業秘密保護の概説（安田）	不正競争防止法による営業秘密の保護の全体像
第 11 回	不正競争防止法・実務編（安田）	企業活動における不正競争防止法の意義とその実相
第 12 回	著作権法概説（武生）	著作権法の全体像
第 13 回	著作権法・実務編（安田）	企業実務における著作権法上の諸問題
第 14 回	全体の総括・仮想事例の検討（武生・安田）	仮想事例の検討を通じて、講義全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料を指定する場合があるので、一読した上で授業に臨むこと。

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を用意する・インターネットで検索するなどして、知的財産法の条文を常に確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

茶園成樹編『知的財産法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、前田健ほか編『図録知的財産法』（弘文堂、2021）。このほか、授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験（試験の実施が困難な場合はレポート）を通じて評価する（100 %）。詳細は学習支援システム等を通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の受講が可能な環境の整備。Zoom を用いる場合に備え、マイクを用意していることが望ましい。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The purpose of this lecture is grasp the entire structure of Intellectual Property Law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Intellectual Property Law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally 4 hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%) / (or Term-end Report (100%)).

CUA100LC

社会科学の方法論

福澤 レベッカ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会科学は日常生活における人間の相互作用のパターンを明らかにするものである。しかし、社会学者はいかにして日常的な文脈から得た情報を社会科学データに変換するのであろうか？ 本コースでは、実際のデータ収集活動や授業内活動を通して、文化人類学における質的研究の基礎について学ぶ。さらに、研究に基づく議論を学び、メディア等で取り上げられる研究を理解し批判的な目で評価するための「調査リテラシー」を身につける。

【到達目標】

社会科学における議論の構造理解と調査法を見につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義も含まれているが、アクティブラーニングを基礎とする授業である。授業において主に、ディスカッション、グループワーク、授業内フィールドワーク体験、映像分析、および論理的議論作業などの活動を行う。提出された課題・クイズ、アクティビティシートについては採点のうえ、返却されます。春学期の授業は、原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	社会科学とは何か？ — 調査方法の紹介	1) 本授業へのオリエンテーション 2) フィールドワークの特徴と方法。 データ収集の困難点。 3) フィールドでのマナーと倫理
2 回	社会科学とは何か？ — 調査方法の紹介	1) 質的なデータと量的なデータ 2) データの意味付け問題 3) 言葉と文化の結合
3 回	調査方法——観察とは何か？	観察する前の「注意事項」 A. 知覚的バイアス（先入観） B. 文化的なバイアス C. 観察のガイドライン
4 回	調査方法——観察方法（実践練習 1）	写真と一コマ漫画を見て、観察練習をする。
5 回	調査方法——観察方法（実践練習 2）	フィールドノートを取りながら、外国の失業式のビデオを見て観察練習する。
6 回	調査方法——インタビューの方法	A. インタビューの目的 B. インタビューのタブ C. 言語とフィールドワーク D. 一般的な質問の仕方議論の応用問題
7 回	調査方法——インタビュー（実践練習）	パートナーをインタビューして、図形式にまとめる。
8 回	調査方法——ビジュアルデータ収集法 1（写真、ビデオ、など）	カメラ/ビデオが広げる可能性。メディアの利点と欠点。
9 回	調査方法——ビジュアルデータ収集法 2（実践練習）	間接的なデータ（メディア）の利用
10 回	論証と社会科学のデータ議論のレッスン # 1	1) 議論モデルと社会科学の研究を比較する。 2) 議論＝論証とは？ 主張と根拠の理解、論証を主張と根拠に分ける。論拠の意味、論拠を推定する。
11 回	議論のレッスン # 2	論拠の意味、論拠を推定する。トウルミンの議論モデル: Data (根拠) + Warrant (論拠) = Claim (主張) を紹介する。
12 回	議論のレッスン # 3	議論の応用問題：様々なデータを分析し、トウルミンの議論モデルを基にして、議論の準備をする。
13 回	議論と調査方法——議論のウソを読み解く	少年犯罪の新聞記事を議論モデルの視点から分析する。
14 回	議論と調査方法——議論のウソを読み解く	ゆとり教育の社会問題を議論モデルの視点から分析する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

特にフィールドワークのインタビューと観察の課題

【テキスト（教科書）】

プリント、と必要に応じて講義中に紹介する

【参考書】

福澤一吉、2002「議論のレッスン」NHK 出版生活人新書
小笠原喜康、2005「議論のウソ」講談社現代新書
佐藤郁也、2006「フィールドワーク増訂版: 書を持って街へよう」新曜社

【成績評価の方法と基準】

平常点とクイズ (50 %)、フィールドワーク課題 (30 %)、期末試験 (20%)

【学生の意見等からの気づき】

毎週の授業内課題をより早く返却する。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

以前に行っていた政府機関の P R 部での仕事の経験は、現在の授業のフィールドワークがビジネスに以下に応用できるかという視点を提供している。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Social science research illuminates patterns within daily human behavior. Yet how do social scientists extract data from the context of daily life to generate insights, hypotheses and generalizations? This course introduces the basics of anthropological, qualitative research through class activities and actual data collection. In addition, it introduces the basic foundations of research in argumentation and develops the research literacy necessary for understanding and critiquing research in the media.

Learning Objectives:

The objective of this course is for students to develop an understanding of and skills in social science research.

Learning activities outside of the classroom:

Students will complete several projects outside of the classroom as well as complete all in-class assignments not finished in class as homework.

Grading Criteria:

In class activities and quizzes (50%), Projects (30%), Final Exam (20%)

ARSI100LC

国際関係論

元木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際関係論の枠組みをふまえて、サブサハラ・アフリカ諸国成立の歴史と現在について考える。

【到達目標】

国際関係論の枠組みを理解し、サブサハラ・アフリカ諸国の歴史と実情について調べ、議論し、認識を深める。また、アジアとアフリカの国際関係について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

マルチメディア教室で授業支援システムを用いた双方向授業。
サブサハラ・アフリカ諸国の歴史と現状について調べ、掲示板上で発表し、議論する。
注目すべき発表などについて授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介	授業の紹介。 国際関係論について、受講者の認識を相互に確認する。
第 2 回	ヨーロッパ主権国家	ヨーロッパ主権国家成立の歴史を概観する。
第 3 回	主権国家システムとアフリカ	主権国家システムを定義する。 アフリカ大陸と三角貿易について調べ、議論する。
第 4 回	近代国際システムにおけるアフリカ	ヨーロッパによるアフリカ大陸の植民地化について調べ、議論する。
第 5 回	両大戦とアフリカ大陸	両大戦とアフリカ大陸との関係について調べ、議論する。
第 6 回	第二次世界大戦後のアフリカ	冷戦体制下のアフリカで、どのように植民地からの解放が目指されたのかを調べ、議論する。
第 7 回	アフリカ独立の年	1960 年のアフリカの年について調べ、議論する。
第 8 回	アフリカ新興独立諸国家の特質	アフリカ独立国家の特質について調べ、議論する。
第 9 回	1980 年代のアフリカ	アフリカ諸国の経済と構造調整政策について調べ、議論する。
第 10 回	冷戦後のアフリカ	冷戦の終結がアフリカ大陸にもたらした変化について調べ、議論する。
第 11 回	1990 年代アフリカの武力紛争	ルワンダ内戦の事例を検討する。
第 12 回	1990 年代南アフリカ	南アフリカの人種隔離政策について調べ、議論する。
第 13 回	地球化時代のアフリカ	今日の国際社会における諸問題（テロリズム、環境、人の移動など）とアフリカ大陸の関係について調べ、議論する。
第 14 回	アフリカとアジア	グローバル化時代におけるアフリカとアジアの国際関係を認識し、将来を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業支援システムの掲示板に示された議題に対して、書き込みをして応答して下さい。

【テキスト（教科書）】

資料適宜配布

【参考書】

適宜指示

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50 %
平常点 50 % として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できる限り、音楽・映像資料などに触れる機会をもうけます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand African nation building in the context of International Relations.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (50%), and in-class contribution(50%).

ECN100LC

基礎経済学

呉 曉林

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として日常生活・家計の管理、また近い将来の就職、仕事などにおいて、経済学的教養と知識は不可欠であります。経済学を勉強したい、または経済や経営のことを知りたいと思っている学生を対象とする入門の授業です。

受講者が講義と読書を通して、限られた資源の効率的配置を考えるミクロ経済学の基本的な命題、一国の経済全体の機能を考えるマクロ経済学の基本的な枠組みを学び、経済学的な物事の考え方を理解できるように進めます。

【到達目標】

受講者が経済学の基本的概念と考え方を習得し、世の中の経済問題や、日ごろの経済記事と経済ニュースを理解できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義と読書を二本柱とします。

講義では経済学の基本原理、ミクロ経済学とマクロ経済学の基本的な概念と考え方を解説し、それを応用して日常生活のなかの経済現象を共に考えていきます。

読書は基礎知識の理解を深めるのに不可欠です。受講者が負担にならないように世界的に読まれている標準的な教科書－マンキュー入門経済学を使用します。毎回、一つのテーマについて前半は講義で基本的な概念と考え方を解説し、後半は選択肢問題、応用問題を解いてもらい、理解を深めるように取り組んでいきます。マンキークラウドキャンパス（イーラーニングサービス）を利用して問題を解いて学習の理解度の向上を図ります。マンキークラウドキャンパスはすべて自動採点テストです。受講はPCだけでなく、スマホやタブレットでも可能で、いつでもどこでも学生はテストを受けることができます。

原則として対面授業（分散登校を含む）を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ経済学が必要なのか？ DVD 経済学のセンスー「サンクス」「機会費用」「比較優位」
第 2 回	経済学の十大原理	経済の根本原理－やる気 DVD「インセンティブ」「モラルハザード」「逆選択」
第 3 回	経済学の十大原理	人と企業を動かす価格の影響力について DVD「価格差別」「裁定」「四人のジレンマ」
第 4 回	市場における需要と供給	市場と競争、需要曲線、供給曲線、均衡価格
第 5 回	需要、供給、および政府の政策	価格規制、税金、弾力性
第 6 回	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性 市場の失敗
第 7 回	外部性	税と効率・公平 外部性と市場の非効率性 外部性に対する公共政策 外部性に対する当事者間による解決方法
第 8 回	Ⅱマクロ経済学 国民所得の測定	経済の所得と支出 国内総生産の測定 GDP の構成要素 実質 GDP と名目 GDP GDP は経済厚生の良い尺度
第 9 回	生計費の測定	消費者物価指数 インフレーション 物価スライド制 実質金利と名目金利
第 10 回	生産と成長	世界各国の経済成長 生産性：その役割と決定要因 経済成長と公共政策 長期的成長の重要性

第 11 回	貯蓄、投資と金融システム	アメリカ経済における金融機関 国民所得勘定における貯蓄と投資 貸付資金市場 貨幣システム
第 12 回	総需要と総供給	経済変動とその現象 短期経済変動の説明 総需要曲線と総供給曲線 経済変動の原因
第 13 回	開放マクロ経済学	財と資本の国際フロー 実質為替相場と名義為替相場 購買力平価
第 14 回	振替レポート	経済学の基本的な考え方や心得について振り替えて記述する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書を通読することを薦めます。授業開始後、イーラーニングの登録を行い、練習問題を解いて学習の理解度を図ってください。

【テキスト（教科書）】

N. グレゴリ・マンキュー／足立英之ほか訳『マンキュー経済学入門第 3 版』（東洋経済新報社）
書籍代が少し高いですが、非常に良質な本です。キーワードは日本語と英語が併記しており、十分に購入する価値があります。

【参考書】

井堀利宏著『大学 4 年間の経済学が 10 時間でざっと学べる』KADOKAWA（2016）
伊藤元重著『入門経済学第 3 版』日本評論社（2009 年）
小塩隆士著『高校生のための経済学入門』ちくま新書、筑摩書房（2002 年）
神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社（2014 年）
飯田泰之著『経済学思考の技術－理論・経済理論・データを使って考える』ダイヤモンド社（2008 年第 10 刷）

【成績評価の方法と基準】

通常の場合は演習課題など（80 %）、期末レポート（20 %）を合点して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

イーラーニングの登録を怠らないでください。授業支援システムで案内する課題の提出期限をきちんと守って、課題を完了しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を持参してください。

【その他の重要事項】

授業中の私語、またスマートフォンによるゲーム遊びなどを禁止

【Outline (in English)】

This course uses N. Gregory Mankiw's textbooks to cover a basic knowledge of microeconomics and macroeconomics. The goal is to understand the ideas and concepts of economics. Grades are based on the quality of the lab report (80%) and the final report at the end of the term (20%).

ECN100LC

応用経済学

明城 聡

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として、統計学や計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。また、EXCEL による基本的なデータ処理の方法も学ぶ。
※本年度は動画配信によるフルオンデマンド形式か、Zoom によるリアルタイム形式かを各自が選んで受講します。どちらも PC 環境を用意してもらうので、詳しくは学習支援システムのお知らせを参照してください。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で EXCEL を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って EXCEL を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点結果を授業にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・仮説検定と有意水準 ・1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・分散分析 ・1 元配置法
12	平均に関する群間比較 (2)	・2 元配置法 ・相互効果
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。

講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

Basic manipulation skill of PCs and MS Excel is required. Students will be required to work on some homework and report assignments.

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題 (30%) と課題レポート (70%)

Homeworks(30%) and final report(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

EXCEL を使った演習を行うので、各自で PC 環境 (Windows 奨励) とネット接続環境を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered. Students also learn basic statistical methods to handle governments statistics, mainly provided as time series and cross section data formats. They also aim at mastering the skill to analyze economic data on the MS Excel.

MAN100LC

企業マネジメント

田名網 尚

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会は多くの企業の様々な活動によって支えられている。この授業の目的は、現代社会における企業の役割を認識するとともに企業活動におけるマネジメントの重要性について理解を深めることにある。なお、企業におけるマネジメントの研究は経営学の分野であるが、経営学だけでなく経済学や法学（特に会社法）などの分野からもアプローチすることにより、社会人になっても役立つような幅広い知識を習得を目指したい。

【到達目標】

企業とは何か、企業活動とは何か、企業を動かすということはどういうことか、など企業について様々な方面から考察し、そこで行われるマネジメント活動を理解することを到達目標とする。具体的には、企業におけるマネジメントの重要性、企業における経営の意思決定、経営組織、人々の働き方やモチベーションなどについての理解することができる。なお、教員は長年にわたり上場企業の役員を務めているので、企業経営における意思決定プロセスももちろんのこと、特に最近議論が高まっているコーポレートガバナンス、企業の社会的責任（CSR）、「環境・社会・ガバナンス」（ESG）、SDGsなど、今日企業が取り組むべき経営課題について企業経営の最前線の視点からの理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面の講義形式の授業とし、授業計画に従って進めていく。授業時には各回のテーマに従って教員作成の資料を配布する。具体的なテーマは、経営学とマネジメント、企業活動と経済、会社の仕組み（会社法）、企業が取り組むべき課題（コーポレートガバナンス・企業の社会的な責任（CSR））、企業会計、マネジメント・リーダーシップ、経営組織論、人的資源管理論、ワークモチベーション・キャリアデザイン、経営戦略論などである。また、理解度を確認するため課題レポートを課したり、授業内で小テスト等を実施する。課題レポートについては次回講義時にレポート作成ののポイントを解説し、小テスト等については模範解答を配布する。なお、授業に関する情報は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに／経営学とマネジメント	本授業を概観するとともに、本授業のテーマである企業におけるマネジメントについて解説する。
第2回	企業の定義と経済の基礎知識	企業とはどのような存在なのかを理解するとともに、企業活動と経済の関係について解説する。
第3回	わが国の企業風土と日本的経営	日本企業の経営の特色、特に「日本的経営」の特徴について解説する。
第4回	株式会社の仕組み ①株式会社の概要 ②機関と取締役等	企業の代表的形態である株式会社と株式会社における機関、取締役等の役員が果たすべき義務とその責任について理解する。
第5回	株式会社の仕組み ③企業が取り組むべき課題	現代企業の課題（コーポレートガバナンス、内部統制、企業の社会的責任（CSR）ESG等）について概観する。
第6回	株式会社の仕組み ④計算	企業活動の成果（経営者の定量的成績評価）である企業業績について理解する。
第7回	企業経営とマネジメント・リーダーシップ	企業活動におけるマネジメントの重要性・リーダーシップの重要性を解説する。
第8回	組織構造のマネジメント	経営学の重要なテーマである経営組織論及び企業の具体的な経営組織を紹介する。
第9回	日本の雇用制度の仕組み～企業と人との関係～	日本企業の人事制度や企業と人との関係について解説する。
第10回	ワークモチベーションとキャリアデザイン	マネジメントの重要な課題であるワークモチベーションと自らキャリアをデザインすることの重要性を認識する。
第11回	企業戦略のマネジメント①～成長戦略～	企業戦略について概観するとともに、成長戦略の理論を紹介する。
第12回	企業戦略のマネジメント②～M&A戦略～	企業戦略の中でも、特に近年、活発に行われているM&A戦略について紹介する。

第13回 起業からIPOへ

我が国の起業の実態や起業の実務等を確認するとともに、成長戦略の一つであるIPO（Initial Public Offering）について紹介する。企業のこれからの課題とそれに対応した経営戦略について考える。

第14回 これからの企業経営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

◆毎回授業終了時に次回の授業内容を紹介し、次回授業のテーマに沿って事前課題を出すので課題に取組んだ上で次回授業に参加すること。
◆また、理解度の確認や授業で得た知識を広げるために、課題レポートの提出を求めたり、小テストを実施することとする。
◆なお、授業では企業に関する今日のテーマも取り上げるので、企業活動に関する新聞、テレビの報道やインターネットの情報などを通じて、企業についての理解を深めることにも取組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業の進捗に合わせて教員作成の資料を適宜配布する。

【参考書】

◆授業全体の基本書として、中山健・丹野勲・宮下清「新時代の経営マネジメント」（創成社、2018）を薦める。他に、吉沢正広編著「実学 企業とマネジメント」（学文社、2018）あるいは十川廣國「経営学入門【第2版】」（中央経済社、2013）なども良い。
◆なお、入門書としては、遠藤功「企業経営の教科書」（日経文庫、2021）が役に立つ。
◆また、授業のテーマに応じた参考書を適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は期末試験の結果をベースに、平常点、課題レポートや小テスト等の状況も踏まえて最終評価とする。
配分は、期末試験＝60％、平常点＝20％、課題レポート・小テスト等＝20％とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎年度履修者が多いため教員からの一方的な講義になりがちであるが、そうならないよう、授業中に簡単なアンケートや小テストを行ったり、授業テーマに関連した課題レポートを課すこと等によって、学生が考える時間をとることで授業への積極的な参加を促していきたい。

【その他の重要事項】

履修者希望者が多数になった場合には、教員が抽選により履修者数を調整する可能性がある。そのため履修希望者は初回授業日に必ず履修登録をして欲しい。

【Outline (in English)】

Modern society is supported by various activities of many companies. The purpose of this lecture is to deepen the understanding of the role of companies in modern society and the importance of management in corporate activities.

Research on management in companies is in the field of business administration, but by approaching not only business administration but also economics and company law, you can acquire a wide range of knowledge that will be useful even if you become a member of society. The grading criteria is as follows.

Final exams (60%) , class participation (20%) , reports and quizzes (20%) .

POL100LC

現代政治学

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

移民から考える「日本」

近代の日本社会はさまざまな地域に多くの移民を送り出し、また多くの人々が移り住んできました。日本への移民は今後ますます増えていくと予想されています。過去も、現在も、「日本は日本人の国」ではないのです。この授業では、明治時代から現在にかけての、日本からの／日本への人の出入りを通じて、日本社会について考えます。

【到達目標】

- ・日本から移民した人々、日本に移民してきた人々の歴史と現状を理解し、日本社会を構成する人々の多様性を知る。
- ・批判的な思考力を身につける。
- ・統計データや歴史的史料の読み方を練習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義が中心ですが、資料を読んだり、映像資料を見たりする時間も取ります。毎回授業後にリアクション・ペーパーを提出してもらい、次の授業でいくつか取り上げてフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業全般について説明する。
2	人の移動と社会・制度	人の移動をめぐる社会のあり方や制度について考える。
3	ハワイ・北米への移民（1）：近代日本と国際移民の始まり	明治時代に始まるハワイ・北米への移民の歴史について考える。
4	ハワイ・北米への移民（2）：戦争、国家、移民	第二次世界大戦中の強制収容とその後を中心に、ハワイ・北米に移民した人々の、移民先での生活について考える。
5	中南米への移民：戦後日本社会と移民	中南米への移民がなぜ、どのような生活になったのか考える。
6	在日コリアン（1）：植民地帝国日本と人の移動	朝鮮半島の人びとが日本社会で暮らすようになった経緯を考える。
7	在日コリアン（2）：戦後日本社会における外国人差別	アジア太平洋戦争後、在日コリアンがどのように暮らしてきたのか考える。
8	DVD 鑑賞	授業に関連する DVD を鑑賞し、理解を深める
9	日系人の「デカセギ」：「外国人労働者受け入れ」の始まり	日系人ブラジル人らの来日・就労の背景を検討する。
10	技能実習制度と「特定技能」制度：外国人「労働者」政策の現在（1）	日本で働く外国人がどのような状況にあるのか、考える。
11	留学生：外国人「労働者」政策の現在（2）	日本の留学生制度の現状を検討し、来日留学生が置かれている状況について考える。
12	難民と日本社会	日本社会での難民受け入れ状況について考える。
13	多文化共生社会	多文化共生社会を模索するための理念について考える。

14 まとめと期末試験 これまでの講義を振り返り、期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】基本的に毎回、書籍の一部や新聞記事などを予習教材として配付します。指示されたとおり読んでください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布します。

【参考書】

随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %

毎回のリアクション・ペーパー 30 %

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい話し方ができるよう留意します。

【その他の重要事項】

授業の進み具合や受講生の皆さんからの要望により、シラバスの内容に変更を加えることがあります。

【Outline (in English)】

Modern Japan has sent many migrants to various regions across the globe. Similarly, many have migrated to and settled in Japan, and the number is expected to increase in the future. In this class, we will discuss the human migration from/to Japan from the Meiji era to the present.

As the students learn how human migration in the past and present have made Japanese society a diverse one, they deepen the understanding of race and ethnicity and of freedom and human rights. They also learn to read historical materials, both texts and statistical data.

The students are expected to read the assigned material before the lecture.

The final grade will be calculated based on the final exam (70%) and minute papers assigned every week (30%)

CAR100LC

キャリアデザイン

斎藤 真一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザインとは、「まず自分自身を理解し、自分の生き方・働き方について、職業のみならず、人生の様々な場面、機会にとらえ直し、今後の方向性を検討したり、自らをデザインしていくこと」である。キャリアデザインを実感、体感をするため、ディスカッションを多く取り入れている。これまでの授業アンケートでは、次のようなコメントが寄せられている。①違う学科の方と話すことができるよい機会があり、社会に対して、同世代がどのような考えを持っているかを知ることできる。他の授業ではあまり意見の交換ができないがこの授業では意見交換ができる点が嬉しい。将来について、今後の生き方について考えさせられるともに、人生について大きなヒントをもらえる。自分自身を客観的に見つめ直す良いきっかけになる。将来のことについて、今何をすべきかを考えるようになる。②自分に求められている意見や率直に感じたことを相手に伝えるように発言するしたり、自分の考えを整理して口に出す練習ができる。③現在、何をしたいかわからない人、将来のことを考えたことがない人、今の自分に自信がない人に勧められる。④他人の価値観や考え方を聞き、取り入れることで自分の考えが深まり、物事の捉え方や視野が広がる。以上のようなことを期待する学生の履修を望む。特に1、2、3年生の履修を期待する。

【到達目標】

キャリアデザインを考える上で、次の3つの視点、1)「自分を知る」、2)「発達課題を考える」、3)「キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る」を通じて、学生自身の考えを構築し、自ら実践できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【対面授業の場合】：授業では講師が作成した資料を配布し、授業を行う。講義はあるが、グループ・ディスカッションが主体の授業になる。グループ・ディスカッション後の「気づき」を大切に。受講者は働く人への「キャリアインタビュー」（第4回に実施要領を説明）を行い、第10回、第11回がその発表となる。受講者数により発表時間は相違し、第12回もキャリアインタビュー（課題）の発表になる場合がある。※毎回の授業後の振り返りとして、「今日の気づきシート」の作成（100字以上250字以内）がある。「学習支援システム」の課題フォルダに「今日の気づきシート」のワード形式のファイルを講師がアップロードし、このファイルを受講者がダウンロード後に記入し、課題フォルダにアップロードする。提出された「今日の気づきシート」には各個人へのフィードバック・コメントを課題への返信として送付する。気づきの多様性や質問等で授業で紹介したほうがよいものは適宜、授業内で紹介する。【オンライン授業の場合（ZOOM使用）】：講師が次の資料を事前にアップロードし、その資料を受講者が毎回の授業前にダウンロードして準備することが必要である（第1回の授業も事前に資料をアップロードするので、ダウンロードが必要）。グループ・ディスカッションはZOOMのブレイクアウトルーム機能を使用する。「今日の気づきシート」の作成、フィードバックは、対面授業と同様となる。その他は対面授業と同じ進め方となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに ～キャリアデザインとは～	・キャリアデザインとは何かを解説する
第2回	自分を知る その1 自分を知る その2	・「3つの問い」を考える ・仕事の価値観とライフスタイルの明確化
第3回	自分を知る その3	・ストレングス・ファインダーのデータから自分を知る
第4回	自分を知る その4 キャリアインタビュー（課題）準備	・キャリアシュミレーション・プログラム（ゲーム）から自分を知る ・第10回の発表に向けて
第5回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える その1	・社会的自立のための課題を考える
第6回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える その2	・情緒的自立のための課題を考える
第7回	キャリアデザインの準備として、発達課題（自立）を考える その3	・経済的自立のための課題を考える

第8回	キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える その1	・男女の考えの違いを考える
第9回	キャリアデザインの準備として、発達課題（両性の在り方）を考える その2	・仕事を持つ男女の生き方、働き方を考える
第10回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その1	・キャリアインタビュー（課題）の発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転職に対する処方
第11回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その2	・キャリアインタビュー（課題）の発表（プレゼン） ・インタビューから見えてくるキャリアの節目、転職に対する処方
第12回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その3	・シュロスバーグの転職に対するアプローチ、ブリッジズのトランジション論、ハンセンの統合的生涯設計
第13回	キャリアデザインの節目に対処するアプローチを知る その4	・クルンボルツの「計画された偶発性」理論
第14回	評価を行う。	授業を通して自らが考えたものを表現したり、学んだものを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2時間を標準とする。毎回の講義で気づく自分自身の考え方を自分なりに整理することが必要である。キャリアインタビューが課題となる。キャリアインタビューは自分の身近な働く人（社会人経験10年以上の方が望ましい。オンラインでのインタビューも可）をインタビューする。第4回の授業でその詳細を説明する。このインタビューを通じて得られるものが多かったというコメントが多くの受講者から寄せられている。

【テキスト（教科書）】

「さあ、才能（自分）に目覚めよう 新版」（トム・ラス著、古屋博子訳／日本経済新聞社／2017年4月刊行の新版の書籍を購入のこと）
・上記書籍を購入すると、インターネットでアクセスし、「自分の強みを探索」することができる。尚、古本ではこのアクセスコードが既に使用されているため、新しい書籍の購入が必要。第3回講義でそのデータを使用するため、第3回講義前に購入し、データを把握しておくことが必要（第1回、第2回講義で詳細を説明）。

【参考書】

「新版キャリアの心理学 第2版」（渡辺三枝子著／ナカニシヤ出版）
・キャリアを考えるための様々なアプローチが紹介されており、これらを知ることで、人生を歩んでいく上での参考となる。

【成績評価の方法と基準】

平常点（「今日の気づきシート」の提出を含む）：35 %
課題評価（キャリアインタビュー：対面もしくはオンラインインタビュー）：35 %
期末試験成績：30 %

【学生の意見等からの気づき】

・グループディスカッションをスムーズにさせるため、初めに自分の意見をまとめる時間を取り、その後にグループディスカッションをしてもらうことにする。
・「この授業を他の人に勧めるとしたら、どんな点か？」という質問に対して多かったコメントは以下の通りである。①自分について知ることができる。②視野が広がる。③グループディスカッションを通じて、他人の色々な意見を知ることができる。

【その他の重要事項】

※毎回のグループ・ディスカッションに参加し、様々な意見があることを実感し、自分の意見を考えることが重要である。これらのことがしっかりできた受講者にとっては期末試験は簡単なものになる。逆に言えば、参加回数が少ない受講者にとって、期末試験は難しいものになる。

【Outline (in English)】

-Outline and objectives-

Career design means, First of all, understand yourself, reconsider your way of life and work not only in your profession but also in various situations and opportunities in your life, consider future directions, and design yourself. Lessons incorporate a lot of discussions in order to experience and feel the career design. In the class questionnaire so far, the following comments have been received. 1. There is a good opportunity to talk with people from different departments, and to know what the same generation thinks about society. I can't exchange opinions very much in other classes, but I'm happy that I can exchange opinions in this class. It makes you think about the future and how to live in the future, and gives you great hints about your life. It's a good opportunity to look at yourself objectively. You can start thinking about what to do now about the future. 2. You can practice to convey your opinions and frank feelings to the other person, and to organize your thoughts and put them out. 3. Recommended for those who do not know what to do now, who have never thought about the future, or who are not confident in themselves. 4. By listening to and incorporating the values and ideas of others, you can deepen your thoughts and broaden your perspective and horizons. The instructor hopes that students who expect the above will take this course. In particular, I expect students to take courses in the 1st, 2nd and 3rd grades.

-Goal-

In thinking about career design, the goal is to be able to build and practice the students' own ideas from the following three perspectives. 1) Know yourself, 2) Think about developmental tasks, 3) Know the approach to deal with career design milestones.

-Method(s)-

[In the case of face-to-face lessons]: In the lessons, materials created by the instructor will be distributed and the lessons will be held. There are lectures, but the lessons are mainly group discussions. It is important "awareness" after group discussions. Participants should conduct a "Career Interview" with workers (explaining the implementation procedure in the 4th session), and Participants should make a presentation in the 10th and 11th sessions. The presentation time varies depending on the number of participants. If the presentation time will not enough time both the 10th and 11th sessions, the 12th session will be added. * As a reflection after each lesson, there is the creation of "Today's Awareness Sheet" (100 to 250 characters). The instructor uploads a word-format file of "Today's Awareness Sheet" to the assignment folder of the "Learning Support System", and Participants fill in this file after downloading and uploads it to the assignment folder. Feedback and comments on the submitted "Today's Awareness Sheet" will be sent to each student. Among the diversity of awareness and questions that should be introduced in class, the instructor will introduce them in class as appropriate.

[For online lessons (using ZOOM)]: It is necessary for the instructor to upload the materials for the next lesson in advance, and for the students to download and prepare the materials before each lesson (also for the first lesson). Materials will be uploaded in advance, so download is required). Group discussions use ZOOM's breakout room feature. The creation and feedback of "Today's Awareness Sheet" will be the same as in face-to-face lessons. Other than that, the procedure is the same as for face-to-face lessons.

-Work to be done outside of class (preparation, etc.) -

Two hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class. It is necessary to organize your own way of thinking that you notice in each lecture. Career interviews are an issue. Career interviews are conducted with people who are close to you (preferably with at least 10 years of working experience. Online interviews are also possible). The details will be explained in the 4th class. Many participants commented that much was gained through this interview.

-Textbooks-

"Sa, Sainoni Mezameyou Shinban (English title: StrengthsFinder2.0)" (written by Tom Rath, translated by Hiroko Furuya / Nihon Keizai Shimbun Inc./Purchase a new edition of the book published in April 2017)

If you purchase the above books, you can access them on the Internet and "search for your strengths". This access code is already used for used books, so you need to purchase a new book. In order to use the data in the 3rd lecture, it is necessary to purchase it before the 3rd lecture and grasp the data (details will be explained in the 1st and 2nd lectures).

-Grading criteria-

Normal score (including submission of "Today's Awareness Sheet"): 35%
Assignment evaluation (Career Interview: face-to-face or online interview): 35%

Final exam results: 30%

LAW100LC

法学（日本国憲法）

浅野 毅彦

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法と国家・社会との関係、法の役割及び目的について、憲法（日本国憲法）を軸に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。

【到達目標】

日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な事項の確認から授業をはじめ、法に関する基本的理解を正確に得られるようにすすめる。今日的な具体的な事件等を取り上げ、社会に起こっている問題に対する法による解決とは何か、問題点はないかを探っていく。授業においてはその都度質問をするので、積極的に答えてもらいたい。また、積極的に質問をしてもらいたい。それらを授業の展開に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①法を学ぶ意義及び受講上の注意 ②法とは何か	①「法学」を履修する意義及び受講上の注意点等についての概要 ② 法とは何か、なぜ、法は必要なのか、社会生活における法の意味、法の機能を考える。
2	法と国家との関係について	法と強制、法と国家との関係、法の限界について考える。
3	法と「それ以外のルール」との関係について	法とその他の社会規範（道徳・慣習・宗教規範等）との関係、相違点を探る。
4	法の機能の多元化について	法の機能の多元化について、社会の変化と法との関係を探りながら考える。
5	「法の支配」と「立憲主義」について	「法の支配」とは何か、「立憲主義」と近代憲法について、歴史的に考える。
6	憲法の基本理念・原則について	「立憲主義」、「個人の尊重」を基にした日本国憲法の基本理念・原則を考える。
7	「国民主権」について	国の政治のあり方と主権者としての国民について考える－国民の意思を政治に反映させるには。
8	「権力分立」について	国家統治の基本原則としての「権力分立」について考える。司法権の独立の意義について考える。
9	「個人の尊重」と「法の下での平等」について	人権保障の基にある「個人の尊重」の意義を考える。平等を実現するために必要なことは何かを探る。
10	「基本的人権」について（1）	人権の歴史的展開のなかで日本国憲法の人権規定の意義をさぐる。人権と「公共の福祉」との関係について考える。
11	「基本的人権」について（2）	自由権をめぐる訴訟を検討し、人権の意義と現状の問題点を探る。

12	「基本的人権」について（3）	労働者の権利を中心に、社会権の意味と現状をさぐる。人権の発展について考える。
13	「平和主義」について	憲法第9条の趣旨および意義をさぐり、平和をめぐる諸問題について考える。
14	まとめと憲法改正問題について	「立憲主義」「個人の尊重」について再考し、憲法改正問題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①授業後に、講述内容を思い出しながら、「講義レジュメ」やノートなどで簡単に整理するという「復習中心」の学習を勧めます。予習については、事前に配布する授業レジュメを出力し、授業前に目を通しておいてください。毎回の授業において提示する次回までの課題について事前に予習すれば、より効果的です。

②大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないでください。たしかに「覚えるべき基本知識」はありますが、重要なのは、法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということです。そのことを念頭に本授業に臨んで下さい。

【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ」および適宜配布する資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①定期試験のみにより、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容が否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点とする。

②定期試験前に「試験についての注意」文を「授業試験システム Hoppii」に載せるか、プリントにして配布するので、必ず目を通してほしい。

（注）オンライン授業になった場合は、数回の課題レポートによって評価する。評価ポイントは、上記定期試験と同様となる。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な法律用語についてその都度説明を加える。

【その他の重要事項】

授業中の私語は、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中することは「基本のキ」と心得てほしい。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society.

So we will get the correct and basic understanding of the Constitution and other laws.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Grading will be decided based on term-end examination.

LAW100LC

法学（日本国憲法）

浅野 毅彦

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法と国家・社会との関係、法の役割及び目的について、憲法（日本国憲法）を軸に学んでいく。憲法の目的や理念等を正確に把握し、憲法を中心とした法の基本的枠組みを理解する。

【到達目標】

日本国憲法を中心に、法についての基本的な理解を得ることとともに、社会に起きている問題を、法的に考え、解決する視点を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な事項の確認から授業をはじめ、法に関する基本的理解を正確に得られるようにすすめる。今日的な具体的な事件等を取り上げ、社会に起こっている問題に対する法による解決とは何か、問題点はないかを探っていく。授業においてはその都度質問をするので、積極的に答えてもらいたい。また、積極的に質問をしてもらいたい。それらを授業の展開に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①法を学ぶ意義及び受講上の注意 ②法とは何か	①「法学」を履修する意義及び受講上の注意点等についての概要 ② 法とは何か、なぜ、法は必要なのか、社会生活における法の意味、法の機能を考える。
2	法と国家との関係について	法と強制、法と国家との関係、法の限界について考える。
3	法と「それ以外のルール」との関係について	法とその他の社会規範（道徳・慣習・宗教規範等）との関係、相違点を探る。
4	法の機能の多元化について	法の機能の多元化について、社会の変化と法との関係を探りながら考える。
5	「法の支配」と「立憲主義」について	「法の支配」とは何か、「立憲主義」と近代憲法について、歴史的に考える。
6	憲法の基本理念・原則について	「立憲主義」、「個人の尊重」を基にした日本国憲法の基本理念・原則を考える。
7	「国民主権」について	国の政治のあり方と主権者としての国民について考える－国民の意思を政治に反映させるには。
8	「権力分立」について	国家統治の基本原則としての「権力分立」について考える。司法権の独立の意義について考える。
9	「個人の尊重」と「法の下での平等」について	人権保障の基にある「個人の尊重」の意義を考える。平等を実現するために必要なことは何かを探る。
10	「基本的人権」について（1）	人権の歴史的展開のなかで日本国憲法の人権規定の意義をさぐる。人権と「公共の福祉」との関係について考える。
11	「基本的人権」について（2）	自由権をめぐる訴訟を検討し、人権の意義と現状の問題点を探る。

12	「基本的人権」について（3）	労働者の権利を中心に、社会権の意味と現状をさぐる。人権の発展について考える。
13	「平和主義」について	憲法第9条の趣旨および意義をさぐり、平和をめぐる諸問題について考える。
14	まとめと憲法改正問題について	「立憲主義」「個人の尊重」について再考し、憲法改正問題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
①授業後に、講述内容を思い出しながら、「講義レジュメ」やノートなどで簡単に整理するという「復習中心」の学習を勧めます。予習においては、事前に配布する授業レジュメを出力し、授業前に目を通しておいてください。毎回の授業において提示する次回までの課題について事前に予習してもらえれば、より効果的です。
②大学での勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないでください。たしかに「覚えるべき基本知識」はありますが、重要なのは、法というものを「批判的に、ながめ、かつ考察する」ということです。そのことを念頭に本授業に臨んで下さい。

【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ」および適宜配布する資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、授業の中でも適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

①定期試験のみにより、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容が否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を「授業試験システム Hoppii」に載せるか、プリントにして配布するので、必ず目を通してほしい。
(注) オンライン授業になった場合は、数回の課題レポートによって評価する。評価ポイントは、上記定期試験と同様となる。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な法律用語についてその都度説明を加える。

【その他の重要事項】

授業中の私語は、認めない。他の聴講生に対する「権利侵害（聴講権の侵害）」となるゆえ。本科目は「教職課程」も兼ねているので、教師を目指す者はなおのこと講義に集中することは「基本のキ」と心得てほしい。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society.

So we will get the correct and basic understanding of the Constitution and other laws.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Grading will be decided based on term-end examination.

LAW100LC

法と社会

浅野 毅彦

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、社会生活においてつねに法との関わりもっており、法的な意味を持たないものはないといえるほど、「法的な社会」に生きている。授業においては、法の意義、目的、社会と法との関係を確認しつつ、今日的な諸問題を素材として、社会に生起しているさまざまな問題に対する法的な視点からの分析、法による解決とその限界を探っていく。そのなかで、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

【到達目標】

社会における法の意義や役割、法の基本的な仕組みを理解する。具体的な問題に対する法的な解決を検討していく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできるリーガルマインド（法的思考力）を身につけることを目標とする。さらに、法に対する批判的視点を含め「法を見る目を養う」ことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、法についての基礎的な事項を確認しつつ、今日的な問題を取り上げ、その問題の社会的背景を探りつつ、法的にどう考えるか、妥当な法的解決は何かを考えていく。毎回の授業の最後に、次回までに考えておくべき課題を提示する。毎回、課題についての意見を求めるので、積極的に発言をしてもらいたい。それを授業の展開に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①法学を学ぶ意義、受講上の注意点 ②法（または「ルール」）とは何か	①履修の意義、受講上の注意点について ②法（ルール）はなぜあるのか、社会生活における法の意義・機能を考える
2	「校則」について	身近にあったルールである校則をめぐる問題について考える。校則問題を学校の現状や「子どもの権利」から考えてみる。
3	いじめと法	学校、職場におけるいじめ・ハラスメントに対して法はどのように対処すべきかについて考える。
4	「権利」と「義務」、日本人の法に対する態度	権利・義務関係（法関係）が成立するための前提を考える。日本人の法に対する考え方・対応を探る。
5	日本人の「法意識」	訴訟が少ない、権利主張をしないなど従来から指摘されている日本人の法への関わり方（権利意識・法意識・法行動）について考える。
6	「法の支配」と憲法	「法の支配」と近代憲法の成立、立憲主義の意義と憲法、日本国憲法の特質を考える。
7	法的な紛争解決と裁判制度	法的な争いは、どのように解決されるのかを探る。
8	犯罪と法	「えん罪」はなぜ起きるか、罪刑法定主義の意義、死刑制度の存否について考える。

9	契約と法	契約とは何か、どんな契約でも結べるのか、契約を守らなかったらどうなるのか等々、契約について考える。
10	労働・働き方と法	労働者は、法においてどう保護されているか、それはなぜか、労働者の権利と労働契約について考える。ブラックバイトを取り上げる。
11	労働者の人権の保護、労働組合の役割	労働者の人権の保護と雇用平等の実現、労働組合とその役割について考える。
12	社会保障と法	生存権とは何か、社会保障に対しての国の責任と国民の権利について考える。
13	家族と法	選択的夫婦別姓などを取り上げ、家族と法のあり方を考える。
14	情報社会と法	情報化の進展による問題とそれに対する法的対応、そこにおける課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①「授業レジュメ」やノートなどで内容を確認し整理するという「復習中心」の学習を勧めます。予習については、事前に配布する授業レジュメを出力し、授業前に目を通してください。毎回の授業の最後に提示する課題について自分なりに考えをまとめておくといよいでしょう。なお、予習・復習に要する時間はおおむね4時間を標準とします。

②「覚えるべき基本知識」はありますが、強調したいのは、むしろ法というものを、批判的に、ながめ、かつ考察するということです。そのための「訓練の場」として本科目に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

「授業レジュメ」および適宜上げる資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、別途関連資料を上げる場合もある。

【成績評価の方法と基準】

①定期試験のみにより、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム Hoppii」に載せるか、場合によってはプリントにして配布するので、必ず目を通してください。
(注) オンライン授業になった場合は、数回の課題レポートによって評価する。評価ポイントは、上記定期試験と同様となる。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な法律用語についてその都度説明を加える。

【その他の重要事項】

授業中の「私語」は認めない。他の聴講生にたいする「権利侵害（聴講権侵害）」となるゆえ、「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。

【Outline (in English)】

Today we live in 'the legal society'. Because law is everywhere around us. And so many legal problems do concern each of us. In this course, we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues. And we will pursue how to solve the social problems by law. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided on term-end examination.

LAW100LC

法と社会

浅野 毅彦

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、社会生活においてつねに法との関わりもっており、法的な意味を持たないものはないといえるほど、「法的な社会」に生きている。授業においては、法の意義、目的、社会と法との関係を確認しつつ、今日的な諸問題を素材として、社会に生起しているさまざまな問題に対する法的な視点からの分析、法による解決とその限界を探っていく。そのなかで、法に対する基本的理解と法的なものの考え方を身につける。

【到達目標】

社会における法の意義や役割、法の基本的な仕組みを理解する。具体的な問題に対する法的な解決を検討していく中で、多角的に問題点を探り、妥当な解決を図ることのできるリーガルマインド（法的思考力）を身につけることを目標とする。さらに、法に対する批判的視点を含め「法を見る目を養う」ことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業においては、法についての基礎的な事項を確認しつつ、今日的な問題を取り上げ、その問題の社会的背景を探りつつ、法的にどう考えるか、妥当な法的解決は何かを考えていく。毎回の授業の最後に、次回までに考えておくべき課題を提示する。毎回、課題についての意見を求めるので、積極的に発言をしてもらいたい。それを授業の展開に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①法学を学ぶ意義、受講上の注意点 ②法（または「ルール」）とは何か	①履修の意義、受講上の注意点について ②法（ルール）はなぜあるのか、社会生活における法の意義・機能を考える
2	「校則」について	身近にあったルールである校則をめぐる問題について考える。校則問題を学校の現状や「子どもの権利」から考えてみる。
3	いじめと法	学校、職場におけるいじめ・ハラスメントに対して法はどのように対処すべきかについて考える。
4	「権利」と「義務」、日本人の法に対する態度	権利・義務関係（法関係）が成立するための前提を考える。日本人の法に対する考え方・対応を探る。
5	日本人の「法意識」	訴訟が少ない、権利主張をしないなど従来から指摘されている日本人の法への関わり方（権利意識・法意識・法行動）について考える。
6	「法の支配」と憲法	「法の支配」と近代憲法の成立、立憲主義の意義と憲法、日本国憲法の特質を考える。
7	法的な紛争解決と裁判制度	法的な争いは、どのように解決されるのかを探る。
8	犯罪と法	「えん罪」はなぜ起きるか、罪刑法定主義の意義、死刑制度の存否について考える。

9	契約と法	契約とは何か、どんな契約でも結べるのか、契約を守らなかったらどうなるのか等々、契約について考える。
10	労働・働き方と法	労働者は、法においてどう保護されているか、それはなぜか、労働者の権利と労働契約について考える。ブラックバイトを取り上げる。
11	労働者の人権の保護、労働組合の役割	労働者の人権の保護と雇用平等の実現、労働組合とその役割について考える。
12	社会保障と法	生存権とは何か、社会保障に対しての国の責任と国民の権利について考える。
13	家族と法	選択的夫婦別姓などを取り上げ、家族と法のあり方を考える。
14	情報社会と法	情報化の進展による問題とそれに対する法的対応、そこにおける課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①「授業レジュメ」やノートなどで内容を確認し整理するという「復習中心」の学習を勧めます。予習については、事前に配布する授業レジュメを出力し、授業前に目を通してください。毎回の授業の最後に提示する課題について自分なりに考えをまとめておくといよいでしょう。なお、予習・復習に要する時間はおおむね4時間を標準とします。

②「覚えるべき基本知識」はありますが、強調したいのは、むしろ法というものを、批判的に、ながめ、かつ考察するということです。そのための「訓練の場」として本科目に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

「授業レジュメ」および適宜上げる資料を使用。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せるが、別途関連資料を上げる場合もある。

【成績評価の方法と基準】

①定期試験のみにより、レポートは課さない。その際、解答上の指示に従い、かつ設問に即した答案内容か否かを評価ポイントとする。基本知識の欠如や基本用語の誤字は答案内容に影響するので減点対象とする。
②定期試験前に「試験についての注意」文を大学 HP の「授業支援システム Hoppii」に載せるか、場合によってはプリントにして配布するので、必ず目を通してください。
(注) オンライン授業になった場合は、数回の課題レポートによって評価する。評価ポイントは、上記定期試験と同様となる。

【学生の意見等からの気づき】

基本的な法律用語についてその都度説明を加える。

【その他の重要事項】

授業中の「私語」は認めない。他の聴講生にたいする「権利侵害（聴講権侵害）」となるゆえ、「法学」の授業での権利侵害は断じて認められない。

【Outline (in English)】

Today we live in 'the legal society'. Because law is everywhere around us. And so many legal problems do concern each of us. In this course, we will learn the fundamental way of thinking about the various ideas and concepts that underlie legal issues. And we will pursue how to solve the social problems by law. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided on term-end examination.

BSP100LC

科学技術史

馬場 敏幸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマ 本講義では科学技術の歴史について、西洋近代科学の発祥・発展を主に学ぶ。受講者は科学技術がどのように誕生し、受け継がれ、近代に至ってきたのかについての大きな流れを理解してほしい。人間社会において、常識や真実は、時代や場所によって移り変わってきた。「真実」は絶対ではないことを歴史から学び、時には固定概念にとらわれず探求する精神を育ててほしい。

【到達目標】

本講義では、紀元前から近代までの科学技術の変遷を学ぶ。科学技術はあるきっかけで誕生し、変遷、転用、融合を経て進化し、受け継がれる。そうした経緯について、西洋の事例を中心に、古代、中世、近代の例を題材に学ぶ。科学技術のさまざまな着想と発明・発見の背景、そして「常識」の危うさ、もろさ。疑問を持つことの重要性についても知見を深めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの影響を鑑み、オンデマンド開催が多くなる可能性がある。また必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。講義数日前～一週間前をめどに授業支援システムを通じて掲示するので各自事前に確認してほしい。現在のところ、オンデマンドで資料による学習を行い、対面で質問や理解力チェックなどを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方 序論
2	はじまり	道具の使用と農業の開始
3	古代	古代都市国家の形成と技術の芽生え
4	ギリシア 1	科学思想の芽生え
5	ギリシア 2	科学思想体系の確立
6	アレクサンドリア 1	エラトステネス・アルキメデスら
7	アレクサンドリア 2	三大機械技師
8	ローマ	建築技術の発展など
9	中世ヨーロッパ 1	古代科学技術の衰退と復古
10	中世ヨーロッパ 2	スコラ学形成と大学の誕生
11	ルネッサンス	ダビンチによる様々な発明
12	科学革命 1	コペルニクスによる地動説仮説
13	科学革命 2	ブラーエとケプラーによる惑星運動理論
14	科学革命 3	ガリレイ、ニュートン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、講義前 1 時間半、講義後 2 時間半の計 4 時間を想定している。授業内容に関連するニュースに興味を持つようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】

提示参考書のうち主に次の二冊の内容に準拠して講義を行う。村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社

【参考書】

村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社、フォーブス『古代の技術史』朝倉書店、小山慶太『科学史年表』中公新書、クーン（中山訳）『科学革命の構造』、ランデルズ（宮城訳）『古代のエンジニアリング』地人書館、荒井ら編『産業革命の技術』有斐閣、加茂儀一編『技術の歴史』毎日ライブラリ、学研図鑑『発明・発見』、その他

【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および授業内や授業後の課題の内容、授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価を行う。課題 80%、平常点 20%、合計 100%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義になった場合、ズームを望むもの、オンデマンドを望むもの、様々であった。授業開始のオリエンテーション時に受講学生の要望を聞き、ディスカッションにより、授業の進め方をフレキシブルに対応させたいと考えている。なお公平性・透明性の原則により、教員・受講生双方のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

なお、対面講義において、まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は席移動、または退出などの処置をとる。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド開催の場合 PC を強く推奨するが、スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn the history of a science and a technology. You should understand the main current of how a science and a technology was born, inherited and changed from an ancient age until a modern age. In human society, the common sense or the truth had been changed upon the time period or in a place. You should learn from history that “the truth” is not absolute. I hope you foster a questioning mind, thinking outside the box. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

BSP100LC

科学技術史

馬場 敏幸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマ 本講義では科学技術の歴史について、西洋近代科学の発祥・発展を主に学ぶ。受講者は科学技術がどのように誕生し、受け継がれ、近代に至ってきたのかについての大きな流れを理解してほしい。人間社会において、常識や真実は、時代や場所によって移り変わってきた。「真実」は絶対ではないことを歴史から学び、時には固定概念にとらわれず探求する精神を育ててほしい。

【到達目標】

本講義では、紀元前から近代までの科学技術の変遷を学ぶ。科学技術はあるきっかけで誕生し、変遷、転用、融合を経て進化し、受け継がれる。そうした経緯について、西洋の事例を中心に、古代、中世、近代の例を題材に学ぶ。科学技術のさまざまな着想と発明・発見の背景、そして「常識」の危うさ、もろさ。疑問を持つことの重要性についても知見を深めてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの影響を鑑み、オンデマンド開催が多くなる可能性がある。また必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。講義数日前～一週間前をめどに授業支援システムを通じて掲示するので各自事前に確認してほしい。現在のところ、オンデマンドで資料による学習を行い、対面で質問や理解力チェックなどを行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方 序論
2	はじまり	道具の使用と農業の開始
3	古代	古代都市国家の形成と技術の芽生え
4	ギリシア 1	科学思想の芽生え
5	ギリシア 2	科学思想体系の確立
6	アレクサンドリア 1	エラトステネス・アルキメデスら
7	アレクサンドリア 2	三大機械技師
8	ローマ	建築技術の発展など
9	中世ヨーロッパ 1	古代科学技術の衰退と復古
10	中世ヨーロッパ 2	スコラ学形成と大学の誕生
11	ルネッサンス	ダビンチ
12	科学革命 1	コペルニクス
13	科学革命 2	ブラーエとケプラー
14	科学革命 3	ガリレイ・ニュートン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、講義前 1 時間半、講義後 2 時間半の計 4 時間を想定している。授業内容に関連するニュースに興味を持つようにしてほしい。

【テキスト（教科書）】

提示参考書のうち主に次の二冊の内容に準拠して講義を行う。村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社

【参考書】

村上陽一郎『西欧近代科学』新曜社、中川徹『文明史上における科学技術の歩み』青山社、フォーブス『古代の技術史』朝倉書店、小山慶太『科学史年表』中公新書、クーン（中山訳）『科学革命の構造』、ランデルズ（宮城訳）『古代のエンジニアリング』地人書館、荒井ら編『産業革命の技術』有斐閣、加茂儀一編『技術の歴史』毎日ライブラリ、学研図鑑『発明・発見』、その他

【成績評価の方法と基準】

講義で課題（レポートやテスト）を課し、その課題の提出状況、および授業内や授業後の課題の内容、授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価を行う。課題 80%、平常点 20%、合計 100%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義になった場合、ズームを望むもの、オンデマンドを望むもの、様々であった。授業開始のオリエンテーション時に受講学生の要望を聞き、ディスカッションにより、授業の進め方をフレキシブルに対応させたいと考えている。なお公平性・透明性の原則により、教員・受講生双方のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

なお、対面講義において、まわりの私語など集中力の妨げるとの意見がみられる。授業中に学習する環境作りのため、授業中の私語・スマホ使用は禁止とし、守れない場合は席移動、または退出などの処置をとる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

【その他の重要事項】

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn the history of a science and a technology. You should understand the main current of how a science and a technology was born, inherited and changed from an ancient age until a modern age. In human society, the common sense or the truth had been changed upon the time period or in a place. You should learn from history that “the truth” is not absolute. I hope you foster a questioning mind, thinking outside the box. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

BSP100LC

先端技術・社会論

原 昌己

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。
「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はあるのか、と問われる。

イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生みだすための方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) イノベーションのプロセスと、そのために必要となる力を知る。
- (2) イノベーションを起こす人材に必要な力、習慣、その基本を知る。
- (3) 各人の専門の力（今後学ぶことも含む）を使って、将来何を実現したいのかを考え、整理し、まとめる。
- (4) 新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
- (5) グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法、そのためのコミュニケーション、ディスカッションの方法、プレゼンテーションの方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。
- ・随時、簡易な課題を設け、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

前半は映像資料による事例紹介。

イノベーションが起こる場面、その発展の事例を通して、そのプロセス、要件、そしてその面白さを知る。

全学部、全学年の学生が興味・関心を持てる事例をピックアップ。

過年度は以下など、様々な分野に渡るテーマを取り上げた。

- ・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ
(米国ベル研究所、黎明期の Apple 社など)
- ・量子コンピュータの可能性
- ・DNA シーケンサ
- ・カーボンナノチューブ
- ・iPS 細胞 他

中盤では「イノベーションに必要な力」の要点を解説。

PDCA、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。

演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。

「社会で求められる人材要件」とも共通する内容であり、1、2年生にとっては大学で学ぶための基本的な姿勢作り、3、4年生にとっては就職に向けた準備としても有効。

後半はグループワークにより、チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。
さまざまな専門分野のメンバーでのディスカッションを通じて「新たなモノ」を考案、アイデアを結集し「企画」としてまとめるための方法を学ぶ。

- ・過年度では以下などの斬新な企画、イノベーション案が考案された。
- ・外国人旅行者をサポートする交通・IT インフラ
- ・ATP（アデノシン3リン酸）を活用した新エネルギー自動車
- ・地域を活性化させる食物工場
- ・人工知能による痴呆防止システム

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、その必要性、プロセス、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第 2 回	イノベーション事例 1	イノベーションの事例 1～4 では、過去の事例の映像資料を視聴。 事例 1 として、電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第 3 回	イノベーション事例 2 近年のイノベーション	パソコンの発明と普及（予定） Apple 社・Steve Jobs vs Microsoft 社・Bill Gates

第 4 回	イノベーション事例 3 現代のイノベーション	近年の事例、研究途上の事例。 量子コンピュータ、等（予定）
第 5 回	イノベーション事例 4 日本の現状と課題	日本発のイノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNA シーケンサ等（予定）
第 6 回	イノベーションに必要な力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力、習慣、心構えを学ぶ。
第 7 回	PDCA (plan,do,check,act)	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第 8 回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第 9 回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーションの方法、グループでの思考方法、ディスカッションの方法を学ぶ。
第 10 回	グループワーク 1	第 10 回～第 12 回を通じて、「新たな商品・サービス」(予定)をテーマとして、グループで企画を立案する。
第 11 回	グループワーク 2	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第 12 回	グループワーク 3	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第 13 回	プレゼンテーション	チームごとにプレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第 14 回	試験・まとめと解説	学習した成果に基づき、新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を果たしたいのかを考えること。
- ・上記などを含めた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で 2 時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】

なし。各回で資料を配布。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 期末、小論文。(50%)
- 2) グループでのプレゼンテーション。(25%)
- 3) 平常点。(25%)

【学生の意見等からの気づき】

演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.

【Learning Objectives】

Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.

【Learning activities outside of classroom】

Students increase interest in new products, services and society and gather information about them

【Grading Criteria /Policy】

Essay/end of term(50%), Team planning and presentation (25%) , Participation in classes (25%)

BSP100LC

先端技術・社会論

原 昌己

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会から強く求められる「イノベーションを起こす人材」の要件を学ぶ。
「先端技術、技術革新とそれによる社会の変革」（イノベーション）は、どのような過程を通じて生み出され社会に広がっていくのか、そのために必要となる力はあるのか、まとめる。

イノベーションの面白さを知り、誰もがイノベータになれる可能性があることに気づくとともに、演習を通じて「新たなモノ」を生みだすための方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) イノベーションのプロセスと、そのために必要となる力を知る。
- (2) イノベーションを起こす人材に必要な力、習慣、その基本を知る。
- (3) 各人の専門の力（今後学ぶことも含む）を使って、将来何を実現したいのかを考え、整理し、まとめる。
- (4) 新たな製品や仕組みを「企画」する方法を知る。
- (5) グループでの「企画」作りの演習を通じて、チームで成果を出すための方法、そのためのコミュニケーション、ディスカッションの方法、プレゼンテーションの方法を体得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。
- ・随時、簡易な課題を設け、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

前半は映像資料による事例紹介。
イノベーションが起こる場面、その発展の事例を通して、そのプロセス、要件、そしてその面白さを知る。
全学部、全学年の学生が興味・関心を持てる事例をピックアップ。
過年度は以下など、様々な分野に渡るテーマを取り上げた。
・電話からトランジスタ、そしてパソコンへ
（米国ベル研究所、黎明期の Apple 社など）
・量子コンピュータの可能性
・DNA シーケンサ
・カーボンナノチューブ
・iPS 細胞 他

中盤では「イノベーションに必要な力」の要点を解説。
PDCA、思考力・発想力、コミュニケーション力、他。
演習を通じて体感するとともに、簡易な診断テストで各自の強み・弱みを考える機会を設ける。
「社会で求められる人材要件」とも共通する内容であり、1、2年生にとっては大学で学ぶための基本的な姿勢作り、3、4年生にとっては就職に向けた準備としても有効。

後半はグループワークにより、チームでの「新たなモノ」の企画に取り組む。
さまざまな専門分野のメンバーでのディスカッションを通じて「新たなモノ」を考案、アイデアを結集し「企画」としてまとめるための方法を学ぶ。
過年度では以下などの斬新な企画、イノベーション案が考案された。
・外国人旅行者をサポートする交通・IT インフラ
・ATP（アデノシン3リン酸）を活用した新エネルギー自動車
・地域を活性化する食物工場
・人工知能による痴呆防止システム
春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イノベーションの必要性	イノベーションとは何か、その必要性、プロセス、そのために必要となる力など、本授業を通じて学ぶことの概要を知る。
第2回	イノベーション事例1	イノベーションの事例1～4では、過去の事例の映像資料を視聴。 事例1として、電話の発明と普及（予定） 米国・ベル研究所等
第3回	イノベーション事例2 近年のイノベーション	パソコンの発明と普及（予定） Apple 社・Steve Jobs vs Microsoft 社・Bill Gates

第4回	イノベーション事例3 現代のイノベーション	近年の事例、研究途上の事例。 量子コンピュータ、等（予定）
第5回	イノベーション事例4 日本の現状と課題	日本発のイノベーション。 光触媒、カーボンナノチューブ、DNA シーケンサ等（予定）
第6回	イノベーションに必要な力	イノベーションを起こす人材になるために必要となる力、習慣、心構えを学ぶ。
第7回	PDCA （plan,do,check,act）	社会での活動の基本となる行動様式、「PDCA」を学ぶ。
第8回	思考法	代表的な思考方法として、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ラテラルシンキングを学ぶ。
第9回	コミュニケーション/グループでの思考法	コミュニケーション、グループでの思考方法、ディスカッションの方法を学ぶ。
第10回	グループワーク1	第10回～第12回を通じて、「新たな商品・サービス」（予定）をテーマとして、グループで企画を立案する。
第11回	グループワーク2	課題を設定し、課題に対する解決策を検討する。
第12回	グループワーク3	まとめ、ならびにプレゼンテーションの準備を行う。
第13回	プレゼンテーション	チームごとにプレゼンテーションを行い、相互に評価する。
第14回	試験・まとめと解説	学習した成果に基づき、新たな製品・サービスの企画を小論文としてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・新たな商品やサービス、社会の動きに対する関心を高め、さまざまな情報収集に努めること。
- ・その上で、各自が将来、社会で何をやりたいのか、何を実現したいのか考えること。
- ・上記などを含めて、本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、全体で2時間程度を見込む。

【テキスト（教科書）】

なし。各回で資料を配布。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下を予定しているが、春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。
期末、小論文。(50%)
グループでのプレゼンテーション。(予定)(25%)
平常点(随時のレポート等)。(25%)

【学生の意見等からの気づき】

演習を随所に取り入れ、体感的な学びを重視。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students learn the requirements of 'human resources who bring innovation' strongly demanded by society.

【Learning Objectives】

Students learn about the fun of innovation, realize that everyone is likely to become an innovator, and learn and practice to create "new things" through exercises.

【Learning activities outside of classroom】

Students increase interest in new products, services and society and gather information about them

【Grading Criteria /Policy】

Essay/end of term(50%), Team planning and presentation (25%) , Participation in classes (25%)

BSP100LC

技術者倫理

詫間 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本キャンパスの学生は将来、技術者として或るいは技術に関連する人材として、様々な倫理的問題に直面することが予想される。本授業は、さまざまな状況において発生する倫理的問題に取り組む能力を涵養するため、重要概念と事例に接し、理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

- (1) 技術にまつわる倫理的問題にどのようなものがあるかを知る。
- (2) 上記の倫理的問題に取り組むにあたって有用な概念や考え方を身につける。
- (3) 上記の概念や考え方をを用いて様々な事例を理解し論じる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講師が準備したオリジナル・コンテンツをスライド等を用いて解説する。適宜、ビデオや動画を観てもらおう。

また、毎回の授業後、印象に残ったトピックを一つ選んでそれに対するごく簡単な考察を行い、リアクションペーパーとして Hoppii の課題機能を使って提出してもらおう。重要なコメントに対しては翌週に回答するなどして、双方向性を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	ガイダンスおよびイントロダクション	授業の進め方、授業の目的・到達目標、成績評価方法などについて説明する。 また、イントロダクションとして、「倫理学とはどのようなものか」「なぜ技術（者）倫理なのか」といった基本事項について解説する。
第 2 週	スペースシャトル・チャレンジャー号事故とその教訓（1）	スペースシャトル・チャレンジャー号事故に関する社会学者 D. Vaughan による分析をベースとし、技術的・倫理的な教訓を学ぶ。
第 3 週	スペースシャトル・チャレンジャー号事故とその教訓（2）	「例外的状況」における権力関係の顕在化と、その対策としての専門職倫理規定および高信頼性組織について解説する。
第 4 週	立証責任と事前警戒原則 — 水俣病を例に —	事故や災害が起こるメカニズムがよく分かっていない場合、事故・災害が発生する可能性を指摘することと、証拠を十分に揃えて立証するのでは、費やす労力が全然違う。不確実な状況下における立証責任について、水俣病を例に引きつつ解説する。

第 5 週 ユニバーサル・デザイン — 倫理を予めデザインに埋め込む —

「ユニバーサル・デザイン」は、障害者にとっての障壁を撤廃するという倫理的・政治的意図を予めデザインに組み込むことを提案している。ユニバーサル・デザインの 7 原則と倫理性、ユニバーサル・デザインの事例、米国のユニバーサル・デザインと日本のバリアフリーデザインの違い、などについて学ぶ。

第 6 週 アーキテクチャーの権力

ユニバーサル・デザインと関連したトピックとして、「アーキテクチャーの権力」について学ぶ。人工物のアーキテクチャーに、人種差別などの政治的意図が埋め込まれていることがある。そのような事例を紹介しつつ、倫理的側面を考察する。

第 7 週 内部告発の指針

ある調査では、過去 5 年間に不正を知ったことがあったかという問いに対して、約 20% の人が「あった」と答えている。つまり、学生諸君が将来就職して不正に遭遇する確率は思いのほか高い。そんなときのために、不正を告発するための指針や関連する制度や法令を学ぶ。

第 8 週 情報倫理（1）情報技術と著作権

情報技術は、最も変化の早い技術であり、それに対応する倫理学がまだ構築できていないのが現状である。従って、個々の問題ごとに倫理を考えていくしかない。今回は著作権の問題を扱い、瞬時に大量の情報を複製・伝達する技術の発達に対して、倫理（学）がどう対処できるかを検討する。

第 9 週 情報倫理（2）「ウィキリークス」の教訓、表現の自由、情報公開

インターネットの発達は、表現の自由といった基本理念にも再検討を迫りつつある。ウィキリークスの事件を例にとり、情報化時代の倫理について考える。併せて、情報公開のあり方についても考察する。

第 10 週 生命倫理

iPS 細胞や遺伝子治療技術の出現によって、生命科学は人間観を変えてしまう程の影響力を持つに至った。この分野でも、やはり、倫理学の構築は科学技術の発達に追いついていない。そうした現状について解説する。

第 11 週 環境倫理（1）

地球全体主義（地球有限主義）について学ぶ。すなわち、地球のリソースが有限であることと、環境負荷の影響関係がグローバル化していることについて学ぶ。

第 12 週 環境倫理（2）

世代間倫理（100 年後・1 万年後の環境に責任を持つか）、自然に生存権を認めるか、レオポルドの土地倫理、ほか。

- 第13週 環境倫理（3） 事例学習：「気候変動問題に関する科学的根拠、政治的事情および技術者倫理の観点からの吟味」
- 2015年12月、国連気候変動枠組条約の締約国がパリ協定を締結し、各国が温室効果ガス排出量の大胆な削減に取り組むことになった。気候変動の問題には、科学的根拠の信頼性、技術的実現可能性、政治的な事情、ESG投資等の倫理的制度といった諸要因が絡み合っており、環境倫理と技術者倫理の事例として興味深い。できるだけ正確かつ分かりやすく解説する。
- 第14週 技術者倫理教育の由来 そもそもなぜ「技術者倫理」のような科目が大学で講義されるようになったのか、本科目のルーツを解説する。

Class Performance (40%): Class Performance is evaluated drawing on the Reaction Papers submitted after each class.

Mid-term Report (20%): Students try to find an example of "Universal Design" and an example of "Circumstance-managing Power" and reports them.

Term Exam (40%): Examination about the whole contents given in the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間が標準である。すでに説明したことは理解している前提で講義を進めていくので、授業が一回終わるたびに、次の授業回までによく復習しておくこと。授業中に、さらに進んで学習するための参考文献やウェブサイトを紹介する。学生の皆さんには、授業で興味をもったことや疑問に思ったことについて、自分で調べることを強く推奨する。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

参考書はとくに指定しないが、必要に応じて参考になる文献やウェブサイトを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）：毎回の授業の終了後に hoppii に提出してもらうアクションペーパーをもとに評価する。

中間レポート（20%）：身の周りにある、ユニバーサル・デザインとアーキテクチャの権力の事例を探し、レポートしてもらう。

期末試験（40%）：今学期講義した内容全般について筆記試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

インフォームドコンセントに関連して、重篤な病気になっても告知をすべきだという意見が多かった。がんの告知を本人にしなかった時代からは隔世の感がある。こうした若者の意識の変化を、今後の授業に反映させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

配布資料は、PDF 化して事前に Hoppii にアップロードするので、授業中にそれを参照するための機材（パソコン、スマートフォン、タブレット等）を持参されたい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Many of the students who graduate from the faculties on this campus will face various ethical problems as an engineer or as a staff related to engineering. This course aims at nurturing students' capability to cope with such ethical problems, by providing typical examples in engineering ethics, together with useful concepts and ways of thinking to understand and tackle them.

【Learning Objective (Goal)】

- (1) Students learn what kind of ethical problems does technology have.
- (2) Students become familiar with useful concepts and ways of thinking to cope with various ethical problems.
- (3) Students become capable of applying the above-mentioned concepts and ways of thinking to concrete problems.

【Learning activities outside classroom hours】

Each class assumes that students have understood all the contents given so far in previous classes. Therefore, students must review the previous class contents by the next class.

The lecturer provide students with references used for the class material and literature for advanced learning. Students are expected to read such references and literature.

【Grading Criteria /Policy】

BSP100LC

情報倫理

笹原 和織

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では現代の「情報社会」を成立させている「インターネット」とそれを利用する我々の行動全般を視野に入れ、君たちが当たり前と感じているそれらの「光」の部分と共に、その「影」の部分を中心に理解し、まず何が「問題」であるのかを抽出し、その「問題」に対処する方法を共に考えてみたい。

【到達目標】

現状を肯定するだけでなく「問題を発見」と同時に、その解決に向けた諸状況を理解し、整理すること。さらにはより良い「社会的な解決方法」を見出し、それが何故かを説明できるようになること。

Discover the problems from the current situation, and solve them. In addition, you must be able to explain a better social solution and why.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

昨年度も新型コロナ感染対策のため Web 講義主体となりました。依然として見通しの取れない中であり、この講義は最大限リモートを活用した講義とする予定です。

事前に課題を配信し、それをめぐるレポートなどのやりとりが中心になるでしょう。

当初内容は情報環境をめぐる倫理的な諸課題についての講義が中心になりますが、後半の個々の事例／具体的な問題に関しては、提供する情報をもとに、まずそれをきちんと理解した上で共に考えてもらいたいと思います。受講生の皆さんには「何故？ どうして？ どうすれば？」を徹底的に考えてもらいます。

コロナ禍の対応状況により、進度に関しては弾力的に変更があると思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報倫理序論Ⅰ	まずはこの講義の目的と進行方向などを「講義ガイダンス（この資料）」として説明。 「情報」とは何か？ 「倫理」とは何か？ について考えてみよう。 倫理学の中での「情報倫理」の位置づけ、「ネチケット」と「情報倫理」の関係など。
第 2 回	情報倫理序論Ⅱ	「情報倫理」とは何か。どんなものか？ そうであり、その必要性和位置付けについて。
第 3 回	情報社会の規制要因Ⅰ ルールについて	行為規範の意味やそれをあつかう際の注意点など。
第 4 回	情報社会の規制要因Ⅱ 規範の種別	様々なある規範・ルールの種別を分別してみる。
第 5 回	情報社会の規制要因Ⅲ レッシングの社会規制図式	情報環境を規制するものを整理して理解する。
第 6 回	法的規制の重要性	様々な規制要素の検討から「法」の持つ役割や重要性を確認する。
第 7 回	法的規制Ⅰ 前提：刑罰と損害賠償請求	「法的問題になる」とはどういうことか。特に「刑罰」と「損害賠償請求」の違いについて。
第 8 回	法的規制Ⅱ 刑罰的規制について	刑罰的規制について、利用者と管理者の違いを視野に入れつつ考える。
第 9 回	法的規制Ⅲ 民法的な規制について	民法的な規制について、使用者と管理者の立場を意識しつつ考える。
第 10 回	法的規制Ⅳ 「著作権」と「プライバシー」問題	インターネット利用環境での著作権とプライバシーのあり方および、今までに整理した法的枠組みの関係性を理解する。
第 11 回	「倫理学」の基礎理論Ⅰ	コミュニケーションにおける根本的な問題が何かを考えてみる。
第 12 回	「倫理学」の基礎理論Ⅱ	倫理学的な基礎概念の紹介と、現代への応用の可能性を検討する。
第 13 回	事例研究・発表	みなさんに具体的問題を挙げてもらい、共に考えてみたい。
第 14 回	ブログや Facebook、Line などの SNS	ブログや SNS を利用して、他者批判・企業業批判や社会批判を行うことの重み、代償を身近な事例で考えてみたい。特にその中毒性の問題など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

授業で取り扱うテーマ、個人情報保護、機密情報保護、著作権、先端の情報技術等に関する倫理問題や情報技術にまつわる時事問題に関して、日ごろからの新聞、ネット報道に注意すること。

興味のある課題から、レポートのテーマを選択させる。

Pay attention to daily newspapers and online reports regarding ethical issues related to themes handled in class.

【テキスト（教科書）】

講義用資料は、講義時に随時提供する。

使用環境については、大学の提供する Web システムを利用する予定。

【参考書】

ローレンス・レッシング『コード』

近藤勲編著『情報と職業』（丸善）

水谷雅彦、越智貢、土屋俊編著『情報倫理の構築』（新世社）

デボラ・ジョンソン著、水谷他監訳『コンピュータ倫理学』（オーム社）

【成績評価の方法と基準】

講義の終了後に適宜課題を設定し、その評価をもって成績評価としたい。課題提出には一定の期間を設け、期間外の提出は認めないことで計画的な学習の補助としたい。

講義の出席率は課題の提出割合とする。

講義内発表やレポート提出のある場合は、出席率を前提としてその評価を課題提出に伴う評価に加え、総合的に評価する。

The assignment report imposed after the lecture will be the grade evaluation.

【学生の意見等からの気づき】

受講生と共に、現代的課題について考えていきたい。特定の解答を要求してはいない。そこに至るまでの思考過程と、どれだけ広く深く考え抜くのが大切。積極的な発言を求めたい。

【Outline (in English)】

In this lecture, we analyze the behavior in the Internet which constitutes the information society. And we must understand deeply the merits and demerits that are now commonplace, and think about how we deal with that problems.

BSP100LC

環境と資源

中嶋 吉弘

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギーとした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】

地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や永続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？ 環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。課題などに対しては学習支援システムなどを用いてフィードバックする。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話ながら、今後の授業方針を告知します。
第 2 回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第 2 回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第 3 回	生態系と物質循環	第 2 回に引き続き、第 3 回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第 4 回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第 4 回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。

第 5 回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第 5 回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。
第 6 回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第 6 回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第 7 回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5 問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第 7 回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第 3－4 回と一部重複）を講義します。
第 8 回	マイクロプラスチック汚染と POP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第 8 回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第 9 回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第 9 回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第 10 回	化石燃料の今昔と新規燃料	21 世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第 10 回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第 11 回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第 11 回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。

- 第12回 ゴミ問題とリサイクル 『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第12回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。
- 第13回 バイオマスの有用性 マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
- 第14回 『環境と資源』まとめ 第2～13回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第14回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】

3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。
なお3回のレポートは全て提出が必須であり、1回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等ありますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline (in English)】

[Outline]

This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.

[Course outline]

In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.

[Learning Objectives]

It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R & D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).

[Learning activities outside of classroom]

4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.

Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

BSP100LC

環境と資源

中嶋 吉弘

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球で大繁栄している人類が今後も生存するには資源、エネルギー、環境保全などに対するルールが必要になって来ている。なぜ循環型社会の構築が必要なのか地球の成り立ち、太陽光を唯一のエネルギー源とした自然環境を説明しながら理解を深めたい。

【到達目標】

地球環境は閉鎖系で原則として元素の増減は無く、物質も出入りしない事の理解を得る。限り有る資源の活用にはルールが必要でフェアでなければならない。太陽光を原点とした自然エネルギーの有効利用は環境保全や持続性の観点からも必須である事を確認します。研究開発がどのように我々の生活に結びつくのか？ 環境化学（科学）に興味を持てる様にしたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境問題や資源枯渇の問題が注目されているが、これらの問題が必ずしも一般の人々に正しく理解されているとは言えないのが現実である。この講義では環境問題やエネルギー、資源等の問題について、理科系の学部学生として最低限知っておく事が望ましい知識を伝えるとともに、これらの社会的な問題に対して問題意識を持つきっかけとなる様な機会を作る事をねらいとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当講師の自己紹介と本講義の概要、これまでの研究内容と成果の紹介などを話しながら、今後の授業方針を告知します。
第 2 回	地球科学の基礎	我々人類は地球上で誕生し、進化を経て地球環境の恩恵と受ける一方で、様々な問題を引き起こしています。第 2 回では原始地球の誕生から生物の進化、人類の誕生に至る現在の地球を取り巻く環境を、『大気』・『水域』・『土壌』の観点から講義します。
第 3 回	生態系と物質循環	第 2 回に引き続き、第 3 回では地球環境の現状について、『生態系』と『物質循環』の観点を加えて、生物と物質の交換を講義します。
第 4 回	環境保護と環境基準	科学技術の発展は人類の生活を豊かにする一方で、多くの環境および資源に関する問題を生み出しています。第 4 回では環境問題の歴史を振り返りながら、人類と環境汚染・環境保護・健康影響について講義します。
第 5 回	温室効果気体と気候変動	現在最も解決すべき環境問題として、温室効果気体の増加とそれに伴う気候変動が挙げられます。第 5 回では温室効果気体に関します基本的な科学的知見と気候変動に関します状況について講義します。

第 6 回	オゾン層破壊とオゾンホール	オゾン層破壊は国際的な枠組みが定められた大気環境学のモデルケースです。第 6 回ではオゾン層破壊のメカニズムとオゾンホールの発生過程、国際的な枠組みである『モントリオール議定書』とオゾン層の現状について講義します。
第 7 回	大気汚染と生態系への影響	『光化学オキシダント』や『PM2.5 問題』、『酸性雨』などの大気汚染は我々が最も身近に接してきた環境問題です。第 7 回ではこれら大気汚染問題の基礎と現状、生態系への影響（第 3 - 4 回と一部重複）を講義します。
第 8 回	マイクロプラスチック汚染と POP	最近マイクロプラスチック汚染が最近の環境問題として警鐘を鳴らし、これを受けてプラスチックの削減運動が進められています。第 8 回では『マイクロプラスチック』とは何か、なぜ発生しますのか、何が問題なのか、そしてマイクロプラスチック削減運動の現状を講義します。
第 9 回	資源の有効利用	人類は地球上の様々な資源を活用することで発展を遂げ、一方で環境問題を引き起こしています。第 9 回では人類の歴史を振り返りながら、人類が活用している、または今後活用が期待されている様々な資源について講義します。
第 10 回	化石燃料の今昔と新規燃料	21 世紀においても人類は多くの石油や石炭を使用し、さらに『シェールガス』や『メタンハイドレート』などの新規の化石燃料の利用を模索しています。第 10 回では従来の石油石炭に加え、シェールガスやメタンハイドレートなどの化石燃料の基礎と問題点、そして近年盛んに利用されているバイオ燃料、木質バイオマス発電や水素の利用について講義します。
第 11 回	非化石燃料によるエネルギー獲得の現状	オイルショック以来、わが国ではエネルギー資源に関する議論が現在も続けられています。また世界に目を向けると、温室効果気体の増加に伴う脱炭素社会の行動が要求されています。第 11 回では太陽光や風力、地熱などの発電および、燃料電池、原子力発電の仕組みと問題点を考えていきます。
第 12 回	ゴミ問題とリサイクル	『ゴミ問題』は特に大都市における最も身近な環境問題であり、その解決としてのゴミの『リサイクル』が大きな課題になっています。第 12 回ではゴミ処理とリサイクルに関する基礎と現状について講義します。

- 第13回 バイオマスの有用性 マイクロプラスチック問題の解決策の一つとして、『紙製品』の有効利用が模索されています。また化石燃料使用による温室効果気体の増加に対する解決策の一つとして、木質資源によるバイオ燃料獲得が議論されています。本講義では環境と資源の問題の解決策として有望視されている紙や木材などの『バイオマス』や、微生物の有効利用について講義する。
- 第14回 『環境と資源』まとめ 第2～13回にかけて、環境と資源に関する現状と問題点および解決策について講義してきた。第14回では総仕上げとして、人類をとりまく環境および資源に関する諸問題について振り返り、現状で議論されている解決策についてその有用性と今後起きる可能性がある問題点などを議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に興味あるテーマに関しては授業の参考になるレベルまで学習し、授業時間内または終了後に質問する事。さらに、授業終了後自由に担当教員に議論を持ちかけるようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

『環境化学（科学）』や『地球科学（化学）』に関する教科書であれば参考になります。

【成績評価の方法と基準】

3回のレポート課題（75%）に平常点（25%）を考慮して評価します。なお3回のレポートは全て提出が必須であり、1回でも未提出の場合は不可となりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学部／学科の学生が参加する講義です。多人数の時は教員の声が聞きにくい、黒板の字が見えにくい等ありますが積極的に前方で講義を受ける事をお勧めします。最新のニュースや物理および化学に関する基礎知識などで（一見すると）本題から外れる事が有りますが、可能な限り簡潔にまとめるようにします。

【Outline (in English)】

[Outline]

This course will introduce basic knowledge of the changes in the natural environment. It will also introduce natural resources that are on the earth which humans use.

[Course outline]

In order for human beings, who are prosperous on the earth, to continue to survive, rules regarding resources, energy, environmental conservation, etc. are becoming necessary. I would like to deepen my understanding while explaining the origin of the earth and the natural environment where sunlight is the only energy source, why it is necessary to build a sound material-cycle society.

[Learning Objectives]

It is understood that the global environment is a closed system, and in principle, there is no increase or decrease in elements, and substances do not enter or leave. Utilization of limited resources requires rules and must be fair. We confirm that effective use of natural energy with sunlight as the origin is essential from the viewpoint of environmental conservation and permanence. How does R & D lead to our lives? I want to be interested in environmental chemistry (science).

[Learning activities outside of classroom]

4 hours is the standard for studying outside class hours such as preparation and review of this class. For topics of particular interest, study to a level that will be helpful for the class, and ask questions during or after class hours. In addition, feel free to approach the instructor in charge after the class.

[Grading Criteria /Policy]

Evaluate 3 report assignments (75%) with normal points (25%) in mind.

Please note that all three reports must be submitted, and if even one report has not been submitted, it will not be possible.

BSP100LC

環境と資源

片谷 教孝

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題や資源枯渇の問題が注目されるようになって久しい。1980年代以降はかつての四大公害事件のような激甚な公害の新たな発生はないが、地球環境問題や有害化学物質の問題など、多くの問題が現在も存在している。また2011年3月の東日本大震災に伴う原発事故以降、放射線の問題が注目を集めるようになった。しかし、これらの問題が必ずしも市民に正しく理解されているとはいえないのが現実である。一方で、近年はSDGs(持続可能な開発目標)が国際社会に共通の理念とされ、すべての国民が必要な知識を持って取り組むことが求められるようになってきた。この授業では、SDGsの概念とともに、放射線を含む環境問題や、資源・エネルギー問題の全般を広く扱い、環境問題を直接の専門分野としない学生でも最低限知っておくべき知識を身につけることを目的とする。

【到達目標】

この授業では、環境問題（放射線を含む）や資源・エネルギーの問題、さらには国際的な共通目標であるSDGsの概念について、理工系学部の学生として最低限知っておくことが望ましい知識を身につける。また、これらの社会的な問題に対して、十分な問題意識を持てるような動機づけを行うことも目標の1つとする。特に、環境問題が学際的な領域であることから、理系に限定せず、文系の視点からも問題をとらえることができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

まず環境問題とは何かを理解するため、環境問題の歴史的経緯やその本質的な部分について解説する。その中で、近年なぜSDGsという考え方が出てきたのか、その目標は何であるのかを学ぶ。次いで環境問題を自然科学のみならず人文社会科学的な観点から理解し、さらに環境問題にどう取り組んでいく必要があるのかを各自で考えてもらう。また資源、エネルギーの問題は、環境問題と不可分な関係にあることから、世界や日本の地下資源やエネルギー資源の現状を解説し、資源の有効利用と保全をいかにして両立させるかを考える。また、通常の授業形式に戻った後については、比較的多人数が履修する科目であることから、双方向的な方法はとりにくいため、基本は講義形式で進める。ただし毎回最後に短い練習問題（ミニテスト）を課し、翌週それに対するコメントを返すことによって、最低限の双方向性を確保する。このミニテスト解答の提出は、平常点に反映される。春学期の授業は、原則として対面で行う。授業方式やミニテスト解答方法の詳細は、学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション・環境問題とは何か	講義の目的、講義の進め方、成績評価方法を説明する。後半では、環境とは何か、環境問題とは何か、という基本的な点を解説する。
第2回	環境問題の歴史的経緯とSDGs	人類が地球上に誕生してから現在に至るまでの、環境問題（公害問題）の歴史的な流れを解説する。また近年なぜSDGsの考え方が出てきたのかを解説する。
第3回	SDGsが目指すもの	現在提示されているSDGsの17の目標について解説し、我々がそれぞれにどう貢献できるかについて考える。
第4回	環境問題を自然科学の立場から理解する	地球の自然科学的なしくみを理解し、そこから環境問題が発生する根源的なしくみを理解する。
第5回	環境と生物	地球上に生命が誕生してから現在にいたる生物学的な歴史と、環境問題の関連性について考える。
第6回	近年の環境問題のトピックス（1）地球環境問題	地球環境問題の全容を解説する。また国際的な取り組みの状況や見通しについても概説する。
第7回	近年の環境問題のトピックス（2）化学物質問題	ダイオキシンや環境ホルモンに代表される、化学物質由来の環境問題の全容を解説する。
第8回	近年の環境問題のトピックス（3）放射線問題	放射線、放射能、放射性物質とは何かを解説し、原子力発電のしくみを学ぶ。次いで福島第一原発事故の影響の現状や、将来見通しについても解説する。
第9回	世界と日本の資源・エネルギーの現状と将来	世界全体や日本国内での資源採掘および利用の現状と、今後の需給見通しについて学ぶ。

第10回	日本の省エネルギーの現状と再生可能エネルギー	エネルギー消費を削減するための省エネの取り組みと、再生可能エネルギーの技術開発および導入状況について、日本の現状を中心に解説する。
第11回	環境問題と社会科学	環境問題を経済学、法学、社会学の切り口からとらえる考え方を学ぶ。
第12回	環境問題に取り組むために（1）（技術的取り組み）	環境問題を抑制するために、さまざまな技術的手法が適用されている。ここでは、環境問題に対する技術的な取り組みを歴史的にみて、その主要な手法を解説する。
第13回	環境問題に取り組むために（2）（社会的取り組み）	環境問題を抑制するための、経済学的、法学的、社会的な取り組みについて解説する。
第14回	環境問題に取り組むために（3）（環境リスク論）、全体の総括	環境問題によって人体にもたらされる負の影響は、環境リスクとしてとらえることができる。この環境リスク定量化の考え方と、そのリスクを提言するためのリスク管理の考え方を学ぶ。最後に学期全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境問題に関連する情報源は、マスコミ報道を中心に、我々の周囲に多数存在する。この科目では、そういう一般向けの情報源からいかに自主的に情報収集を行っているかが問われる。

【テキスト（教科書）】

片谷教孝・鈴木嘉彦「循環型社会入門」オーム社（2001年刊、1900円＋税、2020年度より電子出版に移行）を必須のテキストとする。毎週使用するとは限らないが、随時参照できるように、毎回携行すること。このテキストは初版から20年以上経過しているが、主要なデータは2012年の増刷時に改訂されている。このほかの最新データについては、プリントによって補う。なおこの教科書は、早い時期に通読（斜め読みでよい）しておくこと。履修者は教科書に目を通してあるという前提で授業を進める。また、授業の要点を記載したプリントは、毎回配布する。ただしこのプリントは、教科書を補足するためのものであり、教科書の代用となるものではない。

【参考書】

授業中に随時紹介する。環境問題に関する出版物は、非常に多く出版されている。それらの中には、科学的に正しくないものや、一部の情報を極端に強調したものなど、誤った理解を増幅するようなものも含まれている。正しい知識を得るために有益な参考書を授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の終了前10分程度の時間で、個々の学生の見解を問うための簡単な練習問題（ミニテスト）を課し、その解答提出をもって平常点とする。チェックの基準は解答内容の正誤ではなく、授業内容に基づいて自ら考えた解答であるかによって判定される。「特になし」などの解答や、白紙解答の場合は、平常点を与えられない。この平常点を50%、期末試験の得点を50%の割合で合算し、評価を行う。なお、ミニテストの解答を提出しても、講義開始から30分以上経過して入室した場合には平常点を与えられない。ただしこの30分の余裕は、交通機関の乱れ等による影響を吸収するためのものであり、30分遅刻してよいという意味ではないので、注意されたい。あくまでも始業時刻に着席していることが大原則である。

【学生の意見等からの気づき】

画像・映像情報の使用を増やす要望が毎年出ているので、今年度もなるべく多くのPowerpointスライドや映像情報を使用するように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

授業では映像情報やPowerpointのようなプレゼンテーションソフト上の情報を時折使用する。ただし学生に情報機器の使用を義務づけることはしない。ただしやむを得ずオンライン受講する場合には、言うまでもなくネットワーク接続された機器が必要になる。

【その他の重要事項】

担当教員は非常勤であるので、質問がある場合には毎回のミニテストの解答の中に記載することを推奨する。質問に対しては次週回答する。またメールでの質問も受け付ける。アドレスはkatatani@obirin.ac.jp（@を半角文字にして送信のこと）。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Environmental issues are very important social problems. It is necessary for every people to understand the mechanism of these issues, but at present, the necessity has not been performed yet. In addition, the concept of SDGs(Sustainable Development Goals) has become a internationally common sense. This lecture aims to study fundamental understandings of SDGs concept and environmental issues including global environmental issues, local issues, radioactive species, and so on.

[Learning Objectives]

The main objective of this class is to get enough knowledge on the environmental problems, resources and energy problems, and the concept of SDGs as a internationally common goals. Another objective is to have a mind to have a interest on these social problems. Particularly, as the environmental problems are interdisciplinary issues, it is important for the students to be able to understand a problem from the viewpoint of not only natural sciences but also social sciences.

[Learning activities outside of classroom]

"The standard study time outside of classroom is not less than 4 hours."

The information related to the environmental issues can be obtained from the mass-media news, internet websites, newspapers, and so on . It is important for students to gather those information by themselves.

[Grading Criteria/Policy]

An short exercise (mini-test) is conducted to ask the opinion of individual students in the last 10 minutes of the class every week. The answer of the mini-test is reflected to the normal point. In the case that the answer is "nothing" or a blank paper answer, no normal point is assigned. The total of the normal point is counted as 50% of the total score. another 50% is evaluated by the term-end examination in July.

BSP100LC

宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

太陽系外惑星、ダークマター、オーロラなど、宇宙や地球に関する最近の研究結果を題材として、それぞれの現象の理解、地球と宇宙との関係や歴史について講義する。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	運動の法則	ニュートンの運動法則と万有引力の法則について
第 3 回	星の運動	重力に基づく運動の例として、惑星の運動や、銀河内部の恒星の運動について
第 4 回	地球上での運動	空気抵抗や自転による慣性力等地球上における運動について
第 5 回	電磁気の法則	電磁気現象の基本的法則について
第 6 回	物の色と光 (1)	光の現象の例として、地上の風景、物の温度と色との関係等について
第 7 回	物の色と光 (2)	光の干渉や屈折による現象、原子スペクトル等について
第 8 回	オーロラと地磁気	オーロラの発光機構、オーロラと太陽、オーロラと地磁気等、オーロラ現象の物理学について
第 9 回	宇宙の歴史	宇宙の歴史を知るための方法や、宇宙の始まりについて
第 10 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生と死について
第 11 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星内部で起こっている元素合成と、星の一生との関係について
第 12 回	太陽系の形成	我々の太陽系の形成過程について
第 13 回	地球の物理	地球の表面のプレート運動や地球の内部構造に関する最近の話題について
第 14 回	系外惑星	太陽系外惑星の探査の方法とその最近の成果について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。 また、別途提示する演習問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J.T.Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- ・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」 アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
- 「基礎物理学」 第3版 原 康夫 著（学術図書出版社、2006）
- （その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。

配分は、期末試験の結果を6割とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn recent research results of various phenomena in the universe and the earth such as the aurora, the existence of extrasolar planets, dark matter, etc.

At the end of the course, students are expected to deepen the understanding of the universe and the earth: history and their relations. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination(60%) and in class contribution including short reports (40%).

BSP100LC

宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

太陽系外惑星、ダークマター、オーロラなど、宇宙や地球に関する最近の研究結果を題材として、それぞれの現象の理解、地球と宇宙との関係や歴史について講義する。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	運動の法則	ニュートンの運動法則と万有引力の法則について
第 3 回	星の運動	重力に基づく運動の例として、惑星の運動や、銀河内部の恒星の運動について
第 4 回	地球上での運動	空気抵抗や自転による慣性力等地球上における運動について
第 5 回	電磁気の法則	電磁気現象の基本的法則について
第 6 回	物の色と光 (1)	光の現象の例として、地上の風景、物の温度と色との関係等について
第 7 回	物の色と光 (2)	光の干渉や屈折による現象、原子スペクトル等について
第 8 回	オーロラと地磁気	オーロラの発光機構、オーロラと太陽、オーロラと地磁気等、オーロラ現象の物理学について
第 9 回	宇宙の歴史	宇宙の歴史を知るための方法や、宇宙の始まりについて
第 10 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生と死について
第 11 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星内部で起こっている元素合成と、星の一生との関係について
第 12 回	太陽系の形成	我々の太陽系の形成過程について
第 13 回	地球の物理	地球の表面のプレート運動や地球の内部構造に関する最近の話題について
第 14 回	系外惑星	太陽系外惑星の探査の方法とその最近の成果について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する演習問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J.T.Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
 - ・「世界のたね－真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
 - 「基礎物理学」第3版 原 康夫 著（学術図書出版社、2006）
- （その他必要に応じて、授業内で紹介する）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。

配分は、期末試験の結果を 6 割とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために授業支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn recent research results of various phenomena in the universe and the earth such as the aurora, the existence of extrasolar planets, dark matter, etc.

At the end of the course, students are expected to deepen the understanding of the universe and the earth: history and their relations. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination(60%) and in class contribution including short reports (40%).

BSP100LC

生命の起源と進化

田島 寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命はどのように誕生し、進化してきたのか？
現在の知見を元にその道筋を概説する。

【到達目標】

始原生命の発生から人類の誕生に至るまでの生物進化の経緯について、科学的に説明できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回で、授業内容を理解するための基本的な知識について説明し、その後生命の誕生と進化について概説する。高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う。またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	進化とは何か	生物進化の歴史の概略と進化論
2	生体高分子	生命を構成する生体高分子の構造と機能、セントラルドグマ
3	生物の分類法	生物の分類法と五界説・三ドメイン説
4	生命の起源	最初期の生体高分子及び始原生物
5	原核生物の時代	原核生物の概略及び代謝／光合成による大気成分の変化
6	真核生物の誕生	オルガネラの起源と共生説
7	多細胞生物の誕生	多細胞生物の起源と細胞の分化
8	カンブリア紀の進化大爆発	カンブリア紀に起きた生物の爆発的多様化
9	オルドビス紀～シルル紀	魚類と植物の進化
10	デボン紀～石炭紀	脊椎動物の地上進出
11	ペルム紀	単弓類の台頭と末期の大絶滅
12	三畳紀～ジュラ紀	恐竜の誕生と繁栄
13	白亜紀	気候変化と植物相交代に伴う恐竜の勢力変化、そして絶滅
14	哺乳類の台頭と人類の起源	哺乳類の時代を経て私たちへと至る進化の過程

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は 2-3 時間程度を標準とする。配付資料と授業ノートをよく読み返し、内容を十分に理解すること。生物の起源と進化に関連する書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に学期末に行う試験で評価する。
授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

板書が読みにくい旨の指摘が多かったので改善する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline】

How did life come into being and how did it evolve?

This lecture outlines the pathway based on current knowledge.

【Objectives】

The object of this course is to enable students to scientifically explain the history of biological evolution from the development of primordial life to the birth of humans.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read books related to the origin and evolution of organisms to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BSP100LC

生命の起源と進化

石黒 亮

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命はどのように誕生し、現在の我々に至るまで進化してきたのか？
 生命の誕生からヒトの誕生に至るまでのその道筋を時系列順に概説する。

【到達目標】

受講生が、『生物の進化』の概念を理解し、生命の誕生から人類の誕生に至るまでの歴史を把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で生物学を履修しなかった学生もフォローできるように、視覚的資料を多数用意し平易な表現を用いて生命の誕生と進化について概説する。
 課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は、原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	講義内容の概説と現代の地球上の生物の多様性について。
第 2 回	細胞・生体高分子	生物の構成単位である細胞とそこに含まれる生体内高分子の働きについて。
第 3 回	進化論	自然発生説と進化論。
第 4 回	生命の起源	始原地球の環境と生命の誕生。
第 5 回	光合成細菌の誕生	光合成について。
第 6 回	好気呼吸の発明	酸素を利用したエネルギー獲得方法の誕生。
第 7 回	真核生物の誕生	真核生物の誕生と細胞分化による役割分担。
第 8 回	多様な生物の出現	先カンブリア時代及びカンブリア大爆発と無脊椎動物の進化。
第 9 回	海洋生物の繁栄と陸上進出	脊椎動物の誕生および動植物の上陸戦略。
第 10 回	両生類と爬虫類の進化	肺を得た動物の適応放散と形態変化。
第 11 回	恐竜の時代	地球規模で起こった大量絶滅。恐竜や大型ハチュウ類の進化と繁栄、その絶滅
第 12 回	鳥類と哺乳類の進化	鳥類と哺乳類の環境適応と恒常性および繁殖。
第 13 回	現世人類の登場	類人猿の進化と現世人類の誕生。
第 14 回	病原体と進化	ウイルス、寄生生物の起源と進化、RNA ワールド仮説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料や授業支援システムにアップロードされたファイルを参照し、内容を予習・復習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しないが、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績の評価はレポートの提出により行う。加えて、講義内容を確認する為の小テストを講義時間中に実施する場合がある。具体的な方法と基準は、講義の中で伝える。

成績評価要素：平常点（25%）、小テスト（25%）、レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを活用する。

【Outline (in English)】

How has life occurred and has evolved to the present? Outlines the path from the origin of life to the emergence of humans. The goal is to enable students to understand the concept of "Evolution of living things" and to understand the history from the birth of life to the birth of humankind. This lecture requires the submission of a report to evaluate grades. In addition, quizzes to confirm the content of the lecture may be held during the lecture time. The specific procedure will be given in the lecture.

Grade evaluation factors: Normal score (25%), quiz (25%), report (50%)

BSP100LC

生命の起源と進化

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命はどのように誕生し、進化してきたのか？
現在の知見を元にその道筋を概説する。

【到達目標】

始原生命の発生から人類の誕生に至るまでの生物進化の経緯について、受講学生が科学的に説明できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回で、授業内容を理解するための基本的な知識について説明し、その後生命の誕生と進化について概説する。高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う。またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する。
課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	進化とは何か	生物進化の歴史の概略と進化論
2	生体高分子	生命を構成する生体高分子の構造と機能、セントラルドグマ
3	生物の分類法	生物の分類法と五界説・三ドメイン説
4	生命の起源	最初期の生体高分子及び始原生物
5	原核生物の時代	原核生物の概略及び代謝／光合成による大気成分の変化
6	真核生物の誕生	オルガネラの起源と共生説
7	多細胞生物の誕生	多細胞生物の起源と細胞の分化
8	カンブリア紀の進化大爆発	カンブリア紀に起きた生物の爆発的多様化
9	オルドビス紀～シルル紀	魚類と植物の進化
10	デボン紀～石炭紀	脊椎動物の地上進出
11	ペルム紀	単弓類の台頭と末期の大絶滅
12	三畳紀～ジュラ紀	恐竜の誕生と繁栄
13	白亜紀	気候変化と植物相交代に伴う恐竜の勢力変化、そして絶滅
14	哺乳類の台頭と人類の起源	哺乳類の時代を経て私たちへと至る進化の過程

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は 2-3 時間程度を標準とする。配付資料と授業ノートをよく読み返し、内容を十分に理解すること。生物の起源と進化に関連する書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に学期末に行う試験で評価する。
授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

板書が読みにくい旨の指摘が多かったので改善する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline】

How did life come into being and how did it evolve?

This lecture outlines the pathway based on current knowledge.

【Objectives】

The object of this course is to enable students to scientifically explain the history of biological evolution from the development of primordial life to the birth of humans.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read books related to the origin and evolution of organisms to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BSP100LC

生物の多様性

青木 誠志郎、柴尾 晴信

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上の生物はその誕生以来約 40 億年という歴史の中、さまざまな環境に適応し多様化を遂げてきました。多様な生物が示す性質の中には、現在の科学で解明によりやく近づきつつある謎がたくさんあります。例えば、アリやハチにはなぜ社会的な行動が見受けられるのでしょうか？ メスとオスの形の違いは、なぜ存在するのでしょうか？ 果たして DNA や遺伝子の研究で、生物の形や性質の多様性は、すべて説明できるのでしょうか？ 本講義では第一に、これらの謎の不思議やその面白さについて、具体的な紹介から始めます。そして、生物の特徴が世代と共に変化し環境に適応する基本的な仕組みの解明の学問である、進化学や生態学を理解することで、そのような謎に迫る研究とその方法について解説します。さらに進化が生み出した生物多様化の結果とその歴史、そして生物同士の関わり合いを学び、ヒトを含めた生物の多様性と自然環境全体との関係を考えることを、全体の目的とします。

【到達目標】

生物同士あるいは生物と環境（生物も環境の一部であることに注意）の関わりについて興味と関心をもち、生物の階層としての遺伝子-個体-集団の理解を背景に、生物の多様性と進化についての普遍的な考え方と、それら原理の理解を深めることを第一の目標とします。さらに、生物多様性の減少が将来の地球環境に及ぼす影響を理解し、生態系の保全方法について科学的な視点から捉えて評価・提案できる応用的な能力を養成することを第二の目標とします。具体的には、以下のようなことがらの理解を目指します。

- ・進化の概念について社会通念と科学的考え方の違いを説明できる。
- ・「そもそも生物にとって環境とは何か？」の問いを元に、生物が環境に適応する機構を説明できる。
- ・生物個体は他の生物と関わりながら、お互いに支えあって生きていることを説明できる。
- ・生物と自然環境の関わりを推論できる。
- ・生物個体にとって自分以外の周りのものはすべて環境であること、（そして環境の一部である生物も進化するので）生物的環境は一定ではないことを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業8回とオンライン授業6回を予定しています。対面授業は第4～8回と第10, 12, 14回とし、オンライン授業は第1～3回、第9、11, 13回といたします。第1回は Hoppii を用いたオンライン授業なのでどうぞご注意ください。また、2名の教員（柴尾晴信、青木誠志郎）が分担して授業をおこないます。初回～第7回の講義は柴尾が行い、第8回～第14回の講義を青木が担当する予定です。講義はパワーポイントと配布プリントを用いておこないます。また、毎回の授業で、リアクションペーパー（講義を受けて感じたこと・質問・要望）あるいは簡単な宿題（質問欄付き）を出し、後の講義で回収・回答する予定です。変更があった場合、詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	柴尾 1: 性の進化と多様性	性の起源と役割、生殖多様性
第2回	柴尾 2: 性の進化と多様性	雄と雌はなぜ姿が異なるのか？ 性的二型と性淘汰
第3回	柴尾 3: 生活史の多様性	自然淘汰、適応、トレードオフ
第4回	柴尾 4: 生物間相互作用	生物環境に対する適応：共進化と軍拡競争
第5回	柴尾 5: 信号・コミュニケーション	種内・種間コミュニケーションの多様性、信号の発信者と受信者の共進化
第6回	柴尾 6: 社会性・協力行動	社会性進化と血縁淘汰、包括適応度
第7回	柴尾 7: 社会性昆虫はなぜ進化したのか？	社会性進化の生態的条件、昆虫社会内の遺伝的多様性と利害対立
第8回	青木 1: 社会性・協力行動をもう一歩深める	協力行動とゲーム理論
第9回	青木 2: 性の進化をもう一歩深める	性比の計算
第10回	青木 3: 生物の多様性の調べ方	系統学
第11回	青木 4: 生物の多様性の歴史	分子系統学
第12回	青木 5: ウィルスから多様性を考える 1	突然変異
第13回	青木 6: ウィルスから多様性を考える 2	進化学

第14回 生物の集団の考え方 集団遺伝学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。レポート課題あるいは宿題、リアクションペーパーなどを活用してください。また授業の配布資料を読んで準備学習や復習をして欲しいと考えています。

【テキスト（教科書）】

特定のものは指定しません。講義の理解に必要な内容は、全て配布しますので、ご安心ください。授業中あるいは Web 上で、随時プリントとして配ります。

【参考書】

C. ジンマー著「進化-生命のたどる道」岩波書店
ニコラス・H. パートンら著「進化—分子・個体・生態系」メディカルサイエンスインターナショナル
D. サダヴァ他著「カラー図解アメリカ版大学生物学の教科書第4巻 進化生物学」講談社（ブルーバックス）
日本生態学会編「生態学入門」第2版、東京化学同人
日本生態学会編「行動生態学」共立出版
デイビス・クレブス・ウェスト著「行動生態学」原著第4版、共立出版
Jon C. Herron 他著「Evolutionary Analysis」Pearson
木村資生著「生物進化を考える」岩波新書
スティーヴン・ジェイグールド著「ダーウィン以来—進化論への招待」早川書房
その他、参考書は授業時間内に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや宿題を含めた平常点とレポートで 50%、期末試験 50%程度で評価します。質問など授業への積極的な参加を平常点として評価に含めます。

【学生の意見等からの気づき】

質問や要望をいつでも応募しています。早急に授業に反映させたいと考えています。分かりやすい授業への対応を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

講義の順序や内容は、大学あるいは教員の都合により変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces biodiversity science to students. Biodiversity science is an emerging and highly integrative field of research dealing with all aspects of biological diversity and the relationship among living organisms. It also deals with the history of life in the world and the cause of why various organisms and their relationships have been originated and maintained on earth. This course will incorporate ecological and evolutionary perspectives to understand the various subjects such as the tree of life, the taxonomy of organisms, biological interaction, animal communication, social behavior, sexual reproduction, and sexual dimorphism. We will also address approaches and techniques for the analyses of ecology, ethology, phylogeny, and evolutionary biology.

【Learning Objectives】

Students who successfully complete this course will be able to:

- Understand the sources of genetic variation, evolutionary process, and consequent biodiversity.
- Explain the importance of biological interactions and signals for social behavior.
- Show the methods of how to draw a timeline of the history of life on earth.
- Explain why sexual reproduction and dimorphism are present in many organisms.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to read the handouts. You will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is about four hours for each class meeting.

【Grading Criteria / Policy】

Overall grade in the class will be decided based on the assignments and reports (50%) and term-end examination (50%), and in-class contribution.

BSP100LC

生物の多様性

村上 雄秀

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物多様性は「豊かな生物的自然」を意味し、人類の生存・文化の根源として、また環境の指標としてその保全・再生が地球規模での課題とされている。本講義では「生物多様性とその保全への生態学的アプローチ」をテーマに、主に群集生態学の視点から、生物多様性の3レベルの中のマクロな2レベル：種の多様性、生態系の多様性を中心とし、生物多様性の具体的な内容とその成り立ちなどを学ぶ。

【到達目標】

生態学的な観点に立った生物多様性の内容を理解する。
地球上の生物多様性の発展と進化、共存のメカニズムなどについて理解する。
日本の生態系レベル（植生）の多様性について学びその特性を考察する。
生物多様性の概念を理解し、その保全の目的と社会的背景を理解する。
生物多様性の評価法を理解し、保全手法の立案を提案できる基礎を構築する。
秋学期は概念的な内容に重きを置いた講義とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

原則的にパワーポイントを用いた対面講義形式で行う。

社会状況の変化などで部分的にオンライン講義に変更する場合もある。
また野外観察・記録を含む課題提出を行う可能性があるので学習支援システムなどを注意すること。

オンライン形式で実施された場合は教材の配布と課題提出で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・生態学的視点とは	講義全般のガイダンス、生態学的視点、学名と和名
第2回	植物の形態的多様性Ⅰ－生活形とは－	生活形概論；系統分類との視点の違い
第3回	植物の形態的多様性Ⅱ－休眠形－	ラウンケアの休眠形はなぜ未だに使われるか
第4回	植物の形態的多様性Ⅲ－生育形－	生育形の種類と競争に勝つ戦略
第5回	植物の形態的多様性Ⅳ－種子散布形－	種子散布形；如何に子孫を増やすか
第6回	多様性の分化機構Ⅰ－生態的最適域－	生物社会の中の競争と共存
第7回	多様性の分化機構Ⅱ－ニッチとすみわけ－	ニッチ・すみわけ；生き残るための「空間」
第8回	多様性の分化機構Ⅲ－適応戦略－	適応戦略；どのような戦略で生き残るか
第9回	生物のマクロ多様性Ⅰ－植生の類型化－	植生の類型化；植生と生態系の分類学
第10回	生物のマクロ多様性Ⅱ－日本の植生Ⅰ－	日本の照葉樹林
第11回	生物のマクロ多様性Ⅲ－日本の植生Ⅱ－	日本の夏緑広葉樹林／常緑針葉樹林
第12回	生物のメゾ多様性－群落のすみわけ－	植物群落のすみわけ；様々な植物集団と環境との結びつき
第13回	生物多様性概論Ⅰ－生物多様性とは何か－	生物多様性の概念とその現状
第14回	生物多様性概論Ⅱ－生物多様性の評価と保全－	生物多様性保全の為に指標と評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の復習等の授業時間外学習は、2～3時間を標準とする】
生物、特に植物の和名、学名を多数用いるのでネットなどで実物を参照する。
野外観察も含む課題には図鑑などによる自習が必要。

【テキスト（教科書）】

特定のものは無い。

【参考書】

初回講義時および講義中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は期末の試験（記述式、ノートなどの持ち込み不可）による。
課題が提示された場合は提出物の評価も成績に反映される。

【学生の意見等からの気づき】

・講義内容を「知る」だけでなく自分なりに理解し考える。
・疑問があったら講義時、課題提出時などに質問し解決しておく。
＜対面講義の場合＞
・プリントなどの配布は予定していない
・授業中のスライドの写真撮影などは禁止
・講義の進行スピードに関してはその都度調整する
以上を承知の上で受講されたい。

【学生が準備すべき機器他】

＜オンライン講義の場合＞
課題提出に当たっては写真撮影機器（スマートフォンでも可）が必要。
提出課題の作成には Word および PDF ファイルの作成が必須

【その他の重要事項】

対面講義はパワーポイントを用いたスライド映写形式で行う。
講義内容、順序は進捗状況の変化などにより適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, the theme is “Ecological Approach to Biodiversity and its Conservation”, and we will mainly learn from the perspective of community ecology. Topics include two macro levels out of three levels of biodiversity; species diversity and ecosystem diversity. Learn the various elements of biodiversity and how they are formed.

Learning Objectives:

Understand the content of biodiversity from an ecological point of view.

Understand the development and evolution of biodiversity on the earth, the mechanism of coexistence, and so on.

Learn about the diversity of Japan's ecosystem level (vegetation) and consider its characteristics.

Understand the concept of biodiversity and understand its conservation objectives and social background.

Understand biodiversity assessment methods and build a base for planning conservation methods.

Learning activities outside of classroom：

It takes several hours of self-study after the lecture to fully understand the content of the lecture.

Grading Criteria：Term-end examination:100%

(However, you may be asked for reports that includes field observations during the lecture. In that case, the evaluation of the reports are also included in the grade.)

BSP100LC

生物の多様性

村上 雄秀

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物多様性は「豊かな生物的自然」を意味し、人類の生存・文化の根源として、また環境の指標としてその保全・再生が地球規模での課題とされている。本講義では「生物多様性とその保全への生態学的アプローチ」をテーマに、主に群集生態学の視点から、生物多様性の3レベルの中のマクロな2レベル：種の多様性、生態系の多様性を中心とし、生物多様性の具体的な内容とその成り立ちなどを学ぶ。

【到達目標】

生態学的な観点に立った生物多様性の内容を理解する。
地球上の生物多様性の発展と進化、共存のメカニズムなどについて理解する。
日本の生態系レベル（植生）の多様性について学びその特性を考察する。
生物多様性の概念を理解し、その保全の目的と社会的背景を理解する。
生物多様性の評価の手法を理解し、保全手法の立案を提案できる基礎を構築する。
春学期は各論的な内容に重きを置いた講義とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式
原則的にパワーポイントを用いた対面講義形式で行う。
社会状況の変化などで部分的にオンライン講義に変更する場合もある。
また野外観察・記録を含む課題提出を行う可能性があるので学習支援システムなどを注意すること。
オンライン形式で実施された場合は教材の配布と課題提出で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・生態学的視点とは	講義全般のガイダンス。生態学的視点
第2回	植物の形態的多様性Ⅰ－生活形とは－	生活形分類の意義、系統分類との違い
第3回	植物の形態的多様性Ⅱ－休眠形－	ラウンケアの休眠形の持つ意味
第4回	植物の形態的多様性Ⅲ－生育形－	地上部の形態。生き残るための戦略
第5回	植物の形態的多様性Ⅳ－種子散布形－	種子散布形：植物はどのように「移動」するか
第6回	生物のマクロ多様性Ⅰ－植生の類型化－	生態系の多様性の解析のための植生の類型化
第7回	生物のマクロ多様性Ⅱ－日本の植生とその位置づけ－	世界の植生・日本の植生：日本の自然の特異性
第8回	生物のマクロ多様性Ⅲ－照葉樹林－	日本の植生：ヤブツバキクラス
第9回	生物のマクロ多様性Ⅳ－夏緑広葉樹林－	日本の植生：ブナクラス
第10回	生物のマクロ多様性Ⅴ－常緑針葉樹林－	日本の植生：コケモモトウヒクラス
第11回	生物のメゾ多様性－植物群落のすみわけ－	植物群落のすみか：環境と植物の結びつき
第12回	植生の時間的多様性－遷移－	植生の遷移：植生の動的な多様性とその機構
第13回	生物多様性概論Ⅰ－生物多様性とは何か－	生物多様性の概念と提唱された目的
第14回	生物多様性概論Ⅱ－生物多様性の評価と保全－	多様性の評価方法と保全に用いる指標

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の復習等の授業時間外学習は、2～3時間を標準とする】
生物、特に植物の和名、学名を多数用いるのでネットなどで実物を参照する。
野外観察も含む課題には図鑑などによる自習が必要。

【テキスト（教科書）】

特定のものは無い。

【参考書】

初回講義時および講義中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は期末の試験（記述式、ノートなどの持ち込み不可）による。

課題が提示された場合は提出物の評価も成績に反映される。

【学生の意見等からの気づき】

・講義内容を「知る」だけでなく自分なりに理解する。
・疑問があったら講義時、課題提出時などに質問し解決しておく。
＜対面講義の場合＞
・プリントなどの配布は予定していない
・授業中のスライドの写真撮影などは禁止
・講義の進行スピードに関してはその都度調整する
以上を承知の上で受講されたい。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出に当たっては写真撮影機器（スマートフォンでも可）が必要。
提出課題の作成には Word および PDF ファイルの作成が必須

【その他の重要事項】

対面講義はパワーポイントを用いたスライド映写形式で行う。
講義内容、順序は進捗状況の変化などにより適宜変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, the theme is “Ecological Approach to Biodiversity and its Conservation”, and we will mainly learn from the perspective of community ecology. Topics include two macro levels out of three levels of biodiversity; species diversity and ecosystem diversity. Learn the various elements of biodiversity and how they are formed.

Learning Objectives:

Understand the content of biodiversity from an ecological point of view.
Understand the development and evolution of biodiversity on the earth, the mechanism of coexistence, and so on.

Learn about the diversity of Japan's ecosystem level (vegetation) and consider its characteristics.

Understand the concept of biodiversity and understand its conservation objectives and social background.

Understand biodiversity assessment methods and build a base for planning conservation methods.

Learning activities outside of classroom：

It takes several hours of self-study after the lecture to fully understand the content of the lecture.

Grading Criteria：Term-end examination:100%

(However, you may be asked for reports that includes field observations during the lecture. In that case, the evaluation of the reports are also included in the grade.)

BSP100LC

物質科学と先端技術

尾池 秀章

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質科学は自然現象を明らかにするだけでなく、先端技術の開発基盤となる学問である。身のまわりの物質が、環境問題、エネルギー問題、社会生活にどのように関わっているかを意識しながら、その性質について概説する。理系学生の一般教養レベルとして知っておくべき事項および考え方を身につける。

【到達目標】

物質の構成要素を理解する。物質の様々な機能の発現機構を理解する。社会生活に物質科学がどのように応用されているかを理解する。また環境問題、エネルギー問題に対して、物質科学の観点から自身の考えをもてるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なテーマとして「空気」「オゾン層」「温暖化」「エネルギー」「水」「酸性雨」「原子力」「次世代エネルギー」「高分子材料」「生命に関わる科学技術」をとりあげ、配布するプリントに沿って概説する。またテーマごとに内容の理解度をはかり自身の考えを問う小テストを行う。なお、基本的には授業計画に沿って進めるが、授業進度等により適宜変更することがある。また課題等に対しては、必要に応じて学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。原則として対面で授業を行う予定であるが、状況によってオンラインでの講義回も取り入れることがある。詳細は学習支援システム等で伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、および 空気と物質科学	最初に授業の進め方について説明する。「空気と物質科学」では、空気の組成などを例にとりながら、物質のものと成る、元素、化合物に対する理解を深める。
第 2 回	空気と物質科学	第 1 回に引き続き、「空気と物質科学」をテーマに、大気汚染物質とはどのようなものかについても概説する。
第 3 回	オゾン層における物質科学	オゾンによる紫外線の遮蔽などを考えることによって、光のエネルギーが物質に与える影響について理解を深める。またオゾンの破壊にどのような物質が関わっているかについても考える。
第 4 回	地球温暖化に関わる物質	二酸化炭素の増大は地球を温暖化させると言われている。二酸化炭素のもつ温室効果ガスとしての働きを通して、分子の基底状態と励起状態を知る。また炭素の循環を考え、質量や物質量の概念についても概説する。
第 5 回	エネルギーと物質	人間社会の営みは、エネルギーの生産と消費という視点でもとらえることができる。エネルギーの変換を熱力学的な観点および分子レベルでの変化で考える。また石炭、石油といったエネルギー源について概説する。
第 6 回	水と物質科学	水は地球上で最も重要な物質であると言える。水は様々な物質を溶かすが、この溶解という事象を物質科学的な観点から理解する。また飲料水として利用するための浄水技術、海水の淡水化技術などについて概説する。
第 7 回	酸性雨に関わる物質	酸性雨の原因、影響を考えることで、酸・塩基について再確認する。また大気汚染物質とそれらの浄化に向けた技術、あるいは施策などについて概説する。
第 8 回	原子力と物質科学 1	核分裂で電力が生まれる仕組みについて理解することは重要である。ここでは原子力発電で生成する放射性廃棄物の取り扱いも含めて概説する。
第 9 回	原子力と物質科学 2	原子力については社会的な課題と絡まった複雑な部分もある。ここでは、科学者としての立場から問題をどうとらえるかについて考える。

第 10 回 次世代エネルギーと物質科学 1

燃料の燃焼によるエネルギー生産は、資源的、環境的課題を含んでいる。一方、化学的エネルギーを電気的エネルギーに変換するシステムである電池は次世代エネルギーとして発展する可能性をもつ。ここでは電池一般について概説する。

第 11 回 次世代エネルギーと物質科学 2

次世代エネルギーとして期待されている燃料電池、太陽電池について概説する。

第 12 回 高分子材料の構造と機能 1

プラスチックに代表される高分子材料は、人類の生活に欠かせないものとなっている。ここでは、プラスチックスやゴム、繊維といった身近にある高分子材料について概説する。

第 13 回 高分子材料の構造と機能 2

高分子は、小さな分子が多数連結してできているものであるが、その合成法の分類や特徴について概説する。

第 14 回 生命に関わる科学技術

遺伝子工学などいくつかのトピックについて概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業において各テーマに関するプリントを配布するので、それについて個人で調べたり考えたりしておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。プリントを配付する。

【参考書】

実感する化学（上下巻）：廣瀬千秋（翻訳）、エヌ・ティー・エス
また、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25 %）

内容の理解度をはかり自身の考え方を問う小テスト（テーマごとに 9 回、授業時間内及びオンライン課題にて行う）（75 %）

【学生の意見等からの気づき】

資料の見やすさについて引き続き改善する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Material science is powerful tool to develop advanced technologies as well as to understand the nature of life. In this lecture, how materials play a critical role in a human life including the world's environmental and energy matters is discussed. Not only for the students in chemistry course but also for the students who are not major in chemistry, the series of lectures show the typical topics of material science.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand classification of matter and basic chemical and physical properties of matter.
- To understand how material science contributes to our life and society.
- To express own opinions concerning various environmental problems.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: quizzes for each topic (75%) and in-class contribution (25%).

LANe100LC

英語中級コミュニケーション

長谷川 秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。ニュース英語を使いながら、グローバル社会における英語の役割を考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

【到達目標】

この授業では各トピックに関する語彙を確認しながら各自が自分の意見や考えを英語で表現できるようにしていく。グループワークやミニプレゼンテーションを通じて練習をしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

There will be many pair and group activities in class to practice conversing and discussing in English. Students will also make mini presentations almost every week. Students are asked to express their opinions and thoughts in English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	How to use the textbook. Things we do in class.
第 2 回	Unit 1 The Challenging of Teaching English amid Coronavirus (1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第 3 回	The Challenging of Teaching English amid Coronavirus (2)	News Story Review the Key Expressions Discussion
第 4 回	Unit 3 A Bitter Taste for Healthy Fish (1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第 5 回	A Bitter Taste for Healthy Fish (1)	Mini presentation News Story Review the Key Expressions Discussion
第 6 回	Unit 4 Robots Luring Diners Back (1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第 7 回	Robots Luring Diners Back (2)	Mini presentation News Story Review the Key Expressions Discussion
第 8 回	Robots Luring Diners Back (1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第 9 回	Robots Luring Diners Back (2)	Mini presentation News Story Review the Key Expressions Discussion
第 10 回	Teaching About Black Lives Matter(1)	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第 11 回	Teaching About Black Lives Matter(2)	Mini presentation News Story Review the Key Expressions Discussion
第 12 回	Space Development	Mini presentation Group work Before You Watch, Watch the News, Understand the News
第 13 回	Presentation Exam (1)	Select one Unit and present your opinion
第 14 回	Presentation Exam (2)	Select one Unit and present your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

授業で出される課題や教科書の準備と終わったところの確認をしていく。教科書の問題やグループワークやミニプレゼンの用意をし授業参加をすること。

【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 5 (purple one)

Tatsuro Yamazaki, Stella M. Yamazaki (2022) KINSEIDO

ISBN978-4-7647-4144-7

【参考書】

Students should bring a dictionary to class every week.

【成績評価の方法と基準】

課題、ミニプレゼンテーション 50%

期末試験（プレゼンテーション、スクリプト）50%

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students who wish to attain a high grade and be more successful in expressing themselves in English should come to class every week. Students who have five or more unexcused absences will probably fail the course. Students who miss the scheduled midterm evaluation should have a good excuse for their absence. The evaluation will be rescheduled. Students who miss the final exam must present a certified excuse to the office as quickly as possible. In that case, the instructor and student will agree to reschedule or another alternative manner of evaluating the student's progress in the course.

【Outline (in English)】

This course is intended for students who already feel fairly comfortable talking about everyday situations in English and want to be able to express themselves with more depth and precision. We aim to improve not only the 4 skills, but also vocabularies, grammar and sentence structures.

Students will learn to discuss topics of general interest with an emphasis on expressing themselves. They will become more comfortable making short individual or group presentations in class. They will learn vocabularies related to the topics covered.

Students should expect to do homework every week to prepare for the activities in class. Most often this will consist of making notes for group discussions or presentations so that students are ready to participate. Evaluation criteria is as follows;

Mini presentation 50% and assignment 50%.

LANe100LC

英語中級コミュニケーション

KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will be emphasized. Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board. Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction and explanation	Get to know your teacher and each other. Learn what is expected of you in class.
2	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
3	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
4	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
5	Unit 4 You Are What You Eat	Free talk Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
6	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
7	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	UNITS 1-5 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

8	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
9	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
10	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
11	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
12	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
13	FINAL EXAMINATION Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
14	FINAL EXAMINATION: Part 2 (speaking test)	UNITS 7-11 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley & Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (speaking test): 20%
Final examination (paper test): 20%
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will be emphasized.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%

Homework assignments: 20%

Mid-term examination (speaking test): 20%

Final examination (paper test): 20%

Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC

英語中級コミュニケーション

KOPROWSKI MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will be emphasized. Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board. Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction and explanation	Get to know your teacher and each other. Learn what is expected of you in class.
2	Unit 1 Good to Meet You	Key Vocabulary: Meeting someone for the first time Speaking/Listening: Meeting someone new Conversation Strategy 1: Meeting people Conversation Strategy 2: Bouncing
3	Unit 2 It Runs in the Family	Key Vocabulary: Physical and personality adjectives Speaking/Listening: Family Conversation Strategy 1: Getting time to think Conversation Strategy 2: Asking for More information
4	Unit 3 School Daze	Key vocabulary: School Speaking/Listening: School life Conversation Strategy 1: Agreeing Conversation Strategy 2: Disagreeing
5	Unit 4 You Are What You Eat	Key Vocabulary: Food Speaking/Listening: Food and exercise Conversation Strategy 1: Getting more information Conversation Strategy 2: Getting more details
6	Unit 5 Shop Till You Drop Unit 6 TGIF (Review 1)	Key Vocabulary: Shopping Speaking/Listening: Going shopping Conversation Strategy 1: Explaining Conversation Strategy 2: Body language
7	MID-TERM EXAMINATION (speaking test)	UNITS 1-5 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

8	Unit 7 Friends	Key vocabulary: Friends Speaking/Listening: Friends Conversation Strategy 1: Using tag questions Conversation Strategy 2: Giving compliments
9	Unit 8 Road Trip	Key Vocabulary: Travel Speaking/Listening: Travel Conversation Strategy 1: Making suggestions Conversation Strategy 2: Responding to suggestions
10	Unit 9 Blind Date	Key vocabulary: Dating Speaking/Listening: Dating Conversation Strategy 1: Checking for understanding Conversation Strategy 2: Summarizing
11	Unit 10 Job Hunting	Key vocabulary: Work Speaking/Listening: Work Conversation Strategy 1: Changing direction Conversation Strategy 2: Changing the topic
12	Unit 11 Let's Catch a Flick	Key vocabulary: Movies Speaking/Listening: Movies Conversation Strategy 1: Sharing news Conversation Strategy 2: Reacting to news
13	FINAL EXAMINATION Part 1 (paper test)	Practice for final speaking examination
14	FINAL EXAMINATION Part 2 (speaking test)	UNITS 7-11 7 to 8-minute speaking test (in pairs)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly out-of-class homework assignments will be given. Students will be responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important to complete homework assignments on time and late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

By the Way... : Strategies for Successful Conversation
Authors: Michael Hensley & Bill Burns
(Macmillan LanguageHouse, 2011, ISBN 9784777363803)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be useful. A good online English-Japanese dictionary can be found here:
<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation (speaking English, taking notes): 20%
Homework assignments: 20%
Mid-term examination (speaking test): 20%
Final examination (paper test): 20%
Final examination (speaking test): 20%

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

None.

【その他の重要事項】

Students are expected to have the textbook by the second week of class and bring it to class every week. Students should consider the board as an extension of their textbook. As a result, they should take notes on everything the teacher writes on it.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

This one-semester course will focus on developing vocabulary, listening and conversation skills in English. By the end of the course, students will feel more confident and comfortable discussing everyday topics in English. Students will also learn to use a range of natural communication strategies.

Developing pronunciation, listening and speaking skills will be a regular feature in this course. Students will also learn and use key vocabulary and functional language in order to have more natural and fluent conversations. Pair work and group work will be emphasized.

Whole-class feedback (error correction related to grammar, vocabulary, pronunciation) will be given after each speaking activity or near the end of each class using the black board.

Students are also provided written feedback and error correction following the mid-term and final speaking examinations.

Class participation (speaking English, taking notes): 20%

Homework assignments: 20%

Mid-term examination (speaking test): 20%

Final examination (paper test): 20%

Final examination (speaking test): 20%

LANe100LC

英語中級リーディング

長谷川 秀子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

【到達目標】

科学とその恩恵を受ける現代社会に私達は身を置いている。国内外の科学技術、社会生活、医学、動物学、生命倫理と宇宙という様々なトピックに関する英語を読みながら、読解力や知識を高め、考える力を伸ばし、自分の考えを英語で表現することを目指していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。リアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

COVID-19 による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進めかた、テキストの使い方、予習等の説明。
第 2 回	Unit 1	Mini Presentation
	Human Mind	Digital Amnesia (1)
第 3 回	Unit 2	Digital Amnesia (2)
	Human Mind	Sleep Paralysis (1)
第 4 回	Unit 3	Mini presentation
	Human Mind	Why Are Some People Better at Learning Languages? (1)
第 5 回	Unit 4	Why Are Some People Better at Learning Languages?(2)
	Human Mind	The McCollough Effect(1)
第 6 回	Unit 5	Mini Presentation
	Health	The Healthiest Drink?(1)
第 7 回	Unit 6	The Healthiest Drink?(2)
	Health	Health Advice for Fashion Lovers(1)
第 8 回	Unit 7	Mini presentation
	Health	Love to Be 120(1)
第 9 回	Unit 8	Love to Be 120 (2)
	Health	A New Antibiotic Found in the Soil(1)
第 10 回	Unit 9	Mini presentation
	Animal	The World's Oldest Creature? (1)
第 11 回	Unit 10 6 12	The World's Oldest Creature? (2)
	Animal	Animals and Earthquakes(1)
第 12 回	Unit 15	Mini presentation
	Technology	Robots Are Winning (!)
第 13 回	Term Exam	Select one Unit and express your opinion.
	Presentation (1)	
第 14 回	Term Exam	Select one Unit and express your opinion.
	Presentation (2)	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んで簡単な要約ができるようにしておく。新しい語句の確認をしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】

化学の不思議

Science Finfer SEIBIDO

By Jonathan Lynch, 委文光太郎

ISBN978-4-7919-60255 1900 円（税別）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】

ミニプレゼンテーション、小テスト、課題など 50%
期末試験 50%

【評価基準】 全体の 60 % の得点をもって可とする。

【注意事項】 原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to communicate at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

We look at scientific topics, science and technology, social life, medicine, zoology, bioethics, universe and more. We aim at the comprehensive development of the four skills - reading, writing, listening and speaking. Students are asked to check new vocabularies and read each unit before coming to the class and you should be able to summarize each paragraph.

Assignment, quiz, mini presentation 50% Term Exam 50%

LANe100LC

英語中級リーディング

早船 由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半では、さまざまなジャンルの英文を読み、文の内容を正確に読み取る訓練を行う。

後半では、燃料電池車を組み立てるサイエンスキットのマニュアルをテキストに用い、サイエンスを英語で学ぶ。マニュアルの内容を理解した後で、実際にキットを組み立て、自分の理解が正しいことを確認する。

【到達目標】

中級レベルの英語長文を読み、内容を完全に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業中、限られた時間内で 600 語程度の英文を読み、関連する質問に答える。内容を把握した後で、グループを作り内容について英語で話し合う。キットマニュアルの読解では、読んだ内容をその場で理解し、すぐに実践できるように、速読の技術を身につける。積極的な授業参加が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要説明と、 長文読解 (1) 「数学の確率問題」	約 400～600 ワードの英文を初見で読み、理解する。
2	長文読解 (2) 「ウミガメの生態」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
3	長文読解 (3) 「モーションアシストロボット」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
4	長文読解 (4) 「捕鯨問題」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
5	長文読解 (5) 「フェアトレード」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
6	長文読解 (6) 「障害物レース」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
7	長文読解 (7) 「AI の脅威」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
8	長文読解 (8) 「オンラインゲーム」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
9	長文読解 (9) 「お金と人間の心理状態」	宿題で読んできた、約 400～600 ワードの英文の内容解釈を行い、関連文章を初見で読む。
10	Solar Cell Car (1)	太陽電池に関する説明文を読み、内容を理解する。太陽電池の発電量を測定する。
11	Solar Cell Car (2)	電気分解に関する説明文を読み、内容を理解する。
12	Fuel Cell Car (3)	燃料電池に関する説明文を読み、内容を理解する。
13	Fuel Cell Car を走らせる。	マニュアルを読みながら、燃料電池車を組み立て、燃料電池による発電で車を走らせる。
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】リーディングの宿題。

【テキスト（教科書）】

プリント教材

【参考書】

（電子）辞書は毎週持参すること。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う課題、プレゼン、宿題の提出状況等 (70%)、期末試験 (30%) の総合評価

【学生の意見等からの気づき】

課題へのフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In the first half of the semester, students read text of about 200 to 400 words of a variety of genre and learn how to read an English text correctly.

In the last half of the semester, students read texts for specific purposes. After understanding the text, students actually assemble a fuel cell car. [Learning Objectives]

To be able to read and understand texts (200 to 400 words) completely.

This requires not just the knowledge of vocabulary and grammar but also ability to infer the theme and purpose of the text using background knowledge.

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class including the short presentation, and the submission of in-class and homework assignments. 70%

Final test 30%

LANe100LC

英語中級リーディング

宗像 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術革新の一方で生じる社会問題について、CNN、BBC、Bloomberg などの報道記事を読みながら国際的な視野で理解を深める。また、長文読解のスキルを高める。受講者は、これらの問題をどのように捉え、いかに解決するかについて、自分なりの考えを表現できるようにする。

【到達目標】

- 最先端の技術と、それによって生じる社会問題について理解を深める。
- これらの社会問題の解決法について、議論ができるようにする。
- 英字新聞や雑誌の記事（Web 版を含む）を読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 受講者は、事前に配布された英字新聞や雑誌の記事を読む。
 - 講義の前半で、講師が記事全体の要約と段落ごとの解説をする。
 - 講義の後半で、記事に関係する話題を講師が提供し、受講者同士でディスカッションをする。
 - 講義の最後に、記事を音読する。
- ※講義前に小テストあり。
 ※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。
 ※授業中の言語使用は、日本語 7 割、英語 3 割の予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の方針説明
第 2 回	アイス・ブレイキング	受講者同士の交流。関心分野の共有。英文読解の基礎。
第 3 回	英文記事講読	交通と環境：「飛び恥」をめぐる
第 4 回	英文記事講読	健康をめぐる世界的な格差：COVAX を例に
第 5 回	英文記事講読	科学分野における男女差別
第 6 回	英文記事講読	監視技術とプライバシー
第 7 回	英文記事講読	ドローン技術の戦争への転用
第 8 回	英文記事講読	希少資源の獲得と環境汚染
第 9 回	英文記事講読	化学物質の適正な利用
第 10 回	英文記事講読	都市計画での差別問題
第 11 回	英文記事講読	SNS の「炎上」：プラットフォームの社会的責任
第 12 回	英文記事講読	オンライン授業とメンタルヘルス
第 13 回	まとめ	これまでの講義で取り上げたトピックについて復習する。また、期末試験について案内する。
第 14 回	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- 毎週出される英文記事を事前に読む。
- 講義後は指定範囲を最低 10 回音読することが望ましい。
- 毎回の講義冒頭で実施する小テストの準備もすること。

【テキスト（教科書）】

配布資料（BBC、CNN、Bloomberg、その他英字新聞や英文雑誌の記事）

【参考書】

英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。
 各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 (45%)
- 小テスト (20%)
- 発表 (Group and Solo 25%)
- 貢献と姿勢 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline (in English)】

- 授業概要 (Course outline)

Students will read news articles from CNN, BBC, Bloomberg, etc., and deepen their understanding of social issues that recent technological innovation has caused. In this course, students will get accustomed to reading long texts. Students will be able to express their own ideas on how to view these issues and how to solve them.

2. 到達目標 (Learning Objectives)

- ① Students will deepen their understanding of social problems caused by cutting-edge technology.
 - ② Students will be able to discuss better, practical solutions to the problems.
 - ③ Students will be used to reading English-language newspapers and magazines.
3. 授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)
 ※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

- ① Students have to read articles before the lecture.
- ② After the lecture, students are expected to read the articles aloud at least ten times. (The lecturer designates the range you should read)
- ③ Students are required to prepare for the quiz at the beginning of each lecture.

4. 成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Term-end examination: 45%, Quiz: 20%, Presentation: 25%, In-class contribution: 10%.

LANe100LC

英語中級リーディング

宗像 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術革新の一方で生じる社会問題について、CNN、BBC、Bloomberg などの報道記事を読みながら国際的な視野で理解を深める。また、長文読解のスキルを高める。受講者は、これらの問題をどのように捉え、いかに解決するかについて、自分なりの考えを表現できるようにする。

【到達目標】

- 最先端の技術と、それによって生じる社会問題について理解を深める。
- これらの社会問題の解決法について、議論ができるようにする。
- 英字新聞や雑誌の記事（Web 版を含む）を読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 受講者は、事前に配布された英字新聞や雑誌の記事を読む。
 - 講義の前半で、講師が記事全体の要約と段落ごとの解説をする。
 - 講義の後半で、記事に関係する話題を講師が提供し、受講者同士でディスカッションをする。
 - 講義の最後に、記事を音読する。
- ※講義前に小テストあり。
 ※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。
 ※授業中の言語使用は、日本語 7 割、英語 3 割の予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の方針説明
第 2 回	アイス・ブレイキング	受講者同士の交流。関心分野の共有。
		英文読解の基礎。
第 3 回	英文記事講読	交通と環境：「飛び恥」をめぐる
第 4 回	英文記事講読	健康をめぐる世界的な格差：COVAX を例に
第 5 回	英文記事講読	科学分野における男女差別
第 6 回	英文記事講読	監視技術とプライバシー
第 7 回	英文記事講読	ドローン技術の戦争への転用
第 8 回	英文記事講読	希少資源の獲得と環境汚染
第 9 回	英文記事講読	化学物質の適正な利用
第 10 回	英文記事講読	都市計画での差別問題
第 11 回	英文記事講読	SNS の「炎上」：プラットフォームの社会的責任
第 12 回	英文記事講読	オンライン授業とメンタルヘルス
第 13 回	まとめ	これまでの講義で取り上げたトピックについて復習する。また、期末試験について案内する。
第 14 回	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- 毎週出される英文記事を事前に読む。
- 講義後は指定範囲を最低 10 回音読することが望ましい。
- 毎回の講義冒頭で実施する小テストの準備もすること。

【テキスト（教科書）】

配布資料（BBC、CNN、Bloomberg、その他英字新聞や英文雑誌の記事）

【参考書】

英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。
 各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 (45%)
- 小テスト (20%)
- 発表 (Group and Solo 25%)
- 貢献と姿勢 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline (in English)】

- 授業概要 (Course outline)

Students will read news articles from CNN, BBC, Bloomberg, etc., and deepen their understanding of social issues that recent technological innovation has caused. In this course, students will get accustomed to reading long texts. Students will be able to express their own ideas on how to view these issues and how to solve them.

2. 到達目標 (Learning Objectives)

- ① Students will deepen their understanding of social problems caused by cutting-edge technology.
- ② Students will be able to discuss better, practical solutions to the problems.
- ③ Students will be used to reading English-language newspapers and magazines.

3. 授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)

※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

- ① Students have to read articles before the lecture.
- ② After the lecture, students are expected to read the articles aloud at least ten times. (The lecturer designates the range you should read)
- ③ Students are required to prepare for the quiz at the beginning of each lecture.

4. 成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 45%, Quiz: 20%, Presentation: 25%, In-class contribution: 10%.

LANe100LC

ビジネス英語

NEIL CONWAY

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will give students experience with a range of business topics, and develop their ability to communicate their ideas on these topics both in written and spoken form.

【到達目標】

Students will practice gathering, engaging with and responding to information about current topics in business. By the end of the course, they will be able to:

- undertake short research tasks, and report on their findings
- analyze multiple writings from appropriate business professions
- conduct primary and secondary research relevant to topic; integrate appropriate sources using MLA style
- explain analytical/technical data in the form of charts, graphs, etc.
- provide and apply constructive peer criticism
- design accurate and visually appealing presentations
- develop strategies to facilitate communication on a number of business topics
- appreciate the impact of cultural and national differences on international business

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Each class meeting will include a review of key points in the week's topic using short reading and writing tasks, along with pair- and groupwork designed for Active Learning. The in-class topic and tasks will prepare for small-scale project-based research, and there will be opportunities for students to give short follow-up presentations to the class. Feedback will be delivered in-class each alternate week. Students will be asked to consider how these tasks relate to the topic at large. For the main assessed course components, students will be expected to do some research on a given topic and to produce a report in verbal and / or written form.

The class schedule will be flexible so that students' interests in particular business-related topics can be incorporated into the course. Within the first few weeks of the course, students will be invited to suggest topics for inclusion in the course depending on their university major or their own personal interests.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction & Orientation	Introduction to the contents and method of the class
第 2 回	Case Study: Careers Topic: Companies	Discussion Case Study Language work Group Pre-Writing Classwork & Discussion
第 3 回	Case Study: Companies	Classwork & Discussion
第 4 回	Topic: Product Design	Case Study Language work Group Pre-Writing Classwork & Discussion
第 5 回	Case Study: Product Design	Classwork & Discussion
第 6 回	Topic: Human Resources	Case Study Language work Group Pre-Writing Classwork & Discussion
第 7 回	Case Study: Human Resources	Classwork & Discussion
第 8 回	Topic: Connecting	Case Study Language work Group Pre-Writing Classwork & Discussion
第 9 回	Case Study: Connecting	Classwork & Discussion
第 10 回	Topic: Setting Up	Case Study Language work Group Pre-Writing Classwork & Discussion
第 11 回	Case Study: Setting Up	Classwork & Discussion

第 12 回 Topic: Marketing

Case Study
Language work
Group Pre-Writing

第 13 回 Case Study: Marketing
第 14 回 Presentations

Classwork & Discussion
Wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】Students will have regular homework (research, reading and writing) assignments. Students are expected to review the course materials and their own class notes regularly: this is important for progress with the language and course content.

【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by the instructor (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.

Library (or internet) access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

【参考書】

For MLA information:

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Classwork (effort, participation): 30%

Project work: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback will be sought at the end of the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader

Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx: not PDF, not Google Docs or anything else.

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.*

Students will also be instructed to regularly visit the "Forums" section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

【Outline (in English)】

The course will give students experience with a range of business topics, and develop their ability to communicate their ideas on these topics both in written and spoken form. We will use case studies of real or simulated business situations to reflect on key points and examine the language associated with them. Each week, class discussion will focus on the relevant issue in the readings and video texts which we will use.

LANe100LC

ビジネス英語

小林 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ビジネスの現場における英語の会話を練習し、コミュニケーション能力を高める授業とする。また、経済、社会に関する英文を読む機会を設け、ビジネスに関する理解を深める。

【到達目標】

英語での会話に堪能になり、経済、社会に関する英文を自由に読みこなすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初はリスニングを通じて、様々な局面での英語の表現を覚える。後に受講生自らが、英語で表現をする授業とする。また新聞、雑誌などの記事を通じて経済、社会についての英文に親しむ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と評価方法の説明。
第 2 回	Unit 1: Writing a Resume	リスニングの練習。
第 3 回	Unit 2: Writing an Application Letter	リスニングの練習。
第 4 回	Unit 3: Arranging an Interview	リスニングの練習。
第 5 回	Unit 4: A Job Interview Unit 5: Job Offer	リスニングの練習。
第 6 回	Unit 6: The First Date Unit 7: Preparing to Work	会話の練習。
第 7 回	Unit 8: Telephoning Unit 9: Taking a Message	会話の練習。
第 8 回	Unit 10: Making an Appointment Unit 11: Visiting a Client	会話の練習。
第 9 回	Unit 12: Receiving a Visitor Unit 13: Meeting at Narita Airport	会話の練習。
第 10 回	Unit 14: A Business Lunch Unit 15: Visiting a Factory	会話の練習、英文タイプの練習など。
第 11 回	Unit 16: Sightseeing in Kyoto Unit 17: Preparing for the First Overseas Business Trip	会話の練習、英文の手紙を読む。
第 12 回	Unit 18: The First Overseas Business Trip	経済、社会についての英文を読む。
第 13 回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。
第 14 回	所定教科書以外の英文	経済、社会についての英文を読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 必ず復習をすること。また、リスニングを意欲的に行うこと。

【テキスト（教科書）】

Business Talk やさしいオフィス英語 （城由紀子ほか著 成美堂）

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング、会話の練習を頑張ってください。

【その他の重要事項】

授業計画はあくまでも予定です。受講生の理解度に応じて、授業内容が変わることもあります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the ability of business English. At the end of this course, students are expected to acquire higher English conversation ability in business scenes, express their knowledge of business world in English.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end report 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

基礎英語

小林 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC での高得点を目指す学習を通じて、基礎的な英語力を身につけることを目標とする。また、受講生の理解力を養うため、様々な英文を、リスニングによって理解する機会を多く設ける。

【到達目標】

簡単な英語の文章なら、すべて音声聞いて書き取ることが出来る英語力を身につけること。また、読解用の英文の音声聞いて、ある程度の内容を理解できる英語力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、TOEIC での高得点を狙うための授業を通じて、基礎的な文法を確認し、日常会話の中で使われる語彙を身につけ、リスニング能力を高めるための授業とする。また、読解向けの英文の音声聞いて、音声のみで内容を理解する練習を行う。オンラインで授業を進めまる場合、リスニングの課題の提出を課し、フィードバックを行うこともあります。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、評価方法の説明
第 2 回	Unit 1: Travel	TOEIC の概要
第 3 回	Unit 2: Dining Out	リスニングの練習など。
第 4 回	Unit 3: Media	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4: Entertainment	語彙の習得など。
第 6 回	Unit 5: Purchasing	語彙の習得など。
第 7 回	Unit 6: Clients	文法の確認など。
第 8 回	Unit 7: Recruiting	リスニングの練習など。
第 9 回	Unit 8: Personnel	リスニングの練習など。
第 10 回	Unit 9: Advertising	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 11 回	Unit 10: Meetings	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 12 回	Unit 11: Finance	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 13 回	Unit 12: Offices	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 14 回	期末テスト	英文の書き取り、長文の聞き取り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】復習を欠かさないこと。また、リスニングを意欲的に行うこと。

【テキスト（教科書）】

THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING（金星堂）

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】点数 (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。学期末の試験の春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングを中心に授業を進めます。併せて総合的な英語力を身につけるよう頑張ってください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic English ability by practicing the listening section of TOEIC. At the end of this course, the students are expected to improve their ability of comprehension by listening to various English sentences.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

基礎英語

RYAN HARTLEY

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

例 1：英語でのコミュニケーションを紹介するコースです。毎週異なるテーマのトピックを考えていきます。宿題でトピックについて学び、ノートを取り、クラスでディスカッションをすることが中心となります。

例 2：ディスカッションやプレゼンテーションの形式で考えを伝えるために、リスニングとリーディングのスキルを身につけることを目的とします。

例 3:英語学習の基礎となる、実際の科学や工学のトピックを扱います。

例 4:コースは前半と後半に分かれており、前半は理系トピック、後半は工学系トピックを扱います。各半分は 2 つのプロジェクトで構成され、最後にプレゼンテーションが行われます。

例 5:各半期終了時に、前期のトピックのうち、より深く研究された興味深いトピックについてプレゼンテーションを行う。

【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

例 1:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 2:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher.

例 3:Every week students will discuss a different issue using various forms of discussion format: conversational, seminar, debate etc.

例 4:Every seven weeks, at the end of each half semester, students will give a presentation to small groups using poster or computer aids. One on a science topic and one on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming what issues you are interested in in science.
第 2 回	Issues in science: 1	Discussion
第 3 回	Issues in science: 2	Seminar
第 4 回	Issues in science: 3	Quizzing/interviewing
第 5 回	Issues in science: 4	Debating
第 6 回	Issues in science: 5	Presenting (practice)
第 7 回	Science presentation	Presenting
第 8 回	Second half semester goal setting	In this class we will be brainstorming what issues you are interested in in engineering.
第 9 回	Issues in engineering: 1	Discussion
第 10 回	Issues in engineering: 2	Seminar
第 11 回	Issues in engineering: 3	Quizzing/interviewing
第 12 回	Issues in engineering: 4	Debating
第 13 回	Issues in engineering: 5	Presenting (practice)
第 14 回	Engineering presentation	Presenting

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

【テキスト（教科書）】

Dictionary Oxford English For Electrical And Mechanical Engineering - Eric and Norman Glendinning

Texts and online materials will also be provided in class.

【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x project presentations (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

Outline

例 1:This course introduces English communication to students. Students will be thinking about a different theme topic each week. The focus will be learning about a topic for homework, note-taking, and then discussing in class.

例 2:The aim of this course is to help students acquire listening and reading skills in order to communicate ideas in discussion and presentation forms.

例 3:This course deals with real life science and engineering topics that will form the basis of students English learning.

例 4:The course will be divided into two halves - first science topics, second engineering topics. Each half will consist of two projects, ending in a presentation.

例 5:At the end of each half semester students will give a presentation on one of the previous topics that is of interest that will be researched in more depth.

【到達目標】 Goal

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and present in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Be self-motivated in their research and class contributions in English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Work to be done outside of class (preparation, etc.)

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

成績評価の方法と基準】 Grading criteria

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x project presentations (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

LANe100LC

基礎英語

島田 顕

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基礎力をあげることを目標とする。基礎文法を徹底的に復習し、文法上の疑問点・問題点を解消する。練習問題で繰り返し反復し、基本的な表現と単語、熟語を押さえ、実践的な習得を目指す。

【到達目標】

英語の基礎力をあげることを目標とする。基礎力をあげるためにはまず、英語の文献によく触れ、読みこなさなければならない。本授業では、テキストを読み、訳し、内容を把握し、使われる表現から基礎語彙と熟語の復習を行う。基礎英文法を徹底的に復習し、練習問題で文法上の問題点を解消する。サブテキスト（リーディング）テキストを用いる（プリントで配布する）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、中学校・高等学校で学んだ英語の基礎固めをすることを目的とする。具体的には、基礎文法・語法の確認と定着、基礎語彙・熟語の復習と正確な綴りの確認、発音の向上と文強勢リズムの体得、ひとつの意味の塊で句切ることによって音読しながら意味を同時に掌握する練習などを行う。また、今までの学習の中での疑問点、不確かな事項を解消させる。さらに異文化及び自国の文化の理解を深め、自主的な英語学習の動機につなげていく。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Unit 1 be 動詞	Unit 1 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Unit 2 現在形	Unit 2 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Unit 3 過去形	Unit 3 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Unit 4 代名詞	Unit 4 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Unit 5 前置詞	Unit 5 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	Unit 6 進行形	Unit 6 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 8 回	Unit 7 名詞と冠詞	Unit 7 テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第 9 回 Unit 8
助動詞

第 10 回 Unit 9
提案と命令

第 11 回 Unit 10
未来系

第 12 回 Unit 11
疑問文と付加疑問文

第 13 回 まとめ o r 予備日

第 14 回 試験

Unit 8
テープを聞く
テキスト本文音読
テキスト本文翻訳
Exercises
その他
Unit 9
テープを聞く
テキスト本文音読
テキスト本文翻訳
Exercises
その他
Unit 10
テープを聞く
テキスト本文音読
テキスト本文翻訳
Exercises
その他
Unit 11
テープを聞く
テキスト本文音読
テキスト本文翻訳
Exercises
その他
まとめ
その他
試験
まとめ
その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてて。予習は訳をノートに書いてくることが望ましい。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。[One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

【テキスト（教科書）】

テキスト：『Grammar Plus』（南雲堂）。
サブ・テキスト：プリント配布テキスト。

【参考書】

文法参考書：豊永彰『大学生のための英文法ビフォー&アフター』（南雲堂）
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %
※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルにより、授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。尚、各回の Unit は受講生のレベルにより、事前に告知したうえでその他の Unit（形容詞、比較、副詞、不定詞、動名詞、接続詞、受動態、語形、形容詞節、副詞節、条件節、名詞節、現在完了形）に変更する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】

We aim to raise the basic strength of English. In order to raise fundamental skills, we must read, translate, grasp contents of texts and review the basic vocabulary and idioms from the expression used in the text. We also have to review the basic English grammar thoroughly and eliminate grammatical problems in by practice questions. The goal is to improve the basic skills of English. In order to improve your basic skills, you must first familiarize yourself with and read English literature. In this class, you will read the text, translate it, understand the content, and review the basic vocabulary and idioms from the expressions used. Thoroughly review basic English grammar and solve grammar problems with exercises. Use subtext (reading) text (distribute by print).

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

LANe100LC

基礎英語

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる 4 技能（リーディング・ライティング・リスニング・スピーキング）全体について、英語の基礎力を高めることを目標とする。

【到達目標】

- ・基本的な語彙・文法事項の把握を通じて、英語をより正確に読解できるようになる。
- ・学んだ文法事項を用いて作文をすることで、短い英文をより正確に書けるようになる。
- ・音読やペアワーク、暗唱を通じて、英語の発音を改善し、スピーキング能力を高める。
- ・単語の発音の確認やディクテーションを通じて、リスニング能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で教科書の 1 ユニット分を進める。事前に予習していることを前提として進めるので、演習問題を解く時間は設けない。テキストを音読し、内容と設問の答えを確認したあと、作文やリスニング、ペアワークなどのアクティビティをおこなう。また授業 2 回ごとに、復習を目的とした小テストをおこなう。

小テストの解答で誤りが多かった問題は解説し、フィードバックとする。また授業内外での質問は積極的に授業に反映させる。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や成績評価の方法についての説明
2	Unit 1 A Real-life Superhumans	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
3	Unit 2 The 10,000 Hour Rules	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
4	Unit 3 Why Are Human Brains So Big?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
5	Unit 4 The Advances of Sports Science	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
6	Unit 5 The End of Modern Medicine?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
7	Unit 6 Can You Get Smarter in Your Sleep?	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
8	Unit 7 The Hidden Benefits of Boredom	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
9	Unit 8 Fighting the Menace of Mosquitoes	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
10	Unit 9 Growing Food in the Desert	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
11	Unit 10 Learning from Nature	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）

12	Unit 11 Living at the Bottom of the World	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
13	Unit 12 The Great Pacific Garbage Patch	テキスト本文の音読と内容の把握 設問の解答の確認 その他エクササイズ（ディクテーション、作文、会話のペアワークなど）
14	まとめと期末試験	授業内容の振り返りと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてください。
・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。
・基礎をきちんと築くためには、充分量の勉強が必要です。相応の課題を出しますので、そのつもりで履修してください。

【テキスト（教科書）】

Dave Ritter『Science Arena 最新科学の探究』（成美堂、2021 年）

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%
小テスト 20%
授業参加 10%
*交通機関の乱れによる遅刻は考慮しますが、一学期につき 3 回を上限とします。かならず遅延証明を受け取ってくる。こと。
*正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
* 30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。
*教科書を持参していない場合、予習が不十分な場合など、出席とはみなさないこともあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言について、できるだけ個別にフィードバックできるようにする。

【Outline (in English)】

This basic English course is designed to improve the basic skills in reading, writing, listening, speaking, through various activities such as reading the textbook, composition of short sentences, listening comprehension and dictation, and conversation exercise in pairs. Preparation is crucial in language learning. The students are required to understand the meaning of every word as well as the grammatical structure of every sentence. A quiz is given every week to help build the vocabulary. The final grade will be calculated based on the final exam (70%), quizzes (20%), and class participation (10%).

LANe100LC

基礎英語

川島 多加子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語をコミュニケーションの手段として用いることができるように、総合的な学習を通して基礎固めを行います。
授業では、学生は主体性をもってタスクに取り組み、英語コミュニケーションに必要な 4 技能（話す、聴く、書く、読む）を使いながら、初級～中級レベルの基本的な語彙や文法、英語の基礎力習得を到達目標とします。

【到達目標】

- ・学生は 100 ワードレベルの英文のおよその内容が理解できる。
- ・学生は理解したものを簡潔に英語で説明できる。
- ・学生は各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・学生はグラフ、図、表などを理解し英語で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い、グループワークやグループディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施します。具体的には、語彙の意味、英文の和訳、リスニング、スピーキング、文法問題や演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深めます。
授業内で行う試験、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
試験や課題の講評や学生全体に共通する問題点などは授業内で解説します。また、課題についてはピアフィードバックや振り返りを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	・自己紹介 ・英語の 4 技能 ・目標設定 ・ディスカッション
第 2 回	Unit 1 Weather Unit 2 The Internet	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話演習 ・ディスカッション
第 3 回	Unit 3 Animals Unit 4 Friends	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話演習 ・ディスカッション
第 4 回	Unit 5 Helping Others Unit 6 Traveling	・Quiz (リスニング、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 5 回	Unit 7 Collections and Gifts Unit 8 Careers	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 6 回	Unit 9 European Cultures Unit 10 Gifted Children	・Quiz (文法、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 7 回	Review: Units 1-10 Midterm Exam	・前半で学習した重要ポイントのまとめと解説 ・中間試験
第 8 回	Unit 11 Restaurants Unit 12 Transportation	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 9 回	Unit 13 Homes Unit 14 Space	・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 10 回	Unit 15 Personality Unit 16 Design and Fashion	・Quiz (リスニング、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 11 回	Group Presentations Peer Feedback	・発表課題 ・ピアフィードバック

第 12 回	Unit 17 Asian Cultures Unit 18 Modern Life	・発表課題の講評 ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 13 回	Unit 19 Growing Things Unit 20 Language	・Quiz (文法、語彙) ・音読と内容理解 ・情報理解と文法演習 ・dictation と会話 ・ディスカッション
第 14 回	Review: Units 11-20 Final Exam Reflection	・後半で学習した重要ポイントのまとめと解説 ・期末試験 ・振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
・予習として、指定された教科書等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
・課題や関連リーディング教材を期日までに済ませておくこと。
・教科書の英語の本文については、必ず、音読すること。

【テキスト（教科書）】

・Andrew E. Bennett, Reading Links 2, Nan'Un-Do, 2021.
(¥2,100+tax), ISBN: 9784523179238
・教員作成ハンドアウト

【参考書】

必要に応じて授業時に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業参加度 20 %
- ・小テスト 20 %
- ・提出課題 20 %
- ・中間・期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

英語のプレゼンやグループワークは今年度も同様に実施します。
しかし、授業のベースについては、すこしゆっくり進めていく予定です。

【その他の重要事項】

- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師はグローバルに展開する大手企業でのグローバル人材育成の実務経験を生かし、学生が実社会にでて最低限必要な英語力を習得できるように支援します。

【Outline (in English)】

The course is designed to help students develop their abilities in grammar, listening, speaking, reading, writing and study skills. Students will improve their English skills through group activities and various tasks.

By the end of the course, students will be able to understand short articles and conversations and produce sentences and short speeches with few grammatical errors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (20%), quizzes (20%), presentation (20%), midterm and final exams (40%).

LANe100LC

英語資格試験準備講座

島田 顕

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC500 点を目標にし、50 点から100 点のアップを目指し、試験対策に重点をおく。

【到達目標】

メイン・テキストでは、語彙力、文法力、リーディング力、リスニング力などの総合的な基礎英語力を養いながら、サブ・テキストでは、文法などの重点的な試験対策も行う。

In the main text, you will develop comprehensive basic English skills such as vocabulary, grammar, reading, and listening skills, while in the sub text, you will also prepare for important exams such as grammar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、学生の英語目標レベル TOEIC400/500/600/700 点に応じたクラスを提供し、そこで TOEIC の問題傾向や特徴、効果的な解答のストラテジーやコツをつかみ、問題に慣れ、実践することによって50 点から100 点のスコアアップを目的とする。効果的にレベルアップを図るために、TOEIC 対策だけでなく、基本となる英語力（語彙力、文法力、リーディング力、リスニング力等）を総合的に習得できるように授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	Lesson 1,2 Outdoor Sports 前置詞、接続詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 3 回	Lesson 3,4 Job Hunting 関係詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 4 回	Lesson 5,6 At the Office 名詞、冠詞、否定その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 5 回	Lesson 7,8 Working Conditions 過去時制、完了時制その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 6 回	Lesson 9,10 Being Transferred 分詞、助動詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 7 回	Lesson 11,12 Travel and Package Tours 現在時制、未来時制その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 8 回	Lesson 13,14 Films 動詞、態その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 9 回	Lesson 15,16 Computers and Internet 不定詞、動名詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他

第 10 回	Lesson 17,18 Advertisements 数詞、形容詞、副詞その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 11 回	Lesson 19,20 The Economy and Banking 比較その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 12 回	Lesson 21,22 Nature and Environment 代名詞、仮定法その他	テープを聞く テキスト本文音読 テキスト本文翻訳 Exercises その他
第 13 回	まとめ or 予備日	まとめ その他
第 14 回	授業内試験	試験 まとめ その他

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 テキストの本文の訳、EXERCISES 等の問題は全員にあてて。予習は訳をノートに書いてくることが望ましい。訳は他に頼らず、必ず自分の力で仕上げること。[One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] The translation of the text, EXERCISES, etc. are all addressed. Be sure to do the preparation. "Preparation" that only looks up words is not a preparation. Be sure to write the translation in your notebook. Be sure to finish it by yourself without relying on others. In principle, late arrivals are not allowed (late arrivals are considered absent). If you are absent four or more times in each semester, you will be disqualified from taking the final exam.

【テキスト（教科書）】

メイン・テキスト『TOEIC Test: To the Point
新TOEICテスト：ポイント攻略』（南雲堂）
サブ・テキスト：『グラマー・プラス GRAMMAR PLUS』（南雲堂）、プリント配布テキスト。

【参考書】

文法参考書：豊永彰『大学生のための英文法ビフォー&アフター』（南雲堂）
その他の参考文献は授業中に提示する。また授業中にプリント資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

評価方法：期末試験、平常点、課題・宿題、小テスト
評価基準：平常点 30 %、課題・宿題 10 %、小テスト 20 %、期末試験 40 %

※評価方法、評価基準は一応の目安である（詳細は授業状況を見ながら、授業中に提示する）。

Evaluation method: Final exam, normal score, assignment / homework, quiz

Evaluation criteria: Normal score 30%, assignment / homework 10%, quiz 20%, final exam 40%

* The evaluation method and evaluation criteria are just a guide (details will be presented during class while observing the class situation).

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルにより、授業の進み方を速くし、小テスト、提出物の回数を増やす。尚、各回の Lesson、Text は受講生のレベルにより、事前に告知したうえでその他の Lesson（分子構文、接続詞、語形、形容詞節、副詞節、条件節、名詞節その他）、Text に変更する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、電子辞書。

【Outline (in English)】

We aim for 500 points from TOEIC test, aim for 100 points up from 50 points, focus on exam preparation.

In this class, we have to cultivate overall comprehensive basic English ability such as vocabulary skills, grammatical skills, reading ability, listening skills, etc. We also must carry out emphasis examination measures on grammar and other important measures.

LANe100LC

英語資格試験準備講座

井上 敏郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC テストの成績向上と共に、英語の実力も向上することを目指す。TOEIC テストの 7 種類のパターンについて、それぞれの特徴とポイントを、実践的に行っていくつもりです。

【到達目標】

学生諸君の得意な分野と苦手な分野はそれぞれ違うでしょうが、今回はリスニングと文法を確実に向上させることを目的とするつもりです。具体的には、100点のアップを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回 TOEIC の問題を使って、実際に問題に取り組みながら、その特徴や解くポイントを説明する。また、幾つかの問題は課題とする。次週に回収した解答を使って、具体的にフィードバックを行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	授業説明 リスニング パート 1 リーディング パート 5	聴きづらい音の確認、リスニングの要 点の確認 語感の説明
2 回目	リスニング パート 1 リーディング パート 5	問題の傾向の説明 語彙の傾向の説明
3 回目	リスニング パート 1 リーディング パート 5	選択肢の傾向の説明
4 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	話の流れを掴む練習を積む
5 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	わからない文章を前後から理解する練習を積む
6 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	語彙の確認
7 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1つの文書)	ポイントとなる単語やフレーズの把握 の練習を積む
8 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1つの文書)	理解の強弱をつける練習を積む
9 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1つの文書)	リスニングのスピードに慣れる、 読むスピードを上げる練習を積む
10 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2つの文書)	何度か聞いたり、時間をかけて読み、 文章の長さに慣れる練習を積む
11 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2つの文書)	スピードを上げて、話の流れを掴む練習を積む
12 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2つの文書)	実際のテストと同様のシステムでどの くらい理解できるかを確認する
13 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2つの文書)	上と同様だが、それによって自分の長 所、弱点を確認する
14 回目	実際のテストに当たる (リスニング)	現在の自分の実力を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 TOEIC テストに限らず、結局は問題への慣れが重要です。毎日とは言いませんが、出来るだけ多く自宅学習をやること。一番良いのは、TOEIC 公式問題集です。図書館にあると思うので、借りてやってみてください。とにかく本一冊をやりきれば、どんな本でも意味があります。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、問題を解きながらの授業なので、一応諸君の答案を集めて確認します。この授業の性格から、平常点重視にするつもりです。真面目な授業態度を特に重要視します（60%）。最後に行う模擬テスト（40%）と合わせて評価します。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

ちょっと喋るテンポが速くなったり、またたまに正解の説明を忘れてたりすることがあるようなので、今回はそうならないように気をつけます。

【その他の重要事項】

辞書は必ず持参して下さい。

【Outline (in English)】

I'll show you about the characteristics of TOEIC and how to solve the questions so that you can acquire the higher scores.

The goal of this course is to develop your listening and knowledge of grammar.

After each class meeting, students will be expected to solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANd100LC

基礎ドイツ語Ⅰ**鈴木 淳子**

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本文法を習得する。

【到達目標】

ドイツ語の基本文法をしっかりと身につけたうえで、簡単な読み書き、聞き取り、会話などができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の基本文法をポイントをおさえて体系的に学びながら、練習等をおおして実践力もつける。

オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。

授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	アルファベット、発音	テキスト P.1-3 補助プリント
2 回目	挨拶表現、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化	テキスト P.4,6(第 1 課)
3 回目	数詞 (1)、不規則動詞の現在人称変化 (1)	テキスト P.5-8(第 1 課)
4 回目	名詞の性、語順、数詞 (2)	テキスト P.9-12(第 2 課)
5 回目	疑問文、否定文	テキスト P.9-12(第 2 課)
6 回目	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	テキスト P.13-16(第 3 課)
7 回目	並列の接続詞、数詞 (3)	テキスト P.13-16(第 3 課)
8 回目	不定冠詞、所有冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
9 回目	所有冠詞（続き）、否定冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
10 回目	不規則動詞の現在人称変化 (2)、名詞の 3 格、疑問代名詞	テキスト P.21-24(第 5 課)
11 回目	不規則動詞の現在人称変化 (3)	テキスト P.21-24(第 5 課)
12 回目	人称代名詞 1 格・3 格・4 格	テキスト P.25-28(第 6 課)
13 回目	非人称主語・非人称動詞	テキスト P.25-28(第 6 課)
14 回目	総復習	テキスト P.1-28(第 1-6 課)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】** 繰り返し復習し、音読することが望ましい。**【テキスト（教科書）】**

秋田静男・江口陽子他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

前期試験 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価。オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の多くがドイツ及びドイツ語に強い関心を持っていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills. The goal of this course is to be able to use German language properly. After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

基礎ドイツ語Ⅰ

鈴木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基本文法を習得する。

【到達目標】

ドイツ語の基本文法をしっかりと身につけたうえで、簡単な読み書き、聞き取り、会話などができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の基本文法をポイントをおさえて体系的に学びながら、練習等とおして実践力もつける。

オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。

授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	アルファベット、発音	テキスト P.1-3 補助プリント
2 回目	挨拶表現、主語になる人称代名詞、規則動詞の現在人称変化	テキスト P.4,6(第 1 課)
3 回目	数詞 (1)、不規則動詞の現在人称変化 (1)	テキスト P.5-8(第 1 課)
4 回目	名詞の性、語順、数詞 (2)	テキスト P.9-12(第 2 課)
5 回目	疑問文、否定文	テキスト P.9-12(第 2 課)
6 回目	定冠詞と名詞の格変化、名詞の複数形	テキスト P.13-16(第 3 課)
7 回目	並列の接続詞、数詞 (3)	テキスト P.13-16(第 3 課)
8 回目	不定冠詞、所有冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
9 回目	所有冠詞（続き）、否定冠詞	テキスト P.17-20(第 4 課)
10 回目	不規則動詞の現在人称変化 (2)、名詞の 3 格、疑問代名詞	テキスト P.21-24(第 5 課)
11 回目	不規則動詞の現在人称変化 (3)	テキスト P.21-24(第 5 課)
12 回目	人称代名詞 1 格・3 格・4 格	テキスト P.25-28(第 6 課)
13 回目	非人称主語・非人称動詞	テキスト P.25-28(第 6 課)
14 回目	総復習	テキスト P.1-28(第 1-6 課)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】繰り返し復習し、音読することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

秋田静男・江口陽子他著『イン・ドイツ語』朝日出版社

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

前期試験 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価。

オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の多くがドイツ及びドイツ語に強い関心を持っていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills. The goal of this course is to be able to use German language properly. After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

基礎ドイツ語 I

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とする。日常のさまざまな場面との関連のもとに基礎的な文法事項を学び、語彙を蓄積する。

【到達目標】

下記の文法事項に習熟し、短く平易なテキストの読み書きができる。明瞭でゆっくりとした話し方なら、馴染みのある単語や基本的な言い回しを聞き取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

視覚教材を活用した語彙の導入と文法事項の提示・解説の後、文法問題、インフォメーションギャップ、聞き取り、ひな型に沿った作文、平易なメールや広告から必要な情報を取り出すなど、さまざまな作業を展開する。提出された答案は添削し、コメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	動詞の現在人称変化（1）	ich, Sie, du の場合 / Alphabet について
2 回目	動詞の現在人称変化（2）	wir, ihr の場合 / 国名
3 回目	自己紹介	自己紹介を読む・書く / 専攻名 / 動詞の位置
4 回目	sein の定形	1 人称と 2 人称の場合 / ja, nein, doch の使い方 / 職業・国籍
5 回目	並列の接続詞	und, aber, denn など / 言語名
6 回目	動詞の現在人称変化（3）	3 人称の場合 / 配偶関係・性格を言い表す / 誘いのメールを読む・書く
7 回目	名詞の性と冠詞	定冠詞と不定冠詞（1 格・4 格） / 物を評価する
8 回目	不規則変化動詞（1）	mögen, nehmen / レストランでのやりとりを理解する
9 回目	不規則変化動詞（2）	essen / 食習慣 / 計量の単位
10 回目	名詞の複数形	複数形の 5 つの型 / 居住空間と家具
11 回目	人称代名詞	1 格と 4 格 / 住まいの広告を読む
12 回目	所有冠詞	1 格と 4 格 / 家族のことを語る
13 回目	否定冠詞	1 格と 4 格 / 所有の有無についてやりとりする
14 回目	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

【テキスト（教科書）】

新倉・正木・中野『シュピッツェ！ 1』（朝日出版社）

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更により、記入事項なし。

【Outline (in English)】

This course is designed for students without any knowledge of the German language. It helps them acquire basic grammatical rules and vocabulary in connection with everyday situations. By the end of the course, students should be able to do the following:

- Use grammatical knowledge effectively when reading and writing simple short texts
- Recognize familiar words and very basic phrases when people speak slowly and clearly

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANd100LC

ドイツ語表現

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とし、身近なテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする。ドイツ語コミュニケーション能力の基礎を身につけることが目的である。

【到達目標】

日常生活のなかでよく使われる平易な表現や言い回しを理解し、運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

どのテーマも、写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める。ビデオを観て、これをテーマへの導きとする場合もある。この導入部の後、手本となる会話を多角的に理解し、これをもとに、互いにインタビューをしたり紹介文を書いたり、班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど、さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kontakte (1)	あいさつを交わす／名前を訊く・答える
2	Kontakte (2)	出身地を訊く・答える／ペアで簡単な Dialog を作る
3	Kontakte (3)	国名に親しむ／ du と Sie の使い分けに慣れる
4	Kontakte (4)	「お元気ですか」の表現を使う／人を紹介する
5	Personalien (1)	名前のつづりを伝える／職業を訊く・答える
6	Personalien (2)	配偶関係・子供の有無について話す
7	Personalien (3)	居住地と年齢を訊き合う／人物の紹介文を書く
8	Familie (1)	家族のことを尋ねる・答える
9	Familie (2)	家族について簡単な記事を書く
10	Einkaufen, Möbel (1)	買い物をする時の表現を学ぶ／家具の値段を訊く・答える
11	Einkaufen, Möbel (2)	「すてきだ、モダンだ」など家具を評価する
12	Gegenstände, Produkte	身の回りの物の名を訊く／物を形容する言葉（色・形・素材）に親しむ
13	Wie viele ...?	物をいくつ持っているか、物がいくつ必要かを表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

【テキスト（教科書）】

Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生諸君はドイツ語でやりとりすることを大いに楽しんだようだ。

【Outline (in English)】

This course is designed for students without any knowledge of the German language. By developing the four skills of speaking, listening, reading and writing, it aims at equipping the students with basic communicative abilities needed in simple everyday situations. By the end of the course, students should be able to understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases.

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANd100LC

ドイツ語表現

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得する。ドイツ語とはどんな言葉なのかを理解する。

【到達目標】

文法の初歩とそれに関連したドイツ語の文を学習し、基本的な表現を口頭で練習し簡単な内容の事柄をドイツ語で表現できるように目指します。ドイツ語を正しく発音し、基本表現を身につけ、また辞書を使いドイツ文の内容が理解できるように総合的なドイツ語の基礎力を修得することを目標とする、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ドイツ語を始めて学ぶ者を対象とする授業である。ドイツ語を正しく発音し、ドイツ語を用いての日常の表現力を養う。各課の文法の説明をまず行ない、本文のドイツ語を読み、解釈し、聞き取ったりする練習を行う。各課の練習問題の答えなどは履修者に発表してもらい、各自で内容を確認し疑問点などは質問するようにする。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ドイツ語およびドイツ語圏の紹介・授業の進め方や評価の基準などの説明とテキストや辞書の説明を行う。
2	アルファベットと単語の発音	アルファベットの読み方と口頭練習・発音の原則を元に、注意すべき母音や子音の読み方を学ぶ。
3	単語の発音と簡単な挨拶	いろいろな単語を実際にどのように読むのかの確認と簡単な挨拶の表現を覚える。
4	自己紹介 (1)	現在人称変化：規則動詞・sein・haben・疑問詞のある疑問文やJa/Neinで答える疑問文の口頭練習。
5	自己紹介 (2)	現在人称変化：不規則動詞・否定詞の位置・否定疑問文の用法
6	持ち物 (1)	名詞の性と複数形を使った表現練習・冠詞(類)の1格と4格を含んだ文のチェック。
7	持ち物 (2)	格変化のまとめ・人称代名詞の3格と4格の形と語順
8	家族 (1)	動詞の現在人称変化(2)・非人称のes及び自国の表現。
9	家族・好きなこと (2)	命令文の作り方と用法。これまでに学んだことの復習と問題練習。
10	前半のまとめと演習食事	定冠詞類(dieserなど)と不定冠詞類(所有冠詞など)の形と用法について。人称代名詞の3格と4格。
11	街にて (1)	2格支配、3格支配、4格支配を表す前置詞を用いた表現練習。

12	街にて (2)	場所と方向(3, 4格支配)を表す前置詞を用いた表現練習。定冠詞との融合形。
13	キーセンテンスのまとめ及び補足事項の確認	会話の練習と数詞や曜日や日付を訪ねるなどの表現を学ぶ。
14	試験・まとめと解説	これまでに学習した文法事項やいろいろな場面における表現を復習確認し、試験を行ない、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】前もって「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の項目についての知識を得た上で、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また独和辞典を引き意味を確認し、付属のCDで読み方を確認する。

【テキスト（教科書）】

「ドイツ語エコー」 スマート版ドイツ語スパイララー 高橋秀彰・著 朝日出版

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。〔推薦辞書〕「新アクセス独和辞典」(三修社)、「アポロン独和辞典」(同学社)「クラウン独和辞典」(三省堂)、「独和辞典」(郁文堂)、「現代独和辞典」(三修社)など。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末のまとめのテストの他に、毎回の授業への取り組み方、課題の提出などの点も加味して到達目標に達しているかを考慮して総合的に評価する。中間・期末テストが70%、授業への取り組み方や課題の提出などが30%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段から学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心がける。基本的なことはすべて板書し、学生にノートを取らせ、そのための時間が十分確保されるように気をつける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like. Moreover, the students who take part in this class read the German sentences and can understand the country "Germany" and its culture. 【Learning Objectives】 Students can understand the rules of pronunciation and everyday german expressions by reading german sentences with many exercises. 【Learning activities outside of classroom】 Students need altogether one hour on average for preparation and review of this lesson. 【Grading Criteria】 A mark for class participation(including some reports) 30%, a midterm and a term-end examination 70%: Grade evaluation is done by taking these points into account.

LANd100LC

ドイツ語中級

高橋 完治

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語技能検定試験も視野に入れながら、下記のテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする。ドイツ語コミュニケーション能力の向上が目的である。

【到達目標】

日常生活に必要な表現や言い回しを理解し、運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

どのテーマも、写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める。ビデオを観て、これをテーマへの導きとする場合もある。この導入部の後、手本となる会話を多角的に理解し、これをもとに、互いにインタビューをしたりメールを書いたり、班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど、さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Freizeit (1)	「スキーは得意」「料理は苦手」など得手不得手を話す
2	Freizeit (2)	余暇活動について話す
3	Uhrzeiten	時刻を訊く・答える
4	Verabredungen	誘い・受諾・断りの表現を学ぶ
5	Ein Tag in Berlin	ベルリン見物の日程を組む
6	Essen und Trinken (1)	食料品の名前に親しむ
7	Essen und Trinken (2)	食習慣について話す
8	Essen und Trinken (3)	「おいしく召し上がれ」「コーヒーはいかが」など食卓で使う表現を学ぶ
9	Reisen, Verkehrsmittel (1)	交通機関の名称、乗車・降車の表現、駅や車内のアナウンスに親しむ
10	Reisen, Verkehrsmittel (2)	交通機関を利用する際に必要となる情報をやり取りする
11	Vergangenes (1)	過去の行動について話す
12	Feste	ドイツの祭りやイベントについて知る／地元の祭りについてドイツ語で質疑応答する
13	Vergangenes (2)	人物の行動を描写する／経験の有無を訊き合う
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

【テキスト（教科書）】

Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語学習は楽しい経験となったようだ。

【Outline (in English)】

This German course aims at improving students' speaking, listening, reading and writing skills in order that they can achieve communicative competence at an intermediate level. This course is also willing to assist students in preparing for the DDJ (Diplom Deutsch in Japan) tests. By the end of the course, students should be able to understand and use more everyday expressions and basic phrases.

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANd100LC

ドイツ語中級

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を確認し修得する。さらなる文法項目の学習とドイツ語への理解を深める。ドイツ語検定試験にも対応した力をつけ、5級・4級合格を目指す。

【到達目標】

ドイツ語表現に引き続きドイツ語の「読み、書き、聞き、話す」の基礎力を身につけることをまず目標とする。授業時の練習や予習・復習を通じ、着実にドイツ語の基礎力を養成する。そしてステップアップした文法事項とそれに関連したドイツ語の文章を学習しある程度の内容の事柄をドイツ語で表現でき、さらに難しい文章でも内容が理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ごく基本的なドイツ語を理解している学生が、さらにしっかりと語学力を身につけるために全般的基礎固めを行う中級入門クラスです。前期の基本文法を一通り復習し、その国で日常生活をしていくために必要な最低限の語彙と表現力を身につけるだけでなく、平易な文章を読み、書くことのできる総合的なコミュニケーション力を育成します。一連の学習を通じ、外国語への理解を深め、既定の目標レベルに到達するための成し遂げ力を養っていきます。授業の初めに、前回課題とした問題を各自に解いてもらい、それに対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	イントロダクション	ドイツ語及びドイツ語圏に関する知識の確認。授業の進め方、評価の基準などの説明と授業で用いるプリントや辞書の説明などを行う。
2 回	単語の読み方のチェック	単語の発音の原則を基にして、注意すべき母音や子音を含む語の読み方を復習し、声に出してチェックする。
3 回	動詞の現在形（1）のチェック	単語の発音の復習と発音練習を兼ねて、数・月・曜日を覚える。主語として用いる人称代名詞と動詞の現在人称変化（1）（人称語尾に注意すべき動詞など）
4 回	語順のチェック	語順（定動詞の位置）の説明と練習。定動詞正置（S+V）と定動詞倒置（V+S）、疑問文の作り方など。
5 回	名詞と定冠詞の格のチェック	名詞と定冠詞 der の変化——名詞の数と性（男性、女性、中性）、および定冠詞 der の格の形と変化形（1格、2格、3格、4格）の解説と練習
6 回	複数形と定冠詞類のチェック	名詞の複数形と定冠詞類——名詞の複数形の種類と定冠詞 der とほぼ同じ格変化をする定冠詞類（ dieser など）の使い方

7 回	不定冠詞（類）のチェック	不定冠詞 ein と不定冠詞類——不定冠詞 ein の格変化および不定冠詞と同じ格変化をする語句（所有冠詞・否定冠詞）の使い方。否定文の作り方。
8 回	人称代名詞と動詞の現在形（2）のチェック	人称代名詞 3 格と 4 格の形態と文中におけるその語順。つずりや語尾の変化がある語幹の母音が変音する動詞の現在人称変化（2）
9 回	命令文と非人称表現、前置詞のチェック	相手によって形が変わる命令形の作り方。非人称 es の用法の説明。特定の格形（2 格・3 格・4 格）と結びつく前置詞の意味と用法。3 格または 4 格と結びつく前置詞の用法。前置詞と他の品詞との融合形（前置詞と定冠詞・「 da? 」前置詞）の用法および前置詞を含む動詞句の解説。
11 回	休暇・活動（1）	英語の can などに相当する話法の助動詞の種類と現在人称変化形および用法上の注意点の説明と演習。未来形の形態と用法。
12 回	休暇・活動（2）	複合動詞——基本となる動詞の前に前つずりといわれる語句がついた動詞（分離するものと分離しないものがある）の用法の説明。
13 回	天候と統計	形容詞の格語尾変化の種類と用法・比較変化の形と意味。
14 回	試験・まとめと解説	今までに学んだ項目に関連した表現を中心にチェックし、確認する。期末試験を行ない、解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の事項についての情報を得た上で、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また、その日に学んだチェックポイントを再度確認する。

【テキスト（教科書）】

春学期使用テキスト＋プリント使用（ドイツ語検定試験問題等）、授業内に配布する。

【参考書】

〔推薦辞書〕「新アクセス独和辞典」（三修社）、「アポロン独和辞典」（同学社）「クラウン独和辞典」（三省堂）、「独和辞典」（郁文堂）、「現代独和辞典」（三修社）など。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末のまとめのテストの他に、毎回の授業への取り組み方、課題の提出などの点も加味して到達目標に達しているかを考慮して総合的に評価する。中間・期末テストが 70 %、授業への取り組み方や課題の提出などが 30 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段から学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心がける。できるだけ説明事項は板書し、学生にノートを取らせ、そのための時間が十分確保されるように気をつける。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to learn the basic German and to understand what the German language is like. Moreover, the students who take part in this class read the German sentences and can understand the country "Germany" and its culture. **【Learning Objectives】** Students can understand the rules of pronunciation and everyday german expressions by reading german sentences with many exercises. **【Learning activities outside of classroom】** Students need altogether one hour on average for preparation and review of this lesson. **【Grading Criteria】** A mark for class participation (including some reports) 30%, a midterm and a term-end examination 70%: Grade evaluation is done by taking these points into account.

LAN f 100LC

基礎フランス語 I**荻野 文隆**

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級（基本）文法を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を目指します。

【到達目標】

英語とは異なるフランス語の文字の読み方と文法体系の基礎をマスターしましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語の初級文法と簡単な会話表現を学ぶ。今期は対面授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性があります。課題の正誤は「学習支援システム」を通じてその都度個々人に通知、総合的な解説・講評は最終回にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、アルファベ	英語との相違と共通点
②	発音の基礎	母音の発音といくつかの子音の発音
③	つづり字の読み方	つづり字の読み方の規則と発音の復習
④	簡単な挨拶表現	名刺の姓・数 旅の基本表現と数字
⑤	パリに親しむ	簡単なフランス語表現、パリの名所
⑥	be 動詞、国籍・職業を言う	形容詞と姓・数の一致、主語と動詞の活用
⑦	have 動詞、許可を求める	よく使う表現、形容詞（続き）
⑧	Cafe で注文 数字表現	人に物を頼む表現
⑨	プチ・ホテルを取る	値段を尋ねる、フランスホテル事情
⑩	場所を尋ねる	不規則動詞（1）
⑪	否定表現	許可を求める表現（2）と命令文
⑫	季節と天候表現 身体の不調を訴える	不規則動詞（2）
⑬	筆記テストと会話テスト	フランス文化理解と文法理解の確認
⑭	復習とまとめ	主な動詞の活用と簡単な会話表現の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音読やリスニングの練習を継続してやりましょう。

【テキスト（教科書）】

「パリの街角で」 荻野文隆、Isabelle Ogino 両風堂
しっかりとフランス語を身に付けたい方は、別売りの音声ペンを購入して、美しいフランス語の発音とイントネーションを身につけましょう。全ての例文の発音を簡単に聴くことができ、大変有効です。
また両風堂のホームページから本文とシャンソンの音源をダウンロードできます。

<http://www.ryofudo.jp/dl.html>

【参考書】

「地球の歩き方 フランス」、「地球の歩き方 パリ」（ダイヤモンド社）では、便利で実用的な情報が得られます。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（2つの会話練習含む）40パーセント、期末テスト50パーセント、平常点（授業参加度10パーセント）も考慮する
上記記載の評価方法は通常の対面式授業の時のもので、オンライン授業になるとこの基準は変更となる。その場合は
毎回の小さな課題提出50%、やや大きなレポート形式の課題30%、簡単な小テスト20%、を考えている。

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス語・フランス語圏文化に親しむ。

【その他の重要事項】

極力、遅刻及び2回続けて休まないこと。毎回前回の学習を時間の始めにする。また新しく習う文法項目は時間の最初に説明するので。

【Outline (in English)】

This French class aims at teaching students basic grammar and comprehensive language ability including reading, writing, listening, and speaking.

LAN f 100LC

基礎フランス語Ⅰ**元木 淳子**

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法の基礎を現在時制の範囲で学ぶとともに、フランスの歴史や文化などについて認識を深める。

【到達目標】

現在形の範囲で、フランス語で簡潔に話したり書いたりして自己紹介することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語初学者を対象とする授業。学習者が、母語や英語など既習言語と比較しながら、可能な限りフランス語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造や品詞の姿などを提示する。動詞は現在時制の範囲とする。フランスの諸事情について情報交換する場を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介、アルファベットの発音	フランス語の綴りと発音の関係を学ぶ
第2回	名詞の性と数	名詞の性と数の呼応について学ぶ
第3回	冠詞と主語人称代名詞	名詞と冠詞の関係、主語人称代名詞について整理する。
第4回	être と avoir	二つの重要な不規則動詞の直説法現在形を知る
第5回	第1群規則動詞	-er 動詞の直説法現在の活用形を学ぶ
第6回	第2群規則動詞	-ir 動詞の直説法現在の活用形を学ぶ
第7回	形容詞の性と数	形容詞と名詞の呼応、形容詞の位置について学ぶ
第8回	否定形	さまざまな否定の形を知る
第9回	疑問文	疑問詞を冠しない疑問文と応答の仕方を知る。
第10回	指示形容詞、所有形容詞	形容詞と名詞の関係についてまとめる
第11回	近接未来・近接過去	直説法現在形を用いて表す過去と未来の表現について学ぶ
第12回	命令法	命令法のニュアンスを知る
第13回	比較の表現	比較級、最上級の形式と用法について学ぶ
第14回	総復習	学期中に学んだ文法事項を総復習し、フランス語での自己表現がどこまで可能かまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題を課します。

【テキスト（教科書）】

萩野文隆・萩野イザベル、『パリの街角で』、両風堂

【参考書】

授業中に指示

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %

平常点を 50 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンやフランス語映画に触れる機会を多くもうけます。

【Outline (in English)】

This course deals with French grammar.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge of French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (50%), and in-class contribution(50%).

LAN f 100LC

基礎フランス語ⅠⅡ**荻野 文隆**

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎力と読み・書き・聞く・話すの総合力を養う。
今学期は対面式授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用可能性がある。

【到達目標】

英語とは異なるフランス語の文字の読み方と基礎文法をマスターする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語初級文法の理解と簡単な会話表現を積極的・能動的に学習。今学期は対面授業を主体としつつ、情勢によってはオンライン・オンデマンド授業も併用する可能性がある。課題の正誤は「学習支援システム」を通じてその都度個々人に通知、総合的な解説・講評は最終回にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	前期の復習 基本動詞	基本動詞の復習、とくに発音
②	電話をかける	前期に学んだ数字表現の復習と丁寧表現
③	時刻表現、様々な疑問文	レストラン予約
④	自己紹介	疑問文の総合学習、質疑応答表現
⑤	ブティックで買い物	比較級と人称代名詞の目的格
⑥	色彩と比較表現 愛の表現	ブティックでの買い物、試着をする
⑦	メトロに乗る	代名動詞
⑧	非人称表現、最上級	疑問文、命令文の復習
⑨	過去の表現 旅のトラブル会話	複合過去（１）
⑩	レストランで注文 フランス料理	第二の規則動詞
⑪	パリ・ディズニーランドに行く	複合過去（２）
⑫	近い未来と過去	様々なカードを書く 絵葉書を書く
⑬	まとめとテスト	現在、未来、過去の表現
⑭	初級文法の総復習	基礎的な文法項目と簡単な会話表現の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
音読、リスニング、発話の練習を継続的にを行います。

【テキスト（教科書）】

「パリの街角で：音声ペンで学ぶフランス語」 荻野文隆、Isabelle Ogino
両風堂

しっかりとフランス語を身に付けたい方は、別売りの音声ペンを購入して、予習と復習に活かしてください。フランス語の発音とイントネーションを随時確認するのに大変便利です。

また両風堂のホームページ（<http://www.ryofudo.jp/dl/html>）から本文とシャンソンの音源をダウンロードできます。

【参考書】

「地球の歩き方 フランス」、「地球の歩き方 パリ」（ダイヤモンド社）は、実用的で便利な情報が得られます。

【成績評価の方法と基準】

2つの大きな会話課題（自己紹介とレストランでの会話）と小テスト40パーセント、書き込み式文法練習と読解20パーセント（授業参加度の評価）期末テスト40パーセント

以上は対面式授業が実施された場合で、オンライン授業になった場合は、前期同様、課題50%、やや大きなレポート課題30%、小テスト20%の予定。なお対面式とオンラインとの併用にになった場合は、その割合で上記2つの方法の組み合わせとする。

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス語・フランス語圏文化に親しむ。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境と仏和辞典。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This French class for beginners aims at teaching students basic grammar and comprehensive language ability including reading, writing, listening, and speaking.

LAN f 100LC

基礎フランス語ⅠⅠ

元木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基礎文法（過去時制、未来時制を含む）。

【到達目標】

現在・過去・未来時制にわたって学んだフランス語文法の基礎に基づき、自己表現することができる。フランス語インターネットサイトなどから情報を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

全学年のフランス語初学者を対象とする授業。「基礎フランス語Ⅰ」レベルの文法理解があることを前提に、過去、未来時制を含めたフランス語文法の基礎を学ぶ。受講者は、母語、英語、フランス語等を較べて、言語と文法についての考えを深めながら、複文の構造、現在・過去・未来時制の基本等を学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介、直説法複合過去	直説法複合過去形の構成を知る
第2回	非人称表現	天気・時間などの非人称表現を知る
第3回	命令法	命令法の形と用法について学ぶ
第4回	目的語人称代名詞	直接目的語と間接目的語の形と位置について学ぶ
第5回	中性代名詞	中性代名詞の種類と用法を学ぶ
第6回	代名動詞	代名動詞の構成と用法について学ぶ
第7回	関係代名詞	関係代名詞を用いた複文の構成を学ぶ
第8回	直説法半過去	直説法半過去の活用形と用法を学ぶ
第9回	さまざまな過去表現	直説法複合過去形、半過去形などの使い分けについて学ぶ
第10回	直説法単純未来	直説法単純未来の活用と用法を学ぶ
第11回	比較級	優等、同等、劣等比較の形について学ぶ
第12回	最上級	最上級の作り方と特殊な優等比較の形を知る
第13回	条件法	条件法現在形の活用と用法を学ぶ
第14回	接続法	接続法現在形の活用と用法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題を課します。

【テキスト（教科書）】

荻野文隆・荻野イザベル、『パリの街角で』、両風堂

【参考書】

仏和辞典は、収録語彙数が 35000 語以上のものが望まれます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 50 %

小テスト、授業参加度などを 50 % として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンやフランス語映画などに触れる機会を多くもうけます。

【Outline (in English)】

This course deals with French grammar.

At the end of the course, students are expected to acquire basic grammatical knowledge of French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Your study time will be more than one hour for a class.

LAN f 100LC

フランス語表現

荻野 イザベル

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語は、フランスを含めたヨーロッパ、そしてアフリカ諸国でも使用される言語です。フランス語を学びながら世界へのイメージを広げていきましょう。

この授業で、楽しくフランス語を話してみましょう。

【到達目標】

フランス語の発音になれ、簡単な話し方を学びます。
またフランスの生活、料理、文化、シャンソンにも触れたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日常生活に便利な表現を身につける練習をします。
ビデオ教材にそって、フランスの文化と生活のさまざまな場面を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション フランス語と他のヨーロッパ言語の比較	présentation du cours
②	挨拶する フランス語のあそびうた	salutations chantons en français
③	この人はだれですか？	qui est-ce?
④	家族を紹介する	ma famille est comme ça
⑤	好き・嫌い 不定形を学ぶ	aimer / détester dire non
⑥	別人になる	changer d'identité
⑦	趣味について語る	les loisirs
⑧	買い物をする	faire les courses
⑨	ヴァカンスに行く	partir en vacances
⑩	フランスの地方	viles et régions de France
⑪	過ぎた夏の歌	chanson: Colchiques dans les prés
⑫	レストランで メニューの説明を聞く	au restaurant explications sur des spécialités
⑬	現代のフランス映画を見る	regardons un film en français
⑭	晴れのち雨	parler de la pluie et du beau temps

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
簡単な予習と復習を出します。

【テキスト（教科書）】

音声ペンで学ぶフランス語入門 パリの街角で

A Paris... avec un stylo magique

Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino

両風堂、2015 年 2800 円

【参考書】

地球の歩き方フランス ダイアモンド・ビッグ社

最初の授業で参考書について説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % 期末試験 40 %として総合的に評価します。
授業への積極的な参加を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

HOPPII に自然なフランス語の発音に馴染めるように新しい「教材」の URL をアップします。

【Outline (in English)】

This is a French language communication course for beginners.

Let's enjoy speaking French together!

And thus enlarge your vision of the world....

LAN f 100LC

フランス語表現

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「大学で、英語以外どんな言語を学びました？」こんな質問が最近就職の面接でされるようになりました。日本企業の英語圏以外の進出はめざましく、英語以外のさまざまな言語が必要な時代になっているからです。フランス語は、フランスを含めたユーロ圏、そしてアフリカ諸国でも使用される重要な言語です。大学で身につけておくべきスキルの一つだと思います。フランス語は、初めて学ぶことになるかもしれませんが、英語を学ぶ時より簡単に身につきます。というのも、二つの言語は体系的に似かよっているからです。

この講座では、実際にフランス語を話させ読ませて、その向上をはかります。

【到達目標】

確実に綴りが読めるのと自己紹介ができる程度のフランス語を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、ビデオなどいろいろな方法でフランス語の表現の体得をおこないます。スキットなどを、家で暗記してもらい、教室で担当を決め再現してもらいます。詳細については、オリエンテーションの時に説明します。「基礎フランス語（文法）」の履修は、相乗効果を生むので好ましい。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方など説明します
②	綴りと読み方	フランス語の読み方
③	綴りと読み方	フランス語の読み方
④	L1 の解説	自己紹介
⑤	L1 の解説	自己紹介
⑥	L2 の解説	ホテルにて
⑦	L2 の解説	ホテルにて
⑧	L3 の解説	他人の紹介
⑨	L3 の解説	他人の紹介
⑩	L4 の解説	カフェにて
⑪	L4 の解説	カフェにて
⑫	L5 の解説	電話をかける
⑬	L5 の解説	電話をかける
⑭	試験とまとめと解説	試験とまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 毎回いろいろな形で宿題が出ます。しっかりやってきてください！

【テキスト（教科書）】

『新彼女は食いしん坊 1』（朝日出版社）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業への積極性（40 %）

確認試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

「楽しく学べた」など毎回アンケートは好評です

【Outline (in English)】

① "What language did you learn other than English at university?" This question has recently come to be asked during job interviews. This is because Japanese companies are making remarkable progress outside the English-speaking world, and we are in an era where various languages other than English are required. French is an important language used in the euro area, including France, and in African countries. I think it is one of the skills that you should acquire at university. French may be new to you, but it's easier to learn than learning English. Because the two languages are systematically similar. In this course, you will actually speak and read French to improve it.

② Acquire enough French to read spelling and introduce yourself

③ Homework is given in various ways each time. Please do it firmly.

④ Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (60 %) and in-class contribution (40 %).

LAN f 100LC

フランス語中級

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「大学で、英語以外どんな言語を学びました？」こんな質問が最近就職の面接でされるようになりました。日本企業の英語圏以外の世界へ進出はめざましく、英語とともにさまざまな言語が必要な時代になっているからです。フランス語は、フランスを含めたユーロ圏、そしてアフリカ諸国でも使用される重要な言語です。大学で身につけておくべきスキルの一つだと思います。

また身につけた証明として、英検と似た仏検（フランス語検定）があります。4・5級の合格をめざすために、中級フランス語では、基礎フランス語で学んだ文法・表現のスキル・アップ

【到達目標】

仏検（4、5級）合格！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

仏検（4・5級）の合格をめざし、文法・リスニングの強化をめざします。4級の文法の範囲まで説明し、演習形式で授業を進めます。試験まで短い期間なので、宿題なども出し、提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーリング（必ず出席のこと）	授業の進め方について話します
②	L6（道を尋ねる）	文法の説明そして練習問題
③	L6（道を尋ねる）	ビデオそして文章の訳読・リスニング
④	L7（買い物）	文法の説明そして練習問題
⑤	L7（買い物）	ビデオそして文章の訳読・リスニング
⑥	仏検対策	過去の問題を解きながら解説していきます
⑦	仏検対策	過去の問題を解きながら解説していきます
⑧	仏検対策	過去の問題を解きながら解説していきます
⑨	L8（サッカー観戦）	文法の説明そして練習問題
⑩	L8（サッカー観戦）	ビデオそして文章の訳読・リスニング
⑪	L9（デパートで）	文法の説明そして練習問題
⑫	L9（デパートで）	ビデオそして文章の訳読・リスニング
⑬	L10（実家で）	文法の説明そして練習問題
⑭	L10（実家で）	ビデオそして文章の訳読・リスニング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】合格できるかどうかは、最後には個人の努力による。授業以外でも、自分で計画を立て取り組んでもらいたい。

【テキスト（教科書）】

「彼女は食いしん坊 1」（朝日出版社）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

総合的に判断します

【学生の意見等からの気づき】

やってよかった！ 仏検5級はちょろかった。どうせなら、4級狙えばよかった。試験の後の「打ち上げパーティ」いいですね～。

【Outline (in English)】

① "What language did you learn other than English at university?" This question has recently come to be asked during job interviews. This is because Japanese companies are making remarkable progress outside the English-speaking world, and we are in an era where various languages other than English are required. French is an important language used in the euro area, including France, and in African countries. I think it is one of the skills that you should acquire at university. French may be new to you, but it's easier to learn than learning English. Because the two languages are systematically similar. In this course, you will actually speak and read French to improve it.

② Pass the French certification exam (4th and 5th grade)!

③ Homework is given in various ways each time. Please do it firmly.

④ Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

LAN f 100LC

フランス語中級

元木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用能力を高める。
フランス・フランス語圏事情について認識を深める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定資格の取得を目指す。
フランス語のインターネットサイトで情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

全学年全学科の「フランス語基礎 1」程度既習者を対象とする授業。基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め、実用フランス語技能検定資格 5 級以上の取得を目指す。
フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。
授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の紹介、
	直説法複合過去	直説法複合過去の文を作る。
第 2 回	代名動詞	代名動詞で文を作る。
第 3 回	関係代名詞・指示代名詞	関係代名詞と指示代名詞を用いて文を作る。
第 4 回	直説法半過去	直説法半過去形を用いて、文を作る。
第 5 回	直説法大過去	直説法大過去形と他の過去時制とを比較する。
第 6 回	受動態	受動態の文を作る。
第 7 回	現在分詞	現在分詞を用いた文を理解する。
第 8 回	ジェロンディフ	ジェロンディフを用いて文を作る。
第 9 回	直説法単純未来	直説法単純未来を用いて文を作る。
第 10 回	直説法前未来	直説法前未来を用いた文を理解する。
第 11 回	中性代名詞	中性代名詞を用いた文を理解する。
第 12 回	条件法現在	条件法現在を用いて文を作る。
第 13 回	接続法現在	接続法現在を用いて文を作る。
	フランス語の情報を理解する。	フランス語のインターネットサイトで必要な情報を得る。
第 14 回	総復習	フランス語の基礎文法と表現を総復習する。 フランス・フランス語圏について調べ、フランス語で発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題をこなします。

【テキスト（教科書）】

資料適宜配布

【参考書】

授業中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %
実用フランス語技能検定資格への取り組み 20 %
期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス・フランス語圏文化に親しむ。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students develop communication skill in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), French certification examination (20%) and in-class contribution (50%).

LANs100LC

基礎スペイン語Ⅰ

渡辺 雅哉

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の手ほどき。文法・作文・会話の初歩的な能力を身につけることにより、広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

【到達目標】

辞書を引きながら、簡単なスペイン文が読めたり書いたりできるようにする。また、日常的な会話能力の向上も図る。

At the end of the course, students are expected to read and write the most basic Spanish with dictionary, and also make daily conversation in the same language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。原則として、対面授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明。
教科書 1 課	アルファベットと発音	スペイン語の読み方。アクセントの位置。「私は」その他、主語になる代名詞の扱い。
教科書 2 課	名詞	名詞の性と数。
教科書 2 課	定冠詞と不定冠詞。動詞 hay。基数 (0~100)	定冠詞と不定冠詞の区別。存在を示す動詞 hay の使い方。数の数え方。
教科書 3 課	主語人称代名詞。2つの be 動詞 (ser と estar)	ser と estar の活用と使い方、使い分け。
教科書 3 課	疑問文と否定文	疑問文と否定文の作り方。
教科書 4 課	規則動詞	3 つの規則動詞の活用と使い方。
教科書 4 課	指示詞。ser de + 名詞	指示形容詞と指示代名詞の使い方。ser de + 名詞の 3 種類の使い方。
教科書 5 課	形容詞	形容詞の扱い。ser + 形容詞と estar + 形容詞の使い分け。
教科書 5 課	所有形容詞（前置形）。hay que + 不定詞（動詞の原形）	「私の」その他、所有形容詞（前置形）の扱い。hay que + 不定詞の使い方。
教科書 6 課	最も単純な不規則動詞	hacer その他、最も単純な不規則動詞の活用と使い方。
教科書 6 課	時刻	時刻の表現（「何時ですか」「何時に～をしますか」「何時間～をしますか」）。特に重要な事項についての確認。
教科書 1 課～6 課	復習	
春学期試験	試験・まとめと解説	基礎的な文法の知識や作文の能力を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間以上を標準とする】 事前に教科書に目を通して置く。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is more than one hour.

【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同文館、2017 年、2500 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。なお、早めに辞書を用意すること（辞書については、初日のガイダンスの折に何冊か紹介する）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、定期試験 70 % の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70% and in class-contribution: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline (in English)】

An introduction to the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (I).

LANs100LC

基礎スペイン語Ⅰ

渡辺 雅哉

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の手ほどき。文法・作文・会話の初歩的な能力を身につけることにより、広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

【到達目標】

辞書を引きながら、簡単なスペイン文が読めたり書いたりできるようにする。また、日常的な会話能力の向上も図る。

At the end of the course, students are expected to read and write the most basic Spanish with dictionary, and also make daily conversation in the same language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。原則として、対面授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ガイダンス	授業の進め方や試験の実施方法についての説明。
教科書 1 課	アルファベットと発音	スペイン語の読み方。アクセントの位置。「私は」その他、主語になる代名詞の扱い。
教科書 2 課	名詞	名詞の性と数。
教科書 2 課	定冠詞と不定冠詞。動詞 hay。基数 (0~100)	定冠詞と不定冠詞の区別。存在を示す動詞 hay の使い方。数の数え方。
教科書 3 課	主語人称代名詞。2つの be 動詞 (ser と estar)	ser と estar の活用と使い方、使い分け。
教科書 3 課	疑問文と否定文	疑問文と否定文の作り方。
教科書 4 課	規則動詞	3 つの規則動詞の活用と使い方。
教科書 4 課	指示詞。ser de + 名詞	指示形容詞と指示代名詞の使い方。ser de + 名詞の 3 種類の使い方。
教科書 5 課	形容詞	形容詞の扱い。ser + 形容詞と estar + 形容詞の使い分け。
教科書 5 課	所有形容詞（前置形）。hay que + 不定詞（動詞の原形）	「私の」その他、所有形容詞（前置形）の扱い。hay que + 不定詞の使い方。
教科書 6 課	最も単純な不規則動詞	hacer その他、最も単純な不規則動詞の活用と使い方。
教科書 6 課	時刻	時刻の表現（「何時ですか」「何時に～をしますか」「何時間～をしますか」）。特に重要な事項についての確認。
教科書 1 課	復習	
～6 課	春学期試験	試験・まとめと解説
試験	試験・まとめと解説	基礎的な文法の知識や作文の能力を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間以上を標準とする】 事前に教科書に目を通して置く。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is more than one hour.

【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同文館、2017 年、2500 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。なお、早めに辞書を用意すること（辞書については、初日のガイダンスの折に何冊か紹介する）。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、定期試験 70 % の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70% and in class-contribution: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であってもかまわない。

【Outline (in English)】

An introduction to the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (I).

LANs100LC

基礎スペイン語ⅠⅡ

渡辺 雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎スペイン語Ⅰに引き続いて、スペイン語の手ほどき。広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

【到達目標】

辞書を引きながら、さまざまなレベルのスペイン文が読めるようにする。また、いろいろな動詞を用いながら、簡単な自己紹介ができる程度の表現能力を身につける。

At the end of the course, students are expected to understand Spanish of the basic and intermediate levels and introduce themselves in the same language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎スペイン語Ⅰと同様、概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
前期の復習	前期試験の見直し	前期試験の見直しを通じての、各人の課題の発見。
教科書 5 課	2 つの不規則動詞（ir と venir）	かなり複雑な 2 つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	初歩的な不規則動詞（saber と conocer）	ともに「知る」を意味する 2 つの不規則動詞の活用と使い分け。
教科書 7 課	不規則動詞（tener と decir）	2 つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	曜日と日付その他	曜日と日付、月や季節その他の表現のまとめ。
教科書 8 課	初歩的な不規則動詞（dar と ver）。感嘆文	2 つの不規則動詞の扱い。感嘆文の作り方。
教科書 8 課	目的格人称代名詞	間接（～に）と直接（～を）の目的格人称代名詞の扱い。
教科書 9 課	語幹母音変化動詞（pensar と querer と poder）	重要な 3 つの語幹母音変化動詞の活用と使い方。
教科書 9 課	動詞 gustar。所有形容詞（後置形）	好んで用いられる動詞 gustar の扱い。所有形容詞の、前置形よりもやや複雑な後置形の扱い。
教科書 10 課	過去分詞と現在完了	過去分詞の作り方と使い方。現在完了の扱い。
教科書 10 課	疑問詞	qué その他、疑問詞のまとめ。
教科書 11 課	再帰動詞	再帰動詞の基本的な使い方。
まとめ	総復習	動詞の扱いのまとめ。その他の文法事項の確認。
秋学期試験	試験・まとめと解説	4 月からの学習の成果を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間以上を標準とする】 事前に教科書に目を通して置く。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同文社、2017 年、2500 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 % の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70% and in class contribution: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であつてもかまわない。

【Outline (in English)】

An introduction of the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (II).

LANs100LC

基礎スペイン語ⅠⅡ

渡辺 雅哉

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎スペイン語Ⅰに引き続いて、スペイン語の手ほどき。広大なスペイン語圏のさまざまな文化に接するための糸口としたい。

【到達目標】

辞書を引きながら、さまざまなレベルのスペイン文が読めるようにする。また、いろいろな動詞を用いながら、簡単な自己紹介ができる程度の表現能力を身につける。

At the end of the course, students are expected to understand Spanish of the basic and intermediate levels and introduce themselves in the same language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎スペイン語Ⅰと同様、概ねテキストの編集方針に沿って授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
前期の復習	前期試験の見直し	前期試験の見直しを通じての、各人の課題の発見。
教科書 5 課	2 つの不規則動詞（ir と venir）	かなり複雑な 2 つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	初歩的な不規則動詞（saber と conocer）	ともに「知る」を意味する 2 つの不規則動詞の活用と使い分け。
教科書 7 課	不規則動詞（tener と decir）	2 つの不規則動詞の活用と使い方。
教科書 7 課	曜日と日付その他	曜日と日付、月や季節その他の表現のまとめ。
教科書 8 課	初歩的な不規則動詞（dar と ver）。感嘆文	2 つの不規則動詞の扱い。感嘆文の作り方。
教科書 8 課	目的格人称代名詞	間接（～に）と直接（～を）の目的格人称代名詞の扱い。
教科書 9 課	語幹母音変化動詞（pensar と querer と poder）	重要な 3 つの語幹母音変化動詞の活用と使い方。
教科書 9 課	動詞 gustar。所有形容詞（後置形）	好んで用いられる動詞 gustar の扱い。所有形容詞の、前置形よりもやや複雑な後置形の扱い。
教科書 10 課	過去分詞と現在完了	過去分詞の作り方と使い方。現在完了の扱い。
教科書 10 課	疑問詞	qué その他、疑問詞のまとめ。
教科書 11 課	再帰動詞	再帰動詞の基本的な使い方。
まとめ	総復習	動詞の扱いのまとめ。その他の文法事項の確認。
秋学期試験	試験・まとめと解説	4 月からの学習の成果を問う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間以上を標準とする】 事前に教科書に目を通して置く。

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your study time will be more than one hour for a class.

【テキスト（教科書）】

西川喬『基礎から学ぶスペイン語教室』同文館、2017 年、2500 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 % の比率で評価する。「平常点」は「出席点」ではない。単に出席するだけでは意味がないので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70% and in class contribution: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

堅苦しい文法用語の類は、できるだけ使わない。

【その他の重要事項】

わからないことがあったら、授業中に何でも質問すること。些細な内容であつてもかまわない。

【Outline (in English)】

An introduction of the Spanish language to get elementary knowledge of its grammar, writing and conversation, that will make it possible to approach the varied cultures of the Spanish-speaking countries (II).

LANs100LC

スペイン語表現

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。世界遺産人気ナンバーワンのマチュピチュ（ペルー）や奇跡の絶景と言われている天空の鏡ウユニ塩湖（ボリビア）が決して「遠い世界」ではなくなるでしょう。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを繰り返しながらゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力とは？	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アファベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

「改訂版エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2022年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業ではNHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手が好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることによって自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs100LC

スペイン語表現

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。世界遺産人気ナンバーワンのマチュピチュ（ペルー）や奇跡の絶景と言われている天空の鏡ウユニ塩湖（ボリビア）が決して「遠い世界」ではなくなるでしょう。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが...。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを繰り返しながらゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力とは？	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アファベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

「改訂版エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2022年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業ではNHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手が好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることによって自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs100LC

スペイン語中級

日高 憲三

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前期に引き続き基礎的な文法事項や会話表現などを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。またスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解をさらに深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書第8課	gustar 動詞
第2回	教科書第8課	前置詞格人称代名詞
第3回	教科書第9課	再帰動詞
第4回	教科書第9課	無人称文、接続詞
第5回	教科書第10課	点過去1（規則動詞）
第6回	教科書第10課	点過去2（規則動詞）
第7回	教科書第11課	点過去（不規則動詞）
第8回	教科書第11課	関係代名詞
		所有形容詞
第9回	教科書第12課	現在分詞
第10回	教科書第12課	不定語、否定語
第11回	教科書第13課	過去分詞、現在完了
第12回	教科書第13課	受動態
第13回	教科書第14課	比較級
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

「改訂版エスピゲータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2022年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業ではNHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手ですが好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることによって自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ

渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の前半部分を学びながら、中国語力の基礎（言語の規則・「書く」力・「話す」力・「聞く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第7課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲載します。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語とは。
第2回	中国語の発音 (1)	発音 (1)：解説文の説明と発音練習。 練習 1。
		発音 (2)：解説文の説明と発音練習。 練習 2。
第3回	中国語の発音 (2)	発音 (3)：解説文の説明と発音練習。 練習 3。
第4回	中国語の発音 (3)	発音 (4)：解説文の説明と発音練習。 練習 4。
第5回	中国語の発音 (4)	発音 (5)：解説文の説明と発音練習。 練習 5。
第6回	中国語の文法と語彙 (1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	中国語の文法と語彙 (2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第8回	中国語の文法と語彙 (3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	中国語の文法と語彙 (4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第10回	中国語の文法と語彙 (5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	中国語の文法と語彙 (6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第12回	中国語の文法と語彙 (7)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第13回	前期授業内容の復習	第1課～第7課の復習と補足。
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300 円）

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70 %）と平常点（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットを利用できる環境

【その他の重要事項】

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This is a course for students studying Chinese for the first time.

Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ**渡辺 浩司**

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の後半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。必要に応じて、中国語検定（準 4 級）対策も行います。前期開講の「基礎中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（本篇：第 8 課～第 15 課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、基本的な実用会話を学びます。また、必要に応じて、過去問題などを使って、中国語検定（準 4 級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語の文法と語彙 (1)	授業の進め方について・第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 2 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 10 課：新出単語・文法ポイント。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 10 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 11 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 12 課：新出単語・文法ポイント。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 12 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 13 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (11)	第 14 課：新出単語・文法ポイント。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (12)	第 14 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 13 回	中国語の文法と語彙 (13)	第 15 課：新出単語・文法のまとめ。
第 14 回	期末試験	第 8-14 課の復習。 期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300 円）

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70 %）と平常点（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットを利用できる環境

【その他の重要事項】

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This is a class for students who have already learned "Basic Chinese I". The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc100LC

中国語表現

平井 新

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。教科書を使って、基礎的な中国語を読み、書き、聞き、話す力の習得を目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜採り入れていきます。なお、本授業は月曜日開講の「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」「中級中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】

中国語の発音、ピンイン（発音表記）の読み書き、最も広く使用されている中国語の漢字（簡体字）の読み書き、基礎的な語彙・文法・会話を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第1課～第7課）を使います。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は、原則として対面だが、コロナ禍の状況に応じてオンラインの併用も考えられる。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について。中国語について。
第2回	中国語の発音 (1)	発音 (1)：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
		発音 (2)：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第3回	中国語の発音 (2)	発音 (3)：発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第4回	中国語の発音 (3)	発音 (4)：発音練習とあいさつ言葉。練習④⑤⑥⑦。
第5回	中国語の発音 (4)	発音 (5)：発音練習とあいさつ言葉。練習④⑤⑥⑦。
第6回	中国語の表現と語彙 (1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第7回	中国語の表現と語彙 (2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第8回	中国語の表現と語彙 (3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第9回	中国語の表現と語彙 (4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑥。
第10回	中国語の表現と語彙 (5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥。
第11回	中国語の表現と語彙 (6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥。
第12回	中国語の表現と語彙 (7)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑤⑥。
第13回	前期授業内容の復習	第1課～第7課の復習と補足
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】語学を身につけるには反復練習が重要です。授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70％）と平常点（30％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発音の反復練習が有効であると思われるので、本授業でも行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

C/D関連機器。

【Outline (in English)】

This course will focus on Chinese pronunciation, how to read pronunciation notation, reading and writing kanji (simplified letters), and provide practice applying basic vocabulary, grammar and conversation patterns. The goal of the course is to help students master Chinese pronunciation, reading and writing Pinyin (phonetic notation), reading and writing the most widely used Chinese characters (simplified Chinese characters), and basic vocabulary, grammar, and conversation.

The standard study period for this class is one hour outside of class time for preparation, review, etc.] Repetition is the key to mastering a language. Students are encouraged to practice the sentences learned in class aloud as often as possible.

Attendance is a prerequisite for evaluation. Evaluation will be based on the total of the final exam score (70%) and the performance in the class (30%).

LANc100LC

中国語表現

杉本 公子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。中国語の基礎的な読み、書き、聞き、話す力の習得を目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜とり入れていきます。

なお、本授業は月曜日開講の「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」「中級中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】

- (1) 正確な発音を身につける。
- (2) 発音表記が正確に読める。
- (3) 基礎的な文法を理解する。
- (4) 初歩的な会話ができる。
- (5) 基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第1課～第6課）を学びます。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、中国文化にも親しみます。

毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 発音 (1)：単母音	授業の進め方について 発音 (1)：発音表記・単母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第2回	発音 (2)：複母音	発音 (2)：複母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第3回	発音 (3)：子音	発音 (3)：子音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第4回	発音 (4)：鼻音	発音 (4)：鼻音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第5回	発音 (5)：声調の組み合わせ	発音 (5)：声調の組み合わせ 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤⑥。
第6回	表現と語彙 (1) 第1課	第1課：動詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第7回	表現と語彙 (2) 第2課	第2課：疑問詞疑問文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第8回	表現と語彙 (3) 第3課	第3課：所有 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第9回	表現と語彙 (4) 第4課	第4課：形容詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第10回	表現と語彙 (5) 第5課	第5課：存在 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第11回	表現と語彙 (6) 第6課	第6課：名詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第12回	復習	復習（第1～6課）
第13回	期末試験1	期末試験（筆記）
第14回	期末試験2・まとめと復習	期末試験（音読） 第1課～第6課の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

中国語によるコミュニケーション能力を養うには、できるだけ多く練習することが大切です。教科書付録のCDも活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの聞き取りや発音の反復練習をしてみましょう。漢字に頼らず、耳を慣らしてください。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、2011年。

【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、期末試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

漢字は、見て理解できても、いざ書こうとするとわからなくなるもの。書いて覚えましょう。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

【Outline (in English)】

Chinese Communication

[Course Outline] A Mandarin Chinese course for students with no background in Chinese. Students will be offered training in applying their newly gained Chinese skills in listening, speaking, reading and writing. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 1 held during the spring semester.

[Learning Objectives] The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANk100LC

基礎朝鮮語Ⅰ

松本 ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。とくに日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。

受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。

また、毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回とオンライン授業 7 回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとハングルの仕組みと文章構造	韓国語の語順、語彙、分かち書きについて学習
第 2 回	母音 (1)	基本母音について学習
第 3 回	子音 (1) 平音①	基本子音 について学習
第 4 回	子音 (1) 平音②	基本子音 について学習
第 5 回	子音 (1) 平音③	基本子音 について学習
第 6 回	子音 (2) 激音と濃音①	激音 について学習
第 7 回	子音 (2) 激音と濃音②	濃音 について学習
第 8 回	母音 (2) 重母音	重母音について学習
第 9 回	パッチム (終声) ①	パッチム (終声) について学習
第 10 回	パッチム (終声) ②	パッチム (終声) について学習
第 11 回	パッチム (終声) の練習と日本語のハングル表記	パッチム (終声) の練習と日本語のハングル表記の方法について学習
第 12 回	発音編①	ハングルの発音の変化について学習
第 13 回	発音編②	ハングルの発音の変化について学習
第 14 回	期末試験	春学期に学んだ内容で期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとして持ってほしい。

【テキスト（教科書）】

『NEW! 韓国語&会話』魏 聖鈴 右文書院 2014

【参考書】

『韓国語の初歩 改訂版』（白水社）

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

授業内の小テスト	10 %
中間試験	20 %
期末試験	30 %
課題	20 %
平常点	20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz	10 %
Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	20 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

基礎朝鮮語Ⅰ

松本 ジュン

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。とくに日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。

受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。

また、毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回とオンライン授業 7 回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとハングルの仕組みと文章構造	韓国語の語順、語彙、分かち書きについて学習
第 2 回	母音 (1)	基本母音について学習
第 3 回	子音 (1) 平音①	基本子音 について学習
第 4 回	子音 (1) 平音②	基本子音 について学習
第 5 回	子音 (1) 平音③	基本子音 について学習
第 6 回	子音 (2) 激音と濃音①	激音 について学習
第 7 回	子音 (2) 激音と濃音②	濃音 について学習
第 8 回	母音 (2) 重母音	重母音について学習
第 9 回	パッチム (終声) ①	パッチム (終声) について学習
第 10 回	パッチム (終声) ②	パッチム (終声) について学習
第 11 回	パッチム (終声) の練習と日本語のハングル表記	パッチム (終声) の練習と日本語のハングル表記の方法について学習
第 12 回	発音編①	ハングルの発音の変化について学習
第 13 回	発音編②	ハングルの発音の変化について学習
第 14 回	期末試験	春学期に学んだ内容で期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとして持ってほしい。

【テキスト（教科書）】

『NEW！韓国語&会話』魏 聖鈴 右文書院 2014

【参考書】

『韓国語の初歩 改訂版』（白水社）

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

授業内の小テスト	10 %
中間試験	20 %
期末試験	30 %
課題	20 %
平常点	20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz	10 %
Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	20 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

基礎朝鮮語Ⅰ

松本 ジュン

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。とくに日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。

受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。

また、毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回とオンライン授業 7 回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	会話 1	自己紹介
第 2 回	会話 2	名詞の否定表現
第 3 回	会話 3-①	待ち合わせ
第 4 回	会話 3-②	待ち合わせ
第 5 回	会話 4-①	道をたずねるとき
第 6 回	会話 4-②	道をたずねるとき
第 7 回	中間試験	会話 1～4 の内容で中間試験をおこなう
第 8 回	会話 5	趣味をたずねるとき
第 9 回	会話 6	過去の出来事をたずねるとき
第 10 回	会話 7	コンビニで買い物
第 11 回	会話 8	電話での会話
第 12 回	会話 9	タクシーでの会話
第 13 回	期末試験	会話 5～9 の内容で期末試験をおこなう
第 14 回	作文の発表	これまで習った表現を使って作文の発表をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声を聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてほしい。

【テキスト（教科書）】

『NEW! 韓国語&会話』魏 聖鈴 右文書院 2014

【参考書】

『韓国語の初歩 改訂版』（白水社）

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

授業内の小テスト	10 %
中間試験	20 %
期末試験	30 %
課題	20 %
平常点	20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz	10 %
Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	20 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

基礎朝鮮語Ⅰ

松本 ジュン

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめて朝鮮語を学ぶ人を対象とし、朝鮮語を表記する文字ハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を教え、それに基づいた表現を身に付けるようにする。とくに日本語との類似点、相違点にも注意しながら進めていく。

【到達目標】

ハングルの読み・書きから始め、ハムニダ体、ヘヨ体、叙述、疑問、否定、過去形などの初歩的な文法に基づいた表現を身につけ、簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

朝鮮語文法の基礎を学ぶとともに、朝鮮半島の歴史や文化等について認識を深める。

受講者が母語や英語等既習言語と比較しながら、可能なかぎり朝鮮語の文法規則を自ら見いだせるよう、単文の構造、品詞の形等を提示する。また朝鮮半島の最新事情について情報交換する場をもうける。

また、毎回提出される課題については教員が確認をして、次回の授業で取り上げながら全体に対してフィードバックをおこなう予定である。春学期の授業形態は全 14 回のうち、対面授業 7 回とオンライン授業 7 回の両方を組み合わせて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	会話 1	自己紹介
第 2 回	会話 2	名詞の否定表現
第 3 回	会話 3-①	待ち合わせ
第 4 回	会話 3-②	待ち合わせ
第 5 回	会話 4-①	道をたずねるとき
第 6 回	会話 4-②	道をたずねるとき
第 7 回	中間試験	会話 1～4 の内容で中間試験をおこなう
第 8 回	会話 5	趣味をたずねるとき
第 9 回	会話 6	過去の出来事をたずねるとき
第 10 回	会話 7	コンビニで買い物
第 11 回	会話 8	電話での会話
第 12 回	会話 9	タクシーでの会話
第 13 回	期末試験	会話 5～9 の内容で期末試験をおこなう
第 14 回	作文の発表	これまで習った表現を使って作文の発表をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。本授業では事前に教科書を読んで授業に臨むことが前提になる。教科書の音声聞くことも効果的である。毎回課題を提出し、取り組みには丁寧さと正確さが求められる。

語学の学習は毎日その言語に触れることが上達できる道になる。持続的な学習が大切であることを皆さんの心構えとしてもってほしい。

【テキスト（教科書）】

『NEW! 韓国語&会話』魏 聖銓 右文書院 2014

【参考書】

『韓国語の初歩 改訂版』（白水社）

『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

授業内の小テスト	10 %
中間試験	20 %
期末試験	30 %
課題	20 %
平常点	20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートからも「もっと話す機会がほしい」との意見がありました。教員も受講者がたくさん話せる場面をもうけ、みんなが楽しく参加できる授業の環境づくりにつとめたいと思います。

語学の授業では、受講者自身が積極性をもち授業に臨むことが大前提となりますので日頃の復習と予習にも力を入れましょう。

【Outline (in English)】

This course is intended for beginners in Korean. It starts with reading and writing, and then introduces students to basic expressions in Korean using basic grammar rules. Emphasis is placed on similarities and differences between Korean and Japanese throughout the course.

The course will be starting from the Hangeul's literacy and acquisition of basic grammar. By the end of the course, students are expected to be able to do the simple conversation.

Before and after each class meeting, students are expected to spend about four hours of studying to understand the course. With the assumption, read the text book before class and submit the assignment every class. It is effective to expose to the language every day to improve your skill.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz	10 %
Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	20 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

朝鮮語表現

魏 聖銓

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう

【到達目標】

ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。ハングル能力検定試験 5 級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。

提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。

簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	韓国語と文字について	自分の名前が書ける！ 韓国語と文字の紹介
2	基本母音字	基本母音字&単語練習 アンニョンハセヨ（こんにちは）
3	基本子音字 1	単語ゲームにチャレンジ/ カム サハムニダ（ありがとうございます）
4	基本子音字 2	基本子音字 2 & 単語練習 トマンナヨ（また会いましょう）
5	重母音	重母音&単語練習
6	パッチム（終声）	パッチム（終声）&単語練習 チョンマネヨ（どういたしまして）
7	文字のまとめ	文字に関する 単語ゲーム 2 つ チャルモッケスムニダ（いただきます）
8	発音の変化について	7 つの発音変化の簡単法則
9	発音の変化の活用例	パッチムの 7 グループも覚えましょう！
10	会話 1 私は日本人です。	会話 1 私は日本人です。 ハングルの表記と発音の間は？
11	会話 2 ツツジではありません。	名詞の否定表現/ 期末テストのプレビュー
12	会話 3 時間ありますか。	<韓国体験 1> 韓国の料理「サムゲタン」の紹介
13	簡単文法について	<韓国体験 2> ソウルの風景
14	応用会話の練習 まとめ。	買い物場面での会話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

『NEW! 韓国語&会話』 魏 聖銓 右文書院

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %

中間試験 20 %

まとめ 30 %

課題 20 %

クラス貢献 20 %

合格点は 60 以上です。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、韓国語は自分のものになる。

【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

【Outline (in English)】

Korean expression Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %

Midterm exam 20 %

Finals 30 %

Assignment 20 %

Class contribution 20 %

A passing score is 60 or up.

LANk100LC

朝鮮語表現

魏 聖鉉

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう

【到達目標】

ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。ハングル能力検定試験 5 級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。

簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	韓国語と文字について	自分の名前が書ける！ 韓国語と文字の紹介
2	基本母音字	基本母音字 & 単語練習 アンニョンハセヨ（こんにちは）
3	基本子音字 1	単語ゲームにチャレンジ！ カムサハム ニダ（ありがとうございます）
4	基本子音字 2	基本子音字 2 & 単語練習 トマナヨ（また会いましょう）
5	重母音	重母音 & 単語練習
6	パッチム（終声）	パッチム（終声） & 単語練習 チョンマネヨ（どういたしまして）
7	文字のまとめ	文字に関する 単語ゲーム 2 つ チャルモッケスムニダ（いただきます）
8	発音の変化について	7 つの発音変化の簡単法則
9	発音の変化の活用例	パッチムの 7 グループも覚えましょう！
10	会話 1 私は日本人です。	会話 1 私は日本人です。 ハングルの表記と発音の間は？
11	会話 2 ツツジではありません。	名詞の否定表現 / 期末テストのレビュー
12	会話 3 時間ありますか。	<韓国体験 1> 韓国の料理「サムゲタン」の紹介
13	簡単文法	<韓国体験 2> ソウルの風景
14	応用会話の練習	買い物場面での会話

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

『NEW! 韓国語&会話』 魏 聖鉉 右文書院

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %

中間試験 20 %

まとめ 30 %

課題 20 %

クラス貢献 20 %

合格点は 60 以上です。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる

【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

【Outline (in English)】

Korean expression

Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz	10 %
Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	20 %
A passing score is 60 or up.	

LANk100LC

朝鮮語中級

魏 聖銓

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語の表現を学ぼう

【到達目標】

ハングルの読み・書きを覚えて初歩的な文法に基づいた表現を習得し、韓国旅行などに使える簡単な会話能力を身につけることを目標にしています。ハングル能力検定試験 5 級についてもガイドします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。韓国語を学びたい人を対象にし、韓国語の文字であるハングルの書き方・読み方、基礎的な文法項目を楽しく学び、それに基づいた表現を身に付けるようにします。

提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

簡単なフレーズ、会話表現も練習します。また、K-POP、韓国の文化、ソウルの風景についても随時紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前期の復習	前期の復習
2	会話 4 見ませんか。	道を訪ねるときの表現
3	韓国にも十二支はあります。	<韓国体験3> 慶州に行ってみよう！
4	会話 5 趣味はなんですか。	疑問代名詞
5	会話 6 昨日何をしましたか。	過去形の練習
6	会話 7 カップラーメンも食べてみたいです。	韓国のコンビニで買い物
7	会話 8 少し遅れそうです。	<韓国体験4> 仁寺洞に行ってみよう！
8	韓国へ旅しよう！	ソウルの観光スポット 仁寺洞、北村、ソウルタワーなど
9	会話 9 明洞ホテルはどこですか	タクシーでの会話
10	会話 10 この靴履いてみていいですか。	買い物の会話
11	期末テストのプレビュー	復習&おさらい
12	韓国の文化	異文化コミュニケーション
13	会話 11 オミジャ茶1つください。	カフェでの注文！
14	会話 12 インターネットは使えますか。まとめ。	可能・不可能の表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

『NEW! 韓国語&会話』 魏 聖銓 右文書院

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %

中間試験 20 %

まとめ 30 %

課題 20 %

クラス貢献 20 %

合格点は 60 以上です。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる！

【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

【Outline (in English)】

Intermediate Korean

Students will master basic Hangul grammar, vocabulary, and knowledge of expressions as well as daily conversation and composition skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz	10 %
Midterm exam	20 %
Finals	30 %
Assignment	20 %
Class contribution	20 %

A passing score is 60 or up.

BSP100LC

文章作法

矢口 貢大

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】

- ①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
- ②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
- ③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習から成り、その進行は大きく三段階に分けられます。まず、読みやすく正確な文を書くための基本について学び、演習を行います。次に、説得力のある議論の立て方を学び、小論文を作成します。最後に、学術レポートを書くための文献検索や情報処理の技術を学び、期末課題としてレポートを作成します。

※演習を多く取り入れた授業構成とします。授業中に書いてもらった課題は、ピアレビューや添削によってよりよい作文に仕上げていきます。課題へのフィードバックは「学習支援システム」または紙媒体での添削とコメントによって行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（授業内容の理解）・文章表現の基本（1）	・オリエンテーション（抽選、授業の目標、進め方および成績評価の説明） ・語順の法則
第 2 回	文章表現の基本（2）	・読点のうち方 ・書き言葉と話し言葉 ・小テスト（添削演習）
第 3 回	自己表現の実践（1）	・課題作成（怖い話／笑い話）
第 4 回	自己表現の実践（2）	・課題の返却と講評 ・主述の一致 ・長文の分割
第 5 回	論文入門（1）	・論文とは何か ・論理とは何か ・要約練習 ・文章整序
第 6 回	論文入門（2）	・論証とは何か ・論証のパターン① ・400 字作文
第 7 回	論文入門（3）	・論証のパターン②（反論） ・議論分析の方法 ・400 字作文
第 8 回	論文入門（4）	・パラグラフ・ライティング ・パッセージの構成法 ・アウトラインの作成
第 9 回	意見表明の実践（1）	・課題作成
第 10 回	意見表明の実践（2）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第 11 回	意見表明の実践（3）	・課題作成
第 12 回	意見表明の実践（4）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第 13 回	情報収集と情報処理（1）	・先行研究の調べ方 ・注と参考文献 ・話題ストラテジー
第 14 回	情報収集と情報処理（2）	・スキミング ・スキミング ・要約練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・第 2 回：小テストを見直し、授業内容を復習する。
- ・第 4・10・12 回：課題文の返却後、添削・講評を参考に作文を書き直す。
- ・第 13・14 回：レポート作成に必要な資料を読み、文献メモを作る。レポートのアウトラインを作成する。レポートを書き、推敲する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを配布します。

【参考書】

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012 年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010 年
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006 年

【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（小テスト・400 字作文）（20 %）

課題文（40 %）

レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な授業にしますが、一人の学生に当てる時間が長すぎないように調整します。メールでの質問にできるだけ迅速に対応するよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

三牧 宏彬

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要な、パソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータを使用して、レポート課題の情報収集、レポートの作成、提出ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第 2 回	ワードによる文章の作成 (1)	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第 3 回	ワードによる文章の作成 (2)	文字サイズの変更・装飾、表の挿入、ワードアート
第 4 回	ワードによる文章の作成 (3)	文書入力の演習
第 5 回	ワードによる文章の作成 (4)	まとめと演習
第 6 回	エクセルの基本操作 (1)	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第 7 回	エクセルの基本操作 (2)	関数を使った計算式、罫線、行の挿入、絶対参照と相対参照
第 8 回	エクセルの基本操作 (3)	グラフの作成
第 9 回	ワードとエクセルの活用	ワードにエクセルの表とグラフの貼り付け
第 10 回	パワーポイントの基本操作 (1)	基本操作
第 11 回	パワーポイントの基本操作 (2)	ワードとエクセルの連携活用
第 12 回	パワーポイントの基本操作 (3)	文字の入力、アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作 (4)	オリジナルパワーポイントの作成
第 14 回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 本学の情報支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎」、近代科学社
「30 時間でマスター Office2019 (Windows10 対応)」、実教出版株式会社

【成績評価の方法と基準】

評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

スクリーンへ投射した文字等を大きく表示し、わかりやすい授業を行うよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental operation for personal computers and how to use effectively software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポート作成や研究教育活動に必要な学内システムやパソコンの基本操作方法、ワード、エクセル、パワーポイント等のソフトウェアの使い方および情報モラルに関する知識の取得を目的とする。

【到達目標】

研究レポートの作成方法、データの処理方法、わかりやすいプレゼンテーションの作成方法および適切な情報の扱い方を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

貸与パソコンを用いた演習により各テーマを学ぶ。社会情勢や学内環境に応じて授業の実施方法や計画を変更する場合がある。変更の場合、学習支援システムにてその都度指示する。また、貸与パソコンの配布状況に応じて授業開始日を変更する。4月6日までは具体的な授業実施方法や授業開始日について学習支援システムにて通知する。授業の最初に前回の授業で提出された課題の解答例や傾向を全体へフィードバックする。最後にプレゼンテーションを用いた発表会を行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明・概論、PCの使い方
第2回	インターネットと学内システムの利用	インターネット、メール、学習支援システム、文献調査
第3回	ワードの概要	ワードの基本操作
第4回	ワードによる文章作成	レポート作成に必要な操作
第5回	エクセルの概要	エクセルの基本操作
第6回	エクセルによる図表作成	表の操作とグラフ作成
第7回	エクセルの基本関数機能	基本関数機能を用いたデータ処理
第8回	エクセルによる基本関数機能の応用	関数機能を用いたデータ処理の応用
第9回	エクセルによるデータ処理演習	電気電子分野のデータを利用したエクセルの演習
第10回	レポート作成の概要	レポートの作法や文章作成
第11回	ワードやエクセルを用いたレポート作成	レポート作成に用いるワードやエクセルの操作方法
第12回	パワーポイントの概要	パワーポイントの基本操作
第13回	パワーポイントによるプレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの作成方法
第14回	プレゼンテーション発表会	ワード、エクセル、パワーポイントを用いた総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
パソコン操作に慣れるように、授業後は復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

小野目如快『Office2019で学ぶコンピュータリテラシー』実教出版
木下是雄『理科系の作文技術』中央公論新社

【成績評価の方法と基準】

授業内で課すレポート課題、発表内容 80 %、平常点 20 %とし、総合的に評価したうえで 100 点満点中 60 点以上を合格とする。授業方法変更に伴い、成績評価方法が変更となる場合は授業中に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

操作説明が速いとの指摘が散見されたので、状況を見ながら説明速度を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する。資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

民間企業の研究開発に携わってきた教員が、業務効率を向上させる Microsoft Office の利用法についても講義する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The purpose of this course is to acquire knowledge of basic computer operations, how to use software (Word, Excel, and PowerPoint), and computer literacy.

< Learning Objectives >

The goals of this course are to acquire methods for writing research reports, processing data, creating a clear presentation, and handling information appropriately.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

< Grading Criteria /Policy >

The final grade will be calculated according to the following process Reports, presentation (80%), and in-class contribution.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

若林 哲

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系レポートにふさわしい表現力や効果的なプレゼンテーションの仕方を習得する。

【到達目標】

理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、ワード・エクセル・パワーポイントを用いた効果的なレポート作成とインパクトのあるプレゼンテーションの仕方を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始前にオリエンテーションの視聴確認を行い、オンライン講義と演習を行う（予定）。

ワード・エクセル・パワーポイントを用いたレポート作成演習を行う。この演習を通して、理工系レポートにふさわしい表現力を習得するとともに、効果的なプレゼンテーションについても学習する。提出課題については授業内でのフィードバックと個別フィードバックを適宜行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	情報リテラシーってなんだ？	情報リテラシーとは何についてを学ぶのか、情報モラルや情報セキュリティについて学ぶ。
第 2 回	ワードは便利？ それとも不便？	実際に Word を使ってできる便利な機能を、日本語作成にとっては不便部分を克服する方法を学ぶ。著作権や個人情報に関する理解を深める。
第 3 回	エクセルで文書作成？	表計算のツールでもある Excel を使ってレポートの作成もできる可能性を探る。情報環境の近代史など情報に関して学ぶ。
第 4 回	ワードとエクセルでレポート作成！	文章設計や科学論文の書き方を学び、IoT 機器の結果からレポートを作成する。
第 5 回	パワーポイントでプレゼン！	PowerPoint を使ってどんなプレゼンができるのかチャレンジする。
第 6 回	エクセル演習	ピボットテーブルの使い方を学び、課題を用いて演習を行う。
第 7 回	パワーポイントにエクセルの表やグラフを組み込む	PowerPoint のプレゼンに Excel で作成した表や動画・写真などをきれいに入れる技を習得する。情報セキュリティの時事ネタからどのような事に気をつけなければならないかを学ぶ。
第 8 回	レポートを作成しよう【中間テスト】	実験データを提供し、その値を元に実験レポートを Word と Excel で作成する。インターネットを用いて調査し、レポートをまとめる。後半は【中間テスト】
第 9 回	事例による個人情報と著作権	個人情報や著作権の取り扱い方法を学ぶ。情報セキュリティに関する事例を紹介し、対策などをグループ討議する。
第 10 回	マナーとモラルをもう一度	個人情報保護、著作権の侵害などの情報モラルや情報セキュリティに関する内容を改めて詳しく解説する。仮想卒業論文をネタに Word の使い方を演習する。
第 11 回	グラフの作成	Excel を使ったグラフ作成方法の基本と応用を習得する。自己 PR 資料を作成する。
第 12 回	困ったときにどうするか？	Office の利用方法をインターネット検索で調べる方法のこつを学ぶ。仮想エントリーシートを作成して、自己アピールを作成する。
第 13 回	パワーポイント演習と実践	PowerPoint を使ってプレゼン作成の演習。自己 PR を例に良いプレゼンとは何かを学ぶ。

第 14 回 授業時間内テスト

授業時間内で提示されたデータを元に Office で資料を作成する課題を完成させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書は基本的に自習用となっており、事前に独習して進める。授業中は基本的な使い方は教科書で自習している前提で演習を行う。

講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。

演習課題は、残りを時間外に復習も兼ねて完成させ、レポートにまとめ期日までに提出する。

【テキスト（教科書）】

講義資料は授業の数日前に Hoppii よりダウンロードできるように準備し、PDF で配布する。

下記書籍を生協では準備してもらっているが、アマゾンなどでは品切れのようなので、Hoppii で状況を確認すること。

書籍名： 30 時間でマスター Office2019

出版社：実教出版

定価： 本体 1000 円

ISBN： 978-4-407-34835-4

【参考書】

書籍名：サイエンス・ライティング入門

著者名：落合洋文

出版社：ナカニシヤ出版

定価： 本体 1500 円

ISBN978-4-7795-0139-5

書籍名：理科系の作文技術

著者名：木下是雄

出版社：中公新書

定価： 本体 700 円

ISBN4-12-100624-0

情報モラルや情報セキュリティの最新情報は下記の Web など収集して欲しい。

<https://www.ipa.go.jp/>

【成績評価の方法と基準】

評価方法： 演習や課題の提出物で評価 (40%)、中間テスト (20%)、最終課題 (20%)、授業内テスト (20%) で総合的に評価する。

評価基準： 本科目において設定した達成目標を 60 % 以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

日本語に限らず、情報を発信するために必要な事柄を身につけて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

貸与されたノートパソコンまたは Office が使えるノートパソコン。

【その他の重要事項】

授業形態は大学からの指示に従い、対面が禁止されない限りは対面で実施の方向で考えています。

基本的に Office のアプリの基本的な使い方は教科書を読みながら自習して事前に進めておく事。授業内では自習でわからなかった部分の質問に対応する形とする。

【Outline (in English)】

Learn the expressive power appropriate for science and engineering reports and how to make effective presentations.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

三牧 宏彬

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要な、パソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータを使用して、レポート課題の情報収集、レポートの作成、提出ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第 2 回	ワードによる文章の作成 (1)	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第 3 回	ワードによる文章の作成 (2)	文字サイズの変更・装飾、表の挿入、ワードアート
第 4 回	ワードによる文章の作成 (3)	文書入力の演習
第 5 回	ワードによる文章の作成 (4)	まとめと演習
第 6 回	エクセルの基本操作 (1)	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第 7 回	エクセルの基本操作 (2)	関数を使った計算式、罫線、行の挿入、絶対参照と相対参照
第 8 回	エクセルの基本操作 (3)	グラフの作成
第 9 回	ワードとエクセルの活用	ワードにエクセルの表とグラフの貼り付け
第 10 回	パワーポイントの基本操作 (1)	基本操作
第 11 回	パワーポイントの基本操作 (2)	ワードとエクセルの連携活用
第 12 回	パワーポイントの基本操作 (3)	文字の入力、アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作 (4)	オリジナルパワーポイントの作成
第 14 回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 本学の情報支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎」、近代科学社
「30 時間でマスター Office2019 (Windows10 対応)」、実教出版株式会社

【成績評価の方法と基準】

評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

スクリーンへ投射した文字等を大きく表示し、わかりやすい授業を行うよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental operation for personal computers and how to use effectively software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンの基本操作、インターネットの仕組みの理解、電子メールの送受信方法を学ぶ。ワード、エクセル、パワーポイント等の PC の基本的なソフトの使い方を学ぶ。

【到達目標】

- ・インターネットや電子メールを安全に使えるようになる。
- ・PC を使って、文書の作成、表計算、プレゼンテーションができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の PC を用いた実習により各テーマを学ぶ。
レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と進め方の説明
第 2 回	インターネットと電子メール	インターネットや電子メールの使い方
第 3 回	ワードによる文章の作成（1）	文字の入力、編集
第 4 回	ワードによる文章の作成（2）	書式設定
第 5 回	ワードによる文章の作成（3）	表の挿入や図形の取扱い
第 6 回	ワードによる文章の作成（4）	ワードを用いた演習
第 7 回	エクセルの基本操作（1）	データや計算式の入力
第 8 回	エクセルの基本操作（2）	表の作成
第 9 回	エクセルの基本操作（3）	グラフの作成
第 10 回	エクセルの基本操作（4）	エクセルを用いた演習
第 11 回	パワーポイントの基本操作（1）	基本操作
第 12 回	パワーポイントの基本操作（2）	アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作（3）	パワーポイントを用いた演習
第 14 回	総合演習	ワード、エクセル、パワーポイントを用いた総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
普段から PC に触れ、操作に慣れる。授業で学ぶ内容は繰り返し使うことで身につくので、授業後必ず復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

宿題、レポート課題、期末最終レポート課題により、「到達目標」である

- ・インターネットや電子メールを安全に使えるようになる。
- ・PC を使って、文書の作成、表計算、プレゼンテーションができるようになる。

の達成度により評価する。

具体的な評価方法と評価基準は以下のとおり：

評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

好評につき、これまで同様教員と一緒に PC の操作を行い、各種ソフトウェアの使い方を学ぶ。

【学生が準備すべき機器他】

貸与されたノートパソコン、または Windows10 と Office がインストールされたノートパソコン。

【Outline (in English)】

We study basic skills and knowledges of personal computers. In particular, we aim at learning how to use softwares such as Microsoft Words, Excel and PowerPoint.

BSP100LC

情報処理技法

東原 正智

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義ではプログラミング言語 Python について学ぶ。また、ライブラリとして Numpy や Pandas を特に練習をする。この講義の目的は、Python の言語の基礎的な文法、NumPy と Pandas を講義と実習によって習得することである。

【到達目標】

Python の文法やライブラリ (NumPy, Pandas) を理解し、プログラムを作成できる。colab の使用方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

情報センターにて講義を行う。開発環境は Google Colaboratory で、言語は Python3 系を使用する。

また、学生の質問や課題の解説は、スライドと動画を用いてフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Python の概要、開発環境の colab について	Python の概要 開発環境 Google Colaboratory の説明
第 2 回	Python 文法	Python の基本、データ構造 ・変数宣言、print 出力 ・リスト ・タプル ・辞書 ・集合
第 3 回	Python 文法	制御フロー ・条件文 ・反復文
第 4 回	Python 文法	モジュールとパッケージ ・import, as
第 5 回	Python 文法	標準ライブラリ オブジェクトとクラス ・クラス ・オブジェクト ・特殊メソッド
第 6 回	Python 文法	ファイル操作とシステム ・ファイル操作 ・入出力
第 7 回	Python 文法	ジェネレータ、デコレータなど
第 8 回	Python 文法	コード規約 (pep) の解説
第 9 回	NumPy	NumPy
第 10 回	NumPy	NumPy
第 11 回	グラフィックライブラリ	Matplotlib, seaborn
第 12 回	Pandas	Pandas
第 13 回	Pandas	Pandas
第 14 回	まとめ	問題練習、課題解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特にプログラミング言語の知識を前提としない。

【テキスト（教科書）】

講義はスライドを用意する。

【参考書】

公式サイト: <https://www.python.org/>
Python 実践入門 ―― 言語の力を引き出し、開発効率を高める (WEB+DB PRESS plus シリーズ) (日本語) 陶山 嶺 (著) 技術評論社

【成績評価の方法と基準】

出席点 14%、レポート 2 回で 86 % を予定する。

【学生の意見等からの気づき】

・わかりにくい内容や質問については、メール、スライド、動画にて回答する。

【学生が準備すべき機器他】

情報センターでの PC を使用する。

【その他の重要事項】

学生の理解を深めるたサポートページを用意している。

【Outline (in English)】

In this courses, you will learn the foundations of programming language Python and library(Numpy,Pandas).
You will learn about grammar of Python,object oriented programming, test and more.

You will practice all these ideas in colab.

BSP100LC

情報処理技法

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な情報処理技法の中から数式処理ソフトウェア Mathematica (Wolfram Research 社) を選び、その運用法を修得する。

【到達目標】

1. Mathematica の基本的文法・関数を習得し、対話的使用ができる。
2. Mathematica プログラミングの基礎を習得し、問題解決に応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に PC 画面を投影し、実際の操作を確認しながら解説を行う。必要に応じて随時演習課題を設け、実践力の向上を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について概説と受講に必要なソフトウェア環境の確認・整備
第 2 回	Mathematica 入門	機能の概要、基本操作、数と文字列の取扱い
第 3 回	シンボルとその計算	シンボルの定義と運用
第 4 回	リスト	リストの定義と運用
第 5 回	式、パターンとパターンマッチ、遅延割り当て	式・パターンの定義、パターンマッチの概念と運用、遅延割り当ての概念と運用
第 6 回	関数・純関数	関数・純関数の定義と運用
第 7 回	ルールとその適用	ルールの概念とその運用
第 8 回	方程式と不等式	代数方程式・不等式・漸化式・微分方程式の解法
第 9 回	Mathematica プログラミングの基礎	変数の有効範囲・コンテキスト、基本的な制御構文
第 10 回	データの入出力	データの保存と読み込み
第 11 回	データの視覚化	データのプロット方法
第 12 回	Mathematica による問題解決（1）	Mathematica による実験データの処理例
第 13 回	Mathematica による問題解決（2）	Mathematica による運動シミュレーションの例
第 14 回	まとめ	基本的事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。】各回の内容を確実に反復し、定着させること。授業内で示される演習課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

Mathematica の理解度・運用能力を平常点（60%）及び期末試験（40%）によって評価する。出席率や課題提出率が低い者は点数に依らず不合格とする。実習中心の授業となる為、受講態度を特に厳しく評価し、問題ある者は出席者と見做さない。

【学生の意見等からの気づき】

より実践的な内容を求める学生に応じて、応用面を強化したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義および演習は各自の貸与 PC を用いて行う。持参なき者は出席者と見做されない。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic way to use Mathematica, which is one of leading softwares for symbolic computation.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Understanding basic grammar of Mathematica.
 - 2) Interactive using of Mathematica.
 - 3) Basic programming of Mathematica.
 - 4) Approaching scientific problems by using Mathematica. (Learning activities outside of classroom)
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. (Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 60%, Term-end examination 40%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam. Since the class is centered on practical training, the attendance attitude is evaluated particularly rigorously, and those with a problem are not considered to be attendees.

BSP100LC

情報処理技法

三橋 秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について学習する。背景となる数学と統計学の初歩について学習した上で、実例を通じてソフトウェアの利用法を学ぶ。そして情報処理に関して、今後直面する課題を自分で解決できるための基礎能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について、授業ごとに理論の解説と演習を実施する。前半で背景となる数学や統計学の解説をし、後半で（MS-Excel 等を用いた）演習を行う。

また、Wolfram Research 社の Mathematica 等を利用した実践的な情報処理を経験する。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報処理の基本操作	授業概要の説明、MS-Excel を用いた情報処理のための基礎操作（平均、分散、標準偏差）
第 2 回	統計処理の基礎	度数分布、グラフの作成、サンプル抽出、不偏分散
第 3 回	推定	信頼区間、区間推定
第 4 回	カイ 2 乗検定	偏りの検定：カイ 2 乗検定
第 5 回	t 検定（対応のない場合）	平均値と平均値の差の検定：対応のない t 検定
第 6 回	t 検定（対応のある場合）	差の平均値の検定：対応のある t 検定
第 7 回	相関	散布図、相関
第 8 回	相関係数	相関係数、相関の強さ
第 9 回	無相関検定	標本集団の相関係数、無相関検定
第 10 回	単回帰	回帰直線の計算と予測
第 11 回	偏相関	偏相関、偏相関係数
第 12 回	重回帰	重回帰モデル、重相関係数
第 13 回	Mathematica 導入	Mathematica を利用した式、方程式の解法、因数分解、グラフ作成の紹介
第 14 回	Mathematica プログラミング	Mathematica プログラミングの基本とプログラム作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 各自教材や資料を参考にした復習を強く推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

統計の基礎、MS-Excel 等の利用に関して基礎的な内容で、各自使いやすい書籍、資料などを利用すること。

【参考書】

統計学に関するもの：

向後千春、富永敦子著、統計学がわかる（技術評論社）

向後千春、富永敦子著、統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（技術評論社）

東京大学教養学部統計学教室編、統計学入門（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につけられたかを期末試験や演習課題レポートなどを通じて評価する。期末試験もしくは期末レポート（60 %）

演習課題レポート（40 %）

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

Excel の処理を効率的に行う技法を実習を通じて示す。

【学生が準備すべき機器他】

講義および演習は、各自の貸与 NotePC を用いて行う。必ず持参すること。

【その他の重要事項】

履修者の状況等に応じて内容・順序を変更することがあります。「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this lecture, students learn basic information processing techniques which should be acquired at the minimum as a technician. After learning about the background of the mathematics and the initial steps of statistics, learn how to use the software through examples. With regard to information processing, we aim to acquire the basic ability to solve the problems that we face in the future by ourselves.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students acquire the knowledge about information processing and how to use software, and acquire the ability to analyze and consider various themes they set themselves.

(Learning activities outside of classroom)

We strongly recommend that you review by referring to your own teaching materials and materials.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

情報処理技法

三橋 秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について学習する。背景となる数学と統計学の初歩について学習した上で、実例を通じてソフトウェアの利用法を学ぶ。そして情報処理に関して、今後直面する課題を自分で解決できるための基礎能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

技術者として最低限身につけておくべき基礎的な情報処理技法について、授業ごとに理論の解説と演習を実施する。前半で背景となる数学や統計学の解説をし、後半で（MS-Excel 等を用いた）演習を行う。
また、Wolfram Research 社の Mathematica 等を利用した実践的な情報処理を経験する。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報処理の基本操作	授業概要の説明、MS-Excel を用いた情報処理のための基礎操作（平均、分散、標準偏差）
第 2 回	統計処理の基礎	度数分布、グラフの作成、サンプル抽出、不偏分散
第 3 回	推定	信頼区間、区間推定
第 4 回	カイ 2 乗検定	偏りの検定：カイ 2 乗検定
第 5 回	t 検定（対応のない場合）	平均値と平均値の差の検定：対応のない t 検定
第 6 回	t 検定（対応のある場合）	差の平均値の検定：対応のある t 検定
第 7 回	相関	散布図、相関
第 8 回	相関係数	相関係数、相関の強さ
第 9 回	無相関検定	標本集団の相関係数、無相関検定
第 10 回	単回帰	回帰直線の計算と予測
第 11 回	偏相関	偏相関、偏相関係数
第 12 回	重回帰	重回帰モデル、重回帰係数
第 13 回	Mathematica 導入	Mathematica を利用した式、方程式の解法、因数分解、グラフ作成の紹介
第 14 回	Mathematica プログラミング	Mathematica プログラミングの基本とプログラム作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 各自教材や資料を参考にした復習を強く推奨する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

統計の基礎、MS-Excel 等の利用に関して基礎的な内容で、各自使いやすい書籍、資料などを利用すること。

【参考書】

統計学に関するもの：

向後千春、富永敦子著、統計学がわかる（技術評論社）

向後千春、富永敦子著、統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（技術評論社）

東京大学教養学部統計学教室編、統計学入門（東京大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

技術者として最低限身につけておくべき情報処理に関する知識および、ソフトウェアの利用法を身につけ、自ら設定した問題に対して、解析、考察できる素養を身につけられたかを期末試験や演習課題レポートなどを通じて評価する。期末試験もしくは期末レポート（60 %）

演習課題レポート（40 %）

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

Excel の処理を効率的に行う技法を実習を通じて示す。

【学生が準備すべき機器他】

講義および演習は、各自の貸与 NotePC を用いて行う。必ず持参すること。

【その他の重要事項】

履修者の状況等に応じて内容・順序を変更することがあります。
「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。
担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。
その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this lecture, students learn basic information processing techniques which should be acquired at the minimum as a technician. After learning about the background of the mathematics and the initial steps of statistics, learn how to use the software through examples. With regard to information processing, we aim to acquire the basic ability to solve the problems that we face in the future by ourselves.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students acquire the knowledge about information processing and how to use software, and acquire the ability to analyze and consider various themes they set themselves.

(Learning activities outside of classroom)

We strongly recommend that you review by referring to your own teaching materials and materials.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

情報処理技法

須河 光弘

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学分野の実験データを解析するのに必要な統計解析とプログラミングの基礎について学習する。

【到達目標】

生命科学実験で得られる画像データを、画像解析ソフト「ImageJ」の画像処理により定量し、さらにプログラミング言語「Python」を用いて、データのグラフ作成および統計解析を行うことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式（原則対面）で進めます。一部の講義回についてはオンライン（オンデマンド形式）で行います。

授業の始めに、その日に学習する解析方法の説明を行います、そして、例題の解析を教員が実演し、その後、学生自ら PC を使って解析を練習します。必要に応じて、追加の練習問題やレポート課題を解くことで、知識とスキルの定着を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要の説明、Jupyter notebook の準備	Python プログラミングの準備
第 2 回	Python の基礎、統計の基礎	Python プログラミングの基礎、代表値の計算
第 3 回	グラフの作成	折れ線図、箱ひげ図、ヒストグラム
第 4 回	確率分布	確率分布（正規分布・指数分布）について
第 5 回	回帰分析	正規分布および指数分布に従うデータのフィッティング
第 6 回	データ解析の実践 1	比色定量、標準曲線
第 7 回	データ解析の実践 2	酵素反応、ミカエリス・メンテン式
第 8 回	仮説検定 1	平均の検定（t 検定）
第 9 回	仮説検定 2	t 検定の原理
第 10 回	中間テスト	第 1 回から第 9 回までの確認テスト
第 11 回	ImageJ による画像処理（1）	ImageJ の使い方、スケールバーの入れ方など
第 12 回	ImageJ による画像処理（2）	粒子解析
第 13 回	ImageJ による画像処理（3）	電気泳動画像の解析
第 14 回	ImageJ による画像処理（4）	細胞染色画像の解析、バイナリー画像の処理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2 時間を標準とする】

翌週の講義までに演習課題を復習しスキルを習得することが望ましい。欠席した場合、授業支援システムで配布する講義資料等で自習する必要がある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業支援システムより講義資料を配布する。

【参考書】

参考になるとと思われるサイト、参考書について講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（45%）、レポート課題（20%）、中間テスト（30%）、その他（5%）（目安）。

【学生の意見等からの気づき】

この講義で扱うプログラミングは、生命科学分野でよく行う実験のデータ解析を行うにあたって必要最低限のものを厳選しています。使い方もパターン化しているので、講義で使っているうちに慣れてくると思います。難しく考えずに、手を動かして使ってみることが大切です。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、PC を使った作業を行います。対面で講義を行う際には、edu 貸与ノート PC を持参してください。

【Outline (in English)】

This course will focus on providing basic statistics and programming skills to analyze experiment data in molecular biology.

BSP100LC

情報リテラシーと表現技術

三牧 宏彬

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パソコンの基本操作と情報モラルについて学ぶ。さらに、レポートや卒論の作成、発表に必要な、パソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル、パワーポイント等）の使い方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータを使用して、レポート課題の情報収集、レポートの作成、提出ができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ノートパソコンを使用し、パソコンの基本的操作、インターネットの利用、ワープロ、表計算、グラフ作成、プレゼンテーション資料の作成、プレゼンテーションの仕方などを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を使用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットと電子メール	接続方法と使用方法
第 2 回	ワードによる文章の作成 (1)	文字の入力、ページ設定、移動とコピー
第 3 回	ワードによる文章の作成 (2)	文字サイズの変更・装飾、表の挿入、ワードアート
第 4 回	ワードによる文章の作成 (3)	文書入力の演習
第 5 回	ワードによる文章の作成 (4)	まとめと演習
第 6 回	エクセルの基本操作 (1)	文字と数字、データ入力の基礎、計算式の入力
第 7 回	エクセルの基本操作 (2)	関数を使った計算式、罫線、行の挿入、絶対参照と相対参照
第 8 回	エクセルの基本操作 (3)	グラフの作成
第 9 回	ワードとエクセルの活用	ワードにエクセルの表とグラフの貼り付け
第 10 回	パワーポイントの基本操作 (1)	基本操作
第 11 回	パワーポイントの基本操作 (2)	ワードとエクセルの連携活用
第 12 回	パワーポイントの基本操作 (3)	文字の入力、アニメーション効果、グラフと図の貼り付け
第 13 回	パワーポイントの基本操作 (4)	オリジナルパワーポイントの作成
第 14 回	最終課題の作成	課題内容と作成手順の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 本学の情報支援システム利用ガイドおよびインターネット利用ガイドを理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

「Microsoft Office 2019 を使った情報リテラシーの基礎」、近代科学社
「30 時間でマスター Office2019 (Windows10 対応)」、実教出版株式会社

【成績評価の方法と基準】

評価方法：各授業における演習（50%）とレポート提出（50%）で評価する。
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

スクリーンへ投射した文字等を大きく表示し、わかりやすい授業を行うよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental operation for personal computers and how to use effectively software. In addition, the course introduces how to compose PowerPoint for scientific presentation.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

佐藤 巖

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい。授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題される。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に判断して評価する。レポート提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%) として、成績を付ける。なお、初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Course outline)

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

磯島 伸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ￥2178

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

板書量に慣れるよう指導する機会を検討する。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

秋学期「線形代数学及び演習 II」を継続して履修することを勧める。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

磯島 伸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味

をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

板書量に慣れるよう指導する機会を検討する。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

秋学期「線形代数学及び演習 II」を継続して履修することを勧める。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

伊藤 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

初回の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験や演習により判断する。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義中の質問は、教室全体の理解度向上に資する行為なので歓迎する。また、講義時間の制約のため十分な応用例に触れられないのが残念であるが、興味のある者は行列がどのような分野で役に立つのか自ら調べてみて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

秋学期「線形代数学及び演習 II」を継続して履修することを勧める。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

- 1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.
- 2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
- 2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.
- 3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

本多 恭子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味

をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な例題を 数多く解いていきましょう

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

秋学期「線形代数学及び演習 II」を継続して履修することを勧める。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

本多 恭子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ￥ 2178

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な例題を 数多く解いていきましょう

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

秋学期「線形代数学及び演習 II」を継続して履修することを勧める。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

佐藤 巖

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, R^3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい。授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題される。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に判断して評価する。レポート提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%) として、成績を付ける。なお、初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

【Course outline】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

間下 克哉

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元，線形写像と行列表現，線形写像の核と像，行列の固有値と固有ベクトル，直交変換，行列の対角化とその条件，対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし，実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合，空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立， 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間， 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成， $\mathbf{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え， 座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

時間外学習は復習を主にを行い，授業開始までに前回の授業内容をきちんと理解しておくことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため，小テストを毎回実施する。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを，

ほぼ毎回実施する小テストの成績 (30%)，期末試験の成績 (70%) により評価する。

※ 期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなったことに対応できるだけの学習時間の確保、質問機会の利用、ラーニングサポーター制度の利用等の努力が必要です。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

【その他の重要事項】

春学期「線形代数学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

加田 修

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbb{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的には、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、

前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ￥ 2178

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%), 期末試験の成績 (70%)

により評価する。

なお、初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

応用例をできるだけ扱うよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講に必要な情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

春学期「線形代数学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

間下 克哉

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbb{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。時間外学習は復習を主にを行い、授業開始までに前回の授業内容をきちんと理解しておくことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、小テストを毎回実施する。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円＋税

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを、

ほぼ毎回実施する小テストの成績 (30%)、期末試験の成績 (70%) により評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

内容が難しくなったことに対応できるだけの学習時間の確保、質問機会の利用、ラーニングサポーター制度の利用等の努力が必要です。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

【その他の重要事項】

春学期「線形代数学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

三橋 秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, R ³ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜、指示する。

【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習ⅠⅠ

三橋 秀生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像，固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元，線形写像と行列表現，線形写像の核と像，行列の固有値と固有ベクトル，直交変換，行列の対角化とその条件，対称行列の対角化などの基本を知り，応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い，基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし，実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合，空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立， 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間， 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例，部分ベクトル空間の生成， R ³ の部分ベクトル空間
5	基底	基底，次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転，基底の取り替え，座標変換
7	線形写像	写像，線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列，像と核の定義，像の次元と階数，次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル，固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味，対角化の方法
11	正規直交系	内積，正規直交基底
12	直交変換	直交行列，直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値，直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

適宜，指示する。

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し，具体的な計算ができること，行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し，具体的な計算ができるようになったかなどを評価する。

成績は，期末試験，演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%，演習課題等を30%として成績をつける。

※ 期末試験は，対面試験が可能な場合のみ，機械工学科，電気電子工学科，応用情報工学科で統一試験として行う。

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は，担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して，講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノートPCを持参すること。

その他は適宜，指示する。

【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から，学習支援システムを通じた連絡がないか，日ごろからメールも含め，確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜，指示します。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

磯島 伸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, R ³ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、

前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

なお、初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

応用例をできるだけ扱うよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

春学期「線形代数学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

磯島 伸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbb{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、

前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

なお、初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

応用例をできるだけ扱うよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

春学期「線形代数学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, R^3 の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、

前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

初回の授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験や提出課題により判断する。

成績は期末試験の成績(60%)、提出課題(40%)として総合的に評価する。なお、初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

微分積分と同様に線形代数は様々な分野で活用されている便利なツールであるが、その具体的な例の紹介にはそれほど時間を割くことができない。とっかかりとなる情報は与えるので、是非各自で線形代数がどのように活用されているのか調べてみて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講に必要な情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出

【その他の重要事項】

春学期「線形代数学及び演習Ⅱ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

本多 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbb{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、

前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

なお、初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な例題を 数多く解いていきましょう

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

春学期「線形代数学及び演習 I」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数及び演習Ⅰ

本多 恭子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, R ³ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、

前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

なお、初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な例題を 数多く解いていきましょう

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

春学期「線形代数及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the concepts and applications of linear mapping, eigenvalues / eigenvectors, etc., which are the basis of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

- 1) Vector space and its dimension
- 2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)
- 3) Matrix eigenvalue and eigenvector
- 4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)
- 5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

加田 修

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative

2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

寺杣 友秀

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative

2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

寺 友秀

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative

2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

伊藤 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative

2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

伊藤 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative

2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

伊藤 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative

2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

清田 正夫

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。 またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、積分変換の基礎となる広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う。成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する。
※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

二変数の関数が難しくなる原因は、図形の様子を捉えることが困難になることにある。簡単な場合についてできるだけ図形を描く練習を心がけることが重要である。毎回行うクイズの準備として復習を行うことが単位修得のための良い方法である。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 10%, Term-end examination 90%.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

加田 修

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。 またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法的应用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

森田 純

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。 またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

森田 純

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。 またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習ⅠⅠ

塚田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。

期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習とその解説を効果的に行う。

スライドや板書を効果的に用い、学生が効率的に理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法的应用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。】一度開いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。
※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。
※ 出席率や提出課題の提出率が低い者には、期末試験の受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

講義中に質問することを躊躇する学生が多いのだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器（対面講義中の使用は想定していない）。

【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the final exam.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

清田 正夫

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。 またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、積分変換の基礎となる広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う。成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する。
※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

二変数の関数が難しくなる原因は、図形の様子を捉えることが困難になることにある。簡単な場合についてできるだけ図形を描く練習を心がけることが重要である。毎回行うクイズの準備として復習を行うことが単位修得のための良い方法である。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 10%, Term-end examination 90%.

BSP100LC

微分積分学及び演習ⅠⅡ

高澤 兼二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。 またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法的应用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いのだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。授業時間の後半に演習問題を解く時間を設けたことは好評であったので、本年度も可能な限り演習の時間を多くとる。

【その他の重要事項】

授業時間外の学習でわからないことがあったときは、ラーニングサポーターを訪ねて質問することを推奨します。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習ⅠⅠ

高澤 兼二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。 またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。授業時間の後半に演習問題を解く時間を設けたことは好評であったので、本年度も可能な限り演習の時間を多くとる。

【その他の重要事項】

授業時間外の学習でわからないことがあったときは、ラーニングサポーターを訪ねて質問することを推奨します。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法的应用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。 またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法的应用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

伊藤 賢太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法的应用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることである。成績は期末試験の成績（60%）、提出課題（40%）として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

自分がいったい何の計算をしているのかわからなくなってしまうことを回避するために、できるだけ図形やグラフを描いて考える習慣を身につけると良い。講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【その他の重要事項】

春学期「微分積分学及び演習Ⅰ」を履修済みであることを前提とする。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its application which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

物理学基礎 I

篠原 俊二郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって、実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 I では、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、仕事とエネルギーの概念を導入し、運動方程式とは異なる観点から運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつど説明する。

【到達目標】

力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である。本講義ではその中で、基本的な運動に加え、抵抗力や振動などの運動、及び仕事、エネルギーについて理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の開講形式は基本的にはオンライン講義で行います。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。なお指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説します。何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックします。質問も歓迎です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	単位、運動の表わし方	単位系、変位・速度・加速度、微積分とベクトル、等速円運動
2	運動の法則	平面の運動、極座標表示
3	運動方程式 (I)	放物運動、斜面、摩擦
4	運動方程式 (II)	等速円運動、運動量保存
5	抵抗力を受ける運動 (I)	速度に比例する力
6	抵抗力を受ける運動 (II)	速度の 2 乗に比例する力
7	振動運動 (I)	単振動
8	振動運動 (II)	減衰振動
9	振動運動 (III)	強制振動
10	仕事とエネルギー (I)	仕事の定義、エネルギー原理
11	仕事とエネルギー (II)	保存力とポテンシャルエネルギー
12	仕事とエネルギー (III)	力学的エネルギー保存則
13	解説	位置・速度・加速度、運動方程式、抵抗力を受ける運動、振動運動、仕事とエネルギー
14	補足	春学期学習の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 予習で疑問点があれば、講義中などで質問できるよう整理しておく。適宜、練習問題・演習問題をレポートとして課す。復習もしておくこと。

【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 8 刷り）、ISBN Code: 9784062806039

【参考書】

特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

【成績評価の方法と基準】

各回のテーマについて内容が理解できたかの確認のために、原則として毎回小テストと練習問題レポートを宿題として課します。章毎の演習問題もレポートとします。これにより各人が自ら理解度を把握するようにして下さい。成績評価は、小テスト（35%）、練習問題レポート（35%）、演習問題レポート（30%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の提出物の中に、疑問点、要望等、あれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

関数演算付き電卓

【その他の重要事項】

大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

【Outline (in English)】

Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed. Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

Here, the aim of this course is to help students acquire the followings: position・velocity・acceleration, equation of motion, resistive movement, oscillation motion, work and energy. The goals of this course are to acquire the above topics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: term-end examination: 50 %, short examination: 15 %, reports on practical problems: 15 %, reports on advanced, practical problems: 20 %

BSP100LC

物理学基礎 I

篠原 俊二郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって、実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 I では、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、仕事とエネルギーの概念を導入し、運動方程式とは異なる観点から運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつと説明する。

【到達目標】

力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である。本講義ではその中で、基本的な運動に加え、抵抗力や振動などの運動、及び仕事、エネルギーについて理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の開講形式は基本的にはオンライン講義で行います。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。なお指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説します。何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックします。質問も歓迎です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	単位、運動の表わし方	単位系、変位・速度・加速度、微積分とベクトル、等速円運動
2	運動の法則	平面の運動、極座標表示
3	運動方程式 (I)	放物運動、斜面、摩擦
4	運動方程式 (II)	等速円運動、運動量保存
5	抵抗力を受ける運動 (I)	速度に比例する力
6	抵抗力を受ける運動 (II)	速度の 2 乗に比例する力
7	振動運動 (I)	単振動
8	振動運動 (II)	減衰振動
9	振動運動 (III)	強制振動
10	仕事とエネルギー (I)	仕事の定義、エネルギー原理
11	仕事とエネルギー (II)	保存力とポテンシャルエネルギー
12	仕事とエネルギー (III)	力学的エネルギー保存則
13	解説	位置・速度・加速度、運動方程式、抵抗力を受ける運動、振動運動、仕事とエネルギー
14	補足	春学期学習の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 予習で疑問点があれば、講義中などで質問できるよう整理しておく。適宜、演習問題を宿題として課す。復習もしておくこと。

【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 8 刷り）、ISBN Code: 9784062806039

【参考書】

特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

【成績評価の方法と基準】

各回のテーマについて内容が理解できたかの確認のために、原則として毎回小テストと練習問題レポートを宿題として課します。章毎の演習問題もレポートとします。これにより各人が自ら理解度を把握するようにして下さい。成績評価は、小テスト（35%）、練習問題レポート（35%）、演習問題レポート（30%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

関数演算付き電卓

【その他の重要事項】

大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

【Outline (in English)】

Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed.

Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

Here, the aim of this course is to help students acquire the followings: position・velocity・acceleration, equation of motion, resistive movement, oscillation motion, work and energy. The goals of this course are to acquire the above topics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: term-end examination: 50 %, short examination: 15 %, reports on practical problems: 15 %, reports on advanced, practical problems: 20 %

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。特に、大きさのない質量だけをもつ質点の運動を中心にして、古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の3法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】

力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動の記述 (1)	物理量の表現と単位系、質点位置の表現、ベクトルとスカラー、ベクトル表現の復習。
2	運動の記述 (2)	質点の位置を微分して速度、加速度を求める。微分の復習。
3	運動の記述 (3)	質点の加速度を積分して速度、位置を求める。積分の復習。
4	運動の法則	慣性座標系、運動の3法則、運動方程式について学ぶ。
5	いろいろな力	摩擦力、張力、垂直抗力について学ぶ。
6	質点の運動 (1)	運動方程式を解き、一様な重力中の質点の運動について学ぶ。
7	質点の運動 (2)	運動方程式を解き、斜面上の質点の運動について学ぶ。
8	質点の運動 (3)	運動方程式を解き、摩擦のある運動や単振動について学ぶ。
9	仕事と運動エネルギー	仕事と運動エネルギーについて学ぶ。
10	保存力とポテンシャル (1)	保存力について学ぶ。保存力のポテンシャルを求める。
11	保存力とポテンシャル (2)	ポテンシャルから力を求める。
12	力学的エネルギー (1)	力学的エネルギー保存則とその運動解析への応用について学ぶ。
13	力学的エネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づき運動を解析する。
14	質点運動のまとめ	質点運動の全体まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は定めない。

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Introduction to classical mechanics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, and conservation of energy.

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

西村 征也

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。前半では、高校で学んだ力学への数学的な理解を深める。後半では、減衰振動、コリオリ力、惑星の運動などの進んだ内容について学ぶ。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。
- ・仕事とエネルギーの関係を用いて、質点の運動を調べることができる。
- ・質点の運動方程式から、ばね振動の解を求めることができる。
- ・質点の角速度と、回転座標系において質点に作用する慣性力を計算できる。
- ・質点の運動の法則に基づいて、惑星の運動を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案をレポートとして提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎的事項の復習	前期の授業内容の説明 単位系 直線運動における速度と加速度
2	ベクトルの乗法	ベクトルの内積と外積
3	力と運動	ニュートンの運動の第 1 法則、第 2 法則、第 3 法則
4	摩擦と抵抗	垂直抗力と摩擦力 物体の速度と抵抗抗力
5	仕事とエネルギー	仕事の定義 仕事・エネルギーの定理
6	ポテンシャルエネルギーと保存力	力学的エネルギーの保存 保存力の定義 保存力であるための条件
7	中間試験と解説	1 回目から 6 回目までの内容から出題
8	単振動	ばね振動の運動方程式
9	減衰振動	抵抗がある場合のばね振動の運動方程式
10	角速度と角運動量	角速度と角運動量の定義
11	回転系における慣性力	遠心力とコリオリ力
12	重力	中心力としての重力の取り扱い
13	惑星の運動	ケプラーの法則
14	定期試験と解説	8 回目から 13 回目までの内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
 ・高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。
 ・演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】

力学（川村清著 裳華房）

力学の基礎（橋本正章・荒井賢三著 裳華房）

【成績評価の方法と基準】

試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。
 試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline (in English)】

This course introduces the particle dynamics to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (80%) and reports (20%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC

物理学基礎 I

池田 浩治

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は「力学」「電磁気学」「熱統計力学」「量子力学」に大別することができますが、この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）において扱う基本的な運動を「どのように取り扱うかについて」学びます。古典力学では日常目にする運動を対象としていますが、この科目では、それらの運動の特徴は文章を用いて表現するより、「数式を用いることにより正確に表現できること」、そしてその数式を数学的に変形したり他の物理的特徴と組み合わせたりすることによって「高校物理よりも拡張された取り扱いを理解すること」を学びます。

本科目で取り扱う内容は、物理学に限定された考え方や取り扱い方ではなく、「工学全般の基礎となる考え方や手法」です。応用情報工学科のみなさんにとっては、今後の専門科目において扱う内容とは直接関わり合いがないかもしれませんが、特徴を取り出して数式化する「モデル化」や、その数式を条件式として解いて、「現象の予測」を行うための基礎として、ぜひ「慣れる」「活用できる」ようにしてほしい内容です。

なお、この科目では大きさを無視できる「質点」を中心に扱います。

【到達目標】

全ての工学における基礎的な取り扱いを身につけるため、物理的な自然現象を対象として、観察し、測定し、その結果から規則性を見出して、法則を考え出し、その取り扱いを検討する、という物理学の手法を体験する経験を通じて、以下の各点を受講生諸君が実現できることが本科目の到達すべき目標です。

- 1) 「位置」「速度」「加速度」などの測定量は、数学的な数値とは異なり、「誤差」を含み「精度」を意識して取り扱うことができること
- 2) 「ニュートンの運動の法則」を理解し、場面に応じて数式の形に表すことができること
- 3) 微分、積分、ベクトルの取り扱いを活用できること
- 4) 運動方程式を微分方程式として考え、解を求めることができること
- 5) 得られた解から運動の様子を具体的に説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

2022 年度は新型コロナウイルス感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、4月上旬から適宜「学習支援システム」経由でお知らせします。

対面式での授業実施が可能な場合：

出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、小テストなどは学内ネットワーク経由で GoogleClassroom により実施、となります。

オンライン式での授業実施が必要な場合：

GoogleClassroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うこととなります。

（シラバス 2022_02_10 ：以下は対面式授業の場合です。オンライン授業でも大筋同様に行います）

授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。

教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。

ただし、自力では理解しにくいかもしれない部分に関する補助資料を授業前に公開しますので、それも参照して予習を行うこと。

授業では、予習の段階で理解しにくそうところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうところを中心として説明するため、補助資料をスクリーンに投影したり、板書したりしながら説明します。

学期初めは、導入部分は高校で習ったことの復習から始めますが、途中から新たに説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることとなります。

そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。

毎回、小テストを実施しますが、「不十分な回答だった場合、何が不十分なのか」「誤っている場合、何をどのように誤解していて、本来どのように理解すべきだったか」をはっきりしてもらいたいことが重要です。

そのため、小テストは、まず自力で答案を作成してもらったのち、続いて解説を聞きながら自分の答案を添削、修正することを行ってもらいます。

この作業を通じて、「正しい内容」を理解し、「簡潔に記す」を意識してもらいたいことを目指します。いわゆる「部分点狙い」のために、だらだらとんでも答案に盛り込む答案が不適切であることを実感してください。

なお、課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックします。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、測定に関連した基礎知識	(テキスト第0章) 国際単位系、実測値における有効数字と誤差、測定結果を用いた計算の仕方
2	運動の表し方 (1：直交座標系における表現)	(テキスト 1.1-1.3) 一般の運動における位置、速度、加速度の関係。 平面内での等速円運動
3	運動の表し方 (2：極座標系における表現)	(テキスト 1.4) 平面内での等速でない円運動、平面内での極座標を用いた、位置、速度、加速度。 第1章の復習
4	運動の法則（1：運動方程式）	(テキスト 2.1-2.3) 運動方程式を用いた基本的な取り扱い。 1) 作用する力が与えられている場合、 2) 作用する加速度が与えられている場合 3) 等速円運動の場合
5	運動の法則（2：運動量） 運動方程式を解く (1：解を仮定して解く)	(テキスト 2.4) 4) 運動量と運動の法則 (テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「解を仮定」により解く。
6	運動方程式を解く (2：変数分離により解く)	(テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「変数分離法」により解く。
7	前半のまとめ（第1回～第6回）	第1回から第6回までの内容に関するまとめとして、中間試験を実施。
8	運動方程式を解く (3：重力を含む場合) (4：速度の2乗に比例する抵抗の場合)	(テキスト 3.2-3.3) 一定の重力が作用する場合など定数項が含まれている時の取り扱い。 速度の2乗に比例する力を受ける場合の取り扱い。
9	運動方程式を解く (5：単振動)	(テキスト 4.1) バネの復元力のみで往復運動するときの運動方程式を第3章の手順が適用できるかどうかを確かめながら解く。
10	運動の解析 (5：単振動)	(テキスト 4.1) 前回の取り扱いを、テイラー展開と結びつける。 振り子の運動と単振動についても検討する。
11	運動の解析 (6：減衰振動)	(テキスト 4.2) 復元力だけでなく抵抗を受ける運動、の場合について検討する。
12	運動の解析 (7：強制振動)	(テキスト 4.3) 外部から力を周期的に受ける時の運動について検討する。
13	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（1）	(テキスト 5.1& 5.2) 仕事の定義。 運動方程式から「エネルギー原理」を導く。
14	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（2）	(テキスト 5.3-5.5) 特殊な場面として「保存力」に注目し、ポテンシャルエネルギーの定義を行い、「力学的エネルギー保存則」を導く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。

あらかじめ「どこがわかりにくい」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。

復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に里香雨を促す」に徹すること。

微分・積分について、高校での理解が不十分な人は、教科書レベルでよいので、復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ シリーズ 「力学」 第2版第8刷

著者：平山修、篠原俊二郎、 出版社：講談社

*古い版等では、誤りや内容の変更に对应していませんので、上記の「第2版第8刷」を入手してください。

*「物理学基礎Ⅰ（担当：池田）」ではこの教科書の前半を使用し、「物理学基礎Ⅱ（担当：池田）」ではこの教科書の後半を使用します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2022年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。
具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

(シラバス 2022_02_10：対面式講義の場合)

定期試験60%（中間試験30%、最終試験30%）、授業中に実施する小テスト（20%）、および、平常点（20%）などをもとに総合的に評価する。いずれも、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を6割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を7割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を8割以上、知識を自由に運用できるとみなすことができる場合を9割以上の評価とする。

(シラバス 2022_02_10：オンライン式講義の場合)

授業中に実施する小テスト（60%）、および、期末試験（40%）を用いて総合的に評価するが、講義内容に関する質問など積極的な取り組みを加算する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行う小テストは「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何が欠けているのか」「何が誤りなのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。

そのための自己採点、自己添削であることを活用してください。

中間試験、最終試験の結果によれば、「ただ計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。

「異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。

講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで写真を撮る諸君がいます。

「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりすることも、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

【Outline (in English)】

Physics is divided into four major areas, such as dynamics, electromagnetism, thermal statistical mechanics, and quantum mechanics. This course focuses on the topics in classical mechanics, as the basics of whole treatment in physics.

Topics in classical mechanics are found as the phenomena you are familiar in daily life, and main stream in this course is as follows; to know that mathematical expression is proper than expression in text, and to know how to treat the mathematical expression.

The topics in this course will be the basic background for the studies in near future for your own specialities, then it is strongly recommended to master everything in this course.

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

赤松 茂

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質点のさまざまな運動を運動方程式によって求める古典力学の基本概念を学ぶ。

【到達目標】

自然科学，工学全体の基礎となる線形代数や微積分などの基礎数学を，力学という具体的な課題への応用を通じて身につける。

本科目で例題として取り組む課題は，一見すると高校における物理という教科で学んだ問題と似かよって感じられるかもしれないが，物体の位置を位置ベクトルを用いて表現し，物体に作用する力が与えられた時にその運動を規定する運動方程式をたて，これを微積分法を駆使して解くことによって，運動を具体的に記述するという点で，解に至るアプローチはまったく異なっている。具体的には，運動の記述法，運動の3法則，さまざまな力の作用による質点の運動を運動方程式から導くケーススタディ，運動量，運動エネルギー，仕事とポテンシャル，力学的エネルギー保存則などの項目を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義内容を要約したレジュメ，ならびに，履修内容についての理解を深めるために宿題として課す演習問題解答の提出など，すべての情報の授受は「学習支援システム」Hoppiiを通じて行う予定です。

本科目の授業は基本的に教室における対面形式で行う予定ですが，対面授業では板書によって説明する内容のレジュメはHoppiiを介して予め（あるいは事後に）公開することにするので，新型コロナの感染状況が悪化した場合でも，講義の音声情報はZoomによるリモートでやりとりし，板書の要点をそのまままとめたメモをHoppiiから取得してもらうことによって，対面授業とはほぼ同等レベルの情報を提供できる見込みです。

オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更，成績評価方法の説明などについてはHoppii上でその都度，情報を提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動の表し方（1）	位置と座標系、ベクトルとスカラー、位置ベクトルと変位ベクトル、ベクトルの基本的性質
2	運動の表し方（2）	速度、加速度、位置の微分によって速度、加速度を求める、微積分法の復習
3	運動の表し方（3）	加速度の積分によって速度、位置を求める、積分法の復習、等加速度運動、等速円運動
4	力と運動（1）	慣性座標系、運動の3法則、運動方程式
5	力と運動（2）	作用反作用の法則、いろいろな力（摩擦、張力）
6	いろいろな運動（1）	運動方程式を解く、一様な重力による運動、平面内の放物運動
7	いろいろな運動（2）	束縛された質点の運動（連結された質点の運動、斜面や軌道上の運動）
8	いろいろな運動（3）	摩擦や空気抵抗のある運動、単振動
9	質点の運動の様子	運動量、運動量の保存則、質点の運動エネルギー
10	仕事	一定の力がする仕事、仕事の一般的定義、仕事率
11	保存力とポテンシャル（1）	保存力とは、保存力のポテンシャルを求める
12	保存力とポテンシャル（2）	保存力場のポテンシャルから働く力を求める、保存力場の判定
13	力学的エネルギー（1）	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（斜面上の運動）
14	力学的エネルギー（2）	力学的エネルギー保存則に基づく運動解析（単振動）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

本科目では、高校で学んだ数学のうち、ベクトル、行列、数学Ⅲの微積分を一通りは理解しているという前提で授業を進める。これらの理解が不十分な場合には、並行して、高校数学について復習あるいは独習を行ってほしい。

また、毎回の授業で宿題として課される演習問題に取り組むことで、授業で学んだ知識の定着をはかってほしい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】

基礎物理学 上 （有馬 朗人 編 学術図書出版社）

その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は学期末の定期試験を主とする（70%）が、原則として毎回宿題として課する演習課題の提出状況とその結果も加味して（30%）、総合的に評価する。合否判定は、期末試験の得点と宿題の得点とを重み付け合算して、その60点以上を合格とする。合格者に対するS～Cの4段階評価は、原則として、期末試験の得点に対する相対評価で判定する。

オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。

その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容に対応した演習問題を課題とすることで、講義内容の定着を図るようにした。また、演習課題の提出回数が少ない者、その達成度（正解率）が低い者に対しては、ラーニングサポーターによる支援を活用するように勧めている。

【その他の重要事項】

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

【Outline (in English)】

Course Outline and Learning Objectives: This course provides introduction to classical mechanics which includes; vector representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for particles, work and energy, conservative force and potential energy, and conservation of energy..

Grading Criteria /Policy : Students are graded by comparative validation of their scores achieved at semester final exam and accomplishment report of homework assignments.

Learning Activities Outside of Classroom: Students are expected to carry out an intensive review after the class through practicing similar problems given as homework assignments.

BSP100LC

物理学基礎 I

池田 浩治

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は「力学」「電磁気学」「熱統計力学」「量子力学」に大別することができますが、この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）において扱う基本的な運動を「どのように取り扱うかについて」学びます。古典力学では日常目にする運動を対象としていますが、この科目では、それらの運動の特徴は文章を用いて表現するより、「数式を用いることにより正確に表現できること」、そしてその数式を数学的に変形したり他の物理的特徴と組み合わせたりすることによって「高校物理よりも拡張された取り扱いを理解すること」を学びます。

本科目で取り扱う内容は、物理学に限定された考え方や取り扱い方ではなく、「工学全般の基礎となる考え方や手法」です。経営システム工学科のみなさんにとっては、今後の専門科目において扱う内容とは直接関わり合いがないかもしれませんが、特徴を取り出して数式化する「モデル化」や、その数式を条件式として解いて、「現象の予測」を行うための基礎として、ぜひ「慣れる」「活用できる」ようにしてほしい内容です。

なお、この科目では大きさを無視できる「質点」を中心に扱います。

【到達目標】

全ての工学における基礎的な取り扱いを身につけるため、物理的な自然現象を対象として、観察し、測定し、その結果から規則性を見出して、法則を考え出し、その取り扱いを検討する、という物理学の手法を体験する経験を通じて、以下の各点を受講生諸君が実現できることが本科目の到達すべき目標です。

- 1) 「位置」「速度」「加速度」などの測定量は、数学的な数値とは異なり、「誤差」を含み「精度」を意識して取り扱うことができること
- 2) 「ニュートンの運動の法則」を理解し、場面に応じて数式の形に表すことができること
- 3) 微分、積分、ベクトルの取り扱いを活用できること
- 4) 運動方程式を微分方程式として考え、解を求めることができること
- 5) 得られた解から運動の様子を具体的に説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

2022 年度は新型コロナウイルス感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、4 月上旬から適宜「学習支援システム」経由でお知らせします。

対面式での授業実施が可能な場合：

出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、小テストなどは学内ネットワーク経由で GoogleClassroom により実施、となります。

オンライン式での授業実施が必要な場合：

GoogleClassroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うこととなります。

（シラバス 2022_02_10：以下は対面式授業の場合です。オンライン授業でも大筋同様に行います）

授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。

教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。

ただし、自力では理解しにくいかもしれない部分に関する補助資料を授業前に公開しますので、それも参照して予習を行うこと。

授業では、予習の段階で理解しにくそうところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうところを中心として説明するため、補助資料をスクリーンに投影したり、板書したりしながら説明します。

学期初めは、導入部分は高校で習ったことの復習から始めますが、途中から新たに説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることとなります。

そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。

毎回、小テストを実施しますが、「不十分な回答だった場合、何が不十分なのか」「誤っている場合、何をどのように誤解していて、本来どのように理解すべきだったか」をはっきりしてもらうことが重要です。

そのため、小テストは、まず自力で答案を作成してもらったのち、続いて解説を聞きながら自分の答案を添削、修正することを行ってもらいます。

この作業を通じて、「正しい内容」を理解し、「簡潔に記す」を意識してもらうことを目指します。いわゆる「部分点狙い」のために、だらだらとんでも答案に盛り込む答案が不適切であることを実感してください。

なお、課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックします。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、測定に関連した基礎知識	(テキスト第 0 章) 国際単位系、実測値における有効数字と誤差、測定結果を用いた計算の仕方
2	運動の表し方（1：直交座標系における表現）	(テキスト 1.1-1.3) 一般の運動における位置、速度、加速度の関係。 平面内での等速円運動
3	運動の表し方（2：極座標系における表現）	(テキスト 1.4) 平面内での等速でない円運動、平面内での極座標を用いた、位置、速度、加速度。 第 1 章の復習
4	運動の法則（1：運動方程式）	(テキスト 2.1-2.3) 運動方程式を用いた基本的な取り扱い。 1) 作用する力が与えられている場合、 2) 作用する加速度が与えられている場合 3) 等速円運動の場合
5	運動の法則（2：運動量） 運動方程式を解く（1：解を仮定して解く）	(テキスト 2.4) 4) 運動量と運動の法則 (テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「解を仮定」により解く。
6	運動方程式を解く（2：変数分離により解く）	(テキスト 3.1) 速度に比例する抵抗のみを受ける物体の運動について運動方程式を「変数分離法」により解く。
7	前半のまとめ（第 1 回～第 6 回）	第 1 回から第 6 回までの内容に関するまとめとして、中間試験を実施。
8	運動方程式を解く（3：重力を含む場合） （4：速度の 2 乗に比例する抵抗の場合）	(テキスト 3.2-3.3) 一定の重力が作用する場合など定数項が含まれている時の取り扱い。 速度の 2 乗に比例する力を受ける場合の取り扱い。
9	運動方程式を解く（5：単振動）	(テキスト 4.1) バネの復元力のみで往復運動するときの運動方程式を第 3 章の手順が適用できるかどうかを確かめながら解く。
10	運動の解析（5：単振動）	(テキスト 4.1) 前回の取り扱いを、テイラー展開と結びつける。 振り子の運動と単振動についても検討する。
11	運動の解析（6：減衰振動）	(テキスト 4.2) 復元力だけでなく抵抗を受ける運動、の場合について検討する。
12	運動の解析（7：強制振動）	(テキスト 4.3) 外部から力を周期的に受ける時の運動について検討する。
13	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（1）	(テキスト 5.1& 5.2) 仕事の定義。 運動方程式から「エネルギー原理」を導く。
14	ポテンシャルエネルギーとエネルギー保存（2）	(テキスト 5.3-5.5) 特殊な場面として「保存力」に注目し、ポテンシャルエネルギーの定義を行い、「力学的エネルギー保存則」を導く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。

あらかじめ「どこがわかりにくい」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。

復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に里香雨を促す」に徹すること。

微分・積分について、高校での理解が不十分な人は、教科書レベルでよいので、復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ シリーズ 「力学」 第2版第8刷

著者：平山修、篠原俊二郎、 出版社：講談社

＊古い版等では、誤りや内容の変更に对应していませんので、上記の「第2版第8刷」を入手してください。

＊「物理学基礎Ⅰ（担当：池田）」ではこの教科書の前半を使用し、「物理学基礎Ⅱ（担当：池田）」ではこの教科書の後半を使用します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2022年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。
具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

（シラバス 2022_02_10：対面式講義の場合）

定期試験60%（中間試験30%、最終試験30%）、授業中に実施する小テスト（20%）、および、平常点（20%）などをもとに総合的に評価する。いずれも、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を6割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を7割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を8割以上、知識を自由に運用できるとみなすことができる場合を9割以上の評価とする。

（シラバス 2022_02_10：オンライン式講義の場合）

授業中に実施する小テスト（60%）、および、期末試験（40%）を用いて総合的に評価するが、講義内容に関する質問など積極的な取り組みを加算する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行う小テストは「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何が欠けているのか」「何が誤りなのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。

そのための自己採点、自己添削であることを活用してください。

中間試験、最終試験の結果によれば、「ただ計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。

「異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。

講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで写真を撮る諸君がいます。

「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりすることも、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

【Outline (in English)】

Physics is divided into four major areas, such as dynamics, electromagnetism, thermal statistical mechanics, and quantum mechanics. This course focuses on the topics in classical mechanics, as the basics of whole treatment in physics.

Topics in classical mechanics are found as the phenomena you are familiar in daily life, and main stream in this course is as follows; to know that mathematical expression is proper than expression in text, and to know how to treat the mathematical expression.

The topics in this course will be the basic background for the studies in near future for your own specialities, then it is strongly recommended to master everything in this course.

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

西村 征也

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体や媒質の運動を記述する力学は理工系の様々な科目の基礎である。本講義では、力学の核心である質点（大きさを考慮しなくてよい物体）の力学について、ベクトルの乗法や微分積分を駆使して学ぶ。前半では、高校で学んだ力学への数学的な理解を深める。後半では、減衰振動、コリオリ力、惑星の運動などの進んだ内容について学ぶ。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則を具体的な問題に適用できる。
- ・仕事とエネルギーの関係を用いて、質点の運動を調べることができる。
- ・質点の運動方程式から、ばね振動の解を求めることができる。
- ・質点の角速度と、回転座標系において質点に作用する慣性力を計算できる。
- ・質点の運動の法則に基づいて、惑星の運動を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答えをレポートとして提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、基礎的事項の復習	前期の授業内容の説明 単位系 直線運動における速度と加速度
2	ベクトルの乗法	ベクトルの内積と外積
3	力と運動	ニュートンの運動の第 1 法則、第 2 法則、第 3 法則
4	摩擦と抵抗	垂直抗力と摩擦力 物体の速度と抵抗抗力
5	仕事とエネルギー	仕事の定義 仕事・エネルギーの定理
6	ポテンシャルエネルギーと保存力	力学的エネルギーの保存 保存力の定義 保存力であるための条件
7	中間試験と解説	1 回目から 6 回目までの内容から出題
8	単振動	ばね振動の運動方程式
9	減衰振動	抵抗がある場合のばね振動の運動方程式
10	角速度と角運動量	角速度と角運動量の定義
11	回転系における慣性力	遠心力とコリオリ力
12	重力	中心力としての重力の取り扱い
13	惑星の運動	ケプラーの法則
14	定期試験と解説	8 回目から 13 回目までの内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする【
- ・高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。
- ・演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】

力学（川村清著 裳華房）

力学の基礎（橋本正章・荒井賢三著 裳華房）

【成績評価の方法と基準】

試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline (in English)】

This course introduces the particle dynamics to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (80%) and reports (20%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。特に、大きさのない質量だけをもつ質点の運動を中心にして、古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の3法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】

力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動の記述 (1)	物理量の表現と単位系、質点位置の表現、ベクトルとスカラー、ベクトル表現の復習。
2	運動の記述 (2)	質点の位置を微分して速度、加速度を求める。微分の復習。
3	運動の記述 (3)	質点の加速度を積分して速度、位置を求める。積分の復習。
4	運動の法則	慣性座標系、運動の3法則、運動方程式について学ぶ。
5	いろいろな力	摩擦力、張力、垂直抗力について学ぶ。
6	質点の運動 (1)	運動方程式を解き、一様な重力中の質点の運動について学ぶ。
7	質点の運動 (2)	運動方程式を解き、斜面上の質点の運動について学ぶ。
8	質点の運動 (3)	運動方程式を解き、摩擦のある運動や単振動について学ぶ。
9	仕事と運動エネルギー	仕事と運動エネルギーについて学ぶ。
10	保存力とポテンシャル (1)	保存力について学ぶ。保存力のポテンシャルを求める。
11	保存力とポテンシャル (2)	ポテンシャルから力を求める。
12	力学的エネルギー (1)	力学的エネルギー保存則とその運動解析への応用について学ぶ。
13	力学的エネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づき運動を解析する。
14	質点運動のまとめ	質点運動の全体まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は定めない。

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Introduction to classical mechanics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, and conservation of energy.

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目的とする。特に、大きさのない質量だけをもつ質点の運動を中心にして、古典力学の基本概念を学ぶ。具体的には、運動の記述法や運動の3法則とその応用を学ぶ。

【到達目標】

力や力学的エネルギーなど力学の基礎概念を理解し、自由落下、単振動を通して力学の基本法則を正確に把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	運動の記述 (1)	物理量の表現と単位系、質点位置の表現、ベクトルとスカラー、ベクトル表現の復習。
2	運動の記述 (2)	質点の位置を微分して速度、加速度を求める。微分の復習。
3	運動の記述 (3)	質点の加速度を積分して速度、位置を求める。積分の復習。
4	運動の法則	慣性座標系、運動の3法則、運動方程式について学ぶ。
5	いろいろな力	摩擦力、張力、垂直抗力について学ぶ。
6	質点の運動 (1)	運動方程式を解き、一様な重力中の質点の運動について学ぶ。
7	質点の運動 (2)	運動方程式を解き、斜面上の質点の運動について学ぶ。
8	質点の運動 (3)	運動方程式を解き、摩擦のある運動や単振動について学ぶ。
9	仕事と運動エネルギー	仕事と運動エネルギーについて学ぶ。
10	保存力とポテンシャル (1)	保存力について学ぶ。保存力のポテンシャルを求める。
11	保存力とポテンシャル (2)	ポテンシャルから力を求める。
12	力学的エネルギー (1)	力学的エネルギー保存則とその運動解析への応用について学ぶ。
13	力学的エネルギー (2)	力学的エネルギー保存則に基づき運動を解析する。
14	質点運動のまとめ	質点運動の全体まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は定めない。

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Introduction to classical mechanics, which includes; mathematical representation of motion of mass point, Newton's laws of motion and their application to motion prediction for a particle, work and energy, conservative force and potential energy, and conservation of energy.

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

篠原 俊二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代物理学は力学、電磁気学、熱統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって、実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎Ⅱでは、物理学基礎Ⅰの発展の上に、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、回転系の運動、質点系と剛体系の運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつど説明する。

【到達目標】

力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である。本講義ではその中で、物理学基礎Ⅰの発展として、回転系の運動、質点系と剛体系の運動について理解できるのを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の開講形式は基本的には対面講義で行うが、状況によりオンラインへの変更や並立の可能性あります。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。
(なお秋学期から受講する場合、指定教科書は授業開始日までに、購入して下さい。)

対面講義の場合、毎回、理解度を深め、疑問点を解消するため、小テストを行い、レポートを提出する。毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説する。何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックする。質問も歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	回転運動と角運動量 (I)	力のモーメント、角運動量
2	回転運動と角運動量 (II)	回転運動の方程式と中心力
3	万有引力を受ける運動 (I)	万有引力とポテンシャル
4	万有引力を受ける運動 (II)	万有引力とポテンシャル、惑星の運動
5	万有引力を受ける運動 (III)	万有引力と惑星の運動
6	慣性系と加速度系	慣性力と遠心力
7	質点系の運動 (I)	2 体運動
8	質点系の運動 (II)	運動量、重心・相対運動、衝突
9	剛体の運動 (I)	剛体の釣り合いの条件
10	剛体の運動 (II)	固定軸の周りの運動
11	剛体の運動 (III)	剛体の平面運動
12	剛体の運動 (IV)	撃力による運動
13	テスト	回転運動と角運動量、万有引力を受ける運動、慣性系と加速度系、質点系の運動、剛体の運動
14	解説と補足	秋学期学習の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 予習で疑問点があれば、講義中などで質問できるよう整理をしておく。適宜、練習問題・演習問題をレポートとして課す。復習もしておくこと。

【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社講談社（第 2 版、第 8 刷）、ISBN Code: 9784062806039

【参考書】

特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

【成績評価の方法と基準】

各回のテーマについて内容が理解できたかの確認のために、原則として毎回小テストを行うとともに、レポートを宿題として課す。各人が自ら理解度を把握するようにする。成績評価は、小テスト（15 %）、練習問題レポート（15 %）、演習問題レポート（20 %）、テスト（50 %）による。

オンラインの場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その場合は学習支援システムでの提出書類などで評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックを掛けてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

関数演算付き電卓

【その他の重要事項】

大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

【Outline (in English)】

Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed. In this lecture of Basic Physics II, advanced study will be shown, following the Basic Physics I. Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

Here, the aim of this course is to help students acquire the followings: rotary motion and angular momentum, equation of motion under universal gravitation, inertial and centrifugal forces, motion in mass system, and rigid body motion. The goals of this course are to acquire the above topics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: term-end examination: 50 %, short examination: 15 %, reports on practical problems: 15 %, reports on advanced, practical problems: 20 %.

BSP100LC

物理学基礎 I

篠原 俊二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代物理学は力学、電磁気学、統計力学、量子力学に大きく分けられる。物理学基礎では物理学全分野の基礎となる力学、いわゆる古典力学（ニュートンの運動）を学ぶ。これは我々の日常に現れる物体の運動を扱う分野であり、数学を用いて表現することにより、自然現象を理解する方法を学び、工学全般の基礎となる考え方、応用法を学べる。

つまり、自動車や飛行機などわれわれの日常生活に深く関わりのある諸物体の運動は古典力学の法則に支配されている。したがって、実際の物体の運動を理解するためには、運動方程式を正しく立て、この方程式を解く必要がある。物理学基礎 II では、物理学基礎 I の発展の上に、いくつかの典型的な場合について、このプロセスの学習を行う。さらに、回転系の運動、質点系と剛体系の運動についての理解を深める。これらの概念の理解に必要な数学については、そのつと説明する。

【到達目標】

力学は物理学分野の基礎、土台であり、今後の機械系専門分野への理解にも重要である、本講義ではその中で、物理学基礎 I の発展として、回転系の運動、質点系と剛体系の運動について理解できるのを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の開講形式は基本的には対面講義で行うが、状況によりオンラインへの変更や並立の可能性あります。各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示しますので、適宜そちらを確認して下さい。特に「お知らせ」、「教材」、「課題」を見て下さい。
(なお秋学期から受講する場合、指定教科書は授業開始日までに、購入しておいて下さい。)

対面講義の場合、毎回、理解度を深め、疑問点を解消するため、小テストを行い、レポートを提出する。毎回講義の初めに、前回の講義のまとめと注意点を解説する。何れにしても、課題等に対しては学習支援システムや講義においてフィードバックする。質問も歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	回転運動と角運動量 (I)	力のモーメント、角運動量
2	回転運動と角運動量 (II)	回転運動の方程式と中心力
3	万有引力を受ける運動 (I)	万有引力とポテンシャル
4	万有引力を受ける運動 (II)	万有引力と惑星の運動
5	万有引力を受ける運動 (III)	万有引力と惑星の運動
6	慣性系と加速度系	慣性力と遠心力
7	質点系の運動 (I)	2 体運動
8	質点系の運動 (II)	運動量、重心・相対運動、衝突
9	剛体の運動 (I)	剛体の釣り合いの条件
10	剛体の運動 (II)	固定軸の周りの運動
11	剛体の運動 (III)	剛体の平面運動
12	剛体の運動 (IV)	撃力による運動
13	テスト	回転運動と角運動量、万有引力を受ける運動、慣性系と加速度系、質点系の運動、剛体の運動
14	解説と補足	秋学期学習の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】適宜、演習問題を宿題として課す。復習もしておくこと。

【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ 力学、平山修・篠原俊二郎 著、講談社（第 2 版、第 8 刷）、ISBN Code: 9784062806039

【参考書】

特にないが、図書館や本屋で、「力学」の入門書、専門書の中から自分に合った書を見つけるのが良い。

【成績評価の方法と基準】

各回のテーマについて内容が理解できたかの確認のために、原則として毎回小テストを行うとともに、レポートを宿題として課す。各人が自ら理解度を把握するようにする。成績評価は、小テスト（15 %）、練習問題レポート（15 %）、演習問題レポート（20 %）、テスト（50 %）による。オンラインの場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その場合は学習支援システムでの提出書類などで評価する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の提出物の中に、疑問点、要望等があれば記載する。フィードバックをかけてレベルの変更や、内容、進度を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

関数演算付き電卓

【その他の重要事項】

大学では自ら学び疑問を解決する姿勢が大事である。大学における力学について、高校レベルの物理の公式を用いれば解ける問題も多い。大学の授業では、しかし、その公式が確立する過程を考え、その本質を理解することが目的になる。したがって授業をよく理解し考え方を学ぶことで、応用できる課題が広がり、公式を忘れても自ら考え解を導く糸口をつかめるようになる。その考え方は、実社会へ出てからも必ず役に立つ。

【Outline (in English)】

Modern physics include mechanics, electromagnetics, statistical thermodynamics and quantum mechanics. Here, mechanics is classical fundamental physics (Newton's law of motion), describing the motion of the object.

Motion in various objects relating to our daily lives such as automobiles and airplanes is governed by the classical dynamics. Therefore, in order to understand the motion of a real object, we must set up equations of motion and solve them. Here, using some typical examples, this learning process will be executed. In this lecture of Basic Physics II, advanced study will be shown, following the Basic Physics I.

Furthermore, introducing the concept of work and energy, a deep understanding of motion, which has a different viewpoint from the equations of motion, will be done. Regarding the mathematics necessary for the understandings of these concepts, the explanation will be done at all such times.

Here, the aim of this course is to help students acquire the followings: rotary motion and angular momentum, equation of motion under universal gravitation, inertial and centrifugal forces, motion in mass system, and rigid body motion. The goals of this course are to acquire the above topics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: term-end examination: 50 %, short examination: 15 %, reports on practical problems: 15 %, reports on advanced, practical problems: 20 %.

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半の3回までは、物理学基礎Ⅰで学んだ質点の直線運動を求める概念を、質点の回転運動、多数の質点からなる質点系の運動、質量と大きさを持つ剛体の運動に拡張する。4回以降は、電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・時期現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】

質点系や剛体の運動（並進と回転の運動）を運動方程式を解くことにより理解できる。電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、授業で取り扱う内容について説明する。
2	力学：回転運動 (1)	角運動量などの回転を表す物理量について学ぶ。
3	力学：回転運動 (2)	中心力 2 体問題について学ぶ。
4	クーロンの法則 (1)	クーロン力とクーロンの法則について学ぶ。
5	クーロンの法則 (2)	電場について学ぶ。
6	ガウスの法則 (1)	電気力線による電場の表現について学ぶ。
7	ガウスの法則 (2)	ガウスの法則について学ぶ。
8	静電ポテンシャル	静電ポテンシャルについて学ぶ。
9	導体	静電誘導について学ぶ。
10	電流と磁場	オームの法則、磁場について学ぶ。
11	ビオ・サバールの法則 (1)	ビオ・サバールの法則について学ぶ。
12	ビオ・サバールの法則 (2)	磁束密度に対するガウスの法則、アンペールの法則について学ぶ。
13	ファラデーの電磁誘導の法則	ファラデーの電磁誘導の法則について学ぶ。
14	マクスウェル方程式	アンペール・マクスウェルの法則、マクスウェル方程式について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Introduction to classical mechanics, which includes; vector representation and equations of rotational motion, angular momentum of particle, motion caused by central force, Kepler problem, mechanics for system of multiple particles, rotational kinematics, rotation of rigid body about fixed axis, and motion in accelerated frames. Introduction to electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

BSP100LC

物理学基礎ⅠⅡ

西村 征也

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力学の重要な応用分野として、連続体（質量の分布する媒質）の力学がある。本講義では、連続体の具体例として、剛体（こまのような大きさはあるが変形しない物体）と流体（水や空気などの流動する媒質）を扱う。前半では、剛体の回転や転がりについて学ぶ。後半では、流体を理解する上での基礎的な事項について学ぶ。

【到達目標】

- ・ 回転あるいは転がる物体の運動エネルギーと角運動量を計算できる。
- ・ 物体の回転に対する運動方程式を立て、その解を求めることができる。
- ・ 流体のベルヌーイの定理を具体的な問題に適用できる。
- ・ 流体の流線や渦度を計算することができる。
- ・ 流体の質量の保存と連続の式との関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を基本とする。毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案を提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	後期の授業内容の説明
	質点系	質点系と剛体
2	こまの運動エネルギー	大きさのある物体の回転の運動エネルギー
3	慣性モーメント	連続体としての剛体の扱い 様々な形状の剛体の慣性モーメントの計算
4	剛体の転がり	回転運動と並進運動の重ね合わせとしての転がりの記述
5	剛体の運動方程式	トルクが作用する場合の剛体の角運動量の時間変化
6	実体振り子	剛体の運動方程式の実例
7	中間試験と解説	1 回目から 6 回目までの内容から出題
8	流体の考え方	流体を記述する物理量とその表現方法
9	速度場と流線	流線の考え方と計算法
10	ベルヌーイの定理	流体のエネルギー保存
11	ガウスの定理とストークスの定理	ベクトル場の発散と回転の計算法 ガウスの定理とストークスの定理の使用法
12	連続の式	連続の式の導出
13	流体の回転と渦度	渦度と角運動量の関係 渦管と渦糸の考え方
14	定期試験と解説	8 回目から 13 回目までの内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
- ・ 高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。
 - ・ 演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】

力学（川村清著 裳華房）
力学の基礎（橋本正章・荒井賢三著 裳華房）
連続体の力学（巽友正著 岩波書店）
基礎物理数学 Vol.1 ベクトル・テンソルと行列（ジョージアルフケン・ハンス ウェーバー著 講談社）

【成績評価の方法と基準】

試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline (in English)】

This course introduces the dynamics of a continuum such as a rigid body and a fluid to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (80%) and reports (20%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

池田 浩治

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）の基礎に関する理解をさらに深めることを目的として、「物理学基礎Ⅰ」で対象とした「質点の並進運動」を拡張して、「質点の回転運動」「剛体の運動」「非慣性系での運動」について学ぶ。
 （「物理学基礎Ⅰ」のシラバスも参照してください）

【到達目標】

物理学基礎Ⅰに続いて物理学の基礎のステップアップをはかるため、以下に関する物理的な意味を理解し、その数学的取り扱い方を学生諸君が修得することを旨とする。

- 1) 回転に関わる物理量を理解し、質点の回転運動に関する運動方程式から導かれる内容を説明できること
- 2) 遠心力と向心力を明確に区別できること
- 3) 2体問題での取り扱い方を説明できること
- 4) 剛体のつりあい条件を説明できること
- 5) 剛体の回転運動について考え方を説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

 2022年度は新型コロナウイルス感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、9月中旬ごろから適宜「学習支援システム」経由でお知らせします。

対面式での授業実施が可能な場合：

出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、小テストなどは学内ネットワーク経由で Google Classroom により実施、となります。

オンライン式での授業実施が必要な場合：

Google Classroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うこととなります。

授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。
 教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。
 ただし、自力では理解しにくいかもしれない部分に関する補助資料を授業前に公開しますので、それも参照して予習を行うこと。

授業では、予習の段階で理解しにくそうなところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうなところを中心として説明するため、補助資料をスクリーンに投影したり、板書したりしながら説明します。

前の学期に実施した「物理学基礎Ⅰ」の内容を基礎として、その拡張版としての内容を学ぶことになるため、既習の内容の復習から始めますが、途中から新たに説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることになります。そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。

毎回、小テストを実施しますが、「不十分な回答だった場合、何が不十分なのか」「誤っている場合、何をどのように誤解していて、本来どのように理解すべきだったか」をはっきりしてもらうことが重要です。
 そのため、小テストは、まず自力で答案を作成してもらったのち、続いて解説を聞きながら自分の答案を添削、修正することを行ってもらいます。
 この作業を通じて、「正しい内容」を理解し、「簡潔に記す」を意識してもらうことを目指します。いわゆる「部分点狙い」のために、ただだらとんでも答案に盛り込む答案が不適切であることを実感してください。
 なお、課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	力のモーメントと角運動量	物体を回転させる力の働きを「力のモーメント」として表現するための「外積」を学ぶ。 さらに物体の回転運動の大きさを表現する「角運動量」について検討する。 (テキスト 6.1 & 6.2)
2	質点の回転運動（1：回転の運動方程式と中心力）	回転運動を表す運動方程式について学ぶ。 特殊な場面として中心力が作用するときについて検討する。 (テキスト 6.3 & 6.4)

3	質点の回転運動（2：万有引力とそのポテンシャル）	万有引力の取り扱いを拡張する。球殻定理の背景を理解し、使い方を学ぶ。 (テキスト 7.1)
4	質点の回転運動（3：万有引力と惑星の運動）	惑星の運動に関する「ケプラーの法則」を万有引力から検討する。 (テキスト 7.2)
5	慣性力と遠心力	「向心力」と「遠心力」を正しく理解するために、どの座標系から眺めているかを意識しながら検討する (テキスト 8.1 & 8.2)
6	回転座標系での運動方程式	二次元座標系において、同じ運動を静止座標系と回転座標系から眺めたときにどのように異なるかを検討。 コリオリの力についても触れる。 (テキスト 8.3 & 8.4)
7	まとめ（中間）	第1回から第6回までの内容の理解度合いを確認するために、中間試験を実施。
8	質点系の力学（1：2体問題と換算質量）	2物体からなる「系」の運動をどのように取り扱うかについて検討する。 (テキスト 9.1 & 9.2)
9	質点系の力学（2：2物体の衝突）	二つの物体が衝突する際の取り扱いについて検討する。 (テキスト 9.3)
10	質点系の力学（3：質量が変化する場合の運動）	燃料を燃焼ガスとして噴射しながら運動するロケットなど、質量が変化する物体の運動について、その取り扱いについて検討する。 (テキスト 9.5)
11	剛体の運動（1：剛体のつりあい条件）	大きさが無視できず、変形しない物体（剛体）が静止する条件について検討する。 (テキスト 10.1)
12	剛体の運動（2：固定軸周りの剛体の運動）	固定軸を回転中心とした剛体の回転運動について、その取り扱いを検討する。 (テキスト 10.2)
13	剛体の運動（3：剛体の平面内での運動）	平板状の円板や筒状の円筒が転がる場合、並進運動と回転運動の両方を考慮する必要がある。その取り扱いについて検討する。 (テキスト 10.3)
14	剛体の運動（4：撃力による剛体の運動）	剛体が撃力を受ける場合の運動について検討する。 (テキスト 10.4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。

あらかじめ「どこがわかりにくいか」「どこが納得できないか」をはっきりさせておくと、授業が理解しやすくなる。

復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に里香雨を促す」に徹すること。

微分・積分について、高校での理解が不十分な人は、教科書レベルでよいので、復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ シリーズ 「力学」 第2版第8刷

著者：平山修、篠原俊二郎、 出版社：講談社

*古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第2版第8刷」を入手してください。

*「物理学基礎Ⅰ（担当：池田）」ではこの教科書の前半を使用し、「物理学基礎Ⅱ（担当：池田）」ではこの教科書の後半を使用します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

 2022年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。
 具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

（シラバス 2022_02_10：対面式講義の場合）

定期試験60%（中間試験30%、最終試験30%）、授業中に実施する小テスト（20%）、および、平常点（20%）などをもとに総合的に評価する。

いずれも、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を6割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を7割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を8割以上、知識を自由に運用しているとみなすことができる場合を9割以上の評価とする。

(シラバス 2022_02_10：オンライン式講義の場合)

授業中に実施する小テスト(60%)、および、期末試験(40%)を用いて総合的に評価するが、講義内容に関する質問など積極的な取り組みを加算する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行う小テストは「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何が欠けているのか」「何が誤りなのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。

そのための自己採点、自己添削であることを活用してください。

中間試験、最終試験の結果によれば、「ただ計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。

「異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。

講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで写真を撮る諸君がいます。

「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりすることも、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

【Outline (in English)】

This course focuses on the topics in classical mechanics, to deepen your understanding on the motion of rigid body as well as point mass. The analysis in non-inertial system is also discussed.

This course is the step-up course of "Physics basics I".

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

赤松 茂

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学基礎Ⅰで学んだ質点の直線運動を求める運動方程式の基本概念を、質点の回転運動、多数の質点からなる質点系の運動、さらには大きさをもった剛体の運動にまで拡張する。

【到達目標】

物理学基礎Ⅰと同様に、自然科学、工学全体の基礎となる線形代数や微積分などの基礎数学を力学という具体的な課題への応用を通じて身につけることが本科目の目的の一つである。

具体的には、質点の回転運動の記述法、回転に関与する物理量である力のモーメントや角運動量の概念とベクトルによるこれらの数学的記述、万有引力に代表される中心力によって生じる質点の回転運動、また多数の質点からなる質点系に関して、重心の位置、運動量、運動エネルギーおよび角運動量などの物理量とそれら相互の関係、そして質点系の極限として導かれる大きさをもった剛体について、そのつりあいに関する静力学、その回転運動を規定する慣性モーメント、さらには慣性系に対して加速度をもつ座標系からみたときの物体の運動、などについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義内容を要約したレジュメ、および、履修内容についての理解を深めるために宿題として課す演習問題解答の提出など、すべての情報授受は「学習支援システム」Hoppiiを通じて行う予定です。

本科目の授業は基本的に教室における対面形式で行う予定ですが、板書によって説明する内容は、Hoppiiを介して予め（あるいは事後に）レジュメを公開するので、新型コロナの感染状況が悪化した場合でも、講義の音声情報はZoomによるリモートでやりとりし、板書の要点をまとめた講義レジュメはHoppiiから取得してもらうことによって、対面授業とほぼ同等のレベルの情報を提供できる見込みです。

オンライン授業の方法や各回の授業計画の変更、成績評価方法の説明などについてはHoppii上でその都度、情報を提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	質点の回転運動（1）	回転する運動の極座標系による記述
2	質点の回転運動（2）	回転を表す物理量（力のモーメントと角運動量）
3	質点の回転運動（3）	ベクトルの外積、力のモーメント・角運動量のベクトルによる表現
4	中心力による運動（1）	中心力の代表例：2つの質点間に作用する万有引力
5	中心力による運動（2）	中心力のポテンシャル
6	中心力による運動（3）	大きさのある物体によって生じる万有引力（体積積分）
7	質点系の力学（1）	質点系の運動方程式、重心の運動、質点系の運動量、衝突
8	質点系の力学（2）	質点系の角運動量、質点系の運動エネルギー
9	剛体の静力学	剛体のつりあい
10	剛体の運動（1）	剛体の運動を記述する運動方程式、運動エネルギー
11	剛体の運動（2）	剛体の慣性モーメント、固定軸のまわりの回転運動
12	剛体の運動（3）	剛体の平面運動（斜面上を回転しながら落下する回転体の運動など）
13	運動座標系での運動方程式（1）	慣性系に対して加速度をもつ並進座標系からみた運動、慣性力
14	運動座標系での運動方程式（2）	慣性系に対して回転運動している座標系からみた運動、コリオリの力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

本科目は春学期の物理学基礎Ⅰの内容を理解していることが履修の前提となっている。

また、毎回の授業で宿題として課される演習問題に取り組むことで、授業で学んだ知識の定着をはかってほしい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】

基礎物理学 上 （有馬 朗人 編 学術図書出版社）

その他、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は学期末の定期試験を主とする（70％）が、原則として毎回宿題として課する演習課題の提出状況とその結果も加味して（30％）、総合的に評価する。合否判定は、期末試験の得点と宿題の得点とを重み付け合算して、その60点以上を合格とする。合格者に対するS～Cの4段階評価は、期末試験の得点に対する相対評価で判定する。

オンラインでの開講となった場合、成績評価の方法と基準も変更する場合がある。

その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容に対応した演習問題を課題とすることで、講義内容の定着を図るようにした。

また、演習課題の提出回数が少ない者、その達成度（正解率）が低い者に対しては、ラーニングサポーターによる支援を活用するように勧めます。

【その他の重要事項】

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろから確認をよくするようにしてください。

【Outline (in English)】

Course Outline and Learning Objectives: This course provides introduction to classical mechanics which includes; vector representation and equations of rotational motion, angular momentum of particle, motion caused by central force, mechanics for system of multiple particles, rotational kinematics, rotation of rigid body around fixed axis, and motion in accelerated frames.

Grading Criteria /Policy : Students are graded by comparative validation of their scores achieved at semester final exam and accomplishment report of homework assignments.

Learning Activities Outside of Classroom: Students are expected to carry out an intensive review after the class through practicing similar problems given as homework assignments.

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

池田 浩治

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では物理学全般の基礎となる力学（いわゆる「古典力学」）の基礎に関する理解をさらに深めることを目的として、「物理学基礎Ⅰ」で対象とした「質点の並進運動」を拡張して、「質点の回転運動」「剛体の運動」「非慣性系での運動」について学ぶ。
 （「物理学基礎Ⅰ」のシラバスも参照してください）

【到達目標】

物理学基礎Ⅰに続いて物理学の基礎のステップアップをはかるため、以下に関する物理的な意味を理解し、その数学的取り扱い方を学生諸君が修得することを旨とする。

- 1) 回転に関わる物理量を理解し、質点の回転運動に関する運動方程式から導かれる内容を説明できること
- 2) 遠心力と向心力を明確に区別できること
- 3) 2体問題での取り扱い方を説明できること
- 4) 剛体のつりあい条件を説明できること
- 5) 剛体の回転運動について考え方を説明できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

 2022年度は新型コロナウイルス感染防止との兼ね合いによっては、オンライン授業となるかもしれません。具体的な授業のやり方などは、9月中旬ごろから適宜「学習支援システム」経由でお知らせします。

対面式での授業実施が可能な場合：

出席確認は教室に設置の「出席管理システム」により行い、小テストなどは学内ネットワーク経由で Google Classroom により実施、となります。

オンライン式での授業実施が必要な場合：

Google Classroom を用いて、出席確認、講義資料（動画）の視聴、小テストなどの実施、また、Zoom を用いてリアルタイムな質疑応答や追加説明を行うこととなります。

授業は指定した教科書の内容にしたがって行います。
 教科書を予習して授業に臨んでもらうことが必要です。
 ただし、自力では理解しにくいかもしれない部分に関する補助資料を授業前に公開しますので、それも参照して予習を行うこと。

授業では、予習の段階で理解しにくそうなところ、また、予習の段階で重要さを見落としそうなところを中心として説明するため、補助資料をスクリーンに投影したり、板書したりしながら説明します。

前の学期に実施した「物理学基礎Ⅰ」の内容を基礎として、その拡張版としての内容を学ぶことになるため、既習の内容の復習から始めますが、途中から新たに説明される考え方、そして将来にわたって通用する考え方へと拡張されるので、気がつかないうちに高度な内容へ移っていることになります。そのような展開についてきてもらうとき、「納得して理解すること」に注意を払ってください。ゲームの攻略本のように「丸覚え」したり、単に繰り返しを通じて「反射的に作業する」では応用が効きません。知識の積み重ねる努力が実力に直結することにも注意してください。

毎回、小テストを実施しますが、「不十分な回答だった場合、何が不十分なのか」「誤っている場合、何をどのように誤解していて、本来どのように理解すべきだったか」をはっきりしてもらうことが重要です。
 そのため、小テストは、まず自力で答案を作成してもらったのち、続いて解説を聞きながら自分の答案を添削、修正することを行ってもらいます。
 この作業を通じて、「正しい内容」を理解し、「簡潔に記す」を意識してもらうことを目指します。いわゆる「部分点狙い」のために、ただだらとんでも答案に盛り込む答案が不適切であることを実感してください。
 なお、課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	力のモーメントと角運動量	物体を回転させる力の働きを「力のモーメント」として表現するための「外積」を学ぶ。 さらに物体の回転運動の大きさを表現する「角運動量」について検討する。 (テキスト 6.1 & 6.2)
2	質点の回転運動（1：回転の運動方程式と中心力）	回転運動を表す運動方程式について学ぶ。 特殊な場面として中心力が作用するときについて検討する。 (テキスト 6.3 & 6.4)

3	質点の回転運動（2：万有引力とそのポテンシャル）	万有引力の取り扱いを拡張する。球殻定理の背景を理解し、使い方を学ぶ。 (テキスト 7.1)
4	質点の回転運動（3：万有引力と惑星の運動）	惑星の運動に関する「ケプラーの法則」を万有引力から検討する。 (テキスト 7.2)
5	慣性力と遠心力	「向心力」と「遠心力」を正しく理解するために、どの座標系から眺めているかを意識しながら検討する (テキスト 8.1 & 8.2)
6	回転座標系での運動方程式	二次元座標系において、同じ運動を静止座標系と回転座標系から眺めたときにどのように異なるかを検討。 コリオリの力についても触れる。 (テキスト 8.3 & 8.4)
7	まとめ（中間）	第1回から第6回までの内容の理解度合いを確認するために、中間試験を実施。
8	質点系の力学（1：2体問題と換算質量）	2物体からなる「系」の運動をどのように取り扱うかについて検討する。 (テキスト 9.1 & 9.2)
9	質点系の力学（2：2物体の衝突）	二つの物体が衝突する際の取り扱いについて検討する。 (テキスト 9.3)
10	質点系の力学（3：質量が変化する場合の運動）	燃料を燃焼ガスとして噴射しながら運動するロケットなど、質量が変化する物体の運動について、その取り扱いについて検討する。 (テキスト 9.5)
11	剛体の運動（1：剛体のつりあい条件）	大きさが無視できず、変形しない物体（剛体）が静止する条件について検討する。 (テキスト 10.1)
12	剛体の運動（2：固定軸周りの剛体の運動）	固定軸を回転中心とした剛体の回転運動について、その取り扱いを検討する。 (テキスト 10.2)
13	剛体の運動（3：剛体の平面内での運動）	平板状の円板や筒状の円筒が転がる場合、並進運動と回転運動の両方を考慮する必要がある。その取り扱いについて検討する。 (テキスト 10.3)
14	剛体の運動（4：撃力による剛体の運動）	剛体が撃力を受ける場合の運動について検討する。 (テキスト 10.4)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 授業計画に沿って授業を実施するので、各回に対応する部分のテキストを予習して授業に臨むこと。

あらかじめ「どこがわかりにくい」「どこが納得できないか」をはっきりさせておく、授業が理解しやすくなる。

復習においては、テキスト、板書を丸覚えするのではなく、「自分が理解できる言葉を使って表現すること」「略図やグラフを描いて、視覚的に里香雨を促す」に徹すること。

微分・積分について、高校での理解が不十分な人は、教科書レベルでよいので、復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

理工系のための解く！ シリーズ 「力学」 第2版第8刷

著者：平山修、篠原俊二郎、 出版社：講談社

*古い版等では、誤りや内容の変更に対応していませんので、上記の「第2版第8刷」を入手してください。

*「物理学基礎Ⅰ（担当：池田）」ではこの教科書の前半を使用し、「物理学基礎Ⅱ（担当：池田）」ではこの教科書の後半を使用します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

 2022年度の講義が「対面式講義」「オンライン式講義」いずれかによって評価手法を変えざるを得ません。
 具体的な方法と基準は、授業開始日までに学習支援システムで提示します。

（シラバス 2022_02_10：対面式講義の場合）

定期試験60%（中間試験30%、最終試験30%）、授業中に実施する小テスト（20%）、および、平常点（20%）などをもとに総合的に評価する。

いずれも、到達目標に対して、最低限のレベルに到達している場合を6割以上、若干の理解不足が見られるがほぼ到達目標に到達している場合を7割以上、ほぼ必要な知識を身につけていると考えられる場合を8割以上、知識を自由に運用しているとみなすことができる場合を9割以上の評価とする。

(シラバス 2022_02_10：オンライン式講義の場合)

授業中に実施する小テスト(60%)、および、期末試験(40%)を用いて総合的に評価するが、講義内容に関する質問など積極的な取り組みを加算する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行う小テストは「正解」「不正解」だけでは力を伸ばすことに繋がりません。「不正解」なら「何が欠けているのか」「何が誤りなのか」を学生本人が理解することが一番の勉強です。

そのための自己採点、自己添削であることを活用してください。

中間試験、最終試験の結果によれば、「ただ計算式を並べている」「文字がはっきり書かれていないために採点できない」という答案の場合、内容を理解することをせずに「教科書や補助資料の丸写し」で済ませていることがほとんどです。

「異なる考え方を理解する」が学生諸君の思考の柔軟性を養う、ということをよく理解してください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

対面式講義の場合、講義中にスマートフォンなどを使って写真を撮ることは勧めません。

講義中に「ここは重要」と発言すると、スマートフォンで写真を撮る諸君がいます。

「自分の手を使って書く」という作業を行うと、理解しやすかったり、記憶に残りやすかったりすることも、お手軽に写真を撮るだけで済ませている諸君は手元にデータがあるだけで安心するだけで止まるのか、理解すること自体を行っていない雰囲気があります。

【Outline (in English)】

This course focuses on the topics in classical mechanics, to deepen your understanding on the motion of rigid body as well as point mass. The analysis in non-inertial system is also discussed.

This course is the step-up course of "Physics basics I".

BSP100LC

物理学基礎ⅠⅡ

西村 征也

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力学の重要な応用分野として、連続体（質量の分布する媒質）の力学がある。本講義では、連続体の具体例として、剛体（こまのような大きさはあるが変形しない物体）と流体（水や空気などの流動する媒質）を扱う。前半では、剛体の回転や転がりについて学ぶ。後半では、流体を理解する上での基礎的な事項について学ぶ。

【到達目標】

- ・ 回転あるいは転がる物体の運動エネルギーと角運動量を計算できる。
- ・ 物体の回転に対する運動方程式を立て、その解を求めることができる。
- ・ 流体のベルヌーイの定理を具体的な問題に適用できる。
- ・ 流体の流線や渦度を計算することができる。
- ・ 流体の質量の保存と連続の式との関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を基本とする。毎回、理解を深め疑問を解消するために演習を行い、その答案を提出する。課題等に対しては学習支援システムを用いてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	後期の授業内容の説明
	質点系	質点系と剛体
2	こまの運動エネルギー	大きさのある物体の回転の運動エネルギー
3	慣性モーメント	連続体としての剛体の扱い 様々な形状の剛体の慣性モーメントの計算
4	剛体の転がり	回転運動と並進運動の重ね合わせとしての転がりの記述
5	剛体の運動方程式	トルクが作用する場合の剛体の角運動量の時間変化
6	実体振り子	剛体の運動方程式の実例
7	中間試験と解説	1 回目から 6 回目までの内容から出題
8	流体の考え方	流体を記述する物理量とその表現方法
9	速度場と流線	流線の考え方と計算法
10	ベルヌーイの定理	流体のエネルギー保存
11	ガウスの定理とストークスの定理	ベクトル場の発散と回転の計算法 ガウスの定理とストークスの定理の使用法
12	連続の式	連続の式の導出
13	流体の回転と渦度	渦度と角運動量の関係 渦管と渦糸の考え方
14	定期試験と解説	8 回目から 13 回目までの内容から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
- ・ 高校物理には出てこない新しい数学や物理的概念が出てくるので、理解できるまでよく復習しておくこと。
 - ・ 演習問題は解答例を配布する。試験に臨むに当たって、演習問題は必ず解けるようになっておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて参考書を指定する。

【参考書】

力学（川村清著 裳華房）
力学の基礎（橋本正章・荒井賢三著 裳華房）
連続体の力学（巽友正著 岩波書店）
基礎物理数学 Vol.1 ベクトル・テンソルと行列（ジョージアルフケン・ハンス ウェーバー著 講談社）

【成績評価の方法と基準】

試験を実施できる場合は、試験（80%）、レポート（20%）で評価する。
試験を実施できない場合は、レポート（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

理解しやすい説明を行うために、板書とスライドを併用する。必要な教材は、授業支援システムにて共有する。

【Outline (in English)】

This course introduces the dynamics of a continuum such as a rigid body and a fluid to students taking this course.

Learning activities outside of classroom are review and preparation of reports for each class.

If mid-term and end-term examinations can be conducted, grading will be decided based on the examinations (80%) and reports (20%).

If examinations cannot be conducted, grading will be decided based on reports (100%).

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半の3回までは、物理学基礎Ⅰで学んだ質点の直線運動を求める概念を、質点の回転運動、多数の質点からなる質点系の運動、質量と大きさを持つ剛体の運動に拡張する。4回以降は、電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・時期現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】

質点系や剛体の運動（並進と回転の運動）を運動方程式を解くことにより理解できる。電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、授業で取り扱う内容について説明する。
2	力学：回転運動 (1)	角運動量などの回転を表す物理量について学ぶ。
3	力学：回転運動 (2)	中心力 2 体問題について学ぶ。
4	クーロンの法則 (1)	クーロン力とクーロンの法則について学ぶ。
5	クーロンの法則 (2)	電場について学ぶ。
6	ガウスの法則 (1)	電気力線による電場の表現について学ぶ。
7	ガウスの法則 (2)	ガウスの法則について学ぶ。
8	静電ポテンシャル	静電ポテンシャルについて学ぶ。
9	導体	静電誘導について学ぶ。
10	電流と磁場	オームの法則、磁場について学ぶ。
11	ビオ・サバールの法則 (1)	ビオ・サバールの法則について学ぶ。
12	ビオ・サバールの法則 (2)	磁束密度に対するガウスの法則、アンペールの法則について学ぶ。
13	ファラデーの電磁誘導の法則	ファラデーの電磁誘導の法則について学ぶ。
14	マクスウェル方程式	アンペール・マクスウェルの法則、マクスウェル方程式について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Introduction to classical mechanics, which includes; vector representation and equations of rotational motion, angular momentum of particle, motion caused by central force, Kepler problem, mechanics for system of multiple particles, rotational kinematics, rotation of rigid body about fixed axis, and motion in accelerated frames. Introduction to electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半の3回までは、物理学基礎Ⅰで学んだ質点の直線運動を求める概念を、質点の回転運動、多数の質点からなる質点系の運動、質量と大きさを持つ剛体の運動に拡張する。4回以降は、電磁気学について学ぶ。電磁気学は、電気・時期現象に関する学問であり、様々な電化製品や情報通信システムの基礎となっている。

【到達目標】

質点系や剛体の運動（並進と回転の運動）を運動方程式を解くことにより理解できる。電磁気現象の基本である静電場、電位、静電容量、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、授業で取り扱う内容について説明する。
2	力学：回転運動 (1)	角運動量などの回転を表す物理量について学ぶ。
3	力学：回転運動 (2)	中心力 2 体問題について学ぶ。
4	クーロンの法則 (1)	クーロン力とクーロンの法則について学ぶ。
5	クーロンの法則 (2)	電場について学ぶ。
6	ガウスの法則 (1)	電気力線による電場の表現について学ぶ。
7	ガウスの法則 (2)	ガウスの法則について学ぶ。
8	静電ポテンシャル	静電ポテンシャルについて学ぶ。
9	導体	静電誘導について学ぶ。
10	電流と磁場	オームの法則、磁場について学ぶ。
11	ビオ・サバールの法則 (1)	ビオ・サバールの法則について学ぶ。
12	ビオ・サバールの法則 (2)	磁束密度に対するガウスの法則、アンペールの法則について学ぶ。
13	ファラデーの電磁誘導の法則	ファラデーの電磁誘導の法則について学ぶ。
14	マクスウェル方程式	アンペール・マクスウェルの法則、マクスウェル方程式について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。
その他、授業のはじめに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・レポート課題 (40%) と期末試験 (60%) により評価する。
評価するポイントは、
・物理法則を正確に理解しているか
・物理現象を数学的に正確に扱えるか
である。

【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Introduction to classical mechanics, which includes; vector representation and equations of rotational motion, angular momentum of particle, motion caused by central force, Kepler problem, mechanics for system of multiple particles, rotational kinematics, rotation of rigid body about fixed axis, and motion in accelerated frames. Introduction to electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

落合 剛

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学 (Chemistry) は、物理学、生物学などと並ぶ自然科学 (Science) の一分野である。本講義は、理工系学生として最低限必要な化学の知識や方法論をふまえ、「化学が日常生活にどう結びついているか」について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2. 論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3. 身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4. 科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

<https://youtu.be/sxiEv0UAHGI>

この youtube 動画は、2020～2021 年度のオンライン講義で使用したものである。この動画のように、簡単な化学実験、動画、powerpoint スライド、関連 web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりませ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後に、学習支援システムに動画やスライドなどをアップロードする。2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。また、講義時間外にも、学習支援システムの授業内掲示板や、LINE オープンチャット、電子メールなどで、随時、質疑応答や議論（ときどき雑談）を展開する。春学期の授業は、原則として対面形式で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「身近な現象を、科学的な視点でとらえ、考えること」の楽しさと重要性について
2	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	分子レベルで見た日々の呼吸、そもそも分子とは？、物質量の概念と計算法
3	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	大気圏の構造、空気の組成と微量成分、空気の汚染とその原因物質
4	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	身近な空気清浄機の原理と効果について
5	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	空気に関わる化学反応、汚染物質の分解方法
6	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	オゾン層の正体と存在場所、酸素／オゾンによる紫外線の遮蔽
7	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	光という波動

8	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル 1、我々はオゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界
9	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル 2、研究の意味
10	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル 3、オゾン層破壊問題の未来
11	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	地球温暖化とは：地球のエネルギー収支、証拠集め：時間からの証言
12	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	政治の動きと科学の対応・未来の予測 1、「地球はこれからどうなるのか？」
13	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	政治の動きと科学の対応・未来の予測 2、「不都合な真実」「戦う」環境化学者たち
14	演習問題、まとめ	具体的な問題の考え方・解き方、科学的に信頼できる情報の収集方法、研究とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

【テキスト（教科書）】

『実感する化学（上巻・地球感動編）』アメリカ化学会 著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス（2015 年発刊）、本体 3,500 円＋税

http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html

※第 1～3 章を使用。秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、残りの第 4～6 章を使用。春秋を通じての履修をおすすめする。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや youtube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

●上記の到達目標に記載した 4 つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問題はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。

●目標1については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標2および3については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標4については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを發したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度である。**

【学生の意見等からの気づき】

●2020,2021年度はコロナ禍のためすべてオンライン講義となったが、実験の演示やグループディスカッションを活用し、リアルタイムかつ双方向に講義を展開した。また、入学後すぐにオンライン講義になってしまった1年生も多数受講していたので、授業支援アシスタント（当時2～4年生）に協力してもらい、講義時間の前後に雑談の時間を設定し、学生同士の交流づくりや大学生活についての相談にも対応できるよう配慮した。その結果、講義終了後のアンケートでは「**授業中の雰囲気が良い、先生に質問がしやすく学習がとてもしりました**」「グループディスカッションは、同じ授業を履修している生徒のいろいろな考えが共有できて、知識が増えるとともに、授業に飽きることなく楽しめたのでとてもよかった」「**オンライン授業が中心で人との交流がほとんどない中、先生やTAの先輩方や履修している学生と交流できる貴重な機会になってくれたので、毎回楽しみにしていました**」といった声が多数寄せられ、手ごたえを感じた。中には「**LINEオープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあることも討論できるかもしれない**」「**今年度で履修を終えてしまうのが寂しい授業No.1**」「**先生の授業から離れたい**」「**“化学基礎”を失った喪失感がものすごい**」という声もあったので、さっそくLINEオープンチャットを立ち上げ、講義終了後も交流できる場として残しておくことにした。将来的に、化学基礎を受講した様々な学年の学生が、ゆるくつながって、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場になりたいと思っている。**2022年度もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。**

●「化学が苦手で機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式や量子論などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。ときどき「**化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった**」という声もあり、学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところである。課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、**2022年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備をしておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくことと良い）**。さらに、LINEオープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINEオープンチャットも使用できるようにしておくことと良い（参加方法は講義内で説明する）。

【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。3限が必修科目と重なっている場合、クラス変更申請によって、4限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。
●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県公的研究機関に勤める研究者である。その実務経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。アンケートでも、「この講義を通じて私は「研究」の楽しさを学ぶことができました。（中略）自分で書籍や論文などを用いて調べていくうちに、自分の知らない理論やそのテーマに関連する研究と触れ合うことができました。そして、その調査や自分で行った実験をもとに資料を作成し友人と議論したことで自身の研究能力を上げることができました」といった声があり、実務経験が活かしていることを実感している。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、2021年11月に出演した下記YouTube番組を参照（23:30頃に登場）。

<https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM>

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn "**how chemistry influence our daily lives**" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

落合 剛

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学 (Chemistry) は、物理学、生物学などと並ぶ自然科学 (Science) の一分野である。本講義は、理工系学生として最低限必要な化学の知識や方法論をふまえ、「化学が日常生活にどう結びついているか」について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2. 論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3. 身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4. 科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

<https://youtu.be/sxiEv0UAHGI>

この youtube 動画は、2020～2021 年度のオンライン講義で使用したものである。この動画のように、簡単な化学実験、動画、powerpoint スライド、関連 web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりませ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後に、学習支援システムに動画やスライドなどをアップロードする。2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらう。提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。また、講義時間外にも、学習支援システムの授業内掲示板や、LINE オープンチャット、電子メールなどで、随時、質疑応答や議論（ときどき雑談）を展開する。春学期の授業は、原則として対面形式で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「身近な現象を、科学的な視点でとらえ、考えること」の楽しさと重要性について
2	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	分子レベルで見た日々の呼吸、そもそも分子とは？、物質量の概念と計算法
3	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	大気圏の構造、空気の組成と微量成分、空気の汚染とその原因物質
4	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	身近な空気清浄機の原理と効果について
5	テキスト第 1 章 空気：分子レベルで見た日々の呼吸	空気に関わる化学反応、汚染物質の分解方法
6	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	オゾン層の正体と存在場所、酸素／オゾンによる紫外線の遮蔽
7	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	光という波動

8	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル 1、我々はオゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界
9	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル 2、研究の意味
10	テキスト第 2 章 オゾン層の保護：地上と影響しあう上空の世界	原子の構造とそのモデル 3、オゾン層破壊問題の未来
11	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	地球温暖化とは：地球のエネルギー収支、証拠集め：時間からの証言
12	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	政治の動きと科学の対応・未来の予測 1、「地球はこれからどうなるのか？」
13	テキスト第 3 章 全地球的気候変動にかかわる化学：切り離せない化学との関わり	政治の動きと科学の対応・未来の予測 2、「不都合な真実」「戦う」環境化学者たち
14	演習問題、まとめ	具体的な問題の考え方・解き方、科学的に信頼できる情報の収集方法、研究とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

【テキスト（教科書）】

『実感する化学（上巻・地球感動編）』アメリカ化学会 著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス（2015 年発刊）、本体 3,500 円＋税

http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html

※第 1～3 章を使用。秋学期の「化学基礎Ⅱ」で、残りの第 4～6 章を使用。春秋を通じての履修をおすすめする。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや youtube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

●上記の到達目標に記載した 4 つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問題はきっかけにすぎず、それに答えたいうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。

●目標1については、講義や教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標2および3については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標4については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主な対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを發したかどうかなども評価対象とする。**配点としては、期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度である。**

【学生の意見等からの気づき】

●2020,2021年度はコロナ禍のためすべてオンライン講義となったが、実験の演示やグループディスカッションを活用し、リアルタイムかつ双方向に講義を展開した。また、入学後すぐにオンライン講義になってしまった1年生も多数受講していたので、授業支援アシスタント（当時2～4年生）に協力してもらい、講義時間の前後に雑談の時間を設定し、学生同士の交流づくりや大学生活についての相談にも対応できるよう配慮した。その結果、講義終了後のアンケートでは「**授業中の雰囲気良く、先生に質問がしやすく学習がとてもしりました**」「**グループディスカッションは、同じ授業を履修している生徒のいろいろな考えが共有できて、知識が増えるとともに、授業に飽きることなく楽しめたのでとてもよかった**」「**オンライン授業が中心で人との交流がほとんどない中、先生やTAの先輩方や履修している学生と交流できる貴重な機会になってくれたので、毎回楽しみにしていました**」といった声が多数寄せられ、手ごたえを感じた。中には「**LINEオープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるのもっと討論できるかもしれない**」「**今年度で履修を終えてしまうのが寂しい授業No.1**」「**先生の授業から離れたい**」「**“化学基礎”を失った喪失感がものすごい**」という声もあったので、さっそくLINEオープンチャットを立ち上げ、講義終了後も交流できる場として残しておくことにした。将来的に、化学基礎を受講した様々な学年の学生が、ゆるくつながって、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場になりたいと思っている。**2022年度もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。**

●「化学が苦手で機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式や量子論などなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。ときどき「**化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった**」という声もあり、学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところである。課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、**PC**等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、**2022年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoom**をはじめとした各種ツールの準備をしておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくことと良い）。さらに、**LINE**オープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、**LINE**オープンチャットも使用できるようにしておくことと良い（参加方法は講義内で説明する）。

【その他の重要事項】

●**X,Y**クラスに対し、それぞれ**3,4**限で同じ講義を行う。**4**限が必修科目と重なっている場合、クラス変更申請によって、**3**限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。
●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県公的機関に勤める研究者である。その実務経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。アンケートでも、「この講義を通じて私は「研究」の楽しさを学ぶことができました。（中略）自分で書籍や論文などを用いて調べていくうちに、自分の知らない理論やそのテーマに関連する研究と触れ合うことができました。そして、その調査や自分で行った実験をもとに資料を作成し友人と議論したことで自身の研究能力を上げることができました」といった声があり、実務経験が活かしていることを実感している。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、2021年11月に出演した下記YouTube番組を参照（23:30頃に登場）。

<https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM>

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn "**how chemistry influence our daily lives**" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

普神 敬悟

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校と大学の化学の橋渡しの役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
- (2) モルの概念を説明できる。
- (3) 化学反応の量的関係を説明できる。
- (4) 原子の構造を説明できる
- (5) 電子配置から周期律を説明できる。
- (6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
- (7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
- (8) 酸と塩基の性質を説明できる。
- (9) 酸と塩基の強さを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って講義を行う。

理解が深められるように、問題演習を適宜取り入れながら進める。課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。春学期の授業は、新型コロナウイルス感染症の状況が深刻でない限り、原則として対面授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、有効数字	授業の進め方，有効数字
2	数値の取扱いと単位	SI 単位，単位の換算
3	化学量論	原子量，モル，アボガドロ定数，化学変化の量的関係
4	原子の構造と電子配置	原子核と電子，原子軌道，電子配置，イオンとイオン結合
5	共有結合 1、オクテット則とケクレ構造	オクテット則，分子と共有結合，非共有電子対，形式電荷，ケクレ構造
6	共有結合 2、分子の形と分子間相互作用	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形、水素結合，ファンデルワールス力，分子の物理的性質を決める要素
7	共有結合の極性と化学反応の基礎	電気陰性度，極性分子，化学反応を記述するための「曲がった矢印」
8	まとめと中間テスト	前半（第7回まで）の内容についての理解度の確認
9	共鳴 1	共鳴と共鳴構造
10	共鳴 2	共鳴構造の重要度と電荷の分散
11	酸と塩基 1	酸と塩基の定義，酸性と塩基性，共役酸と共役塩基
12	酸と塩基 2	酸と塩基の強さ 1、元素の種類と酸・塩基強度との関係
13	酸と塩基 3	酸と塩基の強さ 2、共鳴による考察
14	化学反応の予測	共鳴による非共有電子対とオクテットの見極めとその応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・教科書の章末問題を解き、理解を深める。
・配布または授業支援システムにより提供する演習問題を解き、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2013 年，2700 円＋税

【参考書】

・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書
・フレンドリー物理化学，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2004 年，2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・期末試験 45 %
・中間テスト 35 %
・確認テスト 10 %
・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）10 %

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度はコロナ禍でオンライン開講となった。学習支援システムの利用上のトラブルもあり、時間通りに受講が開始できないトラブルに見舞われることもあった。今年度は大幅な改善を見込んでいる。講義内容の理解度を高めるために学習支援システム上の授業内掲示板を活用し、さらに緊密なコミュニケーションをとりながら、理解の支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を毎回持参すること。問題演習には専用のノートを用意し、活用すること。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問や要望、その他の連絡事項はすべて、学習支援システム上のお知らせ、授業内掲示板、および電子メールで随時受け付けます。

【None】

None

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to understand basic principles of chemistry.

The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.

They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

尾池 秀章

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の化学を学ぶ上で必要とする予備知識の再確認も含めて、高校と大学の化学の橋渡しの役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
- (2) 物質量の概念を説明できる。
- (3) 化学反応の量的関係を説明できる。
- (4) 原子の構造を説明できる。
- (5) 電子配置から周期律を説明できる。
- (6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
- (7) 原子軌道と結合、分子の形の関係を説明できる。
- (8) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
- (9) 物質の状態を化学的に理解し、説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

板書あるいは書込み型のスライドを用いながら講義を行う。基本的に毎回、講義内容に沿った確認テストを課し、必要に応じて次の講義中に一部解説を加えてフィードバックし、理解が深められるように進める。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 物質と化学	授業の進め方 物質、原子、元素の概要
2	化学の用語	化学式、構造式、命名法
3	測定と計算	単位、誤差、有効数字
4	化学反応と化学量論	化学変化と物理変化、化学反応式、物質量、収率
5	原子のエネルギー単位 1	光の波動性と粒子性、電子の物理的性質
6	原子のエネルギー単位 2	量子化と量子数、原子軌道の電子分布とエネルギー
7	原子のエネルギー単位 3	電子配置、原子の性質の周期性
8	化学結合と分子構造 1	共有結合とイオン結合、ルイス構造
9	化学結合と分子構造 2	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形
10	化学結合と分子構造 3	原子価結合理論、混成軌道
11	物質の状態 1	分子間力、水素結合
12	物質の状態 2	気体、液体
13	物質の状態 3	固体、相変化
14	まとめと解説 期末テスト	全体の内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。
- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・教科書の例題や練習問題を解き、理解を深める。
- ・学習支援システムなどで課された課題・確認テストに取り組む。

【テキスト（教科書）】

ブラックマン 基礎科学、小島憲道 監訳 錦織紳一・野口徹・平岡秀一 訳、東京化学同人、2800 円＋税

授業は基本的にはこの教科書の項目に沿って行うが、購入は必須ではない。

【参考書】

- ・ブラウン 一般化学Ⅰ、荻野和子 監訳 上野圭司・鶴沼英郎・鹿又宣弘 訳、丸善出版、3000 円＋税
- ・ブラディ ジェスパーセン 一般化学（上）、小島憲道 監訳 小川桂一郎・錦織紳一・村田滋 訳、東京化学同人、3200 円＋税
- など。
- その他、高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、参考書

【成績評価の方法と基準】

平常点も含め各項目で行う小テスト 60 %

定期テスト 40 %

オンライン併用などの授業形式によっては変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

スライドを見やすく工夫する。また資料や問題における記述のミスをなくす。

【学生が準備すべき機器他】

授業時における課題などでは電卓を用いても構わない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture is designed for the students who don't fully understand or have failed to learn basic chemistry. The aim of this lecture is that the students have a knowledge and understanding of basic chemistry.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) Account for numerical values and units in chemistry.
- (2) Account for basic concepts of amount of substance.
- (3) Account for basic concepts as well as carry out calculations in stoichiometry.
- (4) Account for electronic structure in atoms.
- (5) Account for the theoretical background to the periodic table.
- (6) Account for different types of chemical bonds.
- (7) Account for atomic orbitals and molecular structures.
- (8) Account for different types of intermolecular forces.
- (9) Account for states of matters.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (containing quizzes) (60%) and term-end examination (40%).

BSP100LC

化学基礎 I

加藤 尚之

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な化学的現象や専門分野での化学が理解でき、将来研究に反映できる化学的基礎知識を身につけ、化学を通して社会人として必要な教養と人としての素養を培っていくことを目的とする。

【到達目標】

原子の構造と量子数、放射性同位元素について理解できる。
電子の配置から周期律が理解でき、周期表にしたがって、原子の性質について理解できる。
濃度、溶解度、pHなどを定量的に理解できる。
化学結合および遷移元素の性質について理解できる。
熱力学、酸化還元など身近な化学反応を理解するための基礎学力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で学んだ化学の知識をより深め、大学での専門分野での化学を理解するための橋渡しとして、原子・分子の概念から無機化学・物理化学を中心に講義を行う。講義は板書が中心で行うが、必要に応じて講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題を配布し、講義時間内で時間的に余裕があれば学生に問題を解いてもらいその解説を行う。時間的に余裕がなければ講義の初めに前回の問題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要 原子と分子 同位体	・授業のガイダンス ・原子構造と化学結合、構造式 ・反応速度と半減期 ・身近な放射性元素
第 2 回	原子構造と量子数	・原子軌道と電子配置
第 3 回	周期表と元素の性質	・原子半径 ・イオン化エネルギー ・電子親和力 ・電気陰性度
第 4 回	化学結合と分子の構造	・共有結合と分子軌道 ・双極子モーメント
第 5 回	金属元素	・遷移元素の性質および応用
第 6 回	気体 (I)	・気体の性質
第 7 回	気体 (II)	・理想気体と実在気体
第 8 回	溶液 (I)	・水の性質、水素結合 ・水の状態図
第 9 回	溶液 (II)	・浸透圧
第 10 回	熱化学 (I)	・熱化学方程式 ・エンタルピー ・エントロピー
第 11 回	熱化学 (II)	・自由エネルギー ・反応の平衡定数
第 12 回	酸化還元反応	・酸化還元反応について ・電気エネルギー
第 13 回	酸と塩基	・身近な酸化還元反応 ・酸塩基の性質 ・水溶液の pH ・塩の加水分解
第 14 回	水溶液平衡	・共通イオン効果 ・緩衝作用 ・緩衝溶液の pH ・身近な緩衝溶液

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の講義内容の理解度を確保するために、講義内容に則した演習問題を配布するので必ず次回講義までに解く。また理解が不十分であったところは、復習としてノートおよび配布資料を見直し、再度演習問題を解くようにする。

【テキスト（教科書）】

講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。
毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】

- ① 東京化学同人「マクマリー 一般化学 上・下」(J. McMURRY et al. 著、荻野 博ら共訳)
- ② 丸善株式会社「生命科学のための基礎化学 無機物理化学編」(Molly M. Bloomfield 著、伊藤俊洋ら共訳)
- ③ 東京化学同人「化学」(A. Sherman et al. 著、石倉洋子ら共訳)
- ④ 東京化学同人「バーロー生命科学のための物理化学 (第 2 版)」(G. M. Barrow 著、野田春彦訳)
- ⑤ 裳華房「メディカル化学」(齋藤勝裕共著)
- ⑥ 裳華房「元素と周期律」(井口洋夫著)

【成績評価の方法と基準】

小テスト 40%

期末テスト 50%

上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解答は次回講義で配布するが、授業時間内で時間的に余裕があれば、問題の解説を行う。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to acquire basic chemical knowledge so that the students can understand familiar chemical phenomena and can reflect it in future academic research.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.To explain the atomic structure including quantum numbers and radioisotopes.
- B.To explain the periodic table and periodicities of atomic properties based on the electron configuration.
- C.To solve the calculation problems on concentrations, solubilities, and pH.
- D.To explain the chemical bonds of typical elements as well as transition elements.
- E.To explain the familiar reactions such as acid-base and redox reactions from the viewpoint of thermodynamics.

(Learning activities)

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the practice problems given in the handouts. If some problems are difficult to solve, you should review your class note and handouts so that you can get correct answers for all the problems. You are expected to spend four hours for a class.

(Grading Criteria)

Final grade will be decided based on midterm examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

普神 敬悟

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校と大学の化学の橋渡しの役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 数値の取扱いや単位について説明できる。
- (2) モルの概念を説明できる。
- (3) 化学反応の量的関係を説明できる。
- (4) 原子の構造を説明できる
- (5) 電子配置から周期律を説明できる。
- (6) 化学結合の種類を分類し、説明できる。
- (7) 分子間力の種類を分類し、説明できる。
- (8) 酸と塩基の性質を説明できる。
- (9) 酸と塩基の強さを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って講義を行う。

理解が深められるように、問題演習を適宜取り入れながら進める。課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。春学期の授業は、新型コロナウイルス感染症の状況が深刻でない限り、原則として対面授業で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、有効数字	授業の進め方，有効数字
2	数値の取扱いと単位	SI 単位，単位の換算
3	化学量論	原子量，モル，アボガドロ定数，化学変化の量的関係
4	原子の構造と電子配置	原子核と電子，原子軌道，電子配置，イオンとイオン結合
5	共有結合 1、オクテット則とケクレ構造	オクテット則，分子と共有結合，非共有電子対，形式電荷，ケクレ構造
6	共有結合 2、分子の形と分子間相互作用	原子価殻電子対反発（VSEPR）理論と分子の形，水素結合，ファンデルワールス力，分子の物理的性質を決める要素
7	共有結合の極性と化学反応の基礎	電気陰性度，極性分子，化学反応を記述するための「曲がった矢印」
8	まとめと中間テスト	前半（第7回まで）の内容についての理解度の確認
9	共鳴 1	共鳴と共鳴構造
10	共鳴 2	共鳴構造の重要度と電荷の分散
11	酸と塩基 1	酸と塩基の定義，酸性と塩基性，共役酸と共役塩基
12	酸と塩基 2	酸と塩基の強さ 1、元素の種類と酸・塩基強度との関係
13	酸と塩基 3	酸と塩基の強さ 2、共鳴による考察
14	化学反応の予測	共鳴による非共有電子対とオクテットの見極めとその応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・教科書の該当する項目を予習する。
・教科書の章末問題を解き、理解を深める。
・配布または授業支援システムにより提供する演習問題を解き、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

フレンドリー基礎物理化学演習，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2013 年，2700 円＋税

【参考書】

・高等学校「化学基礎」「化学」の教科書，参考書
・フレンドリー物理化学，田中潔・荒井貞夫，三共出版，2004 年，2800 円＋税

【成績評価の方法と基準】

・期末試験 45 %
・中間テスト 35 %
・確認テスト 10 %
・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み）10 %

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度はコロナ禍でオンライン開講となった。学習支援システムの利用上のトラブルもあり、時間通りに受講が開始できないトラブルに見舞われることもあった。今年度は大幅な改善を見込んでいる。講義内容の理解度を高めるために学習支援システム上の掲示板を活用し、さらに緊密なコミュニケーションをとりながら、理解の支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を毎回持参すること。問題演習には専用のノートを用意し、活用すること。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けませんが、質問や要望、その他の連絡事項はすべて、学習支援システム上のお知らせ、授業内掲示板、および電子メールで随時受け付けます。

【None】

None

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to understand basic principles of chemistry.

The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.

They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

島田 恵理子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「化学」を高校で十分学習してきていない学生や、基礎からやりなおしたい学生を主な対象にする。化学の基礎中の基礎を確実に自分のものにしなが、身近な物質や現象を化学的な視点で捉えられるようになることを目指す。

到達目標：

- (1) 副殻を用いて原子番号 20 番までの電子配置を表わすことができる。
- (2) 周期表で元素の化学的性質を説明できる。
- (3) 化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
- (4) モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
- (5) 基本的な pH の計算ができる。
- (6) 酸化数を計算でき、酸化還元現象を説明できる。
- (7) エンタルピーで反応熱等の計算ができる。

授業時間外の学習：

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

成績評価の方法と基準：

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

【到達目標】

- (1) 副殻を用いて原子番号 20 番までの電子配置を表わすことができる。
- (2) 周期表で元素の化学的性質を説明できる。
- (3) 化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
- (4) モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
- (5) 基本的な pH の計算ができる。
- (6) 酸化数を計算でき、酸化還元現象を説明できる。
- (7) エンタルピーで反応熱等の計算ができる。

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- (1) Describe electronic configuration of atomic number 1~20 elements with secondary shell.
- (2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
- (3) Explain properties of materials with polarities
- (4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
- (5) Calculate basic pH.
- (6) Calculate oxidation number.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回演習を行い、その点数の合計を 20 点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を 2 回行い、その点数の合計を 30 点満点とし、期末試験を 50 点満点とする。演習 20%、小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、授業の到達、評価方法、化学とは、物質の分類、単位の扱い、自己確認テスト Matter and its property, Self-confirmation test
2 回	物質、元素、原子、モル Material, Element, Atom, Mole	物質、元素、原子、モルの意味、周期表 Material, Element, Atom, Mole, Periodic table of elements
3 回	原子の構造 Atomic structure	原子核、陽子、中性子、電子、副殻、原子軌道、4 つの量子数、周期表の導入、構成の規則 Atomic nucleus, Proton, Neutron, Electron, Second shell, Atomic orbital, 4 quantum number, Introduction of the Periodic Table, Electron configuration

4 回	周期律① Periodic law ①	多電子原子の電子配置、第一イオン化エネルギー、原子半径、電子親和力 Electron configuration of multi-electron atoms, Ionization Energy, The sizes of atoms, electron affinity.
5 回	小テスト 1、周期律②、化学結合の種類、結合の極性 Quiz1、Periodic law ②, Types of chemical bonds, Bond polarity	小テスト 1、ルイスの点電子式、電気陰性度、結合の極性 Lewis dot formula, Quiz1, Electronegativity, Bond polarity
6 回	化学結合② 分子としての極性 Chemical bond ② Molecular polarity	分子の形、混成軌道入門、分子としての極性と溶解性 Shape of molecular, Introduction to Hybrid orbital, Molecular polarity and solubility
7 回	物質の三態、溶液 Three states of matter, Solution	純物質の状態図（液体・気体・固体）、溶液の性質、濃度 Phase diagram (Liquid, Gas, Solid), Concentration of solution
8 回	気体 Gas	理想気体の状態方程式、実在気体、分圧 Equation of state, Ideal gas, Real gas, Partial pressure
9 回	混合系の状態図、蒸留 Phase diagram of mixture system, Distillation	二成分混合系の状態図、蒸留、沸点と組成 Two-component phase diagram, Distillation, Boiling point, Composition
10 回	小テスト 2、東一性、化学反応① 酸と塩基 Quiz2, Colligative property, Chemical reaction ① Acids and bases	小テスト 2、東一性、酸塩基の定義と強弱、電離度、pH の基本計算 Quiz2, The Arrhenius theory, Brensted-Lowry theory, Strong/Weak acids and bases, Degree of ionization, Basic calculation of pH
11 回	化学反応② 酸と塩基の反応 Chemical reaction ② Reaction of acids and bases	中和反応、中和滴定 Neutralization reaction, Neutralization titration
12 回	化学反応③ 酸化還元反応 Chemical reaction ③ Oxidation-reduction	酸化数、半反応、酸化剤・還元剤、電池の標準起電力 Oxidation number, Half-reaction, Oxidizing and reducing agents, Battery standard electromotive force
13 回	化学変化とエネルギー Chemical change and energy	熱力学第一法則、エンタルピーを使った化学反応熱の計算 First law of thermodynamics, Enthalpies, Heat of reaction
14 回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

【参考書】

・「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【学生の意見等からの気づき】

予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。

Handouts for preparation of next class have been refined by increasing fill-in the blank questions.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するため、使用できる PC 等の環境を準備しておくこと。

It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

【その他の重要事項】

教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決のためのアプローチの仕方を紹介する。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of chemistry to students taking this course.

It is desirable to attend this class for students who have not been studied chemistry enough yet and need to understand it at university.

Goal:

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- (1) Describe electronic configuration of atomic number 1~20 elements with secondary shell.
- (2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
- (3) Explain properties of materials with polarities
- (4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
- (5) Calculate basic pH.
- (6) Calculate oxidation number.

Work to be done outside of class:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria:

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

大波 英幸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校化学の復習をするとともに、今後専門分野を学び理解し、さらには研究・応用へ発展させるための化学的基礎知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

高校で学習した化学の基礎的概念が理解できる。専門分野を理解するため理工・生命科学系学生に必要な化学的基礎知識を習得し、論理的な考え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画各項目の講義を中心に、理解を深めるため、得られた知識を活用するため適宜演習問題、小テストを行う。

高校化学の習熟度は学生により様々だと思われるため、化学が入試科目でなかった、化学を積極的に学んでこなかった学生にも理解でき興味をもてる授業を心がける。

課題等に対しては、学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。春学期の授業は、原則として対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要	・ 授業のガイダンス ・ 習熟度の確認
第 2 回	原子の構造と性質①	・ 原子の基本構造 ・ 原子と元素 ・ 原子の電子配置
第 3 回	原子の構造と性質②	・ 電子の波動性と電子軌道 ・ 電子軌道と元素の化学的性質 ・ 電子のエネルギーと原子の安定性
第 4 回	化学結合と分子の構造①	・ 共有結合 ・ 分子の構造 ・ 混成軌道と二重結合、三重結合 ・ イオン結合、金属結合、配位結合
第 5 回	化学結合と分子の構造②	・ 極性と双極子モーメント ・ 極性と電気陰性度 ・ 水素結合とファンデルワールス力
第 6 回	物質の三態	・ 化学結合と原子の大きさ ・ 物質の三態と状態変化 ・ 気液平衡と蒸気圧
第 7 回	気体の性質①	・ ボイルの法則 ・ 熱運動 ・ シャルルの法則
第 8 回	気体の性質②	・ ボイル・シャルルの法則 ・ アボガドロの法則 ・ 気体の状態方程式 ・ 混合気体 ・ 実在気体
第 9 回	溶液の性質	・ 溶解度 ・ 溶液の濃度 ・ 溶液の性質

第 10 回	気体分子の運動とエネルギーの保存	・ エネルギーと温度 ・ 気体分子の運動 ・ 化学反応と衝突 ・ 化学エネルギーと熱エネルギー
第 11 回	エントロピー	・ 自然現象の変化の方向 ・ 化学反応の変化の方向
第 12 回	反応の速さと平衡①	・ 化学反応の速さ ・ 反応速度と濃度 ・ 反応速度と活性化エネルギー ・ 化学反応と触媒
第 13 回	反応の速さと平衡②	・ 可逆反応と化学平衡 ・ 化学平衡の移動
第 14 回	まとめ	・ 春学期のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
高校化学の教科書・参考書を見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておく。

【テキスト（教科書）】

新編基礎化学第 2 版、藤野竜也ほか、実教出版、2021 年、2300 円＋税

【参考書】

- ①高校で使用していた化学の教科書
- ②【化学】Ⅰ B・Ⅱの新研究、卜部吉庸著、三省堂
- ③これだけはおさえたい化学、井口洋夫ほか、実教出版
- ④生きている温泉とは何か、大河内正一著、くまざさ出版

【成績評価の方法と基準】

通常は、
授業期間内の中間試験（又はレポート）40 %
期末試験 60 %

に授業平常点を考慮し評価するが、オンラインへの変更となる可能性があるため、具体的な方法と基準は授業内で示す。

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業の終盤に演習問題を行った。演習問題回答解説の希望があったので、解説時間をより多く確保できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

試験時に関数電卓。

【Outline (in English)】

Review the basics of chemistry learned in high school. Get chemical knowledge to develop into research and applications in specialized areas.

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

島田 恵理子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、「化学」を高校で十分学習してきていない学生や、基礎からやりなおしたい学生を主な対象にする。化学の基礎中の基礎を確実に自分のものにしなが、身近な物質や現象を化学的な視点で捉えられるようになることを目指す。

到達目標：

- (1) 副殻を用いて原子番号 20 番までの電子配置を表わすことができる。
- (2) 周期表で元素の化学的性質を説明できる。
- (3) 化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
- (4) モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
- (5) 基本的な pH の計算ができる。
- (6) 酸化数を計算でき、酸化還元現象を説明できる。
- (7) エンタルピーで反応熱等の計算ができる。

授業時間外の学習：

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

成績評価の方法と基準：

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 % として評価する。

【到達目標】

- (1) 副殻を用いて原子番号 20 番までの電子配置を表わすことができる。
- (2) 周期表で元素の化学的性質を説明できる。
- (3) 化学結合の極性を判別し物性を説明できる。
- (4) モルを使って濃度や量の化学量論的な計算ができる。
- (5) 基本的な pH の計算ができる。
- (6) 酸化数を計算でき、酸化還元現象を説明できる。
- (7) エンタルピーで反応熱等の計算ができる。

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- (1) Describe electronic configuration of atomic number 1~20 elements with secondary shell.
- (2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
- (3) Explain properties of materials with polarities
- (4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
- (5) Calculate basic pH.
- (6) Calculate oxidation number.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回演習を行い、その点数の合計を 20 点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を 2 回行い、その点数の合計を 30 点満点とし、期末試験を 50 点満点とする。演習 20%、小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 % として評価する。

演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、授業の到達、評価方法、化学とは、物質の分類、単位の扱い、自己確認テスト Matter and its property, Self-confirmation test
2 回	物質、元素、原子、モル Material, Element, Atom, Mole	物質、元素、原子、モルの意味、周期表 Material, Element, Atom, Mole, Periodic table of elements
3 回	原子の構造 Atomic structure	原子核、陽子、中性子、電子、副殻、原子軌道、4 つの量子数、周期表の導入、構成の規則 Atomic nucleus, Proton, Neutron, Electron, Second shell, Atomic orbital, 4 quantum number, Introduction of the Periodic Table, Electron configuration

4 回	周期律① Periodic law ①	多電子原子の電子配置、第一イオン化エネルギー、原子半径、電子親和力 Electron configuration of multi-electron atoms, Ionization Energy, The sizes of atoms, electron affinity.
5 回	小テスト 1、周期律②、化学結合の種類、結合の極性 Quiz1、Periodic law ②, Types of chemical bonds, Bond polarity	小テスト 1、ルイスの点電子式、電気陰性度、結合の極性 Lewis dot formula, Quiz1, Electronegativity, Bond polarity
6 回	化学結合② 分子としての極性 Chemical bond ② Molecular polarity	分子の形、混成軌道入門、分子としての極性と溶解性 Shape of molecular, Introduction to Hybrid orbital, Molecular polarity and solubility
7 回	物質の三態、溶液 Three states of matter, Solution	純物質の状態図（液体・気体・固体）、溶液の性質、濃度 Phase diagram (Liquid, Gas, Solid), Concentration of solution
8 回	気体 Gas	理想気体の状態方程式、実在気体、分圧 Equation of state, Ideal gas, Real gas, Partial pressure
9 回	混合系の状態図、蒸留 Phase diagram of mixture system, Distillation	二成分混合系の状態図、蒸留、沸点と組成 Two-component phase diagram, Distillation, Boiling point, Composition
10 回	小テスト 2、東一性、化学反応① 酸と塩基 Quiz2, Colligative property, Chemical reaction ① Acids and bases	小テスト 2、東一性、酸塩基の定義と強弱、電離度、pH の基本計算 Quiz2, The Arrhenius theory, Brensted-Lowry theory, Strong/Weak acids and bases, Degree of ionization, Basic calculation of pH
11 回	化学反応② 酸と塩基の反応 Chemical reaction ② Reaction of acids and bases	中和反応、中和滴定 Neutralization reaction, Neutralization titration
12 回	化学反応③ 酸化還元反応 Chemical reaction ③ Oxidation-reduction	酸化数、半反応、酸化剤・還元剤、電池の標準起電力 Oxidation number, Half-reaction, Oxidizing and reducing agents, Battery standard electromotive force
13 回	化学変化とエネルギー Chemical change and energy	熱力学第一法則、エンタルピーを使った化学反応熱の計算 First law of thermodynamics, Enthalpies, Heat of reaction
14 回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

【参考書】

・「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 % として評価する。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【学生の意見等からの気づき】

予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。

Handouts for preparation of next class have been refined by increasing fill-in the blank questions.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するため、使用できる PC 等の環境を準備しておくこと。

It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

【その他の重要事項】

教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決のためのアプローチの仕方を紹介する。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of chemistry to students taking this course.

It is desirable to attend this class for students who have not been studied chemistry enough yet and need to understand it at university.

Goal:

By the end of this course, students should be able to do the followings:

- (1) Describe electronic configuration of atomic number 1~20 elements with secondary shell.
- (2) Explain chemical properties of typical elements by periodic table of elements
- (3) Explain properties of materials with polarities
- (4) Calculate stoichiometric amount by using mole.
- (5) Calculate basic pH.
- (6) Calculate oxidation number.

Work to be done outside of class:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria :

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

落合 剛

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学 (Chemistry) は、物理学、生物学などと並ぶ自然科学 (Science) の一分野である。本講義は、理工系学生として最低限必要な化学の知識や方法論をふまえ、「化学が日常生活にどう結びついているか」について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2. 論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3. 身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4. 科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

<https://youtu.be/sxiEv0UAHgI>

この youtube 動画は、2020～2021 年度のオンライン講義で使用したものである。この動画のように、簡単な化学実験、動画、powerpoint スライド、関連 web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりませ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後に、学習支援システムに動画やスライドなどをアップロードする。2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらい、提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。また、講義時間外にも、学習支援システムの授業内掲示板や、LINE オープンチャット、電子メールなどで、随時、質疑応答や議論（ときどき雑談）を展開する。秋学期の授業は、原則として対面形式で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	化学基礎Ⅰの復習、化学基礎ⅠⅡの概要
2	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	エネルギーとは、エネルギーの単位、エネルギーの変換
3	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	分子レベルで見たエネルギー変化、化学反応とエネルギー収支
4	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源1
5	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源2、電池と燃料電池
6	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源3、水素エネルギー社会
7	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源4、核エネルギーの功罪

8	テキスト第5章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	飲料水が口に入るまで、飲料水需要の国際性
9	テキスト第5章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	汚染された水の分析方法、浄化方法
10	テキスト第5章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	溶媒としての水、水分子の構造と物理的性質
11	テキスト第5章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	地球の水圏における物質移動とその影響、生命と水
12	テキスト第6章 酸性雨の脅威と海水の酸性化：地球環境の防御システムとその限界	酸・塩基・pH とは何か、酸性雨とは何か
13	テキスト第6章 酸性雨の脅威と海水の酸性化：地球環境の防御システムとその限界	SO ₂ と NO _x ：排出の歴史と今後、規制の戦略、酸性雨にまつわる政治
14	演習問題、まとめ	具体的な問題の考え方・解き方、科学的に信頼できる情報の収集方法、研究とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

【テキスト（教科書）】

『実感する化学（上巻・地球感動編）』アメリカ化学会 著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス（2015 年発行）、本体 3,500 円＋税

http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html

※第4～6章を使用。春学期の「化学基礎Ⅰ」では、第1～3章を使用。春秋を通じての履修をおすすめる。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや youtube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

●上記の到達目標に記載した4つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。

●目標1については、教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標2および3については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標4については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。配点としては、**期末試験（あるいは試験相当課題）が40%、演習課題の合計が30%、その他平常点が30%程度**である。

【学生の意見等からの気づき】

●2020,2021年度はコロナ禍のためすべてオンライン講義となったが、実験の演示やグループディスカッションを活用し、リアルタイムかつ双方向に講義を展開した。また、入学後すぐにオンライン講義になってしまった1年生も多数受講していたので、授業支援アシスタント（当時2～4年生）に協力してもらい、講義時間の前後に雑談の時間を設定し、学生同士の交流づくりや大学生活についての相談にも対応できるよう配慮した。その結果、講義終了後のアンケートでは「**授業中の雰囲気**が良く、先生に質問がしやすく学習がととても捗りました」「グループディスカッションは、同じ授業を履修している生徒のいろいろな考えが共有できて、知識が増えるとともに、授業に飽きることなく楽しめたのでとてもよかった」「**オンライン授業が中心で人との交流がほとんどない中、先生やTAの先輩方や履修している学生と交流できる貴重な機会**になってくれたので、**毎回楽しみにしていました**」といった声が多数寄せられ、手ごたえを感じた。中には「**LINEオープンチャットなどの気軽に発言できるスペース**があるのもっと討論できるかもしれない」「**今年度で履修を終えてしまうのが寂しい授業No.1**」「**先生の授業から離れたい**」「**“化学基礎”を失った喪失感がものすごい**」という声もあったので、さっそくLINEオープンチャットを立ち上げ、講義終了後も交流できる場として残しておくことにした。将来的に、化学基礎を受講した様々な学年の学生が、ゆるくつながって、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場になりたいと思っている。2022年度もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「化学が苦手で機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式や量子論などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。ときどき「**化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった**」という声もあり、学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところである。課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2022年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoomをはじめとした各種ツールの準備をしておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくことと良い）。さらに、LINEオープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINEオープンチャットも使用できるようにしておくことと良い（参加方法は講義内で説明する）。

【その他の重要事項】

●X,Yクラスに対し、それぞれ3,4限で同じ講義を行う。3限が必修科目と重なっている場合、クラス変更申請によって、4限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。
●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県公的機関に勤める研究者である。その実務経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。アンケートでも、「この講義を通じて私は「研究」の楽しさを学ぶことができました。（中略）自分で書籍や論文などを用いて調べていくうちに、自分の知らない理論やそのテーマに関連する研究と触れ合うことができました。そして、その調査や自分で行った実験をもとに資料を作成し友人と議論したことで自身の研究能力を上げることができました」といった声があり、実務経験が活かしていることを実感している。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、2021年11月に出演した下記YouTube番組を参照（23:30頃に登場）。

<https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM>

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn "**how chemistry influence our daily lives**" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

落合 剛

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学 (Chemistry) は、物理学、生物学などと並ぶ自然科学 (Science) の一分野である。本講義は、理工系学生として最低限必要な化学の知識や方法論をふまえ、「化学が日常生活にどう結びついているか」について、自然科学全体を俯瞰しながら深く学ぶ。また、それを通して、科学的な視点・考え方から問題解決能力までを幅広く身に付けることを目的とする。

【到達目標】

1. 化学の基礎知識、とくに単位や物理量とそれらの扱い方・計算法
2. 論文など、科学的に信頼できる情報の見つけ方とその活用法
3. 身近な現象を科学的視点でとらえ、考え、自分の言葉で説明する能力
4. 科学や環境に関する諸問題について論理的に考察し、解決策を提案する能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

<https://youtu.be/sxiEv0UAHgI>

この youtube 動画は、2020～2021 年度のオンライン講義で使用したものである。この動画のように、簡単な化学実験、動画、powerpoint スライド、関連 web サイトの紹介など、さまざまなツールを活用して講義を進める。随時、質疑応答やグループディスカッションなどをおりませ、リアルタイム双方向の講義を展開する。毎回の講義終了後に、学習支援システムに動画やスライドなどをアップロードする。2～3回、演習課題を出題し、電子メールで答案を提出してもらい、提出された答案には、それぞれ電子メールでコメントを返信する。優秀な答案は講義内で発表してもらい、学習支援システムにもアップロードして、受講者全員で共有する。また、講義時間外にも、学習支援システムの授業内掲示板や、LINE オープンチャット、電子メールなどで、随時、質疑応答や議論（ときどき雑談）を展開する。秋学期の授業は、原則として対面形式で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	化学基礎Ⅰの復習、化学基礎ⅠⅡの概要
2	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	エネルギーとは、エネルギーの単位、エネルギーの変換
3	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	分子レベルで見たエネルギー変化、化学反応とエネルギー収支
4	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源1
5	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源2、電池と燃料電池
6	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源3、水素エネルギー社会
7	テキスト第4章 燃焼から手に入れるエネルギー：持続可能な社会への道	新しい燃料と代替エネルギー源4、核エネルギーの功罪

8	テキスト第5章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	飲料水が口に入るまで、飲料水需要の国際性
9	テキスト第5章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	汚染された水の分析方法、浄化方法
10	テキスト第5章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	溶媒としての水、水分子の構造と物理的性質
11	テキスト第5章 水の化学・水の働き：身近な水が持つ不思議	地球の水圏における物質移動とその影響、生命と水
12	テキスト第6章 酸性雨の脅威と海水の酸性化：地球環境の防御システムとその限界	酸・塩基・pH とは何か、酸性雨とは何か
13	テキスト第6章 酸性雨の脅威と海水の酸性化：地球環境の防御システムとその限界	SO ₂ と NO _x ：排出の歴史と今後、規制の戦略、酸性雨にまつわる政治
14	演習問題、まとめ	具体的な問題の考え方・解き方、科学的に信頼できる情報の収集方法、研究とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校までの授業で化学が苦手だったとしても（あるいは化学を全く履修してこなかったとしても）問題ないように内容を工夫しているので、高校までの化学をしっかり理解していなくてもよい。そのかわり、インターネットを駆使して必要な情報を集める、Powerpoint 等で答案を作成して電子メールで提出する、といった PC の基本的な使用方法に慣れておくこと。2～3回、演習課題を出題するが、いずれも、自分で考え、自分の言葉で説明しなければならない問題ばかりである。少しインターネットで調べたりする程度では不十分なので、時間をかけて情報を吟味し、論理を構築して、オリジナリティの高い答案を作成してほしい。

【テキスト（教科書）】

『実感する化学（上巻・地球感動編）』アメリカ化学会 著、廣瀬千秋訳著、エヌ・ティー・エス（2015年発行）、本体 3,500 円＋税
http://www.nts-book.co.jp/item/detail/summary/kagaku/20151201_158.html

※第4～6章を使用。春学期の「化学基礎Ⅰ」では、第1～3章を使用。春秋を通じての履修をおすすめる。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。専門書、一般書、科学論文、web ページや youtube 動画など、講義内容に関連する話題を幅広く紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】

●上記の到達目標に記載した4つの項目の習得度を、いくつかの演習課題および期末試験問題から評価する。出題するのは、いずれも、いわゆる「正解」など存在せず、少しインターネットで調べたり、「過去問」を入手したところで、簡単に高評価が得られない問題になっている。高校までの勉強は、ひとつの問題にひとつの正解があって、そのパターンを覚えてしまえば点が取れるが、大学では、与えられた問はきっかけにすぎず、それに答えたうえで、さらにどこまで自分の世界をひろげられるか、「自発的な学び」が重要になる。大学院や社会人になると、問すら与えられず、まず世の中のどこに問題があるか自分で探す。多くの環境問題がそうであるように、そんな問題にまだ「正解」などないので、より多くの人が納得できる答を、できれば複数、提案できる能力が求められる。つまり、みなさんのこれからの人生では、「覚えること」よりも「考え、説明すること」の方が圧倒的に多くなる。そういうわけでこの講義では「自分で考え、自分の言葉で説明できているか」が評価基準になる。

●目標 1 については、教科書の内容をもとに計算を中心とした問題を出題して評価する。目標 2 および 3 については、講義中に実際の科学論文などを参考資料として説明し、それをふまえた考察中心の問題を出題する。目標 4 については、科学や地球環境をめぐる時事問題に目を向け、様々な視点から新しい提案を構築する能力を問う問題を出題する。試験問題は、これらの項目すべてにわたる総合的な問題を出題する予定である。したがって、これらの演習課題や試験問題の解き方が、成績評価の主対象となる。なお、演習課題に対し優秀な答案を提出した者については、講義中に発表してもらうことがあり、その発表姿勢も評価対象となる。さらに平常点として、模範解答の発表や講義の解説に対し、秀逸な質問・コメントを発したかどうかなども評価対象とする。配点としては、**期末試験（あるいは試験相当課題）が 40%、演習課題の合計が 30%、その他平常点が 30%程度である。**

【学生の意見等からの気づき】

●2020,2021 年度はコロナ禍のためすべてオンライン講義となったが、実験の演示やグループディスカッションを活用し、リアルタイムかつ双方向に講義を展開した。また、入学後すぐにオンライン講義になってしまった 1 年生も多数受講していたので、授業支援アシスタント（当時 2～4 年生）に協力してもらい、講義時間の前後に雑談の時間を設定し、学生同士の交流づくりや大学生活についての相談にも対応できるよう配慮した。その結果、講義終了後のアンケートでは「**授業中の雰囲気がよく、先生に質問がしやすく学習がととても捗りました**」「**グループディスカッションは、同じ授業を履修している生徒のいろいろな考えが共有できて、知識が増えるとともに、授業に飽きることなく楽しめたのでとてもよかった**」「**オンライン授業が中心で人との交流がほとんどない中、先生や TA の先輩方や履修している学生と交流できる貴重な機会になってくれたので、毎回楽しみにしていました**」といった声が多数寄せられ、手ごたえを感じた。中には「**LINE オープンチャットなどの気軽に発言できるスペースがあるととてもと討論できるかもしれない**」「**今年度で履修を終えてしまうのが寂しい授業 No.1**」「**先生の授業から離れたい**」「**“化学基礎”を失った喪失感がものすごい**」という声もあったので、さっそく LINE オープンチャットを立ち上げ、講義終了後も交流できる場として残しておくことにした。将来的に、化学基礎を受講した様々な学年の学生が、ゆるくつながって、ちょっとしたことから人生相談まで、自由に交流できる場になりたいと思っている。2022 年度もコロナ禍が続くと予想されるが、学ぶべきもの、教えるべきものをしっかり持って、工夫を続けていく。

●「化学が苦手で機械工学科に入った」という学生が多いようなので、化学が苦手な学生にもイメージしやすいよう、化学式や量子論などをなるべく使わず、「化学が日常生活にどう結びついているか」を、わかりやすく伝える工夫をしている。ときどき「**化学が得意で、シュレーディンガー方程式などを詳しく学びたくてこの講義を受講したが、期待外れだった**」という声もあり、学生の求めるものに幅があるのは悩ましいところである。課題の自由度を高く設定することで、学生それぞれの興味関心を活かし、得意分野を存分に発揮できるようにして対応していく。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットを駆使して情報を集めたり、電子メールで課題の答案を提出することがあるので、PC 等を準備し、使用に慣れておくこと。とくに、学習支援システムは、講義スライドや課題の模範解答をアップロードしたり、講義に関する重要な連絡を発信したりするので、必ず登録し、使用に慣れておくこと。また、2022 年度もコロナ禍が続くと予想されるので、オンライン講義にも対応できるよう、Zoom ははじめとした各種ツールの準備をしておくこと（必要に応じて携帯電話会社のデータ通信容量の支援なども活用し、通信環境を整備しておくことと良い）。さらに、LINE オープンチャットでは、学生同士の自由な交流を主な目的として、雑談を随時展開している。参加が必須ではないが、興味があれば、LINE オープンチャットも使用できるようにしておくことと良い（参加方法は講義内で説明する）。

【その他の重要事項】

●X,Y クラスに対し、それぞれ 3,4 限で同じ講義を行う。4 限が必修科目と重なっている場合、クラス変更申請によって、3 限を履修できる。詳細は、学部ホームページの「履修関連情報」を参照。
●春学期と秋学期で教科書を半分ずつ進める。春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

●教員は、神奈川県公的機関に勤める研究者である。その実務経験をふまえ、科学の最先端で何が研究されているのか、そもそも研究とは何か、といった話も交える。いずれ取り組む卒業研究（人によっては、さらにその先の研究者人生）が充実したものになるよう、研究の楽しさや重要性を伝えていく。アンケートでも、「この講義を通じて私は「研究」の楽しさを学ぶことができました。（中略）自分で書籍や論文などを用いて調べていくうちに、自分の知らない理論やそのテーマに関連する研究と触れ合うことができました。そして、その調査や自分で行った実験をもとに資料を作成し友人と議論したことで自身の研究能力を上げることができました」といった声があり、実務経験が活かしていることを実感している。詳細な仕事の内容や研究に対する哲学については、2021 年 11 月に出演した下記 YouTube 番組を参照（23:30 頃に登場）。

<https://www.youtube.com/watch?v=U5LCwhSjFSM>

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, you will learn "**how chemistry influence our daily lives**" based on principles and methods of chemistry. You acquire the scientific thinking and problem solving skills.

【Learning Objectives】

1. Basic knowledge of chemistry, especially units and physical quantities, and how to handle and calculate them.
2. How to find and use scientifically reliable information such as papers.
3. Ability to understand familiar phenomena from a scientific perspective, think about them, and explain them in one's own words.
4. Ability to logically consider and propose solutions to various problems related to science and the environment.

【Learning activities outside of classroom】

The standard study time outside of class time for preparation and review for this class is 4 hours. The content of this class is designed so that even if you were not good at chemistry in high school (or even if you have not taken chemistry at all), you do not need to have a solid understanding of chemistry up to high school. **You will be given two or three exercises, all of which require you to think for yourself and explain in your own words.** It is not enough to do a little research on the Internet, so please take the time to examine the information, construct your logic, and prepare highly original answers.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports: 30%, in class contribution: 30%

BSP100LC

化学基礎ⅠⅠ

普神 敬悟

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 圧力の単位を説明できる。
- (2) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
- (3) 反応の進む方向を予測できる。
- (4) 溶液の性質を述べることができる。
- (5) 酸・塩基の性質を述べることができる。
- (6) 緩衝作用を説明できる。
- (7) 酸化と還元を説明できる。
- (8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って講義を行う。

適宜メモ用ノート資料を配布する。

理解が深められるように、問題演習を適宜取り入れながら進める。

課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	気体の性質	圧力、気体の法則、理想気体の状態方程式
2	エネルギー	系、熱、仕事、エネルギー
3	内部エネルギーとエンタルピー	内部エネルギー、エンタルピー
4	反応のエンタルピー	生成エンタルピー、標準反応エンタルピー
5	熱力学第2法則	自発的变化、エントロピー
6	自由エネルギー	ギブスの自由エネルギー、正味の仕事
7	溶液の性質	モル濃度、質量モル濃度、蒸気圧降下、沸点上昇、浸透圧
8	前半（第6回まで）の内容の理解度確認テスト・まとめと解説	前半（第7回まで）の内容についての理解度の確認
9	酸と塩基1	弱酸、弱塩基、pH
10	酸と塩基2	解離定数、弱酸、弱塩基水溶液のpH
11	酸と塩基3	塩の水溶液のpH、緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
12	酸化と還元1	酸化還元の定義、酸化数、酸化剤と還元剤
13	酸化と還元2	半反応、酸化還元反応式、電池
14	酸化と還元3	標準電極電位、起電力、ネルンストの式と化学平衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・宿題を解き、宿題の答えを確認する。
- ・教科書の章末問題を解き、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013年、2700円＋税

【参考書】

- ・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004年、2800円＋税
- ・物理化学要論第6版、アトキンス、東京化学同人、2016年、6372円
- ・一般化学（上・下）、ブラディー、東京化学同人、1991年、各3078円

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 45 %
- ・中間テスト 35 %
- ・確認テスト 10 %
- ・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み） 10 %

【学生の意見等からの気づき】

2021年度はコロナ禍でオンライン開講となった。学習支援システムの利用上のトラブルもあり、受講生に不便な思いをさせることがあった。今年度は大幅な改善を見込んでいる。

講義内容の理解度を高めるために学習支援システム上の掲示板を活用し、さらに緊密なコミュニケーションをとりながら、理解の支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教科書と電卓を持参すること。演習問題に取り組むための専用のノートを用意し、活用されたい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、学習支援システム上の授業内掲示板や電子メールなどを活用して、質問や要望をいつでも遠慮なく寄せて下さい。

【None】

None

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university. 【Learning Objectives】

The aim of this course is to understand basic principles of chemistry.

The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.

They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

尾池 秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の化学を学ぶ上で必要とする予備知識の再確認も含めて、高校と大学の化学の橋渡しの役割を担う科目である。大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
- (2) エンタルピーとエントロピーについて説明できる。
- (3) 物質変化の駆動力と化学平衡について説明できる。
- (4) 溶液の組成を適切に表現でき、溶液の束一性に基づく現象を説明できる。
- (5) 酸・塩基の性質を述べることができる。
- (6) 緩衝作用を説明できる。
- (7) 酸化と還元を説明できる。
- (8) 電池の起電力を説明できる。
- (9) 化学反応の速度に及ぼす因子について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

板書あるいは書込み型のスライドを用いながら講義を行う。基本的に毎回、講義内容に沿った確認テストを課し、必要に応じて次回以降の講義中に一部解説を加えてフィードバックし、理解が深められるように進める。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	化学熱力学 1	系、熱、仕事、内部エネルギー、熱力学第一法則
2	化学熱力学 2	エンタルピー、化学反応とエンタルピー変化、ヘスの法則
3	化学熱力学 3	エントロピー、ギブスエネルギーと反応の自発性
4	化学平衡 1	平衡定数と反応商
5	化学平衡 2	平衡とギブスエネルギー、変化と応答
6	溶液と溶解度 1	溶液の化学量論、混合気体、混合液体
7	溶液と溶解度 2	溶解性の定量化、溶液の束一性
8	酸と塩基 1	酸、塩基の定義、水素イオン指数、酸解離定数
9	酸と塩基 2	塩の加水分解、緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式、酸塩基滴定
10	酸化還元 1	酸化還元の定義、酸化数、酸化還元反応式、ガルバニ電池
11	酸化還元 2	電池と起電力（電池電位）、標準還元電位（標準電極電位）、電気分解
12	反応速度論 1	反応速度に及ぼす因子、反応速度式
13	反応速度論 2	活性化エネルギー、反応機構と触媒
14	まとめと解説 期末試験	全体の内容についての確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・教科書の例題や練習問題を解き、理解を深める。
- ・学習支援システムなどで課された課題・確認テストに取り組む。

【テキスト（教科書）】

ブラックマン 基礎科学、小島憲道 監訳 錦織紳一・野口徹・平岡秀一 訳、東京化学同人、2800 円＋税

授業は基本的にはこの教科書の項目に沿って行うが、購入は必須ではない。

【参考書】

・ブラウン 一般化学Ⅰ、荻野和子 監訳 上野圭司・鶴沼英郎・鹿又宣弘 訳、丸善出版、3000 円＋税

・ブラディ ジェスパーセン 一般化学（上）、小島憲道 監訳 小川桂一郎・錦織紳一・村田滋 訳、東京化学同人、3200 円＋税

など。

その他、高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、参考書

【成績評価の方法と基準】

平常点も含め各項目で行う小テスト 60 %

定期テスト 40 %

オンライン併用などの授業形式によっては変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

スライドを見やすく工夫する。また資料や問題における記述のミスをなくす。

【学生が準備すべき機器他】

授業時における課題などでは電卓を用いても構わない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture is designed for the students who don't fully understand or have failed to learn basic chemistry. The aim of this lecture is that the students have a knowledge and understanding of basic chemistry.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ Account for the meaning of commonly encountered values and concepts in reaction kinetics and carry out calculations in basic kinetics.
- ・ Account for basic concepts as well as carry out calculations in stoichiometry, equilibria and basic thermodynamics.
- ・ Account for basic concepts of acids and bases.
- ・ Account for basic concepts in electrochemistry.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (containing quizzes) (60%) and term-end examination (40%).

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

加藤 尚之

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学基礎Ⅰを十分理解した上で、有機化学の基礎、特に基本的な有機反応およびそのメカニズムについて理解することを目的とする。

【到達目標】

有機化合物の特徴・分類・構造について理解できる。
脂肪族炭化水素と脂環式炭化水素についての性質を理解できる。
炭素と水素の他に酸素を含んだ化合物について理解できる。
芳香族化合物の種類や性質について理解できる。
天然物有機化合物について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で学んだ化学の知識をより深め、大学での専門分野での化学を理解するための橋渡しとして、既に化学基礎Ⅰで学んだことを踏まえて、有機化学を中心に授業を行う。講義は板書が中心で行うが、必要に応じて講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題を配布し、講義時間内で時間的に余裕があれば学生に問題を解いてもらいその解説を行う。時間的に余裕がなければ講義の初めに前回の問題の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要 化学結合 (I)	・授業のガイダンス ・有機化学とは ・イオン結合、共有結合、配位結合
第2回	化学結合 (II)	・極性
第3回	化学結合 (III)	・形式電荷 ・共鳴構造 ・異性体
第4回	飽和炭化水素	・アルカン ・命名法 ・ハロゲン化
第5回	環状飽和炭化水素	・シクロアルカン
第6回	不飽和炭化水素	・アルケン、アルキン ・共役二重結合
第7回	芳香族炭化水素 芳香族化合物	・ベンゼン、ベンゼン環
第8回	立体化学	・鏡像異性体 ・キラル化合物 ・(R) と (S) の決定
第9回	有機化合物の性質 (I)	・アルコール、フェノール ・チオール、エーテル
第10回	有機化合物の性質 (II)	・アルデヒド、ケトン
第11回	有機化合物の性質 (III)	・カルボン酸 ・カルボン酸誘導体 ・エステル、油脂
第12回	有機化合物の性質 (IV)	・アミン、アミド
第13回	天然物有機化合物 (I)	・炭水化物 (1) 単糖類
第14回	天然物有機化合物 (II)	・炭水化物 (2) 二糖類 ・アミノ酸

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の講義内容の理解度を確認するために、講義内容に則した演習問題を配布するので必ず次回講義までに解く。また理解が不十分であったところは、復習としてノートおよび配布資料を見直し、再度演習問題を解くようにする。

【テキスト（教科書）】

講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】

- ① 培風館「ハート 基礎有機化学」(H. Hart 著、秋葉欣哉ら共訳)
- ② 東京化学同人「マクマリー 一般化学 上・下」(J. McMURRY et al. 著、荻野 博ら共訳)
- ③ 丸善株式会社「生命科学のための基礎化学 有機・生化学編」(Molly M. Bloomfield 著、伊藤俊洋ら共訳)
- ④ 東京化学同人「化学」(A. Sherman et al. 著、石倉洋子ら共訳)
- ⑤ 裳華房「メディカル化学」(齋藤勝裕共著)

⑥ 東京教学社「生活の基礎化学」(飯田 真ら共著)

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%
期末試験 50%
上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this course is to understand the fundamental organic chemistry, including organic reactions and their reaction mechanisms. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A.To explain the characteristics, classification, and structure of organic compounds.

-B.To explain the properties of aliphatic and alicyclic hydrocarbons.

-C.To explain the types and physical and chemical properties of oxygen-containing organic compounds.

-D.To explain the types and properties of aromatic compounds.

-E.To explain the naturally derived organic compounds such as carbohydrates and amino acids.

(Learning activities)

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the practice problems given in the handouts. If some problems are difficult to solve, you should review your class note and handouts so that you can get correct answers for all the problems. You are expected to spend four hours for a class. (Grading Criteria)

Final grade will be decided based on midterm examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

化学基礎ⅠⅠ

普神 敬悟

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での化学を理解することができるよう、化学の基本的考え方・理論的背景などを中心とした基礎概念を習得することを目的とする。

【到達目標】

- (1) 圧力の単位を説明できる。
- (2) 化学変化をエネルギーの観点から説明できる。
- (3) 反応の進む方向を予測できる。
- (4) 溶液の性質を述べることができる。
- (5) 酸・塩基の性質を述べることができる。
- (6) 緩衝作用を説明できる。
- (7) 酸化と還元を説明できる。
- (8) 電池の起電力を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って講義を行う。

適宜メモ用ノート資料を配布する。

理解が深められるように、問題演習を適宜取り入れながら進める。

課題等に対しては、学習支援システム上でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	気体の性質	圧力、気体の法則、理想気体の状態方程式
2	エネルギー	系、熱、仕事、エネルギー
3	内部エネルギーとエンタルピー	内部エネルギー、エンタルピー
4	反応のエンタルピー	生成エンタルピー、標準反応エンタルピー
5	熱力学第2法則	自発的变化、エントロピー
6	自由エネルギー	ギブスの自由エネルギー、正味の仕事
7	溶液の性質	モル濃度、質量モル濃度、蒸気圧降下、沸点上昇、浸透圧
8	前半（第6回まで）の内容の理解度確認テスト・まとめと解説	前半（第7回まで）の内容についての理解度の確認
9	酸と塩基1	弱酸、弱塩基、pH
10	酸と塩基2	解離定数、弱酸、弱塩基水溶液のpH
11	酸と塩基3	塩の水溶液のpH、緩衝液、ヘンダーソン・ハッセルバルヒの式
12	酸化と還元1	酸化還元反応の定義、酸化数、酸化剤と還元剤
13	酸化と還元2	半反応、酸化還元反応式、電池
14	酸化と還元3	標準電極電位、起電力、ネルンストの式と化学平衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・教科書の該当する項目を予習する。
- ・宿題を解き、宿題の答えを確認する。
- ・教科書の章末問題を解き、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

フレンドリー基礎物理化学演習、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2013年、2700円＋税

【参考書】

- ・フレンドリー物理化学、田中潔・荒井貞夫、三共出版、2004年、2800円＋税
- ・物理化学要論第6版、アトキンス、東京化学同人、2016年、6372円
- ・一般化学（上・下）、ブラディー、東京化学同人、1991年、各3078円

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 45 %
- ・中間テスト 35 %
- ・確認テスト 10%
- ・平常点（授業中の課題や宿題への取り組み） 10 %

【学生の意見等からの気づき】

2021年度はコロナ禍でオンライン開講となった。学習支援システムの利用上のトラブルもあり、受講生に不便な思いをさせることがあった。今年度は大幅な改善を見込んでいる。

講義内容の理解度を高めるために学習支援システム上の掲示板を活用し、さらに緊密なコミュニケーションをとりながら、理解の支援に努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教科書と電卓を持参すること。演習問題に取り組むための専用のノートを用意し、活用されたい。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、学習支援システム上の授業内掲示板や電子メールなどを活用して、質問や要望をいつでも遠慮なく寄せて下さい。

【None】

None

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to help students brush up chemistry they have learned in high school and understand chemistry they will study in the university. 【Learning Objectives】

The aim of this course is to understand basic principles of chemistry.

The subjects to learn in this class are composed of significant figure rules, stoichiometry, structure of atoms and molecules, basic nature of the chemical bond, intermolecular force, chemical resonance structure, and acids and bases.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to take an hour to read the corresponding pages of the textbook that will be referred to in the next lesson.

They are also expected to brush up what they learned by exercises given in the textbook and in the class.

Student are expected to spend an hour in total for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination (35%), term-end examination (45%), exercise in each class meeting (10%), and in-class contribution (10%).

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

島田 恵理子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、前期「化学基礎Ⅰ」で基礎を習得またはそれと同等レベルの学生を対象にする。前期に浅く学んだ範囲を学問的に踏み込み、その周辺も含めて大学化学の基礎理解を深める。

到達目標：

- (1) 基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
- (2) 混成軌道の仕組みを説明できる。
- (3) 発色の仕組みの概要を説明できる。
- (4) 平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
- (5) 一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

授業時間外の学習：

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

成績評価の方法と基準：

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 % として評価する。

【到達目標】

- (1) 基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
- (2) 混成軌道の仕組みを説明できる。
- (3) 発色の仕組みの概要を説明できる。
- (4) 平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
- (5) 一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.

- (2) Explain mechanism of hybrid orbital.
- (3) Outline mechanism of color development
- (4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.
- (5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

毎回演習を行い、その点数の合計を 20 点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を 2 回行い、その点数の合計を 30 点満点とし、期末試験を 50 点満点とする。演習 20%、小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 % として評価する。

演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、化学基礎Ⅰの復習、自己確認テスト Review of the previous term, Self-confirmation test
2 回	原子価結合法 Valence bond theory	原子価結合法 Valence bond theory
3 回	分子軌道法① Molecular orbital method ①	等核 2 原子分子の分子軌道、エネルギー準位図、結合性軌道、反結合性軌道、 σ 軌道、 π 軌道 Molecular orbital of homo-nuclear diatomic molecule, Energy level diagram, Bonding orbital, Anti-bonding orbital, σ orbital, π orbital
4 回	分子軌道法② Molecular orbital method ②	等核 2 原子分子および分子イオン、常磁性、反磁性、結合次数 Para-magnetism, Diamagnetism, Bond order

5 回	小テスト 1、混成軌道と金属錯体 Quiz1, Hybrid orbital and metal complex	小テスト 1、八面体金属錯体、混成軌道による錯体の電子配置の解釈 Quiz1, Octahedral metal complex, Interpretation of electronic configuration of metal complex by hybrid orbital
6 回	発色と金属錯体 Color development and metal complex	発色、結晶場理論による錯体の電子配置の解釈 Color development, Interpretation of electronic configuration of metal complex by crystalline field theory
7 回	化学平衡① Chemical equilibrium ①	化学平衡とは、平衡定数 Introduction of chemical equilibrium, Equilibrium constant
8 回	化学平衡② Chemical equilibrium ②	弱酸・弱塩基水溶液の pH、加水分解、塩水溶液の pH pH of weak acid and weak base, Hydrolysis, pH of aqueous salt solution
9 回	化学平衡③ Chemical equilibrium ③	緩衝溶液の pH、中和滴定における pH の変化 pH during neutralization titration
10 回	反応速度論① Chemical kinetics ①	反応次数、一次反応の速度解析 Order of reaction, Analysis of first-order reaction
11 回	小テスト 2、反応速度論② Quiz2, Chemical kinetics ②	小テスト 2、逐次反応、酵素反応、活性化エネルギー Quiz2, Successive reaction, Enzyme reaction, Activation energy
12 回	熱力学第二法則① Second law of thermodynamics ①	熱力学第二法則、自発性、エントロピー Second law of thermodynamics, Spontaneous change, Entropy
13 回	熱力学第二法則② Second law of thermodynamics ②	ギブズ自由エネルギーと電池、ネルンストの式、乱雑さ Gibbs free energy and battery, Nernst equation, Randomness
14 回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

【参考書】

「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 % として評価する。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【学生の意見等からの気づき】

予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。

Handouts for preparation of next class have been refined by increasing the number of fill-in the blank questions.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するため、使用できる PC 等の環境を準備しておくこと。

It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

【その他の重要事項】

教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決に役立つアプローチの方法を解説する。

【Outline (in English)】

This course teaches the foundations of chemistry and scientific way of thinking which university students should acquire

Students are recommended to attend this class who have understood so-called high school chemistry and want to study chemistry more academically.

Goal:

By the end of this course, students should be able to do the followings:

(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.

(2) Explain mechanism of hybrid orbital.

(3) Outline mechanism of color development

(4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.

(5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

Work to be done outside of class:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria:

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC

化学基礎ⅠⅡ

大波 英幸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校化学および春学期の化学基礎Ⅰの復習をするとともに、今後専門分野を学び理解し、さらには研究・応用へ発展させるための化学的基礎知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

高校で学習した化学の基礎的概念が理解できる。専門分野を理解するため理工・生命科学系学生に必要な化学的基礎知識を習得し、論理的な考え方ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業計画各項目の講義を中心に、理解を深めるため、得られた知識を活用するため適宜演習問題、小テストを行う。

高校化学の習熟度は学生により様々だと思われるため、化学が入試科目でなかった、化学を積極的に学んでこなかった学生にも理解でき興味をもてる授業を心がける。

課題等に対しては、学習支援システムまたは授業時にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要 春学期の復習	・授業のガイダンス ・春学期までの内容の復習
第2回	酸と塩基	・酸と塩基 ・アレニウスの酸塩基の定義 ・酸と塩基の強さ ・濃度と電離度
第3回	中和反応と塩	・水のイオン積と pH ・中和と塩の加水分解 ・緩衝液 ・塩の溶解平衡
第4回	酸化還元反応	・酸化・還元反応式 ・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・電池
第5回	元素の分類および典型 元素の金属①	・典型元素と遷移元素 ・金属元素と非金属元素 ・1族（アルカリ金属元素） ・2族（アルカリ土類金属元素）
第6回	元素の分類および典型 元素の金属②	・12族（亜鉛、水銀の単体とその化合物） ・13族（アルミニウムの単体とその化合物） ・14族（スズ族元素とその化合物）
第7回	遷移元素の金属	・6族（クロム族元素とその化合物） ・7族（マンガンとその化合物） ・8族（鉄とその化合物） ・9族（コバルトとその化合物） ・10族（ニッケルとその化合物） ・11族（銅族元素とその化合物）

第8回 非金属元素①

・水素とその化学的性質
・14族（炭素族元素とその化合物）
・15族（窒素族元素とその化合物）

第9回 非金属元素②

・16族（酸素族元素とその化合物）
・17族（ハロゲン元素とその化合物）
・18族（希ガス元素とその性質）

第10回 有機化合物の定義、分類、構造

・有機化合物の定義、性質
・有機化合物の分類と官能基
・有機化合物の構造式の決定

第11回 基本的な有機化合物と反応①

・アルカンとシクロアルカン
・アルケン
・アルキン

第12回 基本的な有機化合物と反応②

・芳香族炭化水素
・アルコール
・フェノール
・エーテル

第13回 基本的な有機化合物と反応③

・エーテル
・アルデヒドとケトン
・カルボン酸とエステル
・その他の有機化合物

第14回 まとめ

・秋学期のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
高校化学の教科書・参考書見直し、理解が不十分であったところを予め把握しておく。化学基礎Ⅰの内容を復習しておく。

【テキスト（教科書）】

新編基礎化学第2版、藤野竜也ほか、実教出版、2021年、2300円＋税

【参考書】

- ①高校で使用していた化学の教科書
- ②[化学]Ⅰ B・Ⅱの新研究、卜部吉庸著、三省堂
- ③これだけはおさえたい化学、井口洋夫ほか、実教出版
- ④生きている温泉とは何か、大河内正一著、くまざ出版

【成績評価の方法と基準】

通常は、
授業期間内の中間試験（又はレポート）40 %
期末試験 60 %

に授業平常点を考慮し評価するが、オンラインへの変更となる可能性があるため、具体的な方法と基準は授業内で示す。

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業の終盤に演習問題を行った。演習問題回答解説の希望があったので、解説時間をより多く確保できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

試験時に関数電卓。

【Outline (in English)】

Review the basics of chemistry learned in high school and spring semester. Get chemical knowledge to develop into research and applications in specialized areas.

BSP100LC

化学基礎Ⅰ

島田 恵理子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、前期「化学基礎Ⅰ」で基礎を習得またはそれと同等レベルの学生を対象にする。前期に浅く学んだ範囲を学問的に踏み込み、その周辺も含めて大学化学の基礎理解を深める。

到達目標：

- (1) 基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
- (2) 混成軌道の仕組みを説明できる。
- (3) 発色の仕組みの概要を説明できる。
- (4) 平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
- (5) 一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

授業時間外の学習：

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

成績評価の方法と基準：

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

【到達目標】

- (1) 基本的な等核二原子分子のエネルギー準位図を描き、その分子や分子イオンの磁性や安定を判断できる。
- (2) 混成軌道の仕組みを説明できる。
- (3) 発色の仕組みの概要を説明できる。
- (4) 平衡定数を使った物質の濃度、量の計算ができる。
- (5) 一次反応の速度解析ができる。また活性化エネルギーを求められる。

By the end of this course, students should be able to do the followings:
(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.

- (2) Explain mechanism of hybrid orbital.
- (3) Outline mechanism of color development
- (4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.
- (5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法】

毎回演習を行い、その点数の合計を 20 点満点に換算する。また、小テスト（課題形式を含む）を 2 回行い、その点数の合計を 30 点満点とし、期末試験を 50 点満点とする。演習 20%、小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

演習・小テストに対しては学習支援システムや授業時にフィードバックする。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス Introduction	授業の進め方、化学基礎Ⅰの復習、自己確認テスト Review of the previous term, Self-confirmation test
2 回	原子価結合法 Valence bond theory	原子価結合法 Valence bond theory
3 回	分子軌道法① Molecular orbital method ①	等核 2 原子分子の分子軌道、エネルギー準位図、結合性軌道、反結合性軌道、 σ 軌道、 π 軌道 Molecular orbital of homo-nuclear diatomic molecule, Energy level diagram, Bonding orbital, Anti-bonding orbital, σ orbital, π orbital
4 回	分子軌道法② Molecular orbital method ②	等核 2 原子分子および分子イオン、常磁性、反磁性、結合次数 Para-magnetism, Diamagnetism, Bond order

5 回	小テスト 1、混成軌道と金属錯体 Quiz1, Hybrid orbital and metal complex	小テスト 1、八面体金属錯体、混成軌道による錯体の電子配置の解釈 Quiz1, Octahedral metal complex, Interpretation of electronic configuration of metal complex by hybrid orbital
6 回	発色と金属錯体 Color development and metal complex	発色、結晶場理論による錯体の電子配置の解釈 Color development, Interpretation of electronic configuration of metal complex by crystalline field theory
7 回	化学平衡① Chemical equilibrium ①	化学平衡とは、平衡定数 Introduction of chemical equilibrium, Equilibrium constant
8 回	化学平衡② Chemical equilibrium ②	弱酸・弱塩基水溶液の pH、加水分解、塩水溶液の pH pH of weak acid and weak base, Hydrolysis, pH of aqueous salt solution
9 回	化学平衡③ Chemical equilibrium ③	緩衝溶液の pH、中和滴定における pH の変化 pH during neutralization titration
10 回	反応速度論① Chemical kinetics ①	反応次数、一次反応の速度解析 Order of reaction, Analysis of first-order reaction
11 回	小テスト 2、反応速度論② Quiz2, Chemical kinetics ②	小テスト 2、逐次反応、酵素反応、活性化エネルギー Quiz2, Successive reaction, Enzyme reaction, Activation energy
12 回	熱力学第二法則① Second law of thermodynamics ①	熱力学第二法則、自発性、エントロピー Second law of thermodynamics, Spontaneous change, Entropy
13 回	熱力学第二法則② Second law of thermodynamics ②	ギブズ自由エネルギーと電池、ネルンストの式、乱雑さ Gibbs free energy and battery, Nernst equation, Randomness
14 回	期末試験と解説 Final exam and explanation	期末試験と解説 Final exam and explanation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】予習には配布資料の穴埋めを活用し、復習には授業終了後に示される課題等に取り組むこと。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

・「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清著、化学同人
・配布資料（学習支援システムで授業の前の週に配信）

【参考書】

「標準 基礎化学」梅本喜三郎著、裳華房

【成績評価の方法と基準】

毎回行う演習 20%、2 回の小テスト 30 %、期末試験 50%を合わせて 100 %として評価する。

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

【学生の意見等からの気づき】

予め配布する資料に入れる穴埋め部分を増やし予習しやすくした。

Handouts for preparation of next class have been refined by increasing the number of fill-in the blank questions.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するため、使用できる PC 等の環境を準備しておくこと。

It is necessary to prepare PC for using Hoppii system.

【その他の重要事項】

教員の実務経験（企業での化学研究開発ならびに起業）を生かし、問題解決に役立つアプローチの方法を解説する。

【Outline (in English)】

This course teaches the foundations of chemistry and scientific way of thinking which university students should acquire

Students are recommended to attend this class who have understood so-called high school chemistry and want to study chemistry more academically.

Goal:

By the end of this course, students should be able to do the followings:

(1) Describe energy level diagram of molecular orbital for homo-nuclear diatomic molecule. Based on this, explain its stability and magnetic property.

(2) Explain mechanism of hybrid orbital.

(3) Outline mechanism of color development

(4) Calculate concentration and amount using equilibrium constant.

(5) Analyze first-order reaction. Calculate activation energy.

Work to be done outside of class:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria:

Total score of exercise(20 points), quiz(30 points), and final exam(50 points) should be more than 60 points out of the 100 points to pass.

BSP100LC

科学実験Ⅰ

三牧 宏彬

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を知得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を知得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここでいう科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験 1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験 2	長さと測定データのばらつき
3	基礎実験 3	誤差の性質を知る。 密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験 1	重力の加速度
5	力学実験 2	球の衝突
6	コンピュータ処理 1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験 1	電流・電圧の測定
8	電気実験 2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験 1	固体の比熱
11	熱学実験 2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理 2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲ セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験Ⅰ

小鍋 哲、西村 征也

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここでいう科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験 1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験 2	長さと測定データのばらつき
3	基礎実験 3	誤差の性質を知る。 密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験 1	重力の加速度
5	力学実験 2	球の衝突
6	コンピュータ処理 1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験 1	電流・電圧の測定
8	電気実験 2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験 1	固体の比熱
11	熱学実験 2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理 2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲ セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

The goals of this course are to understand

(1) What is the experiment.

(2) Physics theories and principles of each experimental theme.

(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.

(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.

(5) How to draw conclusions from experiment results.

(6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験Ⅰ

西村 征也、小鍋 哲

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここでいう科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験 1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験 2	長さと測定データのばらつき
3	基礎実験 3	誤差の性質を知る。 密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験 1	重力の加速度
5	力学実験 2	球の衝突
6	コンピュータ処理 1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験 1	電流・電圧の測定
8	電気実験 2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験 1	固体の比熱
11	熱学実験 2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理 2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】

科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験Ⅰ

三牧 宏彬

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を知得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を知得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここでいう科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験 1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験 2	長さと測定データのばらつき
3	基礎実験 3	誤差の性質を知る。 密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験 1	重力の加速度
5	力学実験 2	球の衝突
6	コンピュータ処理 1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験 1	電流・電圧の測定
8	電気実験 2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサージュによる周波数測定
10	熱学実験 1	固体の比熱
11	熱学実験 2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理 2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】

科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

The goals of this course are to understand

(1) What is the experiment.

(2) Physics theories and principles of each experimental theme.

(3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.

(4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.

(5) How to draw conclusions from experiment results.

(6) How to publish experiment results.

BSP100LC

物理学実験

吉野 理貴

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。

これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中でおこる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験 1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験 2	長さと測定データのばらつき誤差の性質を知る。
3	基礎実験 3	密度の測定と測定精度誤差の評価について
4	力学実験 1	重力の加速度
5	力学実験 2	球の衝突
6	コンピュータ処理 1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験 1	電流・電圧の測定
8	電気実験 2	ホイートストンブリッジによる抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサーチによる周波数測定

10	熱学実験 1	固体の比熱
11	熱学実験 2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理 2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験テーマの内容を事前に予習をすることが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にすること。

【テキスト（教科書）】

配布する。その他実験に必要なレポート用紙、グラフ用紙などは適宜配布する。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの書き方の指導に力を入れたい。またグループ（実験チーム）内でのディスカッション等をさらに充実させたい。

【履修上の注意】

第 1 回目の授業のはじめに化学実験履修者、生物学実験履修者と合同の共通ガイダンスを行う。共通ガイダンスの教室は所属学科の掲示板上に掲示する。共通ガイダンスではクラス分けを行い、このクラスにより物理実験の履修日程が決まる。実験は決定された履修日程によって実施される。したがって、共通ガイダンスは必ず出席する必要がある。

【Outline (in English)】

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験Ⅰ

吉野 理貴

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学の主な分野から電気系、力学系、熱系、光学系のテーマを実施する。

これらを通して以下のことを学ぶ。

1. 実験とは何か。
2. 個々のテーマに関連する物理学の部分の理論と原理に関すること。
3. 実験で用いる装置や測定器のしくみと取り扱いに関すること。
4. 定量的な実験におけるデータ処理の方法、グラフ作成法および結果の評価に関すること。
5. 実験で得られたデータからどのように結論が導かれるかなど、実験の方法について。
6. 実験の結果を第三者に公表する方法。

【到達目標】

1. 実験に取り組む姿勢を理解する。
2. 実施したテーマに関する原理、背景、目的を理解する。
3. 実験で用いる装置、測定器などを理解しその技術を習得する。
4. 測定値の整理（データ処理）のしかたを身に付け、表または図（グラフ）などで表現できるようにする。
5. 測定に伴う誤差の問題を理解し、自分の測定値の誤差を自分で評価できるようにする。
6. 結果を考察し、結論へと導けるようにする。
7. 第三者に公表する方法（特にレポートの作り方）を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

物理学は自然の中で起こる現象を理解し、説明しようとする学問である。理論を裏付けするために実験や観測は不可欠なものである。ここで行う科学実験は比較的容易なテーマを取り上げている。これらの実験を通して理論との結びつきについて認識を深めることを大きな目標とする。初めに、実験で用いる装置や測定器の使用法、得られたデータの処理方法を理解する。次に、得られた結果からどのように結論が導かれるのか考察し議論する。さらに、報告するためのまとめ方を学ぶ。課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび基礎実験 1	クラス分けと実験の進め方・日程、実験記録及びレポートの書き方、成績評価法などの説明の後、簡単な実験を行う。
2	基礎実験 2	長さと測定データのばらつき 誤差の性質を知る。
3	基礎実験 3	密度の測定と測定精度 誤差の評価について
4	力学実験 1	重力の加速度
5	力学実験 2	球の衝突
6	コンピュータ処理 1	データの統計処理とグラフ作成
7	電気実験 1	電流・電圧の測定
8	電気実験 2	電流計と電圧計による抵抗測定
9	オシロスコープ	信号波形の観測と測定、リサーチによる周波数測定
10	熱学実験 1	固体の比熱

11	熱学実験 2	金属の温度係数の測定
12	光学実験	レンズによる結像
13	コンピュータ処理 2	エクセルによる数値計算と物理現象のシミュレーション
14	まとめ	発表形式にまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
実験テーマの内容を事前に予習することが望ましい。そのために、配布するテキストを活用すること。
テキストの付録にも実験に関わる内容が記載されている。参考にする。

【テキスト（教科書）】

配布する。その他に実験に必要な実験ノート、作図のためのグラフ用紙、レポート作成に必要なレポート用紙などは適宜配布する。

【参考書】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

実験前後におけるグループ（実験チーム）内ディスカッションを行うことで実験テーマに対する目的意識や関心度の向上を図りたい。さらにレポート作成に力を入れた指導を計画している。

【履修上の注意】

科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

This course introduces basic physics experiments such as electric circuits, dynamics, thermal phenomenon and optics, to students taking this course.

The goals of this course are to understand

- (1) What is the experiment.
- (2) Physics theories and principles of each experimental theme.
- (3) Mechanisms of experimental and measuring equipments.
- (4) Data processing and graph creation method and evaluation of experimental results.
- (5) How to draw conclusions from experiment results.
- (6) How to publish experiment results.

BSP100LC

科学実験ⅠⅡ

尾池 秀章

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	pHの世界 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	pHの世界 (2)	身のまわりの水溶液のpHをpHメータを用いて測定する。
第8回	pHの世界 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。また、中和滴定により、水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第9回	pHの世界 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、レポート点など 50% で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通キャリアと各実験の個別キャリアがあるため、必ず出席すること。キャリアの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通キャリアでは実験の実施方法・成績評価基準などで履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

科学実験ⅠⅡ

大波 英幸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を作製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	pHの世界 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	pHの世界 (2)	身のまわりの水溶液のpHをpHメータを用いて測定する。
第8回	pHの世界 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。また、中和滴定により、水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第9回	pHの世界 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い、目的物の分離を行う。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはしめには、共通キャリアンスと各実験の個別キャリアンスがあるもので、必ず出席すること。キャリアンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通キャリアンスでは実験の実施方法・成績評価基準などで履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

科学実験ⅠⅡ

尾池 秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	酸・塩基と緩衝作用 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用 (2)	中和滴定により、水酸化ナトリウム標準液を標定し、これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第8回	酸・塩基と緩衝作用 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第9回	酸・塩基と緩衝作用 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート点など 50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通キャリアと各実験の個別キャリアがあるため、必ず出席すること。キャリアの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通キャリアでは実験の実施方法・成績評価基準などで履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

科学実験ⅠⅡ

尾池 秀章

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	pHの世界 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	pHの世界 (2)	身のまわりの水溶液のpHをpHメータを用いて測定する。
第8回	pHの世界 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。また、中和滴定により、水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第9回	pHの世界 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸やその誘導体の物理的・化学的性質を調べる。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、官能基の性質を利用して目的物の分離と確認を行う。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通キャリアンスと各実験の個別キャリアンスがあるもので、必ず出席すること。キャリアンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通キャリアンスでは実験の実施方法・成績評価基準などで履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

化学実験

大波 英幸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	金属の酸化還元及び電池の仕組みに関する化学的知識を整理し、電極電位を測定する実験方法について理解する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第5回	金属の電極電位測定 (4)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第6回	pHの世界 (1)	酸と塩基に関する基本的知識を整理し、中和滴定の実験操作について理解する。
第7回	pHの世界 (2)	身のまわりの水溶液のpHをpHメータを用いて測定する。
第8回	pHの世界 (3)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。また、中和滴定により、水溶液中の炭酸ナトリウムを定量する。
第9回	pHの世界 (4)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸を題材に、有機化合物の性質や反応性を整理し、合成・精製に関する実験操作について理解する。
第11回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第12回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い、目的物を単離する。
第13回	サリチル酸誘導体の合成 (4)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、レポート点など50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】

第1回目の授業のはじめに物理学実験履修者、生物学実験履修者と合同の共通ガイダンスおよび化学実験の個別ガイダンスがあるため、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

科学実験ⅠⅡ

尾池 秀章

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実験を安全に行うための注意事項を学んだ後、身の回りの化学物質を素材とした4つの異なるテーマに関する実験を行う。実験では、化学現象を観察し、得られたデータを講義等で習得した知識を活用して論理的に考え、レポートにまとめる。また、実験器具や薬品の取扱い方法、実験ノートや実験レポートの書き方などについても学ぶ。

【到達目標】

- 1) 化学実験を安全に行うことができる。
- 2) 基本的な実験操作を行うことができる。
- 3) 化学現象を注意深く観察し、実験ノートに正確に記述することができる。
- 4) 測定機器の取扱いを理解し、定量的なデータを得ることができる。
- 5) 得られた実験結果を論理的に考察し、レポートにまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指導者の助言のもと、一人で考えながら、あるいは複数で討論しながら化学実験を進め、高校までの受動的な学習方法から能動的で自発的な学習方法へと転換する。また必要に応じて提出されたレポートについて添削を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育	予習の方法、実験の進め方、実験器具や薬品の取扱い、実験ノートの書き方、報告書作成方法を学ぶ。また、実験を安全に行うために注意すべき事項を学ぶ。
第2回	金属の電極電位測定 (1)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液を調製する。
第3回	金属の電極電位測定 (2)	硫酸銅水溶液、硫酸亜鉛水溶液、硫酸銅-硫酸亜鉛水溶液中における銅および亜鉛の電極電位を測定する。
第4回	金属の電極電位測定 (3)	実験データの解析と理論的考察を行う。
第5回	酸・塩基と緩衝作用 (1)	中和滴定により、水酸化ナトリウム標準液を標定し、これを用いて酢酸水溶液の中和滴定曲線を求める。
第6回	酸・塩基と緩衝作用 (2)	緩衝溶液に酸や塩基を添加した際のpHの変化を測定する。
第7回	酸・塩基と緩衝作用 (3)	実験データの解析、理論的考察を行う。
第8回	サリチル酸誘導体の合成 (1)	サリチル酸、安息香酸、フェノール等の物理的・化学的性質を調べ、官能基との関係を考察する。
第9回	サリチル酸誘導体の合成 (2)	サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸を合成し、ろ過・抽出・蒸留などの操作を行い目的物を単離する。
第10回	サリチル酸誘導体の合成 (3)	官能基の性質を利用して、サリチル酸メチルとアセチルサリチル酸の確認を行う。また、実験結果に対する理論的考察を行う。
第11回	糖類の構造と性質 (1)	単糖、二糖類の糖溶液の調製とフェーリング反応を行う。
第12回	糖類の構造と性質 (2)	ジャガイモからコロイド状デンプン溶液を調製し、ヨウ素・デンプン反応、加水分解、フェーリング反応を行う。
第13回	糖類の構造と性質 (3)	糖の三次元構造を分子模型で確認し、実験データの理論的考察を行う。
第14回	まとめ	各実験で学んだ理論、分析原理、化学反応などに関するまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実験テキストの指示にしたがって予習を行う。また授業後には、実験テキストを参考にレポート作成を行う。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業時またはオンライン（学習支援システム）にて配布する。

【参考書】

高等学校「化学基礎」「化学」の教科書、図説化学など。その他は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート点など 50 %で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

きめ細かなレポート指導を行う。

【その他の重要事項】

科学実験は I、II、III セットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通キャリア・インターンと各実験の個別キャリア・インターンがあるため、必ず出席すること。キャリア・インターンの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通キャリア・インターンでは実験の実施方法・成績評価基準などで履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will learn the fundamental principles of chemistry which characterized the properties of matter, and the experimental techniques necessary for further work in science. This course covers the following topics: Measurement of standard electrode potentials; Synthesis of salicylic acid derivatives; Acids, bases and buffer solutions. Students will also learn to take experimental notes and collect data, and to write accurate laboratory reports of all experiments.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Carry out chemical experiments safely.
- Develop skills in collecting and managing data in order to express their results in a precise and reliable quantitative or qualitative form on lab reports.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%).

BSP100LC

科学実験ⅠⅠⅠ

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の分離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験 1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験 2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験 3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験 4	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験 5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験 1	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験 2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験 3	DNA の分離・精製
第 9 回	遺伝子実験 4	DNA の制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験 5	大腸菌プラスミドの DNA 鑑定
第 11 回	遺伝子実験 6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第 12 回	酵素実験 1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験 2	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験 3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】

担当教員が編集した実習テキストを第 1 回授業時に配布する。

【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

高校で生物を履修していない学生も多いので、わかりやすい授業を心がける。

【履修上の注意】

科学実験は I、II、III セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

【Learning Objectives】 You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.

【Learning activities outside of classroom】 Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

科学実験ⅠⅡⅢ

細谷 茂生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNAの単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

課題に対するフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第1回授業時に配布する。

【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

よりきめ細かなレポート指導を行う。

【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは、実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports. Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp the image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

科学実験ⅠⅠⅠ

細谷 茂生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の分離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

課題に対するフィードバックは授業内及び学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験 1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験 2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験 3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験 4	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験 5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験 1	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験 2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験 3	DNA の分離・精製
第 9 回	遺伝子実験 4	DNA の制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験 5	大腸菌プラスミドの DNA 鑑定
第 11 回	遺伝子実験 6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）
第 12 回	酵素実験 1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験 2	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験 3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第 1 回授業時に配布する。

【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

よりきめ細かなレポート指導を行う。

【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲ セットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは、実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports. Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp the image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

生物学実験

田島 寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】

生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。具体的には、光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNAの単離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

課題に対するフィードバックは、オンライン授業の場合「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・安全教育・基礎実験1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第2回	基礎実験2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第3回	基礎実験3	顕微鏡の使い方（含マイクロクロメーターの使用法）
第4回	基礎実験4	顕微鏡による生物試料の観察
第5回	基礎実験5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第6回	遺伝子実験1	無菌操作の習得
第7回	遺伝子実験2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第8回	遺伝子実験3	DNAの分離・精製
第9回	遺伝子実験4	DNAの制限酵素による切断と電気泳動
第10回	遺伝子実験5	大腸菌プラスミドのDNA鑑定
第11回	遺伝子実験6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第12回	酵素実験1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第13回	酵素実験2	酵素活性測定
第14回	酵素実験3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】ガイダンスで配布する「実習書」を事前に読み、実習の流れ、必要な実験操作、予想される結果などについてイメージを掴んでおく。

【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第1回授業時に配布する。

【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

高校で生物を履修していない学生が多いので、わかりやすい解説を心がける。

【履修上の注意】

科学実験はI、II、IIIセットで履修する。第1回目の授業のはじめには、共通カテゴリーと各実験の個別カテゴリーがあるため、必ず出席すること。カテゴリーの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通カテゴリーで実施は実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

【Learning Objectives】You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.

【Learning activities outside of classroom】Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

科学実験ⅠⅠⅠ

水澤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の分離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験 1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験 2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験 3	顕微鏡の使い方（含マイクロミクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験 4	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験 5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験 1	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験 2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験 3	DNA の分離・精製
第 9 回	遺伝子実験 4	DNA の制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験 5	大腸菌プラスミドの DNA 鑑定
第 11 回	遺伝子実験 6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第 12 回	酵素実験 1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験 2	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験 3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験内容を予習する。

【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第 1 回授業時に配布する。

【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの作成指導に力を入れてほしいとの要望があったため、よりきめ細かなレポート指導を計画している。

【学生が準備すべき機器他】

「お知らせ」などで学習支援システムを使用します。

【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

(Learning Objectives)

You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

科学実験ⅠⅠⅠ

水澤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の基本単位である細胞や生体を構成する分子の構造や機能についての理解を深め、そうした概念が得られる科学的アプローチの方法を、実験を通して体系的に学ぶ。受講学生は生命現象を細胞および分子レベルで理解するための基本的な実験手法を習得する。

【到達目標】

受講学生は光学顕微鏡、マイクロピペット、遠心分離機、電気泳動槽、分光光度計などの使用方法、細胞の観察、タンパク質の定量と機能解析、DNA の分離と解析、細菌の培養と無菌操作などの実験手法、およびデータ処理の方法を習得する。レポート作成を通じて、実習内容の理解を深めると同時に論理的な文章を書く技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は大きく「基礎実験（実験機器・器具の取り扱い、顕微鏡による細胞観察、タンパク質濃度測定）」、「遺伝子実験（大腸菌を用いた分子生物学的な解析）」、「酵素実験（酵素特性の解析）」から構成される。各回の授業開始時に実験の目的・背景・方法について解説して実験の内容理解を深めたのちに、ティーチングアシスタントの補助のもとで実験を行う。論理的な文章を書くためのレポート指導を行う。グループディスカッションを通じて、実験結果の考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・安全教育・基礎実験 1	実験の進め方・実験器具の取扱い・記録と報告書作成方法・微量定量ピペットの使い方
第 2 回	基礎実験 2	試薬調製（生物実験使用試薬組成・調製）
第 3 回	基礎実験 3	顕微鏡の使い方（含マイクロクロメーターの使用法）
第 4 回	基礎実験 4	顕微鏡による生物試料の観察
第 5 回	基礎実験 5	タンパク質水溶液の濃度調製と未知検体濃度測定
第 6 回	遺伝子実験 1	無菌操作の習得
第 7 回	遺伝子実験 2	細菌培養（大腸菌培養・増殖測定）
第 8 回	遺伝子実験 3	DNA の分離・精製
第 9 回	遺伝子実験 4	DNA の制限酵素による切断と電気泳動
第 10 回	遺伝子実験 5	大腸菌プラスミドの DNA 鑑定
第 11 回	遺伝子実験 6	遺伝子発現（ラクトースオペロン発現制御の観察）、グループディスカッション
第 12 回	酵素実験 1	酵素活性測定実験の計画、反応液調製
第 13 回	酵素実験 2	酵素活性測定
第 14 回	酵素実験 3	酵素反応速度の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実験内容を予習する。

【テキスト（教科書）】

担当教員が編集したテキストを第 1 回授業時に配布する。

【参考書】

高等学校「生物基礎」「生物」の教科書、高等学校の生物図録など資料集
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】

実験への積極的な貢献度を含む平常点 50%、レポート点など 50%で評価する（詳細は初回ガイダンスで説明する）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの作成指導に力を入れてほしいとの要望があったため、よりきめ細かなレポート指導を計画している。

【学生が準備すべき機器他】

「お知らせ」などで学習支援システムを使用します。

【履修上の注意】

科学実験はⅠ、Ⅱ、Ⅲセットで履修する。第 1 回目の授業のはじめには、共通ガイダンスと各実験の個別ガイダンスがあるので、必ず出席すること。ガイダンスの実施方法は学習支援システムで連絡する。共通ガイダンスでは実験の実施方法・成績評価基準など履修する上で重要な説明がある。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, and biological molecules composing a cell, through basic biological experiments.

(Learning Objectives)

You can learn skills to use experimental devices and experimental methods and data processing methods. In addition, this course helps you to acquire a skill to write logical sentences through writing reports.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, you refer the textbook to be distributed in guidance and grasp and image of experiment. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on reports (50%) and in-class active contribution (50%). We will give you the details in guidance.

BSP100LC

生物学基礎Ⅰ

石黒 亮

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球生物は、地球に存在する元素を選択的に利用して形成された生体高分子とその集合体で形成され、特異な生命機能を発揮している。この授業では生命を構成・維持する分子やシステムについて理解を深め、その上で多様な生命現象が発現する仕組みについて学ぶ。生命に対する科学的な理解を深めるとともに、専門分野で今後活躍する上で必要不可欠な生物学の基本的な知識を身につける。

【到達目標】

生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できる。生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的事項に最近発展した内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深める。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命とは何か	生物と無生物の違い。
2	細胞：生物の基本単位	細胞の構造と機能。
3	オルガネラ	オルガネラの構造とその働き。
4	個体の統合	多細胞生物と細胞分化。
5	生体を構成する分子 1	核酸とタンパク質の構造と機能。
6	生体を構成する分子 2	炭水化物、脂質の構造と機能。
7	中間テスト・解説	6 回目までのテスト・まとめと解説
8	遺伝子発現	セントラルドグマと生体システム。
9	物質代謝とエネルギー代謝	合成と分解、呼吸、光合成
10	恒常性の維持	生体の内部環境を安定に保つしくみ。
11	生命システムの破綻	遺伝子発現、代謝、恒常性の破綻と疾患。
12	病原体と生体防御	ウイルス、微生物と生体防御システム。
13	現在そしてこれからの生命科学	遺伝子治療、ゲノム編集、再生医療など、最新の生命工学と今後の展望。
14	生物の多様性・生命科学と倫理	生命の誕生と進化、分類。生命科学で守るべきこと。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 ノートを読み直し、復習する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末の2回実施するテスト、及び平常点にて評価する。テストがオンラインでの実施となった場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、講義の中で提示する。

成績評価要素：平常点（25%）、中間テスト（25%）、期末テスト（50%）

【学生の意見等からの気づき】

高校で生物を選択していなかった受講者へも解り易い講義を心がける。

【その他の重要事項】

近年話題となった生物学上の発見や様々な問題点などを紹介、議論する。

【Outline (in English)】

Living organisms are formed of aggregates of biopolymers formed by selectively using Earth's elements. In this lecture, we will deepen our understanding of molecules and systems that constitute and maintain life and learn about its mechanism.

The goal is for students to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in their own words. It is also important to be interested in and scientifically consider social and technical issues related to biology.

Grades will be evaluated based on two tests, one at the middle and the end of the term, and normal points. If the test is conducted online, the method and criteria for grade evaluation will also be changed. Specific methods and criteria will be presented in the lecture.

Grade evaluation factors: Normal score (25%), mid-term test (25%), final test (50%)

BSP100LC

生物学基礎 I

水澤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上の生命体は、地球に存在する元素を選択的に利用して形成された生体高分子とその集合体で形成され、特有な生命機能を発揮している。本授業では、受講学生は生命の基本単位である細胞とそれを構成する分子について理解を深め、多様な生命現象が発現する仕組みについて学ぶ。これらの学びを通じて、受講学生は生物に対する科学的な理解を深めるとともに、専門分野で今後活躍する上で必要不可欠な生物学の基本的な知識を身につける。

【到達目標】

生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できるようになり、生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易で簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。「生命とは何か」「細胞とは何か」など生命の基本的な概念を解説した上で、オルガネラ（細胞小器官）、細胞を構成する分子（タンパク質、核酸、脂質、糖）など各論に入る。その後、さらに、DNA の遺伝情報をもとにしたタンパク質の合成、代謝（呼吸、光合成）などの生命現象のしくみについて説明する。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生命とは何か	生物の進化、生物と無生物の違い
第 2 回	細胞：生物の基本単位	細胞の構造と機能
第 3 回	オルガネラ	オルガネラ（細胞小器官）の構造とその働き
第 4 回	恒常性	生体の内部環境を安定に保つしくみ
第 5 回	生体を構成する分子 1	タンパク質
第 6 回	生体を構成する分子 2	核酸： DNA と RNA
第 7 回	生体を構成する分子 3	糖
第 8 回	生体を構成する分子 4	脂質
第 9 回	遺伝 1	DNA、ゲノム、遺伝子
第 10 回	遺伝 2	DNA の複製、修復
第 11 回	遺伝 3	遺伝情報の転写と翻訳
第 12 回	代謝 1	酵素の特性と機能
第 13 回	代謝 2	嫌気呼吸、発酵、酸素呼吸
第 14 回	代謝 3	光合成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題のレポートを作成して提出する。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（15%）、中間テスト（25%）、課題レポート（25%）、期末試験（35%）で総合的に評価する。基本的な生命科学の用語の定着、理解、生命現象のメカニズムの理解、現代社会における生命科学の重要性の理解などが試験、レポート課題の中心となる。

【学生の意見等からの気づき】

板書の読みやすさを心がける。

【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、資料配付に学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the structure and function of a cell, the basic unit of life, biological molecules composing a cell, and the mechanisms of various biological phenomena inside the cell that occur using these molecules.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to be able to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in your own words, to be interested in social and technical issues related to biology, and to be able to discuss scientifically about them.

(Learning activities outside of classroom)

After each class, you will be expected to reread and review the teaching material slides. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report. (Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process; Mid-term examination (25%), term-end examination (35%), reports (25%) and in-class contribution (15%).

BSP100LC

生物学基礎 I

細谷 茂生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遺伝子工学分野をはじめとする生命科学の近年における急進な発展は、基礎生物学のみならず、医療や農業に技術革新をもたらし、社会全体にも大きな影響を及ぼすようになってきた。本講義は、受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、細胞学や分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。

【到達目標】

受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。

小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。

本授業は Zoom と学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	生物と無生物、授業の概要	生物の定義と分類、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	細胞生物学の基礎	原核細胞と真核細胞の構造とその違い、細胞小器官の構造とはたらき
第 3 回	生体膜	生体膜の種類、細胞膜とその構造、細胞膜の様々な役割
第 4 回	タンパク質	タンパク質の種類・構造、酵素を中心としたタンパク質の機能とはたらき
第 5 回	呼吸（解糖系、クエン酸回路）	生物の代謝と炭素循環、呼吸等で重要な物質、解糖系とクエン酸回路の分子のメカニズム
第 6 回	呼吸（電子伝達系、発酵）	電子伝達系の概要、分子のメカニズム、嫌気呼吸と発酵
第 7 回	光合成（明反応）	植物の構造と光合成、光合成の概要、電子伝達系の分子のメカニズム
第 8 回	光合成（暗反応）、その他の代謝系	カルビン回路と糖の生成の分子のメカニズム、光呼吸、C4 植物と CAM 植物の特徴、窒素同化
第 9 回	細胞分裂と染色体	細胞分裂と細胞周期、細胞周期の制御機構、染色体の構造、体細胞分裂と減数分裂のメカニズム
第 10 回	メンデル遺伝学	メンデルの遺伝の法則、様々な遺伝形式、ヒトの遺伝形質
第 11 回	遺伝子の本体と DNA	DNA 発見の歴史、DNA の構造と性質
第 12 回	DNA の複製	細胞分裂における DNA の複製、複製メカニズム発見の歴史、複製のメカニズム
第 13 回	まとめと解説 1、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験
第 14 回	まとめと解説 2	期末試験の結果に基づく学期のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：学習支援システムにアップロードする資料を読み、復習すると共に、毎回の小テストに回答する。

予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。

予習・復習時間：各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】

BLUE BACKS アメリカ版 大学生物学の教科書第 1、2 巻 D・サダヴァ他編（講談社）視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

【成績評価の方法と基準】

小テスト成績（60%）、期末試験成績（30%）及び平常点（10%）により判断する。

変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】

秋学期開講の生物学基礎 II と合わせて受講するのが望ましい。

【Outline (in English)】

The rapid development of life sciences in recent years, including the field of genetic engineering, has brought about technological innovation not only in basic biology but also in medicine and agriculture, and has come to have a great impact on society as a whole. This course outlines the basics of modern biology, focusing on cytology and molecular biology, so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science.

The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences. Before class, you will be expected to read reference books to prepare for what will be covered in class, if possible. After each class, you will be expected to read the handout and answer quizzes uploaded to learning management system. Your study time will be two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Quizzes after each class: 60%, term-end examination: 30% and in-class contribution: 10%. If the criteria and policy are changed, it will be presented to learning management system.

BSP100LC

生物学基礎 I

細谷 茂生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遺伝子工学分野をはじめとする生命科学の近年における急進な発展は、基礎生物学のみならず、医療や農業に技術革新をもたらし、社会全体にも大きな影響を及ぼすようになってきた。本講義は、受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、細胞学や分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。

【到達目標】

受講生が生物学の基本的概念を理解し、生命科学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。

小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。

本授業は Zoom と学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	生物と無生物、授業の概要	生物の定義と分類、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	細胞生物学の基礎	原核細胞と真核細胞の構造とその違い、細胞小器官の構造とはたらき
第 3 回	生体膜	生体膜の種類、細胞膜とその構造、細胞膜の様々な役割
第 4 回	タンパク質	タンパク質の種類・構造、酵素を中心としたタンパク質の機能とはたらき
第 5 回	呼吸（解糖系、クエン酸回路）	生物の代謝と炭素循環、呼吸等で重要な物質、解糖系とクエン酸回路の分子のメカニズム
第 6 回	呼吸（電子伝達系、発酵）	電子伝達系の概要、分子のメカニズム、嫌気呼吸と発酵
第 7 回	光合成（明反応）	植物の構造と光合成、光合成の概要、電子伝達系の分子のメカニズム
第 8 回	光合成（暗反応）、その他の代謝系	カルビン回路と糖の生成の分子のメカニズム、光呼吸、C4 植物と CAM 植物の特徴、窒素同化
第 9 回	細胞分裂と染色体	細胞分裂と細胞周期、細胞周期の制御機構、染色体の構造、体細胞分裂と減数分裂のメカニズム
第 10 回	メンデル遺伝学	メンデルの遺伝の法則、様々な遺伝形式、ヒトの遺伝形質
第 11 回	遺伝子の本体と DNA	DNA 発見の歴史、DNA の構造と性質
第 12 回	DNA の複製	細胞分裂における DNA の複製、複製メカニズム発見の歴史、複製のメカニズム
第 13 回	まとめと解説 1、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験
第 14 回	まとめと解説 2	期末試験の結果に基づく学期のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：学習支援システムにアップロードする資料を読み、復習すると共に、毎回の小テストに回答する。

予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。

予習・復習時間：各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】

BLUE BACKS アメリカ版 大学生物学の教科書第 1、2 巻 D・サダヴァ他編（講談社）視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

【成績評価の方法と基準】

小テスト成績（60%）、期末試験成績（30%）及び平常点（10%）により判断する。

変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】

秋学期開講の生物学基礎 II と合わせて受講するのが望ましい。

【Outline (in English)】

The rapid development of life sciences in recent years, including the field of genetic engineering, has brought about technological innovation not only in basic biology but also in medicine and agriculture, and has come to have a great impact on society as a whole. This course outlines the basics of modern biology, focusing on cytology and molecular biology, so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science.

The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences. Before class, you will be expected to read reference books to prepare for what will be covered in class, if possible. After each class, you will be expected to read the handout and answer quizzes uploaded to learning management system. Your study time will be two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Quizzes after each class: 60%, term-end examination: 30% and in-class contribution: 10%. If the criteria and policy are changed, it will be presented to learning management system.

BSP100LC

生物学基礎ⅠⅡ

田島 寛隆

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の遺伝・生殖・発生・老化・免疫などの様々な生命現象を生物学・分子生物学の視点から解説する。

【到達目標】

講義で紹介する生命現象について、それらが起こる仕組みを科学的に説明できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

下記授業テーマで挙げた生命現象を基礎レベルから学習する。高校で生物を選択しなかった学生にも分かりやすいように平易・簡潔な講義を行う。またトピックスに関連した回覧資料・視覚教材を適宜提供する。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	遺伝子 1	遺伝子の発見、形質・表現型と遺伝子
第 2 回	遺伝子 2	遺伝の基本法則
第 3 回	遺伝子 3	様々な遺伝
第 4 回	生殖 1	無性生殖と有性生殖のメリットとデメリット
第 5 回	生殖 2	生殖細胞と減数分裂
第 6 回	生殖 3	受精と多精拒否機構
第 7 回	中間試験・まとめと解説	第 1 回～第 6 回までの内容を出題範囲とした試験
第 8 回	発生	卵割、胞胚、原腸胚への変化
第 9 回	分化 1	胚葉の分化
第 10 回	分化 2	誘導の概念とオーガナイザーの働き
第 11 回	分化 3	ホメオティック遺伝子
第 12 回	老化と寿命	細胞の老化と不死化のメカニズム
第 13 回	免疫 1	自然免疫と獲得免疫
第 14 回	免疫 2	抗体の働き、免疫関連細胞の機能

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2-3 時間を標準とする。配付資料と授業ノートを良く読み返し、内容を十分に理解すること。授業内容に関連する参考書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。適宜資料を配布する。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に学期末に行う試験で評価する。授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

板書が読みにくい旨の意見が多いため、改善する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望は随時受け付ける。

【Outline (in English)】

【Outline】

Explains various biological phenomena, such as heredity, reproduction, development, senescence, and immunity, from the perspective of biology and molecular biology.

【Objectives】

The object of this course is to enable students to scientifically explain the mechanisms of the life phenomena introduced in the lectures.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BSP100LC

生物学基礎 I

水澤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を構築する全ての遺伝情報は、遺伝子の集合体であるゲノムに含まれている。ゲノムに含まれる遺伝情報の発現機構、ゲノムの細胞から細胞、親から子への伝達機構、共通の祖先から由来したゲノムの多種多様な生物への分化と進化について、物質的基盤での理解を深める。

【到達目標】

受講学生は生物学の基本的な概念と用語を理解し自分の言葉で説明できるようになり、生物学が関係する社会的、技術的問題について興味を持ち、科学的に考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で生物を選択しなかった学生も考慮して、平易簡潔な講義を行う。生命科学に関する基礎的事項に加え、近年発展した学問内容を加えながら、生命現象に対する興味と理解を深めていく。生物学基礎 I で学んだ内容の復習で知識を整理したのちに、遺伝情報の発現の仕組みについて、原核生物と真核生物を比較しながら講義する。つぎに、生殖、発生について、動物と植物を比較しながら講義する。さらに、再生医療、遺伝子操作技術など基礎生命科学を基礎に発展した応用的な分野についても解説する。

課題等に対しては、学習支援システムを用いてフィードバックする、または

授業時にフィードバックする。授業方法は大学の行動指針に基づき変更する

可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	生物学基礎 I で学習した内容の復習・まとめ
第 2 回	細胞	原核生物と真核生物
第 3 回	遺伝子 1	遺伝の法則、遺伝子の発見、形質と遺伝子
第 4 回	遺伝子 2	遺伝子の構造、複製、PCR 法
第 5 回	遺伝子 3	原核生物における遺伝情報の発現制御：ラクトースオペロン
第 6 回	遺伝子 4	真核生物における遺伝情報の発現制御：クロマチン構造、エピジェネティクス
第 7 回	細胞分裂	体細胞分裂と減数分裂
第 8 回	生殖 1	動物と植物における生殖細胞の形成
第 9 回	生殖 2	動物と植物における受精のしくみ
第 10 回	発生 1	卵割、胞胚、原腸胚への変化
第 11 回	発生 2	オーガナイザーと胚葉分化、形態形成
第 12 回	発生 3	植物の発生、植物ホルモン
第 13 回	進化	生命の誕生と生物の系統進化
第 14 回	遺伝子工学・細胞工学	遺伝子組換え技術、再生医療

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まとめのプリントとノートを読み直し、復習する。課題のレポートを作成して提出する。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布する。

【参考書】

東京大学生命科学教科書編集委員会「生命科学」改訂第 3 版 羊土社
和田勝著「基礎から学ぶ 生物学・細胞生物学」羊土社

【成績評価の方法と基準】

平常点 15%、レポート 10%、中間試験 25%、期末試験 50%などで評価する。基本的な生命科学の用語の定着、理解、生命現象のメカニズムの理解、現代社会における生命科学の重要性の理解などが試験、レポート課題の中心となる。

【学生の意見等からの気づき】

板書の読みやすさを心がける。

【学生が準備すべき機器他】

お知らせ、資料配付に学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The course is an introduction to molecular biology, genetics and several modern

molecular methods to elucidate molecular and genetic questions that involve the description of meiosis, sexual reproduction, and classical genetics, and the principles of DNA replication and gene regulation in prokaryotic and eukaryotic cells, and PCR.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to be able to understand the basic concepts and terms of biology and explain them in your own words, to be interested in social and technical issues related to biology, and to be able to discuss scientifically about them.

(Learning activities outside of classroom)

After each class, you will be expected to reread and review the teaching material slides. Before/after each class, you will be expected to spend at least one hour to understand the course content and prepare the report.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process; Mid-term examination (25%), term-end examination (35%), reports (25%) and in-class contribution (15%).

BSP100LC

生物学基礎Ⅰ

細谷 茂生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の生物学基礎Ⅰに引き続き、本講義は受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、遺伝学と分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。また、近年の生物学の研究動向についても紹介する。

【到達目標】

受講生が生物学の基本的概念を身につけ、生物学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。

小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。

本授業は Zoom と学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習、授業の概要	DNA の構造と性質、複製のメカニズム、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	DNA の転写と転写の制御	DNA と遺伝情報、転写のメカニズム、代表的な転写の制御、転写調節に関する応用例
第 3 回	RNA の翻訳	遺伝暗号解読の歴史、翻訳のメカニズム、翻訳後修飾、突然変異、翻訳と抗生物質
第 4 回	バクテリアとウイルス	バクテリアの特徴と遺伝学、ウイルスの特徴とライフサイクル、代表的なウイルスの特徴
第 5 回	真核生物の分子遺伝学	ゲノムプロジェクト、真核生物のゲノムの特徴、真核生物における転写のメカニズムと遺伝子発現のメカニズム
第 6 回	細胞のシグナル伝達 1	細胞のシグナル伝達の分子的メカニズム、神経伝達のメカニズム、神経細胞と疾患とのかわり
第 7 回	細胞のシグナル伝達 2、生理学の基礎 1	内分泌のメカニズム、循環器、呼吸器の概要と疾患とのかわり
第 8 回	生理学の基礎 2	消化器、泌尿器、骨、感覚器の概要と疾患とのかわり
第 9 回	発生の生物学と分子遺伝学	発生の概要、代表的な生物における発生の過程、発生の分子的メカニズム
第 10 回	生体防御システム	生体防御システムの全体像、自然免疫と獲得免疫の分子的メカニズム、免疫と疾患のかわり
第 11 回	バイオテクノロジー基礎編	DNA やタンパク質を扱う主な実験手法の原理と概要
第 12 回	バイオテクノロジー応用編	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要、バイオテクノロジーの医療への応用
第 13 回	まとめと解説 1、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験
第 14 回	まとめと解説 2	期末試験の結果に基づく学期のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：学習支援システムにアップロードする資料を読み、復習すると共に、毎回の小テストに回答する。

予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。

予習・復習時間：各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】

BLUE BACKS アメリカ版 大学生物学の教科書第 2、3 巻 D・サダヴァ他編（講談社）視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

【成績評価の方法と基準】

小テスト成績（60%）、期末試験成績（30%）及び平常点（10%）により判断する。

変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】

春学期開講の生物学基礎Ⅰと合わせて受講するのが望ましい。

【Outline (in English)】

Continuing from Basic Biology I in the spring semester, this course focuses on genetics and molecular biology so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science. I will also introduce recent trends in biology research.

The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences. Before class, you will be expected to read reference books to prepare for what will be covered in class, if possible. After each class, you will be expected to read the handout and answer quizzes uploaded to learning management system. Your study time will be two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Quizzes after each class: 60%, term-end examination: 30% and in-class contribution: 10%. If the criteria and policy are changed, it will be presented to learning management system.

BSP100LC

生物学基礎Ⅰ

細谷 茂生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の生物学基礎Ⅰに引き続き、本講義は受講者が生物学の基本的概念を理解し、生命科学のリテラシーを身につけられるよう、遺伝学と分子生物学を中心に現代生物学の基礎を概説する。また、近年の生物学の研究動向についても紹介する。

【到達目標】

受講生が生物学の基本的概念を身につけ、生物学に関連した時事問題に対して自身で考えた意見を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

高校で生物学を履修しなかった学生や本学で生物学を主専攻としない学生にも理解できるよう、視覚的資料を多数用意して平易な解説を心掛ける。また、毎回小テストを行い、受講生の理解度を考慮して講義を進める。

小テストの結果に対するフィードバックは、学習支援システムを用いて行うほか、小テストの結果に基づき講義において補足説明やまとめを行う。

本授業は Zoom と学習支援システムによるオンラインで行い、詳細は学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習、授業の概要	DNA の構造と性質、複製のメカニズム、授業で取り上げるテーマの概要
第 2 回	DNA の転写と転写の制御	DNA と遺伝情報、転写のメカニズム、代表的な転写の制御、転写調節に関する応用例
第 3 回	RNA の翻訳	遺伝暗号解読の歴史、翻訳のメカニズム、翻訳後修飾、突然変異、翻訳と抗生物質
第 4 回	バクテリアとウイルス	バクテリアの特徴と遺伝学、ウイルスの特徴とライフサイクル、代表的なウイルスの特徴
第 5 回	真核生物の分子遺伝学	ゲノムプロジェクト、真核生物のゲノムの特徴、真核生物における転写のメカニズムと遺伝子発現のメカニズム
第 6 回	細胞のシグナル伝達 1	細胞のシグナル伝達の分子的メカニズム、神経伝達のメカニズム、神経細胞と疾患とのかかわり
第 7 回	細胞のシグナル伝達 2、生理学の基礎 1	内分泌のメカニズム、循環器、呼吸器の概要と疾患とのかかわり
第 8 回	生理学の基礎 2	消化器、泌尿器、骨、感覚器の概要と疾患とのかかわり
第 9 回	発生の生物学と分子遺伝学	発生の概要、代表的な生物における発生の過程、発生の分子的メカニズム
第 10 回	生体防御システム	生体防御システムの全体像、自然免疫と獲得免疫の分子的メカニズム、免疫と疾患のかかわり
第 11 回	バイオテクノロジー基礎編	DNA やタンパク質を扱う主な実験手法の原理と概要
第 12 回	バイオテクノロジー応用編	遺伝子組換え技術の基礎と応用例、ゲノム編集技術の概要、バイオテクノロジーの医療への応用
第 13 回	まとめと解説 1、試験	小テストの結果に基づく学期のまとめと解説、期末試験
第 14 回	まとめと解説 2	期末試験の結果に基づく学期のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：学習支援システムにアップロードする資料を読み、復習すると共に、毎回の小テストに回答する。

予習：可能であれば、参考書を読んで授業で取り上げる内容について予習する。

予習・復習時間：各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、参考書に挙げた書籍の内容に沿って講義を行う。

【参考書】

BLUE BACKS アメリカ版 大学生物学の教科書第 2、3 巻 D・サダヴァ他編（講談社）視覚でとらえるフォトサイエンス 生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

【成績評価の方法と基準】

小テスト成績（60%）、期末試験成績（30%）及び平常点（10%）により判断する。

変更する場合は学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストについて、学習支援システムを通してフィードバックを行うとともに、毎回の授業において解説と復習を行う。また、授業の始めにその回の重要なキーワードと学習のポイントを示す。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン等、学習支援システムにアクセスでき、zoom に参加できる情報機器が必要。

【その他の重要事項】

春学期開講の生物学基礎Ⅰと合わせて受講するのが望ましい。

【Outline (in English)】

Continuing from Basic Biology I in the spring semester, this course focuses on genetics and molecular biology so that you can understand the basic concepts of biology and acquire the literacy of life science. I will also introduce recent trends in biology research.

The goals of this course are to understand the basic concepts of biology and to have your own thoughts on current affairs related to life sciences. Before class, you will be expected to read reference books to prepare for what will be covered in class, if possible. After each class, you will be expected to read the handout and answer quizzes uploaded to learning management system. Your study time will be two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Quizzes after each class: 60%, term-end examination: 30% and in-class contribution: 10%. If the criteria and policy are changed, it will be presented to learning management system.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

加田 修

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ￥2178

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味

をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

板書量に慣れるよう指導する機会を検討する。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【その他の重要事項】

秋学期「線形代数学及び演習 II」を継続して履修することを勧める。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

村上 弥生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生諸氏が英語の語彙力と文構造をとらえる力を高めて、国際的な舞台で必要とされる読解力を身に着けることである。

そのために欠かせないのが、英文の文脈はもちろん、現代世界の文脈の中に精確に理解する作業を行いながら、文法や語彙の復習、拡充を行うとともに、背景となる知識に関する視聴覚教材の理解や簡単なリサーチ、英語での発表、小テストなどの作業を通じて、より実践的な力を養っていく。

【到達目標】

学生諸氏がグローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。
異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章に主に取り組むことを通じて、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。
またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。
高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 読み物については、現在の社会、世界において重要なテーマを2～3選び、関連する資料を学生さんの予習（精読による和訳）を前提として、丁寧に読む。また、その過程で必要な情報や背景のリサーチを行ってもらったり、また教師からも随時説明を行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネットでの聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマないし読み物について、復習として語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文を書いてもらう。
4. 1～3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時Hoppiに提出されたものを評価して返却するか、または、授業時に総評を行う。春学期の授業は、原則対面であるが、オンラインも併用する。各授業が対面かオンラインかについては、授業の進捗状況に応じて変更される場合もありうるので、随時学習支援システムで伝達するものを確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第2回	トピック1：（社会や時代の変化に添って新たに選ばれるが、以下は昨年度の例である）The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介 重要語句、表現の確認
第3回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 2	背景説明 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第4回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 3	前回までの表現の応用問題によるテスト 背景説明 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第5回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC)-3	内容に関する意見発表、交換 グループディスカッション

第6回	トピック-2 COVID-19 Cuts Jobs and Boosts Stocks, Widening Economic Gap in Japan-1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介 コロナ禍が広げる日本社会の富の格差
第7回	COVID-19 Cuts Jobs and Boosts Stocks, Widening Economic Gap in Japan-2	和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第8回	review test-2 トピック-3 Japan's Middle Class is Disappearing-1	前回までの表現の応用問題によるテスト 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介 重要語句、表現の確認
第9回	Japan's Middle Class is Disappearing-2	和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第10回	Japan's Middle Class is Disappearing-3	和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第11回	review tes-3 Japan's Middle Class is Disappearing-4	前回までの表現の応用の小テスト 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第12回	Japan's Middle Class is Disappearing-5	和訳リサーチの発表 重要語句、表現の確認
第13回	Japan's Middle Class is Disappearing-6 トピック-3に関連する テーマについて意見の発表、交換	読み物、資料を基に意見を発表、交換、グループディスカッション
第14回	review test-4	前回までの表現の応用の小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2. 読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3. 各トピックごとに復習テスト。もしくは訳の修正を行うように準備をする。
4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成してもらう。

【テキスト（教科書）】

初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】

参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

予習としての和訳、リサーチ☒%、授業での作文などへの積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正や意見文 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

現代の世界の様々な側面を広く知ること意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

【Outline (in English)】

This course has two major objectives.

One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.

The other objective is to help students broaden their perspectives as members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. carefully read assigned part of the materials.
2. Summarize a short audio-visual material.
3. A research on relevant topics.

After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted. You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.

Your required study time outside of classroom is at least one hour for each class.

Final grading will be decided based on your preparation for class (20%), contribution to class through presenting researches and opinions (20%), and review tests(60%).

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

ALAN D MORGAN

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text. A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments. 春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples Assignment practice
2	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The News Media In The Past.
3	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The History of Electronic Media & Expansion Reading
4	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Citizen Journalism
5	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Ethical Journalism
6	THEME II EDUCATION (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Education Around the World
7	THEME II EDUCATION (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Testing In Education
8	THEME II EDUCATION (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 4 - Finding Supporting Details Alternative Education

9	THEME II EDUCATION (part 4)	Skills for the 21st Century
10	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers Supply and Demand in the Global Economy
11	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers The Workforce of the 21st Century
12	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Communication Technology in Business
13	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Business and Sustainability
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

Some textbook vocabulary exercises from the textbook may be set as assignments to be completed at home by students through the Learning Management System.

【テキスト（教科書）】

Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ¥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

【参考書】

English-Japanese dictionaries

Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback following a thorough explanation of the assignment structure was very positive. An initial non-graded assignment phase has been added for students to check their understanding to eliminate misunderstandings of the tasks that may affect a final grade unduly.

【学生が準備すべき機器他】

The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

The purpose of this course is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

【到達目標】

一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、テキストを中心とする講義と演習を行う。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから実例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の説明。予習すべき項目の指示。
②	Unit 1 The Scientific Method 精読	テキストの 7 ページと 8 ページの精読 科学的方法について パラグラフの構造の説明
③	Unit 1 The Scientific Method 文法	テキストの 9 ページと 10 ページの練習問題 受動態 科学英語の語彙と数式の読み方
④	Unit 2 Observing the Solar System 精読	テキストの 11 ページと 12 ページの精読 太陽系の観測史について
⑤	Unit 2 Observing the Solar System 文法	テキストの 13 ページと 14 ページの練習問題 方程式の読み方 他動詞の目的語となる動名詞と to-不定詞
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics 精読	テキストの 15 ページと 16 ページの精読 数式の美しさについて
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics 文法	テキストの 17 ページと 18 ページの練習問題 数式の記号について 関係代名詞
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 精読	テキストの 19 ページと 20 ページの精読 電球と LED について
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs 文法	テキストの 21 ページと 22 ページの練習問題 図形・面積・体積 関係副詞

⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 精読	テキストの 23 ページと 24 ページの精読 放射性物質について
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation 文法	テキストの 25 ページと 26 ページの練習問題 長さ・幅・高さ・深さ 分詞構文
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions 精読	テキストの 27 ページと 28 ページの精読 ジェンナーの業績
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions 文法	テキストの 29 ページと 30 ページの練習問題 工具と付属部品 名称 関係代名詞
⑭	学期末レポート課題の提示	学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

【テキスト（教科書）】

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円。

【参考書】

『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002 年 『公式 TOEIC(R)Listening & Reading 問題集 8』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2021 年

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%) 授業への積極的な参加・貢献 (10%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が 5 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】

学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
 - develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
 - extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
 - understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.
- (Learning activities outside of classroom)
- Students are expected to:
- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.

- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

児玉 真希

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

- 1) 英文を正確に迅速に読める力を身につける。
- 2) 語彙力と英文法の向上を図る。
- 3) 科学論文を読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深めることに努めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures
2	Chapter 1A	Eating in and out
3	Chapter 1B	Modern families
4	Chapter 2A	Spending money
5	Chapter 2B	Changing lives
6	Mid-term course review 1	Reading quiz
7	Chapter 3A	Survive the drive
8	Chapter 3B	Men, women, and children
9	Chapter 4A	Bad manners?
10	Chapter 4B	Yes, I can!
11	Mid-term course review 2	Reading quiz
12	Chapter 5A	Sporting superstitions
13	Chapter 5B	#thewaywemet
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を復習し、隔週ある小テストに備える。
・授業内で出された課題をこなし、学習した内容を定着させる。

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert, Paul Seligson, Kate Chomacki, American English File Level 3, 3rd Edition (Oxford University Press), ISBN 978-0-19-490662-3

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30%), 学期末テスト (20%), 課題提出 (30%), 授業への積極的な参加姿勢 (20%)

60 パーセント以上で単位習得となる。原則として 半期で 4 回欠席した場合、単位は認めない。遅刻・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。オンライン教材をするための PC。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 Course Outline】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

【到達目標 Learning Objectives】

By the end of this course, students will build required vocabulary and grammatical skills to read scientific journal articles. Students will also improve their reading speed and be able to understand the text more accurately.

【授業時間外の学習 Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare and review the materials covered in class for approximately an hour.

【成績評価の方法と基準 Grading Criteria /Policy】

Quizzes (30%), Final exam(20%), Assignments (30%), Active in-class participation(20%)

In order to pass the class, students must exceed 60% of the grading criteria. Students cannot pass the class if they miss more than four classes. Two tardies and/or leaving early without a valid excuse are counted as one absence.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

中野 里美

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な読解力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。読解力については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

To begin with, students will be given TOEIC reading as warm-up handouts, then read the textbook, and finally be given some comments. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction and guidance	Explaining how to study in this class
第 2 回	Reading global issues	Lessons from Estonia
第 3 回	Reading global issues	Sushi and canned coffee get unlikely boost from record-breaking
第 4 回	Reading global issues	How "Demon Slayer" came to be Japan's biggest box-office hit of all time
第 5 回	Reading global issues	For foreign athletes, the Tokyo Olympics present myriad challenges
第 6 回	Reading global issues	Japan ends Tokyo 2020 with record medal haul
第 7 回	Reading global issues	Collapse, isolate, adjust and rebuild
第 8 回	Reading global issues	Virus hastens exit from Israel's
第 9 回	Reading global issues	Ten years after Fukushima nuclear disaster
第 10 回	Reading global issues	Green is the new greed in the battle against climate change
第 11 回	Reading global issues	Ancient asteroid dust collected by Japan's Hayabusa 2 probe arrives on Earth
第 12 回	Reading global issues	Kamala Harris will make history
第 13 回	Reading global issues	As Bollywood evolves
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Students will need to be prepare and review for the textbook before and after this class.

【テキスト（教科書）】

English through the news media: 2022 Edition by Masami Takahashi
Asahi Press
¥1870

【参考書】

Participants will be given information of references in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

半期の欠席 4 回以上（4 回を含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの領収書などの証明書持参のこと）などは考慮します。遅刻は授業開始後 20 分以降の入室から。3 回目の遅刻を 1 回欠席に換算します。遅延証明書があれば、当日の授業内持参のみ考慮します。毎回の授業で平常点が 2 回生じます。授業内課題テスト (50%) と期末テスト (50%の 50 点満点) を合計して 100% とし評価します。

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

荒木 友嗣

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では科学諸分野で一般にも注目される先端的研究成果を英語で読み、不可欠な語法や表現の理解を深め確認しながら、科学諸分野で、あるいはより広い意味でも、有用な英語読解力を養うことを目的とする。

【到達目標】

英国の著名な科学雑誌 *nature* のウェブサイト記事 *Nature News* から、先端のかつ身近で興味をそそる科学関連ニュース・トピック（分野としてはバイオテクノロジー、化学、途上国問題【医療】、医薬など）を読む。そして内容理解や語彙・表現の問題に答え、さらに追補記事なども読みながら、当該各分野で、またより広く科学全般において有意義かつ有用な英語読解力を身につけたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

使用するテキストでは、毎 unit、主題を導入する英語の文章（日本語私訳を配付予定）や記事本体に加え、各種練習問題も豊富に用意されており、授業では一つの主題（一つの unit）につき 4 回分くらいを費やしてじっくりと進めていく予定である。

授業は基本的には受講者の挙手による応答によって進められる。座席は指定とする。なお、各 unit、少なくとも 1 回の課題が出される。課題については、提出期限後おそからず、全体に対する記述例の提示や確認のためのやり取りを行うことによってフィードバックする。この課題の実施・提出状況は平常点として算定される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などについての説明。
2	Unit 1 ①	Lizards succumb to global warming: Reading(1)
3	Unit 1 ②	Lizards succumb to global Warming : Reading(2)
4	Unit 1 ③	Lizards succumb to global Warming: Exercises(1)
5	Unit 1 ④	Lizards Succumb to Global Warming: Exercises(2)
6	Unit 3 ①	Cutting calories may improve memory: Reading(1)
7	Unit 3 ②	Cutting calories may improve memory: Reading(2)
8	Unit 3 ③	Cutting calories may improve memory: Exercises(1)
9	Unit 3 ④	Cutting calories may improve memory: Exercises(2)
10	Unit 5 ①	Brain implant allows mute man to speak: Reading(1)
11	Unit 5 ②	Brain implant allows mute man to speak: Reading(2)
12	Unit 5 ③	Brain implant allows mute man to speak: Exercises(1)
13	Unit 5 ④	Brain implant allows mute man to speak: Exercises(2)

14 まとめ

学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。準備学習等によっても不明な個所はなるべく放置せず、必要に応じて質問に来て解決すること。なお、学期の始めに教科書（テキスト）学習予定各 unit の「導入部（Introduction）」の日本語私訳を配付するので参考にとよい。

【テキスト（教科書）】

Kevin Cleary, 鈴木佑治他, 共著, *Science Reader: in Association with Nature II*（最先端の科学ニュースを読む（2）） Macmillan Languagehouse 2000 円（税別）

【参考書】

一年時に使用した英語辞書（電子辞書可）を持参すること。他には必要に応じて適宜文献を紹介、あるいは資料を配付する。新聞、雑誌（ネットを含む）の科学記事に目を通す習慣を付けるとよい。

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %（挙手応答 20 %、課題 30 %）、学期末試験 50 % として、全体の 60 % 以上の取得者に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧なフィードバックを心掛けたい。

【Outline (in English)】

1[授業概要（Course outline）]

Students of this course will read popular topics on ground-breaking achievements in natural sciences, in the compiled textbook from *Nature News* website. To have a more valid understanding of the news topics, students will also deal with doing certain exercises and reading supplementary articles.

2[到達目標（Learning Objectives）]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to have a certain ability to read a scientific article/essay based on their necessary vocabulary and expressions, steadily following its context.
2. to have more positive reading attitude toward scientific topics with deeper understandings and interests in the concerning fields.

3[授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and handle with assignment tasks. Incidentally, students will be able to refer to the Japanese translation of introductory articles that will be handed beforehand at around the beginning of the term.

4[成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、unit assignments : 30%、in class contribution: 20%

(At least 60 % of all is required for grading.)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

川島 多加子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

- ・英語の論理構成や文脈を把握しながら英文が読める。
- ・400 語レベルの科学記事のおよその内容が理解できる。
- ・スキミングとスキニングの技法を習得し速読できる。
- ・読んで理解したものを簡潔に説明できる。
- ・短い会話やトークを聞いて理解することができる。
- ・各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・各単元で扱った課題をグループやクラスで討議し理解を深め、問題解決ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、リスニング・スピーキング、語彙・文法項目の確認、科学記事の内容理解の確認、課題演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。また、学生 1 人ひとりが発言できるように授業を進めるため、毎授業、必ず 1 人 1 回以上は発言する場がある。
- ・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。課題ペーパーは初稿提出後ピア編集を実施し、共通の問題点は授業内で解説し、弱点強化の演習を行う。最終授業回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験、課題などを含めた総括的講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course overview
	Introduction to Academic Reading	Goal Setting
2	Unit 1	Bioprinting
3	Unit 2	Driverless Cars
4	Paragraph/Essay Writing	Explanation of writing assignment Structure of paragraph/essay
5	Unit 3	Space Mining
6	Unit 4	Big Data
7	Review and Midterm Exam	Review of units 1-4 Submission of rough draft, peer editing, test taking
8	Unit 5	Rethinking Animal Intelligence
9	Feedback on rough draft	Common problems and practices
10	Unit 6	Getting Chipped
11	Unit 7	New Advances in Architecture
12	Unit 8	Making Science Popular: The Brilliance of Carl Sagan
13	Mini Presentations	Book reports
14	Review, Reflection, Final Exam	Review of units 5-8, suggestions and feedback, test taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味や発音を確認すること。
- ・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・教科書の英語の本文については、必ず、オーディオを聞いて音読すること。

【テキスト（教科書）】

・Andrew E. Bennett, Science and Tech Sense, Nan'un-DO, 2,200 円＋税、ISBN: 9784523178842

- ・新田亜紀子、『English for Business Communication / 5 分間ビジネスコミュニケーション』, 南雲堂, 700 円＋税、ISBN: 9784523178705
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

- ・到達度チェックテスト 60% (30% × 2回)
- ・課題ペーパー 30%
- ・クラス内課題取り組み状況 10%

※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2% 減、遅刻 1 回につき 1% 減とする。
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業の進捗によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

【Outline (in English)】

The course is designed to improve students' reading abilities through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Students will enhance their reading competence through the integrated curriculum of listening, reading, speaking and writing as well as through group activities and various tasks.

By the end of the course, students will be able to: 1) increase their reading speed and comprehension of academic articles, 2) improve their reading fluency skills through extensive reading, 3) develop their vocabulary and grammatical knowledge, and 4) develop abilities as critical thinkers, readers and writers.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (10%), writing assignments (30%), midterm and final exams (60%).

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

福澤 レベッカ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

このクラスは、アカデミックな内容を読むための準備にあたるものである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生は英語でアカデミックな研究論文を読むために必要な技術や方法を伸ばし、洗練させる。これには一般的読解能力をつけるためのトップダウン的アプローチと、単語力をつけ文法的形式の再認識を伸ばすボトムアップ的アプローチの両方が含まれている。科学関連のトピックをテキストとして選定するのが本コースの中心となる部分であるが、リスニング、スピーキング、ライティング演習を含めて、科学関連以外の分野からの読み物も時折使用する。提出された課題・クイズ、期末試験については採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Unit 1–New Look for Luxury Cars	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
2 回	Unit 1–New Look for Luxury Cars	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
3 回	Unit 2 — Net Surfing for Robots	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
4 回	Unit 2 — Net Surfing for Robots	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
5 回	Unit 3 — Flying Solo	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
6 回	Unit 3 — Flying Solo	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
7 回	Unit 5–A New Dimension in Printing	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
8 回	Unit 5–A New Dimension in Printing	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
9 回	Unit 6–New York’s New Tower	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
10 回	Unit 6–New York’s New Tower	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
11 回	Unit 7–3D Fireworks	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
12 回	Unit 7–3D Fireworks	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
13 回	Unit 8–Africa’s First High-Speed Train	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問

14 回 Unit 8–Africa’s First High-Speed Train

宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディングの復習、理解力を試す質問、3 文の訳、学習支援システム使ったリスニング

【テキスト（教科書）】

Mukuhira, et al. AFP Science Report: A F P で知る科学の世界。成美堂とプリントを用意する。さらに、プリントも用意する。

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、宿題 (40%) 小テスト、課題 (30%)、期末試験 (30%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は本講義を担当していない。

【学生が準備すべき機器他】

PC と辞書

【Outline (in English)】

Course Outline:

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Learning Objectives:

The purpose of this class is to establish basic competence in reading academic level English thorough analysis of grammar, development of vocabulary and knowledge of writing structure.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework which includes listening, vocabulary and reading assignments.

Grading Criteria:

In-class activities & Homework (30%), Quizzes and Projects (40%), Final exam (30%)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

- ・十分な語彙力、文法力を身につける。
- ・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。

小テストで誤りが多かった問題は翌週の授業で解説します。そのほか授業中に出た質問もできるかぎり解答し、フィードバックを図ります。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方について説明する
2	Unit 1 (1)	Space Invaders
3	Unit 1 (2)	Space Invaders
4	Unit 2 (1)	What a Waste! Food Loss and Food Waste
5	Unit 2 (2)	What a Waste! Food Loss and Food Waste
6	Unit 3 (1)	Amory Lovins and Soft Technology
7	Unit 3 (2)	Amory Lovins and Soft Technology
8	Unit 4 (1)	Lithium-ion Batteries: The Quest for Clean Power
9	Unit 4 (2)	Lithium-ion Batteries: The Quest for Clean Power
10	Unit 5 (1)	Todai Robot Project
11	Unit 5 (2)	Todai Robot Project
12	Unit 6 (1)	News Literacy: Watchdog or Cheerleader?
13	Unit 6 (2)	News Literacy: Watchdog or Cheerleader?
14	まとめと期末試験	授業内容を振り返り、期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
- ・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。
- ・授業中に暗唱をしますので、授業外でも練習をしてきてください（練習方法は指示します）

【テキスト（教科書）】

松尾秀樹ほか『リーディング・インサイト：科学技術の多様な側面を考える』（三修社）

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%

小テスト 20%

授業参加 10%

*交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮します。ただし一学期につき 3 回を上限とします。

*正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。

*予習が不十分な場合、または授業に参加する意欲が見られない場合、出席とみなさないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【その他の重要事項】

授業にはかならずきちんとした辞書を持参してください。

なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Preparation is crucial in language learning. The students are required to understand the meaning of every word as well as the grammatical structure of every sentence. A quiz is given every two weeks to help build the vocabulary.

The final grade will be calculated based on the final exam (70%), quizzes (20%), and class participation (10%).

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

The purpose of this course is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

【到達目標】

一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、テキストを中心とする講義と演習を行う。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから実例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の説明。予習すべき項目の指示。
②	Unit 1 The Scientific Method	テキストの 7 ページと 8 ページの精読 科学的方法について パラグラフの構造の説明
③	Unit 1 The Scientific Method	テキストの 9 ページと 10 ページの練習問題 受動態 科学英語の語彙と数式の読み方
④	Unit 2 Observing the Solar System	テキストの 11 ページと 12 ページの精読 太陽系の観測史について
⑤	Unit 2 Observing the Solar System	テキストの 13 ページと 14 ページの練習問題 方程式の読み方 他動詞の目的語となる動名詞と to-不定詞
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics	テキストの 15 ページと 16 ページの精読 数式の美しさについて
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics	テキストの 17 ページと 18 ページの練習問題 数式の記号について 関係代名詞
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs	テキストの 19 ページと 20 ページの精読 電球と LED について
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs	テキストの 21 ページと 22 ページの練習問題 図形・面積・体積 関係副詞

⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation	テキストの 23 ページと 24 ページの精読 放射性物質について
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation	テキストの 25 ページと 26 ページの練習問題 長さ・幅・高さ・深さ 分詞構文
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions	テキストの 27 ページと 28 ページの精読 ジェンナーの業績
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions	テキストの 29 ページと 30 ページの練習問題 工具と付属部品 名称 関係代名詞
⑭	学期末レポート課題の提示	学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

【テキスト（教科書）】

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円.

【参考書】

『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002 年 『公式 TOEIC(R)Listening & Reading 問題集 8』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2021 年

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%) 授業への積極的な参加・貢献 (10%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が 5 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】

学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
 - develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
 - extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
 - understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.
- (Learning activities outside of classroom)
- Students are expected to:
- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.

- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

梨本 邦直

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

この授業では、以下の 5 つを主な目標とします。

- 1) 個々の文を正確に理解する。
- 2) パラグラフの構成を理解する。
- 3) 難しい語彙の簡単な英語の言い換えができる。
- 4) 1～3 を発展させ、批判的思考力・分析力を養う。

At the end of this course, students will be able to:

- understand the grammar and meaning of each sentence in the context
- understand the paragraph structure of the text
- rephrase new words in plain English
- think critically about the topics of the TED presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、学生が予習・復習済みであることを前提に進む。

- ・復習課題でわからなかった箇所を確認し、授業中にフィードバックをする。
- ・リーディングを中心としつつ、適宜リスニング（動画視聴）、ライティングなども含め英語運用能力を総合的に高めるアクティビティを行う。

This class will be carried out on the assumption that each unit has been prepared, and the previous units reviewed by the students.

- ・Students will be asked to submit online exercise questions of the text each week. The feedback of the exercises to students will be done in class every week.

- ・Reading aloud is essential to improve your English in both preparation and review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction to the course
2	Reading Explorer 2, Unit 1A	Food and Health: Sweet Love
3	Reading Explorer 2, Unit 1B	Food and Health: Food for the Future
4	Reading Explorer 2, Unit 2A	Call of the Wild: Song of the Humpback
5	Reading Explorer 2, Unit 2B	Call of the Wild: The 1,000-year Bird Song
6	Reading Explorer 2, Unit 3A	History Detectives: Was King Tut Murdered?
7	Reading Explorer 2, Unit 3B	History Detectives: Who Killed the Iceman?
8	Reading Explorer 1, Unit 4A	Tradition and Rituals: Living Treasures
9	Reading Explorer 2, Unit 4B	Tradition and Rituals: The Changing Face of Kung Fu
10	Reading Explorer 2, Unit 5A	Finding Wonders: The Secrets in the Sand
11	Reading Explorer 2, Unit 5B	Finding Wonders: The Stories in the Rocks
12	Reading Explorer 2, Unit 6A	Reef Encounters: Cities Beneath the Sea
13	Reading Explorer 2, Unit 6B	Reef Encounters: The Truth about Great Whites
14	Final Exam	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・予習として音読を必ずする。
- ・予習の段階でわからない箇所を明確にしておく。

- ・多様な媒体（本・雑誌・ソーシャルメディア等）で、教科書のテーマに関連のあるトピックを調べ、英語のインプットを増やすこと。

- ・prepare for the texts and exercises before the class. Reading aloud is essential to improve your English

- ・take notes for any part of the text you cannot understand either in terms of pronunciation, grammar, or meaning beforehand, and ask the questions in class

- ・use the internet to find the topics related to the TED presentation, and increase your English vocabulary and boost your understanding of the topic.

【テキスト（教科書）】

Paul Macintyre and David Bohlke, Reading Explorer 2, 3rd Edition (Cengage Learning)

【参考書】

教科書サイト <https://eltngl.com/sites/reading-explorer/home>

【成績評価の方法と基準】

Assignments : 40%

Mid-semester test : 30% (scheduled around Week 8)

End-of-semester exam : 30%

Each student will be asked to read aloud the passage of about 200 words at the mid-semester test.

The end-of-semester exam will cover Units 4-6.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必ずテキストと辞書を持参する。（電子辞書・紙媒体の辞書のどちらも歓迎）

【その他の重要事項】

- ・クラスの進行具合に合わせて授業スケジュールを調整することがある。

- ・初回の授業で予習・復習の仕方を説明するので、それまでにテキストを入手しておく。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

川島 るり子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。

【到達目標】

パラグラフの論理展開、文法・構文を確認しつつ、学術的エッセイの内容を正確に把握する能力を養います。さらに、学術的文章に類出する語彙を文脈から理解し、練習問題を通して定着させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの精読、大意把握を行うとともに、語彙・文法事項に関する学生の理解を確認します。小テスト・練習問題を適宜課し、語彙の定着を図ります。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業を予定していますが、感染症の状況によりオンライン授業となる場合もあります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容説明
第 2 回	Chapter 1: Human Societies—From the Iceman to Us	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 3 回	Chapter 1	練習問題
第 4 回	Chapter 2: Social Forces That Shape Our Lives	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 5 回	Chapter 2	練習問題
第 6 回	Chapter 3: Family Structure	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 7 回	Chapter 3	練習問題
第 8 回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第 9 回	Chapter 5: Marketing's Impact on Consumers	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 10 回	Chapter 5	練習問題
第 11 回	Chapter 6: Consumer Socialization of Family Members	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 12 回	Chapter 6	練習問題
第 13 回	Chapter 7: How Perspectives on the Self Influence Consumer Behavior	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 14 回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
当該授業で扱う章を予習（テキストの精読・大意要約）し、授業内容を復習します（各2時間）。予習してわからない点は、授業で質問できるようにしておきましょう。

【テキスト（教科書）】

Focus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List, Diane Schmitt & Norbert Schmitt, Pearson Longman, 2011
ISBN 978-0-13-137617-5

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 2 回の復習テスト 90 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each chapter, students are given vocabulary exercises to check for understanding.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and two review exams (90%).

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

尾関 裕子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルとともに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

1 英文を正確にとらえる 2 情報を整理する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回一章分を精読する。書かれている文章を正確にとらえうえてエクササイズを実施し各自の読解に間違いがなかったかを確認する。後半ではひとつのテーマでかなり長い英文を使用し読解する。エクササイズ一部を提出していただき、添削、採点の上返却します。返却ののち、各問に対する解説をします。単に答えを知るだけではなく、どのようにその解答にたどり着くのかかわかるようにしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「読むこと」について	講義。パラグラフの構成についての基礎的な知識の確認。サマリー作成の考え方。
2	テキストの英文読解 unit 1	The Concept of Beauty を読みます。「美」に対する文化、時代による違いを確認。普遍的な美について考えます。
3	unit 2	Greek Mythology を読みます。西洋の芸術文化の根底に流れるギリシア神話の成り立ちと現在の接点も探ります。
4	unit 3	The Bible を読みます。キリスト教文化の世界観を知るために必須の知識です。ギリシア神話との接点にも触れます。
5	unit 4	Renaissance を読みます。イタリアで始まったルネサンスの背景にある教会の抑圧と人間性の解放の問題を考えます。
6	unit 5	The Structure of Fictional Literature を読みます。物語とはどのようなものか、その構造に「型」はあるのか、興味あるテーマを追います。
7	unit 6	The Theater and Acting を読みます。世界に存在する「演じる」という行為の歴史とバリエーションを知る。
8	unit 7	The English Language を読みます。英語の歴史を知り、今日の英語の成立を学びます。
9	テキスト以外の英文読解 (13 回まで、これまでより長いまとまった英文を読む)	英文読解 これまでの内容に比べ現代的な内容をもつ英文を読みます。内容を把握する練習とします。
10	テキスト以外の英文読解	内容を正確に把握する練習となるよう、文法的にもこれまでより複雑なものを読みます。
11	テキスト以外の英文読解	正確に英文をよみために文法、語彙の知識を生かすパーシングという手段を用いて、英文を読みます。
12	テキスト以外の英文読解	パーシングの練習となるような英文を読みます。
13	テキスト以外の英文読解	パーシングの練習となるような英文を読みます。
14	これまでのまとめ/試験	英文を正確にとらえる読解が行われていたか、扱った英文内容を既習した情報として身に着けているか確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキストの読解、問題の予習をします。

【テキスト（教科書）】

TRANSCULTURE—Transcending Time, Region and Ethnicity by Christopher Belton and Koshi Odashima (KINSEIDO 2017 年 ¥1800)

【参考書】

必用に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 15% テスト 55%

【学生の意見等からの気づき】

授業時には和訳も行いますが、それを板書することはありません。口頭で学生の和訳を確認する程度になりますが、なるべくゆっくり皆さんが理解できるスピードで授業をすすめたいと思います。よくわからない場合は遠慮せずに質問してください。

【その他の重要事項】

英文を読むには、基本的な文法の理解と語彙の知識が欠かせません。英語読解力をアップしましょう。時には英文法の確認に時間を多く使うこともあると思いますが、感覚的に文をとらえるのではなく、正確に読む術を身につけていただきたいと思います。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.

Learning Objectives: Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Learning activities outside of class room: Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination 55% quiz 15% in-class contribution 30%

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

安田 孝子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
（概要）

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まらず、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

（目的）

教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

【到達目標】

様々な分野のエッセイを精読し、さらには音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

<進め方>

教科書の Reading Part は、クラス全体で毎時間音読トレーニングを行います。音読を習慣化することで、正しい発音への意識を高め、英文の持つリズムをつかみます。エッセイの内容については、事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらい、その後は英語/日本語の音読を全員で行い、内容の理解を深めます。また、Reading Part 以外の Exercises は、その場で指名した方に答えてもらいます。

<方法>

授業では、「語彙力・読解力」の育成だけでなく、「速読力・表現力」の向上も目指し、「音読・シャドーイング」活動を大に行います。また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラスオリエンテーション Chapter 1	テキスト紹介、音読活動、シャドーイング、その他について。 Chapter 1 Reading Part の音声視聴 音読活動
第 2 回	Chapter 1	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 3 回	Chapter 2	1. Chapter 1 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 4 回	Chapter 2	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 5 回	Chapter 3	1. Chapter 2 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 6 回 Chapter 3

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 7 回 Chapter 4

1. Chapter 3 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 8 回 Chapter 4

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 9 回 Chapter 5

1. Chapter 4 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 10 回 Chapter 5

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 11 回 Chapter 6

1. Chapter 5 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 12 回 Chapter 6

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 13 回 Chapter 7

1. Chapter 6 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 14 回 Chapter 7
(Chapter 1 ～ 7)

- 期末試験
前期学習のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ¥ 2,000+税

【参考書】

毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

Chapter 終了毎の小テスト (10 点 × 6 回=60) と中間・期末試験 (各 20 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-,C,C+, 7 割獲得で B-,B,B+, 8 割獲得で A-,A,A+, 9 割以上獲得で S とする。

【学生の意見等からの気づき】

「音読」トレーニングによる成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、語彙力、読解力および表現力のさらなる発展を目指します。

【その他の重要事項】

- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・欠席は 3 回までは認めますが、それ以上の欠席については、必ず申し出ること。
- ・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
- ・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short)carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based the following.

Mid-term exam : 20%(the date of mid-term exam is undecided)

Term-end exam : 20%

Short exams : 60%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

磯部 芳恵

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルとともに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。TOEIC 教材を使用するリスニングの訓練もする。

Some objectives for skills:

1. Improve reading speed and comprehension
2. Learn how to make summaries
3. Increase vocabulary skills

【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の進め方、評価方法について説明。
2	Unit 1 Why is Gold so Valuable?	語彙、訳読。
3	Unit 1 Why is gold so Valuable?	内容理解問題、英作文。
4	Unit 2 Why does Breathing Helium Make Your Voice Sound so High?	語彙、訳読。
5	Unit 2 Why does Breathing Helium Make Your Voice Sound so High?	内容理解問題、英作文。
6	Unit 3 How do People Survive Lightning Strikes?	語彙、訳読。
7	Unit 3 How do People Survive Lightning Strikes?	内容理解問題、英作文。
8	Review 1	Unit 1-3 の復習。
9	Unit 4 Why do Golf Balls Have Dimples?	語彙、訳読。
10	Unit 4 Why do Golf Balls Have Dimples?	内容理解問題、英作文。
11	Unit 5 What Causes Allergies?	語彙、訳読。
12	Unit 5 What Causes Allergies?	内容理解問題、英作文。
13	Unit 6 How does the Dry-Cleaning Process Work? TOEIC practice test	語彙、訳読と TOEIC 模擬テスト。

14	Unit 6 How does the Dry-Cleaning Process Work? Wrap up and in-class test	内容理解問題、英作文。 春学期のまとめ。 授業内テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Reading: Preparation for the reading sections of the textbooks(2-4 hours)
2. Summaries: Homework will be assigned.(2-4 hours)

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Science for Inquiring Minds (成美堂) 1,900 円

『TOEIC TEST リスニングスピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円

【参考書】

講義中に指示する

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(30%), and assignments(10%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血でき、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries. Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(30%), and assignments(10%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe200LC

アカデミック・リーディングⅠ

安田 孝子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（概要）

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

（目的）

教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

【到達目標】

様々な分野のエッセイを精読し、さらには音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

<進め方>

教科書の Reading Part は、クラス全体で毎時間音読トレーニングを行います。音読を習慣化することで、正しい発音への意識を高め、英文の持つリズムをつかみます。エッセイの内容については、事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらい、その後は英語/日本語の音読を全員で行い、内容の理解を深めます。また、Reading Part 以外の Exercises は、その場で指名した方に答えてもらいます。

<方法>

授業では、「語彙力・読解力」の育成だけでなく、「速読力・表現力」の向上も目指し、「音読・シャドーイング」活動を大に行います。また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クラスオリエンテーション Chapter 1	テキスト紹介、音読活動、シャドーイング、その他について。 Chapter 1 Reading Part の音声を視聴 音読活動 訳読
第 2 回	Chapter 1	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 3 回 Chapter 2

1. Chapter 1 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 4 回 Chapter 2

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 5 回 Chapter 3

1. Chapter 2 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 6 回 Chapter 3

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 7 回 Chapter 4

1. Chapter 3 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 8 回 Chapter 4

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 9 回 Chapter 5

1. Chapter 4 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 10 回 Chapter 5

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 11 回 Chapter 6

1. Chapter 5 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第12回 Chapter 6	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第13回 Chapter 7	1. Chapter 6 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第14回 Chapter 7 (Chapter 1 ～ 7)	期末試験 前期学習のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ¥2,000+税

【参考書】

毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

Chapter 終了毎の小テスト (10 点 ×6 回=60) と中間・期末試験 (各 20 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-,C,C+, 7 割獲得で B-,B,B+, 8 割獲得で A-,A,A+, 9 割以上獲得で S とする。

【学生の意見等からの気づき】

「音読」トレーニングによる成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、語彙力、読解力および表現力のさらなる発展を目指します。

【その他の重要事項】

- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・欠席は 3 回までは認めますが、それ以上の欠席については、必ず申し出ること。
- ・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
- ・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based the following.

Mid-term exam : 20%(the date of mid-term exam is undecided)

Term-end exam : 20%

Short exams : 60%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

ALAN D MORGAN

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalized feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments. 春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples Assignment practice
2	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The News Media In The Past.
3	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 1 -Understanding Vocabulary in Context The History of Electronic Media & Expansion Reading

4	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Citizen Journalism
5	THEME I - THE NEWS MEDIA (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 2 - Finding Main Ideas Ethical Journalism
6	THEME II EDUCATION (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Education Around the World
7	THEME II EDUCATION (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 3 - Using the Dictionary Testing In Education
8	THEME II EDUCATION (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 4 - Finding Supporting Details Alternative Education
9	THEME II EDUCATION (part 4)	Skills for the 21st Century
10	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers Supply and Demand in the Global Economy
11	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 5 - The Vocabulary of Numbers The Workforce of the 21st Century
12	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Communication Technology in Business
13	THEME III: THE WORLD OF BUSINESS (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 6 Information in Graphs and Charts Business and Sustainability
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

Some textbook vocabulary exercises from the textbook may be set as assignments to be completed at home by students through the Learning Management System.

【テキスト（教科書）】

Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ¥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

【参考書】

English-Japanese dictionaries

Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback following a thorough explanation of the assignment structure was very positive. An initial non-graded assignment phase has been added for students to check their understanding to eliminate misunderstandings of the tasks that may affect a final grade unduly.

【学生が準備すべき機器他】

The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale behind specific strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalized feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

GRADING CRITERIA

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的な文章を読む際の基本的な語彙力・文法力・構文解析力を養成し、リーディング力の向上をはかる。文脈や分構造を考慮して意味をとらえることができるようにする。

パラグラフごとの要点を抽出し、英文の論理構成や論理展開を理解することを目標に、平易な文をできるだけ多く読み、語彙力と読解速度の向上をはかる。

【到達目標】

To read scientific articles using knowledge of basic vocabulary and grammar, and pick out important information, then make up summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

We practice reading articles, picking out key sentences, understanding the flow of paragraphs, and making up summaries.

You will be given vocabulary quiz for each unit of the textbook. the assignment will be given back in the next class and some good summaries will be shown as samples.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction (What's the Problem?) プリント配布	まよめの作り方 (topic + support)
2	U.1 Impact Craters	パラグラフごとのまよめを作成し、内容をチェック
3	U. 2 Tides	要点の抜き出し
4	U. 3 The Great Pacific Garbage Patch	パラグラフの流れを追い、内容をチェックする
5	U. 4 Colors in the Sky	パラグラフの役割 (全体の構成) を検討する。
6	U.5 Climate Modeling	パラグラフごとのまよめ (各パラグラフに見出しをつけてみる)
7	U. 6 Dark Matter and Dark Energy	要点抜き出しと文法確認 (強調構文に注意する)
8	U. 7 Natural Selection	パラグラフのまよめと文法確認 (助動詞の時制と意味の変化に注意する)
9	U. 8 Rockets	必要な Background information を検索して内容の理解を深める。不定詞の使い方に注意して読む。
10	U. 9 The Hazards of Space Travel	パラグラフのまよめ (提示されている問題点を抽出してみる) と文法確認 (副詞の意味と使い方に注意する)
11	U. 10 The Cassini-Huygens Mission	図を参照しながら本文の理解を深める。文法確認 (後置修飾の形容詞句に注意する)
12	U.11 Space Junk	パラグラフのまよめを作成する。分詞の形容詞用法に注意して読む。
13	Review 1	科学関連のプリントを配布して、要点抜き出しの練習をする
14	学期のまよめ	Review for U.1-11.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Prepare for and review each unit for 2 hours.

Check the vocabulary and pick out key words/key sentences to help make up summary of the article.

Check the questions in the textbook.

【テキスト（教科書）】

Our Place in the Universe 地球人類の進化と科学 (成美堂) 1900 円

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: vocabulary quiz and other assignments 70%

Final Reports 30%

You have to submit vocabulary sheet for each class. Take care not to fail to submit the assignments and try to build up scores to get good results.

If you don't attend the classes 4 or more times, you will not get the credit. When you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

要点の抽出に関しては問題がないのに、自分の言葉でまよめをつくらうとすると、文の構造や構成がおかしくなってしまう、ということがよく起こります。基本文型をしっかりと押さえておきましょう。

ボキャブラリークイズは、語彙を広げるため、派生語をチェックする問題が出ています。基本語形を踏まえたうえで、文脈に沿って語形変化を考えていただければと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

【その他の重要事項】

Carry your dictionary in the class and check not only the words you don't know but also idioms and preposition/adverb used with the word in order to widen your vocabulary.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. You have to try to understand what the writer means, considering the context and structure of the article. Let's try to pick out the topic and get hold of the essence of the article. I'd like you to get accustomed to the logical development of an argument, so please try to read various articles in addition to those in the textbook.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

花崎 一夫

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的な文章を読むために必要となる基本的な語彙力・文法力・構文解析力を養成することによって、英語の読解力の向上を図る。語彙のついでには理工系の語彙を幅広く学習する。文法と構文解析については、既習知識を活用して学術的な英文を読む力を養う。また、英語の文章を迅速かつ正確に読み進めることができる力を養成することを目指す。

【到達目標】

- ①アカデミックな内容の英文を正確に理解できる。
- ②アカデミックな内容の文章でよく使われる単語や表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは、AI までの道のりをわかりやすく記述した英語のエッセイです。1 回の授業で 1 ユニットを読む予定です。初回の授業時に各ユニットの担当者を決め、各学期に 1 回は授業内で発表してもらいます。また、毎時間、各ユニットの英文の内容に関連する課題を各自やってもらいます。それに対するフィードバックは次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。そのほかの細かい授業内容については初回の授業時にお話する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	授業の内容と進め方の説明。
第 2 回	Unit1 How Far Can Tech Take Us?	テクノロジーの発達によって我々がどこまで到達できるかについて考察する。
第 3 回	Unit2 Extending Both Muscle and Brainpower	筋力とともに考える力を人間がどのようにに発達させたかを考察する。
第 4 回	Unit3 Agriculture: A Mistake?	農業の発達は過ちだったのか否かを考える。
第 5 回	Unit4 Architecture: Building Upward	建築の発達について考察する。
第 6 回	Unit5 Building Better Brains: Technology and Thinking	人間がどのように考える力を身につけたかについて考察する。
第 7 回	Unit6 A Time of Technological "Miracles" and Geniuses	科学技術上の奇跡と天才たちについて考察する。
第 8 回	Unit7 Gutenberg's Printing Press: The First Information Age	グーテンベルクの印刷機の持つ意味について考察する。
第 9 回	Unit8 "The Turk": An Ingenious Trick	「トルコ人」という発明品について考察する。
第 10 回	Unit9 The "Luddites": What Were They Fighting Against?	ラダイト運動の意味について考察する。
第 11 回	Unit10 Energy: Why the 20th Century Stands Out	エネルギーの歴史について考察する。
第 12 回	Unit11 The Automobile: Bridging Two Ages	自動車が発明された意義について考察する。
第 13 回	Unit12 How Mass Media Shaped Our Ideas About AI	マスメディアがどのようにして AI についての考えを形成したのかについて考察する。
第 14 回	まとめ	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

1. テキストの指定箇所を毎授業前に必ず予習する。
- 授業中に本文の内容に関する発表をしてもらうことを予定している。その際には、テキストの内容を簡潔にまとめるだけでなく、英語の語法などで問題になりそうなところを指摘できるようにする。発表してもらった内容をベースに、皆で議論をできるようにする。
2. 授業後は、授業内容を復習して理解を深める。

【テキスト（教科書）】

The Road to AI Mankind's Technological Journey 金星堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題 50%

定期試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんに課題をやってもらうことで、本文の内容がどの程度きちんと理解できているのかが明確になりました。

【Outline (in English)】

This class aims at improving students' academic reading ability through the acquirement and development of extensive vocabulary, accurate grammatical knowledge and sentence structure analysis skills. As for vocabulary development, this class focuses on comprehending and mastering a wide variety of vocabulary and useful expressions in the science and engineering fields. As for the instruction of grammar and sentence structure, it emphasizes the application of previous knowledge to read actual academic English materials rapidly and concisely. By the end of the course, students should be able to attain the basic academic reading ability.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50% academic reading ability.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生諸氏が英語の語彙力と文構造をとらえる力を高めて、国際的な舞台で必要とされる読解力を身に着けることである。

そのために欠かせないのが、英文の文脈はもちろん、現代世界の文脈の中に英文を据えて、適切に理解していく作業である。学生諸氏は、英文を丁寧に正確に理解する作業とを行いながら、文法や語彙の復習、拡充を行うとともに、背景となる知識に関する視聴覚教材の理解や簡単なリサーチ、英語での発表、小テストなどの作業を通じて、より実践的な力を養っていく。

【到達目標】

グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。

またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。

高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 読み物については、

現代の社会、また世界において重要なテーマを1～2選び、関連する資料を学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、読み物のテーマについての説明も、学生さんに英語で行ってもらったり、また教師からも随時行う。

2. テーマに関連する視聴覚材料をネット等で聞き、内容確認等を行う

3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テスト、ないし訳の修正や意見文の作成を行ってもらう。

4. 4. 1～3の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi に提出されたものを評価して返却、もしくは授業時に総評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第2回	トピック1：（社会や時代の変化に添って新たに選りなおすが、以下は昨年度の例である）Amid Summer of Fire and Floods, A Moment for Climate Action(The Washington Post)-1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第3回	Amid Summer of Fire and Floods, A Moment of Truth for Climate Action(The Washington Post)-2	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第4回	Amid Summer of Fire and Floods, A Moment of Truth for Climate Action(The Washington Post)-3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第5回	Amid Summer of Fire and Floods, A Moment of Truth for Climate Action(The Washington Post)-4	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第6回	review test-1 トピック-2 What Car Shows May Look Like, If Car Shows Have a Future(the New York Times)-1 EVへのシフトに揺れる自動車業界	前回までの表現の応用の復習テスト 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介

第7回	What Car Shows May Look Like, If Car Shows Have a Future-2	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第8回	review test-2 トピック3：Our Government Forgot Young People (The Financial Times)-1 ドイツ総選挙:政治を動かす若者の声	前回までの表現の応用のテスト 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第9回	Our Government Forgot Young People-2	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第10回	Our Government Forgot Young People-3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第11回	review test-3 トピック-4 The Great Resignation Is Finally Getting Companies to Take Burnout Seriously. Is it Enough? (TIME)-1	重要語句、表現の確認 前回までの表現の応用のテスト 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第12回	The Great Resignation Is Finally Getting Comp a nies to Take Burnout Seriously. Is it Enough?-2	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認。
第13回	The Great Resignation Is Finally Getting Comp a nies to Take Burnout Seriously. Is it Enough?-3	和訳/リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第14回	review test-4	前回までの表現の応用の復習テスト 資料に基づく意見文の発表、交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。

2. 読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。

3. 各トピックごとに復習テスト、もしくは訳の修正を行うように準備をする。

4. 全体的なテーマに関連した短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】

初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】

参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

予習としての和訳、リサーチ☑%、授業での作文などへの積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正や意見文 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

現代の世界の様々な側面を広く知ること意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

【Outline (in English)】

This course has two major objectives.

One of them is to help students acquire the level of English reading skills and vocabulary required of well-educated persons on international settings.

The other objective is to help students broaden their perspectives as members of international community through dealing with English materials that expose them to contemporary global issues.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. carefully read assigned part of the materials.

2. Summarize a short audio-visual material.

3. A research on relevant topics.

After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted. You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.

Your required study time outside of classroom is at least one hour for each class.

Final grading will be decided based on your preparation for class (20%), contribution to class through presenting researches and opinions (20%), and review tests(60%).

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

ALAN D MORGAN

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

GRADING CRITERIA

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples

2	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 7 - Collocations Population Trends
3	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 7 - Collocations Global Migration & Expansion Reading
4	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information The Growth of Cities
5	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information Challenges Facing the World's Cities
6	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study The Design of Everyday Objects
7	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study Ergonomics
8	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading The design of Living Spaces
9	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading Fashion
10	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) Brain Development and Function
11	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) The Teenage Brain
12	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test The Male and Female Brain
13	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test Addiction and The Brain
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

【テキスト（教科書）】

Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ¥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

【参考書】

English-Japanese dictionaries

Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback following a thorough explanation of the assignment structure was very positive. An initial non-graded assignment phase has been added for students to check their understanding to eliminate misunderstandings of the tasks that may affect a final grade unduly.

【学生が準備すべき機器他】

The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

GRADING CRITERIA

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

The purpose of this course is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

【到達目標】

一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期末レポートのフィードバックとガイダンス	春学期末レポートのフィードバックを行い、本学期のガイダンスを実施する。
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読 アインシュタインの一般相対性理論について
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題 運動を表す動詞 「原因・理由」を表す副詞節
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読 原子の世界について
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題 運動の方向を表す表現「結果・程度」を表す副詞節
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読 星間旅行について
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題 測定・計量を表す動詞「譲歩」を表す副詞節
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読 核融合について

⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題 グラフ・図表の英語表現 比較の表し方
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約 基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約 ナノテクノロジーについて 主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ。
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約 基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約 ヒトの遺伝子編集について 「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約 応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約 量子コンピューターについて 全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約 応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約 ヒトと AI の共存について 背景知識の活用
⑭	学期末レポート課題の提示	学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

【テキスト（教科書）】

前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%) 授業への積極的な参加・貢献 (10%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様質問があれば、気軽にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】

学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.

- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.

- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

児玉 真希

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

- 1) 英文を正確に迅速に読める力を身につける。
- 2) 語彙力と英文法の向上を図る。
- 3) 科学論文を読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深めることに努めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures
2	Chapter 6A	Behind the scenes
3	Chapter 6B	Every picture tells a story
4	Chapter 7A	Live and learn
5	Chapter 7B	The hotel of Mom and Dad
6	Mid-term course review 1	Reading quiz
7	Chapter 8A	The right job for you
8	Chapter 8B	Have a nice day!
9	Chapter 9A	Lucky encounters
10	Chapter 9B	Digital detox
11	Mid-term course review 2	Reading quiz
12	Chapter 10A	Idols and icons
13	Chapter 10B	And the murderer is...
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・各授業後に学習した内容を復習し、隔週ある小テストに備える。
- ・授業内で出された課題をこなし、学習した内容を定着させる。

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert, Paul Seligson, Kate Chomacki, American English File Level 3, 3rd Edition (Oxford University Press) ISBN 978-0-19-490662-3

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30%), 学期末テスト (20%), 課題提出 (30%), 授業への積極的な参加姿勢 (20%)

60 パーセント以上で単位習得となる。原則として 半期で 4 回欠席した場合、単位は認めない。遅刻・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。オンライン教材のための PC。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。

指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 Course Outline】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

【到達目標 Learning Objectives】

By the end of this course, students will build required vocabulary and grammatical skills to read scientific journal articles. Students will also improve their reading speed and be able to understand the text more accurately.

【授業時間外の学習 Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare and review the materials covered in class for approximately an hour.

【成績評価の方法と基準 Grading Criteria /Policy】

Quizzes (30%), Final exam(20%), Assignments (30%), Active in-class participation(20%)

In order to pass the class, students must exceed 60% of the grading criteria. Students cannot pass the class if they miss more than four classes. Two tardies and/or leaving early without a valid excuse are counted as one absence.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

中野 里美

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

This course also seeks to promote reading skills and promote critical thinking skills to read these global issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

To begin with, students will be given TOEIC reading as warm-up handouts, then read the textbook, and finally be given some comments. Feedback about the classes will be carried out on the last week.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Reading global issues	Why Japan's more female future may not be more equal
第 2 回	Reading global issues	Naomi Osaka rises from shy youngster to four-time Grand Slam champion
第 3 回	Reading global issues	Ready or not, Hideki Matsuyama is now a national hero
第 4 回	Reading global issues	Digital dating
第 5 回	Reading global issues	K-pop's social media power spurs Thailand's youth protests
第 6 回	Reading global issues	Worker deaths put big tech in China under scrutiny
第 7 回	Reading global issues	WFA: It's just the new lexicon of work
第 8 回	Reading global issues	Paint, poems, and protest anthems
第 9 回	Reading global issues	A life in opposition
第 10 回	Reading global issues	In Afghanistan, a booming kidney trade preys on the poor
第 11 回	Reading global issues	In Iraq, where beauty was long suppressed
第 12 回	Reading global issues	Two American tied to Carlos Ghosn's escape are extradited to Japan
第 13 回	Reading global issues	Mining magnets
第 14 回	Review	term-end exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Students will need to be prepare and review for the textbook before and after this class.

【テキスト（教科書）】

English through the news media: 2022 Edition by Masami Takahashi
Asahi Press
¥1870

【参考書】

Participants will be given information of references in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end examination 50%, and tasks in this class 50%

半期の欠席 4 回以上（4 回含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書や日付とフルネーム入りの領収書を持参すること）は考慮します。遅刻は授業開始 2 0 分以降の入室から。3 回目の遅刻で 1 回欠席に換算します。遅延証明書は当日の授業内持参のみ考慮します。授業内課題テスト (50%) と期末テスト (50%の 50 点満点) を合計して 1 0 0 % とし評価します。

【学生の意見等からの気づき】

There is no particular pointing out to be improved, so I would like to do the best as much as I can. If you have any questions, please feel free to ask them in the class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディングⅠ

荒木 友嗣

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期に引き続き、科学諸分野で一般にも注目される先端的研究成果を英語で読み、不可欠な語法や表現の理解を深め確認しながら、科学諸分野で、あるいはより広い意味でも、有用な英語読解力を養うことを目的とする。

【到達目標】

英国の著名な科学雑誌 *nature* のウェブサイト記事 *Nature News* から、先端のかつ身近で興味をそそる科学関連ニュース・トピック（分野としてはバイオテクノロジー、化学、途上国問題【医療】、医薬など）を読む。そして内容理解や語彙・表現の問題に答え、さらに追補記事なども読みながら、当該各分野で、またより広く科学全般において有意義かつ有用な英語読解力を身につけたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

使用するテキストでは、毎 *unit*、主題を導入する英語の文章（日本語私訳を配付予定）や記事本体に加え、各種練習問題も豊富に用意されており、授業では一つの主題（一つの *unit*）につき 4 回分くらいを費やしてじっくりと進めていく予定である。

授業は基本的には受講者の挙手による応答によって進められる。座席は指定とする。なお、各 *unit*、少なくとも 1 回の課題が出される。課題については、提出期限後おそからず、全体に対する記述例の提示や確認のためのやり取りを行うことによってフィードバックする。この課題の実施・提出状況は平常点として算定される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期開始にあたって	春学期の授業を振り返る 秋学期の授業ガイダンス
2	Unit 7 ①	Colour blindness corrected by gene therapy: Reading
3	Unit 7 ②	Colour blindness corrected by gene therapy: Reading
4	Unit 7 ②	Colour blindness corrected by gene therapy: Exercises
5	Unit 7 ②	Colour blindness corrected by gene therapy: Exercises
6	Unit 9 ①	Malaria becoming more drug resistant: Reading
7	Unit 9 ②	Malaria becoming more drug resistant (or, Brain scan all: Reading
8	Unit 9 ③	Malaria becoming more drug resistant: Exercises
9	Unit 9 ④	Malaria becoming more drug resistant: Exercises
10	Unit 11 ①	Ocean mercury on the increase: Reading
11	Unit 11 ②	Ocean mercury on the increase: Reading
12	Unit 11 ③	Ocean mercury on the increase: Exercises
13	Unit 11 ④	Ocean mercury on the increase: Exercises

14 まとめ

学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。準備学習等によっても不明な箇所はなるべく放置せず、必要に応じて質問に来て解決すること。なお、学期の始めに教科書（テキスト）学習予定各 *unit* の「導入部（Introduction）」の日本語私訳を配付するので参考にするとよい。

【テキスト（教科書）】

Kevin Cleary, 鈴木佑治他, 共著, *Science Reader: in Association with Nature II*（最先端の科学ニュースを読む（2））Macmillan Languagehouse 2000 円（税別）

【参考書】

英語辞書（電子可）を持参すること。他には必要に応じて適宜文献を紹介、あるいは資料を配付する。新聞、雑誌（ネットを含む）の科学記事に目を通す習慣を付けるとよい。

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %（挙手応答 20 %、課題等 30 %）、学期末試験 50 % として、全体の 60 % 以上の取得者に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

やはり丁寧なフィードバックが課題である。

【Outline (in English)】

1[授業概要（Course outline）]

Students of this course will read popular topics on ground-breaking achievements in natural sciences, in the compiled textbook from *Nature News* website. To have a more valid understanding of the news topics, students will also deal with doing certain exercises and reading supplementary articles.

2[到達目標（Learning Objectives）]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to have a certain ability to read a scientific article/essay based on their necessary vocabulary and expressions, steadily following its context.
2. to have a more positive reading attitude toward scientific topics with deeper understandings and interests in the concerning fields.

3[授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and handle with assignment tasks. Incidentally, students will be able to refer to the Japanese translation of introductory articles that will be handed beforehand at around the beginning of the term.

4[成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、unit assignments : 30%、in class contribution: 20%

(At least 60 % of all is required for grading.)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

川島 多加子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

- ・英語の論理構成や文脈を把握しながら英文が読める。
- ・400 語レベルの科学記事のおよその内容が理解できる。
- ・スキミングとスキニングの技法を習得し速読できる。
- ・読んで理解したものを簡潔に説明できる。
- ・短い会話やトークを聞いて理解することができる。
- ・各単元で扱った文法・語彙を使って表現できる。
- ・各単元で扱った課題をグループやクラスで討議し理解を深め、問題解決ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、リスニング・スピーキング、語彙・文法項目の確認、科学記事の内容理解の確認、課題演習を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。また、学生 1 人ひとりが発言できるように授業を進めるため、毎授業、必ず 1 人 1 回以上は発言する場がある。

・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。最終授業回では、講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験、課題などを含めた総括的講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Course Overview Goal Setting
2	Unit 9	Extreme Weather and Climate Change
3	Unit 10	Virtual Reality in Medicine
4	Research Project	Explanation of Research Project What's a presentation?
5	Unit 11	Should we fear intelligent machines?
6	Unit 12	Megacities
7	Review and Midterm Exam	Review of units 9-12 Test taking
8	Unit 13	De-Extinction Submission of outline
9	Unit 14	Muon Imaging: Using Physics to See the Unseen Teacher's feedback
10	Unit 15	Our Clean Future
11	TED Talks	Video watching, worksheet, rehearsal
12	Individual Presentations	Individual presentations, peer review
13	Individual Presentations	Individual presentations, peer review, submission of speech script
14	Review and Final Exam	Review of units 13-15, reflection, test taking

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味や発音を確認すること。
- ・復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・教科書の英語の本文については、必ず、オーディオを聞いて音読すること。

【テキスト（教科書）】

- ・Andrew E. Bennett, Science and Tech Sense, Nan'un-DO, 2,200 円＋税、ISBN: 9784523178842
- ・新田亜紀子, 『English for Business Communication / 5 分間ビジネスコミュニケーション』, 南雲堂, 700 円＋税、ISBN: 9784523178705
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

- ・到達度チェックテスト 60% (30% × 2回)
 - ・発表課題 30% (発表20%、スクリプト10%)
 - ・クラス内課題取り組み状況 10%
- ※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2% 減、遅刻 1 回につき 1% 減とする。
※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業の進捗によって、シラパスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

【Outline (in English)】

The course is designed to improve students' reading abilities through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Students will enhance their reading competence through the integrated curriculum of listening, reading, speaking and writing as well as through group activities and various tasks.

By the end of the course, students will be able to increase their reading speed and comprehension of academic articles, improve their reading fluency skills through extensive reading, develop their vocabulary and grammatical knowledge, and develop abilities as critical thinkers, readers and writers.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (10%), research project (30%), midterm and final exams (60%).

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

福澤 レベッカ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

このクラスは、アカデミックな内容を読むための準備にあたるものである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学生は英語でアカデミックな研究論文を読むために必要な技術や方法を伸ばし、洗練させる。これには一般的な読解能力をつけるためのトップダウン的アプローチと、単語力をつけ文法的形式の再認識を伸ばすボトムアップ的アプローチの両方が含まれている。科学関連のトピックをテキストとして選定するのが本コースの中心となる部分であるが、リスニング、スピーキング、ライティング演習を含めて、科学関連以外の分野からの読み物も時折使用する。提出された課題・クイズ、期末試験については採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Unit 9–Gambling on the Dreamliner	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
2 回	Unit 9–Gambling on the Dreamliner	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
3 回	Unit 10–Wrap around Cinema	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
4 回	Unit 10–Wrap around Cinema	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
5 回	Unit 11–Robotic Seniors	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
6 回	Unit 11–Robotic Seniors	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
7 回	Unit 12–Restoring the Ruins	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
8 回	Unit 12–Restoring the Ruins	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
9 回	Unit 13–Fight against AIDS Continues	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
10 回	Unit 13–Fight against AIDS Continues	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
11 回	Unit 14–Get Wells Soon!	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問
12 回	Unit 14–Get Wells Soon!	宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練
13 回	Unit 16–Space Shuttle's Final Farewell	導入演習、語彙の紹介、ディクテーション、基礎的なリスニング訓練、様々なリーディング方法、理解力を試す質問

14 回 Unit 16–Space Shuttle's Final Farewell

宿題の答え合わせ、理解の細かいチェック、グループでの文章の訳、ディクテーション、詳細を聞きとる訓練

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リーディングの復習と理解チェック、3文の訳、授業支援システム上のリスニング

【テキスト（教科書）】

Mukuhira, et al. AFP Science Report: A F P で知る科学の世界。成美堂
とプリントを用意する。さらに、プリントを用意する。

【参考書】

辞書

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、宿題 (30%) 小テスト、課題 (30%)、期末試験 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は本講義を担当していない。

【学生が準備すべき機器他】

PC を用意する。

【Outline (in English)】

Outline:

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Learning Objectives:

The purpose of this class is to establish basic competence in reading academic level English thorough analysis of grammar, development of vocabulary and knowledge of writing structure.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework which includes listening, vocabulary, translation and reading assignments.

Grading Criteria:

In-class activities & Homework (30%), Quizzes and Projects (40%), Final exam (30%)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

- ・十分な語彙力、文法力を身につける。
- ・パラグラフの論理展開や文脈を把握しながら、英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習して分からなかったところなどを確認しながら、テキストの内容を確認します。リスニングや音読、作文、文法事項の確認なども交えます。また、語学は反復が重要ですので、随時小テストを行い、前回の授業で学んだことの定着を図ります。小テストで誤りが多かった問題は翌週の授業で解説します。そのほか授業中に出た質問もできるかぎり解答し、フィードバックを図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習の仕方について説明する
2	Unit 7 (1)	Hayabusa 2: A triumph for Public-Private Exploration
3	Unit 7 (2)	Hayabusa 2: A triumph for Public-Private Exploration
4	Unit 8 (1)	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes
5	Unit 8 (2)	Dr. Naoyuki Kawahara and Rocinantes
6	Unit 9 (1)	Biomimicry in Japanese Design
7	Unit 9 (2)	Biomimicry in Japanese Design
8	Unit 10 (1)	What Plagues Us
9	Unit 10 (2)	What Plagues Us
10	Unit 11 (1)	A Cup Full of Ideas
11	Unit 11 (2)	A Cup Full of Ideas
12	Unit 12 (1)	Inclusion for Innovation
13	Unit 12 (2)	Inclusion for Innovation
14	まとめ・期末試験	授業内容を振り返り、期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・語学では予習が決定的に重要です。辞書を引きながら丁寧に読み、設問も解いて、「どこが分からないのか」が分かるようにしてきてください。
- ・各ユニットの復習を目的として小テストをおこないますので、準備をして臨んでください。
- ・授業中に暗唱をしますので、授業外でも練習をしてください（練習方法は指示します）

【テキスト（教科書）】

松尾秀樹ほか『リーディング・インサイト：科学技術の多様な側面を考える』（三修社）

その他、プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%
期末試験 70%
授業参加 10%

- *交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮します。ただし一学期につき 3 回を上限とします。
- *正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、不可とします。
- *予習が不十分な場合、または授業に参加する意欲が見られない場合、出席とみなさないことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

私語をする受講生を注意してほしいとの意見がありましたので、静かな教室環境の維持に努めます。

【その他の重要事項】

授業にはかならずきちんとした辞書を持参してください。

なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望を踏まえて、シラバスの内容を修正することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Preparation is crucial in language learning. The students are required to understand the meaning of every word as well as the grammatical structure of every sentence. A quiz is given every two weeks to help build the vocabulary.

The final grade will be calculated based on the final exam (70%), quizzes (20%), and class participation (10%).

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

The purpose of this course is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

【到達目標】

一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期末レポートのフィードバックとガイダンス	春学期末レポートのフィードバックを行い、本学期のガイダンスを実施する。
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読 アインシュタインの一般相対性理論について
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題 運動を表す動詞 「原因・理由」を表す副詞節
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読 原子の世界について
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題 運動の方向を表す表現「結果・程度」を表す副詞節
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読 星間旅行について
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題 測定・計量を表す動詞「譲歩」を表す副詞節
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読 核融合について

⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題 グラフ・図表の英語表現 比較の表し方
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約 基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約 ナノテクノロジーについて 主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ。
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約 基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約 ヒトの遺伝子編集について 「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約 応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約 量子コンピューターについて 全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約 応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約 ヒトと AI の共存について 背景知識の活用
⑭	学期末レポート課題の提示	学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

【テキスト（教科書）】

前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%) 授業への積極的な参加・貢献 (10%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様質問があれば、気軽にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】

学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.

- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.

- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

梨本 邦直

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

この授業では、以下の 4 つを主な目標とします。

- 1) 個々の文を正確に理解する。
- 2) パラグラフの構成を理解する。
- 3) 難しい語彙の簡単な英語の言い換えができる。
- 4) 1～3 を発展させ、批判的思考力・分析力を養う。

At the end of this course, students will be able to:

- understand the grammar and meaning of each sentence in the context
- understand the paragraph structure of the text
- rephrase new words in plain English
- think critically about the topics of the TED presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、学生が予習・復習済みであることを前提に進む。

- ・復習課題でわからなかった箇所を確認し、授業中にフィードバックをする。
- ・リーディングを中心としつつ、適宜リスニング（動画視聴）、ライティングなども含め英語運用能力を総合的に高めるアクティビティを行う。

This class will be carried out on the assumption that each unit has been prepared, and the previous units reviewed by the students.

- ・Students will be asked to submit online exercise questions of the text each week. The feedback of the exercises to students will be done in class every week.

- ・Reading aloud is essential to improve your English in both preparation and review.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Reading Explorer 2, Unit 7A	Dollars and Scents: The Flower Trade
2	Reading Explorer 2, Unit 7B	Dollars and Scents: The Power of Perfume
3	Reading Explorer 2, Unit 8A	Great Explorers: An Incredible Journey
4	Reading Explorer 2, Unit 8B	Great Explorers: The Travels of Ibn Battuta
5	Reading Explorer 2, Unit 9A	Identity: The Teenage Brain
6	Reading Explorer 2, Unit 9B	Identity: Seeing Double
7	Mid-semester Exam	Review of Units 7-9
8	Reading Explorer 2, Unit 10A	Facing Change: The Big Thaw
9	Reading Explorer 2, Unit 10B	Facing Change: Life on the Edge
10	Reading Explorer 2, Unit 11A	Fact or Fake?: The Knowledge Illusion
11	Reading Explorer 2, Unit 11B	Fact or Fake?: The Limits of Lying
12	Reading Explorer 2, Unit 12A	Going to Extremes: The Dream Flight
13	Reading Explorer 2, Unit 12B	Going to Extremes: Dark Descent
14	Final Exam	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・予習として音読を必ずする。
- ・予習の段階でわからない箇所を明確にしておく。

- ・多様な媒体（本・雑誌・ソーシャルメディア等）で、教科書のテーマに関連のあるトピックを調べ、英語のインプットを増やすこと。

- ・prepare for the texts and exercises before the class. Reading aloud is essential to improve your English

- ・take notes for any part of the text you cannot understand either in terms of pronunciation, grammar, or meaning beforehand, and ask the questions in class

- ・use the internet to find the topics related to the TED presentation, and increase your English vocabulary and boost your understanding of the topic.

【テキスト（教科書）】

Paul Macintyre and David Bohlke, Reading Explorer 2, 3rd Edition (Cengage Learning)

【参考書】

教科書サイト <https://eltngl.com/sites/reading-explorer/home>

【成績評価の方法と基準】

Assignments : 30%

Mid-semester test : 20% (scheduled around Week 8)

End-of-semester exam : 50%

Each student will be asked to read aloud the passage of about 200 words at the mid-semester test.

The end-of-semester exam will cover Units 4-6.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必ずテキストと辞書を持参する。（電子辞書・紙媒体の辞書のどちらも歓迎）

【その他の重要事項】

- ・クラスの進行具合に合わせて授業スケジュールを調整することがある。

- ・初回の授業で予習の仕方を説明するので、それまでにテキストを入手しておく。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

川島 るり子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。

【到達目標】

パラグラフの論理展開、文法・構文を確認しつつ、学術的エッセイの内容を正確に把握する能力を養います。さらに、学術的文章に類する語彙を文脈から理解し、練習問題を通して定着させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの精読、大意把握を行うとともに、語彙・文法事項に関する学生の理解を確認します。小テスト・練習問題を適宜課し、語彙の定着を図ります。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業を予定していますが、感染症の状況によりオンライン授業となる場合もあります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 9: Work Space Design	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 2 回	Chapter 9	練習問題
第 3 回	Chapter 10: The Meaning of the Chair	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 4 回	Chapter 10	練習問題
第 5 回	Chapter 11: The Ergonomics of Sitting	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 6 回	Chapter 11	練習問題
第 7 回	Chapter 13: Exploding Sales for Bottled Water	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 8 回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第 9 回	Chapter 14: The Dying Lake	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 10 回	Chapter 14	練習問題
第 11 回	Chapter 15: Water Politics in the Middle East and North Africa	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 12 回	Chapter 15	練習問題
第 13 回	Chapter 17: Food Habits and Beliefs	テキストの精読・大意把握 語彙・文法事項確認
第 14 回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
当該授業で扱う章を予習（テキストの精読・大意要約）し、授業内容を復習します（各2時間）。予習してわからない点は、授業で質問できるようにしておきましょう。

【テキスト（教科書）】

Focus on Vocabulary 2: Mastering the Academic Word List, Diane Schmitt & Norbert Schmitt, Pearson Longman, 2011
ISBN 978-0-13-137617-5

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 2 回の復習テスト 90 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese.

Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each chapter, students are given vocabulary exercises to check for understanding.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and two review exams (90%).

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

尾関 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期に続き学術的文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによってリーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

1 英文を正確にとらえる。文法を正確に理解し、使われている言葉のニュアンスを確認する。自分のかつてない思い込みで英文をとらえないことがまず大切です。 2 情報を整理する。書かれていることを図式化するなど整理することで著者のいわんとしていることがはっきりと見えてきます。歴史的背景を調べたりすることで文の背後にある世界も理解したうえで文脈をとらえます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前期に続き毎回一章分を精読する。書かれている文章を正確にとらえたうえでエクササイズを実施し各自の読解に問題がなかったかを確認する。後半では一つのテーマでかなり長い英文を使用し読解する。エクササイズの一部を提出し、採点のうえ返却される。返却の際には各問への解答および解説を実施。どのような考え方で解答につながるのかを説明する。模範的な解答については良い例として公開、解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	unit 8	The Rise of Cities を読む。文明が生まれることと川との関係を知り、都市のもつ役割について考える。
2	unit 9	Trusting in Recorded History を読む。書かれた歴史について考察する。歴史への信頼をどのようにして捉えるのかを考える。
3	unit10	Battles on Board Games を読む。人間のもつ闘争本能と古来より存在するゲームとの関連を考える。
4	unit 11	How Democracy Works を読む。民主主義という政治システムの歴史を知り、抱える問題点を考察する。
5	unit 12	Marriage and the State を読む。婚姻と国家の関わりの歴史を概観する。
6	unit 13	The Meaning of Prayers を読む。「祈り」について様々の面からひとにとっての意味を考える。
7	unit 14	Mankind and Laughter を読む。笑うことと人間との多面的な関係を考察する。
8	unit 15	The Importance of Discipline を読む。社会のルールと家庭のしつけについてその関係性を考え、さらに宗教や徴兵制の問題からも規律のもつ意味を考える。
9	テキスト以外の英文による長文読解 1	英文読解 前期に紹介したパーシングという手段を用いて正確に文を読む練習を重ねる。
10	長文読解 2	パーシング練習のために続きの英文を読む。
11	長文読解 3	パーシング練習のために続きの英文を読む。
12	長文読解 4	パーシング練習のために続きの英文を読む。
13	長文読解 5	これまでの長文のテキストを読み終え、最後にその内容についての個々の考えをまとめる。
14	これまでのまとめ/試験	これまで学んだ内容を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テキスト読解、問題の予習をして授業に出席してください。読解後は自分の読解内容と比べ問題があるとしたらその原因を探る。

【テキスト（教科書）】

前期に同じ。TRANSCULTURE by Christopher Beloton and Koshi Odajima (Kinseido 2017 年 ￥1800)

【参考書】

必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

平常点 30% 提出物 15% テスト 55%

【学生の意見等からの気づき】

精読をする上で和訳をしてゆきますが、その和訳をすべて板書することはありません。授業の流れについてゆけない場合は遠慮することなくそのことを伝えてください。授業時間外でも結構です。

【その他の重要事項】

この授業を通して正確に英文をとらえる力をぜひつけてください。文法力や語彙力を活かし、構文解析に努める姿勢を忘れず文章を読みましょう。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English.

1. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.
 - 2.Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
 - 3.Your overall grade in the class will be decided based on the following.
- Term-end examination 55% quiz 15% in-class contribution 30%

LANe200LC

アカデミック・リーディングⅠ

安田 孝子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(概要)

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

(目的)

アカデミック・リーディングⅠと同様に、教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

【到達目標】

アカデミック・リーディングⅠ同様、様々な分野のエッセイを精読し、さらに音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

(進め方)

アカデミック・リーディングⅠ同様、テキストの Reading Part はクラス全体で毎時間、音読を行い、Reading Part については事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらいます。また、Reading Part 以外の Exercises はその場で指名した人に答えてもらいます。

(方法)

アカデミック・リーディングⅠ同様、授業では、「語彙力」と「読解力」の育成だけでなく、「速読力」「表現力」の向上をも狙い、「音読・シャドーイング」活動を大に行います。

また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 8	1. Chapter 7 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 2 回	Chapter 8	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 3 回 Chapter 9

第 4 回 Chapter 9

第 5 回 Chapter 10

第 6 回 Chapter 10

第 7 回 Chapter 11

第 8 回 Chapter 11

第 9 回 Chapter 12

第 10 回 Chapter 12

第 11 回 Chapter 13

1. Chapter 8 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

1. Chapter 9 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

1. Chapter 10 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

1. Chapter 11 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

1. 音声視聴 / Reading Part の音読

2. phrase reading で訳読

3. Exercises 解説

4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

1. Chapter 12 小テスト

2. 音声視聴 / Reading Part の音読

3. phrase reading で訳読

4. Exercises 解説

5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 12 回 Chapter 13	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回 Chapter 14	1. Chapter 13 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回 期末試験 (Chapter8 ~ 14) まとめ・解説	期末試験 後期学習のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥2,000+税

【参考書】

毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

Chapter 終了毎の小テスト (10 点 × 7 回 = 70) と中間・期末試験 (各 15 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-, C, C+, 7 割獲得で B-, B, B+, 8 割獲得で A-, A, A+, 9 割以上獲得で S とする。

【学生の意見等からの気づき】

「音読」トレーニングにより成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、さらなる読解力の発展を目指します。

【その他の重要事項】

- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・欠席は 3 回までは認めますが、それ以上の欠席については、必ず申し出ること。
- ・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
- ・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

Course outline)

This course deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based the following.

Mid-term exam : 20%(the date of mid-term exam is undecided)

Term-end exam : 20%

Short exams : 60%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

磯部 芳恵

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。TOEIC 教材を使用するリスニングの訓練も継続させる。

Some objectives for skills:

1. Improve reading speed and comprehension
2. Learn how to make summaries
3. Increase vocabulary skills

Some objectives for skills:

1. Improve reading speed and comprehension
2. Learn how to make summaries
3. Increase vocabulary skills

【到達目標】

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Why are Hurricanes Seasonal?	語彙、訳読。
2	Unit 7 Why are Hurricanes Seasonal?	内容理解問題、英作文。
3	Unit 8 Why does Food Rot?	語彙、訳読。
4	Unit 8 Why does Food Rot?	内容理解問題、英作文。
5	Unit 9 Why do Clocks Go Clockwise?	語彙、訳読。
6	Unit 9 Why do clocks Go Clockwise?	内容理解問題、英作文。
7	Review Unit 10	Unit 7-9 の復習。
8	Unit 10 Why is the Ocean so Salty?	語彙、訳読。
9	Unit 10 Why is the Ocean so Salty?	内容理解問題、英作文。
10	Unit 11 Why don't Skyscrapers Fall Over?	語彙、訳読。
11	Unit 11 Why don't Skyscrapers Fall Over?	内容理解問題、英作文。
12	Unit 12 Why does Fluoride Prevent Tooth Decay?	語彙、訳読。
13	Unit 12 Why does Fluoride Prevent Tooth Decay? TOEIC practice test	内容理解問題、英作文 TOEIC 模擬テスト。
14	Review & wrap up	秋学期の復習と授業内テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Reading: Preparation for the reading sections of the textbooks(2-4 hours)
 2. Summaries: Homework will be assigned.(2-4 hours)
- University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Science for Inquiring Minds(成美堂) 1,900 円。

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(30%), and assignments(10%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

The first goal of the course is for students to increase their knowledge of science about natural phenomenon. The second goal is for students to develop reading speed and comprehension and write logical summaries.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanations by the teacher
2. pair and group discussions
3. The textbook includes various activities including dictation and English composition.

Grading will be based on participation in class activities(30%), homework(30%), quizzes and tests(30%), and assignments(10%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe200LC

アカデミック・リーディングⅠ

安田 孝子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(概要)

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

(目的)

アカデミック・リーディングⅠと同様に、教育、経済、心理学、歴史、科学、言語などをテーマにしたエッセイを読み、専門的分野の文献を読解する力を強化することを目的とします。テキスト中のエッセイは比較的短く、一時間で読み切れる長さではありますが、アカデミックな語彙が豊富に含まれており、それら語彙の根本的な意味を深く追求しながら精読し、様々な表現力も養成します。

【到達目標】

アカデミック・リーディングⅠ同様、様々な分野のエッセイを精読し、さらに音読活動を徹底的に行いながら、アカデミックな語彙力の定着と読解力の向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

(進め方)

アカデミック・リーディングⅠ同様、テキストの Reading Part はクラス全体で毎時間、音読を行い、Reading Part については事前に指名した担当者に phrase reading で和訳してもらいます。また、Reading Part 以外の Exercises はその場で指名した人に答えてもらいます。

(方法)

アカデミック・リーディングⅠ同様、授業では、「語彙力」と「読解力」の育成だけでなく、「速読力」「表現力」の向上をも狙い、「音読・シャドーイング」活動を大に行います。

また、前回の授業で提出された課題については模範解答を提示し、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 8	1. Chapter 7 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 2 回	Chapter 8	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 3 回 Chapter 9

1. Chapter 8 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 4 回 Chapter 9

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 5 回 Chapter 10

1. Chapter 9 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 6 回 Chapter 10

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 7 回 Chapter 11

1. Chapter 10 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 8 回 Chapter 11

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 9 回 Chapter 12

1. Chapter 11 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 10 回 Chapter 12

1. 音声視聴 / Reading Part の音読
2. phrase reading で訳読
3. Exercises 解説
4. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 11 回 Chapter 13

1. Chapter 12 小テスト
2. 音声視聴 / Reading Part の音読
3. phrase reading で訳読
4. Exercises 解説
5. 音読トレーニング、シャドーイングなど

第 12 回 Chapter 13	1. 音声視聴 / Reading Part の音読 2. phrase reading で訳読 3. Exercises 解説 4. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 13 回 Chapter 14	1. Chapter 13 小テスト 2. 音声視聴 / Reading Part の音読 3. phrase reading で訳読 4. Exercises 解説 5. 音読トレーニング、シャドーイングなど
第 14 回 期末試験 (Chapter8 ~ 14)	期末試験 後期学習のまとめと解説 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
授業での音読トレーニングを効果的に行うためにも、各課のエッセイを予め予習し、必ず理解してから授業に参加すること。また、授業後は、各自で繰り返し音読をし、内容の理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

Introduction to Academic Reading (CENGAGE Learning) ￥2,000+税

【参考書】

毎時間英和辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

Chapter 終了毎の小テスト (10 点 ×7 回 = 70) と中間・期末試験 (各 15 点) で個人が獲得した点数を全て合計し、全体の 6 割獲得で C-,C,C+, 7 割獲得で B-,B,B+, 8 割獲得で A-,A,A+, 9 割以上獲得で S とする。

【学生の意見等からの気づき】

「音読」トレーニングにより成果を各自で確認するためにも、テキストのエッセイだけでなく、様々なトピックの英文素材を提供し、さらなる読解力の発展を目指します。

【その他の重要事項】

- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・欠席は 3 回までは認めますが、それ以上の欠席については、必ず申し出ること。
- ・遅刻は 20 分程度までは入室可ですが、30 分以上の遅刻の場合は入室を許可しません。
- ・授業態度の悪い受講者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や欠席、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・教科書は必ず購入すること。他人の教科書をコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

Course outline)

This course deals with essays with a variety of themes. Reading these essays (some of them are rather short) carefully enhances the development of students' skill in reading comprehension and increasing vocabulary.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to acquire the skill of reading fluently, increasing vocabulary and a variety of expression.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the reading part of the chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based the following.

Mid-term exam : 20%(the date of mid-term exam is undecided)

Term-end exam : 20%

Short exams : 60%(short exams will be held 6 times, ten for each)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

ALAN D MORGAN

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text. A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will be given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Classroom routines and procedures Assignment description and examples
2	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Collocations Population Trends
3	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 7 – Collocations Global Migration & Expansion
4	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information The Growth of Cities
5	THEME I: POPULATION CHANGE AND ITS IMPACT (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 8 Scanning for Specific Information Challenges Facing the World's Cities
6	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study The Design of Everyday Objects
7	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 9 Vocabulary Study Ergonomics
8	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading The design of Living Spaces

9	THEME II: DESIGN IN EVERYDAY LIFE (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 10 Taking Notes from a Reading Fashion
10	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 1)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) Brain Development and Function
11	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 2)	SKILLS AND STRATEGIES 11 Collocations (2) The Teenage Brain
12	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 3)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test The Male and Female Brain
13	THEME III: THE BRAIN AND BEHAVIOR (part 4)	SKILLS AND STRATEGIES 12 Preparing for a Reading Test Addiction and The Brain
14	FINAL TEST	FINAL TEST

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

At the end of each two-week period of study an assignment will be set for the student to select a short text extracted from a text based on their own interests relating to the themes of the units addressed in the class and answer pre-set questions about the text. This task is intended to take 45-60 minutes.

【テキスト（教科書）】

Making Connections 2 -Skills and Strategies for Academic Reading (second Edition) ¥3,000 - Jo McEntire & Jessica Williams (Cambridge) - ISBN 978-1-108-65782-2

【参考書】

English-Japanese dictionaries
Online language reference - collocation resources

【成績評価の方法と基準】

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback following a thorough explanation of the assignment structure was very positive. An initial non-graded assignment phase has been added for students to check their understanding to eliminate misunderstandings of the tasks that may affect a final grade unduly.

【学生が準備すべき機器他】

The students will need the textbook. Failure to bring the textbook to class will affect the students grade.

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。また、指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content.

The class is intended to help students use their existing skills more effectively and acquire new skills that enable them to read complex academic texts in English more productively. In this class, students will improve their strategic reading skills and build their academic vocabulary enabling them to use and understand academic texts more efficiently. To do this, the class will augment and develop their critical thinking skills, provide real-time practice of the skills and strategies taught. Assignments will encourage students to use the skills that they acquire and become more confident in accessing academic texts in English.

The rationale for differing strategic reading skills is presented at the beginning of each unit and exercises provided that show how these strategies are applied to academic texts. Each unit is made up of four units, two per class, in which the skills and strategies are applied. These are reviewed periodically as the course continues. The vocabulary used in the readings is then reviewed and approaches to systematic vocabulary building are developed. Each unit ends with examples of features typical in academic texts in English to help students find their way in longer and more complicated examples of academic text.

A short mini-test will be given after each unit on the vocabulary presented in the whole unit.

General feedback will be given based on results of the mini-tests, and specific personalised feedback will given in the form of comments and corrections given to students in returned assignments.

GRADING CRITERIA

Assignments 40%

Mini-tests 20%

Final Test 20%

Participation 20%

No credits will be given if the student is absent four times.

Arriving between 1 and 10 minutes late three times will be one absence.

Arriving 10- 30 minutes late will be noted as a half-absence

Missing more than 30 minutes of the class without adequate will be regarded as a full absence.

LANe200LC

アカデミック・リーディングⅠ

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成し、リーディング力の向上をはかる。文脈や文構造を考慮しながら、精読して正確に理解し、論理構造を理解した上で、全体を簡潔に要約することができる読解力の養成をめざす。

【到達目標】

To understand the contents of articles using basic vocabulary and grammar.

To understand the flow of explanation in the article and pick out important points.

To make up summary using your own words and check follow-up information on the topic.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

You will read the articles in the textbook, checking vocabulary, picking out key words/key sentences, making summary and giving your opinions on the topic. You will also be given vocabulary quiz for each unit.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	U.12 Saving the Kakapo	Check the structure of the article.
2	U.13 The Birth of Genetics	How to give support paragraphs
3	U.14 Coral Reefs	Pick out important examples (Check the supports.)
4	U.15 Life in Extreme Environments	Extract the important parts.
5	U.16 The Monarch Butterflies' Migration	Check the expression of showing the order of events.
6	U.17 Earth's Human Population	Pick out the disputing point.
7	U.18 Lasers	How to explain the structure of a device.
8	U.19 Renewable Energy	Pick out the important information.
9	U.20 Keeping Us Alive for Longer	Look into the history and check how to explain events.
10	U.21 Robots	Think about progress of science in everyday life.
11	U.22 Plastics	Pick out problems and disputing points.
12	Review on Basic Grammar	(プリント配布)
13	Review on Basic Grammar	(プリント配布)
14	学期のまとめ	Review for U.12-22

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You have to prepare for and review each unit for at least 2 hours. Check the vocabulary, pick out key words/key sentences and try to make up summary of the article with your own words (NOT just giving picked out sentences but paraphrasing with your own words.)

【テキスト（教科書）】

Our Place in the Universe 地球人類の進化と科学（成美堂） 1900 円

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: vocabulary quiz and assignments 70%
final Report 30%

You have to submit vocabulary quiz for each unit. Take care not to fail to submit the assignments and try to build up scores in order to get good results.

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit.

When you come late for classes 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

ヴォキャブラリークイズにあるような派生語に加えて、各自が短文を書いて語の使い方をチェックする短文ノートを作成することをおすすめします。長文を読んでまとめる際、文型や説明の仕方を自分なりにかみ砕いてわかりやすい表現になるよう練習しましょう。提出物を返却する際、ご質問があれば、授業前後にも対応いたします。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない

【その他の重要事項】

Please always carry your dictionary in the classroom and check words you don't know. Check not only the meaning of words but also the usage and sample sentences to build up vocabulary.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. You have to understand what the writer means, considering the context and structure of the article. Let's try to read various articles carefully and sum them up in easy and concise English.

LANe200LC

アカデミック・リーディングⅠ

花崎 一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1年次で身につけた基礎英語力を更に発展させ、この授業では特にアカデミック（学術的）な内容に関して英語で書かれた文章を正確に理解できるように学習します。

【到達目標】

- ①アカデミックな内容の英文を正確に理解できる。
- ②アカデミックな内容の文章でよく使われる単語や表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①担当者による本文内容の発表
- ②単語や表現の確認
- ③内容に関する活発な議論

上記のほか、毎時間、各ユニットの英文の内容に関連する課題を各自やって提出してもらいます。それに対するフィードバックは次の時間に行います。具体的には、皆さんが提出してくれた答案の中から良いものを取り上げて共有したり、理解が不十分な場合にはどこを修正すべきなのかについてコメントします。そうすることで英文の内容に関する理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Language and mind rethought
2	Chapter1	Language and mind rethought
3	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
4	Chapter2	Is human language unrelated to animal communication systems?
5	Chapter3	Are there language universals?
6	Chapter3	Are there language universals?
7	Chapter4	Is language innate?
8	Chapter4	Is language innate?
9	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
10	Chapter5	Is language a distinct module in the mind?
11	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
12	Chapter6	Is there a universal Mentalese?
13	Chapter7	Is thought independent of language?
14	まとめ	期末試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習／宿題：

- ①本文内容を事前に読み、授業内で内容を説明できるように準備する。
特に発表の担当者は、本文の重要な点について指摘し、それをもとにクラス内で議論ができるようにする。
- ②授業の内容に関する小テストを毎回やってもらうので、それにこたえられるようにしっかりと予習を行う。

【テキスト（教科書）】

The Language Myth

Vyvyan Evans 著

Cambridge University Press

アマゾンで電子書籍版が¥2581で

購入可能です。

ペーパーバックは2022年2月7日現在、¥3661となっております。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①小テスト・課題 50%
- ②期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんに課題をやってもらうことで、本文の内容がどの程度きちんと理解できているのかが明確になりました。

【その他の重要事項】

- ①授業には必ず辞書を持参すること（電子辞書可）
- ②初回授業にて、履修に関する注意点を説明するので、必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This class aims at improving students' academic reading ability through the acquirement and development of extensive vocabulary, accurate grammatical knowledge and sentence structure analysis skills. As for vocabulary development, this class focuses on comprehending and mastering a wide variety of vocabulary and useful expressions in the science and engineering fields. As for the instruction of grammar and sentence structure, it emphasizes the application of previous knowledge to read actual academic English materials rapidly and concisely.

By the end of the course, students should be able to attain the basic academic reading ability.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Assignments: 50% academic reading ability.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

小林 直樹

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

本授業は、英語で文章を書く能力を養成するためのクラスである。授業では文法的に正確なセンテンスを書くことから始め、様々なパラグラフ、エッセイを書く事を目標とする。また、それぞれの専攻内容についての英文を書くことも目標とする。

The aim of this class is to develop students' ability of English composition. The students will start from composing grammatically accurate sentences and next write various paragraphs and essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストの問題を中心に進めつつ、自分なりの英語の表現を学ぶように授業を進めます。オンラインで英作文の課題を課し、フィードバックを行うこともあります。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価の方法についての説明
第 2 回	Unit 1	品詞と文の要素
第 3 回	Unit 2	英語の文型
第 4 回	Unit 3	英語の文型
第 5 回	Unit 4	英語の時制
第 6 回	Unit 5	英語の時制
第 7 回	Unit 6	リスニングと英作文の練習
第 8 回	Unit 7	リスニングと英作文の練習
第 9 回	Unit 8	リスニングと英作文の練習
第 10 回	Unit 9	リスニングと英作文の練習
第 11 回	Unit 10	リスニングと英作文の練習
第 12 回	Unit 11	パラグラフの作成
第 13 回	Unit 12	パラグラフの作成
第 14 回	Unit 13	パラグラフの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
必ず復習をすること、そして指示された場合には予習をして授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing (Basic) (南雲堂)

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 学期末のレポート (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。学期末の試験の春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

英語の基礎をおろそかにせず学んでいきましょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic and higher writing ability. At the end of this course, students are expected to express about their major in English.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade will be decided on the following: term-end report 80% and in-class contribution 20%.

LANe200LC
アカデミック・ライティング
川島 多加子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

- ・明確な目的があり特定の読者に向けて、適切な語彙やスタイルで書くことができる。
- ・論理構成や段落分けを理解し簡潔で効果的な文章で書くことができる。
- ・書くプロセス（planning, outlining, drafting）に沿って書けるようになる。
- ・剽窃（plagiarism）を避けるために様々な引用の仕方を理解し使えるようになる。
- ・自分のエッセイやクラスメートのエッセイを読み直し、編集できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、ライティングの演習問題や科学・技術英語の英文を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。ピア編集を活用し、お互いの書いたものを校正、編集し、ライティングスキルの向上につなげる。また、教員と one-on-one で実施する個別フィードバックがある。
- ・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Course Overview Goal Setting
第 2 回	Choosing a topic	Logical sequencing: Japanese vs. English Paragraph structure Write a paragraph
第 3 回	Brainstorming	Main idea of a paragraph Checkpoints for paragraph, peer editing Revise and submit rough draft
第 4 回	Common Problems in Writing	Exercises Submit the final version (paragraph)
第 5 回	Organizing an Essay	From paragraph to essay Write an essay
第 6 回	Peer Editing of Essays	Checkpoints for essay, peer editing Revise and submit rough draft
第 7 回	Research Project	Explanation of research project Planning of research paper Submit the final version (essay)
第 8 回	Research Project	Organizing, creating, and delivering a presentation
第 9 回	Outlining	Writing an outline of research paper Submit the outline
第 10 回	Avoiding Plagiarism in Research	Using quotations, paraphrasing and summarizing, APA formatting and style guide
第 11 回	Peer editing of Research Paper	Checkpoints for research paper, peer editing Revise and submit rough draft
第 12 回	Individual Presentations	Presentations related to research paper Peer Review
第 13 回	Individual Presentations	Presentations related to research paper Peer Review

第 14 回 Feedback and Reflection

Teacher's feedback
Reflection
Submit the final version (research paper)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間程度を標準とする】

- ・小テストは指定された教科書の基本英文を中心に出题されるので、教科書、ワークシート等の該当部分の問題は各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
- ・3 種類のライティング課題は、全て、初稿提出 ⇒ ピア編集 ⇒ 書き直し ⇒ 最終稿提出で進んでいくので、期限までに初稿、最終稿を提出すること。
- ・リサーチプロジェクトは、テーマに沿って、様々なリーディング素材を英語で読みながらまとめていくので、しっかりと事前準備をして進めていくこと。

【テキスト（教科書）】

- ・篠田義明、『A Shorter Course in Scientific and Technical English / 5 分間科学・技術英語』、南雲堂、900 円＋税、ISBN: 9784523179375
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

- ・リサーチプロジェクト 50% （リサーチペーパー 30%、発表 20%）
- ・小論文 30% （最初の小論文 10%、2 回目の小論文 20%）
- ・小テスト、ピア編集、ピアフィードバック等を含む、クラス内課題取り組み状況 20%
- ※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2% 減、遅刻 1 回につき 1% 減とする。
- ※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
- ※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業では辞書が必要なので必ず持参してください。
- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、学生が企業で求める英語力を習得できるように支援します。

【Outline (in English)】

The course is designed to help students develop skills that enable them to communicate effectively in writing. Students will practice writing through assignments that ask them to plan, draft, revise and edit their essays over time.

By the end of the course, students will be able to: 1) write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices, 2) understand the planning, outlining and drafting process, 3) integrate sources accurately and effectively, 4) write in the style of an English-language academic essay, 5) read and edit their own and their peers' essays in order to improve them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (20%), writing assignments (30%), research project (50%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

荒木 友嗣

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語を外国語として学習する理工系学生のための中級用ライティング演習教材を使って、アカデミック・ライティング（あるいはパラグラフ・ライティング）に必須のパラフレイズや要約などの諸技能に主眼を置き、それらの技能を効果的に習得していくことを目的とする。

【到達目標】

この授業では、パラグラフ・ライティングはアカデミック・ライティングには必要不可欠であるとの基本認識のもとに、パラグラフの構成（形式）面での必須事項を踏まえつつ、各 Unit の扱う特定テーマについてパラフレイズや要約などの技能を訓練しながら、実際にパラグラフ・ライティングを書く能力の向上を図ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

使用するテキスト各 unit の前半では、アメリカの架空の大学の理工系教授・学生たちによる特定の話題の対話（Dialog）について Dictation を行い、Writing Tips（但し unit 1-6）を学習してから、後半のパラグラフ・ライティングの演習に進む、という構成である。授業時間数の制約上、unit につき基本的に 2 回、前半部分を選択的にを行い、後半部分を中心に（下記「課題」も含めて）実施していくことになる。

毎回の授業は基本的に学生の挙手・応答によって進められる。この挙手・応答の結果は平常点に換算される。

なお、期間中、使用テキストから各 unit 少なくとも 1 回の課題が出される。課題については、提出期限後おそからず、全体に対する記述例の提示や確認のためのやり取りを行うことによってフィードバックする。この課題の実施・提出状況は平常点として算定される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などに関する説明、諸注意など
2	Unit1 ①	Resources for Research [1]
3	Unit1 ②	Resources for Research [2]
4	Unit 2 / Unit 3 ①	My Ideal House [1] / The Subway [1]
5	Unit 2 / Unit 3 ②	My Ideal House [2] / The Subway [2]
6	Unit 4 / Unit 5 ①	Digital Privacy [1] / Using a Telescope[1]
7	Unit 4 / Unit 5 ②	Digital Privacy [2] / Using a Telescope[2]
8	Unit 6 / Unit 7 ①	Pros and Cons of Animal Testing [1] / The Campaign Against Smoking [1]
9	Unit 6 / Unit 7 ②	Pros and Cons of Animal Testing [2] / The Campaign Against Smoking [2]
10	Unit 8 / Unit 9 ①	Career Management [1] / Resume and Cover Letter [1]

11	Unit 8 / Unit 9 ②	Career Management [2] / Resume and Cover Letter [2]
12	Unit 10 / Unit 11 ①	Revising a Cover Letter [1] / The Abstract[1]
13	Unit 10 / Unit 11 ②	Revising a Cover Letter [2] / The Abstract[2]
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。準備学習等によっても不明な箇所はなるべく放置せず、必要に応じて質問に来て解決すること。

【テキスト（教科書）】

Michael Schulman, Hiroyo Yoshida, *Key English for Science: Writing Skills Level 2*（理系のための実践ライティング [レベル 2]）MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2014

【参考書】

英語辞書についてはさしあたり、一年時に使用したものを持参して活用するか、あるいは以下の例を参考にするとよい。電子辞書の使用も可。

『ジーニアス英和辞典』（第 5 版、大修館書店）

『ジーニアス和英辞典』（第 3 版、大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %（課題実施・提出状況 30 %、挙手応答 20 %）と学期末試験 50 %で、全体の 60 %以上の取得者に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業のみであったが、良好な学習状況であった。とはいえ、コロナ下のオンライン授業では、学生自身の頑張りや達成感に比してのフィードバックの不足感が学生の戸惑いを助長するものと感じた。

【Outline (in English)】

1【授業の概要（Course outline）】

Students of this course will effectively learn certain skills required as academic writing (paragraph writing in this case), focusing on such as paraphrasing or summarizing, using the high beginner/pre-intermediate level textbook for students in science and engineering major.

2【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To know how to describe matters and express their opinions,
2. To build up an adequate paragraph of certain, selected topics, all on their own academic surroundings.

3【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and/or handle with assignments.

4【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、unit assignments : 30%、in class contribution: 20%

(At least 60 % of all is required for grading.)

LANe200LC

アカデミック・ライティング

中野 里美

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

Students will be given skills to write essays and make a presentation in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Participants are expected to practice writing in English about some issues, make a presentation and finally write an essay. Feedback will be carried out every week in the mini-essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Explaining how to write an essay	Introduction and guidance
第 2 回	Learning how to write with handouts	Task 1:What is essay? Task 2:Writing what you think(based on this week's newspaper articles)
第 3 回	Learning how to write with handouts,	Task 1:What is paragraph? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 4 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: What is presentation? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 5 回	Learning how to write and the explicit correction	Task 1: The common errors Japanese students make (words) Task 2:Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 6 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students makes (words) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 7 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1: The common errors Japanese students make (phrases) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 8 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 9 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1:The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 10 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 11 回	Learning how to write with a presenter	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 12 回 Learning how to write and make a presentation Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 13 回 Learning how to write and make a presentation Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 14 回 Submitting an essay Review: Creating a polished essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Students will need to practice writing in English, be prepared for presentations, and write a final essay.

【テキスト（教科書）】

Participants will be given some handouts.

【参考書】

Participants will be informed of it in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end essay 50%, and tasks in this class 50%

出席重視。半期の授業のうち 4 回以上（4 回を含む）の欠席をもって評価の対象外とする。遅刻は授業開始 15 分以降の入室をもって遅刻とし、3 回目の遅刻を 1 回分の欠席に換算する。早退も同じ扱い。また授業中のタスク、エッセイライティング、プレゼンのオーディエンスとしての Q & A のボランティアなどにより総合的に評価します。プレゼン＋最終エッセイ 50%、平常点（毎回の自由英作文、Q & A など）50%＝計 100% となります。

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them.

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川島 多加子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

- ・明確な目的があり特定の読者に向けて、適切な語彙やスタイルで書くことができる。
- ・論理構成や段落分けを理解し簡潔で効果的な文章で書くことができる。
- ・書くプロセス（**planning, outlining, drafting**）に沿って書けるようになる。
- ・剽窃（**plagiarism**）を避けるために様々な引用の仕方を理解し使えるようになる。
- ・自分のエッセイやクラスメートのエッセイを読み直し、編集できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業計画に従い、グループワークやディスカッションを盛り込み、参加型の授業を実施する。具体的には、ライティングの演習問題や科学・技術英語の英文を、グループワークで実施し、クラス内で発表し相互理解を深める。ピア編集を活用し、お互いの書いたものを校正、編集し、ライティングスキルの向上につなげる。また、教員と **one-on-one** で実施する個別フィードバックがある。

・課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Course Overview Goal Setting
第 2 回	Choosing a topic	Logical sequencing: Japanese vs. English Paragraph structure Write a paragraph
第 3 回	Brainstorming	Main idea of a paragraph Checkpoints for paragraph, peer editing Revise and submit rough draft
第 4 回	Common Problems in Writing	Exercises Submit the final version (paragraph)
第 5 回	Organizing an Essay	From paragraph to essay Write an essay
第 6 回	Peer Editing of Essays	Checkpoints for essay, peer editing Revise and submit rough draft
第 7 回	Research Project	Explanation of research project Planning of research paper Submit the final version (essay)
第 8 回	Research Project	Organizing, creating, and delivering a presentation
第 9 回	Outlining	Writing an outline of research paper Submit the outline
第 10 回	Avoiding Plagiarism in Research	Using quotations, paraphrasing and summarizing, APA formatting and style guide
第 11 回	Peer editing of Research Paper	Checkpoints for research paper, peer editing Revise and submit rough draft
第 12 回	Individual Presentations	Presentations related to research paper Peer Review
第 13 回	Individual Presentations	Presentations related to research paper Peer Review

第 14 回 Feedback and Reflection

Teacher's feedback
Reflection
Submit the final version (research paper)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間程度を標準とする】

- ・小テストは指定された教科書の基本英文を中心に出題されるので、教科書、ワークシート等の該当部分の問題は各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
- ・3 種類のライティング課題は、全て、初稿提出 ⇒ ピア編集 ⇒ 書き直し ⇒ 最終稿提出で進んでいくので、期限までに初稿、最終稿を提出すること。
- ・リサーチプロジェクトは、テーマに沿って、様々なリーディング素材を英語で読みながらまとめていくので、しっかりと事前準備をして進めていくこと。

【テキスト（教科書）】

- ・篠田義明、『A Shorter Course in Scientific and Technical English / 5 分間科学・技術英語』、南雲堂、900 円＋税、ISBN: 9784523179375
- ・教員作成ハンドアウト配布予定

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

- ・リサーチプロジェクト 50 % （リサーチペーパー 30 %、発表 20 %）
- ・小論文 30 % （最初の小論文 10 %、2 回目の小論文 20 %）
- ・小テスト、ピア編集、ピアフィードバック等を含む、クラス内課題取り組み状況 20 %
- ※上記の評価に加え、欠席 1 回につき 2 % 減、遅刻 1 回につき 1 % 減とする。
- ※交通機関の乱れによる遅刻については、遅延証明がある場合は考慮する。
- ※正当な理由なく 5 回もしくはそれ以上欠席した場合、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、テスト、課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業では辞書が必要なので必ず持参してください。
- ・授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人財育成の実務経験に基づいて、学生が企業で求める英語力を習得できるように支援します。

【Outline (in English)】

The course is designed to help students develop skills that enable them to communicate effectively in writing. Students will practice writing through assignments that ask them to plan, draft, revise and edit their essays over time.

By the end of the course, students will be able to: 1) write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices, 2) understand the planning, outlining and drafting process, 3) integrate sources accurately and effectively, 4) write in the style of an English-language academic essay, 5) read and edit their own and their peers' essays in order to improve them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (20%), writing assignments (30%), research project (50%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

中野 里美

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

Students will be given skills to write essays and make a presentation in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Participants are expected to practice writing in English about some issues, make a presentation and finally write an essay. Feedback will be carried out every week in the mini-essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Explaining how to write an essay	Introduction and guidance
第 2 回	Learning how to write with handouts	Task 1:What is essay? Task 2:Writing what you think(based on this week's newspaper articles)
第 3 回	Learning how to write with handouts,	Task 1:What is paragraph? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 4 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: What is presentation? Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 5 回	Learning how to write and the explicit correction	Task 1: The common errors Japanese students make (words) Task 2:Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 6 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students makes (words) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 7 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1: The common errors Japanese students make (phrases) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 8 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 9 回	Learning how to write with comprehension checks	Task 1:The common errors Japanese students make (grammar) Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 10 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 11 回	Learning how to write with a presenter	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)

第 12 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 13 回	Learning how to write and make a presentation	Task 1: Formatting an original essay Task 2: Writing what you think (based on this week's newspaper articles)
第 14 回	Submitting an essay	Review: Creating a polished essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Students will need to practice writing in English, be prepared for presentations, and write a final essay.

【テキスト（教科書）】

Participants will be given handouts.

【参考書】

Participants will be informed of it in the class.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in this class will be decided based on the following, Term-end essay 50%, and tasks in this class 50%

半期の欠席 4 回以上（4 回含む）で、授業を放棄したとみなし、評価の対象外とします。公欠届、病欠（診断書、日付とフルネーム入りの領収書などを持参すること）は考慮します。遅刻は授業開始 15 分以降の入室から。3 回目の遅刻で 1 回欠席に換算します。遅延証明書は当日、授業内に持参すれば考慮します。毎回の自由英作文、平常点がプレゼン（自分の回&他の人への Q & A ボランティア）、最終 essay を総合的に評価します。プレゼン+最終エッセイ 50%、平常点（毎回の自由英作文、Q & A など）50%=計 100% となります。

【学生の意見等からの気づき】

If you have any questions, please feel free to ask them.

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

荒木 友嗣

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語を外国語として学習する理工系学生のための初級用ライティング演習教材を使って、アカデミック・ライティングに必須のパラフレーズや要約などの諸技能に主眼を置き、それらの技能を効果的に習得していくことを目的とする。

【到達目標】

この授業では、各 unit の扱う特定テーマについてパラフレーズや要約などの技能を訓練しながら、また、パラグラフ・ライティングがアカデミック・ライティングには必要不可欠であるとの基本認識のもとに、パラグラフの構成（形式）面での必要事項を念頭に置きながら、実際にパラグラフ・ライティングを書く能力の向上を図ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

使用するテキスト各 unit の前半では、アメリカの架空の大学の理工系教授・学生たちによる特定の話題の対話（Dialog）について Dictation を行い、後半のパラグラフ・ライティングの演習に進む、という構成である。授業時間数の制約上、unit につき基本的に 2 回で、前半部分を選択的にを行い、後半部分を中心に（下記「課題」も含めて）実施していくことになる。

毎回の授業は基本的に学生の挙手・応答によって進められる。この挙手・応答の結果は平常点に換算される。

なお、期間中、使用テキストから各 unit 少なくとも 1 回の課題が出される。課題については、提出期限後おそからず、全体に対する記述例の提示や確認のためのやり取りを行うことによってフィードバックする。この課題の実施・提出状況は平常点として算定される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業全般、辞書の活用などに関する説明、諸注意など
2	Unit 1 ①	The Audiovisual Corner [1]
3	Unit 1 ②	The Audiovisual Corner [2]
4	Unit 2 / Unit 3 ①	Amazing Inventions [1] The Sun is White [1]
5	Unit 2 / Unit 3 ②	Amazing Inventions [1] The Sun is White [1]
6	Unit 4 / Unit 5 ①	Online Social Networking [1] The Robotic Cleaner
7	Unit 4 / Unit 5 ②	Online Social Networking [1] The Robotic Cleaner
8	6/7	Water Survey [1]
9	Unit 6 / Unit 7 ①	Optical Illusions [1]
9	Unit 6 / Unit 7 ②	Water Survey [1] Optical Illusions [1]
10	Unit 8 / Unit 9 ①	School Planning and Design [1] Art and Science [1]
11	Unit 8 / Unit 9 ②	School Planning and Design [1] Art and Science [1]
12	Unit 10 / Unit 11 ①	Breakfast [1] The Structure of the Universe (1) [1]

13	Unit 10 / Unit 11 ②	Breakfast [2] The Structure of the Universe (1) [1]
14	まとめ	学期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・宿題等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。準備学習等によっても不明な個所はなるべく放置せず、必要に応じて質問に来て解決すること。

【テキスト（教科書）】

Michael Schulman, Hiroyo Yoshida, *Key English for Science: Writing Skills Level 1* (理系のための実践ライティング [レベル 1]) MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2014

【参考書】

英語辞書についてはさしあたり、一年時に使用したものを持参して活用するか、あるいは以下の例を参考にするとよい。電子辞書の使用も可。

『ジーニアス英和辞典』（第 5 版、大修館書店）

『ジーニアス和英辞典』（第 3 版、大修館書店）

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 50 %（課題実施・提出状況 30 %、挙手応答 20 %）と学期末試験 50 %で、全体の 60 %以上の取得者に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期は教室での対面授業を行いたかった、というのは学生のみの感想ではない。

【Outline (in English)】

1 【授業の概要（Course outline）】

Students of this course will effectively learn certain skills required as academic writing (paragraph writing in this case), focusing on such as paraphrasing or summarizing, using the beginner/high-beginner level textbook for students in science and engineering major.

2 【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to know how to describe matters and express their opinions on their own academic surroundings, expectedly with the adequate form or basic structure of a paragraph in mind.

3 【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and/or handle assignments.

4 【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、unit assignments : 30%、in class contribution: 20%

(At least 60 % of all is required for grading.)

LANe200LC

アカデミック・ライティング

NEIL CONWAY

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- Write for a clear purpose and to a specific audience, using appropriate word and style choices
- Choose, restrict, organize, and support a writing topic and/or thesis
- Understand the planning, outlining and drafting process
- Write sentences that are clear, concise, and effective, using academic essay structure and paragraphing
- Integrate sources accurately and effectively
- Write in the style of an English-language academic essay and be aware of MLA formatting.
- Read and edit their own and their peers' essays in order to improve them

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Each class will review key points in that week's topic using short reading and writing tasks, along with pair- and groupwork designed for Active Learning, this will include project-based work. Feedback will be delivered in-class. Students will be asked to consider how these tasks relate to the topic at large, and the essay type being focused on. Homework will be assigned which relates to the incremental steps of each week and also to the main assessment tasks of the course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Academic Writing	Introducing the class content, expectations and discussing the course.
2	Writing Paragraphs I	Writing a paragraph Coherence & structure MLA
3	Writing Paragraphs II	Types of sentence Evidence and support Editing Sources
4	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information I	
5	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information II	MLA
6	Paraphrasing, Summarizing & Citing Information III	Practice
7	Essay Structure I	From paragraph to essay
8	Essay Structure II	What goes where?
9	Essay Structure III	Practice
10	Writing an Argumentative Essay: Developing Arguments	Argument, Counter-Argument & Rebuttal
11	Writing an Argumentative Essay: Organising Argumentative Essays	Practice
12	Writing an Argumentative Essay: Proofing and Editing	Argument, Structure & MLA
13	Essay Work	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.

14 Essay Work & Presentation

Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Writing assignments not finished within the allotted time; editing tasks; textbook exercises; research; coursework writing

【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer, or will be available online. However, library access is required for students to research their chosen essay topics.

We will use these two texts throughout the course:

https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic_writing_skills_student_s_book_1

https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic_writing_skills_student_s_book_2

https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic_writing_skills_student_s_book_2

https://issuu.com/cambridgeupelt/docs/academic_writing_skills_student_s_book_2

【参考書】

[Lunsford, et al.] Everyone's an Author: with Readings (Third Edition). W. W. Norton & Company (May 15, 2020)

ISBN: 978-0393420838

For MLA information:

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

Some internet use connected to research will be required.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川島 るり子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

具体例にたくさん触れながら、「英語らしい」発想によるセンテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。適宜小テストを課し、講義内容・テキストの理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業を予定していますが、感染症の状況によりオンライン授業となる場合もあります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第 3 回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第 4 回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第 5 回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第 6 回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第 7 回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第 8 回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第 9 回	英語はポジティブにこう！	「否定」から「肯定」へ
第 10 回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第 11 回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第 12 回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第 13 回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第 14 回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容・小テストを復習します（各2時間）。

【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著 『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800 円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 2 回の復習テスト 90 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points.

At the end of each class, students are given a quiz to check for understanding. Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and two review exams (90%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

太田 美智子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフで書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝たいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】

・ Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.

・ You can choose the most appropriate type of essay.

The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* The Case of the Hitchhiker
第 3 回	Unit 2	* Understanding Rhetoric
第 4 回	Unit 3	* The Case of Lookout
第 5 回	Unit 4	* Understanding the Paragraph
第 6 回	Unit 5	* The Case of the Spilled Brandy
第 7 回	Unit 6	* Writing a Paragraph
第 8 回	Unit 7	* The Case of the Locked Wine Cellar
第 9 回	Unit 8	* Expressing Time Order
第 10 回	Unit 9	* The Case of the Silk Mantle
第 11 回	Unit 10	* Using Space Order
第 12 回	Unit 11	* The Case of the Home Bakery
第 13 回	Unit 12	* Explaining Processes and Giving Directions
第 14 回	Unit 13	quiz
第 15 回	Unit 14	* The Case of the Cave Painting
第 16 回	Unit 15	* Giving Examples
第 17 回	Unit 16	* The Case of the Lakeside Murder
第 18 回	Unit 17	* Writing Definitions
第 19 回	Unit 18	* The Case of the Hero Dog
第 20 回	Unit 19	* Classification
第 21 回	Unit 20	* The Case of the Million-to-One Shot
第 22 回	Unit 21	* Comparison
第 23 回	Unit 22	Review
第 24 回	Unit 23	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】

Solve the Mystery³ and Improve your English Skills,Toshiko Yoshimura, Eihosha, 2019, 2200yen

【参考書】

Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】

Class Work and Participation 30 %

Short Reports 30 %

Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】

It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

The class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

・ Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.

・ You can choose the most appropriate type of essay.

Grading:

Class Work and Participation 30 %

Short Reports 30 %

Term-Examination 40 %

LANe200LC

アカデミック・ライティング

尾関 裕子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に付け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なエッセイの論理展開の理解を深め、実際にエッセイを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回テキストのレッスン1つを進めます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出されたものは採点されたうえで返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1.Conclusion/ Reasons	パラグラフ、エッセイの基本構造を確認のうえで、理由を提示して自分の意見を述べる文を作る。
2	2.Social Trends	社会現象に対する意見を述べる文を作る。
3	3.Results/ Causes	原因を究明する英文を作る。
4	4. Several Explanations	現象、事件などの説明文を書く
5	5. Comparisons	比較対象する内容の文を書く
6	6. For and Against	賛成あるいは反対意見を述べる文を書く
7	7. Classification	きちんと分類して物事を述べる文を書く
8	8. History	実際の歴史内容を説明する文を書く
9	9. Process	物事の過程を説明する文を書く
10	10. Causes and Effects	原因と結果を表現する文を書く
11	11. Definition of a New Word	新しい言葉をどう説明するのか、その定義づけの文を書く
12	12. Research	調査をし、その内容結果を述べる文を書く。
13	13. New Products	新製品を紹介する文を書く
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing (Intermediate)(Third Edition) 石谷由美子著
南雲堂 2021年 2200円

【参考書】

「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

提出物30%。期末テスト55%。平常点15%。テストを受けるためには全授業数の3分の2は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は3回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

【学生の意見等からの気づき】

黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しづらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞書

【その他の重要事項】

授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。

出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

*Learning Objectives: to develop strategies for writing.

*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

*Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination 55% ;quiz 15% ;inclass contribution 30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

ALDER mark

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Summary writing Process	Students will understand the basics of writing a set of instructions
5	Summary writing Process 2	Students will revise and rewrite their technical writing assignment
6	Division and Classification Essay	Students will understand the basics of writing a division and classification essay and be given some class time to write.
7	Division and Classification Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Comparison/Contrast Essay	Students will understand the basics of writing a comparison/contrast essay and be given some class time to write.
9	Comparison/Contrast Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Problem/Solution Essay	Students will understand the basics of writing a problem/solution essay and be given some class time to write.
11	Problem/Solution Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
12	Writing summaries	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write.
13	Writing summaries 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.

14	Final presentations	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Writing assignments as well as self-editing tasks. Also, preparation for the final presentation.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Ready to Write More. Karen Blanchard. Longman Press.

【成績評価の方法と基準】

Essays-70%

Final Essay/presentation-30%

【学生の意見等からの気づき】

Focus will be added to editing.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries, powerpoint.

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrolment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation. Learning objectives outside of class will be to use the library and internet to effectively research current topics related to their majors. Also video will be watched and summarized.

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

Grading:

Essays-70%

Final Essay/presentation-30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川島 るり子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

具体例にたくさん触れながら、「英語らしい」発想によるセンテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。適宜小テストを課し、講義内容・テキストの理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業を予定していますが、感染症の状況によりオンライン授業となる場合もあります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第 3 回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第 4 回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第 5 回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第 6 回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第 7 回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第 8 回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第 9 回	英語はポジティブにこーう！	「否定」から「肯定」へ
第 10 回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第 11 回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第 12 回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第 13 回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第 14 回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容・小テストを復習します（各2時間）。

【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800 円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 2 回の復習テスト 90 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each class, students are given a quiz to check for understanding.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and two review exams (90%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

太田 美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフで書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝たいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The lesson will involve using both the textbook and also free-writing. At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* The Case of the Hitchhiker
第 3 回	Unit 2	* Understanding Rhetoric
第 4 回	Unit 3	* The Case of Lookout
第 5 回	Unit 4	* Understanding the Paragraph
第 6 回	Unit 5	* The Case of the Spilled Brandy
第 7 回	Unit 6	* Writing a Paragraph
第 8 回	Unit 7	* The Case of the Locked Wine Cellar
第 9 回	Unit 8	* Expressing Time Order
第 10 回	Unit 9	* The Case of the Silk Mantle
第 11 回	Unit 10	* Using Space Order
第 12 回	Unit 11	* The Case of the Home Bakery
第 13 回	Unit 12	* Explaining Processes and Giving Directions
第 14 回	Unit 13	quiz
第 15 回	Unit 14	* The Case of the Cave Painting
第 16 回	Unit 15	* Giving Examples
第 17 回	Unit 16	* The Case of the Lakeside Murder
第 18 回	Unit 17	* Writing Definitions
第 19 回	Unit 18	* The Case of the Hero Dog
第 20 回	Unit 19	* Classification
第 21 回	Unit 20	* The Case of the Million-to-One Shot
第 22 回	Unit 21	* Comparison
第 23 回	Unit 22	Review
第 24 回	Unit 23	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】

Solve the Mystery³ and Improve your English Skills, Toshiko Yoshimura, Eihosha, 2019, 2200yen

【参考書】

Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】

Class Work and Participation 30 %
Short Reports 30 %
Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】

It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

The class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

The lesson will involve using both the textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Grading:

Class Work and Participation 30 %
Short Reports 30 %
Term-Examination 40 %

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川島 るり子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

具体例にたくさん触れながら、「英語らしい」発想によるセンテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。適宜小テストを課し、講義内容・テキストの理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業を予定していますが、感染症の状況によりオンライン授業となる場合もあります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第 3 回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第 4 回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第 5 回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第 6 回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第 7 回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第 8 回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第 9 回	英語はポジティブにこう！	「否定」から「肯定」へ
第 10 回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第 11 回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第 12 回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第 13 回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第 14 回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容・小テストを復習します（各2時間）。

【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800 円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 2 回の復習テスト 90 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each class, students are given a quiz to check for understanding.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and two review exams (90%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

尾関 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に付け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

基本的論理展開に必要な考え方表現・文法を確認し、典型的なパラグラフ、エッセイの論理展開の理解を深め実際にエッセイを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回テキストのレッスンを1つ進みます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。エクササイズの提出に際しては採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conclusion/ Reasons	パラグラフの基本構造を学び、賛成反対の意見を述べる文を書く
2	Social Trends	社会現象を述べる文を書く
3	Results/ Causes	原因を究明する文を書く
4	Several Explanations	説明を行う文を書く
5	Comparisons	比較対照することを目的とした文を書く
6	For and Against	賛成・反対の意見を述べる文を書く
7	Classification	基準を設け、そこから分類していく文を書く。
8	History	なにかの歴史：時間的変遷について説明する文を書く
9	Processes	ものごとの過程を説明する文を書く
10	Causes and Effects	原因と結果を表現する文を書く
11	Definition of a New Word	新しい言葉を説明する、定義づける文を書く
12	Research	調査を紹介し、その内容についてまとめる文を書く
13	New Products	新しい商品を説明する文を書く
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing (Intermediate) third edition 石谷由美子著
南雲堂 2021年 2200円

【参考書】

「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

提出物30%。期末テスト55%。平常点15%。テストを受けるためには全授業数の3分の2は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は3回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

【学生の意見等からの気づき】

黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しづらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞書

【その他の重要事項】

授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

*Learning Objective: to develop strategies for writing

*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

*Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination 55%; quiz 15%; inclass contribution 30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

磯部 芳恵

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester.

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing essays
4. presentations

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing an essay
4. presentation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Getting ready	授業の進め方と評価、プレゼンテーションのについて説明する。
第 2 回	Getting ready	topic focus それぞれの尊敬する人についてペアで質問しあう。テキストにある有名人について聞き取りをする。
第 3 回	Unit 1 A person to admire	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 4 回	Unit 1 A person to admire	practice 自分の尊敬する人についてパラグラフライティングする。
第 5 回	Unit 1 A person to admire	Unit 1 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第 6 回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 自分の理想とする旅行の計画について話し、テキストにある 3 つの都市についてリスニングをする。
		presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 7 回	Unit 2 A great vacation idea	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 8 回	Unit 2 A great vacation idea	practice 自分で選んだ都市についてパラグラフライティングをする。
第 9 回	Unit 2 A great vacation idea	Unit 2 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第 10 回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 現代の若者のライフスタイルについてクラスメイトにインタビューする。
第 11 回	Unit 5 In my opinion	presentation focus テキストで、サーベイの仕方を学ぶ。

第 12 回 Unit 5
In my opinion

practice

モデル・エッセイでパラグラフ・ライティングの構造を学ぶ。

第 13 回 Unit 5
In my opinion

opener と closer, モデル・プレゼンテーション

第 14 回 学期のまとめ

Unit 1,2 5 のまとめとリスニングテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Writing: Preparation for the essay sections of the textbooks.(2-4 hours every three weeks)

2. Making Visual aids using PowerPoint.(2-4 hours every three weeks)
University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 (Cambridge University Press)

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), assignments(30%), presentations(10%), and homework(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【その他の重要事項】

・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。

・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。

・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。

・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。

・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。

・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester.

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing essays
4. presentations

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing an essay
4. presentation

Grading will be based on participation in class activities(30%), assignments(30%), presentations(10%), and homework(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

ALAN D MORGAN

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this class is to enable students to write clear accurate paragraphs and understand the basic features of academic text.

本授業の目的は、学生が明確で正確な文章を書き、学術文書の基本的な構成要素を理解できるようにすることです。

【到達目標】

Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

Students will be introduced to specific discreet skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be introduced to specific discreet skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation: writing Skills 1-3	Orientation - Class rules and grading criteria Simple Sentences & Elements of a paragraph Outside Class - Subject-Verb agreement
2	Skills 4-6	Capitalisation Rules 1 & Punctuation 1 Outside Class - Consistent pronoun use
3	Skills 7-8	Avoiding run-ons and comma splices & Avoiding sentence fragments Outside Class - Simple editing task
4	Skills 9-11	Topic sentences & Supporting sentences Outside Class - Concluding sentences
5	Skill 12	Sentences with Relative Clauses ASSIGNMENT 1
6	Skills 13-15	Simple vs Compound sentences Complex sentences Outside Class - Sentence Combination
7	Skills 19-20, 16	Transition Words: Chronological order & Verb tense consistency Outside Class - Giving specific examples
8	Skills 17-18, 20	Punctuation 2 and Capitalisation 2 Outside Class - Verb Tense Consistency
9	Skills 22-24	Outlines & Facts vs Opinions Outside Class - Review of Simple, Compound and Complex sentences
10	Skills 25-26, 29	Contrasting opinions and contrast transitions Outside Class - Review Combining sentences
11	Skills 28,31	Writing for an academic audience Transitions of opinion and conclusion

12	Skills 21 & 30	Giving specific examples 2 and Irrelevant vs relevant information
13	Skill 32	The essay Outside Class - Outline
14	FINAL WRITTEN TEST	WRITTEN TEST & FEEDBACK

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some preparation and testing of understanding will be done outside of the classroom and recorded by using the Learning Management System. Two written assignments will be assigned to test students ability to integrate skills in writing longer texts. There will be a final written test at the end of the course.

【テキスト（教科書）】

Skills For Effective Writing 2, (Cambridge University Press, 2013)
¥2,600 before tax. ISBN 978-1-107-61353-9

【参考書】

・藤野輝雄、「理科系のためのかならず書ける英語論文」、研究社、2006 初版

【成績評価の方法と基準】

Assignments 50%

Final Test 25%

Participation 25%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

A computer or cellphone will be needed to access the Learning Management system for work outside class.

【Outline (in English)】

This class aims to give students the skills in writing and knowledge of basic elements of English composition to write accurate sentences, employing punctuation and simple transitions accurately. It also aims to enable students to organise and write clear well-formed paragraphs, employing reference and cohesive devices.

Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

GRADING CRITERIA

Assignments 50%

Final Test 25%

Participation 25%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

村上 弥生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

大学生は、すでにかかなりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめて、効果的な短いエッセイを作成する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①ネットの学習用サイトからニュースを各自選んでもらい、口頭でわかりやすくまとめて発表してもらう。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。
- ②①で紹介されたニュースについてクラス全体で Brain Storming を行う。ニュースと関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に出し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身につける。
- ③①、②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くことと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。
- ④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なりサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。
- ⑤学期終了時点でも同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。
- ⑥④、⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2 回修正、書き直しを行い完成作品とする。授業は対面とオンラインを併用して行う。授業の進捗状況に合わせて変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第 2 回	学生さんによるニュースの発表 1～3 brain storming 1～3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第 3 回	学生さんによるニュースの発表 4～6 brain storming 1～3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習

第 4 回	学生さんによるニュースの発表 4～6 brain storming 4～6	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 5 回	学生さんによるニュースの発表 7～9 brain storming 7～9	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 6 回	エッセイ 1 の作成	1～9 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 7 回	エッセイ 1 の添削、クラスでの講評	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評
第 8 回	エッセイ 1 の再作成	エッセイ 1 の再作成
第 9 回	学生さんによるニュースの発表 10～12 brain storming 10～12	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 10 回	学生さんによるニュースの発表 13～15 brain storming 13～15	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 11 回	学生さんによるニュースの発表 16～18 brain storming 16～18	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 12 回	学生さんによるニュースの発表 19～21 brain storming 19～21	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 13 回	エッセイ 2 の作成	10～21 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 14 回	エッセイ 2 の講評、再作成	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評 再作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定されたネットサイトでニュースを選択し、内容をほかのクラスメートに伝わりやすくまとめなおし、必要な背景情報を収集する。毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや brain storming から着想を得てテーマを設定し、簡単なリサーチを行って第一パラグラフを作成する。教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。学期中に二回程度作成するエッセイについて、より詳しいリサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】特になし。

【参考書】

特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など）（30 %）、英文エッセイの作成の過程（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' knowledge of how to write short essays on intellectual topics which deserve to be discussed by English learners in higher education.

For that purpose, activities in the course are designed to meet two goals.

Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences through instantly expressing information and ideas in English and being given feedback from the instructor in each class.

Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively by constantly writing paragraphs based on topics and research.

Students will be expected to do one or two preparations in the following list before each class.

1. Browse news websites created for English learners and select some stories.
2. Summarize one of those stories to be shared in class.
3. Do research to collect relevant information and/or shape your opinions.
4. Write first paragraphs.

After each class, students will be expected to do some of the following tasks.

1. Rewrite first paragraphs following advice from the instructor
2. Research more extensively or in a more focused manner.
3. Write short essays or rewrite them following instructions from the instructor.

Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%) and the process of writing essays (70%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

長谷川 秀子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

授業では英語で自分の考えや、身の回りのことを話す、書くということから始め、英語のアカデミックライティングまでを学んでいく。"Output English"にフォーカスを置き、いままで学んだ"Input English"を使いながら、話す、書くを磨く。授業中は書く時間やミニプレゼンテーションの時間をとる。このクラスは少人数構成が望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題などからからいくつを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。教科書を使いながら英文の書き方を学び、トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体2回で終わるように授業を行うが、教科書以外の内容もカバーする予定。クラスの中で書いたり、発表する時間には積極的な参加を望む。COVID-19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	テキストの使い方と授業準備授業の進め方の説明 Writing
第2回	Unit 1 (1) Mini presentation	What is a Paragraph?
第3回	Unit 1 (2)	What is a Paragraph? Writing
第4回	Unit 2 (1) Mini presentation	Narration Writing
第5回	Unit 2 (2)	Narration Writing
第6回	Unit 3 (1) Mini presentation	Mini presentation Process Writing
第7回	Unit 3 (2)	Process Writing
第8回	Unit 4 (1) Mini presentation	Description of Feelings Writing
第9回	Unit 4 (2)	Description of Feelings Writing
第10回	Unit 5 (1) Mini presentation	Description of People Writing
第11回	Unit 5 (2)	Description of People Writing (1) Outline
第12回	Unit 6	Description of Places & Locations Writing (2) Introduction, Body
第13回	Unit 7	Definition Writing (3) Conclusion, References
第14回	Term Exam	試験範囲 Unit 1-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1.5時間程度を標準とする】
各ユニットの項目を理解すること。課題などの Writing, ミニプレゼンの用意をする。

【テキスト（教科書）】

はじめてのパラグラフ・ライティング
"Smart Writing"

Active Approach to Paragraph Writing

By Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, Ruth Fallon (2017)

SEIBIDO

ISBN978-4-7919-6032-3

【参考書】

必要に応じて授業、学習主演システムで紹介。

【成績評価の方法と基準】

ミニプレゼンテーション、課題 50%

期末試験 50%

【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

担当者の連絡先はオリエンテーションで連絡。

授業では辞書が必要なので用意しておくこと。

学習支援システムで連絡、確認事項、授業資料などを確認すること。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Goals: We focus on "Output English" using "Input English" you have already learned, and practice expressing yourself (speaking and writing) and your opinions in English.

Work outside of the classroom: Understand each unit's contents, complete homework and prepare for mini presentations.

Grading: Assignment mini presentation 50%

Term exam 50%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこないます。また、学期中に3回、まとまった長さの作文を課します。授業中に予習部分の理解度を確認し、作文を添削して、フィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する。
第2回	Chapter 1 What Is a Paragraph?	パラグラフの基本構造について学ぶ。
第3回	Chapter 4 Describing Feelings	感情の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第4回	Chapter 6 Description of Place and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第5回	Chapter 8 Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第6回	Essay Writing (1)	エッセイ（1）を執筆する。
第7回	Essay Review (2)	エッセイ（1）を返却し、演習形式で解説する。
第8回	Chapter 9 Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び文章で説明する練習をする。
第9回	Chapter 10 Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第10回	Chapter 12 Your Opinion — Disagree	ある物事に対して反対意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第11回	Chapter 13 Data Analysis	グラフや表について述べる際によく用いられる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第12回	Essay Writing (2)	エッセイ（2）を執筆する。
第13回	Essay Review (2)	エッセイ（2）を返却し、演習形式で解説する。
第14回	まとめと期末試験	授業全体のまとめと期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。テキストの指示された部分をしっかりと予習してきてください。
・作文の課題は、よく辞書を引き、言葉の意味を吟味しながら書いてください。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】

仲谷都、吉原学、Ruth Fallon, Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing (『はじめてのパラグラフ・ライティング』成美堂、2017年)

【参考書】

綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）

小池直己、佐藤誠司『実践英文法 FOCUS』（南雲堂、2009年）

ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

エッセイ 各 30%×2 = 60%

期末試験 30%

授業参加度 10%

なお、5回以上正当な理由なく欠席した場合は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

【その他の重要事項】

きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。また、初回の授業で予習の仕方を説明しますので、それまでに必ずテキストを入手しておいてください。なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying a language.

Students should consult dictionaries frequently and carefully, especially when they write essays. A final exam is given to help build the vocabulary and grammar.

The final grade will be calculated based on 2 essays (30% each), the final exam (30%), and class participation (10%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

ALDER mark

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different types of essays as well as how to complete a finished high quality paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	DVD summary 1	Students will understand the basics of writing a group summary after viewing a DVD.
5	DVD summary 2	In a group, students will create a summary and present it after watching the DVD.
6	Division and classification essay 1	Students will understand the basics of writing a division and classification essay and be given some class time to write.
7	Division and classification essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause and Effect Essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Comparison/Contrast Essay 1	Students will understand the basics of writing a comparison/contrast essay and be given some class time to write.
11	Comparison/Contrast Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
12	Writing Summaries 1	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write.

13	Writing Summaries 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Final Presentation 1	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Writing assignments as well as self-editing tasks.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Ready to Write More. Karen Blanchard. Longman Preess.

【成績評価の方法と基準】

Essays-70%

Final essay/Presentation-30%

【学生の意見等からの気づき】

Editing will be a bigger focus.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionary, powerpoint.

【その他の重要事項】

Could you please insert Japanese common syllabus below in the 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 Outline and objectives space. The content that is there can be added to 【到達目標】 Goal.

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrolment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.

Learning objectives outside of class will be to use the library and internet to effectively research current topics related to their majors. Also video will be watched and summarized.

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

Grading:

Essays-70%

Final Essay/presentation-30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

尾関 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に付け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なパラグラフ、エッセイの論理展開の理解を深め実際にパラグラフを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回テキストのレッスンを1つ進みます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出された課題については採点のうえ、返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conclusion/Reasons	パラグラフ、エッセイの基本構造を学ぶ そのうえで今回のテーマである自分の意見を正当化するための理由を述べる文を書く
2	Social Trends	社会現象を紹介し、その原因、背景などを提示する文を書く
3	Results/ Causes	事柄の原因を追究し述べる文を書く
4	Several Explanations	何らかの事柄について様々な説明を紹介する文を書く
5	Comparisons	比較対象する文を書く
6	For and Against	賛成あるいは反対の立場からの意見を紹介する文を書く
7	Classification	ある基準にのっとりグループに分類していく文を書く
8	History	あるトピックについて時間的変遷を追う文を書く
9	Processes	なにかの過程を説明する文を書く
10	Causes and Effects	原因と結果を表現する文を書く
11	Defenition of a New Word	新たな語について説明をする文を書く
12	Research	何かしらの調査を紹介し、その内容について述べる文を書く
13	New Products	新製品を読み手に宣伝することを目的とする文を書く
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing (Intermediate) third edition

石谷由美子 南雲堂 2021 年 2200 円

【参考書】

「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

提出物30%。期末テスト55%。平常点15%。テストを受けるためには全授業数の3分の2は出席していること。遅刻、早退などは二回で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は3回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

【学生の意見等からの気づき】

黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しづらいですので、各授業の終わりにには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞書

【その他の重要事項】

授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

*Learning Objectives: to develop strategies for writing

*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

*Your overall grade in the class will be decided on the following.

Term-end examination 55%; quiz 15%; in-class contribution 30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

早船 由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

アカデミックライティングの手法を身につけ、400 ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。

学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。

英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。

さらに、毎回英文読解の宿題を課す。

提出された英文、文法課題、宿題については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第 2 回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第 3 回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第 4 回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第 5 回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第 6 回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第 7 回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第 8 回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第 9 回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第 10 回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第 11 回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第 12 回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第 13 回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第 14 回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2 時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

【参考書】

高山英士、森一泰 著「English EX」(Linkage Club)

Dorothy E Zemach, Daniel Broudy, Chris Valvona 著 "Writing Research Papers"

(Macmillan Education)

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%

授業内演習および宿題提出：20%

論文：30%

期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】

文法演習および宿題の解説を丁寧に行う。

英文ライティングへのフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment is held to approximately 20 students to maximize teaching effectiveness.

【Learning Objectives】

To complete an academic paper of around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 20%

Assignments in the class and after the class 20%

Complete academic paper submission 30%

Final test 30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

ALDER mark

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. Students will be able to understand how and why to write different types of essays as well as how to turn their essay into a power point presentation.

Grading:

Essays 70%

Final essay and presentation 30%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to academic writing	Introduce the class content, expectations and offer guidance.
2	How to write essays 1	Discussion of writing for different purposes, and a variety of pre-writing techniques.
3	How to write essays 2	An introduction of several various kinds of essays. Students will practice writing introductions and conclusions.
4	Summary DVD 1	Students will understand the basics of writing a summary. Selected portions of a DVD will be viewed.
5	summary DVD 2	In groups, students will write, edit and present their DVD summaries.
6	Division and Classification Essay 1	Students will understand the basics of writing a division and classification essay and be given some class time to write.
7	Division and Classification Essay 1	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
8	Cause and Effect Essay 1	Students will understand the basics of writing a cause and effect essay and be given some class time to write.
9	Cause and Effect Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
10	Comparison/Contrast Essay 1	Students will understand the basics of writing a comparison/contrast essay and be given some class time to write.
11	Comparison/Contrast Essay 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
12	Writing summaries 1	Students will understand the basics of writing a summary and be given some class time to write.

13	Writing summaries 2	Students will receive their essays back and will engage in self and peer editing to create a finished draft.
14	Final Presentation 1	Students will be asked to present one of their essays in a presentation style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Writing assignments not finished within the allotted time as well as self-editing tasks. Also creating a power point presentation for the final evaluation.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Ready to write more. Karen Blanchard. Longman Press.

【成績評価の方法と基準】

Essays 70%

Final essay and presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Editing activities will be a bigger focus.

【学生が準備すべき機器他】

Blackboard, powerpoint, OHP, DVD player.

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating into English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrolment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. The goal of this class is to introduce students to a variety of different essay writing styles and their basic construction. Emphasis will also be placed on grammatical structure. By the end of this course, students will understand how and why to write different kinds of essays and how to turn their essay into a power point oral presentation.

Learning objectives outside of class will be to use the library and internet to effectively research current topics related to their majors. Also video will be watched and summarized.

There will be a short lecture on each type of essay writing style used in this course. Students will then be asked to write a short essay employing the essay type being focused on. Essays topics will be mostly chosen from the student's major. Feedback will be given one to one and as a class.

Grading:

Essays-70%

Final Essay/presentation-30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

尾関 裕子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身に付け、エッセイ・ライティング、アカデミックライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

基本的論理展開に必要な考え方・表現・文法を確認し、典型的なパラグラフ、エッセイの論理展開の理解を深め実際にエッセイを書けるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回テキストのレッスンを1つ進みます。テキストのエクササイズを実施のうえ各自のオリジナルな文章を作り提出します。提出の際には採点のうえで返却されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Conclusion/Reasons	パラグラフ、エッセイの基本構造を学ぶ 今回は自分の意見を述べる文を書く
2	Social Trends	トピックとなる社会現象を紹介し、その原因、背景を提示する文を書く
3	Results/ Causes	すでに起きたことからの原因を追究する文を書く
4	Several Explanations	現象、事件などについての説明を紹介する文を書く
5	Comparisons	比較対象する文を書く
6	For and Against	賛成・反対それぞれの立場からの意見を紹介する文を書く
7	Classification	トピックを基準を設け分類していく文を書く
8	History	あるトピックについて時間的変遷を追う文を書く
9	Processes	なにかの過程を説明する文を書く
10	Causes and Effects	原因と結果を表現する文を書く
11	Definition of a New Word	新しい言葉を紹介する文を書く
12	Research	何かしらの調査を紹介し、その内容について書く。
13	New Product	製品説明の文を書く
14	これまでのまとめ/試験	様々な内容のパラグラフ展開に必要な要素を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業相当範囲の問題、読解用英文などエクササイズは予習しておくようにします。

【テキスト（教科書）】

Skills for Better Writing (Intermediate) third edition

石谷由美子著 南雲堂 2021 年 2200 円

【参考書】

「日本人に共通する英語のミス」(The Japan Times) ほか。授業時に必用に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】

提出物30%。期末テスト55%。平常点15%。テストを受けるためには全授業数の3分の2は出席していること。遅刻、早退などは二度で一回の欠席と数える。遅延証明の有効は3回までです。授業時には電子辞書の使用は認められるが、パソコンや携帯電話の使用は禁止。

【学生の意見等からの気づき】

黒板に書かれる学生の作文を直すだけでは個々人の問題点をなかなか発見しづらいですので、各授業の終わりには課題にそった英作文を提出していただき、個々の問題点を指摘できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

英和・和英辞書

【その他の重要事項】

授業内に、英文によるライティングを実施し提出します。辞書を使用しますので忘れずに持参のこと。スマートフォンやパソコンの使用は禁じます。出席が不足すると授業時提出物の回数も不足しますので気をつけましょう。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Class are leveled and enrollment held to to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

*Learning Objectives: to develop strategies for writing

*Before/After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

*Your overall grade in the class will be decided on the following.

Term-end examination 55%; quiz 15%; inclass contribution 30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

早船 由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

アカデミックライティングの手法を身につけ、400 ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。

学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。

英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。

さらに、毎回英文読解の宿題を課す。

提出された英文、文法課題、宿題については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第 2 回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第 3 回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第 4 回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第 5 回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第 6 回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第 7 回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第 8 回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第 9 回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第 10 回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第 11 回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第 12 回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第 13 回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第 14 回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2 時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

【参考書】

高山英士、森一泰 著「English EX」(Linkage Club)

Dorothy E Zemach, Daniel Broudy, Chris Valvona 著 "Writing Research Papers"

(Macmillan Education)

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%

授業内演習および宿題提出：20%

論文：30%

期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】

文法演習および宿題の解説を丁寧に行う。

英文ライティングへのフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

【Learning Objectives】

To complete an academic paper around 400 words on the topic students' choose by themselves after learning how to write it in the class.

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 20%

Assignments in the class and after the class 20%

Complete academic paper submission 30%

Final test 30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

磯部 芳恵

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. Students will give a presentation at the end of the semester.

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing essays
4. presentation

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Getting ready	授業の進め方と評価、プレゼンテーションのについて説明する。
第 2 回	Getting ready	topic focus それぞれの尊敬する人についてペアで質問しあう。テキストにある有名人について聞き取りをする。
第 3 回	Unit 1 A person to admire	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 4 回	Unit 1 A person to admire	practice 自分の尊敬する人についてパラグラフライティングをする。
第 5 回	Unit 1 A person to admire	Unit 1 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第 6 回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 自分の理想とする旅行の計画について話し、テキストにある 3 つの都市についてリスニングをする。
第 7 回	Unit 2 A great vacation idea	presentation focus テキストのモデル・エッセイでライティングの構造を学ぶ。
第 8 回	Unit 2 A great vacation idea	practice 自分で選んだ都市についてパラグラフライティングをする。
第 9 回	Unit 2 A great vacation idea	Unit 2 のテーマでまとめたエッセイをプレゼンテーションする。
第 10 回	Unit 2 A great vacation idea	topic focus 現代の若者のライフスタイルについてクラスメイトにインタビューする。
第 11 回	Unit 5 In my opinion	presentation focus テキストで、サーベイの仕方を学ぶ。
第 12 回	Unit 5 In my opinion	practice モデル・エッセイでパラグラフ・ライティングの構造を学ぶ。
第 13 回	Unit 5 In my opinion	opener と closer, モデル・プレゼンテーション
第 14 回	学期のまとめ	Unit 1,2,5 のまとめとリスニングテスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Writing: Preparation for the essay sections of the textbooks.(2-4 hours every three weeks)
 2. Making Visual aids using PowerPoint.(2-4 hours every three weeks)
- University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 (Cambridge University Press)

『TOEIC TEST リスニング スピードマスター』（J リサーチ出版）1,400 円

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities(30%), assignments(30%), presentations(10%) and homework(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションのためのエッセイ作成期間を延長できるようにする。

【その他の重要事項】

- ・欠席は 4 回となった時点で単位取得の資格を失います。欠席は平常点から減点となります。病気等で欠席の場合、それを証明する書類を提出すること。
- ・音読やペア活動では、積極的に周囲と協力しながら行うこと。
- ・30分以内の遅刻、早退は3回で1回とみなします。
- ・30分以上の遅刻、早退は欠席1回として扱います。
- ・授業態度の悪い者（携帯電話の使用、居眠り、私語、度重なる遅刻や血で、ペア活動不参加など）は、減点の対象となるので注意すること。
- ・テキストは必ず購入すること。他人のテキストをコピーすることは認めません。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

This subject aims to improve students' overall confidence in communicating and writing skills. It also aims at improving their listening skills by using the textbook for TOEIC.

This is a hybrid class, we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom.

Exercises will be done both in class and as homework. Students will give a presentation at the end of the semester.

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. short lectures and explanation by the teacher
2. pair and group practice
3. writing essays
4. presentation

Grading will be based on participation in class activities(30%), assignments(30%), presentations(10%) and homework(30%).

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

大学生は、すでにかんがりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。

重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめて、効果的な短いエッセイを作成する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

①ネットの学習用サイトからニュースを各自選んでもらい、口頭でわかりやすくまとめて発表してもらう。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。

②①で紹介されたニュースについてクラス全体で **Brain Storming** を行う。ニュースに関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に話し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に付ける。

③①、②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くことと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。

④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なりサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。

⑤学期終了時点でも同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。

⑥④、⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2 回修正、書き直しを行い完成作品とする。

授業は対面とオンラインを併用して行う。授業の進捗状況に合わせて変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第 2 回	学生さんによるニュースの発表 1～3 brain storming 1～3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第 3 回	学生さんによるニュースの発表 4～6 brain storming 1～3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習
第 4 回	学生さんによるニュースの発表 4～6 brain storming 4～6	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 5 回	学生さんによるニュースの発表 7～9 brain storming 7～9	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 6 回	エッセイ 1 の作成	1～9 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 7 回	エッセイ 1 の添削、クラスでの講評	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評
第 8 回	エッセイ 1 の再作成	エッセイ 1 の再作成
第 9 回	学生さんによるニュースの発表 10～12 brain storming 10～12	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習

第 10 回	学生さんによるニュースの発表 13～15 brain storming 13～15	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 11 回	学生さんによるニュースの発表 16～18 brain storming 16～18	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 12 回	学生さんによるニュースの発表 19～21 brain storming 19～21	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 13 回	エッセイ 2 の作成	10～21 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 14 回	エッセイ 2 の講評、再作成	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評 再作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定されたネットサイトでニュースを選択し、内容をほかのクラスメートに伝わりやすくまとめたおし、必要な背景情報を収集する。

毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや **brain storming** から着想を得てテーマを設定し、簡単なりサーチを行って第一パラグラフを作成する。教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。

学期中に二回程度作成するエッセイについて、より詳しいサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など）（30 %）、英文エッセイの作成の過程（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' knowledge of how to write short essays on intellectual topics which deserve to be discussed by English learners in higher education.

For that purpose, activities in the course are designed to meet two goals.

Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences through instantly expressing information and ideas in English and being given feedback from the instructor in each class.

Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively by constantly writing paragraphs based on topics and research.

Students will be expected to do one or two preparations in the following list before each class.

1. Browse news websites created for English learners and select some stories.

2. Summarize one of those stories to be shared in class.

3. Do research to collect relevant information and/or shape your opinions.

4. Write first paragraphs.

After each class, students will be expected to do some of the following tasks.

1. Rewrite first paragraphs following advice from the instructor

2. Research more extensively or in a more focused manner.

3. Write short essays or rewrite them following instructions from the instructor.

Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%) and the process of writing essays (70%).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※このクラスは補講クラスです。学生証番号が「22」から始まる新入生はこのクラスには原則参加出来ません。指定されたクラスで履修するようにして下さい※

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。2 回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当箇所を決めます。
2	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (1)	仮想現実の世界に関する文章を読み解く
3	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (2)	仮想現実の世界に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit2: The Secret of the Stradivarius (1)	ストラディバリウスの音色に関する文章を読み解く
5	Unit2: The Secret of the Stradivarius (2)	ストラディバリウスの音色に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (1)	海からプラスチックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み解く
7	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (2)	海からプラスチックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (1)	アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み解く
9	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (2)	アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (1)	小テスト⑧ 冥王星への旅に関する文章を読み解く
11	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (2)	冥王星への旅に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit6: Archaeologists, Aliens and Earth (1)	考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み解く
13	Unit6: Archaeologists, Aliens and Earth (2)	考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】

Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (¥1,900)

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %

学期末課題 20 %

授業への積極的な参加姿勢 10 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

[Learning Objectives]

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木 幸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

In this class, students will study a specific topic each week, using the textbook. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Introduction Let's introduce ourselves!
2	Day 1 Wish You Were Here	Let's talk about experience!
3	Presentation Day 1	Self-introduction presentation
4	Day 2 Get Well Soon Day 3 Money Makes the World Go Round Day 9 Shop 'Till you Drop	Let's talk about health! Speaking Quiz 1 Let's talk about shopping!
5	Day 4 May the Force Be with You!	Writing Quiz 1 Let's talk about movies!
6	Day 5 Bon Voyage Day 10 You Can't Miss It	Let's talk about traveling!
7	Day 6 For Here or to Go?	Speaking Quiz 2 Let's talk about eating out!
8	Day 7 What's Your E-mail Address? Day 8 Talking Care of Business	Writing Quiz 2 Let's talk about business!
9	Day 11 Go Team Go	Let's talk about sports!
10	Day 12 Talk to the Animals Day 15 Family Fun	Speaking Quiz 3 Let's talk about family!
11	Day 13 Up, Up and Away Day 14 On the Sunny Side of the Street	Writing Quiz 3 Let's talk about weather!
12	Day 16 Do the Clothes Make the Man? Day 18 What's Cooking?	Let's talk about home!
13	Presentation Day 2	Role-play presentation
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Students will be expected to have completed the require assingments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

【テキスト（教科書）】

Shari J. Berman, et al., Topic by Topic TOEIC Listening, SEIBIDO, 2000/2020. 900 yen (+ tax)

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 20%

Assignment: 30% (including presentation)

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you students enjoy studying English.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work.

The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

—

Goals: By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

—

Work outside of class:

Students will be expected to have completed the require assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

—

Grading: Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 20%

Assignment: 30% (including presentation)

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

※このクラスは補講クラスです。学生証番号が「22」から始まる新入生はこのクラスには原則参加出来ません。指定されたクラスで履修するようにして下さい※

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。2回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインを併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (1)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み解く
3	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (2)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (1)	顔認識システムに関する文章を読み解く
5	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (2)	顔認識システムに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (1)	緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み解く
7	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (2)	緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (1)	海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み解く
9	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (2)	海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)	ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み解く
11	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)(2)	ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する

12	Unit12: Plastic Surgery (1)	美容整形手術に関する文章を読み解く
13	Unit12: Plastic Surgery (2)	美容整形手術に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】

Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (¥1,900)

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %

学期末課題 20 %

授業への積極的な参加姿勢 10 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

[Learning Objectives]

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木 幸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

In this class, students will study a specific topic each week, using the textbook. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Introduction Let's introduce ourselves!
2	Day 1 Wish You Were Here	Let's talk about experience!
3	Presentation Day 1	Self-introduction presentation
4	Day 2 Get Well Soon Day 3 Money Makes the World Go Round Day 9 Shop 'Till you Drop	Let's talk about health! Speaking Quiz 1 Let's talk about shopping!
5	Day 4 May the Force Be with You!	Writing Quiz 1 Let's talk about movies!
6	Day 5 Bon Voyage Day 10 You Can't Miss It	Let's talk about traveling!
7	Day 6 For Here or to Go?	Speaking Quiz 2 Let's talk about eating out!
8	Day 7 What's Your E-mail Address? Day 8 Talking Care of Business	Writing Quiz 2 Let's talk about business!
9	Day 11 Go Team Go	Let's talk about sports!
10	Day 12 Talk to the Animals Day 15 Family Fun	Speaking Quiz 3 Let's talk about family!
11	Day 13 Up, Up and Away Day 14 On the Sunny Side of the Street	Writing Quiz 3 Let's talk about weather!
12	Day 16 Do the Clothes Make the Man? Day 18 What's Cooking?	Let's talk about home!
13	Presentation Day 2	Role-play presentation
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Students will be expected to have completed the require assingments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

【テキスト（教科書）】

Shari J. Berman, et al., Topic by Topic TOEIC Listening, SEIBIDO, 2000/2020. 900 yen (+ tax)

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 20%

Assignment: 30% (including presentation)

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you students enjoy studying English.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work.

The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

———

Goals: By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

Work outside of class:

Students will be expected to have completed the required assingments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

———

Grading: Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 20%

Assignment: 30% (including presentation)

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティビティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したり、小テストの解説をしたりして、フィードバックを図ります。

語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習 (1) Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習 (2) Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習 (3) Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習 (4) Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	会話練習 (5) Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
7 回	会話練習 (6) Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習 (7) Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
9 回	スピーキング・テスト	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
10 回	期末試験	期末試験をおこなう
11 回	発表準備 (1)	発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備 (1)	発表のアウトラインを作成し、ピアレビューをもとに推敲する
13 回	発表準備 (3)	発表の原稿を作成し、ピアレビューをもとに推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。
・音声教材をダウンロードし、予習及び復習で活用すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

スピーキング・テスト (30%)

期末テスト (30%)

発表 (30%)

授業参加 (10%)

* 5 回以上正当な理由なく欠席した場合は不合格とします。

*スピーキング・テスト、期末テスト、発表のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。

*予習が不十分な場合や授業参加が不十分な場合は欠席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

【その他の重要事項】

授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。

なお、授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying language.

The final grade will be calculated based on a speaking test(30%), a final exam (30%), an oral presentation (30%), and class participation (10%).

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

鈴木 幸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語コミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

In this class, students will study a specific topic each week, using the textbook. You will be expected to attend all classes and contribute to classroom activities: writing/speaking quiz, listening, Q & A, group/pair work, and presentation. You must be willing to try to express your ideas in English. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Introduction Let's introduce ourselves!
2	Day 1 Wish You Were Here	Let's talk about experience!
3	Presentation Day 1	Self-introduction presentation
4	Day 2 Get Well Soon Day 3 Money Makes the World Go Round Day 9 Shop 'Till you Drop	Let's talk about health! Speaking Quiz 1 Let's talk about shopping!
5	Day 4 May the Force Be with You!	Writing Quiz 1 Let's talk about movies!
6	Day 5 Bon Voyage Day 10 You Can't Miss It	Let's talk about traveling!
7	Day 6 For Here or to Go?	Speaking Quiz 2 Let's talk about eating out!
8	Day 7 What's Your E-mail Address? Day 8 Talking Care of Business	Writing Quiz 2 Let's talk about business!
9	Day 11 Go Team Go	Let's talk about sports!
10	Day 12 Talk to the Animals Day 15 Family Fun	Speaking Quiz 3 Let's talk about family!
11	Day 13 Up, Up and Away Day 14 On the Sunny Side of the Street	Writing Quiz 3 Let's talk about weather!
12	Day 16 Do the Clothes Make the Man? Day 18 What's Cooking?	Let's talk about home!
13	Presentation Day 2	Role-play presentation
14	Final Examination	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

【テキスト（教科書）】

Shari J. Berman, et al., Topic by Topic TOEIC Listening, SEIBIDO, 2000/2020. 900 yen (+ tax)

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 20%

Assignment: 30% (including presentation)

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you students enjoy studying English.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work.

The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

———

Goals: By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To discuss familiar/social issues in English.
2. To express personal opinions in English.
3. To enhance overall English proficiency.

———

Work outside of class:

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 4 hours for a class.

———

Grading: Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to the class: 20%

Assignment: 30% (including presentation)

Quiz: 20%

Exam: 30%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を実社会で使用する仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活にかかわる会話に慣れ、身の回りのことを英語で説明する練習をする。幅広いコミュニケーション力の習得と、異文化に対する理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

To make clear explanation using everyday language.

To make various questions in order to make good communication and get ore information through pair/group work.

To enhance listening skills through listening/dictation exercises.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

You will be given handouts of conversation skits or sample writings and practice conversation through pair/group work. You will give presentation on given topic. The audience make questions on the presentation. Try to think strategies on HOW we can get more information from others and WHAT kind of questions will be good to get information you need.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Getting to Know Your Group(Speculating)	かんたんな ice-breaking game とインタビューを通じて、グループ内またはペアワークのパートナーを描写してみよう。
2	Getting to Know Your Group(Role-playing)	4 人程度のグループに分かれ、配布プリントの役割指定にしたがって、会話スキットを作成し、演じてもらいます
3	Annual event	日常会話のスキットを使って、日本の慣習を説明してみましょう。
4	Presentation: Annual event	グループで構成した Annual event の説明会話スキットを演じてみましょう。
5	Lifestyle Survey I (on food)	Interview of your lifestyle (より詳しい情報を得るための follow-up question を考える)
6	Lifestyle Survey II (on expense)	Interview of your lifestyle
7	Transportation	日常会話のスキットを使って、時間・場所・方向などを表す前置詞を練習します。
8	Making up a scene	日常会話のスキットを使って、グループごとにシーンを構成し、演じて見ましょう。
9	Situations from dialogue	一連のインタビューを完成させ、シチュエーションを明確にするために必要な表現を考えてみましょう。
10	Guess What?(Making Questions)	Yes/No Question & Wh-Question
11	Speculation from the appearance of people	詳細情報を得るために有効な質問をできるだけたくさん考えてみましょう。
12	Explaining the Scene	Making explanation on a short movie
13	Explaining the movement of body	動作の説明と感覚動詞を使った表現の練習をしてみましょう。
14	Final Interview	Interview and Report

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are required to prepare for and review class activities for 2 hours. You will be given handouts of the topic of the week. Check vocabulary, read sample conversation or sample presentation, then plan your own questions or presentation on the topic.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布

【参考書】

随時プリントを配布します。授業時はかならず辞書を携行してください。

【成績評価の方法と基準】

You will be assessed: Speeches, Presentations in classwork, assignments (80%)

Final Interview and Report (20%)

You have to submit vocabulary quiz, homework assignments or reports on the topic of the class.

Final Interview and Report will will be done through pair work. You have to make interview on given topic and write report.

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit.

If you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

When you have questions on what you have to do during the class, please don't hesitate to ask. Try to make sure what you should do to complete the task. Asking questions to get information is important part of this class.

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない。

【その他の重要事項】

Carry dictionary in each class.

Try to think what kind of questions/follow-up questions will be good to get more information.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. Let's try to get accustomed to the expressions of everyday-English and try to explain what you do or think of in English. Our goal is to get good communication skills and to have better understanding of foreign culture.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティビティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したり、小テストの解説をしたりして、フィードバックを図ります。

語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習 (1) Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習 (2) Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習 (3) Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習 (4) Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	会話練習 (5) Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
7 回	会話練習 (6) Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習 (7) Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
9 回	スピーキング・テスト	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
10 回	期末試験	期末試験をおこなう
11 回	発表準備 (1)	発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備 (1)	発表のアウトラインを作成し、ピアレビューをもとに推敲する
13 回	発表準備 (3)	発表の原稿を作成し、ピアレビューをもとに推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。
・音声教材をダウンロードし、予習及び復習で活用すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

スピーキング・テスト (30%)

期末テスト (30%)

発表 (30%)

授業参加 (10%)

* 5 回以上正当な理由なく欠席した場合は不合格とします。

*スピーキング・テスト、期末テスト、発表のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。

*予習が不十分な場合や授業参加が不十分な場合は欠席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

【その他の重要事項】

授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。

なお、授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying language.

The final grade will be calculated based on a speaking test(30%), a final exam (30%), an oral presentation (30%), and class participation (10%).

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

川口 悠子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

・身近なテーマを手がかりに、日常会話コミュニケーション能力を身につける。
・論理的に自分の意見を述べ、相手の意見に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な文法事項や単語などを確認しつつ、ペアやグループでの会話練習や発表などのアクティビティを中心に授業を進めていきます。随時小テストをおこない、学んだ表現などの定着を図ります。会話練習や発表にあたってはより適切な表現を提示したり、小テストの解説をしたりして、フィードバックを図ります。

語学の授業、とくにコミュニケーションの授業ですから、能力を高めるためには、受講生の皆さんが積極的に授業に参加してくれることが一番大切です。どうか照れずに口を開いてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業の進め方や予習の仕方について説明する
2 回	会話練習 (1) Family	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
3 回	会話練習 (2) Friends	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
4 回	会話練習 (3) Culture	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
5 回	会話練習 (4) Education	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
6 回	会話練習 (5) Sports	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
7 回	会話練習 (6) Work	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
8 回	会話練習 (7) Food	語彙の強化、リスニング練習、ペアでの会話練習
9 回	スピーキング・テスト	これまで学んだ内容を踏まえて、会話のテストをおこなう
10 回	期末試験	期末試験をおこなう
11 回	発表準備 (1)	発表の構成や語彙について学ぶ
12 回	発表準備 (1)	発表のアウトラインを作成し、ピアレビューをもとに推敲する
13 回	発表準備 (3)	発表の原稿を作成し、ピアレビューをもとに推敲する
14 回	発表	発表をおこない、クラスメートの発表にコメントをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】・指示された部分を丁寧に予習すること。語学の授業は予習が決定的に重要で、かつ予習をしていないと、ペア練習のパートナーに迷惑がかかります。
・音声教材をダウンロードし、予習及び復習で活用すること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて、プリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

スピーキング・テスト (30%)

期末テスト (30%)

発表 (30%)

授業参加 (10%)

* 5 回以上正当な理由なく欠席した場合は不合格とします。

*スピーキング・テスト、期末テスト、発表のうち、どれか一つかそれ以上を欠席した場合、不合格とします。

*予習が不十分な場合や授業参加が不十分な場合は欠席扱いとすることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが口を開きやすい、楽しい雰囲気を作るよう心がけます。また、発表の準備に時間をかけたいという意見があったので、準備にかける授業回数を増やしました。

【その他の重要事項】

授業には、かならずきちんとした辞書を持参してください。

なお、授業の進行や受講生の皆さんの要望により、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying language.

The final grade will be calculated based on a speaking test(30%), a final exam (30%), an oral presentation (30%), and class participation (10%).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】
本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。
(Learning object)
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考慮して、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英文の演習を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami Kakuei Tanaka	日本の著名人について学習する。
3	Barack Obama's Hiroshima Speech Fintech OpdivoR Environmental DNA Camellia Rice Stress Check Generic Drugs Self-driving Cars Renewable Energy 3D Printers	日本の新しい文化について学習する。
4	The Internet of Things (IoT)	日本未来について学習する。
5	Fintech	日本の新しい産業について学習する。
6	OpdivoR	がん治療について学習する。
7	Environmental DNA	経済について学習する。
8	Camellia	工業技術について学習する。
9	Rice	農業について学習する。
10	Stress Check	最新医療について学習する（1）。
11	Generic Drugs	最新医療について学習する（2）。
12	Self-driving Cars	自動運転について学習する。
13	Renewable Energy 3D Printers	産業について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
(Learning activities outside of classroom)
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】
進化する日本 Japan Evolution 南雲堂

【参考書】
参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】
クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。原則として半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。
(Grading Policy)
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

【学生の意見等からの気づき】
視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline (in English)】
(Course outline)
This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

渡邊 晶子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。
構文をしっかりと理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、しっかりと準備をしておくこと。

課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・小テスト	授業の進め方について説明する。
2	The Bee Colony	品詞について学ぶ。 ミツバチのコロニーについての英文を読む。
3	Space Junk	動詞について学ぶ。 宇宙ゴミについての英文を読む。
4	The Gift of Energy	句動詞について学ぶ。 エネルギーについての英文を読む。
5	Water and Living Things	時制について学ぶ。 水と生き物についての英文を読む。
6	The Sun, Our Powerful Star	時制について学ぶ。 太陽についての英文を読む。
7	Tomorrow's Transportation	主語と動詞の一致について学ぶ。 近未来の乗物についての英文を読む。
8	All That Glitters, Spread, and Stretches	代名詞について学ぶ。 金についての英文を読む。
9	Bioclock - the Time of Your Life	名詞・冠詞について学ぶ。 体内時計についての英文を読む。
10	Right Brain, Left Brain	前置詞について学ぶ。 右脳と左脳についての英文を読む。
11	The Miracle of Vitamins	助動詞について学ぶ。 ビタミンについての英文を読む。
12	Unlocking Submarine Secrets	海底の謎についての英文を読む。
13	Frozen Foods	冷凍食品の発見についての英文を読む。
14	まとめ・試験	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの英文の日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】

The Wonders of Science 科学の世界（成美堂）

A Shorter Course in Usage and Vocabulary ポイントで解く語法・語彙問題（南雲堂）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % レポート課題 40 % 期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

提出課題や質問等で気づいたことを解説に織り込んでいく。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire a rich vocabulary, accurate grammatical knowledge and reading skills.

At the end of the course, students are expected to read a text accurately and quickly.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LANe100LC
コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ
神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置かずか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

(Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What's So Free about Freeways?	速度無制限の高速道路アウトバーン（ドイツ）
2	Riding a Horse While Drunk Is Illegal?	飲酒乗馬の取り締まり（アメリカ）
3	Walk Your Dog Three Times a Day!	犬は 1 日 3 回散歩させなければならない（イタリア）
4	Hungary Introduces a Tax on Chips	健康のためのポテトチップス税（ハンガリー）
5	Don't Tie Alligators to Fire Hydrants!	「ワニを消火栓につなぐな」とはどういうこと？（アメリカ）
6	Marriage and Divorce in Different Cultures	4 回続けて同じ人と結婚できない？（イスラム）
7	Smile!	葬式とお見舞いの時以外は微笑まなければならない！（イタリア）
8	Silent Sunday?	午後 10 時以降トイレは流してはいけない（スイス）
9	Want to Be a Pilot?	パイロットの足の長さは少なくとも 90 センチ？（インド）
10	Napoleon, the Pig?	豚に「ナポレオン」の名前を付けてはならない（フランス）
11	Don't Drop Dead Here!	国会議事堂内で死んではいけない？（イギリス）
12	Cheating Does Not Pay	カンニングをしたら刑務所行き？（バングラデッシュ）
13	Putting a Stop to Traffic Jams	排気ガスが多い車は市街地走行禁止（スウェーデン）
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

Funny Laws in the World (世界おもしろ比較文化－法律から学ぶ文化事情) 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

渡邊 晶子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

基本的な文法を確実なものにし、語彙を増やしていく。
構文をしっかりと理解した上で長文を正確に読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習を前提とし、毎回全員を指名していくので、準備をしておくこと。
課題等に対するフィードバックは授業内に全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Your Immune Defense System	不定詞について学ぶ。 免疫防御系についての英文を読む。
2	The Earth We Live On	動名詞について学ぶ。 地球の内部についての英文を読む。
3	Science Looks Twice at Twins	分詞について学ぶ。 双子についての英文を読む。
4	Memory Miracles	比較について学ぶ。 記憶力についての英文を読む。
5	Products of the Sea	否定について学ぶ。 海の産物についての英文を読む。
6	If the Oceans Should Die	受動態について学ぶ。 海についての英文を読む。
7	小テスト	重要構文などの確認と 小テストを行う。
8	Moving Continents	関係詞について学ぶ。 大陸移動についての英文を読む。
9	Who Needs Spiders?	接続詞について学ぶ。 クモについての英文を読む。
10	It's the Humidity	仮定法について学ぶ。 湿気についての英文を読む。
11	Blue Babe - a Messenger from the Ice Age	語彙（紛らわしい語）について学ぶ。 氷河時代の野牛の遺骸の発見についての英文を読む。
12	The New Zoo - a Modern Ark	現代の動物園の意義についての英文を読む。
13	Wonderworker - New Drugs	新薬についての英文を読む。
14	まとめ	重要構文などの確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】テキストの日本語訳を全文、ノートにきちんと書いてくること。

【テキスト（教科書）】

The Wonders of Science（成美堂）

A Shorter Course in Usage and Vocabulary（南雲堂）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % レポート課題 40 % 期末テスト 30 %

【学生の意見等からの気づき】

提出課題や質問等を解説に織り込んでいきたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help student acquire a rich vocabulary, accurate grammatical knowledge and reading skills.

At the end of the course, students are expected to read a text accurately and quickly.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

バリー ヘイタ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

- i)Increasing general proficiency in understanding English texts
- ii)Heightening comprehension skills for listening to and reading from English texts

【到達目標】

Development of grammatical,logical,and lexical expression in English though completing classroom tasks, homework assignments, and module tests.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Practical problem solving in pairs for familiarization with the grammar and vocabulary of each unit text; blackboard presentations of cooperative results; individual assignments and recitations; in class personal consultations. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement Submission page for queries specific to one individual and on the Announcement page for queries of a general nature.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction; Culture and Difference	Class operation and materials; Language Focus: noun/verb/adjective
Class 2	Culture and Difference	Reading Practice: difference/similarity/agreement
Class 3	Culture and Difference	Contrastive Statements; Cause & Effect Sentences; Implied Nouns; Intonation Adjustment.
Class 4	Objects and Items	Language Focus: size/shape/material
Class 5	Objects and Items	Reading Practice: description/usage
Class 6	Foreign and Native culture: Typical Characteristics	Sentence Analysis; Adverbs/ Adjectives; Exaggeration and Generalisation.
Class 7	Reading Practice: Understanding Native Culture	Language Focus: Noun/ Adjective Relationships; Logic/ Truth Value Interpretations
Class 8	Reading Review of 6 and 7	Reading Practice: Statements/Assertions/ Comparisons/ Paraphrases; Adjective/ Adverb Usage.
Class 9	Reading Comprehension: Typical/Exaggerated Items of Japanese Culture	Identifying truthful/exaggerated-statements; Adjective & Adverb Usage/Logical Relations.
Class 10	Language Focus: Characteristics and Definitions	Language Focus: General classes/ Specific examples; Cause/ Effect Statements; Noun/ Adjective Relations
Class 11	Reading Comprehension: Education Anguish of Japanese Parents	Text Analysis: Cause/ Effect Sentences; Fact/ Opinion statements; Adjective/ Adverb/ Transition phrase Identification
Class 12	Paragraph Development: Education Demands for Japanese Teens	Sentence Completion: Grammatical/ Logical Analysis; Identifying Cause/ Effect/ Fact/ Opinion Statements.

Class 13	Reading Practice/ Sentence Composition: Education Pressure for Japanese Teens	Paragraph Development/ Sentence Completion: Cause/Effect/ Fact/ Opinion; Transitions
Class 14	Reading Comprehension: School Drop-outs and Delinquency in Japan	Definitions: Adjective/ Noun Relations; Analysis/ Arguments: Cause/ Result Statements

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Tasks not completed in classroom time will be assigned as homework for presentation at the next class. Therefore, absence from any class will not excuse any student from completing all of such tasks for the next class.

【テキスト（教科書）】

Course materials for each module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】

Topics in English 1@Longman Asia Limited,1994
Practice Tests for the new format of TOEIC(ELS) TOEIC 運営委員会

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%; Assignments 20%; Mid and Final tests 30%/30%

【学生の意見等からの気づき】

Increased practice in oral skills of pronunciation and intonation through recitation practice.

【学生が準備すべき機器他】

Tape Cassette or CD Player

【その他の重要事項】

Forgotten or lost materials will be replaced only once at the start of each class by the instructor. In all other cases,students must supply their own replacements before class begins. Furthermore,photocopies of completed assignments will not be accepted.

【Caution】

Changes to the schedule may be made in accordance to the proficiency level of the class.

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge while aiming to develop further the four language skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language and in general society there is an increasing need for the ability to comprehend and communicate in English effectively. Therefore, this course emphasizes the development of basic, comprehensive knowledge and understanding as well as better skills in applying these. A variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency in understanding written and spoken English as well as to improve the particular active skills for communicating in English.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

バリー ヘイタ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

- i)Increasing general proficiency in understanding English texts.
- ii)More refined comprehension skills for listening to and reciting from English texts.

【到達目標】

- i)Greater development of lexical,logical,and grammatical expression in English
- ii)More refinement in the strategies and analytical methods employed in Comprehensive English I.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course incorporates collaborative learning through practical problem solving. Students study in pairs to accomplish various tasks related to the grammar and vocabulary used in the unit text, give cooperative blackboard presentations of the task results, recite individually the content of both tasks and texts, complete personal assignments, and receive direct in-class consultations with the instructor. Feedback will be provided over the university Hoppii system on the Announcement and Assignment Submission pages.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Events,Happenings,Processes and Directions	Language Focus: Verbs, Adjectives & Adverbs within descriptive sentences of events
Class 2	Cultural Directions and Natural Happenings	Reading Practice: Process Descriptive Paragraphs/Titles; Adjectives & Adverbs; Transitions.
Class 3	Cultural Directions & Instructions	Reading Practice: Reordering Sentences/Process Description;Titles; Transitions & Conjunctions
Class 4	Review: Instruction and Event Process Descriptions	Reading Practice: Sentence Re-ordering/ Transition Usage;Combining Graphic & Written Information
Class 5	Actions:To Do/ Not to Do;Taken/ Avoided	Reading Practice: Negative/Positive Instructions;Sentence Re-ordering;Adverb/Adjective Discrimination;Verb Synonyms.
Class 6	Close Shaves/ Averting an Accident.	Reading Practice: Verbs/Adverbs/Adjectives/Conjunctions; Sentence Re-Ordering; Title Affixing.
Class 7	Process Description Conformity	Language Focus: Uniformity of Verb Forms & Transition Expressions.
Class 8	Review: A Highway Happening & Street Directions.	Reading Practice: Conjunctions/ Adverbs/Transitions; Situations/Circumstances.
Class 9	Circumstances, States, and Conditions.	Language Focus :Basic Verb and Grammatical Forms; Adjective/Adverb & Noun/ Verb Corelation.
Class 10	The Red Planet: Possible Past, Present & Future.	Reading Practice: Transitions/ Conjunctions/ Adverbial Phrases; Paraphrase Identification; Sentence Re-ordering

Class 11 Distance, Mass And Space

Language Focus: Verb Forms & Definitions;Word Functions; Noun/Adjective Usage; Reading Practice: Sentence Re-Ordering: Conjunctions/ Transitions.

Class 12 Settling On Mars.

Reading Practice: Question Formation; How/ What & Process/ Fact Relations; Adding Appropriate Details; Identifying Major Process Stages; Synonymous Adjectives/ Adverbs; ReOrdering sentences. Reading Practice: Logical Phrasal Connections/ Conjunctions; Reordering Sentences/ Paragraph Cohesion; Conjunctions/ Transitions.

Class 13 Landing On Mars

Class 14 A Successful Mars Mission.

Reading Practice: Paragraph Reordering/ Text Cohesion; Process Step Identification; Process Step Nouns; Synonymous Nouns; 'How' Questions/ Answers.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】 Work not finished in class time will be given for completion as homework. Absence from a class does not excuse a student from doing assignments or covering class work missed. Photocopies of any assignments will not be accepted as the original work of the student presenting such.

【テキスト（教科書）】

Course materials for each session and module will be distributed by the instructor in class.

【参考書】

Topics in English 1 @ Longman Asia Limited,1994

【成績評価の方法と基準】

Students are expected both to study sincerely and to make a valuable and positive contribution to the class. Accordingly, students disinclined, asleep, chattering, or otherwise engaged will be considered disruptive. Grades are based on collaborative module tests(65%), assignments(20%), and class contribution(15%).

【学生の意見等からの気づき】

More intensive practice in the oral skills of pronunciation and intonation essential for reciting paragraphs within a text.

【学生が準備すべき機器他】

Cassette Tape or CD Player.

【その他の重要事項】

Forgotten or lost materials will be replaced by the instructor only once for each student at the start of any class.In all other cases students are required to supply their own replacements. Also,photocopies of assignments will not be accepted.

【Caution】

Changes to the schedule may be made in accordance with the general proficiency and progress level in the class.

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English proficiently. Therefore this course emphasizes the further development of basic, comprehensive skills and knowledge as well as the ability to apply these. As in the previous semester, a variety of effective approaches will be used to improve both understanding and communicative competency.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

井上 敏郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	D V D を使ったのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
5	D V D を使ったのリスニング。	簡潔な英文を聞いて、内容を理解する。
6	D V D を使ったのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
7	D V D を使ったのリスニングとスピーキング。	使われた英文を使ってみる。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
14	前期の授業内容の確認 前期試験	前期試験に向けての説明 学力の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 易しい英語の本を 1 冊読む。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

【学生の意見等からの気づき】

前回の確認をしっかりと行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるようなので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

The goal of this course is to understand English without translating.

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

井上 敏郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業では英語のスキルアップのため、読む、聞く、書く、話すを練習する。特に、読むについて、日本語に訳さず理解する方法を学んでいく。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

読む、聞くを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめてやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期試験の確認。リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。
2	リスニングによる応答。	リスニングの質問に答える。パートナーとの応答。
3	500 字程度の文章を読む。	訳さずに理解する練習を行う。
4	500 字程度の文章を読む。	パラグラフリーディングと英語によるまとめを行う。
5	1 分ほどのリスニング。	内容理解とまとめを行う。
6	1 分ほどのリスニング。	内容理解と英語によるまとめを行う。
7	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解とまとめ。
8	1000 字程度の科学英文を読む。	内容理解と英語によるまとめ。
9	一日のルーティンのリスニング。	自分の一日を英語で書く。
10	TOEIC によるリスニング。	TOEIC 英語の特徴を掴む。
11	TOEIC によるリーディング。	文法の確認と TOEIC 英語の特徴を掴む。
12	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
13	授業のまとめ。	読む、聞く、話す、書くの確認。
14	秋学期試験。	英語力の確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業内で説明するが、日々英語に触れる時間を作ることを望む。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

授業で配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%) 重視。試験 (40%) を実施する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

【学生の意見等からの気づき】

タスクの解答をしっかりと提示することに気をつける。時々早口になるので、それも気をつける。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

The goal of this course is to understand English without translating.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。2回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインでも併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (1)	仮想現実の世界に関する文章を読み解く
3	Unit1: Welcome to a World within a Pair of Glasses (2)	仮想現実の世界に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit2: The Secret of the Stradivarius (1)	ストラディバリウスの音色に関する文章を読み解く
5	Unit2: The Secret of the Stradivarius (2)	ストラディバリウスの音色に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (1)	海からプラスチックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み解く
7	Unit3: Getting Rid of Plastic in the Ocean (2)	海からプラスチックの廃棄物をなくす方法に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (1)	アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み解く
9	Unit4: Preventing the World's Increasing Allergies (2)	アレルギーとその予防・対応策に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (1)	小テスト⑧ 冥王星への旅に関する文章を読み解く
11	Unit5: Journey to the Lonely Outer World (2)	冥王星への旅に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit6: Archaeologists, Aliens and Earth (1)	考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み解く
13	Unit6: Archaeologists, Aliens and Earth (2)	考古学で探る古代のミステリーに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
14	授業内学期末課題	今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】

Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (¥1,900)

※教科書販売期間中に必ず購入すること。

【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %
 学期末課題 20 %
 授業への積極的な参加姿勢 10 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。
 指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の書店やアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

【Learning Objectives】

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

小畑 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とします。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められます。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるため、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- ①英文法を理解し一定の語彙力を身につけることで、アカデミックな内容の英語で書かれた文章を正確に読み解くことが出来る。
- ②音声を通して英語母語話者が話す音声に触れることで、リスニング力を高めることが出来る。
- ③科学の分野でよく使用される単語や表現を身につけることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストは、最新科学の話題に関して、わかりやすい英文で書かれたものを使用します。2 回の授業で各ユニットを終わらせる予定で授業を進めます。課題を事前に提出してもらうことで、予習に基づいた授業を行います。課題等へのフィードバックは授業内で行います。授業は、対面としますが、オンラインでも併用します。また、対面の場合もハイフレックス型授業とし、オンラインでも受講できるようにします。詳細は学習支援システムより連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	履修上の注意、評価方法などシラバスを説明します。また、発表の担当個所を決めます。
2	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (1)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み解く
3	Unit7: Dinosaur and Human Co-Existence (2)	恐竜と人類の共存に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
4	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (1)	顔認識システムに関する文章を読み解く
5	Unit8: Face Recognition Systems All Around Us (2)	顔認識システムに関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
6	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (1)	緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み解く
7	Unit9: Miracle Drink: Green Tea and Action of Catechin (2)	緑茶とカテキンの効能に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
8	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (1)	海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み解く
9	Unit10: Can Carbon Dioxide Absorption in the Ocean Stop Global Warming? (2)	海洋での二酸化炭素吸収と地球温暖化に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
10	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)	ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み解く
11	Unit11: Time Warp: Taking a Journey to Black Holes in Space (1)(2)	ブラックホールとタイムワープの関係性に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する
12	Unit12: Plastic Surgery (1)	美容整形手術に関する文章を読み解く
13	Unit12: Plastic Surgery (2)	美容整形手術に関する文章を読み、単語、表現、文法などを習得する

14 授業内学期末課題 今学期の学習内容のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
- ・次の授業で使用するテキストの本文をしっかりと読む。
- ・授業前に指定されている課題を行い、提出する。

【テキスト（教科書）】

Faudree, Michael C. "Science Adventures", Kitihara Shoten. (¥1,900)
※教科書販売期間中に必ず購入すること。

【参考書】

英和辞典を持参すること（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

授業前課題 70 %
学期末課題 20 %
授業への積極的な参加姿勢 10 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の ZOOM 授業での経験を活かし、オンラインでも対面でも変わらない質の授業が提供出来るように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

初回授業時に履修に関する注意事項を話しますので、必ず出席すること。指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。この教科書は一般の本屋さんやアマゾンなどでは販売されていません。大学で、指定の期間内に必ず購入して下さい。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

[Learning Objectives]

The goals of this course are [1] to understand academic texts precisely, [2] to improve English listening skills, [3] to acquire words and expressions used in scientific fields of study.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students are expected to read the designated texts and to complete the required assignments before each class meeting.

Students are expected to spend one hour to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Final grade will be calculated based on [1] pre-class assignments (70%), [2] in-class contribution (10%), and [3] final assignment (20%).

LANd100LC

基礎ドイツ語ⅠⅠ

鈴木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の基本文法を学習する。

【到達目標】

文法の知識をさらに深めるとともに、実践力も強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎ドイツ語Ⅰで習った文法事項を確認しながら、新しい項目についても体系的に学習する。

オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。

授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎ドイツ語Ⅰの学習内容の確認	第 1-6 課 (p.5-28)
第 2 回	前置詞	第 7 課 (p.29-32)
第 3 回	前置詞と定冠詞の融合形、数詞④	第 7 課 (p.29-32)
第 4 回	話法の助動詞	第 8 課 (p.33-36)
第 5 回	話法の助動詞	第 8 課 (p.33-36)
第 6 回	不定代名詞 man の用法	
第 6 回	分離動詞	第 9 課 (p.37-40)
	数詞⑤	
第 7 回	命令形	第 9 課 (p.37-40)
第 8 回	時刻表現	第 9 課 (p.37-40)
	数詞⑥	
第 9 回	形容詞の用法	第 10 課 (p.41-44)
第 10 回	形容詞の格変化	第 10 課 (p.41-44)
第 11 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 12 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 13 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)
第 14 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】基礎ドイツ語Ⅰの内容も含めて繰り返し復習すること。

【テキスト（教科書）】

秋田静男他著『イン・ドイチュラント』朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験成績 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価する。

オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の多くがドイツ語及びドイツに強い関心をもっていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills. The goal of this course is to be able to use German language properly. After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

基礎ドイツ語Ⅰ

鈴木 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎ドイツ語Ⅰに引き続き、ドイツ語の基本文法を学習する。

【到達目標】

文法の知識をさらに深めるとともに、実践力も強化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎ドイツ語Ⅰで習った文法事項を確認しながら、新しい項目についても体系的に学習する。

オンライン授業が実施されるなど、授業計画・方法が変更される場合は、学習支援システムでその都度提示する。

授業の最初に前回の課題の解答を示し、解説を行って、それを総括的なフィードバックとする。オンライン授業の場合は、学習支援システムを通じて個々の学生にアドバイスも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	基礎ドイツ語Ⅰの学習内容の確認	第 1-6 課 (p.5-28)
第 2 回	前置詞	第 7 課 (p.29-32)
第 3 回	前置詞と定冠詞の融合形、数詞④	第 7 課 (p.29-32)
第 4 回	話法の助動詞	第 8 課 (p.33-36)
第 5 回	話法の助動詞	第 8 課 (p.33-36)
	不定代名詞 man の用法	
第 6 回	分離動詞	第 9 課 (p.37-40)
	数詞⑤	
第 7 回	命令形	第 9 課 (p.37-40)
第 8 回	時刻表現	第 9 課 (p.37-40)
	数詞⑥	
第 9 回	形容詞の用法	第 10 課 (p.41-44)
第 10 回	形容詞の格変化	第 10 課 (p.41-44)
第 11 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 12 回	再帰動詞・再帰代名詞	第 10 課 (p.41-44)
第 13 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)
第 14 回	総復習	第 7-10 課 (p.29-44)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】基礎ドイツ語Ⅰの内容も含めて繰り返し復習すること。

【テキスト（教科書）】

秋田静男他著『イン・ドイツ語』朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

試験成績 (70%)、平常点及び授業態度等 (30%) を総合して評価する。

オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始時に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の多くがドイツ語及びドイツに強い関心をもっていることが分かった。その気持ちを汲みながら良質の授業を目指したい。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic German language. It aims at helping students acquire and develop the necessary German language skills. The goal of this course is to be able to use German language properly. After each class meeting, students will be expected to review the last lesson. Grading will be decided based on term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

基礎ドイツ語ⅠⅠ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ドイツ語Ⅰ」もしくは「ドイツ語表現」を履修した学生諸君を対象とする。日常のさまざまな場面との関連のもとにさらなる文法事項を学び、語彙を拡張する。

【到達目標】

下記の文法事項に習熟し、短く平易なテキストの読み書きができる。明瞭でゆっくりとした話し方なら、馴染みのある単語や基本的な言い回しを聞き取れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

視覚教材を活用した語彙の導入と文法事項の提示・解説の後、文法問題、インフォメーションギャップ、聞き取り、ひな型に沿った作文、平易な広告やエッセイから必要な情報を取り出すなど、さまざまな作業を展開する。提出された答案は添削し、コメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	不規則変化動詞（1）	fahren, treffen, lesen, sehen / 趣味について / 頻度
第 2 回	不規則変化動詞（2）	wissen / 何曜日に何をするか
第 3 回	3 格の用法（1）	人称代名詞の 3 格 / 3 格支配の動詞、3・4 格支配の動詞 / 身に着ける物 / 誰に何を贈るか
第 4 回	3 格の用法（2）	所有冠詞の 3 格 / 大きな数字 / 暦年数
第 5 回	助動詞（1）	話法の助動詞 / 禁止と許可をめぐって
第 6 回	助動詞（2）	未来の助動詞 / 命令を伝える / ホテルの受付でのやりとり / ホテルやレストランの広告を読む
第 7 回	前置詞（1）	位置関係を表す前置詞 / 道順の説明を理解する
第 8 回	前置詞（2）	手段を表す前置詞、方向を表す前置詞 / 前置詞と定冠詞の融合 / どの乗物を使ってどこへ行くか
第 9 回	前置詞（3）	時を表す前置詞 / 一連の行為を順序立てて述べる
第 10 回	分離動詞	時刻の言い表し方 / 分離動詞を用いて一日の行動を時間軸に沿って述べる
第 11 回	時をめぐる様々な表現	営業時間を理解する / 手順を教える
第 12 回	非人称の es / 現在完了形（1）	天気予報を理解する / haben 支配と sein 支配 / 過去分詞の作り方
第 13 回	現在完了形（2）	過去の事を述べる
第 14 回	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

【テキスト（教科書）】

新倉・正木・中野『シュピッツェ！ Ⅰ』（朝日出版社）

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業担当者変更により、記入事項なし。

【Outline (in English)】

This German course will continue to help students acquire basic grammatical rules and vocabulary in connection with everyday situations. By the end of the course, students should be able to do the following:

- Use grammatical knowledge effectively when reading and writing simple short texts
- Recognize familiar words and very basic phrases when people speak slowly and clearly

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LAN f 100LC

基礎フランス語Ⅰ

荻野 文隆

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基礎を学ぶとともに、フランスの文化、歴史、社会についての基本的な理解を作っていきます。
フランス語の基礎、実践的な文法と発音、リスニングを踏まえた運用能力の養成に努めます。
フランスの歴史と文化、フランス語圏の事情についても触れていきます。

【到達目標】

基礎文法の理解、聞き取り能力、発話力の向上を図って、フランス語運用能力を総合的に高め、実用フランス語技能検定資格取得を目指します。
フランス・フランス語圏についての情報を確認しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎文法の理解と聞き取り能力、発話能力を総合的に高めていきます。
実用フランス語技能検定資格取得も視野に入れていきましょう。
フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設けます。
授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
春学期の授業は、原則として対面で行い、状況に応じてオンラインへ移行する場合があります。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	フランスの歴史とフランス語の成立の経緯
2	挨拶	Bonjour, Bonsoir, Bonne nuit. Bon voyage!
3	パリに着いた。	Paris, c'est super
4	自己紹介	Je m'appelle Sarah
5	家族の話題	La famille de Sarah
6	私は猫が好き	Louise aime les animaux.
7	ここはどこ？ どこへ行く？	Où allons-nous cet été?
8	ブルターニュの夏	On va en Bretagne en vacances.
9	東京からの友人	Une lettre du Japon.
10	知ってる人？	Tu le connais? Tu la connais?
11	ホテルで	A l'hôtel des balcons fleuris.
12	どういう意味？	Qu'est-ce que ça veut dire?
13	いい天気	Bateau sur l'eau.
14	復習と試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 フランス語の発音や綴りに馴染むための課題を授業ごとに出示しますので、それをうまく利用してフランス語の基礎を自分のものにしてください。

【テキスト（教科書）】

「パリの街角で」 荻野文隆、Isabelle Ogino 両風堂

しっかりとフランス語を身に付けたい方は、別売りの音声ペンを購入して、予習復習に活かしてください。大変有効です。
また両風堂のホームページから本文とシャンソンの音源をダウンロードできます。

両風堂ホームページ： <http://www.ryofudo.jp/dl.html>

【参考書】

「地球の歩き方 フランス」(ダイヤモンド社)、「地球の歩き方 パリ」(ダイヤモンド社)などでフランスやパリについての便利な情報が簡単に得られます。

【成績評価の方法と基準】

評価については平常点、課題、レポートなどの総合評価となります。

【学生の意見等からの気づき】

フランス映画やシャンソン、フランス各地の風物、観光地についての情報に触れていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

教科書「パリの街角で：音声ペンで学ぶフランス語」には、本文、シャンソンを含め、全ての例文や問題文の発音が聞ける音声ペンが、別売りで存在します。

意欲のある方をこれを利用することで、美しいフランス語の発音とイントネーションを身に付けることができます。
また両風堂のホームページからも音源の一部をダウンロードできますので、これらをうまく利用してください。

【その他の重要事項】

少なくとも予習は基本的に必要になります。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to learn elementary French grammar.

LAN f 100LC

基礎フランス語ⅠⅡ

荻野 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期でのフランス語基礎を踏まえて、実際の状況を想定しながら発音、表現、文法、リスニング力の向上を目指します。

【到達目標】

フランスやフランス語圏への知見を広げながら、歴史、社会、文化にも視野をむけたいと思います。

仏検4級に対応出来る基礎力をつけていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語での表現やリスニングの力を身につけていきたい。

授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のおさらい。	Qui est-ce?
2	夏のパカンスはどこへ行った？	On est allés en Bretagne.
3	パン屋だ〜。	Colchiques dans les prés
4	お腹が空いたよ。	Bon appétit!
5	もしもし、健三です。	Allô! C'est Kenzo à l'appareil
6	この公園には花がいっぱい。	Beaucoup de fleurs et beaucoup de couleurs.
7	ノートル・ダム大聖堂が見える。	Ah vous dirai-je Maman
8	向こうでアイスクリームを売っている。	Là-bas, on vend des glaces délicieuses.
9	楽しかったね。	C'était très sympa.
10	急がなきゃ。	Il faut qu'on se dépêche.
11	あなたの言いたいことは分かります。	Je vois ce que tu veux dire.
12	私は嬉しい。	Je m'en réjouis.
13	ゆっくりと時間をかけて。	Doucement!
14	復習と試験	Bon courage!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】教科書の版元である「両風堂」のホームページから例文の音源をダウンロードして、予習、復習に役立ててください。

【テキスト（教科書）】

「パリの街角で」 荻野文隆、 Isabelle Ogino 両風堂

これの教科書には、別売りで全ての例文の全ての例文（本文、シャンソン、問題文）発音をピンポイントで確認できる音声ベンがあります。これを利用することで、美しいフランス語の発音、イントネーションを身につけてください。また両風堂のホームページ（<http://www.ryofudo.jp/dl.html>）から、本文とシャンソンの音声をダウンロードできますので、これも利用してください。

【参考書】

「地球の歩き方」シリーズのフランス、パリ、南仏を利用します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 予習、復習、授業への参加など 50%

実用フランス語技能検定試験への取り組み 20%

期末試験 30%

【学生の意見等からの気づき】

旅行やフランス映画、シャンソン、フランスの時事情報に随時触れていくことで、日本語メディアとフランス語メディアの情報の違いにも関心を向けていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書「パリの街角で」には、本文、シャンソン、例文の発音をピンポイントで再生できる音声ベンが、別売りで準備されていますので、これを利用することでフランス語らしい発音を身につけることができます。また両風堂のホームページからも一部音源をダウンロードできますので、通学の電車の中などの時間を利用している、フランス語の生の音声になれるようにしてください。そうすることで、自分でも発音が自然と身についてくるでしょう。

【その他の重要事項】

今や世界情勢が大きく動き出しており、日本もその中に巻き込まれつつあります。日本社会がどのような状況にあるかを、地球規模の状況の変化を視野にいれながら認識していける契機として、フランスとフランス語圏の動向を見ていきたいと思います。

【Outline (in English)】

After four months of studying French, you will learn how to use your knowledge in an effective and practical way, in order to improve your communication skills.

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ

平井 新

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて中国語を学ぶ学生を主な対象とする授業です。教科書を使って、中国語の基礎（中国語の発音要領と表記法、基本語彙、文の構成原理＝単語の並べ方、基本文型）を学びます。中国語の基礎力（声に出して読む力、書く力、話す力、聞く力）の習得を目指します。適宜、視聴覚教材を使用して中国文化の紹介も行います。

なお、本授業は、金曜日開講の「中国語表現」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。そのため私のほうの授業では、文法の習得を中心に進めていく予定です。

【到達目標】

中国語の発音が正確にできること、ピンイン（表音文字）の読み書きができること、簡体字を正しく書け、基礎的な語彙・文法を習得することを目標とします。

言葉は、文法の基礎を理解してこそ、上達します。がんばって一緒に勉強しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第6課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は、原則として対面で行う予定だが、コロナ禍の状況に応じてオンラインで行う場合もあります。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス+中国映画を見る	授業の進め方の説明。中国語に触れてみよう。
第2回	中国語発音①	「中国語とは何か」。 テキスト発音一、二の部分：声調、母音、複母音、ピンインのつづり方①、声調記号のつけ方、練習1の1、練習2の6。
第3回	中国語発音②	テキスト発音三の部分：子音、無気音と有気音、そり舌音、三つのi、ピンインのつづり方②、練習3の1と2。
第4回	中国語発音③	テキスト発音四の部分：鼻母、r化、ピンインのつづり方③、声調の組み合わせ、中国語の音節構造、練習1と2。
第5回	中国語発音④	テキスト発音五の部分：発音総復習。ピンインのつづり方の規則、声調の変化、声調記号のつけ方の規則、練習1と3と5。
第6回	中国語文法・テキスト第1課	人称代名詞、動詞述語文、「～吗？」の疑問文・本文の説明と発音練習。ドリル⑤。
第7回	中国語文法・テキスト第2課	指示代詞、「的」について、疑問詞疑問文、「也」について。ドリル⑤。
第8回	中国語文法・テキスト第3課	量詞、「有」のあれこれ、数のたずね方「几」と「多少」。ドリル⑤⑥。
第9回	中国語文法・テキスト第4課	形容詞述語文、反復疑問文、「呢？」の疑問文について。ドリル⑤⑥。
第10回	中国語文法・テキスト第5課	場所指示代詞、存在の「有・在」の違い、助動詞「想・要」と否定形の注意事項。ドリル③⑥。
第11回	中国語文法・テキスト第6課	日付・時を表す言葉、名詞述語文と肯定文「是」の省略、変化の「了」、「吧」の使い方。ドリル⑤⑥。
第12回	中国語文法・テキスト第7課	連動文・時間量・前置詞文あれこれ・「どのくらい～なのか」の文。ドリル④⑥

第13回 前期授業内容の確認・まとめ+中国語で歌を歌ってみよう+中国語を読んでもみよう。

第14回 復習とまとめ 試験返却+前期文法的重要ポイント総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】予習復習してください。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）。

【参考書】

電子辞書、たとえばCASIO EX-wordなどを持っていると便利です。ただし、その辞書には、講談社か小学館の日中・中日辞典が入っているものを選んで下さい。そして携帯の電子辞書も、無料のものではなく、上述のものがあることが望ましいです。紙の辞書については、授業中に述べます。辞書はあるほうが望ましいですが、急いで買う必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点20%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験80%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

語学の勉強は日々の積み重ねが大切です。語学力向上のためには、学生は欠かさず出席し、積極的に授業参加すること。授業中、教員の板書は必ず丁寧にノートをとること。その週に新出した単語は、その週のうちに覚えること。そして何より重要なのは、その言語を使う地域への限らない好奇心です。言葉だけでなく、中国に関する書籍をなるべく多く読むようにして下さい。

【その他の重要事項】

前期に一、二度プロジェクターやブルーレイ、DVD、CDを使用する授業をしますが、基本的に黒板に板書をする形の講義です。中国語の基礎を教える授業なので、中国人留学生は基本的に受け入れることはできません。

【Outline (in English)】

This is a course for students studying Chinese for the first time. Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

The goal is for students to be able to pronounce Chinese correctly, read and write Pinyin (phonetic characters), write simplified Chinese characters correctly, and acquire basic vocabulary and grammar. Language can only be improved by understanding the basics of grammar. Let's do our best and study together.

The standard study period outside of class time for preparation, review, etc. for this class is one hour.

Attendance is a prerequisite for evaluation. Evaluation will be based on a total of 20% normal points (attendance, performance, and contribution for the class) and 80% for the final exam.

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ

渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の前半部分を学びながら、中国語力の基礎（言語の規則・「書く」力・「話す」力・「聞く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第7課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。また、適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について・中国語について
第2回	中国語の発音 (1)	発音 (1)：解説文の説明と発音練習。 練習 1。
		発音 (2)：解説文の説明と発音練習。 練習 2。
第3回	中国語の発音 (2)	発音 (3)：解説文の説明と発音練習。 練習 3。
第4回	中国語の発音 (3)	発音 (4)：解説文の説明と発音練習。 練習 4。
第5回	中国語の発音 (4)	発音 (5)：解説文の説明と発音練習。 練習 5。
第6回	中国語の文法と語彙 (1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第7回	中国語の文法と語彙 (2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第8回	中国語の文法と語彙 (3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第9回	中国語の文法と語彙 (4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第10回	中国語の文法と語彙 (5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第11回	中国語の文法と語彙 (6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第12回	中国語の文法と語彙 (7)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第13回	前期授業内容の復習	第1課～第7課の復習と補足。
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音することが大切です。教科書付録のCDも活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70％）と平常点（30％）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットを利用できる環境

【その他の重要事項】

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This is a course for students studying Chinese for the first time.

Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc100LC

基礎中国語ⅠⅡ

平井 新

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に初級中国語の前期授業を履修した学生を対象とした授業です。初級中国語テキストの後半部分を進めます。

【到達目標】

中国語を正確に発音できること、表音文字（ピンイン）の読み書きをマスターすることができること、授業で学習した中国語の基礎的な語彙・文法・実用会話を習得することを到達目標とします。中国語検定（4級）の合格レベルに達することを目標としましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書の後半部分（本篇：第7課～第15課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めます。文法を更に深く理解していきましょう。提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テキスト第8課	過去の経験の表し方・動詞の重ね型（形容詞の重ね型も参考までに）・選択疑問文。ドリル④⑤
第2回	テキスト第9課	比較文、二重目的語動詞
第3回	テキスト第9課	様態補語、お金の言い方、ドリル④⑤⑥
第4回	テキスト第10課	「了」の用法、「是～的」構文
第5回	テキスト第10課	「会/能/可以」という3つの「できる」について。ドリル②③④⑤
第6回	テキスト第11課	進行型と継続型。ドリル②③④⑤。
第7回	テキスト第12課	方向補語、結果補語。
第8回	テキスト第12課	動量詞、「ちょっと～」の言い方。ドリル②③④⑤
第9回	テキスト第13課	さまざまな連語について、自然現象表現と存現文について。ドリル②③④⑤
第10回	テキスト第14課	禁止の言い方、同時進行表現、たとえの表現。ドリル②③④⑤
第11回	テキスト第15課	これまでの文法総復習
第12回	テキストにないが、他のテキストでは通常でくる文法について	可能補語、把構文について。
第13回	最終的なまとめ+「中国語で遊ぼう」	期末試験+中国語映画のセリフを読んでもみよう+中国語で歌を歌おう
第14回	後期授業内容の確認	試験の返却と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】教科書についているCDなどを聞いてください。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）。

【参考書】

電子辞書、たとえばCASIO EX-wordなどをしていると便利。ただし、その辞書には、講談社か小学館の日中・中日辞典が入っているものを選んで下さい。そして携帯の電子辞書も、無料のものではなく、上述のものがあることが望ましいです。紙の辞書については、授業中に述べます。辞書はあるほうが望ましいですが、急いで買う必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに宿題を提出してもらいます。宿題を平常点として期末成績評価の50%、期末試験の点数（50%）として、総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

語学勉強のコツは練習と復習の繰り返しです。授業にできるだけ皆勤出席し、ノートを取り、単語を覚え、練習問題に取り組みましょう。付録のCDを携帯電話に取り込み、通勤時になるべく多く聞きましょう。耳から単語を覚えること。

【学生が準備すべき機器他】

後期にも一、二度プロジェクタやブルーレイ、DVD、CDを使用する授業をしますが、基本的に黒板に板書する形の授業です。

【その他の重要事項】

前期同様、中国語の基礎を教える授業なので、中国人留学生は受講不可です。

【Outline (in English)】

This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

One hour of study outside of class time for preparation, review, etc. for this class is standard. Students are encouraged to spend time outside of class listening to the CDs and other materials provided with the textbook to gain exposure to the Chinese language.

Students are required to submit homework assignments to the learning support system. Homework assignments will be evaluated as 50% of the final grade evaluation as regular points, and the final exam score (50%) will be used as the overall evaluation.

LANc100LC

基礎中国語ⅠⅡ

渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、文法を中心に初級中国語の後半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。必要に応じて、中国語検定（準 4 級）対策も行います。前期開講の「基礎中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得すること、中検 4 級を合格することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（本篇：第 8 課～第 15 課）を使って、中国語の文法・語彙の理解・習得を進め、実用な会話を学びます。また、必要に応じて、過去問などを使って、中国語検定（準 4 級）対策も行います。適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語の文法と語彙 (1)	授業の進め方について・第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 2 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 10 課：新出単語・文法ポイント。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 10 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 11 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 12 課：新出単語・文法ポイント。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 12 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 13 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (11)	第 14 課：新出単語・文法ポイント。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (12)	第 14 課：本文の説明と発音練習。ドリル。
第 13 回	中国語の文法と語彙 (13)	第 15 課：新出単語・文法のまとめ。
第 14 回	期末試験	第 8-14 課の復習。 期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音することが大切です。教科書付録の CD を活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300 円）。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。期末試験の点数（70 %）と平常点（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットを利用できる環境

【その他の重要事項】

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This is a class for students who have already learned "Basic Chinese I". The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANd100LC

ドイツ語表現

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語に初めて触れる学生諸君を対象とし、身近なテーマについて話す・聞く・読む・書く練習をする。ドイツ語コミュニケーション能力の基礎を身につけることが目的である。

【到達目標】

日常生活のなかでよく使われる平易な表現や言い回しを理解し、運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

どのテーマも、写真や絵とドイツ語とを（時には推理力を働かせて）結び付けることから始める。ビデオを観て、これをテーマへの導きとする場合もある。この導入部の後、手本となる会話を多角的に理解し、これをもとに、互いにインタビューをしたり紹介文を書いたり、班同士で情報を交換して隠れた事柄を見つけ出したりなど、さまざまな内容のペア作業やグループ作業を展開する。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kontakte (1)	あいさつを交わす／名前を訊く・答える
2	Kontakte (2)	出身地を訊く・答える／ペアで簡単な Dialog を作る
3	Kontakte (3)	国名に親しむ／ du と Sie の使い分けに慣れる
4	Kontakte (4)	「お元気ですか」の表現を使う／人を紹介する
5	Personalien (1)	名前のつづりを伝える／職業を訊く・答える
6	Personalien (2)	配偶関係・子供の有無について話す
7	Personalien (3)	居住地と年齢を訊き合う／人物の紹介文を書く
8	Familie (1)	家族のことを尋ねる・答える
9	Familie (2)	家族について簡単な記事を書く
10	Einkaufen, Möbel (1)	買い物をする時の表現を学ぶ／家具の値段を訊く・答える
11	Einkaufen, Möbel (2)	「すてきだ、モダンだ」など家具を評価する
12	Gegenstände, Produkte	身の回りの物の名を訊く／物を形容する言葉（色・形・素材）に親しむ
13	Wie viele ...?	物をいくつ持っているか、物がいくつ必要かを表現する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

【テキスト（教科書）】

Franz Specht u. a.: Menschen A1/1, Kursbuch. Hueber

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容を十分理解できたようだ。

【Outline (in English)】

This course is designed for students without any knowledge of the German language. By developing the four skills of speaking, listening, reading and writing, it aims at equipping the students with basic communicative abilities needed in simple everyday situations. By the end of the course, students should be able to understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases.

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LANc100LC

中国語表現

杉本 公子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。中国語の基礎的な読み、書き、聞き、話す力の習得を目指します。語学学習に加えて、中国文化の紹介なども適宜とり入れていきます。

なお、本授業は月曜日開講の「基礎中国語Ⅰ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」「中級中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】

- (1) 正確な発音を身につける。
- (2) 発音表記が正確に読める。
- (3) 基礎的な文法を理解する。
- (4) 初歩的な会話ができる。
- (5) 基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は教科書の前半部分（発音篇、本篇：第1課～第6課）を学びます。ピンインの読み書き、基礎語彙の発音、簡体字（中国語の漢字）の読み書き、文法の学習を行いながら、基礎的な日常会話を学びます。また、中国文化にも親しみます。

毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 発音 (1)：単母音	授業の進め方について 発音 (1)：発音表記・単母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第2回	発音 (2)：複母音	発音 (2)：複母音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第3回	発音 (3)：子音	発音 (3)：子音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第4回	発音 (4)：鼻音	発音 (4)：鼻音 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤。
第5回	発音 (5)：声調の組み合わせ	発音 (5)：声調の組み合わせ 発音練習とあいさつ言葉。練習③④⑤⑥。
第6回	表現と語彙 (1) 第1課	第1課：動詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第7回	表現と語彙 (2) 第2課	第2課：疑問詞疑問文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第8回	表現と語彙 (3) 第3課	第3課：所有 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第9回	表現と語彙 (4) 第4課	第4課：形容詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第10回	表現と語彙 (5) 第5課	第5課：存在 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第11回	表現と語彙 (6) 第6課	第6課：名詞述語文 新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③④⑥。
第12回	復習	復習（第1～6課）
第13回	期末試験1	期末試験（筆記）
第14回	期末試験2・まとめと復習	期末試験（音読） 第1課～第6課の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

中国語によるコミュニケーション能力を養うには、できるだけ多く練習することが大切です。教科書付録のCDも活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの聞き取りや発音の反復練習をしてみましょう。漢字に頼らず、耳を慣らしてください。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、2011年。

【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同学社、2016年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、期末試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

漢字は、見て理解できても、いざ書こうとするとわからなくなるもの。書いて覚えましょう。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

【Outline (in English)】

Chinese Communication

[Course Outline] A Mandarin Chinese course for students with no background in Chinese. Students will be offered training in applying their newly gained Chinese skills in listening, speaking, reading and writing. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 1 held during the spring semester.

[Learning Objectives] The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

中国語中級

杉本 公子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の前半部分を学んだ学生を主な対象としています。基礎の「定着」と応用力の養成に努め、基本的な会話や自己表現が自信をもってできるようになることを目指します。また、中国語検定（準4級以上）の受験にも対応します。適宜、中国文化にも触れます。

なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、前期開講の「基礎中国語Ⅰ」「中国語表現」と同じ教科書を使います。

【到達目標】

- (1) 基礎的な中国語について、漢字に頼らず、音で理解できる。
- (2) 基礎文法が理解できる。
- (3) 基礎的な作文ができる。
- (4) 基礎的な会話に自信をもってできる。
- (5) 学習した内容のまとまった中国語が読める。聞き取れる。
- (6) 希望者は、中国語検定試験（準4級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を通して、表現する力と聴く力を養います。また、過去問題などを使い、中国語検定（準4級）対策も行います。適宜、中国文化にも触れます。毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	第7課(1) 第7課(2)	第7課：連動文・時間量・前置詞 第7課：連動文・時間量・前置詞
第3回	中国語検定案内 第8課(1)	中国語検定試験問題 第8課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第4回	第8課(2) 第9課(1)	第8課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文 第9課：比較・二重目的語・様態補語
第5回	第9課(2) 第10課(1)	第9課：比較・二重目的語・様態補語 第10課：完了・「～なのだ」・「できる」
第6回	第10課(2)	第10課：完了・「～なのだ」・「できる」リスニング練習
第7回	第11課(1)	第11課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
第8回	第11課(2) 第12課(1)	第11課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」 リスニング練習
第9回	第12課(2)	第12課：方向補語・結果補語・動量補語
第10回	第13課(1)	第12課：方向補語・結果補語・動量補語 リスニング練習
第11回	第13課(2) 第14課(1)	第13課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」 第13課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
第12回	第14課(2)	リスニング練習 第14課：「～のようだ」・禁止・「～しながら」 第14課：「～のようだ」・禁止・「～しながら」
第13回	期末試験1	リスニング練習
第14回	期末試験2・まとめと解説	期末試験（筆記） 期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】受講者は、教科書の予習・復習をし、本文をしっかりと身につける。付属の音声教材を使って音読練習、リスニング練習をし、漢字に頼らず、音で理解する。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。

【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』同学社、2016年。
中国語検定協会ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】

疑問に思ったことを質問して一度は解決したのに、しばらくしてわからなくなってしまうときには、遠慮なくまた聞いてください。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

【Outline (in English)】

Intermediate Chinese

[Course Outline] This Mandarin Chinese course is for students who have completed either or both of Basic Chinese 1 and Chinese Communication held during the spring semester or equivalent. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 2 held during the fall semester.

[Learning Objectives] The goal is to improve students' comprehensive Chinese language skills.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

中国語中級

杉本 公子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語の前半部分を学んだ学生を主な対象としています。基礎の「定着」と応用力の養成に努め、基本的な会話や自己表現が自信をもってできるようになることを目指します。また、中国語検定（準4級以上）の受験にも対応します。適宜、中国文化にも触れます。
なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」の授業と相互補完しており、一冊の教科書を共通して使用します。また、前期開講の「基礎中国語Ⅰ」「中国語表現」と同じ教科書を使います。

【到達目標】

- (1) 基礎的な中国語について、漢字に頼らず、音で理解できる。
- (2) 基礎文法が理解できる。
- (3) 基礎的な作文ができる。
- (4) 基礎的な会話が自信をもってできる。
- (5) 学習した内容のまとまった中国語が読める。聞き取れる。
- (6) 希望者は、中国語検定試験（準4級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を通して、表現する力と聴く力を養います。また、過去問題などを使い、中国語検定（準4級）対策も行います。適宜、中国文化にも触れます。
毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	第7課(1) 第7課(2)	第7課：連動文・時間量・前置詞 第7課：連動文・時間量・前置詞
第3回	中国語検定案内 第8課(1)	中国語検定試験問題 第8課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第4回	第8課(2) 第9課(1)	第8課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文 第9課：比較・二重目的語・様態補語
第5回	第9課(2) 第10課(1)	第9課：比較・二重目的語・様態補語 第10課：完了・「～なのだ」・「できる」
第6回	第10課(2)	第10課：完了・「～なのだ」・「できる」リスニング練習
第7回	第11課(1)	第11課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
第8回	第11課(2) 第12課(1)	第11課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」 リスニング練習
第9回	第12課(2)	第12課：方向補語・結果補語・動量補語
第10回	第13課(1)	第12課：方向補語・結果補語・動量補語 リスニング練習
第11回	第13課(2) 第14課(1)	第13課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」 第13課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
第12回	第14課(2)	リスニング練習 第14課：「～のようだ」・禁止・「～しながら」 第14課：「～のようだ」・禁止・「～しながら」
第13回	期末試験1	リスニング練習
第14回	期末試験2・まとめと解説	期末試験（筆記） 期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】受講者は、教科書の予習・復習をし、本文をしっかりと身につける。付属の音声教材を使って音読練習、リスニング練習をし、漢字に頼らず、音で理解する。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。

【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』同学社、2016年。
中国語検定協会ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】

疑問に思ったことを質問して一度は解決したのに、しばらくしてわからなくなってしまうときには、遠慮なくまた聞いてください。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

【Outline (in English)】

Intermediate Chinese

[Course Outline] This Mandarin Chinese course is for students who have completed either or both of Basic Chinese 1 and Chinese Communication held during the spring semester or equivalent. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing. Students are also recommended to enroll in Basic Chinese 2 held during the fall semester.

[Learning Objectives] The goal is to improve students' comprehensive Chinese language skills.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

中国語中級

平井 新

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級中国語を1学期履修した学生を対象としています。簡単な会話や読み書きについて学習し、中国語の基礎を固めます。

【到達目標】

中国語の発音やピンインの読み書きを確かなものとする、簡体字に親しみ、基礎的な日常会話ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期開講の「中国語表現」と通年で1冊の教科書を使います。本授業では教科書（本篇：第7課～第15課）を使って中国語の基礎的な会話を学習していきます。中国語検定準4級の受験を推奨しており、過去問などを使って検定試験対策も行います。また適宜視聴覚教材などを使って中国語圏の文化や社会について紹介していきます。提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について、前期授業内容の復習。
第2回	中国語の表現と語彙 (1)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑤⑥。
第3回	中国語の表現と語彙 (2)	第8課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル③⑤⑥⑦。
第4回	中国語の表現と語彙 (3)	第9課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥⑦。
第5回	中国語の表現と語彙 (4)	第10課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル⑤⑥⑦。
第6回	中国語の表現と語彙 (5)	第11課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル④⑤⑥⑦。
第7回	中国語の表現と語彙 (6)	第12課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル④⑤⑥⑦。
第8回	中国語の表現と語彙 (7)	第1課～第10課の復習＋中国語検定対策 (1)。
第9回	中国語の表現と語彙 (8)	第1課～第10課の復習＋中国語検定対策 (2)。
第10回	中国語の表現と語彙 (9)	第13課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル④⑤⑥⑦。
第11回	中国語の表現と語彙 (10)	第14課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル④⑤⑥⑦。
第12回	復習	第7課～第15課の復習と補足 (1)
第13回	復習	第7課～第15課の復習と補足 (2)
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】語学を身につけるには反復練習が重要です。授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。

【参考書】

『つながる中国語文法』林 松涛著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2011年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）＋平常点（20％）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中にできるだけ声に出して練習する機会を持ちたいと考えています。

【Outline (in English)】

This lesson is for students who took the 1st semester of Elementary Chinese. You will learn simple conversation, reading and writing, and solidify the foundation of your Chinese.

The goals of the course are to ensure that students are able to read and write Chinese pronunciation and pinyin, to become familiar with simplified Chinese characters, and to be able to carry out basic daily conversation.

Students are required to submit homework assignments to the learning support system. Homework assignments will be evaluated as 50% of the final grade evaluation as regular points, and the final exam score (50%) will be used as the overall evaluation.

Evaluation will be based on the final exam (80%) + regular performance in the class (20%).

PSY100LC

パーソナリティ

伊藤 隆一

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
- この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
- 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
- 成績は、授業中 5 回課すレポートの内容をもとに、算出します。
- 伊藤隆一のメールアドレスは、momokawa@hosei.ac.jp です。

【到達目標】

「パーソナリティ」「こころの働き」という 2 つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限 1 週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第 2 回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第 3 回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第 4 回	心理学の研究手法	心理学が用いる研究方法について説明する
第 5 回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第 6 回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第 7 回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第 8 回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第 9 回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第 10 回	知能と実知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第 11 回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第 12 回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第 13 回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第 14 回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003 年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業中 5 回課すレポートの内容をもとに、算出する。定期試験は行わない。

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term.
Top point of each report is 20.

【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的に、実践的な授業を行って行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVD を見せることがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term.

Top point of each report is 20.

PSY100LC

こころの働き

伊藤 ひろみ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。

○ この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

○ 成績は、授業中 5 回程度課すレポートの内容をもとに、算出します。

【到達目標】

さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限 1 週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第 2 回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第 3 回	感覚の種類 (1)	8つの感覚について説明する
第 4 回	感覚の種類 (2)	〃 (2)
第 5 回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第 6 回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第 7 回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第 8 回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第 9 回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第 10 回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第 11 回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第 12 回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第 13 回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第 14 回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003 年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で 5 回程度レポートを提出してもらい（各 20 点程度）。その成果をもとに成績をつける。定期試験は行わない。

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVD を見せることがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

PSY100LC

パーソナリティ

伊藤 ひろみ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。

- この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
- 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
- 成績は、授業中5回程度課すレポートの内容をもとに、算出します。

【到達目標】

「パーソナリティ」「こころの働き」という2つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限1週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第2回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第3回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第4回	心理学の研究手法	心理学が用いる研究方法について説明する
第5回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第6回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第7回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第8回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第9回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第10回	知能と実際の知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第11回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第12回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第13回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第14回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で5回程度レポートを提出してもらう（各20点程度）。その成果をもとに成績をつける。定期試験は行わない。

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的に、実践的な授業を行って行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests

to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind". Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

PSY100LC

こころの働き

伊藤 ひろみ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。

○ この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

○ 成績は、授業中5回程度課すレポートの内容をもとに、算出します。

【到達目標】

さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限1週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第2回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第3回	感覚の種類（1）	8つの感覚について説明する
第4回	感覚の種類（2）	〃（2）
第5回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第6回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第7回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第8回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第9回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第10回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第11回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第12回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第13回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第14回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で5回程度レポートを提出してもらい（各20点程度）。その成果をもとに成績をつける。定期試験は行わない。

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

PSY100LC

パーソナリティ

伊藤 隆一

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。
- この授業は、抽選登録科目です。登録期間中に必ず登録申請し、抽選の結果、登録できたか確認してください。
- 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。
- 成績は、授業中 5 回課すレポートの内容をもとに、算出します。
- 伊藤隆一のメールアドレスは、momokawa@hosei.ac.jp です。

【到達目標】

「パーソナリティ」「こころの働き」という 2 つの授業を通じて、人間のこころのメカニズムについて知識を身につけて欲しい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、こころの個性を表すパーソナリティ（人格）、他者との人間関係などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や心理検査を行いたい。「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限 1 週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容を紹介する
第 2 回	心理学の対象	心理学の研究対象について説明する
第 3 回	基本的なこころの機能	一人一人が持っているこころの機能、すなわちパーソナリティについて説明する
第 4 回	心理学の研究手法	心理学が用いる研究方法について説明する
第 5 回	心理学の領域と周辺諸科学	心理学がどのような他の学問領域と関連しているのか説明する
第 6 回	パーソナリティ把握のスキーム	パーソナリティを把握するための諸理論について説明する
第 7 回	パーソナリティの発達	パーソナリティがどのように発達していくのか説明する
第 8 回	パーソナリティの形成	パーソナリティが遺伝と環境の影響を受けてどのように形成されるのか説明する
第 9 回	パーソナリティの能力的側面	知的能力について説明する
第 10 回	知能と実際の知的能力	知的能力を構成する諸特性について説明する
第 11 回	気質と性格	性格の内容と性格の諸理論について説明する
第 12 回	防衛機制	人が無意識におこなう防衛機制について説明する
第 13 回	パーソナリティの指向的側面	好み・関心・人生観といった指向的側面について説明する
第 14 回	パーソナリティの把握と心理検査	心理検査をいくつか紹介する。心理テストを自己採点してみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
テキストの関連箇所を熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。課題を出すことがあるが、授業前に必ずやっておくこと。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003 年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業中 5 回課すレポートの内容をもとに、算出する。定期試験は行わない。

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term.
Top point of each report is 20.

【学生の意見等からの気づき】

今後とも、わかりやすく、具体的に、実践的な授業を行って行きたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVD を見せることがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「こころの働き」とペアで履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course (Personality) introduces the personal functions of the human mind, for instance, human ability, character and development, and personality tests to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Functions of the Human Mind".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term.

Top point of each report is 20.

PSY100LC

こころの働き

伊藤 ひろみ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なこころの機能である、感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶などについて講義する。必要に応じて、小実験なども行いたい。

○ この授業は抽選登録科目です。抽選に登録して、抽選の結果登録できたかどうか、必ず、確認してください。

○ 教科書は必ず必要です。その他の必要な資料は、学習支援システムに掲載します。

○ 成績は、授業中5回程度課すレポートの内容をもとに、算出します。

【到達目標】

さまざまなこころの機能を学び、日々の人間の行動について考え、理解していくことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

現代心理学の枠組みや心理学の研究手法、人間のこころの共通性・一般法則などについて講義する。また、必要に応じて、小実験や映像教材を使用した授業を行いたい。「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。授業期間中に複数回、課題の提出を求めるつもりだが、原則として提出期限1週間後に、正解を学習支援システムに掲載するので、かならず自分の答えとつきあわせて確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代心理学の枠組み	現代心理学の幅広い内容について説明する
第2回	基本的なこころの機能	感覚・知覚、動機づけ、学習、記憶、思考といった基本的なこころの働きについて説明する
第3回	感覚の種類（1）	8つの感覚について説明する
第4回	感覚の種類（2）	〃（2）
第5回	知覚の法則	大脳の働きとして起こる、さまざまな知覚の法則を説明する
第6回	錯覚	対象を誤って知覚する錯覚について、錯視図や多義図形などを用いて説明する
第7回	動機づけのメカニズム	行動を引き起こすエネルギーとしての動機づけについて説明する
第8回	一時的動機と二次的動機、外発的動機と内発的動機	さまざまな動機の種類について説明する
第9回	欲求不満、葛藤	動機が充足されない状況である欲求不満状況や葛藤について説明する
第10回	学習の定義	経験による永続的な行動変容を意味する学習について説明する
第11回	本能行動、初期学習行動、無条件反射行動	さまざまな行動を、学習か遺伝かという形成要因をもとに分類する
第12回	条件反射行動、自発的行動、条件づけ	学習によって形成される行動と条件づけのメカニズムについて説明する
第13回	効果的な学習方法	効果的な学習方法について、具体的に説明する
第14回	記憶のメカニズム	覚え、貯蔵し、思い出す、記憶のメカニズムについて説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
各回の授業内容がテキストのどの章、どの節の記述と対応しているのか、テキストを熟読し、よく確認しておくこと。授業で得た知識をさらに展開できるように、テキスト各章の末尾にある「次のステップへ」の課題を解いてみよう。

【テキスト（教科書）】

伊藤隆一・千田雅博・渡辺昭彦 『現代の心理学』 金子書房 2003年

【参考書】

適宜、授業の中で話す。適宜、プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業内で5回程度レポートを提出してもらう（各20点程度）。その成果をもとに成績をつける。定期試験は行わない。

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、さらに実践的な授業をめざしたい。

【学生が準備すべき機器他】

心理学に関するビデオ・DVDを見せることがある。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合は抽選になる可能性があります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

「パーソナリティ」とペアで履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

This course (Functions of the Human Mind) introduces the fundamental functions of the human mind, for instance, sensation and perception, motivation, learning and memory to students taking this course. The goal of this course is to obtain basic knowledge about general psychology. Participants are recommended not only to take this course but also to take "Personality".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The grade depends on the performances of 5 times reports in this term. Top point of each report is 20.

HIS100LC

日本文化論

横山 泰子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本文化の特徴や歴史性を考える一つの手がかりとして、妖怪文化をとりあげます。自国の文化を知るために、様々な文献やマンガ、絵画資料などにふれ、現代の文化が過去とつながっていること、海外の文化とも関係していることを知ります。

【到達目標】

世の中には多様な学問領域があることを知り、いわゆる理系の科目とは異なる思考や発想ができるようになるのが目的です。文章だけではなく、映像や絵画、マンガなども文化研究の資料です。娯楽としてそれらを楽しむだけでなく、資料として扱う方法を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバス内容の確認と、授業で扱うテーマについての希望調査
2	現代日本の妖怪文化の特徴	現代の日本の妖怪文化を代表する作品を鑑賞し、その特徴を考える
3	「鬼滅の刃」について 娯楽の対象としての妖怪 鬼について	怖いはずのものが楽しみ＝娯楽になることに注目し、妖怪文化の遊びの面をとらえる
4	信仰の対象としての妖怪 アマビエの正体	神秘的な存在は、恐怖されるのみならず、崇拜され信仰されることがある。そのメカニズムを考える
5	地域に根ざす妖怪文化	日本には、地域に根ざした多様な妖怪伝承がある。その地域性について考える
6	地域を超える妖怪文化	近年、日本の妖怪文化は諸外国から注目・評価されている。どの点がユニークとされ、興味を持たれているかをとらえる
7	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
8	欧米の妖怪文化と日本人	西洋の妖怪文化は、様々なメディアを通じ、日本に影響を与えている。欧米の妖怪文化について考える
9	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
10	アジアの妖怪文化と日本人	アジアの妖怪文化は、根底において日本と共通する面を多く持っている。昔話等の比較を試み、アジアの妖怪文化について考える
11	妖怪を表現する技術	歴史的な絵画技術などに学びながら、自分たちで妖怪を創造しててみる
12	日本の妖怪文化を世界で説明するために	日本文化を世界で説明することが求められる昨今、妖怪について自分なりに説明してみる
13	近代科学と妖怪 寺田寅彦について	近代科学の発展にともない、過去に妖怪のしわざとされていた現象は科学的に説明可能となった面がある。科学と怪異現象との関係について考える
14	まとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題（ネット等を使った調べ学習）など 1時間程度

【テキスト（教科書）】

教科書を使用する予定はありません。

【参考書】

参考書等については、その都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

調べ学習が楽しかったという意見があったので、今年度も取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

月曜日4時限目をオフィスアワーとします。研究室は W1004 です。

また、いそぎの質問等は

yyoko@hosei.ac.jp

にメールで御願います。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand yokai in Japan as cultural concepts and cultural products. The word yokai means creatures, presences, or phenomena that could be described as mysterious or eerie and are seen in every society. After taking this course, you will be able to explain how yokai culture has been built in Japan. Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in this class will be decided on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC

比較文化論

横山 泰子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分たちが生活する日本という国の文化的特徴を、海外との比較をしつつ考える姿勢を身につけます。身近な生活文化に注目し、本を読み、様々な現象を調べながら、日本的な現象とされていることが本当に日本的であるかどうかを考えます。

【到達目標】

日本の文化を比較文化的にとらえるための手がかりとして、「世間」「社会」等の基本的な概念に注目することによって、自文化を相対的に見る視点と異文化に対する興味を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が講義形式で説明し、学生に課題やアンケート、小テスト等を課します。その結果をとりいれて説明をしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明とアンケート	シラバス内容の確認。「日本的」と思われるモノ・コトを考える
2	言語文化	日本の生活文化の特徴を言葉から考える
3	「世間」と「社会」について1	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
4	「世間」と「社会」について2	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
5	「世間」と「社会」について3	「世間」「社会」などの基本的な概念の説明
6	「空気」について	「空気」についての説明
7	贈り物の文化	贈答文化について海外の事例と比較
8	職場の文化1	職場文化を、海外の事例を加えて考える
9	職場の文化2	職場文化を、海外の事例を加えて考える
10	服装の文化	制服やリクルートスーツなどの規則を、海外の事例を加えて考える
11	服装の文化	日本のマスク文化を、海外の事例を加えて考える
12	同調性と安全性1	同調性を重視する社会の性格を考える
13	同調性と安全性2	同調性を重視する社会の性格を考える
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を読み、課題作文を書く（1時間程度）

【テキスト（教科書）】

鴻上尚史『空気を読んでも従わない』岩波ジュニア新書 2019年 8月20日

【参考書】

ヤマザキマリ『たちどまって考える』中公新書ラクレ 2020年

【成績評価の方法と基準】

平常点30% 授業時の提出物ならびに小テスト70%

【学生の意見等からの気づき】

2021年度に教科書として指定した『空気を読んでも従わない』が好評だったので、今回もより時間をかけて読み、別の視点からの説明も加えることにしました。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

オフィスアワーは月曜4時限です。研究室は W1004 です。

急ぎの質問は、yyoko@hosei.ac.jp

に御願います。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand Japanese culture in everyday life. We ask ourselves the questions what things and phenomena that Japanese people think are very Japanese are really Japanese. Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution:30%, short reports and tests:70%

HIS100LC

日本文化論

谷村 玲子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代は“Pax Tokugawa”とも呼ばれる、平和で豊かな時代である。本来は戦闘者である「武士」は平和を維持する為政者として、二六〇年という長い時をいかに生きたのであろうか。本授業においては、武家思想のみならず武士の具体的な衣食住から、江戸時代の武士の在り方を学ぶ。武士を核とした授業であるが、おのずから江戸時代における武士と町人との違いも明らかとなる。ある程度具体的な知識を得た後、学期の後半では赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げる。この授業を通じて、学生一人一人が江戸時代に興味を持つと共に、日本人の精神性について考えてもらいたい。

【到達目標】

明治以降の日本人に期待される行動様式は、しばしば「サムライ」と表現される。サムライ（武士）の歴史を理解した上で、江戸時代の武士の文化と精神性を学ぶ。その上で、現代の我々にとって「日本人の理想像とは何か」を考える。思想的な問題にとどまらず、授業中の視覚資料から、江戸時代の生活・文化を広く知ることができ、また日本の伝統文化に触れることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方と方法：大学の判断に従い、原則は対面授業である。対面授業が出来ない場合は、オンライン授業とする。毎回授業内で資料を手渡すが、万一後者の授業の場合は、資料は事前に送信する。できるだけパワーポイントや動画の視聴覚資料を用いて、学生が広く関心を持てるようにする。

前半と後半でそれぞれ授業内完成小作文（感想）を出させる。授業内提出物に関しては、一週間前までの授業内で予告する。提出物から学生の理解が難しかった内容は、次回で再度取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また小作文での興味深い内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバスの内容の確認と、授業で扱うテーマについてのアンケート調査。
2	武士道とは	明治に書かれた新渡戸稲造の「武士道」と、江戸時代の武士道の在り方との相違を考える。
3	戦闘者から為政者へ。	慶長二〇年（1615）「武家諸法度」に見る戦闘者からの脱皮。徳川政権における政治思想＝儒学とは。
4	参勤交代と武士の生活	幕藩体制の中の武士。江戸城の中の大名。さらに大名に仕える武士の知行と扶持。
5	江戸時代の経済	知行と扶持とは。現実の武士の生活をその石高から考える。
6	大火後の江戸の町	江戸の華（大火）と街並みの変化。江戸の居住空間を知る。
7	武家と町人	井原西鶴「日本永代蔵」を読み、江戸時代の武士と町人の精神性の違いを考える。

8	無事の世の教養	戦国武将に流行した茶の湯は下剋上の芸能である。江戸時代に入り、武士の教養はどのように変化したか。特に参勤交代方で江戸に集まった大名、藩士の生活を芸能から考える。
9	赤穂事件「忠臣蔵」元禄 14 年（1701）の事件。	「赤穂事件」には、五代将軍綱吉から七石二人扶持の最下位の武士までが関係している。どんな事件だったかを時系列で解説する。
10	元禄 15 年（1702）の吉良邸への討ち入り。その後の赤穂事件の評価	討ち入りの夜から朝にかけて、何があったのか。さらに討ち入り直後からの様々な評価から、江戸時代の人々にとって「赤穂事件」とは何だったかを考察する。
11	江戸の教育：藩校と寺子屋	江戸時代の武士と町人の教育の違いを考える。武士（藩士）の通った藩校、また庶民の教育を支えた寺子屋を、俳句や絵から考える。
12	江戸の教育：湯島聖堂と昌平坂学問所。私塾とは。そして江戸時代の女子教育。	幕府の教育機関であった昌平坂学問所。さらに日本特有の「私塾」とは何か。そして江戸時代の女子教育の高さを同時代のイギリスと比べて考察する。
13	「武士の一分」	映画「武士の一分」から、これまでの授業の内容を復習すると共に、日本人にとっての「武士」を考える。
14	江戸の美意識「粋」について。本授業のまとめ。	江戸の美意識「粋」を、武士の有り様と対比する形で考える。その上で本講義のまとめを通して、江戸時代から明治東京への連続性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でその日のテーマに沿った具体的な事項を取り上げ、それに対して学生が気楽にクラス内で発言できる機会を設けたい。また学期中の前半・後半で授業内小作文（感想）を授業中に提出させ、学生の興味を刺激したい。毎回授業ではその日の内容を記したレジュメと配布資料を配るので、授業の後にも読み返してもらいたい。また参考文献の紹介を通じて、学生の自主的な参加を促したい。例えば第七回、第八回の授業では、武士（武家）をテーマとした江戸時代の文芸作品にも言及したい。現代文を前もって配布するので、予習として読んできて欲しい。またその日の授業内容に応じた参考文献を紹介するので、学生の自主的な参加を促したい。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、特にテキストを準備する必要はない。

【参考書】

参考書については、随時授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価基準】

対面授業の場合は、試験期間中に期末テストを行う。なお授業中の感想は直接は点数に加算しない。

【学生の意見等からの気づき】

江戸時代を様々な面から紹介したいが、情報が広範になりすぎると、学生が理解しにくいことがわかった。その上で視覚教材を大事にしたいと思う。また対面授業中の学生の雑談は、他の学生が大変迷惑に思うことから、厳しく注意していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The Tokugawa regime maintained peace for 260 years. This is called "Pax Tokugawa". The warrior class (samurai) worked as politicians and bureaucrats in this period within a rigid social structure. Bushido was understood as the discipline of samurai's life. This course aims to examine the samurai of the Edo period from the cultural point of view. We will look at the norms of the samurai class including the protocol of high ranked samurai at Edo castle and also the real life of middle and lower ranked samurai, for example food, clothing and so on. We will examine the famous incident known as "Chūshingura", or "the 47 Ronin", in the second half of the class.

Grading Policy

Final grade will be determined by the final exam.

HIS100LC

比較文化論

谷村 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、西洋の社会学、心理学、また文化人類学の理論を用いた比較文化の視点から、日本の伝統文化である茶の湯を捉える。毎回豊富な画像を用意し、コースの前半では茶の湯に用いられる工芸品の数々から、外国からの影響や、日本文化の独自性を説明する。コース後半には日本の茶の湯の歴史を講義するが、本授業におけるサブ・テーマは「政治と文化（茶の湯）」である。戦国時代の織田信長、豊臣秀吉、明智光秀の茶会の比較は、興味深い問題提起になるだろう。またその後に江戸時代の茶の湯を説明し、近世における日本の政治と文化の関係性を考える。日本史が不得意という学生には、知識としての歴史ではなく、現代を考えるための歴史ということを理解させたい。

【到達目標】

茶の湯という領域を広く学際的に考察し、茶の湯から日本の伝統文化とは何かを学ぶ。また毎回の授業説明と視覚資料から、具体的に日本の工芸品や伝統文化の基本知識を得ることができる。さらに世界の中での日本文化、日本人の美意識、そして日本文化の将来ということにも興味が発展する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の判断に従い、原則は対面授業で行う。対面授業が出来ない場合は、オンラインによる授業とする。毎回授業内で授業内容の説明と資料を手渡し、またパワーポイントで画像や動画を用意する。授業の前半と後半で、授業内で完成する簡単な小作文（感想）を提出させる。授業内提出物は、一週間前の授業で予告する。提出物から学生の理解が難しかった点は、次回授業でも取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また学生から興味深い意見があった場合は、授業内で紹介しさらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	茶の湯研究とは	シラバス内容の確認と茶の湯文化に関する意見調査
2	植物としてのチャ、そして西洋の茶文化	様々なスライドで西洋の茶文化を紹介し、改めて日本の茶の湯との違いを明らかにする。
3	茶道具そして銘とは	茶道具（工芸品）から見た中国と日本の美意識の違いを説明。その上で日本独特の「銘」を、学生に実際に体験させる。
4	銘・箱書・写しといった日本の工芸品の特殊性。	日本の工芸品の特徴である銘・箱書・写しを説明し、西洋の芸術と性。
5	茶の湯に見られる自然	日本の工芸品全般に見られる自然を表す文様を説明。その上で西洋におけるジャポニズムとは何かを説明する。
6	茶事	四時間にわたる正式な茶会（茶事）を象徴表現という意味から考える。

7	茶の湯の歴史	茶に関する中国と日本の最古の文献は何か。遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯を説明し、鎌倉時代に禅と茶の湯が、なぜ武士の間で流行したかを考える。
8	室町時代の茶の湯（やつしの美へ）	会所の茶の湯とやつしの美意識の出現。日本人の美意識の変化を文献とスライドから説明する。
9	戦国時代と南蛮文化	南蛮文化と自由都市堺。なぜ基督教宣教師日本にきたのか。そして南蛮到来の言葉、食べ物等、南蛮文化の日本文化への影響を考える。
10	下廻上と茶の湯	信長、秀吉、そして明智光秀の茶会から、政治と茶の湯を考える。さらに、この時代の茶会料理から、日本の食文化の変化を説明する。
11	利休の茶の湯とは 1 茶会 2 茶室	天文一三年（1544）から天正一八年（1590）の利休の茶会。そして江戸時代初頭より利休の茶室と伝わる国宝「待庵」を用いて、わび茶とは何かを、心理学、文化人類学の視点から考える。
12	利休の最後と利休後の茶の湯	下廻上の利休の最後と、その後の茶の湯の変化から、下廻上と江戸時代の精神性の違いを茶の湯から考える。
13	江戸時代の茶の湯：家元制度	現代日本の組織を考える時も、18世紀半ばから確立していく家元制度は大きなヒントとなる。家元制度を社会学の視点から考える。
14	本講義のまとめ 今後の茶の湯を考える	14回にわたる講義のまとめ。その上で明治時代以降の茶の湯そしてその後の茶の湯。さらにコロナ後の茶の湯を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の授業では茶の湯を通して「工芸」を考える。後半の授業では歴史背景の説明をしながら、日本人の美意識の変化や茶の湯という日本独特の文化の完成を説明していく。学生にはごく一般的な歴史の流れを復習したり、または授業後に配布資料を読み返し確認することを欲する。また前半・後半それぞれに授業内で自分の意見をまとめる小作文（感想）を提出させ、授業の説明を基に学生自身が考える機会としたい。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、準備する必要はない。

【参考書】

授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

大学の採点基準により、期末テストの点数で評価する。授業時間内で完成・提出した小作文（感想）は、直接は成績に加算されない。

【学生の意見等からの気づき】

学生による授業中の雑談は、他の学生が大変迷惑するので、今年はさらに厳しく注意したい。質問する・学生に感想を求めるなどの方法で、授業中に学生が発言できる機会を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The Japanese Tea Ceremony or chanoyu is a very good perspective from which to examine Japanese culture in a comparative cultural context. Chanoyu is a performance art which is created through 1) the drinking of special tea by a host and guests following strict procedures, 2) the employing of special types of tea utensils, and 3) the use of a defined space, a tea room or tea hut including a tea garden. Through this course, you will learn about not only various arts and crafts but also patterns, and symbols of the seasons. You will be encouraged to think about the relationship between nature and Japanese culture. We will examine the history of tea in Japan in the second half of the course.

As I would like to illuminate the aesthetics of Japanese culture, I will speak about not only chanoyu itself but also the secondary aspects of chanoyu, including the history of tea, kaiseki meals (懐石), and some special Japanese cultural concepts such as utsushi (写し), hakogaki, and mei (銘) or poetic name. The particular relation between a tea master and followers, called the iemoto (家元) system, will also be discussed in the class.

Grading Policy

Final grade will be determined by the final exam.

HIS100LC

日本文化論

谷村 玲子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代は“Pax Tokugawa”とも呼ばれる、平和で豊かな時代である。本来は戦闘者である「武士」は平和を維持する為政者として、二六〇年という長い時をいかに生きたのであろうか。本授業においては、武家思想のみならず武士の具体的な衣食住から、江戸時代の武士の在り方を学ぶ。武士を核とした授業であるが、おのずから江戸時代における武士と町人との違いも明らかとなる。ある程度具体的な知識を得た後、学期の後半では赤穂事件（「忠臣蔵」）を取り上げる。この授業を通じて、学生一人一人が江戸時代に興味を持つと共に、日本人の精神性について考えてもらいたい。

【到達目標】

明治以降の日本人に期待される行動様式は、しばしば「サムライ」と表現される。サムライ（武士）の歴史を理解した上で、江戸時代の武士の文化と精神性を学ぶ。その上で、現代の我々にとって「日本人の理想像とは何か」を考える。思想的な問題にとどまらず、授業中の視覚資料から、江戸時代の生活・文化を広く知ることができ、また日本の伝統文化に触れることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方と方法：大学の判断に従い、原則は対面授業である。対面授業が出来ない場合は、オンライン授業とする。毎回授業内で資料を手渡すが、万一後者の授業の場合は、資料は事前に送信する。できるだけパワーポイントや動画の視聴覚資料を用いて、学生が広く関心を持てるようにする。
前半と後半でそれぞれ授業内完成小作文（感想）を出させる。授業内提出物に関しては、一週間前までの授業内で予告する。提出物から学生の理解が難しかった内容は、次回で再度取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また小作文での興味深い内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	クラスの概要説明	シラバスの内容の確認と、授業で扱うテーマについてのアンケート調査。
2	武士道とは	明治に書かれた新渡戸稲造の「武士道」と、江戸時代の武士道の在り方との相違を考える。
3	戦闘者から為政者へ。	慶長二〇年（1615）「武家諸法度」に見る戦闘者からの脱皮。徳川政権における政治思想＝儒学とは。
4	参勤交代と武士の生活	幕藩体制の中の武士。江戸城の中の大名。さらに大名に仕える武士の知行と扶持。
5	江戸時代の経済	知行と扶持とは。現実の武士の生活をその石高から考える。
6	大火後の江戸の町	江戸の華（大火）と街並みの変化。江戸の居住空間を知る。
7	武家と町人	井原西鶴「日本永代蔵」を読み、江戸時代の武士と町人の精神性の違いを考える。

8	無事の世の教養	戦国武将に流行した茶の湯は下剋上の芸能である。江戸時代に入り、武士の教養はどのように変化したか。特に参勤交代方で江戸に集まった大名、藩士の生活を芸能から考える。
9	赤穂事件「忠臣蔵」元禄 14 年（1701）の事件。	「赤穂事件」には、五代将軍綱吉から七石二人扶持の最下位の武士までが関係している。どんな事件だったかを時系列で解説する。
10	元禄 15 年（1702）の吉良邸への討ち入り。その後の赤穂事件の評価	討ち入りの夜から朝にかけて、何があったのか。さらに討ち入り直後からの様々な評価から、江戸時代の人々にとって「赤穂事件」とは何だったかを考察する。
11	江戸の教育：藩校と寺子屋	江戸時代の武士と町人の教育の違いを考える。武士（藩士）の通った藩校、また庶民の教育を支えた寺子屋を、俳句や絵から考える。
12	江戸の教育：湯島聖堂と昌平坂学問所。私塾とは。そして江戸時代の女子教育。	幕府の教育機関であった昌平坂学問所。さらに日本特有の「私塾」とは何か。そして江戸時代の女子教育の高さを同時代のイギリスと比べて考察する。
13	「武士の一分」	映画「武士の一分」から、これまでの授業の内容を復習すると共に、日本人にとっての「武士」を考える。
14	江戸の美意識「粋」について。本授業のまとめ。	江戸の美意識「粋」を、武士の有り様と対比する形で考える。その上で本講義のまとめを通して、江戸時代から明治東京への連続性を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でその日のテーマに沿った具体的な事項を取り上げ、それに対して学生が気楽にクラス内で発言できる機会を設けたい。また学期中の前半・後半で授業内小作文（感想）を授業中に提出させ、学生の興味を刺激したい。
毎回授業ではその日の内容を記したレジュメと配布資料を配るので、授業の後にも読み返してもらいたい。また参考文献の紹介を通じて、学生の自主的な参加を促したい。例えば第七回、第八回の授業では、武士（武家）をテーマとした江戸時代の文芸作品にも言及したい。現代文を前もって配布するので、予習として読んできて欲しい。またその日の授業内容に応じた参考文献を紹介するので、学生の自主的な参加を促したい。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、特にテキストを準備する必要はない。

【参考書】

参考書については、随時授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【成績評価基準】

対面授業の場合は、試験期間中に期末テストを行う。なお授業中の感想は直接は点数に加算しない。

【学生の意見等からの気づき】

江戸時代を様々な面から紹介したいが、情報が広範になりすぎると、学生が理解しにくいことがわかった。その上で視覚教材を大事にしたいと思う。また対面授業中の学生の雑談は、他の学生が大変迷惑に思うことから、厳しく注意していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

The Tokugawa regime maintained peace for 260 years. This is called "Pax Tokugawa". The warrior class (samurai) worked as politicians and bureaucrats in this period within a rigid social structure. Bushido was understood as the discipline of samurai's life. This course aims to examine the samurai of the Edo period from the cultural point of view. We will look at the norms of the samurai class including the protocol of high ranked samurai at Edo castle and also the real life of middle and lower ranked samurai, for example food, clothing and so on. We will examine the famous incident known as "Chūshingura", or "the 47 Ronin", in the second half of the class.

Grading Policy

Final grade will be determined by the final exam.

HIS100LC

比較文化論

谷村 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、西洋の社会学、心理学、また文化人類学の理論を用いた比較文化の視点から、日本の伝統文化である茶の湯を捉える。毎回豊富な画像を用意し、コースの前半では茶の湯に用いられる工芸品の数々から、外国からの影響や、日本文化の独自性を説明する。コース後半には日本の茶の湯の歴史を講義するが、本授業におけるサブ・テーマは「政治と文化（茶の湯）」である。戦国時代の織田信長、豊臣秀吉、明智光秀の茶会の比較は、興味深い問題提起になるだろう。またその後に江戸時代の茶の湯を説明し、近世における日本の政治と文化の関係性を考える。日本史が不得意という学生には、知識としての歴史ではなく、現代を考えるための歴史ということを理解させたい。

【到達目標】

茶の湯という領域を広く学際的に考察し、茶の湯から日本の伝統文化とは何かを学ぶ。また毎回の授業説明と視覚資料から、具体的に日本の工芸品や伝統文化の基本知識を得ることができる。さらに世界の中での日本文化、日本人の美意識、そして日本文化の将来ということにも興味が発展する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の判断に従い、原則は対面授業で行う。対面授業が出来ない場合は、オンラインによる授業とする。毎回授業内で授業内容の説明と資料を手渡し、またパワーポイントで画像や動画を用意する。授業の前半と後半で、授業内で完成する簡単な小作文（感想）を提出させる。授業内提出物は、一週間前の授業で予告する。提出物から学生の理解が難しかった点は、次回授業でも取り上げ、全体の受講生に対してフィードバックを行う。また学生から興味深い意見があった場合は、授業内で紹介しさらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	茶の湯研究とは	シラバス内容の確認と茶の湯文化に関する意見調査
2	植物としてのチャ、そして西洋の茶文化	様々なスライドで西洋の茶文化を紹介し、改めて日本の茶の湯との違いを明らかにする。
3	茶道具そして銘とは	茶道具（工芸品）から見た中国と日本の美意識の違いを説明。その上で日本独特の「銘」を、学生に実際に体験させる。
4	銘・箱書・写しといった日本の工芸品の特殊性。	日本の工芸品の特徴である銘・箱書・写しを説明し、西洋の芸術と性。
5	茶の湯に見られる自然	日本の工芸品全般に見られる自然を表す文様を説明。その上で西洋におけるジャポニズムとは何かを説明する。
6	茶事	四時間にわたる正式な茶会（茶事）を象徴表現という意味から考える。

7	茶の湯の歴史	茶に関する中国と日本の最古の文献は何か。遣唐使・平安時代・鎌倉時代の茶の湯を説明し、鎌倉時代に禅と茶の湯が、なぜ武士の間で流行したかを考える。
8	室町時代の茶の湯（やつしの美へ）	会所の茶の湯とやつしの美意識の出現。日本人の美意識の変化を文献とスライドから説明する。
9	戦国時代と南蛮文化	南蛮文化と自由都市堺。なぜ基督教宣教師日本にきたのか。そして南蛮到来の言葉、食べ物等、南蛮文化の日本文化への影響を考える。
10	下廻上と茶の湯	信長、秀吉、そして明智光秀の茶会から、政治と茶の湯を考える。さらに、この時代の茶会料理から、日本の食文化の変化を説明する。
11	利休の茶の湯とは 1 茶会 2 茶室	天文一三年（1544）から天正一八年（1590）の利休の茶会。そして江戸時代初頭より利休の茶室と伝わる国宝「待庵」を用いて、わび茶とは何かを、心理学、文化人類学の視点から考える。
12	利休の最後と利休後の茶の湯	下廻上の利休の最後と、その後の茶の湯の変化から、下廻上と江戸時代の精神性の違いを茶の湯から考える。
13	江戸時代の茶の湯：家元制度	現代日本の組織を考える時も、18世紀半ばから確立していく家元制度は大きなヒントとなる。家元制度を社会学の視点から考える。
14	本講義のまとめ 今後の茶の湯を考える	14回にわたる講義のまとめ。その上で明治時代以降の茶の湯そしてその後の茶の湯。さらにコロナ後の茶の湯を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前半の授業では茶の湯を通して「工芸」を考える。後半の授業では歴史背景の説明をしながら、日本人の美意識の変化や茶の湯という日本独特の文化の完成を説明していく。学生にはごく一般的な歴史の流れを復習したり、または授業後に配布資料を読み返し確認することを欲する。また前半・後半それぞれに授業内で自分の意見をまとめる小作文（感想）を提出させ、授業の説明を基に学生自身が考える機会としたい。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、準備する必要はない。

【参考書】

授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

大学の採点基準により、期末テストの点数で評価する。授業時間内で完成・提出した小作文（感想）は、直接は成績に加算されない。

【学生の意見等からの気づき】

学生による授業中の雑談は、他の学生が大変迷惑するので、今年はさらに厳しく注意したい。質問する・学生に感想を求めるなどの方法で、授業中に学生が発言できる機会を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The Japanese Tea Ceremony or chanoyu is a very good perspective from which to examine Japanese culture in a comparative cultural context. Chanoyu is a performance art which is created through 1) the drinking of special tea by a host and guests following strict procedures, 2) the employing of special types of tea utensils, and 3) the use of a defined space, a tea room or tea hut including a tea garden. Through this course, you will learn about not only various arts and crafts but also patterns, and symbols of the seasons. You will be encouraged to think about the relationship between nature and Japanese culture. We will examine the history of tea in Japan in the second half of the course.

As I would like to illuminate the aesthetics of Japanese culture, I will speak about not only chanoyu itself but also the secondary aspects of chanoyu, including the history of tea, kaiseki meals (懐石), and some special Japanese cultural concepts such as utsushi (写し), hakogaki, and mei (銘) or poetic name. The particular relation between a tea master and followers, called the iemoto (家元) system, will also be discussed in the class.

Grading Policy

Final grade will be determined by the final exam.

LAN f 100LC

フランス語表現

荻野 イザベル

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の発音に親しんで、フランスやフランス語圏での日常生活に必要な自己表現力を養う。また、フランスとフランス語圏の歴史や文化等について認識を深める。

【到達目標】

フランス語で状況に応じて簡単な会話ができる。
フランスなどを旅行する際に必要な基本的な情報を尋ねたり、聞き取ることができるようになる。
ホテルなどの予約や買い物ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

学年全学科のフランス語初学者を対象とする授業。ペアやグループでフランス語を話したり聞いたりしながら、日常のさまざまな場面でフランス語で表現する力を培う。
また学習者は、フランス・フランス語圏で関心のある事柄について調べ、口頭発表などを通じて、相互に意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、挨拶表現	様々な挨拶表現を学ぶ tu と vous の違いの説明
第 2 回	リオンを訪ねる	フランス語の発音を親しむ
第 3 回	言葉遊びのいろいろ	20 まで数を数える フランス語の読み方とイントネーション
第 4 回	好き嫌いを伝える	好き嫌いについて語る 否定表現の練習をする
第 5 回	自己紹介と他人の紹介	国籍・職業・趣味
第 6 回	買い物をする	丁寧に注文したり、買い物したりする表現
第 7 回	家族を紹介する	兄弟関係・年齢などの表現を使う
第 8 回	観光地をめぐる	世界遺産や美しいスポットの発見
第 9 回	カレンダーと催し物	曜日、名物などの用語
第 10 回	レストランでの場面	食事について聞く
第 11 回	現代のフランス映画を見る	今まで習った言葉を聞き取って、使い方を確認する
第 12 回	アフリカ文化に触れる	うた： les jeunes filles du Maliba 丁寧に望みを伝える
第 13 回	天気について語る	天候、色彩と感覚表現の練習
第 14 回	総復習	フランス語で寸劇を披露する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
簡単な予習と復習を出します。

【テキスト（教科書）】

『音声ペンで学ぶフランス語入門 パリの街角で』

A Paris ... avec un stylo magique

Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino 著

両風堂、2015 年 2800 円

【参考書】

授業中に適宜指示

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % 期末試験 40 % として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ映像資料やシャンソンを用いて授業を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to acquire basic French communication skills and to enjoy cultural aspects of the French-speaking world.

LAN f 100LC

フランス語中級

荻野 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用能力を高める。
フランス・フランス語圏事情について認識を深める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定資格の取得を目指す。
フランス語のインターネットサイトで情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

全学年全学科の「フランス語基礎 1」程度既習者を対象とする授業。
基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め、実用フランス語技能検定資格 5 級以上の取得を目指す。
フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介 シャンソン	授業の紹介、 直説法複合過去の文を作る。
第 2 回	代名動詞 遊び歌	代名動詞で文を作る。
第 3 回	関係代名詞・指示代名詞 映画について	関係代名詞と指示代名詞を用いて文を作る。
第 4 回	直説法半過去 地の文と柄の文	直説法半過去形を用いて、文を作る。
第 5 回	直説法大過去 遊び歌	直説法大過去形と他の過去時制とを比較する。
第 6 回	受動態 シャンソン	受動態の文を作る。
第 7 回	現在分詞 映画のシーン	現在分詞を用いた文を理解する。
第 8 回	ジェロンディフ	ジェロンディフを用いて文を作る。
第 9 回	直説法単純未来	直説法単純未来を用いて文を作る。
第 10 回	直説法前未来	直説法前未来を用いた文を理解する。
第 11 回	中性代名詞	中性代名詞を用いた文を理解する。
第 12 回	条件法現在	条件法現在を用いて文を作る。
第 13 回	接続法現在 フランス語で情報を得る	接続法現在を用いて文を作る。 フランス語のインターネットサイトで情報を入手する。
第 14 回	総復習	フランス語の基礎文法と表現を総復習する。 フランス・フランス語圏について調べ、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、音読、リスニング、発話練習を中心とした課題をこなします。

【テキスト（教科書）】

「パリの街角で」 荻野文隆、Isabelle Ogino 両風堂
しっかりとフランス語を身に付けたい方は、別売りの音声ペンを購入して、発音、イントネーションを確認してください。この教科書の全ての例文（本文、シャンソン、問題文など）を随時確認することができ、練習問題に馴染んでいくのにも大変便利です。
また両風堂のホームページ（<http://www.ryofudo.jp/dl.html>）から本文とシャンソンの音源をダウンロードできます。

【参考書】

「地球の歩き方 フランス」、「地球の歩き方 パリ」（ダイヤモンド社）で、良好するために便利で実用的な情報が得られます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %
実用フランス語技能検定資格への取り組み 20 %
期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス・フランス語圏文化に親しむ。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is for students to develop communication skills in French.

BSP100LC

文章作法

矢口 貢大

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】

- ①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
- ②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
- ③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と演習から成り、その進行は大きく三段階に分けられます。まず、読みやすく正確な文を書くための基本について学び、演習を行います。次に、説得力のある議論の立て方を学び、小論文を作成します。最後に、学術レポートを書くための文献検索や情報処理の技術を学び、期末課題としてレポートを作成します。

※演習を多く取り入れた授業構成とします。授業中に書いてもらった課題は、ピアレビューや添削によってよりよい作文に仕上げていきます。課題へのフィードバックは「学習支援システム」または紙媒体での添削とコメントによって行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（授業内容の理解）・文章表現の基本（1）	・オリエンテーション（抽選、授業の目標、進め方および成績評価の説明） ・語順の法則
第 2 回	文章表現の基本（2）	・読点のうち方 ・書き言葉と話し言葉 ・小テスト（添削演習）
第 3 回	自己表現の実践（1）	・課題作成（怖い話／笑い話）
第 4 回	自己表現の実践（2）	・課題の返却と講評 ・主述の一致 ・長文の分割
第 5 回	論文入門（1）	・論文とは何か ・論理とは何か ・要約練習 ・文章整序
第 6 回	論文入門（2）	・論証とは何か ・論証のパターン① ・400 字作文
第 7 回	論文入門（3）	・論証のパターン②（反論） ・議論分析の方法 ・400 字作文
第 8 回	論文入門（4）	・パラグラフ・ライティング ・パッセージの構成法 ・アウトラインの作成
第 9 回	意見表明の実践（1）	・課題作成
第 10 回	意見表明の実践（2）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第 11 回	意見表明の実践（3）	・課題作成
第 12 回	意見表明の実践（4）	・課題返却と講評 ・ピアレビュー
第 13 回	情報収集と情報処理（1）	・先行研究の調べ方 ・注と参考文献 ・話題ストラテジー
第 14 回	情報収集と情報処理（2）	・スキミング ・スキミング ・要約練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・第 2 回：小テストを見直し、授業内容を復習する。
- ・第 4・10・12 回：課題文の返却後、添削・講評を参考に作文を書き直す。
- ・第 13・14 回：レポート作成に必要な資料を読み、文献メモを作る。レポートのアウトラインを作成する。レポートを書き、推敲する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを配布します。

【参考書】

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012 年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010 年
野矢茂樹『新版 論理トレーニング』産業図書、2006 年

【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（小テスト・400 字作文）（20 %）

課題文（40 %）

レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な授業にしますが、一人の学生に当てる時間が長すぎないように調整します。メールでの質問にできるだけ迅速に対応するよう留意します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川島 るり子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

具体例にたくさん触れながら、「英語らしい」発想によるセンテンスを組み立てる基礎力を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に加え、ディスカッションを行います。適宜小テストを課し、講義内容・テキストの理解を確認します。フィードバックは授業内、学習支援システム、メールを通して行う予定です。授業形態は対面授業を予定していますが、感染症の状況によりオンライン授業となる場合もあります。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（体験授業を含む）	授業の内容および進め方の説明
第 2 回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第 3 回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第 4 回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第 5 回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第 6 回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第 7 回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第 8 回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第 9 回	英語はポジティブにこう！	「否定」から「肯定」へ
第 10 回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第 11 回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第 12 回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第 13 回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第 14 回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
当該授業で扱う箇所をテキスト・配布資料を使って予習し、当該授業で扱った内容・小テストを復習します（各2時間）。

【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800 円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的参加 10% 2 回の復習テスト 90 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Using study questions, students demonstrate what they have learnt from independent reading of the assigned chapter while the instructor ensures their understanding of the key points. At the end of each class, students are given a quiz to check for understanding.

Final grade will be based on participation/performance during class (10%) and two review exams (90%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

早船 由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

アカデミックライティングの手法を身につけ、400 ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。

学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。

英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。

さらに、毎回英文読解の宿題を課す。

提出された英文、文法課題、宿題については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第 2 回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第 3 回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第 4 回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第 5 回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第 6 回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第 7 回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第 8 回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第 9 回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第 10 回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第 11 回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第 12 回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第 13 回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第 14 回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2 時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

【参考書】

高山英士、森一泰 著「English EX」(Linkage Club)

Dorothy E Zemach, Daniel Broudy, Chris Valvona 著 "Writing Research Papers"

(Macmillan Education)

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%

授業内演習および宿題提出：20%

論文：30%

期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】

文法演習および宿題の解説を丁寧に行う。

英文ライティングへのフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

【Learning Objectives】

To complete an academic paper around 400 words on the topic students choose by themselves after learning how to write it in the class.

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 20%

Assignments in the class and after the class 20%

Complete academic paper submission 30%

Final test 30%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

早船 由紀見

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

アカデミックライティングの手法を身につけ、400 ワード程度の英語論文を完成させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、英語論文ライティングの手法を学ぶ。

学んだ手法を使って、授業中に英文を作成する。

英文作成に必要な文法事項の復習を、クイズ形式で行う。

さらに、毎回英文読解の宿題を課す。

提出された英文、文法課題、宿題については、次の授業で返却し、各自フィードバックを行うほか、授業内で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	What is Academic Writing	論文の構成を知る。
第 2 回	Choosing a topic	自分の書く論文のテーマを様々な手法で絞りこむ。
第 3 回	How to find resources	参考文献の役割、探し方について知る。
第 4 回	Taking Notes	参考文献の記録方法について知る。
第 5 回	Plagiarism	盗作、盗用の定義を知る。
第 6 回	In-text Citations	盗作とならないように、参考文献を自分の論文内に引用する方法を学ぶ。
第 7 回	Planning and Writing an Outline	自分の論文の概要を作成する。
第 8 回	Main ideas and supporting ideas	論文の本文の構成を学ぶ。
第 9 回	Topic Sentences and Paragraphs Developing Supporting Ideas and Detail	本文の書き方を学ぶ。
第 10 回	Introductions Conclusions	イントロダクションと結論について学び、実際に書く。
第 11 回	Proofreading	自分の書いた英文を校正する。 他人の書いた英文を校正する。
第 12 回	論文概要完成	作成する論文の概要を完成させる。
第 13 回	論文完成	学んだことをふまえて、英語論文を完成させる。
第 14 回	論文評価	完成した論文を評価する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、2 時間を標準とする】英文読解、英作文、文法、ボキャブラリーの習得。

【テキスト（教科書）】

指定教科書なし。

【参考書】

高山英士、森一泰 著「English EX」(Linkage Club)

Dorothy E Zemach, Daniel Broudy, Chris Valvona 著 "Writing Research Papers"

(Macmillan Education)

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：20%

授業内演習および宿題提出：20%

論文：30%

期末試験：30%

【学生の意見等からの気づき】

文法演習および宿題の解説を丁寧に行う。

英文ライティングへのフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

【Learning Objectives】

To complete an academic paper around 400 words on the topic students choose by themselves after learning how to write it in the class.

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 20%

Assignments in the class and after the class 20%

Complete academic paper submission 30%

Final test 30%

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

長谷川 秀子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーや課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。このクラスの教科書は Introduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2, Vocabulary, Listening 1&2, Your opinion とあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。COVID-19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進めかた、テキストの使い方等の説明。
第 2 回	Unit 1	Mini Presentation Smart Phones Deserve Smart Users
第 3 回	Unit 2	The Animals in Our Lives
第 4 回	Unit 3	Mini Presentation Reforming Japan's Education System
第 5 回	Unit 4	A Hungry Future
第 6 回	Unit 5	Mini Presentation No More Unwelcome Advertisements
第 7 回	Unit 6	A Living Wage
第 8 回	Unit 7	Mini presentation Keeping Mothers on the Payroll
第 9 回	Unit 8	Slow Life
第 10 回	Unit 9	Mini Presentation Volunteering
第 11 回	Unit 10	Longevity : a Mixed Blessing
第 12 回	Review (1) News Paper Article	Unit 1-5 Current Topic
第 13 回	Review (2) News Paper Article	Unit6-1 Current Topic
第 14 回	Term Exam	Unit 1-10 の範囲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】

未来へ続く道
What's Going On in the World? David Peaty, Kahori Kobayashi (2017)
SEIBIDO 1900 円（税別） ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】

授業中に紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 ミニプレゼンテーション、小テスト、課題 50%
期末試験 50%

【注意事項】 原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Goals :In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

Work outside of class: Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

Grading: Assignment mini presentation 50%,Term exam 50%

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

長谷川 秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーや課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、授業内で確認していく。このクラスの教科書は Introduction, Words in context, Reading, Comprehension 1&2, Vocabulary, Listening 1&2, Your opinion とあり予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。COVID-19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Plan for this term
第 2 回	Unit 11	Mini Presentation The Importance of Biodiversity
第 3 回	Unit 12	A Home for Endangered Storks
第 4 回	Unit 13	Mini Presentation Japan's Future Energy Supply
第 5 回	Unit 14	Green Transportation
第 6 回	Unit 15	Mini Presentation How Much Is Nature Worth?
第 7 回	Unit 16	Business Can Be Green
第 8 回	Unit 17	Mini presentation Storing Energy
第 9 回	Unit 18	A Dollar a Day
第 10 回	Unit 19	Mini presentation Beyond Fair Trade
第 11 回	Unit 20	Shrink the Economy, Not the Earth
第 12 回	Review (1)	Mini Presentation
	Newspaper Article	Current Issue
第 13 回	Review (2)	Current Issue
	Newspaper Article	
第 14 回	Term Exam	Unit 11-20

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をい簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】

未来へ続く道

What's Going On in the World? David Peaty, Kahori Kobayashi (2017)
SEIBIDO 1900 円（税別） ISBN978-4-7919-6027-9

【参考書】

授業にて紹介予定。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】ミニプレゼンテーション、小テスト、課題 50%
期末試験 50%

【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

トピックを理解するための情報はクラスの中で話したり、プリントを配布することがある。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

Goals: In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

Work to be done outside class:

Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

Grading: Assignment mini presentation 50%, Term exam 50%

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

The purpose of this course is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

【到達目標】

一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用する語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、テキストを中心とする講義と演習を行う。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは提出された課題レポートから実例や問題点を取り上げ、全体に対して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の説明。予習すべき項目の指示。
②	Unit 1 The Scientific Method	テキストの 7 ページと 8 ページの精読 科学的方法について パラグラフの構造の説明
③	Unit 1 The Scientific Method	テキストの 9 ページと 10 ページの練習問題 受動態 科学英語の語彙と数式の読み方
④	Unit 2 Observing the Solar System	テキストの 11 ページと 12 ページの精読 太陽系の観測史について
⑤	Unit 2 Observing the Solar System	テキストの 13 ページと 14 ページの練習問題 方程式の読み方 他動詞の目的語となる動名詞と to-不定詞
⑥	Unit 3 The Beauty of Mathematics	テキストの 15 ページと 16 ページの精読 数式の美しさについて
⑦	Unit 3 The Beauty of Mathematics	テキストの 17 ページと 18 ページの練習問題 数式の記号について 関係代名詞
⑧	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs	テキストの 19 ページと 20 ページの精読 電球と LED について
⑨	Unit 4 From Light Bulbs to LEDs	テキストの 21 ページと 22 ページの練習問題 図形・面積・体積 関係副詞

⑩	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation	テキストの 23 ページと 24 ページの精読 放射性物質について
⑪	Unit 5 The Risks and Rewards of Radiation	テキストの 25 ページと 26 ページの練習問題 長さ・幅・高さ・深さ 分詞構文
⑫	Unit 6 The Man Who Saved Millions	テキストの 27 ページと 28 ページの精読 ジェンナーの業績
⑬	Unit 6 The Man Who Saved Millions	テキストの 29 ページと 30 ページの練習問題 工具と付属部品 名称 関係代名詞
⑭	学期末レポート課題の提示	学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、それにテキストから覚えるべき表現や単語を書き出し、何度も反復練習をするように。

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

【テキスト（教科書）】

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, Dave Rear & Kayoko Murakami, 南雲堂, 2019, 1900 円。

【参考書】

『理科系のための英語力強化法』、ジャパンタイムズ、2002 年 『公式 TOEIC(R)Listening & Reading 問題集 8』、一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会、2021 年

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%) 授業への積極的な参加・貢献 (10%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が 5 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようお手伝いします。質問があれば何時でもどうぞ。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】

学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding paragraph structure.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
 - develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
 - extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
 - understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.
- (Learning activities outside of classroom)
- Students are expected to:
- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.

- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味を捉える力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。DVD を使用するリスニングとリーディングの訓練も継続させる。

The purpose of this course is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

【到達目標】

一流のサイエンスライターの書いた科学記事を読みこなせるようになる。科学論文でよく使用される語彙や構文を修得できる。文章の中から必要な情報を見つけて、訳読に頼らず、理解できるようになる。短めの会話、アナウンス、ナレーションなどの中で述べられている情報をもとに要点、目的、基本的な文脈を推測できるようになる。

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.
- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前学期に準ずる講義と演習に加えて、TOEIC 形式の問題演習（プリント）を随時行い、スキルの仕上げをめざす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期末レポートのフィードバックとガイダンス	春学期末レポートのフィードバックを行い、本学期のガイダンスを実施する。
②	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 精読	テキストの 31 ページと 32 ページの精読 アインシュタインの一般相対性理論について
③	Unit 7 Unlocking the Mysteries of Gravity 文法	テキストの 33 ページと 34 ページの練習問題 運動を表す動詞 「原因・理由」を表す副詞節
④	Unit 8 The Strange World of Atoms 精読	テキストの 35 ページと 36 ページの精読 原子の世界について
⑤	Unit 8 The Strange World of Atoms 文法	テキストの 37 ページと 38 ページの練習問題 運動の方向を表す表現「結果・程度」を表す副詞節
⑥	Unit 9 Interstellar Travel 精読	テキストの 39 ページと 40 ページの精読 星間旅行について
⑦	Unit 9 Interstellar Travel 文法	テキストの 41 ページと 42 ページの練習問題 測定・計量を表す動詞「譲歩」を表す副詞節
⑧	Unit 10 Limitless Energy 精読	テキストの 43 ページと 44 ページの精読 核融合について

⑨	Unit 10 Limitless Energy 文法	テキストの 45 ページと 46 ページの練習問題 グラフ・図表の英語表現 比較の表し方
⑩	Unit 11 The Surprising Uses of Nanotechnology 要約 基礎	テキストの 47 ページから 50 ページの内容の要約 ナノテクノロジーについて 主語・目的語の名詞表現を判別し、文の「主題」をつかむ。
⑪	Unit 12 Creating the Perfect Human 要約 基礎	テキストの 51 ページから 54 ページの内容の要約 ヒトの遺伝子編集について 「主題」のパラフレーズとディスコースマーカーの働き
⑫	Unit 13 The New Age of Computing 要約 応用	テキストの 55 ページから 58 ページの内容の要約 量子コンピューターについて 全体の主旨を理解する論理的思考力と無意識に活用できる文法力
⑬	Unit 14 The Coming of the Machines 要約 応用	テキストの 59 ページから 62 ページの内容の要約 ヒトと AI の共存について 背景知識の活用
⑭	学期末レポート課題の提示	学期末レポート課題の提示と説明を行い、提出期限を指示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し何度も反復練習すること。Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

【テキスト（教科書）】

前期のテキストを引き続き使用し、プリントを随時配布する。秋学期からの履修者のため、タイトルを提示しておく。

Advances in Science : Learning from the Past, Looking to the Future, 南雲堂, 2019, ISBN 978-4-523-17899-6.

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%) 授業への積極的な参加・貢献 (10%)、を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。総合評価の中には、授業への積極的な参加・貢献も含まれる。未提出課題が5回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

英語の効果的な勉強法を各自が習得できるようにお手伝いします。前期同様質問があれば、気軽にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【その他の重要事項】

学生の皆さんのレベルに応じて、予定を変更する場合もありうる。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure. Students will be also trained to improve their listening and reading skills with a whole film or sequences from it.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to :

- read scientific articles written by first-rate writers.
- develop their English vocabulary and expressions frequently used in the field of science and technology.
- extract the key information from a passage, without translating each sentence literally.

- understand how the main idea in one paragraph relate to the idea in another, based on processing information described in short conversations, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least two hours doing preparation and review of every course content.

- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss submitting more than 4 weekly class assignments except in extreme circumstances.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

太田 美智子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The lesson will involve using textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* These are facts * Writing to inform
第 3 回	Unit 2	* Separating into groups * Writing to classify
第 4 回	Unit 3	* If I were you... * Writing to advise
第 5 回	Unit 4	* Sizing things up * Writing to evaluate
第 6 回	Unit 5	* Mission accomplished * Describing an achievement
第 7 回	quiz	quiz
第 8 回	Unit 6	* This really happened * Reporting an event
第 9 回	Unit 7	* Every problem has a solution * Solving a problem
第 10 回	Unit 8	* Let me make it clear * Writing to clarify
第 11 回	Unit 9	* Don't you see it my way? * Persuasive writing
第 12 回	Unit 10	* One thing leads to another * Cause & effect
第 13 回	Review	Review
第 14 回	Quiz	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】

Jigsaw Intro — Insight Reading to Successful Writing, Robert Hickling, Jun Yashima, Cengage Learning, 2021、2150yen

【参考書】

Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】

Class Work and Participation 30 %
Short Reports 30 %
Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】

It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skills of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

The lesson will involve using textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Grading:

Class Work and Participation 30 %
Short Reports 30 %
Term-Examination 40 %

LANe200LC

アカデミック・ライティング

太田 美智子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセンス・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。

【到達目標】

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The lesson will involve using textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Explanation of Class Rules. You will write a brief self-introduction.
第 2 回	Unit 1	* These are facts
第 3 回	Unit 2	* Writing to inform
第 4 回	Unit 3	* Separating into groups
第 5 回	Unit 4	* Writing to classify
第 6 回	Unit 5	* If I were you...
第 7 回	Unit 6	* Writing to advise
第 8 回	Unit 7	* Sizing things up
第 9 回	Unit 8	* Writing to evaluate
第 10 回	Unit 9	* Mission accomplished
第 11 回	Unit 10	* Describing an achievement
第 12 回	quiz	quiz
第 13 回	Unit 11	* This really happened
第 14 回	Unit 12	* Reporting an event
第 15 回	Unit 13	* Every problem has a solution
第 16 回	Unit 14	* Solving a problem
第 17 回	Unit 15	* Let me make it clear
第 18 回	Unit 16	* Writing to clarify
第 19 回	Unit 17	* Don't you see it my way?
第 20 回	Unit 18	* Persuasive writing
第 21 回	Unit 19	* One thing leads to another
第 22 回	Unit 20	* Cause & effect
第 23 回	Review	Review
第 24 回	Quiz	Quiz

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 You are expected to preview each lesson, also do exercises assigned in the textbook.

【テキスト（教科書）】

Jigsaw Intro — Insight Reading to Successful Writing, Robert Hickling, Jun Yashima, Cengage Learning, 2021、2150yen

【参考書】

Writing Series, Kerry Ito, Kenkyusha

【成績評価の方法と基準】

Class Work and Participation 30 %

Short Reports 30 %

Term-Examination 40 %

【学生の意見等からの気づき】

It is important for us to find interesting topics.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionaries

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skills of writing in a more English-like way, finding and researching good topics and content-based writing.

- ・ Reviewing basic grammatical structure in order to write English more correctly and confidently.
- ・ You can choose most appropriate type of essay.

The lesson will involve using textbook and also free-writing.

At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

Grading:

Class Work and Participation 30 %

Short Reports 30 %

Term-Examination 40 %

LANe100LC

英語資格試験準備講座

川島 多加子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、TOEIC 対策の教材を使います。TOEIC テストは、最も一般的な英語資格試験で、英語の熟度を評価する有効なテストです。また、最近では TOEIC テストが多くの企業において英語能力の評価の基準として用いられており、また世界的にもその目的に適したものとみなされています。こうした社会の状況を考慮すれば、将来仕事に就く際に TOEIC テストでの十分な成績が要求されると考えられます。その点を踏まえ、本授業は TOEIC テストに焦点を絞り、それに必要な知識や技術の向上を目的とします。

【到達目標】

TOEIC50 点～100 点のスコアアップをめざして、学生は以下のことができますようになります。

- ・ TOEIC テストの出題形式に慣れスコアアップに向けての対策ができる。
- ・ 簡単な会話であれば、相手が理解できるように伝えることができる。
- ・ 700 ワードの TOEIC 関連語彙を理解し使うことができる。
- ・ リスニングパートのおよその内容を理解できる。
- ・ リーディングパートのおよその内容を理解できる。
- ・ 速読速聴が当初よりも速い速度でできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、リスニングパートやリーディングパートの一つを取り上げ、それぞれのパートに必要なコツを説明します。学生はその演習を通して聞き方のコツや解き方のコツなどのテクニックを習得していきます。授業では、問題を解いた後、グループやペアで答え合わせをし、その答えを発表していきます。分からない箇所を、クラスメイトからのフィードバックと講師の解説を通して、理解を深めていきます。リスニングパートでは、聞いて発話することでリスニング力の向上をはかります。課題・テスト等の提出やフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	Pretest 目標設定ワークシート
第 2 回	Unit 1 & Unit 2 Listening Tips: Part 1	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 3 回	Unit 3 & Unit 4 Reading Tips: Part 5	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 4 回	Unit 5 & Unit 6 Listening Tips: Part 2	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 5 回	Unit 7 & Unit 8 Reading Tips: Part 6	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 6 回	Unit 9 & Unit 10 TOEIC Tips	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 7 回	Review: Units 1-10 Midterm Exam	学習ポイントの確認 中間テスト
第 8 回	Unit 11 & Unit 12 Listening Tips: Part 3	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 9 回	Unit 13 & Unit 14 Reading Tips: Part 7	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 10 回	Unit 15 & Unit 16 Listening Tips: Part 4	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説

第 11 回	Unit 17 & Unit 18 Reading Tips: Part 7	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 12 回	Unit 19 & Unit 20 TOEIC Tips	解くコツの説明と演習 テキストの問題を解く グループワーク 問題の解答・解説
第 13 回	Mock TOEIC Feedback	TOEIC ミニテスト
第 14 回	Review: Units 11-20 Final Exam Reflection	学習ポイントの確認 期末テスト 振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・ 予習として、指定された教科書等の該当部分の問題を各回の授業までに解いておくこと。分からない単語については、辞書を引き意味を確認すること。
- ・ 復習として、指定された教科書、ワークシート等の該当部分の問題演習や見直しを期日までに済ませておくこと。
- ・ 教科書のオーディオマークのある英文については、繰り返し発話すること。

【テキスト（教科書）】

田中清美 他 3 名、[Effective Approach for the TOEIC ® L&R Test < Revised Edition > / TOEIC ® L&R テスト：スコアアップのための総合英語 [改訂新版]]、南雲堂、2,200 円＋税、ISBN: 9784523179153

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

TOEIC ミニテスト 20%

復習テスト（midterm and final exams） 60%

【学生の意見等からの気づき】

TOEIC に必要な英単語について学習する時間を増やしていきます。

【その他の重要事項】

- ・ 授業の進度によって、シラバスの内容を変更することがあります。
- ・ 講師は、グローバルに展開する大手企業でのグローバル人材育成の実務経験に基づいて、実際の企業で使われる英語を紹介しながら、5 年後、10 年後のキャリアを見据え、学生が主体的に学習できるような動機づけをします。

【Outline (in English)】

The course is designed to help students improve their performance on each part of the TOEIC exam and increase their vocabulary on various business topics. After taking this course, students will be expected to achieve a good score (100 points higher than now).

By the end of the course, students will be able to master test-taking strategies, improve their grammar, listening, and reading skills, and acquire 700 TOEIC-related words.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on class participation (20%), mini-TOEIC (20%), and review tests (60%).

LANe100LC

英語資格試験準備講座

バリー ヘイタ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(i)Improved understanding of the principle elements of certified tests,particularly TOEIC.(ii)Higher score attainment on such tests which is more commensurate to actual understanding of their content.

【到達目標】

i)The integration of skills for reading and writing with those cognitive ones involved for analysis, recognition, and choice of relevant information.

ii)Better understanding of text and discourse structures through practice with materials from the different sections of TOEIC tests .

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Practical learning through both the use of material from past tests and regular revision with practice work sheets. As pair work is an essential part of the course, students are expected to take responsibility for their own study and participate fully.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
First	Introduction to the nature of TOEIC and its two Sections of Listening and Reading	Section 1(1-100) Section 2(101-200)
Second	Reading Section (Parts 5-7)	Practice Test,Answers, and Scores Strategy and Tactics Time management Order preferences
Third	Reading Part 5 (101-140)	Answer sheet use Question pattern analysis
Forth	Reading Part 5 (101-140)	Sentence,word, and spelling analysis
Fifth	Reading Part 6 (141-152)	Sentence and paragraph composition:pronouns, verbs and adjectives
Sixth	Reading Parts 5/6	Review and practice
Seventh	Reading Part 7 (153-200)	Question expressions and text words;question order and text development; Scanning
Eighth	Reading Part 7 (147-179)	Single Texts:purposes, persons,places, give and take interactions
Ninth	Reading Part 7(180-200) Review of Reading Section	Double texts:reference, development,cohesion
Tenth	Listening Section(Parts 1-4)	Common features and differences of the 4 parts. Review and preview practice
Eleventh	Part 1	Picture analysis and misunderstandings of content
Twelfth	Listening Part 2 (11-40)	Spoken question and sentence shadowing
Thirteenth	Listening Part 3 (41-70)	Scanning question and possible responses in unison with listening to talks
Forteenth	Listening Part 4 (71-100)	Skimming the choices for situation and topic hints simultaneous with listening to the monologues

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Constant review of materials practiced and explained in class is necessary both for improved scores on certified tests and for faster recognition of the question patterns. Only this will heighten skills and performance. Redoing those problems which resulted in erroneous choices at least 3 times before the next session will bring the greatest improvement in attainment scores.

【テキスト（教科書）】

Materials including CDs,Question Papers,and Answer Sheets will be provided by the instructor.

【参考書】

Any TOEIC Practice Sets for its new format (TOEIC 運営委員会)

【成績評価の方法と基準】

Final test 50%

Mini-tests 25%

Classroom tasks 25%

【学生の意見等からの気づき】

Initial focus on the Reading Section; Subsequent focus on the Listening Section

【学生が準備すべき機器他】

Tape cassette or CD player

【その他の重要事項】

Irregular,indifferent,ill-prepared,sleepy, or chatty students can neither benefit nor participate optimally in this class.They will be considered disruptive and accordingly asked to leave.

【Caution】

Chnges to the content and schedule may be made in accordance with the size of the class and the general progress shown by the members of it.

【Outline (in English)】

i)To improve not only general proficiency in understanding of and performance on certified tests but also the particular skills needed for atttaning this.

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ

呉 曉林

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。

授業では文法を中心に初級中国語の教科書前半部分を学びながら、デジタル時代に対応する中国語力の基礎（ピンイン入力、読み書き、言語の規則）の習得を目指します。

また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。なお、本授業は、後期開講の「基礎中国語Ⅱ」でも同じ教科書を使います。

【到達目標】

中国語表音文字ピンインを使いこなし、簡単な言葉のやり取りができることを到達目標とします。授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業ではスマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。

提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・中国語とは？	授業の進め方について・中国語とは。
第 2 回	中国語ピンイン入力と日 常用語 (1)	発音とピンイン入力 (1)：解説と練習。
第 3 回	中国語ピンイン入力と日 常用語 (2)	発音とピンイン入力 (2)：解説と練習。
第 4 回	中国語ピンイン入力と日 常用語 (3)	発音とピンイン入力 (3)：解説と練習。
第 5 回	中国語の発音指導と総括 (4)	発音とピンイン入力 (4)：チェック・指導と総括。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 1 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 2 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 3 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 4 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 5 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 6 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②⑤。
第 12 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②④。
第 13 回	前期授業内容の復習	第 1 課～第 7 課の復習と補足。
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

授業で紹介したソフトやアプリを使ってなれること、また自ら他のソフトやアプリも使ってみることで新しい語学学習の方法にチャレンジしてください。テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300 円）。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。成績評価は宿題レポートの点数（60 %）、授業への貢献度（10）と期末試験（30 %）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

紹介されたアプリ、ソフトを積極的に使い、またクラスメートや留学生、ネイティブの方とのコミュニケーションをしましょう。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、ノート PC

【Outline (in English)】

The course is designed for students studying Chinese for the first time. Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language; Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades are based on lab report quality (60%), class contribution (10%) and final report (30%).

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ

呉 曉林

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では文法を中心に初級中国語教科書の後半部分を学びます。中国語力の基礎（表音文字ピンインのキーボード入力、音声入力、「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。必要に応じて、中国語検定（準4級）対策も行います。なお、本授業は、前期開講の「基礎中国語Ⅰ」と同じ教科書を使います。

【到達目標】

中国語を実際に情報収集検索に使い、初歩的なコミュニケーション能力（発音と入力（ピンイン）、基礎的な文法の理解・語彙・実用会話など）を習得することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業ではスマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習、アプリを使う録音と発音の検証を行います。簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得を進めながら、基本的な会話文を学びます。

提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。詳細は学習支援システムで伝達する。中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、基本的な実用会話を学びます。また、必要に応じて、過去問題などを使って、中国語検定（準4級）対策も行います。提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国語の表音文字ピンインのキーボード入力と音声入力	授業に使用するソフト・アプリの説明、授業の進め方について
第2回	中国語の文法と語彙 (1)	基礎中国Ⅰ（春学期の学習内容の確認）
第3回	中国語の文法と語彙 (2)	基礎中国Ⅰ（春学期の学習内容の確認）
第4回	中国語の文法と語彙 (3)	第7課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③④。
第5回	中国語の文法と語彙 (4)	第8課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③④。
第6回	中国語の文法と語彙 (5)	中間学習内容のまとめと確認
第7回	中国語の文法と語彙 (6)	第9課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第8回	中国語の文法と語彙 (7)	第10課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第9回	中国語の文法と語彙 (8)	第11課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第10回	中国語の文法と語彙 (9)	第12課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第11回	中国語の文法と語彙 (10)	第13課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第12回	中国語の文法と語彙 (11)	第14課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①②③。
第13回	中国語の基礎文法と語彙のまとめ	復習と練習
第14回	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
授業で紹介したソフトやアプリを使ってなれること、また自ら他のソフトやアプリも使ってみることで新しい語学学習の方法にチャレンジしてください。テキストについているCDを十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CDを活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果があります。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝、朝日出版社、本体：2300円）。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。成績評価は宿題レポートの点数（60%）、授業への貢献度（10）と期末試験（30%）を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

紹介されたアプリ、ソフトを積極的に使い、またクラスメートや留学生、ネイティブの方とのコミュニケーションをしましょう。
受講者が充実を感じ、興味を持って学習を続けたいと思うような授業を志します。なお、受講者の理解を優先しますので、上記の授業計画通りには進まない可能性があります。

【Outline (in English)】

The class is for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language; Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades are based on lab report quality (60%), class contribution (10%) and final report (30%).

LANe100LC

英語資格試験準備講座

井上 敏郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC テストの成績向上と共に、英語の実力も向上することを目指す。TOEIC テストの 7 種類のパターンについて、それぞれの特徴とポイントを、実践的に行っていくつもりです。

【到達目標】

学生諸君の得意な分野と苦手な分野はそれぞれ違うでしょうが、今回はリスニングと文法を確実に向上させることを目的とするつもりです。具体的には、100 点のアップを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

TOEIC テストの 7 つのパートを全部扱うつもりですが、上で書いたように、リスニングと文法に重きを置くつもりです。具体的にはリスニングのパート 1～3、リーディングのパート 5、6 です。実際に問題を解きながらの授業となります。また、幾つかを課題として、次週に回収した解答を使って、解くポイントの説明等を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	授業説明 リスニング パート 1 リーディング パート 5	聴きづらい音の確認、リスニングの要 点の確認 語感の説明
2 回目	リスニング パート 1 リーディング パート 5	問題の傾向の説明 語彙の傾向の説明
3 回目	リスニング パート 1 リーディング パート 5	選択肢の傾向の説明
4 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	話の流れを掴む練習を積む
5 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	わからない文章を前後から理解する練習を積む
6 回目	リスニング パート 2 リーディング パート 6	語彙の確認
7 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1 つの文書)	ポイントとなる単語やフレーズの把握 の練習を積む
8 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1 つの文書)	理解の強弱をつける練習を積む
9 回目	リスニング パート 3 リーディング パート 7 (1 つの文書)	リスニングのスピードに慣れる、 読むスピードを上げる練習を積む
10 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2 つの文書)	何度か聞いたり、時間をかけて読み、 文章の長さに慣れる練習を積む
11 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2 つの文書)	スピードを上げて、話の流れを掴む練習を積む
12 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2 つの文書)	実際のテストと同様のシステムでどの くらい理解できるかを確認する
13 回目	リスニング パート 4 リーディング パート 7 (2 つの文書)	上と同様だが、それによって自分の長 所、弱点を確認する
14 回目	実際のテストに当たる (リスニング)	現在の自分の実力を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 TOEIC テストに限らず、結局は問題への慣れが重要です。毎日とは言いませんが、出来るだけ多く自宅学習をやること。一番良いのは、TOEIC 公式問題集です。図書館にあると思うので、借りてやってみてください。とにかく本一冊をやりきれば、どんな本でも意味があります。

【テキスト（教科書）】

授業で配布します。

【参考書】

授業中に説明します。

【成績評価の方法と基準】

毎回、問題を解きながらの授業なので、一応諸君の答案を集めて確認します。この授業の性格から、平常点重視にするつもりです。真面目な授業態度を特に重要視します（60 %）。最後に行う模擬テスト（40 %）と合わせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ちょっと喋るテンポが速くなったり、またたまに正解の説明を忘れてたりすることがあるようなので、今回はそうならないように気をつけます。

【その他の重要事項】

辞書は必ず持参して下さい。

【Outline (in English)】

I'll show you about the characteristics of TOEIC and how to solve the questions so that you can acquire the higher scores.

The goal of this course is to develop your listening and knowledge of grammar.

After each class meeting, students will be expected to solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrangement of media
- write an effective summary paragraph
- write an analytical book report
- make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
- carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports/assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be covered.	Students will receive guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.

Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】

Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.

For MLA information:

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html

A good dictionary is required. One example is:

Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Class performance (effort, participation, presentations): 30%

Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.

Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosi University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the “Forums” section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. *You may not use a smartphone for this purpose*

【その他の重要事項】

This class has a strict “NO Smartphones” policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALDER mark

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Personailty	Talking about life choices
3	Family	Talking about some of their favourite things
4	Advice	Students will have the opportunity to talk about problems and brainstorm solutions to these problems.
5	Technology	Discussing possessions and tech features
6	Bullying	DVD listening and storytelling
7	Getting around	giving an guided tour of your hometown
8	First conversation test	Partner work to show consolidation of the first six chapters of the course.
9	Smart cities	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
10	Driving test	Students will discuss a variety of challenges they will face
11	Health	Talk about different health and fitness issues.
12	Work	Students will discuss work, bosses and interesting coworkers.
13	Lifestyle	Students will discuss good habits, bad habits and lifestyle choices.
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Most of the work done outside class will be listening tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】

Evolve Student book 3B.
Cambridge university press. 2019

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Mid term assessment 30%

Final assesement 30%

Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】

More time will be on building speed and pace.

【学生が準備すべき機器他】

CD player, blackboard, DVD, OHP

【None】

None

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment. Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments40%

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

福澤 レベッカ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

日常会話コミュニケーション能力を身につける目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各ユニットは下記の事項を含む。

- 1) 導入アクティビティ：基本的な会話練習が中心
- 2) 様々な表現を身につけるための新聞、映画、論文聴く・読むこと
- 3) ユニークなテーマにあわせたTOEICリスニング
- 4) 読む・書くの材料を用いて個人的経験の一つにまとめるために書くこと

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Lifestylesー自分と有名人の日常生活	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイントー疑問文・be 動詞
2 回	Lifestylesー習慣的な行動	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイントー現在進行形、付加疑問文
3 回	Lifestylesー自分の過去	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイントー過去形・不規則動詞
4 回	Lifestylesー持ち物	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイントー人称代名詞・have/has
5 回	Food：基本的な会話・リスニング	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイントー可算名詞と不可算名詞
6 回	Food: 日本の食べ物の説明	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、ライティング練習、文法ポイントー数の一致
7 回	Food: レストランでの会話ー聞く	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動
8 回	Food: レストランでの会話ー作成・発表	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、ライティング練習
9 回	Travel: 基本の会話	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイントーhave you ever +過去分詞
10 回	Travel: インタネット調べて、報告する	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、文法ポイントー関係節
11 回	Travel: ホテルでの会話ー聞く	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、ライティング練習、文法ポイントー比較級
12 回	Travel: ホテルのチェックイン	導入演習、リスニング、多段階会話課題、演習活動、ライティング練習、文法ポイントー比較級
13 回	リスニングテスト復習とまとめ	復習とまとめ
14 回	期末試験	復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に毎週の基本プリントのリスニング、語彙テスト、ネットで視聴し復習、G-Lounge での会話練習が要求される。

【テキスト（教科書）】

プリントを用意する。

【参考書】

辞書、プリントを用意する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、宿題 (50%)、小テスト・課題 (30%)、期末試験 (20%)

全体の 60%以上の得点をもって可とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は本講義を担当してない。

【学生が準備すべき機器他】

PC を用意する。

【Outline (in English)】

Course outline:

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

Learning Objectives:

The purpose of this class is to foster students' ability to communicate in everyday situations.

Learning activities outside of the classroom:

Students will have weekly homework. This includes listening and vocabulary activities, visits to the G-Lounge, and projects.

Grading Criteria:

In-class activities & Homework (50%), Quizzes and Projects (30%), Final Exam (20%)

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

NEIL CONWAY

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

At the end of this course, students will be able to:

- choose from a range of Communication Strategies to deliver a message to an audience over arrangement of media
- write an effective summary paragraph
- write an analytical book report
- make interesting and meaningful presentations on a range of academic topics
- carry on a group discussion on a range of academic topics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Class time will be focused on group and pair work; Active Learning methodologies will be evidenced in all project work. There will be opportunities for students to write and prepare short research-based presentations. Students will be expected to read assigned (or researched) texts each week and report both in verbal and written form. During class, feedback on homework is given using examples from successful reports/assignments. Students are encouraged to share their work and reflect on methods of improvement. The grading methodology is explained at the start of the course along with key information on presenting work properly and advice on achieving good grades.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction to the course and the work to be covered.	Students will receive guidance on how to successfully complete the course,
2.	Introductions	Talking about other people. Focus on Speaking: voice, posture.
3.	Continuation of the previous theme. First Book Report.	Continuation. Each student will make a book report to their group.
4.	Writing a Book Review	Introduction to the paragraph format. Template for written book review homework.
5.	A Favorite Place	Talking about places. Descriptive language, using voice inflection.
6.	Presentation of the previous theme.	Focusing on voice, posture, eye contact.
7.	A prized possession	Focusing on description and emotion.
8.	Presentation of the previous theme.	Voice, posture, eye contact and gestures.
9.	A Memorable Experience	Organization. Using visual aids.
10.	Presentation of the previous theme.	Putting together all that we have covered.
11.	Show Me How	Show us how to do something.
12.	Presentation of the previous theme.	Clear explanations. Sign posts and transitions.
13.	Movies and Music	Talking about likes and dislikes. Expressing an opinion.
14.	Presentation of the previous theme.	Organization.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

Each student should read two books a week from the library and come ready write a book review summarizing the book and give an opinion of it in the form of an academic talk or presentation.

Presentations should be prepared and practiced at home, and students should come prepared to give clear and smooth talks with limited help from notes.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Materials will be supplied by the teacher and students.

【参考書】

Bailey, S., Academic Writing: A Handbook for International Students (Fourth Edition). Routledge (2015). ISBN: 978-1138778504.

For MLA information:

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html

A good dictionary is required. One example is:

Longman Dictionary of Contemporary English (Fifth edition). (2009). Harlow: Pearson Education Limited.

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Homework: 30%

Class performance (effort, participation, presentations): 30%

Project Work: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Presentations may now use automated slide progression. Add an audio-visual element has been introduced to assist in understanding summary writing. Book genres have been clarified in the Week 3 lesson. More time is now available in class for practice with MLA.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, PowerPoint and a PDF reader.

Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format or (Microsoft PowerPoint) .pptx format: not PDF, Google Docs or anything else.

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosi University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.* Students will also be instructed to regularly visit the “Forums” section in order to communicate with other students, give and receive support etc.

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working: excuses for missed deadlines or missing homework related to electronic device troubles will not be accepted.

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ coloured pencils for making notes

an inexpensive timer (such as a 100 Yen shop kitchen timer) which can display seconds and minutes. A digital watch with a countdown function is fine, although an analogue watch is not. *You may not use a smartphone for this purpose*

【その他の重要事項】

This class has a strict “NO Smartphones” policy. Your teacher will explain it to you on the first day of class.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

LANe100LC

コミュニケーション・ストラテジー

ALDER mark

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Techniques for handling introductions and increasing the length and interest level of conversations.
2	Personality	Talking about lifestyle choices
3	Family	Students will have the opportunity to talk about some of their favorite things.
4	Advice	Students will have the opportunity to talk about problems and brainstorm solutions to these problems.
5	Technology	Discussing possessions and tech features.
6	Bullying	DVD listening and storytelling
7	Getting around	Explaining favourite games to others in small groups.
8	First conversation	Giving a guided tour of your hometown
9	Smart cities	Students will discuss a variety of scenarios about our future world
10	Health	Talk about different health and fitness issues
11	Work	Students will discuss work, bosses and interesting coworkers.
12	Lifestyle	Students will discuss good habits, bad habits and lifestyle choices.
13	Travel	Students will discuss aspects of travel and practice their storytelling technique.
14	Final conversation	Partner based conversation to show consolidation of the second part of the course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 Most of the work done outside class will be listening tasks assigned at the end of each class. Some creative conversation tasks will also be assigned.

【テキスト（教科書）】

Evolve Student Book 3B
Cambridge University press. 2019

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Midterm assessment 30%

Final assessment 30%

Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】

There will be more emphasis on building speed and pace.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionary

【None】

None

【Outline (in English)】

The learning objectives of this class are to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, levelled classes for maximum effectiveness.

The goal of this class is to enhance students fluency, pronunciation ability and general comfort of participating in an English environment. Learning activities outside this class will focus on watching video of TED talk lectures and preparing discussion and summary points. Also, regular homework-grammar and vocabulary practice from the review sections of the textbook.

This class will be student centered, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and grammar exercises that will then be used to enhance variety and interest of discussions.

Feedback will be provided to the class through chapter reviews and class-based grammar consolidation. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Mid-term assessment 30%

Final assessment 30%

Homework and weekly class assignments 40%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

児玉 真希

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。理工・生命系の分野では、英語が世界共通語になっていることを受け、将来の技術者・研究者には必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

- 1) 正しい文法と語法・コロケーションに支えられた自然な英文を習得できる。
- 2) 自然な英文を文字だけでなく音声も合わせて身に着ける。
- 3) 日本語的な表現を、日英発想の違いを念頭に置いて、直訳ではなく、効果的に英語で表現することができる。
- 4) 2 年次に履修するアカデミック・ライティングの準備として、まとまりのある文章が書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
- ・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深めることに努めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	授業の進め方、学習の仕方、評価などの説明。英語力チェック。
2 回目	Chapter 1A	Where are you from?
3 回目	Chapter 1B and 1C	Charlotte's Choice Mr. and Mrs. Clark and Percy
4 回目	Quiz 1 Chapter 2A	Right place, wrong person
5 回目	Chapter 2B and 2C	The story behind the photo One dark October evening
6 回目	Quiz 2 Chapter 3A	Plans and Dreams
7 回目	Chapter 3B and 3C	Let's Meet Again What's the Word?
8 回目	Quiz 3 Chapter 4A	Parents and teenagers
9 回目	Chapter 4B and 4C	Fashion and shopping Lost Weekend
10 回目	Quiz 4 Chapter 5A	No time for anything
11 回目	Chapter 5B and 5C	Superlative cities How much is too much?
12 回目	Quiz 5 Chapter 6A	Are you a pessimist?
13 回目	Chapter 6B and 6C	I'll never forget you The meaning of dreaming
14 回目	Course Overview	Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・各授業後に学習した内容を復習し、隔週ある小テストに備える。
・授業内で出された課題をこなし、学習した内容を定着させる。

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert, Paul Seligson, American English File Level 2 3rd Edition (Oxford University Press) ISBN 978-0-19-490639-5

【参考書】

授業内で指示する

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30%), 学期末テスト (20%), 課題提出 (30%), 授業への積極的な参加姿勢 (20%)

60 パーセント以上で単位習得となる。原則として 半期で 4 回欠席した場合、単位は認めない。遅刻・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。オンライン教材のためのパソコン。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

【到達目標 Learning Objectives】

- 1) Students will build vocabulary and grammatical skills necessary in their field.
 - 2) Students will acquire academic-standard language proficiency.
 - 3) Students will improve their overall English communication skills.
- 【授業時間外の学習 Learning activities outside of classroom】
for approximately an hour.

【成績評価の方法と基準 Grading Criteria /Policy】

Quizzes (30%), Final exam(20%), Assignments (30%), Active in-class participation(20%)

In order to pass the class, students must exceed 60% of the grading criteria. Students cannot pass the class if they miss more than four classes. Two tardies and/or leaving early without a valid excuse are counted as one absence.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

村上 弥生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語の四技能（読み書き聞き話す力）を総合的に高めることによって、今日の世界において大学生ないし大学卒業者に求められる英語力、すなわち英語によって情報を得、また英語によって情報を発信する力の強化を図る。同時に、様々な英語資料を通じて、今日の世界のありようやグローバルな諸問題について、学生諸氏が教養人として持つべき世界的な共通認識に触れ、世界市民としての意識を高めていく。

【到達目標】

高校までに培ってきた英語の文法、語彙を確認し、強化しながら、実際に読み聞き話す場面で運用する力として高めていく。
国際的な教養人たることを期待される大学生にふさわしく、英語を通じて世界と社会の現在についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 現代社会の直面する問題や情勢を考える材料となるような読み物やビデオのスクリーンを精読、ないし要旨の把握を行い、語彙や表現の拡充、視野の拡大を図る。
2. 現在多く議論され、意見の分かれる問題をいくつか取り上げて、短い資料を読んだうえで、簡単なリサーチを個々人で行ってもらい、集めた情報や自分の意見を英語で発信する経験を重ねる。
3. 日本語訳の提出やスピーチ原稿の提出、発表などを随時求める。
4. 4. 1～3 の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi に提出されたものを評価して返却するか、もしくは授業時に総評を行い、受講生間での議論の発展につなげる。
5. 読み物や視聴覚資料を通して確認した特に重要な語彙や表現の定着拡充を図るために、応用問題の小テストを 3～4 回に一回程度行う。
下記の題材は一昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。春学期の授業は、原則として対面で行うが、オンラインも併用する。対面かオンラインかについては授業の進捗状況によって変更されることもあるので、随時学習支援システムでの連絡を確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業の進め方についての説明 受講生の自己紹介など。
第二回	Impact of pandemic on the environment: In India, Life Under Coronavirus Brings Blue Skies And Clean Air - 1 コロナ禍における環境浄化 (以下の題材は一昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。)	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第三回	Impact of pandemic on the environment: In India, Life Under Coronavirus Brings Blue Skies And Clean Air - 2	精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第四回	Impact of pandemic on the environment: In India, Life Under Coronavirus Brings Blue Skies And Clean Air - 3	精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第五回	Impact of pandemic on the environment: In India, Life Under Coronavirus Brings Blue Skies And Clean Air - 4	読み物および関連した資料を基にした 意見発表、交換

第六回	復習の小テスト-1 Rare Protest Led By Celebrities Helps Shelve Prosecutor Bill - 1 検察庁法改正案反対運動に見るコロナ禍におけるネット社会での政治意識の拡大	前回までの表現の応用テスト 前回の議論の総評 新しい資料の背景説明
第七回	Rare Protest Led By Celebrities Helps Shelve Prosecutor Bill - 2	精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第八回	復習の小テスト-2 読み物および関連した資料を基にした意見発表、交換	前回までの表現の応用テスト 読み物および関連した資料を基にした 意見発表、交換
第九回	Japan's Virus Vigilantes Take On rule-Breakers And Invaders - 1 コロナ禍に見るネット社会の問題点	前回の議論の総評 新しい資料の背景説明
第十回	Japan's Virus Vigilantes Take On rule-Breakers And Invaders - 2	精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第十一回	Japan's Virus Vigilantes Take On rule-Breakers And Invaders - 3	精読/和訳/リサーチの発表 文法・語彙の確認、拡充 表現の応用練習
第十二回	読み物および関連した資料を基にした意見発表、交換 - 1	読み物および関連した資料を基にした 意見発表、交換
第十三回	読み物および関連した資料を基にした意見発表、交換 - 2	前回の議論の総評
第十四回	復習の小テスト-3	前回までの表現の応用テスト 前回の議論の総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- 与えられた資料については、テキストも含めて事前に丁寧に予習を行い和訳を作成する。
- 各章のトピックに関連する情報や意見について、各人でリサーチを行う。
- クラスでの情報・意見交換にそなえて、リサーチの結果を紹介したり自分の考えを発信する英文を作成する。
- リスニング資料については、自宅でオンラインで復習する
- 表現の復習テストに備えて、資料を読みましながら、重要な表現、語句の理解、定着に努める

【テキスト（教科書）】

教師による配布、または初回に指示する

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

予習などの平常点 (20 %)、各種発表やエッセイなどの授業への貢献 (30 %)、小テスト (50 %)。

【学生の意見等からの気づき】

英語と日本語を授業で併用するバランスについて、英語が多すぎる、反対に英語で全部行ってほしいなど異なる意見があるが、参加者の理解の様子を注意して検討していきたい。
不足しているように見受けられる文法、語彙の確認に十分時間を配分したい。

【Outline (in English)】

This class aims at comprehensive development of four skills (reading, writing, listening and speaking) so that students will be able to communicate more effectively in English as the international language. In the current fast-changing and interconnected world, it is more than ever necessary for university-level students to access, convey and exchange information and ideas in English, which will open the door to globally shared views of the contemporary world. Several activities in this course are designed to serve for these purposes. Firstly, careful reading of or listening to materials will help students more solid basis of English including richer vocabulary and more accurate understandings of English sentence structures.

Secondly, doing research and shaping ideas on relevant topics will get students more exposed to contemporary global issues.

Thirdly, Students will acquire confidence by actively presenting and exchanging ideas and information in the class meeting.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

- 1.Carefully read assigned part of a material.
- 2.Do research on related topics and collect relevant information.
- 3.Write your own ideas.
- 4.Watch and summarize short audio-visual materials and summarize them.

After each class meeting, students will be expected to make efforts to digest what they will have learned in a previous class and prepare for review tests which will be frequently conducted.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on preparation for class (20%), active participation in in-class activities (30%), and review tests (50%)

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

長谷川 秀子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指していく。学生の積極的な参加が大事となる。

【到達目標】

この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1 つのユニットを大体 1 回で終わるように授業を行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

COVID - 19 による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation	授業の進めかた、テキストの使い方、予習等の説明。
第 2 回	Unit 1 Mini Presentation	Phone Dirt Reveals Personal Data
第 3 回	Unit 2	Driverless Buses
第 4 回	Unit 3 Mini presentation	Stealth Keys
第 5 回	Unit 4	Unfamiliar Sources of Energy
第 6 回	Unit 5 Mini Presentation	Delivery by Drone
第 7 回	Unit 6	Uber and its Future
第 8 回	Unit 7 Mini Presentation	Convenience Stores in Japan
第 9 回	Unit 8	Learn English with a Robot
第 10 回	Unit 9 Mini Presentation	Noise Level and Disease
第 11 回	Unit 10	Reading Faces
第 12 回	Review(1) Mini presentation Newspaper article	Current issue
第 13 回	Review(2) Newspaper article	Current issue
第 14 回	Term Exam	試験範囲 Unit 1-10

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】

科学の恩恵と私たちの暮らし
Science in Our Daily Life SEIBIDO
By Toshihiko Kobayashi, Bill Benfield (2018)
ISBN978-4-7919-3416-4 1900 円（税別）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介の予定。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 ミニプレゼンテーション、小テスト、課題 50%
期末試験 50%

【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Goals :In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

Work outside class: Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

Grading:

Assignment mini presentation 50%
Term exam 50%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

(Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英文の演習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami Kakuei Tanaka	日本の著名人について学習する。
3	Barack Obama's Hiroshima Speech Fintech OpdivoR Environmental DNA Camellia Rice Stress Check Generic Drugs Self-driving Cars Renewable Energy 3D Printers	日本の新しい文化について学習する。
4	The Internet of Things (IoT)	日本未来について学習する。
5	Fintech	日本の新しい産業について学習する。
6	OpdivoR	がん治療について学習する。
7	Environmental DNA	経済について学習する。
8	Camellia	工業技術について学習する。
9	Rice	農業について学習する。
10	Stress Check	最新医療について学習する (1)。
11	Generic Drugs	最新医療について学習する (2)。
12	Self-driving Cars	自動運転について学習する。
13	Renewable Energy 3D Printers	産業について学習する。
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の数人が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

進化する日本 Japan Evolution 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 %で評価する。原則として半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

児玉 真希

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、基礎的な文法力と語彙力の定着を図ると同時に、それに支えられた更なるライティング力の向上を目的とする。基礎的な文法知識を復習し、語彙の中でも語法とコロケーションに焦点を当て、日本人学習者のエラーに留意したテキストを使用して正確で自然なライティング力養成を目指す。また、秋学期は特に次年度アカデミック・ライティングの準備も兼ねて、まとまりのある文章を書く練習を多く取り入れていくつもりである。

【到達目標】

- 1) 英文法、語彙力の向上を目指し、アカデミックな内容の英文を読み解く。
- 2) リスニング・スピーキングスキルを高め、コミュニケーションスキルを養う。
- 3) まとまりのある英語の文章の書き方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は講義形式ではなく、演習形式で行われる。そのため、受講者の積極的な参加が求められる。
- ・各授業において、先週のポイントや受講者が行った課題や宿題の良かった点や修正すべき点、共有すべき重要な点などを紹介しながら解説することによって、理解を深めることに努めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	Introduction to the class
2 回目	Review	How to...
3 回目	Chapter 7A Chapter 7B and 7C	Being happy Learn a language in a month!
4 回目	Quiz 1 Chapter 8A	I don't know what to do!
5 回目	Chapter 8B and 8C	If something can wrong... You must be mine
6 回目	Quiz 2 Chapter 9A	What would you do?
7 回目	Chapter 9B and 9C	I've been afraid of it for years Born to sing
8 回目	Quiz 3 Chapter 10A	The mothers of invention
9 回目	Chapter 10B and 10C	Could do better Mr. Indecisive
10 回目	Quiz 4 Chapter 11A	Bad losers
11 回目	Chapter 11B and 11C	Are you a morning person? What a coincidence
12 回目	Quiz 5 Chapter 12A	Strange but true!
13 回目	Chapter 12B and 12C	Gossip is good for you Quiz
14 回目	Course Review	Final Tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- ・各授業後に学習した内容を復習し、隔週ある小テストに備える。
- ・授業内で出された課題をこなし、学習した内容を定着させる。

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert, Paul Seligson, American English File Level 2 3rd Edition (Oxford University Press) ISBN 978-0-19-490639-5
(Comprehensive English I と同じ)

【参考書】

必要に応じて提示する

【成績評価の方法と基準】

小テスト (30%), 学期末テスト (20%), 課題提出 (30%), 授業への積極的な参加姿勢 (20%)

60 パーセント以上で単位習得となる。原則として 半期で 4 回欠席した場合、単位は認めない。遅刻・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。オンライン教材のための PC。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。
指定の教科書は各自必ず購入し、毎回の授業へ持参すること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 Course outline】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

【到達目標 Learning Objectives】

- 1) Students will build vocabulary and grammatical skills necessary in their field.
- 2) Students will acquire academic-standard language proficiency.
- 3) Students will improve their overall English communication skills.

【授業時間外の学習 Learning activities outside of classroom】

for approximately an hour.

【成績評価の方法と基準 Grading Criteria /Policy】

Quizzes (30%), Final exam(20%), Assignments (30%), Active in-class participation(20%)

In order to pass the class, students must exceed 60% of the grading criteria. Students cannot pass the class if they miss more than four classes. Two tardies and/or leaving early without a valid excuse are counted as one absence.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュⅠ

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、英語の四技能（読み書き聞き話す力）を総合的に高めることによって、今日の世界において大学生ないし大学卒業者に求められる英語力、すなわち英語によって情報を得、また英語によって情報を発信する力の強化を図る。同時に、様々な英語資料を通じて、今日の世界のありようやグローバルな諸問題について、学生諸氏が教養人として持つべき世界的な共通認識に触れ、世界市民としての意識を高めていく。

【到達目標】

英語の文法、語彙を拡大、増強しながら、実際に読み聞き話す場面で運用する力として高めていく。
国際的な教養人たることを期待される大学生にふさわしく、英語を通じて世界と社会の現在についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 現代社会の直面する問題や情勢を考える材料となるような読み物やビデオのスク립トを精読、ないし要旨の把握を行い、語彙や表現の拡充、視野の拡大を図る。
2. 現在多く議論され、意見の分かれる問題をいくつか取り上げて、短い資料を読んだうえで、簡単なリサーチを個人で行ってもらい、集めた情報や自分の意見を英語で発信する経験を重ねる。
3. 日本語訳の提出やスピーチ原稿の提出、発表などを随時求める。
4. 1～3 の受講生による訳文、リサーチ、サマリー、意見文については、随時 Hoppi に提出されたものを評価して返却、ないし授業時に総評を行い、受講生間での議論の発展につなげる。
5. 学習した語句や表現の定着を図るため、応用的な小テストを随時行う。
下記の題材は昨年度の例であり、今年度はまた社会情勢に合わせて資料やトピックは選びなおす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業の進め方についての説明 夏休みの経験など自由な会話
第二回	トピックー 1(以下は昨年度の例であり、今年度は世界情勢などに合わせて選びなおすこととなる) Climate crisis and changing politics-1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第三回	Climate crisis and changing politics- 2	和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認
第四回	Climate crisis and changing politics-3 review test-1	前回までの表現の応用の小テスト 和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認
第五回	意見発表、ディスカッション	資料に基づいた意見文の発表、意見交換
第六回	トピック-2 Rising awareness among young people (ドイツ総選挙に見る若者の政治意識) -1	前回の議論の総評 背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第七回	Rising awareness among young people-2	和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認
第八回	review test-2 Rising awareness among young people-3	前回までの表現の応用の小テスト 暫定的な意見発表、意見交換
第九回	Rising awareness among young people-4	和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認
第十回	Rising awareness among young people-5 review test-3	クラスメートとの意見交換を通じた議論の発展 前回までの表現の応用の小テスト
第十一回	トピック-3 The Great Resignation and future of work environment(大離職時代と労働環境の未来) -1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第十二回	The Great Resignation and future of work environment-2	和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認

第十三回	The Great Resignation and future of work environment-3	和訳、リサーチなどの発表 重要な語句や表現の確認 資料に関連した意見文の発表、ディスカッション
第十四回	review test-4 ディスカッションー 2	前回までの表現の応用の小テスト 前回の議論の総評と発展したグループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

1. 読む資料については、テキストも含めて事前に丁寧に予習を行う。
2. 各トピックに関連する情報や意見について、各人でリサーチを行う。
3. クラスでの情報・意見交換にそなえて、リサーチの結果を紹介したり自分の考え を発信する英文を作成する。
4. 説得力のある、ないし啓発的なスピーチ原稿を作成する
5. 資料を再読し、小テストに備えて語彙や表現の定着に努める

【テキスト（教科書）】

教師による配布、または初回に指示する

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

予習（20％）、各種発表やエッセイ、議論への積極的貢献など（30％）、復習テスト（50％）。

【学生の意見等からの気づき】

英語と日本語を授業で併用するバランスについて、英語が多すぎる、反対に英語で全部行っしてほしいなど異なる意見があるが、参加者の理解の様子を注意して検討していきたい。
不足しているように見受けられる文法、語彙の確認に十分時間を配分したい。

【Outline (in English)】

This class aims at comprehensive development of four skills (reading, writing, listening and speaking) so that students will be able to communicate more effectively in English as the international language. In the current fast-changing and interconnected world, it is more than ever necessary for university-level students to access, convey and exchange information and ideas in English, which will open the door to globally shared views of the contemporary world. Several activities in this course are designed to serve for these purposes.

Firstly, careful reading of or listening to materials will help students more solid basis of English including richer vocabulary and more accurate understandings of English sentence structures.

Secondly, doing research and shaping ideas on relevant topics will get students more exposed to contemporary global issues.

Thirdly, Students will acquire confidence by actively presenting and exchanging ideas and information in the class meeting.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

- 1.Carefully read assigned part of a material.
- 2.Do research on related topics and collect relevant information.
- 3.Write your own ideas.
- 4.Watch and summarize short audio-visual materials and summarize them.

After each class meeting, students will be expected to make efforts to digest what they will have learned in a previous class and prepare for review tests which will be frequently conducted.

Final grading will be decided based on preparation for class (20%), active participation in in-class activities (30%), and review tests (50%)
Your required study time is at least one hour for each class.

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

長谷川 秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、語彙力・文法力、構文などを確認しながら 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目指す。グローバル社会における英語の役割も考え、将来の技術者・研究者に必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、高度な英語運用能力の習得を目指すしていく。学生の積極的な参加が大事となる。

【到達目標】

この授業では、専門的で学術的な文章を読む時に必要な基本的な語彙力、文法力、構文などを確認しながら、リーディング力の向上を図る。語彙については単に暗記するだけでなく、文脈や文構造を理解する力を鍛える。また文の内容を正確に把握し、文章全体を簡潔に要約できる読解力の養成を目指す。トピックは現代社会における国内外の社会、仕事と余暇、環境、ビジネスと経済などを扱い、グローバル社会において世の中の情勢を理解し、意見を表現できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

予習が必要な部分と授業で行うところがある。読むことだけでなく、聞くこと、書くこと、話すことも行う。トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1 つのユニットを大体 1 回で終わるように授業を行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。COVID - 19 による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Orientation Mini presentation	後期の授業の説明
第 2 回	Unit 11 Mini Presentation	Meditation and Sports
第 3 回	Unit 12	Digital Disabilities
第 4 回	Unit 13 Mini Presentation	Euglena Dietary Supplements
第 5 回	Unit 14	Facts about Koalas
第 6 回	Unit 15 Mini Presentation	Ants
第 7 回	Unit 16	Exotic Pets
第 8 回	Unit 17 Mini Presentation	Culling Feral Cats
第 9 回	Unit 18	When Do We Become "Old"?
第 10 回	Unit 19 Mini Presentation	Protecting Earth from Collisions
第 11 回	Unit 20	Migration to Mars
第 12 回	Review (1) Mini Presentation Newspaper article	Current issue
第 13 回	Review (2) Newspaper article	Current issue
第 14 回	Term Exam	試験範囲 Unit 11-20

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間程度を標準とする】授業の前にテキストの本文を読んでくる。新しい語句の確認をし簡単な要約ができるようにしておく。オリエンテーションで詳細を説明。

【テキスト（教科書）】

科学の恩恵と私たちの暮らし
Science in Our Daily Life SEIBIDO
By Toshihiko Kobayashi, Bill Benfield (2018)
ISBN978-4-7919-3416-4 1900 円（税別）

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 ミニプレゼンテーション、小テスト、課題 50%
期末試験 50%

【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく 3 分の 1 以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

学習支援システムでの連絡を適宜確認すること。

教員との連絡方法はオリエンテーションで連絡予定。

【Outline (in English)】

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking). In the science and engineering fields, English is the common language. Technicians and scientists of the future will need the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English. In order to meet this need, this class emphasizes the development of basic, comprehensive skills and knowledge and the ability to apply them. Based on the needs of students, a variety of effective approaches will be used to strengthen basic English competency.

Goals: In this class, we train skills like vocabularies, grammar, sentence structures that are necessary to understand technical and academic materials. We will also practice to understand the content accurately and summarize effectively. The topics of the readings will vary from domestic and international affairs, work and leisure, environment, business and economy.

Work outside class:

Read the textbook, check the new vocabularies, and summarize.

Grading: Assignment mini presentation 50%, Term exam 50%

LANe100LC

コンプリヘンシヴ・イングリッシュ I

神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置かずか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

(Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What's So Free about Freeways?	速度無制限の高速道路アウトバーン（ドイツ）
2	Riding a Horse While Drunk Is Illegal?	飲酒乗馬の取り締まり（アメリカ）
3	Walk Your Dog Three Times a Day!	犬は 1 日 3 回散歩させなければならない（イタリア）
4	Hungary Introduces a Tax on Chips	健康のためのポテトチップス税（ハンガリー）
5	Don't Tie Alligators to Fire Hydrants!	「ワニを消火栓につなぐな」とはどういうこと？（アメリカ）
6	Marriage and Divorce in Different Cultures	4 回続けて同じ人と結婚できない？（イスラム）
7	Smile!	葬式とお見舞いの時以外は微笑まなければならない！（イタリア）
8	Silent Sunday?	午後 10 時以降トイレは流してはいけない（スイス）
9	Want to Be a Pilot?	パイロットの足の長さは少なくとも 90 センチ？（インド）
10	Napoleon, the Pig?	豚に「ナポレオン」の名前を付けてはならない（フランス）
11	Don't Drop Dead Here!	国会議事堂内で死んではいけない？（イギリス）
12	Cheating Does Not Pay	カンニングをしたら刑務所行き？（バングラデッシュ）
13	Putting a Stop to Traffic Jams	排気ガスが多い車は市街地走行禁止（スウェーデン）
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくること。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

Funny Laws in the World (世界おもしろ比較文化－法律から学ぶ文化事情) 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

塩谷 勇

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

講義と演習を組み合わせで行う。最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。春学期の授業は、対面を中心に行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2200 円+税

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験の成績で判断する。

ほぼ毎回小テストを行うが、受験回数が全体の2/3以下の学生は不合格とするので注意すること。

中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

【学生の意見等からの気づき】

【時間内】自らの講義ノートを作成することが重要なポイント。

【授業時間外の学習】 に書いたことを実行して、毎回行う小テストの準備をきちんとすることが単位修得のための良い方法である。

【その他の重要事項】

基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

【Outline (in English)】

We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.

- 1) We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.
- 2) We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
- 2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

- 3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 25%, Mid-term examination 35%, Term-end examination 40%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

塩谷 勇

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立 1 次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立 1 次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に活用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

講義と演習を組み合わせで行う。最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。春学期の授業は、対面を中心に行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立 1 次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立 1 次方程式（1）	連立 1 次方程式の解法、行列を用いた連立 1 次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立 1 次方程式と逆行列
8	連立 1 次方程式（2）	連立 1 次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】基本的に、1 回の授業は教科書の 1 つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2200 円

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを期末試験の成績で判断する。

ほぼ毎回小テストを行うが、受験回数が全体の 2 / 3 以下の学生は不合格とするので注意すること。

中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

【学生の意見等からの気づき】

【時間内】自らの講義ノートを作成することが重要なポイント。

【授業時間外の学習】 に書いたことを実行して、毎回行う小テストの準備をきちんとすることが単位修得のための良い方法である。

【その他の重要事項】

基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

【Outline (in English)】

We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.

- 1) We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.
- 2) We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.
- 2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

- 3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 25%, Mid-term examination 35%, Term-end examination 40%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

塩谷 勇

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

講義と演習を組み合わせで行う。最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。対面を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの線形結合	平面ベクトルの線形結合, 空間ベクトルの線形結合
2	線形独立と線形従属	線形独立, 線形独立な数ベクトル空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 線形独立と線形従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, $\mathbb{R}^3$ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う。授業全体の講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】基本的に、1 回の授業は教科書の 1 つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著 「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験で判断する。

ほぼ毎回小テストを行うが、受験回数が全体の $2/3$ 以下の学生は不合格とするので注意すること。

中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

【学生の意見等からの気づき】

【授業時間内】 自らの講義ノートを作成することが重要なポイント。

【授業時間外の学習】 に書いたことを実行して、毎回行う小テストの準備をきちんとすることが単位修得のための良い方法である。

【その他の重要事項】

基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

【Outline (in English)】

We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.

1) We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.

2) We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 25%, Mid-term examination 35%, Term-end examination 40%.

BSP100LC

線形代数学及び演習Ⅰ

塩谷 勇

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる線形写像、固有値・固有ベクトル等の概念とその応用について学ぶ。

【到達目標】

ベクトル空間と次元、線形写像と行列表現、線形写像の核と像、行列の固有値と固有ベクトル、直交変換、行列の対角化とその条件、対称行列の対角化などの基本を知り、応用できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

講義と演習を組み合わせで行う。最初に、(1) 前回の復習、(2) 前回の課題の解説と解答状況、(3) 新規の内容、(4) 演習、(5) 課題の提示を中心に進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトルの1次結合	平面ベクトルの1次結合, 空間ベクトルの1次結合
2	1次独立と1次従属	1次独立, 1次独立な空間ベクトル
3	数ベクトル空間	数ベクトル空間, 1次独立と1次従属
4	部分ベクトル空間	定義と例, 部分ベクトル空間の生成, R ³ の部分ベクトル空間
5	基底	基底, 次元
6	基底の取り替え	座標軸の回転, 基底の取り替え, 座標変換
7	線形写像	写像, 線形写像
8	線形写像の像と核	表現行列, 像と核の定義, 像の次元と階数, 次元定理
9	行列の固有値	固有値と固有ベクトル, 固有方程式
10	行列の対角化	行列の対角化の意味, 対角化の方法
11	正規直交系	内積, 正規直交基底
12	直交変換	直交行列, 直交変換
13	対称行列の対角化	対称行列の固有値, 直交行列による対称行列の対角化
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う。授業全体の講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2200 円

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

ベクトル空間に関する基本概念を理解し、具体的な計算ができること、行列の固有値および固有ベクトルの持つ意味を理解し、具体的な計算ができるようになったかなどを期末試験で判断する。

ほぼ毎回小テストを行うが、受験回数が全体の2/3以下の学生は不合格とするので注意すること。

中間試験 (35%), 期末試験 (40%), 演習小テスト (25%)

【学生の意見等からの気づき】

【授業時間内】自らの講義ノートを作成することが重要なポイント。

【授業時間外の学習】 に書いたことを実行して、毎回行う小テストの準備をきちんとすることが単位修得のための良い方法である。

【その他の重要事項】

基本的には全出席が必要です。少なければ、減点がされます。

【Outline (in English)】

We learn primary linear algebra which is an essential knowledge for science and engineering students.

1) We learn the calculation methods of vectors and matrices, and understand the applications to simultaneous linear equations.

2) We know the concepts such as regular matrices and ranks, and understand the equivalence conditions being regular matrices.

(Goal)

At the end of the course, students are expected to understand the following.

1) Vector space and its dimension

2) Linear mapping and related topics (kernel, image, and matrix representation)

3) Matrix eigenvalue and eigenvector

4) Matrix diagonalization (including symmetric matrices)

5) Orthogonal transformation

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 25%, Mid-term examination 35%, Term-end examination 40%.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

金沢 誠

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通して置く。配布される講義資料をよく読んで、演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

特になし。授業では、教科書の他に講義資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験 (70%) と提出課題 (30%) の成績による。期末試験では、微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかテストする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【学生の意見等からの気づき】

質問を受け付ける方法を工夫する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its applications, which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required to submit weekly assignments.
(Grading Criteria)

The overall grade for the course will be determined based on the weekly assignments (30%) and the final exam (70%).

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

金沢 誠

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通して置く。配布される講義資料をよく読んで、演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

特になし。授業では、教科書の他に講義資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験 (70%) と提出課題 (30%) の成績による。期末試験では、微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかテストする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【学生の意見等からの気づき】

質問を受け付ける方法を工夫する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its applications, which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative

3) Understanding mean value theorem and Taylor's theorem, and their applications

4) Taylor series expansion

5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required to submit weekly assignments.
(Grading Criteria)

The overall grade for the course will be determined based on the weekly assignments (30%) and the final exam (70%).

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

金沢 誠

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読み、演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
（第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ）

【参考書】

特になし。授業では、講義資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験 (70%) と提出課題 (30%) の成績による。期末試験では、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることをテストする。

【学生の意見等からの気づき】

質問を受け付ける方法を工夫する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its applications, which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required to submit weekly assignments.

(Grading Criteria)

The overall grade for the course will be decided based on the weekly assignments (30%) and the final exam (70%).

BSP100LC

微分積分学及び演習Ⅰ

金沢 誠

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、積分法・重積分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

高校で学習した 1 変数関数の積分についての知識を深め、さらに 2 変数関数の積分を扱う。またこれらを用いて図形の面積、体積、長さが求められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	陰関数	陰関数の意味と導関数の計算
2	条件付き極値	陰関数の微分法の応用として条件付き極値問題を扱う
3	不定積分	高等学校での学習事項の復習
4	有理関数の不定積分	部分分数分解、基本的な有理関数の不定積分の方法を理解し計算能力も養う
5	定積分	区分求積法、微分積分学の基本定理について理解する
6	三角関数を含む式の不定積分	基本的な置換の方法、漸化式の方法を理解し計算能力も養う
7	広義積分	広義積分の方法を理解し計算能力も養う
8	2 重積分	長方形領域上の 2 重積分の定義と累次積分による計算方法を理解し計算能力も養う
9	一般領域上の 2 重積分	一般の領域上の 2 重積分の計算法および積分順序の変更について知り計算能力も養う
10	変数変換	ヤコビ行列式の意味および 2 重積分の変数変換について知り計算能力も養う
11	積分の応用	積分法の曲線の長さへの応用
12	面積	積分を応用して面積を計算する、また、極方程式による曲線の表示とその内部の面積の計算法を知る。
13	体積	積分を応用して体積を計算する。
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の対応する部分に前もって目を通しておく。配布される講義資料をよく読み、演習問題を指定された期日までに解く。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 4 章 4.5 節、第 3 章、第 5 章を学ぶ)

【参考書】

特になし。授業では、講義資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験 (70%) と提出課題 (30%) の成績による。期末試験では、積分および重積分について十分な計算能力が身につけていること、広義積分の計算法を理解していること、積分法を応用して長さ・面積・体積が求められることをテストする。

【学生の意見等からの気づき】

質問を受け付ける方法を工夫する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of integration and its applications, which form the foundation of mathematics necessary in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Integration of one-variable functions
- 2) Integration for two-variable functions
- 3) Calculation of length, area, and volume by means of various integrals (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are required to submit weekly assignments.

(Grading Criteria)

The overall grade for the course will be decided based on the weekly assignments (30%) and the final exam (70%).

BSP100LC

物理学基礎 I

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力学の基礎の分野について、物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する。物理学の公式としてではなく、ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する。

【到達目標】

基礎となる「基本法則」を礎にして、なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる。公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

2クラス制とした比較的小人数による授業を想定する。基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し、基本的な理解を得る。更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって、実践力を養う。毎回の課題は次回に解説を行い、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	単位と空間・時間	物理学を記述する基礎となるべき概念について
2	ベクトルと内積外積	ベクトル演算の基礎について
3	座標系	運動を記述する土俵となる様々な座標系にについて
4	直線運動と速度・加速度	速度・加速度とその表現について
5	自由落下放物運動	重力加速度中の質点の運動学
6	3次元・極座標での運動	座標系変換したときの運動の記述について
7	ニュートンの3法則	ニュートンの3法則の理解と物理的意味について
8	張力・摩擦力	外力と運動におよぼす影響について
9	単振動	単振動の運動学について
10	運動量と力積	運動量と力積の定義、物理的意味について
11	エネルギー、仕事	エネルギーと仕事の定義、物理的意味について
12	保存力と位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの定義、物理的意味について
13	運動エネルギー	運動エネルギーの定義、物理的意味について
14	偏微分と勾配	偏微分と勾配の定義と幾何学的意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指定する。

【参考書】

力学に関する参考書は数多くあるので、自分の理解度に応じて適宜参照する事。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進捗・内容に適宜フィードバックする。

【Outline (in English)】

Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

BSP100LC

物理学基礎Ⅰ

佐藤 修一

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力学の基礎の分野について、物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する。物理学の公式としてではなく、ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する。

【到達目標】

基礎となる「基本法則」を礎にして、なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる。公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

2クラス制とした比較的小人数による授業を想定する。基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し、基本的な理解を得る。更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって、実践力を養う。毎回の課題は次回に解説を行い、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	単位と空間・時間	物理学を記述する基礎となるべき概念について
2	ベクトルと内積外積	ベクトル演算の基礎について
3	座標系	運動を記述する土俵となる様々な座標系にについて
4	直線運動と速度・加速度	速度・加速度とその表現について
5	自由落下放物運動	重力加速度中の質点の運動学
6	3次元・極座標での運動	座標系変換したときの運動の記述について
7	ニュートンの3法則	ニュートンの3法則の理解と物理的意味について
8	張力・摩擦力	外力と運動におよぼす影響について
9	単振動	単振動の運動学について
10	運動量と力積	運動量と力積の定義、物理的意味について
11	エネルギー、仕事	エネルギーと仕事の定義、物理的意味について
12	保存力と位置エネルギー	保存力と位置エネルギーの定義、物理的意味について
13	運動エネルギー	運動エネルギーの定義、物理的意味について
14	偏微分と勾配	偏微分と勾配の定義と幾何学的意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指定する。

【参考書】

力学に関する参考書は数多くあるので、自分の理解度に応じて適宜参照する事。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進捗・内容に適宜フィードバックする。

【Outline (in English)】

Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

BSP100LC

物理学基礎ⅠⅡ

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力学の基礎の分野について、物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する。物理学の公式としてではなく、ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する。

【到達目標】

基礎となる「基本法則」を礎にして、なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる。公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

2クラス制とした比較的小人数による授業を想定する。基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し、基本的な理解を得る。更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって、実践力を養う。毎回の課題は次回に解説を行い、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	抵抗と終端速度	抵抗があった場合の運動学について
2	減衰振動強制振動	各種振動の運動学について
3	2粒子の弾性衝突	2粒子の弾性衝突の取り扱いについて
4	2次元での衝突	2次元での衝突における運動の表現について
5	重力と重力ポテンシャル	重力と重力ポテンシャル、および重力下における運動について
6	ケプラーの法則と万有引力	ケプラーの法則と万有引力について
7	慣性質量と重力質量	慣性質量と重力質量の違いと物理的意味について
8	ベクトル積	ベクトルの外積の定義と意味について
9	モーメント、角運動量	モーメント、角運動量の定義と導入
10	2粒子系の運動方程式	2粒子系の運動方程式について
11	エネルギー角運動量保存則	エネルギー角運動量保存則について
12	重心座標と相対座標	重心座標と相対座標における表現について
13	自由度と運動方程式	自由度と運動方程式の表現について
14	固定軸まわりの運動	固定軸まわりの運動について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指定する。

【参考書】

力学に関する参考書は数多くあるので、自分の理解度に応じて適宜参照する事。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進度・内容に適宜フィードバックする。

【Outline (in English)】

Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

BSP100LC

物理学基礎ⅠⅡ

佐藤 修一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

力学の基礎の分野について、物理現象を支配する物理法則の基本的な考え方を習得する。物理学の公式としてではなく、ほとんどの物理法則は数少ない「基本法則」から自然に導かれる美しい論理体系であることを理解する。

【到達目標】

基礎となる「基本法則」を礎にして、なぜそうなるのか・なぜそう考えるのかの物理学的な論理を自分で考え・理解し・説明できるように組み立てられるようになる。公式に当てはめるだけの受験物理は一旦忘れ、一から論理を積み上げられる考え方のトレーニングを徹底することで考えかたの基礎を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

2クラス制とした比較的小人数による授業を想定する。基本的には各回のテーマに沿って概要を講義し、基本的な理解を得る。更に演習問題を交えて実際の問題を解くことによって、実践力を養う。毎回の課題は次回に解説を行い、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	抵抗と終端速度	抵抗があった場合の運動学について
2	減衰振動強制振動	各種振動の運動学について
3	2粒子の弾性衝突	2粒子の弾性衝突の取り扱いについて
4	2次元での衝突	2次元での衝突における運動の表現について
5	重力と重力ポテンシャル	重力と重力ポテンシャル、および重力下における運動について
6	ケプラーの法則と万有引力	ケプラーの法則と万有引力について
7	慣性質量と重力質量	慣性質量と重力質量の違いと物理的意味について
8	ベクトル積	ベクトルの外積の定義と意味について
9	モーメント、角運動量	モーメント、角運動量の定義と導入
10	2粒子系の運動方程式	2粒子系の運動方程式について
11	エネルギー角運動量保存則	エネルギー角運動量保存則について
12	重心座標と相対座標	重心座標と相対座標における表現について
13	自由度と運動方程式	自由度と運動方程式の表現について
14	固定軸まわりの運動	固定軸まわりの運動について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指定する。

【参考書】

力学に関する参考書は数多くあるので、自分の理解度に応じて適宜参照する事。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポート等（50%）および期末試験（50%）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよび日常的な意見や要望・実際の授業の状況などを踏まえ、授業の進捗・内容に適宜フィードバックする。

【Outline (in English)】

Learn the idea of the physical law that governs physical phenomena on the field of mechanics. Understand that many physical laws are beautiful logical systems naturally guided from the few "basic laws".

LANd100LC

基礎ドイツ語Ⅰ

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践に役立つドイツ語を楽しく身につける。

【到達目標】

発音のルールを知って、初見の単語でも発音できる。
 独和辞典を用いて、初歩的なテキストを分析して理解する。
 簡単な会話がができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の形態は対面ですが、Zoom によるリアルタイムのオンラインになる回もありますので、「各回の授業形態」を見てください。
 毎回すぐに役立つ表現、最新のドイツ事情なども紹介します。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

下の「その他の重要事項」も必ず目を通すこと。授業形態は対面ですが、Zoom によるオンラインになる回もありますので、「各回の授業形態」を見てください。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/ アルファベート	ドイツについて紹介し、発音練習もする。
第 2 回	つづりと発音	つづりと発音を学ぶ。
第 3 回	あいさつ 曜日・四季・月・数詞	あいさつ、曜日、四季、月、数詞を発音練習しながら覚える。
第 4 回	所有冠詞 / 定形第 2 位 / 否定の語	所有冠詞、定形（人称変化した動詞）が文の 2 番目にくることを学ぶ。否定の仕方についても学ぶ。
第 5 回	Lektion 1 ミュンヘンで自己紹介	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化） sein, haben の現在人称変化（不規則変化）
第 6 回	ja, nein の使い方	語順、ja, nein の使い方を学び、練習問題を解く。
第 7 回	Lektion 2 ザルツブルクの美術館で	名詞の性と冠詞、定冠詞と名詞の格変化を学ぶ。
第 8 回	不定冠詞と名詞の格変化	不定冠詞と名詞の格変化、格の用法を学び、練習問題を解く。
第 9 回	会話 講読	ザルツブルクの美術館で、初対面の人に職業・身分や趣味を説明する会話を学び、練習する。 自己紹介文、第 3 者の紹介文を読む。
第 10 回	Lektion 3 ヴィーンの市街で	不規則動詞の現在人称変化、命令形、名詞の複数形について学び、練習問題を解く。
第 11 回	非人称の es	非人称の es、時刻表現について学び、練習問題を解く。
第 12 回	会話	ヴィーン市街でバスツアーのことを尋ねる会話を学び、練習する。
第 13 回	Lektion 4 ハンブルクで買い物	定冠詞類、不定冠詞類、否定表現について学び、練習問題を解く。

第 14 回 会話
講読

ハンブルクでの買い物の会話を学び、練習する。ヴィーンの紹介文、家族のプロフィールを読む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で学んだことの復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
 ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博・西巻丈児著『ブーメラン』朝日出版社

【参考書】

本郷健治著『ドイツ文法の要点』三修社

【成績評価の方法と基準】

出席は 3 分の 2 以上を必要とする。基本的には期末試験 70 %、授業参加度（宿題、課題を含む平常点）30 % の割合で総合評価する。
 遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントされる。
 休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【学生の意見等からの気づき】

宿題の提出はなるべく先延ばしにしないように随時働きかける。

【学生が準備すべき機器他】

必要な場合学生支援システムの「お知らせ」で伝えます。

【その他の重要事項】

この授業のやり方、その他のお知らせを随時学習支援システムの「お知らせ」で連絡するので、いつも気をつけてください。私の場合は特に感染状況で流動的になる場合があります。
 授業中は（Zoom などをするとき以外は）パソコン、スマートフォン、その他のモバイルは鞆の中にしまっておくこと。勝手に見ないこと。

2 回目以降は毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を持参して使用すること。
 板書は手書きでノートに写すこと。許可なく写真に撮らないこと。
 教科書には書かれていないが、ドイツを知るために、あるいはドイツ語を学ぶ上で重要なことも多く語られるので、極力欠席も遅刻もせず、好奇心を持って積極的に授業にのぞんでもらいたい。遅刻の扱いについては授業中に説明する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve in German and the mutual understanding of other cultures.

The goal is for students to improve at speaking, listening, reading and writing.

Before each class meeting, students will be expected to have read the next chapter from the text.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

すべて

Final grade will be calculated according to the following process
 Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LC

基礎ドイツ語ⅠⅡ

外山 知子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践に役立つドイツ語を楽しく身につける。
ドイツ語圏の歴史、文化を学ぶ。

【到達目標】

独和辞典を用いて、初歩的なテキストを分析して理解する。
簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の形態は対面ですが、Zoom によるリアルタイムのオンライン
になる回もありますので、「各回の授業形態」をご覧ください。
授業の最初にドイツの文化、最新のトピックが紹介されます。その
後、前期と同じ教科書でドイツ語の文法を学び、会話を学び、テ
キストを講読する。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行
う予定です。
下の「その他の重要事項」も必ず目を通すこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション / 前期の復習	前期の復習をする。
第 2 回	Lektion 5 バーゼルで	前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形について学び、練習問題を解く。
第 3 回	人称代名詞の 3 格と 4 格	人称代名詞の 3 格と 4 格、3 格と 4 格の語順、疑問代名詞 was と wer の格変化について学び、練習問題を解く。
第 4 回	会話	バーゼルで道を尋ねる会話を学び、練習する。
第 5 回	Lektion 6 コンサートに行きたい	話法の助動詞、未来形、従属の接続詞と副文について学び、練習問題を解く。
第 6 回	分離動詞と非分離動詞 会話	分離動詞と非分離動詞について学び、練習問題を解く。 ベルリンでコンサートのチケットを買う会話を学ぶ。
第 7 回	講読	バーゼルについての紹介文とリョウタがコンサートへ行く文を講読する。
第 8 回	Lektion 7 レストランで食事	形容詞の格語尾変化、形容詞、副詞の比較について学び、練習問題を解く。
第 9 回	会話	エッセンで食べ物を注文する会話を学ぶ。
第 10 回	現在完了形 会話	現在完了形について学び、練習問題を解く。 ハレで週末のことを語る会話を学ぶ。
第 11 回	講読	原発に代わるエネルギーについての文と世界遺産 ヴァルトブルク城についての文を講読する。
第 12 回	Lektion 9 ヴァイマルで	過去形、再帰代名詞と再帰動詞について学び、練習問題を解く。

第 13 回 **Lektion 10**
冬休みに

第 14 回 会話
講読

ライブツィヒで昨日のことを語る会話を学び、練習する。
冬休みの予定を言う会話を学び、練習する。
ドイツ屈指の文化都市 ヴァイマルについての文とケルンの水につ
いての文を講読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業で習ったことの復習。本授業の準備学習・復習時間は、合
わせて 1 時間を標準とします。
学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子・中川明博・西巻丈児著 『ブーメラン』 朝日出版社

【参考書】

本郷健治著『ドイツ文法の要点』 三修社

【成績評価の方法と基準】

出席は 3 分の 2 以上を必要とする。基本的には試験 70 %、授業参
加度（宿題、課題を含む平常点）30 % の割合で総合評価する。遅刻
は 3 回で欠席 1 回にカウントされる。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な
理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告
しても配慮対象になりません。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語を学ぶことをきっかけとして普段からドイツへの関心を高
めてもらう。

【その他の重要事項】

この授業のやり方、その他のお知らせを随時学習支援システムの「お
知らせ」で連絡するので、いつも気をつけてください。私の場
合は特に感染状況で流動的になる場合があります。
授業中は（Zoom などをするとき以外は）パソコン、スマートフォ
ン、他のモバイルはしまっておくこと。勝手に見ないこと。
2 回目以降は毎回教科書と独和辞典（通信機能の付いた機器で代用
することは許可しない）を持参して使用すること。
板書は手書きでノートに写すこと。許可なく写真に撮らないこと。
教科書には書かれていないが、ドイツを知るために、あるいはドイ
ツ語を学ぶ上で重要なことも多く語られるので、極力欠席も遅刻も
せず、好奇心を持って積極的に授業にのぞんでもらいたい。遅刻の
扱いについては授業中に説明する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve in German
and the mutual understanding of other cultures.
The goal is for students to improve at speaking, listening,
reading and writing.
Before each class meeting, students will be expected to have
read the next chapter from the text.
Students will be expected to have completed the required
assignments after each class meeting.
Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LAN f 100LC

基礎フランス語Ⅰ

平岡 敦

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法と表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

簡単なフランス語を読み、書き、話せるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語初学者を対象とする授業。学習者がフランス語の基礎を身につけられるよう読み、書き、話す練習をするとともに、フランス文化にも触れられるようにする。

授業で課した課題については次の授業で確認、解説を行う。授業は対面とオンラインを組み合わせて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介、フランスとフランス語。	授業の進め方の説明。フランスという国について、フランス語の特徴について知る。
第 2 回	アルファベと綴り字記号。	フランス語で使う文字と記号、綴りの規則を学ぶ。
第 3 回	フランス語で自己紹介。	フランス語の自己紹介の練習する。
第 4 回	名詞の性と数、冠詞。	男性名詞と女性名詞、冠詞の種類と形を学ぶ。
第 5 回	主語人称代名詞。	主語になる人称代名詞の形を学ぶ。
第 6 回	動詞 être, avoir の直説法現在。	重要な不規則動詞 être と avoir の直説法現在形を学ぶ。
第 7 回	形容詞の性・数一致、否定形	形容詞の性・数変化の規則と否定形の作り方を学ぶ。
第 8 回	第 1 群規則動詞、疑問文	第 1 群規則動詞の活用と疑問文の作り方を学ぶ。
第 9 回	指示形容詞、所有形容詞。	指示形容詞、所有形容詞の形と使い分けを学ぶ。
第 10 回	第 2 群規則動詞。	第 2 群規則動詞の活用を学ぶ。
第 11 回	aller, venir の直説法現在。	不規則動詞 aller, venir の活用を学ぶ。
第 12 回	近接未来、近接過去。	近い未来と近い過去を示す表現を学ぶ。
第 13 回	疑問代名詞、疑問副詞。	疑問代名詞と疑問副詞の形と使い方を学ぶ。
第 14 回	前期の復習	前期の復習と確認の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】各授業で学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とした課題を課す。

【テキスト（教科書）】

『パリー・ボルドー』朝日出版社

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、課題、授業参加度などを 30 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が消化不足にならないよう、基本的な文法事項と表現に絞って授業を進めたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand basic French grammar and to get French expressions.

The goals of this course are to read, write, and speak in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%

LAN f 100LC

基礎フランス語ⅠⅠ

平岡 敦

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語文法と表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

簡単なフランス語を読み、書き、話せるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語初学者を対象とする授業。学習者がフランス語の基礎を身につけられるよう読み、書き、話す練習をするとともに、フランス文化にも触れられるようにする。

授業で課した課題については次の授業で確認、解説を行う。授業は対面とオンラインを組み合わせで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	比較級と最上級、強勢形	比較級、最上級表現の作り方と、人称代名詞の強勢形の形と使い方を学ぶ。
第 2 回	命令文	命令文の作り方について学ぶ。
第 3 回	非人称構文	非人称構文の仕組みを学ぶ。
第 4 回	目的語代名詞	人称代名詞の目的補語形について学ぶ。
第 5 回	代名動詞	代名動詞の仕組みと直説法現在形を学ぶ。
第 6 回	直説法複合過去	直説法複合過去形の構成と用法について学ぶ。
第 7 回	直説法半過去	直説法半過去の活用と用法を学ぶ。
第 8 回	直説法単純未来	直説法単純未来の活用と用法を学ぶ。
第 9 回	関係代名詞	関係代名詞と、複文の構造について学ぶ。
第 10 回	受動態	受動態の形態と用法について学ぶ。
第 11 回	ジェロンディフ	ジェロンディフの形態と用法について学ぶ。
第 12 回	条件法現在	条件法の活用と用法を学ぶ。
第 13 回	接続法現在	接続法の活用と用法を学ぶ。
第 14 回	後期の復習	後期の復習と確認の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業時に学んだ文法事項の定着をはかるため、練習問題を中心とする課題を課す。

【テキスト（教科書）】

『パリー・ボルドー』朝日出版社

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 70 %、課題、授業参加度などを 30 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が消化不足にならないよう、基本的な文法事項と表現に絞って授業を進めたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand basic French grammar and to get French expressions.

The goals of this course are to read, write, and speak in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ

平井 新

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、初級中国語の前半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法を学び、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法などを理解し、学習した中国語が聞いてもわかるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第6課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。春学期の授業は、原則として対面で行われる予定だが、コロナ禍の状況次第ではオンラインで行う場合もあり得る。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？ 中国語の発音 (1)	授業の進め方について・中国語について 発音 (1)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑤。
第2回	中国語の発音 (2)	発音 (2)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑤。
第3回	中国語の発音 (3)	発音 (3)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑤。
第4回	中国語の発音 (4)	発音 (4)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑥。
第5回	中国語の発音 (5)	発音 (5)：解説文の説明と発音練習。 練習①～⑦。
第6回	中国語の文法と語彙 (1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第7回	中国語の文法と語彙 (2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第8回	中国語の文法と語彙 (3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第9回	中国語の文法と語彙 (4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第10回	中国語の文法と語彙 (5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第11回	中国語の文法と語彙 (6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第12回	前期授業内容の復習 (1)	第1課～第6課の復習と補足 (1)。
第13回	前期授業内容の復習 (2)	第1課～第6課の復習と補足 (2)。
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付録のCDも活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習やリスニング練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、本体：2300円）。

【参考書】

『つながる中国語文法』林 松涛著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2011年。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点 20%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 80%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発音の反復練習が有効であると思われるので、本授業でも行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

CD関連機器。

【Outline (in English)】

This lesson is mainly for students who first time to learning Chinese. In the lesson, you'll use the textbook to learn the second half of Elementary Chinese, while aiming to master the fundamentals of the Chinese language ("speaking" ability, "listening" ability, and "writing" ability). You'll master Chinese pronunciation and notation firmly and create a foundation that will enable you to enjoy not only kanji, but also the world of sounds.

Attendance is a prerequisite for evaluation. Evaluation will be based on a total of 20% normal points (attendance, performance, and vocal volume) and 80% for the final exam.

One hour of study outside of class time for preparation, review, etc. for this class is standard. In order to cultivate the ability to "speak" and "listen" Chinese, it is important to pronounce and listen to Chinese as much as possible. Students are encouraged to repeat the pronunciation of new words and the main text of each section of the textbook that they have learned in class and to practice listening by using the CDs provided in the textbook appendix.

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ

新田 龍希

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、初級中国語の前半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法を学び、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法などを理解し、学習した中国語が聞いてもわかるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（発音篇、本篇：第1課～第7課）を使って、中国語の基礎的学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、あいさつ言葉や基本的な実用会話を学びます。毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・中国語とは？ 中国語の発音 (1)	授業の進め方について・中国語について 発音 (1)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第2回	中国語の発音 (2)	発音 (2)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第3回	中国語の発音 (3)	発音 (3)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑤。
第4回	中国語の発音 (4)	発音 (4)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑥。
第5回	中国語の発音 (5)	発音 (5)：解説文の説明と発音練習。練習①～⑦。
第6回	中国語の文法と語彙 (1)	第1課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第7回	中国語の文法と語彙 (2)	第2課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第8回	中国語の文法と語彙 (3)	第3課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第9回	中国語の文法と語彙 (4)	第4課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第10回	中国語の文法と語彙 (5)	第5課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第11回	中国語の文法と語彙 (6)	第6課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第12回	前期授業内容の復習 (1)	第1課～第6課の復習と補足 (1)。
第13回	前期授業内容の復習 (2)	第1課～第6課の復習と補足 (2)。
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、本体：2300円）。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点 30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 70%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発音の反復練習が有効だと思われるので、本授業でも行う予定です。

【Outline (in English)】

This is a course for students studying Chinese for the first time. Using textbooks, students acquire grammar rules, Chinese pronunciation, essential vocabulary, word order, and other aspects of the Chinese language.

LANc100LC

基礎中国語ⅠⅡ

平井 新

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、初級中国語の後半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得し、聞いてもわかるようになることを到達目標とします。11 月後半に実施される中国語検定（準 4 級）の合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（本篇：第 7 課～第 14 課、及び第 15 課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を行い、基礎力を養います。また、過去問題などを使って、中国語検定（準 4 級）対策も行います。適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・前期授業内容の復習	授業の進め方について・前期授業内容の復習
第 2 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 10 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 12 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 1 課～第 10 課の復習 + 中国語検定対策 (1)。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 1 課～第 10 課の復習 + 中国語検定対策 (2)。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 14 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 12 回	後期授業内容の復習 (1)	第 7 課～第 14 課の復習と補足 (1)。
第 13 回	後期授業内容の復習 (2)	第 7 課～第 14 課の復習と補足 (2)。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付録の CD も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習、リスニング練習をしてみましょう。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、本体：2300 円）。

【参考書】

『つながる中国語文法』林 松涛著、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点 20%（出席・受講態度・発音量）、期末試験 80%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発音の反復練習が有効であると思われるので、本授業でも行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

CD 関連機器

【Outline (in English)】

This lesson is mainly for students who have learned the first half of Elementary Chinese. In the lesson, you'll use the textbook to learn the second half of Elementary Chinese, while aiming to master the fundamentals of the Chinese language ("speaking" ability, "listening" ability, and "writing" ability). You'll master Chinese pronunciation and notation firmly and create a foundation that will enable you to enjoy not only kanji, but also the world of sounds.

One hour of study outside of class time for preparation, review, etc. for this class is standard. In order to cultivate the ability to "speak" and "listen" Chinese, it is important to pronounce and listen to Chinese as much as possible. Students are encouraged to repeat the pronunciation of new words and the main text of each section of the textbook that they have learned in class and to practice listening by using the CDs provided in the textbook appendix.

Attendance is a prerequisite for evaluation. Evaluation will be based on a total of 20% normal points (attendance, performance, and vocal volume) and 80% for the final exam.

LANc100LC

基礎中国語ⅠⅡ

新田 龍希

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初級中国語の前半部分を学んだ学生を対象とした授業です。授業では、教科書を使って、初級中国語の後半部分を学びながら、中国語力の基礎（「話す」力・「聞く」力・「書く」力）の習得を目指します。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。また、中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

【到達目標】

中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できること、授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙・実用会話を習得し、聞いてもわかるようになることを到達目標とします。11 月後半に実施される中国語検定（準 4 級）の合格を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、教科書（本篇：第 7 課～第 14 課、及び第 15 課）を使って、中国語の基礎の学習（発音、ピンイン、簡体字、基本的な文法・語彙の理解と習得）を進めながら、基本的な実用会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習、作文練習を行い、基礎力を養います。また、過去問題などを使って、中国語検定（準 4 級）対策も行います。適宜、視聴覚教材も使って中国文化の紹介も行います。毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・前期授業内容の復習	授業の進め方について・前期授業内容の復習
第 2 回	中国語の文法と語彙 (1)	第 7 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑥。
第 3 回	中国語の文法と語彙 (2)	第 8 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 4 回	中国語の文法と語彙 (3)	第 9 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 5 回	中国語の文法と語彙 (4)	第 10 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 6 回	中国語の文法と語彙 (5)	第 11 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 7 回	中国語の文法と語彙 (6)	第 12 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 8 回	中国語の文法と語彙 (7)	第 1 課～第 10 課の復習 + 中国語検定対策 (1)。
第 9 回	中国語の文法と語彙 (8)	第 1 課～第 10 課の復習 + 中国語検定対策 (2)。
第 10 回	中国語の文法と語彙 (9)	第 13 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 11 回	中国語の文法と語彙 (10)	第 14 課：新出単語・文法ポイント・本文の説明と発音練習。ドリル①～⑦。
第 12 回	後期授業内容の復習 (1)	第 7 課～第 14 課の復習と補足 (1)。
第 13 回	後期授業内容の復習 (2)	第 7 課～第 14 課の復習と補足 (2)。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』（保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、本体：2300 円）。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点 30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 70%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

発音の反復練習が有効と思われるので、本授業でも行う予定です。

【Outline (in English)】

This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure. The course focuses on learning Chinese aspect, idiomatic phrases, basic vocabulary, and other aspects of the Chinese language.

BSP100LC

文章作法

矢口 貢大

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とします。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学んでいきます。最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とします。

【到達目標】

- ①わかりやすく正確な日本語の書き方を習得する。
- ②議論を構築し、文章で表現できるようになる。
- ③学術レポートが書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文章作法の基礎については講義形式で伝えます。不明点があれば積極的に質問してください。授業では、小テスト、400字作文、課題文などの作成を随時行ないます。また、履修者同士で評価や議論をすることで、文章の書き方を学んでいきます。作成した課題のフィードバックは、Hoppiiの課題返却機能を用いる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業の目標、成績評価についての説明
第2回	文章作法の基礎	・文章の書き方 ・小テスト（添削）
第3回	自己紹介文を書く	・400字程度の作文
第4回	課題の返却と講評	・400字程度の作文の添削修正
第5回	要約の練習	・要約の仕方 ・要約の作成
第6回	レポートの書き方（基礎編）	・レポートとは何か ・400字程度の作文
第7回	論文作法	・課題の返却 ・論文とは何か
第8回	レポートの書き方（発展編）	・レポートのテクニック ・400字作文
第9回	議論の方法	・課題の返却 ・議論の仕方
第10回	意見表明の実践（1）	・課題文の作成
第11回	意見表明の実践（2）	・課題文の返却 ・ピアレビュー
第12回	情報収集と情報処理	・文献の調べ方 ・引用の仕方 ・注 ・参考文献
第13回	意見表明の実践（3）	・前回の復習 ・前回をふまえたうえでの課題文の作成
第14回	意見表明の実践（4）	・課題文の返却 ・ピアレビュー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】作文、課題文の作成を宿題にします。
また作文のテーマに関する文献を図書館等で調べます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。講義ごとにプリントを配布します。

【参考書】

木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫、1994年
戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス、2012年
野内良三『日本語作文術』中公新書、2010年

【成績評価の方法と基準】

配分：

平常点（小テスト・400字作文）（30 %）

課題文（30 %）

レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを使用する場合があります。

【その他の重要事項】

受講希望者が定員を超えた場合は抽選になります。授業開始前に掲示を確認して下さい。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to provide students with writing skills to express themselves clearly and persuasively. Students will improve academic writing skills by reading articles and essays critically, editing grammatical and rhetorical errors, learning how to compose an argument, and developing research skills.

Grading Criteria: class participation (quizzes and short essays, 20%), assigned writing (40%), final essay (40%)

LANd200LC

ドイツ語中級

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創生科学科 2 年生の学生諸君を対象とする。実践的な言語使用の観点のもとに基礎的な文法事項を確認・復習し、語彙を増やし、多くの基本表現を学んで身近なテーマについて書く力・読む力・話す力・聞き取る力を養う。

【到達目標】

ドイツ語技能検定試験 5 級レベル以上の力が身についている。文法知識と語彙を土台に、広告やパンフレットなど短く平易なテキストの要点をつかむことができる。日常生活に必要な表現や言い回しを運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Lesetext の読解、聞き取り、Audiotraining、パートナーとのやりとり、ひな形に沿って文章を書くなど、種々の課題をこなして、ドイツ語 4 技能を鍛える。提出された答案は添削し、コメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Kennenlernen	自分と他人を紹介する／電話番号や出身地を聞き合う
2	Termine	時刻を聞き合う（1）／曜日・一日の時間区分／休日はいつなのかを聞き合う
3	Gegenstände	身の回りの物の名を尋ねる／ doch について
4	Aktivitäten	余暇活動や最前の人物・ものについて話す
5	Familie	家族について書かれたテキストを読む／相手の家族のことを尋ねる
6	Arbeitswelt	職業・生年・年齢を聞き合う
7	Tauschen und Einkaufen	物々交換について書かれたテキストを読む／物を交換するときの表現に親しむ／物の値段を聞き合う
8	Essen und Trinken / Uhrzeit	食べ物・飲み物の好き嫌いを聞き合う／時刻を聞き合う（2）／食習慣について話す
9	独検（1）	過去の問題を解く
10	独検（2）	解説
11	im Restaurant	最前の飲食店について書かれたテキストを読む／カフェやレストランでの注文・支払いの表現を学ぶ
12	Notwendigkeiten und Fähigkeiten	現実の生活と虚構の生活を対照的に描いたテキストを読む／しなければならないこと・得手不得手を話す
13	Gefühle	感情や気分を表す言葉に親しむ
14	Absichten und Erlaubnis	なおもしたいこと・もはやしたくないことを話す／禁止と許可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

【テキスト（教科書）】

・ Wilfried Krenn, Herbert Puchta: Motive A1, Kursbuch. Hueber
・ Wilfried Krenn, Herbert Puchta: Motive A1, Arbeitsbuch. Hueber

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）にテストの成績（60%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

Audiotraining は効果的であったようだ。

【Outline (in English)】

This German course aims at teaching students many common expressions as well as enriching their grammatical knowledge and vocabulary from the viewpoint of practical language use in order that they can achieve communicative abilities needed in simple everyday situations. By the end of the course, students should be able to do the following:

- Pass the DDJ (Diplom Deutsch in Japan) test for “Elementarstufe”

- Understand the main points of short simple texts (e.g. advertisement, brochure) using grammatical knowledge and vocabulary learned

- Use familiar everyday expressions and very basic phrases

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

LAN f 200LC

フランス語中級

荻野 文隆

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語基礎で学んだことを土台にして、フランス語とフランスの文化、歴史、社会についての理解を深める授業です。
 予め次の歌を聴いておいてください。
 一年で学んだフランス語の知識をもとに、さらに実践的で文法知識と運用能力を高める。
 フランスの歴史と文化、フランス語圏事情について認識を深める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定資格取得をめざす。
 シャンソンを通して発音の自然な習得に務める。
 フランス語のインターネットサイトで情報を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

全学年全学科の「フランス語基礎 1」程度既習者を対象とする授業。基礎文法の理解を深め、聞き取り能力の向上を図ってフランス語運用能力を総合的に高め、実用フランス語技能検定資格取得を目指す。
 フランス・フランス語圏の最新事情について情報交換する場を設ける。授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	ローマ帝国崩壊と民族移動
	フランスの成立の歴史	クロヴィスと三国志状況
第 2 回	フランス語の成立の歴史	ラテン語とゲルマン語 英語の成立：アングル語とフランス語の融合
第 3 回	フランス語、英語、ドイツ語の比較	シャンソン：ダルマさん転んだ！
第 4 回	複合過去	シャンソン：グリーンピースは手で食べないよ。
第 5 回	直説法半過去と条件法 接続法の概要	シャンソン： Fais dodo. おねんねしな。
第 6 回	受動態	シャンソン： Ah vous dirai-je, Maman... きらきら星
第 7 回	現在分詞 関係代名詞	シャンソン： Bateau sur l'eau...
第 8 回	ジェロンディフ	シャンソン： Colchiques dans les prés
第 9 回	中性代名詞	シャンソン： Chevaliers de la table ronde...
第 10 回	直説法単純未来	数字の復習 疑問視のまとめ
第 11 回	直説法前未来	シャンソン： Les petits poissons nagent...
第 12 回	条件法現在	シャンソン： Loup y es-tu? 狼さん、どこにいるの？
第 13 回	接続法現在	シャンソン： La mer qu'on voit danser... 海
第 14 回	総まとめ	学期のまとめとして復習と確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 フランス語の基礎文法と表現の定着をはかるため、音読やリスニングの練習などを中心とした課題をこなす。

【テキスト（教科書）】

『パリの街角で：音声ペンで学ぶフランス語入門』、荻野文隆、Isabelle Ogino、両風堂

【参考書】

『フランス 地球の歩き方』、ダイヤモンド・ビッグ社
 フランスやパリについてのさまざまな便利な情報が簡単に得られます。

【成績評価の方法と基準】

評価については、平常点、課題、レポートなどの総合評価となります。

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや映画などを用いて、フランス語・フランス語圏文化に親しむ。

【学生が準備すべき機器他】

教科書『パリの街角で』には、音声ペンが別売りで付いていますので、発音に付いてのしっかりした学習を希望する方は、購入して予習、復習に活かしてください。

また、両風堂のホームページから各課のスケッチとシャンソンの音源がダウンロードできますので、それも積極的に活用してください。

音源ダウンロード

<http://www.ryofudo.jp/dl.html>

【Outline (in English)】

After one year of studying French, you will learn how to use your knowledge in an effective and practical way, in order to improve your communication skills.

LANd200LC

ドイツ語表現

高橋 完治

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

創生科学科 2 年生の学生諸君を対象とする。実践的な言語使用の観点のもとに新たな文法事項を学び、語彙を拡張し、多くの基本表現を学んで身近なテーマについて書く力・読む力・話す力・聞き取る力を向上させる。

【到達目標】

ドイツ語技能検定試験 4 級レベル以上の力が身についている。文法知識と語彙を土台に、友人からのメールなど平易なテキストの要点をつかむことができる。身近な話題について簡単なやりとりができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Lesetext の読解、聞き取り、Audiotraining、パートナーとのやりとり、ひな形に沿って文章を書くなど。種々の課題をこなして、ドイツ語 4 技能を鍛える。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientierung	GPS の機能について書かれたテキストを読む／道順の説明を理解する
2	in der Wohnung	居住空間の名称に親しむ／位置関係を表現する
3	die richtige Stadt	最良の街について語る
4	Gesundheit (1)	身体のどこが痛むのかを述べる
5	Gesundheit (2)	受診の予約の仕方を学ぶ／健康上の問題に対して助言する
6	Tattoos	刺青の問題について書かれたテキストを読む
7	Brieftasche verloren	過去の事を語る
8	private Reisen	旅行についての対照的な意見を読む／場所・方向を表す前置詞について学ぶ
9	eine Reise planen (1)	宿の予約の仕方を学ぶ
10	eine Reise planen (2)	列車の発着時刻など交通機関の情報を理解する／天候の表現を学ぶ
11	Reiseerlebnisse	旅の思い出について書かれたテキストを読む
12	Freizeitverhalten	禁止と許可をめぐる／経験を語る
13	Geschenke	気に入る・気に入らないを表現する
14	Wandersagen	要請を伝える／経歴や予定を尋ねる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

【テキスト（教科書）】

・ Wilfried Krenn, Herbert Puchta: Motive A1, Kursbuch. Hueber
・ Wilfried Krenn, Herbert Puchta: Motive A1, Arbeitsbuch. Hueber

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）にテストの成績（60%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

ドイツ語で会話することへの意欲が窺われた。

【Outline (in English)】

This German course will continue to teach students many common expressions as well as extend their grammatical knowledge and vocabulary from the viewpoint of practical language use in order that they can achieve communicative competence at an upper-intermediate level. By the end of the course, students should be able to do the following:

- Pass the DDJ (Diplom Deutsch in Japan) test for “Anfängerstufe”
 - Understand the main points of simple texts (e.g. letters from friends) using grammatical knowledge and vocabulary learned
 - Ask and answer simple questions about very familiar topics
- After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

LAN f 200LC

フランス語表現

荻野 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で学んだことを踏まえて、さらにフランス語とフランスについての理解を深めていくことを目指します。
フランス語の基礎を踏まえた文法、発音、リスニング力の向上を実際の状況を想定しながら目指しましょう。併せて、フランスとフランス語を話す国々の歴史や文化についても触れていきましょう。

【到達目標】

フランス・フランス語圏の歴史、社会、文化などについて知見を深めていく。実用フランス語技能検定資格の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語基礎文法の定着をはかり、フランス語で書く練習に重点を置くことによって、自己表現の能力を高め、フランス語自学自習体制の構築を期す。実用フランス語技能検定資格取得を目指す。
フランス・フランス語圏の歴史、社会、文化などについて認識を深め、フランス語の情報を収集して、発表する。授業の始めに、前回の授業で提出された質問等からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介	パリへ行くんだ？
第2回	自己紹介と家族の話題	ルイズは動物が好き？ シャンソン： La nuit
第3回	夏のバカンスはどこへ行くの？	ブルターニュ？ ブルゴーニュ？ チュニジア？
第4回	日本からの手紙	三十年来の友人 シャンソン： Caresse sur l'océan
第5回	ホテルの予約	エレベーターはどこ？ トイレはどこ？
第6回	パリのパン屋で	クロワッサンとブリオッシュ シャンソン： Cake d'amour
第7回	レストランで	ステーキとムール貝 コーヒーは食事のあとで
第8回	いい天気だ、ついてるね。	雲と雪と霧 セーヌの景色
第9回	電話で話そう	もしもし、ケンゾーです。
第10回	リュクサンブール公園には花がいっぱい。	もっと時間があつたらなあ。
第11回	シテ島の散策	写真も撮らなきゃ。
第12回	サントシャペルとノートルダム大聖堂	ゴシック様式
第13回	シャンティエユ城	サンリスはユーグカペーのまち？
第14回	総合的な総括を行う。	最終的な復習と確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】フランス語運用能力を高めるため、発話能力の強化、リスニング、練習問題を中心とした課題を出します。

【テキスト（教科書）】

『パリの街角で： 音声ペンで学ぶフランス語』、荻野文隆、Isabelle Ogino、両風堂

音源ダウンロード

<http://www.ryofudo.jp/dl.html>

【参考書】

『フランス 地球の歩き方』、ダイヤモンド・ビッグ社
フランスやパリについて歴史、文化、旅行、レストラン、ホテルなどのさまざまな情報が簡単に手に入ります。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30 %

検定試験へのとりくみ 20 %

授業への参加度を 50 %として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンやフランス語映画に触れる機会をできるだけ増やします。

【学生が準備すべき機器他】

教科書『パリの街角で』には、音声ペンが別売りで付いていますので、発音に付いてのしっかりした学習を希望する方は、購入して予習、復習に活かしてください。

また、両風堂のホームページから各課のスケッチとシャンソンの音源がダウンロードできますので、それも積極的に活用してください。

音源ダウンロード

<http://www.ryofudo.jp/dl.html>

【Outline (in English)】

Let's discover France and French-speaking countries through learning French language, and enjoy communication in real-life situations!

LANc200LC

中国語中級

新田 龍希

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は基礎的中国語を学習した学生を対象としています。学生が挨拶言葉、例文、対話文と短文などの復習と学習を通じて、中国語の基礎力（音読、聞き取り、基本的語彙の応用、文法事項の理解など）を固め、着実にレベルアップできるように図ります。具体的には学生が(1)より正確な発音を身につける、(2)孤立語の特徴を持つ中国語の語順と基本的な構造をきちんと理解する、(3)基礎的な中国語を聞いて理解できることを目指します。

【到達目標】

学生はピンインをしっかりとマスターすること。
所定の話題について確実に中国語で会話や表現ができるようになること。
6月後半実施の中国検定試験（準4級あるいは11月実施の4級をクリアすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

少しまとまった文章にも触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。必要に応じて中国語検定問題も扱います。適宜、中国文化の紹介をします。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと復習	授業計画 復習と確認 挨拶言葉と発音チェック
第2回	第1課、第2課 自己紹介・家族の紹介	ポイント（人称代名詞、動詞述語文、 ～ ☐ ?）指示代詞、的、疑問詞疑問文、也） ドリル
第3回	第3課 第4課	ポイント（量詞、所有の「有」、几、多少）、 （形容詞述語文、反復疑問文、 名詞+呢?） ドリル
第4回	第5課 第6課	ポイント（場所指示代詞、存在の「有・在」、 助動詞「想・要」、（日付・時の言葉、 名詞述語文、「了」、「吧」） ドリル
第5回	第7課 第8課	ポイント（主述述語文・二重目的語、 持続・分離動詞） （ ☐ 、動詞の重ね型、選択疑問文「A ☐ 是 B」） ドリル
第6回	第9課 第10課	ポイント（比較文、二重目的をとる動詞、 様態補語、お金の数え方）、（ ☐ V 了/V+了）、 「是…的」、「会/能/可以」 ドリル
第7回	第11課 第12課	ポイント（在V…呢、V着、快V）、 方向補語、結果補語、動量補語、 有点儿） ドリル
第8回	第13課	ポイント（自然現象を表す無主語文、 一点儿+都/也+否定、 一…就～、越…越～） ドリル
第9回	第14課	ポイント（たとえの表現、 像…一 ☐ 、禁止表現 別/不要、 有点儿+…、動作の同時進行の表現 一 ☐ …一 ☐ ） ドリル
第10回	中間復習	文法のまとめと点検
第11回	講読 新教科書 第5課 初対面の自己紹介文	文型の練習と翻訳
第12回	第6課	文型の練習と翻訳
第13回	第7課	文型の練習と翻訳
第14回	期末試験	試験時間 60分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』保坂律子・郭雲輝著、朝日出版、2011年
『すぐ読める中国語』胡金定ほか著、朝日出版社、2016年。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介。
語学電子辞書、たとえばCASIO EX-word、『広辞苑/英和・和英/中日・日中辞典』などを持っていると便利です。
中国検定試験に挑戦するために以下の本
中検準4級問題集（2015年版）中検研究会
中検4級問題集（2015年版）中検研究会
中検3級問題集（2015年版）中検研究会

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験70%を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

提示した学習の要点を中心に予習し、欠かさず授業に出席する人とそうでない人の語学力の差が拡大するので、学習のモチベーションは不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクター、DVD、CD。スマートフォンのLINGの音声機能を活用して、発音のチェックをすることがある。

【その他の重要事項】

教科書を必ず購入してください。

【Outline (in English)】

This course is intended for students with basic knowledge of Chinese language. It focuses on simple and compound sentences, reinforcing language knowledge and developing students' language proficiency.

LANe200LC

中国語中級

杉本 公子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎中国語をひととおり学習した学生を対象としています。これまで学んだことを基に、少しまとまった文章に触れながら、「読む」「書く」「話す」「聞く」を中心に、自信をもって表現できるようになることを目標とします。また、中国語検定試験にも対応します。

【到達目標】

- (1) 一年生で学んだ基礎事項が応用できる。
- (2) 少しまとまった中国語が読める。聞ける。
- (3) 会話、作文で、自信をもって表現できる。
- (4) 希望者は、中国語検定試験（準4級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

少しまとまった文章にも触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。必要に応じて中国語検定問題も扱います。適宜、中国文化の紹介をします。毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第1～4課・復習1		これまでの復習：発音・数字・簡単な作文練習
第2回	中国語検定案内	中国語検定試験問題
第5課(1)		第5課：動詞述語文・形容詞述語文・疑問文
第3回	第5課(2)	第5課：動詞述語文・形容詞述語文・疑問文
第4回	第6課(1)	練習問題 第6課：量詞・日時・名詞述語文・「在」の用法
第5回	第6課(2)	第6課：量詞・日時・名詞述語文・「在」の用法
第6回	第7課(1)	練習問題 第7課：助動詞「会」と「想」・助詞「了」・連動文
第7回	第7課(2)	第7課：助動詞「会」と「想」・助詞「了」・連動文
第8回	第8課(1)	練習問題 第8課：前置詞・助詞・「～なのだ」
第9回	第8課(2)	構文・数量補語 第8課：前置詞・助詞・「～なのだ」
第10回	復習2	構文・数量補語 練習問題 復習2：第5課から第8課までの文法のまとめ、確認練習問題
第11回	第9課(1)	第9課：助動詞・動詞の重ね型・方向補語
第12回	第9課(2)	第9課：助動詞・動詞の重ね型・方向補語
第13回	期末試験1	練習問題 期末試験（筆記）
第14回	期末試験2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】教科書の予習・復習。付属の音声教材を使つての音読練習、リスニング練習。

【テキスト（教科書）】

『すぐ読める中国語 改訂版』、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016年。

【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書〈新訂版〉』同書社、2016年。
中国語検定協会ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加算します。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングが苦手と思う方は、自主的に教科書付属の音声教材をたくさん聞いてください。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

【Outline (in English)】

Intermediate Chinese

[Course Outline] A second-year Mandarin Chinese course. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing.

[Learning Objectives] The goal is to consolidate the foundation which students have built in their first-year Chinese courses.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc200LC

中国語表現

新田 龍希

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は基礎中国語と中国語中級（前期）を学習した学生を対象とし、日記風の文章の講読を行います。文章を読み、書くために必要な基本表現を身につけ、読解力と表現力の強化をします。

【到達目標】

中国語の理解力、表現力を身につけることを目指します。
11 月後半に実施される中国語検定（4 級）の合格を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

さまざまな出来事を記述する文章を題材に、音読、リスニング、作文と翻訳の訓練を通して、基本的表現を習得します。また、過去問題などを使い、中国語検定（4 級）対策も行います。
毎週皆さんから提出してもらった課題（練習問題）のうち、よく間違っていた箇所などは次週解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の復習と日常用語	教科書発音編
第 2 回	第 8 課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 3 回	文法の復習	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 4 回	第 9 課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 5 回	第 10 課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 6 回	第 11 課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 7 回	第 12 課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 8 回	第 13 課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 9 回	第 14 課	文型と表現の復習、リスニング、作文、本文の講読と日本語訳
第 10 回	文法の復習と確認	文型と表現の復習、リスニング、作文、過去問を解く
第 11 回	中国語検定試験対策	過去問を解く
第 12 回	中国語検定試験対策	過去問を解く
第 13 回	後期試験	試験時間 60 分
第 14 回	試験公評	答え合わせと問題発見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】語学学習は、日常的に当該言語に触れることが大切です。中国語圏の好きな映画や音楽などを見つけて、日頃から親しんで欲しいと思います。

【テキスト（教科書）】

『すぐ読める中国語』胡金定ほか著、朝日出版社、2013 年。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介。

光生館 (2013/03)

中検準 4 級問題集 (2016) 中検研究会

中検 4 級問題集 (2016 年版) 中検研究会

中検 3 級問題集 (2016 年版) 中検研究会

【成績評価の方法と基準】

出席状況を評価の前提条件とします。平常点 30%（出席・受講態度・発声音量）、期末試験 70%を総合して評価します。なお資格取得者には追加点を与えます。

【学生の意見等からの気づき】

語学の勉強は日々の積み重ねが大切です。

期待できる教育効果を得るには、学生が欠かさず授業に出席し、積極的に授業参加すること、授業中、教員が学習要点を提示し、発音指導と練習を繰り返すこと、どちらも必要です。

【Outline (in English)】

This course is designed for students who have completed both basic and intermediate Chinese courses in previous semesters. The course is expected to develop students' proficiency in reading comprehension, listening and writing.

LANc200LC

中国語表現

杉本 公子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎中国語と中国語中級（春学期）を学習した学生を主な対象としています。少しまとまった文章に触れながら、語彙を増やしつつ基礎文法の再確認をし、中国語を正確に理解し、表現する力を養います。また、中国語検定試験にも対応します。

【到達目標】

- (1) 一年生で学んだ基礎事項が応用できる。
- (2) 少しまとまった中国語が読める。聞ける。
- (3) 会話、作文で、大胆にとりくみ、自信をもって表現できる。
- (4) 新しい文法事項が理解できる。
- (5) 希望者は、中国語検定試験（準 4 級以上）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

音読、作文、リスニング練習を行い、すでに学習してきた内容の定着をめざします。

また、必要に応じて中国語検定（準 4 級以上）対策も行います。

適宜、中国文化の紹介をします。

毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語検定案内	中国語検定問題
第 2 回	第 10 課 (1)	助詞「了」・兼語文・疑問詞の用法
第 3 回	第 10 課 (2)	助詞「了」・兼語文・疑問詞の用法 練習問題
第 4 回	第 11 課 (1)	接続詞・二重目的語・語気助詞
第 5 回	第 11 課 (2)	接続詞・二重目的語・語気助詞 練習問題
第 6 回	第 12 課 (1)	「～なので」・結果補語・「～を」
第 7 回	第 12 課 (2)	「～なので」・結果補語・「～を」 練習問題
第 8 回	第 13 課 (1)	比較・受け身・可能性
第 9 回	第 13 課 (2)	比較・受け身・可能性 練習問題
第 10 回	第 14 課 (1)	「もうすぐ～」・「少しも～」・可能補語
第 11 回	第 14 課 (2)	「もうすぐ～」・「少しも～」・可能補語 練習問題
第 12 回	復習 3	復習 3：第 9 課から第 14 課までの 文法のまとめ 確認練習問題
第 13 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 14 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】教科書の予習・復習。付属の音声教材を使つての音読練習、リスニング練習。

【テキスト（教科書）】

『すぐ読める中国語 改訂版』、胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016 年。

【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』同書社、2016 年。
中国語検定協会ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10 %、課題内容 30 %、試験 60 %（筆記 40 %、音読 20 %）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】

本文を書いてみると発見があります。実際に書いてみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

【Outline (in English)】

Chinese Communication

[Course Outline] A second-year Mandarin Chinese course. Students are offered training in listening, speaking, reading, and writing, and will be introduced to more complex grammatical structures.

[Learning Objectives] The goals are to improve students' comprehensive Chinese language skills and lay a solid foundation for further Chinese language study.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

基礎中国語Ⅰ

杉本 公子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初めて中国語を学ぶ学生を対象としています。中国語の発音と表記法を学び、漢字だけではなく音の世界を楽しむための基礎作りをします。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の基礎力養成を目指します。中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

【到達目標】

- (1) 正確な発音を身につける。
- (2) 発音表記が正確に読める。
- (3) 基礎的な文法を理解する。
- (4) 初歩的な会話ができる。
- (5) 基礎的な作文ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

正確な発音、発音の表記法、簡体字と、基本的な文法と語彙、初歩的な会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、適宜、中国文化の紹介も行います。毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
	発音 (1)	発音 (1)：発音表記・声調・単母音
第2回	発音 (2)	発音 (2)：複母音・声調記号
第3回	発音 (3)	発音 (3)：子音・無気音・有気音・そり舌音
第4回	発音 (4)	発音 (4)：鼻音・声調変化
第5回	発音 (5)	発音 (5)：発音表記の規則・数字・声調の組み合わせ
第6回	第1課	第1課：人称代名詞・動詞述語文・諾否疑問文
第7回	第2課	第2課：指示代詞・連体修飾語・疑問詞疑問文
第8回	第3課	第3課：助数詞・所有・「いくつ」
第9回	第4課	第4課：形容詞述語文・反復疑問文・「～は？」
第10回	第5課	第5課：場所の指示代詞・存在・「～したい」
第11回	第6課	第6課：日時・名詞述語文・変化・提案・推測
第12回	第1～6課復習	第1～6課：復習
第13回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第14回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付属の音声教材も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などについて、発音練習やリスニング練習をしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011年。

【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』同友社、2016年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10%、課題内容30%、試験60%（筆記40%、音読20%）として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

どんどん間違えてください。そこから多くが学べます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

【Outline (in English)】

Basic Chinese 1

[Course Outline] A first-year Mandarin Chinese course for students with no background in Chinese. Students will learn to read and write Chinese phonetic alphabet and simplified Chinese characters. Special emphasis will be placed on developing accurate pronunciation.

[Learning Objectives] The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANc100LC

基礎中国語 II

杉本 公子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、主に初級中国語の前半を学んだ学生を対象としています。中国語の発音と表記法をしっかりとマスターし、漢字だけではない音の世界を楽しむための基礎作りをします。そして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の基礎力養成を目指します。中国文化に対する理解を深めるために、適宜、中国文化の紹介も行います。

【到達目標】

- (1) 発音が正確にできる。
- (2) 基礎的な文法を理解する。
- (3) 初歩的な会話ができる。
- (4) 基礎的な作文ができる。
- (5) 学習した内容のまとまった中国語が聞き取れる。
- (6) 希望者は、11 月後半に実施される中国語検定（準 4 級）に合格する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

正確な発音、発音の表記法、簡体字と、基本的な文法と語彙、初歩的な会話を学びます。発音練習、聞き取り練習、発話練習を行い、基礎力を養います。また、必要に応じて中国語検定対策も行います。適宜、中国文化の紹介を行います。

毎週課題を課します。提出は「学習支援システム」を通じて行い、フィードバックは授業内に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	第 7 課 (1)	第 7 課 (1)：連動文・時間量・前置詞
第 3 回	第 7 課 (2)	第 7 課 (2)：連動文・時間量・前置詞
第 4 回	検定試験練習問題	検定試験練習問題
第 5 回	第 8 課 (1)	第 8 課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第 6 回	第 8 課 (2)	第 8 課：経験・動詞の重ね型・選択疑問文
第 7 回	第 9 課 (1)	第 9 課：比較・二重目的語・様態補語
第 8 回	第 9 課 (2)	第 9 課：比較・二重目的語・様態補語
第 9 回	第 10 課 (1)	第 10 課：完了・「～なのだ」・「できる」
第 10 回	第 10 課 (2)	第 10 課：完了・「～なのだ」・「できる」
第 11 回	リスニング練習	リスニング練習
第 12 回	第 11 課 (1)	第 11 課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
第 13 回	第 11 課 (2)	第 11 課：動作の進行・状態の持続・「はやく～」
第 14 回	第 12 課 (1)	リスニング練習
第 15 回	第 12 課 (2)	第 12 課：方向補語・結果補語・動量補語
第 16 回	第 12 課 (3)	第 12 課：方向補語・結果補語・動量補語
第 17 回	リスニング練習	リスニング練習
第 18 回	第 13 課 (1)	第 13 課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
第 19 回	第 13 課 (2)	第 13 課：無主語文・「少しも～」・「すぐに～」・「ますます」
第 20 回	第 14 課 (1)	リスニング練習
第 21 回	第 14 課 (2)	第 14 課：「まるで～」・禁止・「少し～」「～しながら」
第 22 回	第 14 課 (3)	第 14 課：「まるで～」・禁止・「少し～」「～しながら」
第 23 回	リスニング練習	リスニング練習
第 24 回	期末試験 1	期末試験（筆記）
第 25 回	期末試験 2・まとめと解説	期末試験（音読）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】中国語を「話す」力・「聞く」力を培うためには、なるべく多く発音すること、聞くことが大切です。教科書付属の音声教材も活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や本文などの発音の反復練習、リスニング練習をしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ケンタくんの中国語』、保坂律子・郭雲輝著、朝日出版社、2011 年。

【参考書】

『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書（新訂版）』同学社、2016 年。
中国語検定協会ホームページ

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講態度・発声音量）10 %、課題内容 30 %、試験 60 %（筆記 40 %、音読 20 %）として総合評価します。中国語検定の受験者と合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】

ペースが速いときは、遠慮なく言ってください。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器。

【Outline (in English)】

Basic Chinese 2

[Course Outline] Continuation of Basic Chinese 1 held during the spring semester. Emphasis will be given to the acquisition of basic grammatical structures.

[Learning Objectives] The goal is to develop the basics of four language skills: listening, speaking, reading, and writing.

[Learning Activities Outside of Classroom] Assignments, which would be about an hour work, are given every week.

[Grading Criteria] Term-end examination: 60% (written test: 40%, oral reading: 20%), weekly assignments: 30%, in-class contribution: 10%.

LANK200LC

朝鮮語中級

魏 聖鎔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

【到達目標】

初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようにするのが目標です。

韓国語の文法、連体形や不規則変則が使えるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

ハングル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	授業の流れの説明、初級の復習、ガイダンス
2	1 桜 形容詞・指定詞の現在	連体形／形容詞・指定詞の過去・未来の連体形
3	韓国の名所：ソウル 1 ☑ 梁津水産市場、単語練習：花	- ている 1 / (12-3 参) ／韓国と日本の四字熟語 変則の説明と練習 / 異文化紹介：花見
4	2 韓国の記念日 動詞・存在詞の連体形	伝聞 引用文 / 韓国の名所：済州道 単語練習：趣味
5	語幹説明	語幹説明と練習問題 異文化紹介：韓国の記念日について
6	会話：☑梁津 3 ビビンバ / 接続詞 順接・逆接の表現 - / 続詞 原因理由から・ので：()	韓国名所：全州 単語練習：韓国の食べ物 韓国語の漢字の理解
7	変則の学習	応用問題：短文 (私の日記) ／異文化紹介：のり巻きと韓国のキンパ
8	復習 中間まとめ	復習 中間まとめ
9	4 デザートとダイエット 体（普通体）ぞんざいな言い方	動詞の禁止の表現 - 韓国の名所：ソウル 2 (広場市場), (東大門) 単語練習：スイーツ
10	韓国のスイーツ / 会話：キンパと海苔巻	音読コーナー：誕生日とケーキ屋さん ／異文化紹介：誕生日の朝にわかめスープ
11	5 ? 週末に何をしますか。	仮定表現 () / 役に立つ表現： - / - / -() 韓国の名所：ソウル 3 汝矣島 () 漢江遊覧船 / 単語練習：場所
12	作文：私の一日/応用作文コーナー：週末の過ごし方	変則と応用問題：短文 (ヒーリング) 異文化紹介：日韓共同開催 2002 年ワールドカップと日韓友好
13	6 韓国のお盆と暦 / 敬語表現：() / 位置名詞 韓国の名所：平昌 () と江陵 ()	家族名称と家族写真 / 可能・不可能表現 () / 会話：KTX アメリカーノ (カード文化)
14	プレゼン：韓国旅行に役立つ表現 まとめ。	プレゼン：韓国旅行に役立つ表現 まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』 魏 聖鎔 朝日出版社

【参考書】

辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』（白水社）、『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %
中間試験 20 %
まとめ 30 %
課題 20 %
クラス貢献 20 %
合格点は 60 以上です。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる！
韓国の会話をより楽しもう！

【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

【Outline (in English)】

Intermediate Korean

Students will master basic Hangul grammar, vocabulary, and knowledge of expressions as well as daily conversation and composition skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %
Midterm exam 20 %
Finals 30 %
Assignment 20 %
Class contribution 20 %
A passing score is 60 or up.

LANk200LC

朝鮮語表現

魏 聖銓

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

【到達目標】

初級で学んだ文字・発音・文法などをしっかり再確認し、次のステップの発音変化の練習・文法を強化し、現地ですぐに使える会話ができるようにするのが目標です。

連体形と不規則変則が理解できるように学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、事前に学習支援システムでその都度提示する。ハングル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。提出された課題のうちいくつかを次の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	自己紹介 前期の復習、後期の授業について
2	7 外来 語とアルファベット	表現：－（ ） ／動詞語幹＋てください（ / と（ ） の違い） 韓国の名所：水原 単語練習：外 来語
3	アルファベットの表記に ついて ．／会話練習：	音読コーナー：新大久保とホットク 異文化紹介：韓国の匙と箸
4	8 慶州旅行 ／ようだ、そうだ水量表 現：（ ）	間接話法の中での「依頼」表現： / 韓国の名所：慶州 ．／ 単語練習：交 通機関 ．／応用コーナー：建物とマッ プ
5	変則の学習	短文: アルバイト ．／ 異文化紹介： カルビとプルゴギ
6	9 ホワイトクリスマス 表現（ ） ．／ 「－ ＋形容詞」	「－ ＋形容詞」表現： ．／ 韓国の名所：安東 単語練習：ス ポーツ
7	韓国映画	会話練習：美味しいパン屋さん 美味しいパン屋へ行く行き方 ．／ 異文化紹介：韓国のデリバリー文化
8	総復習とおさらい	ハングル能力検定試験 5 級& 4 級に ついて
9	10 ソウルタワーと東京タ ワー ．／ 原因・理由、事柄 の順序	表現： / ．／ （し）たこと がある/ない 韓国と日本の名所：ソウルタワー&東 京タワー 単語練習：果物
10	疑問代名詞と縮約形 変則	変則の学習 応用短文：道を教える ．／異文化：韓 国のアパート（マンション）
11	11 釜山 で買い物 ．／（し）てもよ い ．／	表現：－ / ．、－ 韓 国の名所：釜山 単語練習：野菜
12	色、服装を表す表現につ いて ．／ 変則	変則の学習 音読コーナー 応用短文：:私が好きな 色 ．／ 異文化紹介：韓国と着物
13	12 韓国語スピーチ大会 ／－ている 2 ．－	逆接表現 ．／韓国と日本のこと わざ ．／韓国の名所：仁川 単語練 習：装身具、アクセサリ
14	まとめ。	まとめ。 韓国紙幣の人物 ．／ 新幹線と富士山 ．／異文化紹介： ソウル城郭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』 魏 聖銓 朝日出版社

【参考書】

辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』（白水社）、『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %
中間試験 20 %
まとめ 30 %
課題 20 %
クラス貢献 20 %
合格点は 60 以上です。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる！
韓国の会話をより楽しもう！

【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

【Outline (in English)】

Korean expression

Students will review the writing system, pronunciation, and grammar learned at the elementary level while acquiring elementary communication skills. One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson. It is recommended to familiarize yourself with the text with audio. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %
Midterm exam 20 %
Finals 30 %
Assignment 20 %
Class contribution 20 %
A passing score is 60 or up.

LANs200LC

スペイン語中級

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このクラスの皆さんはスペイン語履修2年目になりますが、新たに使用する教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アフアベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

「改訂版エスピゲータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2022年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業ではNHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることによって自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANs200LC

スペイン語表現

日高 憲三

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスでは、スペイン語の初歩を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前期に引き続き基礎的な文法事項や会話表現などを復習をしながら、ゆっくり学んでいきます。またスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解をさらに深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	教科書第8課	gustar 動詞
第2回	教科書第8課	前置詞格人称代名詞
第3回	教科書第9課	再帰動詞
第4回	教科書第9課	無人称文、接続詞
第5回	教科書第10課	点過去1（規則動詞）
第6回	教科書第10課	点過去2（規則動詞）
第7回	教科書第11課	点過去（不規則動詞）
第8回	教科書第11課	関係代名詞
		所有形容詞
第9回	教科書第12課	現在分詞
第10回	教科書第12課	不定語、否定語
第11回	教科書第13課	過去分詞、現在完了
第12回	教科書第13課	受動態
第13回	教科書第14課	比較級
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

「改訂版エスピゲータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2022年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業ではNHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手ですが好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることによって自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANe200LC

アカデミック・ライティング

ALAN D MORGAN

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this class is to enable students to write clear accurate paragraphs and understand the basic features of academic text.

本授業の目的は、学生が明確で正確な文章を書き、学術文書の基本的な構成要素を理解できるようにすることです。

【到達目標】

Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline,

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be introduced to specific skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation: writing Skills 1-3	Orientation - Class rules and grading criteria Simple Sentences & Elements of a paragraph Outside Class - Subject-Verb agreement
2	Skills 4-6	Capitalisation Rules 1 & Punctuation 1 Outside Class - Consistent pronoun use
3	Skills 7-8	Avoiding run-ons and comma splices & Avoiding sentence fragments Outside Class - Simple editing task
4	Skills 9-11	Topic sentences & Supporting sentences Outside Class - Concluding sentences
5	Skill 12	Sentences with Relative Clauses ASSIGNMENT 1
6	Skills 13-15	Simple vs Compound sentences Complex sentences Outside Class - Sentence Combination
7	Skills 19-20, 16	Transition Words: Chronological order & Verb tense consistency Outside Class - Giving specific examples
8	Skills 17-18, 20	Punctuation 2 and Capitalisation 2 Outside Class - Verb Tense Consistency
9	Skills 22-24	Outlines & Facts vs Opinions Outside Class - Review of Simple, Compound and Complex sentences
10	Skills 25-26, 29	Contrasting opinions and contrast transitions Outside Class - Review Combining sentences
11	Skills 28,31	Writing for an academic audience Transitions of opinion and conclusion
12	Skills 21 & 30	Giving specific examples 2 and Irrelevant vs relevant information
13	Skill 32	The essay Outside Class - Outline
14	FINAL WRITTEN TEST	WRITTEN TEST & FEEDBACK

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some preparation and testing of understanding will be done outside of the classroom and recorded by using the Learning Management System. Two written assignments will be assigned to test students ability to integrate skills in writing longer texts.

There will be a final written test at the end of the course.

The tasks set as preparation are expected to take the students thirty to forty-five minutes a week. The two written assignments are expected to take about two to three hours, including drafting and final revision before completion. With revision for the final written test included, this should be around 14-15 hours of work to be done outside class over the course of the semester.

【テキスト（教科書）】

Skills For Effective Writing 2, (Cambridge University Press, 2013) ¥2,600 before tax. ISBN 978-1-107-61353-9

【参考書】

・藤野輝雄、「理科系のためのかならず書ける英語論文」、研究社、2006 初版

【成績評価の方法と基準】

Assignments 50%

Final Test 25%

Participation 25%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

A computer or cellphone will be needed to access the Learning Management system for work outside class.

【Outline (in English)】

This class aims to give students the skills in writing and knowledge of basic elements of English composition to write accurate sentences, employing punctuation and simple transitions accurately. It also aims to enable students to organise and write clear well-formed paragraphs, employing reference and cohesive devices.

Students will be able to create accurate simple, compound and complex sentences. Students will be able to punctuate these sentences. Students will be able to use reference accurately. Students will be able to outline, organise and write viable paragraphs. Students will acquire the vocabulary necessary to understand further feedback and instruction to enable ongoing instruction in writing in English.

Students will be introduced to specific skills and be able to test their understanding with examples. Students then practice the skills and are given feedback to reinforce their understanding. Students will be encouraged to analyse their work and those of their classmates to build skills in editing compositions.

GRADING CRITERIA

Assignments 50%

Final Test 25%

Participation 25%

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

井上 敏郎

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

読むことを中心に学んでいくが、簡単な英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーから幾つか選んで、答えの確認とポイント説明を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業説明と英語力の確認	小テストを行う。
2	英語力の確認	100 字程度の英文を読む。
3	英語力の確認	内容理解のための練習を行う。
4	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめをする。
5	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめをする。
6	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめとその繋がりを意識する。
7	パラグラフ・リーディングの練習	簡潔な英文を使って、パラグラフごとのまとめとその繋がりを意識する。
8	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
9	パラグラフ・リーディングの練習	500 字程度の英文を読み、キーワードを探しながら、内容を理解する。
10	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
11	パラグラフ・リーディングの練習	接続詞を意識しながら、全体の話の流れを掴む。
12	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
13	パラグラフ・リーディングの練習	本文の英語を使ってまとめる練習をする。
14	春期の授業内容の確認 試験	学力の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 易しい英語の本を 1 冊読む。授業内で説明する。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 (50%) と平常点 (10%) 重視。試験 (40%) を実施する。春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

【学生の意見等からの気づき】

前回の確認をしっかりと行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。少し早口になる場合があるようなので、ゆっくり喋ることを心掛けます。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

The goal of this course is to understand English without translating.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

井上 敏郎

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

本授業では英語の論文を読むためのスキルを学ぶ。特に、翻訳をなるべくやらずに理解する練習を積む。

The goal of this course is to understand English without translating.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主にトピック・リーディング、パラグラフ・リーディングを学ぶが、簡単英文から少しずつレベルを上げていくつもりである。授業は、全員参加が基本で、各々が配布した紙にまとめをやる形式となる。また、前回回収したペーパーを使って、英文読解のポイントを説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	前期の授業内容の確認	小テストを行う（文法含む）。
2	トピック・リーディングの練習	前期の授業内容を確認しながら、トピックを探し出す練習をする。
3	トピック・リーディングの練習	キーワードを探し、内容を理解する。
4	トピック・リーディングの練習	キーワードを探し、内容を理解する。
5	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
6	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
7	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、パラグラフごとのまとめを行う。
8	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
9	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
10	パラグラフリーディングの練習	科学英語を使って、理解に必要な文章をそうでない箇所の読み分けの練習を行う。
11	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
12	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
13	全体の流れを掴む	内容理解と、自分の見解を述べる練習をする。
14	春期のまとめ 試験	学力確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 易しい英語の本を 1 冊読む。授業内で紹介する。

After each class meeting, students will be expected to read or solve the relevant subject(s) from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業態度と平常点重視（60 %）。試験（40%）を実施する。

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

【学生の意見等からの気づき】

前回の確認をしっかり行い、授業の流れが円滑に進むように気をつける。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

The goal of this course is to understand English without translating.

Our overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

細野 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の構文を正しく理解し、英文の内容と論旨を的確に把握できる。
- ・英文の要旨を、英語で適切にまとめられる。
- ・自分の考えを英語で組み立て、(効果的に) 記述できる。
- ・ニュースなどまとまった内容の英語を聴き取ることができる。
- ・理系学生に必要な科学技術英語の知識を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

演習が主体形式となります。ペアワークやグループワークが大きな比重を占め、文章の要約や練習問題、ディスカッションを行います。学生からの主体的な意見発表が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容説明
第 2 回	Chapter 1 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 3 回	Chapter 1 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 4 回	Chapter 2 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 5 回	Chapter 2 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 6 回	Chapter 3 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 7 回	Chapter 3 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 8 回	中間クイズ (1)	これまでの学習内容の理解度の確認
第 9 回	中間クイズ (2)	これまでの学習内容の理解度の確認
第 10 回	Chapter 4 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 11 回	Chapter 4 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 12 回	Chapter 5 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 13 回	Chapter 5 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 14 回	まとめ	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習が前提の授業なので、指定された箇所を必ず予習してくること。
- ・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

【テキスト（教科書）】

「Longman Academic Reading Series 3」

Judy L. Miller, Robert F. Cohen 著、Pearson

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業態度（出席・貢献度・平常点）： 60 %

課題提出：小テスト： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

毎週の授業への出席は必須です（正当な理由がない限り無断欠席は 2 回まで；遅刻は 2 回で欠席 1 回分にカウント、遅刻常習者にはさらに厳しいペナルティーが科せられる）。期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしないうるなど授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち単位取得が不可能となります。授業内外における受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に算入していきます。授業計画は進み具合により、変更される場合があります。詳細は最初の授業でお話しします。

【Outline (in English)】

This class aims to improve students' practical ability of English. On the basis of a specified reading material, you summarize the contents and work on questions in pair and discuss in group, which will enable you to express your ideas in English smoothly. You have opportunities to practice listening in this class, which will enable you to understand long news and lectures. You will also acquire basic English skills required in the scientific world.

【Course outline】

This class aims to improve students' practical ability of English. Students practice summarizing the contents of reading passages and work on questions in pair and discuss in group. In class, students have many opportunities to practice listening. You will also acquire basic English skills required in the scientific world.

【Learning Objectives】

Students will be able to express their ideas in English smoothly and also to understand long news and lectures.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and contribution to the lecture : 60 %

Submission of homework, and the result of mini tests : 40 %

Your attendance to this class is mandatory (you can be absent only twice). Your contribution to the class is highly evaluated. You are required to well prepare for class. Listening test is conducted without notice.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

細野 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英語を実社会で有効に使用して仕事をするために必要な英語のコミュニケーション力を養成することを目的とする。日常生活に関わる会話に慣れることから、自分の興味のあるトピックや専門領域の事柄について英語で説明できるところまで幅広いコミュニケーション力の習得を目指すとともに、国際人として異文化に対する理解を深める。確かな基礎力の上に、将来的ニーズや興味に即した英語力、研究や実務につながる応用力をつけられるよう、授業は習熟度別の少人数制で行い、効果向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の構文を正しく理解し、英文の内容と論旨を的確に把握できる。
- ・英文の要旨を、英語で適切にまとめられる。
- ・自分の考えを英語で組み立て、(効果的に) 記述できる。
- ・ニュースなどまとまった内容の英語を聴き取ることができる。
- ・理系学生に必要な科学技術英語の知識を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

演習が主体形式となります。ペアワークやグループワークが大きな比重を占め、文章の要約や練習問題、ディスカッションを行います。学生からの主体的な意見発表が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容説明
第 2 回	Chapter 6 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 3 回	Chapter 6 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 4 回	Chapter 7 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 5 回	Chapter 7 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 6 回	Chapter 8 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 7 回	Chapter 8 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 8 回	中間クイズ (1)	これまでの学習内容の理解度の確認
第 9 回	中間クイズ (2)	これまでの学習内容の理解度の確認
第 10 回	Chapter 9 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 11 回	Chapter 9 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 12 回	Chapter 10 (1)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 13 回	Chapter 10 (2)	文章の要約練習・練習問題・ディスカッション； Listening 練習
第 14 回	まとめ	学習内容の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- ・予習が前提の授業なので、指定された箇所を必ず予習しておくこと。
- ・授業の内容を振り返り、授業で学んだ新しい言い回しなどを復習すること。

【テキスト（教科書）】

「Longman Academic Reading Series 3」

Judy L. Miller, Robert F. Cohen 著、Pearson

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業態度（出席・貢献度・平常点）： 60 %

課題提出：小テスト： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

毎週の授業への出席は必須です（正当な理由がない限り無断欠席は 2 回まで；遅刻は 2 回で欠席 1 回分にカウント、遅刻常習者にはさらに厳しいペナルティーが科せられる）。期日内の課題提出も必須です。予習をして来ない、授業中に違うことをやっている、授業中におけるアクティビティに参加しようとしないうるなど授業態度が著しく欠ける人は、評価の対象外、即ち単位取得が不可能となります。授業内外における受講者の積極的な参加を期待し、特に授業中における積極的な発言を高く評価し授業への貢献度・平常点に算入していきます。授業計画は進み具合により、変更される場合があります。詳細は最初の授業でお話しします。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to develop the communicative competence necessary for effective participation in society and the world of work. The class aims to help students acquire a broad ability to communicate, starting from familiarity with daily conversation to explaining topics of students' own interest or field of study, while deepening understanding of foreign cultures necessary for global citizens. Based on a firm foundation of basic skills, the class focuses on the future needs and interests of students as well as the ability to apply English to research and work in a setting of small, leveled classes for maximum effectiveness.

【Course outline】

This class aims to improve students' practical ability of English. Students practice summarizing the contents of reading passages and work on questions in pair and discuss in group. In class, students have many opportunities to practice listening. You will also acquire basic English skills required in the scientific world.

【Learning Objectives】

Students will be able to express their ideas in English smoothly and also to understand long news and lectures.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance and contribution to the lecture : 60 %

Submission of homework, and the result of mini tests : 40 %

Your attendance to this class is mandatory (you can be absent only twice). Your contribution to the class is highly evaluated. You are required to well prepare for class. Listening test is conducted without notice.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

柳川 浩三

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。以下 k の授

【到達目標】

学生が英文法のエッセンスを理解し、実際にそれを駆使して、正しく英文の意味を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オリジナル教科書を使用しながら、断片化した文法知識を整理し、体系化する。それと並行して平易な英文や最新の時事問題を読みながら、その体系化への橋渡しとする。

授業の初めに、前回の授業の宿題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。オンラインと対面の日時は学習支援システム等で伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	英文法のエッセンス	導入
2	動詞	すべては動詞が決める
3	名詞	主語、目的語、補語、同格になる
4	形容詞	名詞を形容するか補語になる
5	副詞	副詞はどこを限定するか考える
6	前置詞	前置詞は名詞とセットになって、形容詞か副詞になる
7	And がわかれば英文が読める	and が何と何をつなぐか考える
8	今までの復習 1	Japan Times を読む
9	今までの復習 2	歌を聞く
10	今までの復習 3	英文学を読む
11	今までの復習 4	エッセイを読む
12	従属接続詞	名詞・形容詞・副詞のどれかを導く従属接続詞
13	前期末試験	筆記試験（辞書持込み可）
14	テスト返却	テスト復習と夏休みの宿題予告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
学生は宿題が出たら必ずやる

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキスト「品詞とその働き」使用（生協で授業開始時までに購入のこと）

【参考書】

授業中に指示する

【成績評価の方法と基準】

クラス内での貢献（発言・態度・協調姿勢）10%
課題の提出状況と達成度 20 %

テスト（70 %）

Attitude: 10%

Contribution : 20 %

Exam: 70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の反省を踏まえて、以下の3点を改善した。1. 「節」「関係詞」を加えた。2. 名詞・副詞・形容詞のまとめのプリントを新たに作成した。3. 練習問題などを精選・改良した。

【その他の重要事項】

教室の座席は全席指定となります。

電子辞書または紙の英和辞書が必携となります（ノート PC, スマホの使用は不可）

5 分以上の遅刻は欠席とみなします。

夏季休業期間中に簡易な宿題が出ます。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content. It also aims to provide fundamental and practical knowledge and skills required for reading a range of academic texts.

Goals: To have a better understanding of the essence of English grammar and improve reading proficiency based on the understanding.

Work to be done outside of class: To carry out the assignments.

Grading criteria: Attitude: 10%, Contribution : 20 %, Exam: 70%

LANe200LC

アカデミック・リーディングⅠ

柳川 浩三

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

「品詞とその働き」を用いて、英文の構造を理解し、正確に英文を読む力をつけること。具体的には、時事問題や文学作品を読んだり、タイムリーなスピーチやレクチャーを聞いてその意味を理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前期のアカデミックリーディングⅠで学んだ「品詞とその働き」の理解を確固なものにするために、実際に英文を精読していく。「品詞とその働き」を考えることが、英文を正確にかつ速く理解する上でとても有効かつ重要であることを体感してもらいたい。授業は演習形式で進むので、参加者の積極的参加が求められます。また、授業の最初に前回の授業の宿題から共通して理解が不足がしている点をピックアップし、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前期の復習 1	前期の復習 四品詞
2	前期の復習 2	前期の復習 前置詞・接続詞
3	関係詞 1	関係代名詞
4	関係詞 2	関係副詞
5	ING 形	四つの用法
6	過去分詞	四つの用法
7	分詞構文（ING 形と過去分詞の副詞的用法）	分詞構文の二つのパターン
8	後期中間試験 1	関係詞・ING 形、過去分詞の復習、呪文の暗唱
9	To 不定詞 1	to の本質
10	To 不定詞 2	三つの用法
11	名詞のまとめ	副詞的・同格
12	形容詞・副詞のまとめ	歌を聞く 映画を見る
13	期末テスト	辞書持ち込み不可
14	期末テスト返却 授業アンケート	復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
学生は毎週出される宿題を確実にを行うことが求められます。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキスト使用

【参考書】

授業内に指示する

【成績評価の方法と基準】

出席・授業内観察（発言・貢献・協同的姿勢）10 %
課題の提出・達成状況 20%

定期考査 70%

中間試験と期末試験各 100 点合計 200 点のうち、獲得点数が 120 点に満たない場合は単位の認定が原則できない。

【学生の意見等からの気づき】

おおむね好評のようであったが、さらなる改善を図りたい。

【その他の重要事項】

座席は全席指定となります。

電子辞書または紙の英和辞書が必携となります。

This is where we begin to fight.

5 分以上の遅刻は欠席とみなします。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content. It also aims to provide fundamental and practical knowledge and skills required for reading a range of academic texts. It also aims to enhance reading proficiency of the students, particularly through intensive reading.

—

Goals: To have a better understanding of the essence of English grammar and improve reading proficiency based on the understanding.

Work to be done outside of class: To carry out the assignments.
Grading criteria: Attitude: 10%, Contribution : 20 %, Exam: 70%

LANe100LC

基礎英語

小屋 多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リスニングは、英語の 4 技能（スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング）の中で、最も習得が容易であると言われながら、学習者が苦手である・難しいと考えがちな技能である。実際に使われている単語は既習語であったり、文法は高校までに学習を終えていたりしながら、音がつながったり、弱くなったり、聞こえなくなったりなど、様々な音声変化が起きていることがリスニングを難しくさせている要因の 1 つと言える。この授業では、ヒット曲を聞きながら、英語の音声変化のポイントを習得し、リスニング力の基礎を固めることを主要な目的とする。英語音変化やリズム・イントネーション・アクセントに着目し、センテンスレベルからパッセージレベルまでのリスニングスキルを獲得していく。リスニング力のアップのために、音読や文法チェック、なども合わせてブラッシュアップしていこう。

【到達目標】

- 1) 音声変化やイントネーション・アクセントの特徴を体系的に理解できる。
- 2) 音声変化を正確に聞き取れ、自ら発音できる。
- 3) 音声変化を様々な英文に応用できる。
- 4) 英語の歌の背景や内容を理解できる。
- 5) 重要な文法事項をおさらいできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) クイズ
- 2) 音変化やイントネーション・アクセントの特徴を理解し発音練習する
- 3) 英語の歌にみる音変化やイントネーション・アクセントを理解する
- 4) 英語の歌の背景や内容を読む
- 5) 文法の確認

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction	授業ガイダンス リスニングの基本 音変化クイズ
2 回	Unit 1 My heart will go on/ Celine Dion	・ Listening point : 音の連結① ・ Grammar : 現在完了
3 回	Unit 2 Open arms/ Journey	・ Listening point : 音の脱落① ・ Grammar : 分詞
4 回	Unit 4 Don't look back in anger/ Oasis	・ Listening point : 音の同化 ・ Grammar : 知覚動詞
5 回	Unit 6 I don't want to miss a thing/ Aerosmith	・ Listening point : 音声変化の複合 ・ Grammar : 助動詞
6 回	Unit 8 The stranger/ Billy Joel	・ Listening point : 音の弱化 ・ Grammar : 関係代名詞
7 回	中間試験	これまでの復習①
8 回	Unit 9 Hey now/ Cyndi Lauper	・ Listening point : 音の連結② ・ Grammar : 不定詞
9 回	Unit 10 Every time I close my eyes/ Babyface	・ Listening point : 音の脱落③ ・ Grammar : 接続詞
10 回	Unit 11 Kiss of life/ Sade	・ Listening point : 短縮形の音① ・ Grammar : 完了不定詞
11 回	Unit 12 All I want for Christmas is you/ Mariah Carey	・ Listening point : 短縮形の音② ・ Grammar : 5 文型
12 回	Unit 13 Livin' la vida loca/ Cicky Martin	・ Listening point : 音の脱落④ ・ Grammar : 使役動詞
13 回	期末試験	これまでの復習②
14 回	Review	音変化クイズ これからリスニング学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。

・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs『ポップソングで学ぶ総合英語－改訂新版－』
角山照彦・Simon Capper 成美堂

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題・小テスト 30%
中間テスト 35%
学期末試験 35%

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度から担当するため、フィードバックはなし。

【その他の重要事項】

・ 5 回以上正当な理由なく欠席した者に対しては単位取得不可とする。
・ 遅刻・早退は 2 回を持って欠席 1 回とみなす。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Listening is said to be the easiest of the four English language skills (speaking, listening, writing, and reading) to master, yet it is the one that learners tend to consider weak or difficult. One of the factors that make listening difficult is that the actual words and the grammar used are already in high school, but various phonetic changes such as sounds connected, weakened and lost often occur. The primary purpose of this class is to solidify the foundation of listening skills by learning the key points of English sound changes while listening to pop hits. This class will provide students with opportunities for focusing on English sound changes, rhythm, intonation, and accent to acquire listening skills from the sentence level to the passage level and also brushing up your listening skills by reading aloud and checking grammatical points. Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:
A. Systematically understand the characteristics of phonetic changes, intonation, and accent.

B. Listen to phonetic changes accurately and pronounce them by themselves.

C. Apply phonetic changes to a variety of English texts.

D. Understand the background and content of English songs.

E. Review important grammar points.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do regular homework, clarify what they haven't understood and resolve it through independent study.

Grading Criteria:

In-class activities, homework and quizzes (30%), mid-term exam (35%), and final exam (35%)

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

NEIL CONWAY

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔にかつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

The aim of this class is to develop students' reading abilities. By the end of the course, students will:

- develop their reading skills both in terms of fluency and comprehension
- extend their vocabulary in common areas of academic interest in English-language undergraduate classes
- practice their comprehension through exposure to texts
- practise and recycle new language through activities based on Active Learning methodologies
- demonstrate their comprehension of ideas by creating short written texts such as summaries, reports and presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week we will look at a particular theme and explore that theme through reading texts and other media. Themes and topic arising from these texts will be assessed, and academic vocabulary arising from this will be practiced and incorporated into Active Learning tasks which will provide expanded practice opportunities. The homework will involve students doing some research and more reading connected to the week's theme. Students will create written texts based on their reading and research, and this work may be extended by adapting students' research into presentations. Feedback will be given to the class the week following an applicable deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction to the course. First Theme: Humanity & Nature	Course introduction; Materials;
2	History Detectives	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
3	Tradition and Ritual	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
4	Urban Underworlds	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
5	Reef Encounters	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
6	Sweet Scents	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
7	Mid-term test	The test will focus on comprehension and some vocabulary.
8	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
9	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
10	Incredible Insects	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation

11	Going to Extremes	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
12	Open Theme: Students will choose their own materials.	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
13	End-of-Semester Exam	The exam will focus on comprehension and vocabulary from the course reading texts (weeks 1 – 12).
14	Course Wrap-up	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.

【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.

Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

【参考書】

Students need a good bilingual dictionary (not a smartphone) which they must bring to every class.

For MLA information:

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Classwork (including Effort and Participation): 30%

Homework: 40%

Tests and Quizzes: 30%

【学生の意見等からの気づき】

More writing practice has been included, and active learning opportunities have been extended.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, and a PDF reader

Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, not Google Docs or anything else.

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the “Announcements” section of the course site.*

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ colored pencils for making notes

【その他の重要事項】

There is a strict “No Smartphone” policy in this class. The teacher will explain this in the first class of the semester.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe200LC

アカデミック・リーディング I

NEIL CONWAY

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学術的な文章を読む際の基本的な語彙力、文法力、構文解析力を養成することによって、リーディング力の向上を図る。語彙については日本語との一対一対応による暗記に留まることなく、文脈や文構造を幅広く考慮に入れて意味をとらえる力へと発展させる。また文法と構文解析については既習知識を活用・応用して実際の英文を読む力を養う。これらのスキルをもとに、精読を通して個々の文の内容を正確に把握したり、文章全体を簡潔かつ迅速に要約したり、必要な情報を検索したりすることができる読解力の養成を目指す。

【到達目標】

The aim of this class is to develop students' reading abilities. By the end of the course, students will:

- develop their reading skills both in terms of fluency and comprehension
- extend their vocabulary in common areas of academic interest in English-language undergraduate classes
- practice their comprehension through exposure to texts
- practise and recycle new language through activities based on Active Learning methodologies
- demonstrate their comprehension of ideas by creating short written texts such as summaries, reports and presentations

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Each week we will look at a particular theme and explore that theme through reading texts and other media. Themes and topic arising from these texts will be assessed, and academic vocabulary arising from this will be practiced and incorporated into Active Learning tasks which will provide expanded practice opportunities. The homework will involve students doing some research and more reading connected to the week's theme. Students will create written texts based on their reading and research, and this work may be extended by adapting students' research into presentations. Feedback will be given to the class the week following an applicable deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Introduction to the course. First Theme: Humanity & Nature	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation.
2	History Detectives	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
3	Tradition and Ritual	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
4	Urban Underworlds	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
5	Reef Encounters	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
6	Sweet Scents	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
7	Mid-term test	The test will focus on comprehension and some vocabulary.
8	Who are We?	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
9	Global Warming	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
10	Incredible Insects	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation

11	Going to Extremes	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
12	Open Theme: students decide class theme.	Class reading; Comprehension Work; Timed reading; Homework allocation
13	End-of-Semester Exam	The exam will focus on comprehension and vocabulary from the course reading texts (weeks 1 – 12).
14	Course Wrap-up	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

There will be assigned readings for homework which will be accompanied by some writing work.

【テキスト（教科書）】

No textbook: handouts and reading materials will be provided by lecturer (students should have their A4 pocket folders each week to organize these handouts), or will be available online.

Library access is required for students to research their chosen research topics, and sometimes students will be expected to research and bring materials to class.

【参考書】

Students need a good bilingual dictionary (not a smartphone) which they must bring to every class.

For MLA information:

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/mla_style/mla_formatting_and_style_guide/mla_formatting_and_style_guide.html

Students should make sure that they have access to the university library. Some internet use connected to home research will be required.

【成績評価の方法と基準】

Classwork (including Effort and Participation): 30%

Homework: 40%

Tests and Quizzes: 30%

【学生の意見等からの気づき】

More writing practice has been included, and active learning opportunities have been extended.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC with an internet connection, Microsoft Word, and a PDF reader

Please note that all work submitted to the teacher must only be in (Microsoft Word) .docx format: not PDF, not Google Docs or anything else.

If this course is run in an online format, it will use Zoom and the Hosei University Hoppi system. *For simplicity, all messages, announcements, homework and assignments will be posted in the "Announcements" section of the course site.*

Students will need an email address which they can check regularly in order to communicate with the teacher. This address must not change during the semester.

Please make sure that the electronic equipment which you use for the course is working

A4 file folder (for organizing handouts / your own work)

USB memory stick (for back-ups and printing)

Class notebook (B5 size is good)

a few highlighter pens/ colored pencils for making notes

【その他の重要事項】

There is a strict "No Smartphone" policy in this class. The teacher will explain this in the first class of the semester.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to improve academic reading ability through the development of basic vocabulary, grammar and sentence structure analysis skills. Vocabulary development focuses on considering the context and structure to discern meaning, rather than strict translation between English and Japanese. Grammar and sentence structure instruction emphasizes the use and application of previous knowledge to read actual English. Using these skills, it aims to reinforce basic reading competence as well as rapidly and concisely summarize the gist of the content based on an understanding of paragraph structure.

LANe100LC

基礎英語

小林 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC での高得点を目指す学習を通じて、基礎的な英語力を身につけることを目標とする。また、受講生の理解力を養うため、様々な英文を、リスニングによって理解する機会を多く設ける。

【到達目標】

簡単な英語の文章なら、すべて音声聞いて書き取ることが出来る英語力を身につけること。また、読解用の英文の音声聞いて、ある程度の内容を理解できる英語力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、TOEIC での高得点を目指すための授業を通じて、基礎的な文法を確認し、日常会話の中で使われる語彙を身につけ、リスニング能力を高めるための授業とする。オンラインで授業を進める場合が、リスニングの課題の提出を課し、フィードバックを行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、評価方法の説明
第 2 回	Unit 1: Travel	TOEIC の概要
第 3 回	Unit 2: Dining Out	リスニングの練習など。
第 4 回	Unit 3: Media	リスニングの練習など。
第 5 回	Unit 4: Entertainment	語彙の習得など。
第 6 回	Unit 5: Purchasing	語彙の習得など。
第 7 回	Unit 6: Clients	文法の確認など。
第 8 回	Unit 7: Recruiting	リスニングの練習など。
第 9 回	Unit 8: Personnel	リスニングの練習など。
第 10 回	Unit 9: Advertising	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 11 回	Unit 10: Meetings	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 12 回	Unit 11: Finance	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 13 回	Unit 12: Offices	リスニングの練習、語彙の習得など。
第 14 回	期末テスト	英文の書き取り、長文の聞き取り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】復習を欠かさないこと。また、リスニングを意欲的に行うこと。

【テキスト（教科書）】

THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING（金星堂）

【参考書】

教場で指示する。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 学期末の試験の点数 (80%)、授業内での課題への取り組みをもとにした平常点 (20%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リスニングを中心に授業を進めます。併せて総合的な英語力を身につけるよう頑張ってください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic English ability by practicing the listening section of TOEIC. At the end of this course, the students are expected to improve their ability of comprehension by listening to various English sentences.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Your overall grade in the class will be decided on the following: term-end examination 80% and in-class contribution 20%.

LANe100LC

英語中級ライティング

鈴木 幸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、身近なテーマや現代の社会問題について、英文ニュース等のリーディングやディスカッションを通して見識を深め、論理的・批判的な思考を養ったうえで、理解したこと・自分の考えをライティング（エッセイ）で表現できるように、学習意識を高めていきます。

【到達目標】

Objectives to be achieved:

1. To be able to think critically
2. To be able to use proper words and correct grammar.
3. To be able to express personal opinions in English.
4. To improve essay writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be expected:

1. To improve critical reading and thinking skills.
2. To review grammar and writing skills.
3. To write and rewrite essays.
4. To prepare for exams.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Guidance: how to write
	Critical Thinking and Discussion ①	Let's read news together! ^① Lesson 1 名詞節の書き換え (1)
2	Critical Thinking and Discussion ②	Let's read news together! ^② Lesson 2 名詞節の書き換え (2)
3	Critical Thinking and Discussion ③	Let's read news together! ^③ Lesson 3 名詞節の書き換え (3)
4	Critical Thinking and Discussion ④	Let's read news together! ^④ Lesson 4 形容詞節の書き換え
5	Critical Thinking and Discussion ⑤	Let's read news together! ^⑤ Lesson 5「時」を表す副詞節の書き換え
6	Critical Thinking and Discussion ⑥	Let's read news together! ^⑥ Lesson 6「理由・原因」を表す副詞節の書き換え
7	Email Writing Midterm Review	Let's write E-mail! Lesson 7「目的・結果」を表す副詞節の書き換え Midterm Exam
8	Critical Thinking and Discussion ⑦	Let's read news together! ^⑦ Lesson 8「譲歩」を表す副詞節
9	Critical Thinking and Discussion ⑧	Let's read news together! ^⑧ Lesson 9「仮定・条件」を表す副詞節の書き換え
10	Critical Thinking and Discussion ⑨	Let's read news together! ^⑨ Lesson 10 重文の書き換え (1)
11	Critical Thinking and Discussion ⑩	Let's read news together! ^⑩ Lesson 11 重文の書き換え (2)
12	Critical Thinking and Discussion ⑪	Let's read news together! ^⑪ Lesson 12 重文の書き換え (3)
13	Critical Thinking and Discussion ⑫	Let's read news together! ^⑫ Lesson 13 態の書き換え
14	Critical Thinking and Discussion ⑬ Review	Lesson 14 肯定・否定と内容上の文の書き換え End-of-Term Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

Review the previous class and prepare all homework assignments.

【テキスト（教科書）】

Hidehiko Konaka, A Shorter Course in How to Rephrase, NAN'UN-DO, 2016. 700 yen (+ tax)

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Contribution to the class: 30%

Essay: 30%

Textbook: 20%

Test: 20%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】

Variations in class size, students responses, etc. may lead to changes in this syllabus. All changes will be explained. Some flexibility is required.

【その他の重要事項】

Please bring your laptop every week.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to enhance your ability to read critically and think logically, and to apply these skills to effective writing.

LANe100LC

英語中級ライティング

鈴木 幸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、身近なテーマや現代の社会問題について、英文ニュース等のリーディングやディスカッションを通して見識を深め、論理的・批判的な思考を養ったうえで、理解したこと・自分の考えをライティング（エッセイ）で表現できるように、学習意識を高めていきます。

【到達目標】

Objectives to be achieved:

1. To be able to think critically
2. To be able to use proper words and correct grammar.
3. To be able to express personal opinions in English.
4. To improve essay writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be expected:

1. To improve critical reading and thinking skills.
2. To review grammar and writing skills.
3. To write and rewrite essays.
4. To prepare for exams.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Guidance: how to write
	Critical Thinking and Discussion ①	Let's read news together! ^① Lesson 1 名詞節の書き換え (1)
2	Critical Thinking and Discussion ②	Let's read news together! ^② Lesson 2 名詞節の書き換え (2)
3	Critical Thinking and Discussion ③	Let's read news together! ^③ Lesson 3 名詞節の書き換え (3)
4	Critical Thinking and Discussion ④	Let's read news together! ^④ Lesson 4 形容詞節の書き換え
5	Critical Thinking and Discussion ⑤	Let's read news together! ^⑤ Lesson 5「時」を表す副詞節の書き換え
6	Critical Thinking and Discussion ⑥	Let's read news together! ^⑥ Lesson 6「理由・原因」を表す副詞節の書き換え
7	Email Writing Midterm Review	Let's write E-mail! Lesson 7「目的・結果」を表す副詞節の書き換え Midterm Exam
8	Critical Thinking and Discussion ⑦	Let's read news together! ^⑦ Lesson 8「譲歩」を表す副詞節
9	Critical Thinking and Discussion ⑧	Let's read news together! ^⑧ Lesson 9「仮定・条件」を表す副詞節の書き換え
10	Critical Thinking and Discussion ⑨	Let's read news together! ^⑨ Lesson 10 重文の書き換え (1)
11	Critical Thinking and Discussion ⑩	Let's read news together! ^⑩ Lesson 11 重文の書き換え (2)
12	Critical Thinking and Discussion ⑪	Let's read news together! ^⑪ Lesson 12 重文の書き換え (3)
13	Critical Thinking and Discussion ⑫	Let's read news together! ^⑫ Lesson 13 態の書き換え
14	Critical Thinking and Discussion ⑬ Review	Lesson 14 肯定・否定と内容上の文の書き換え End-of-Term Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

Review the previous class and prepare all homework assignments.

【テキスト（教科書）】

Hidehiko Konaka, A Shorter Course in How to Rephrase, NAN'UN-DO, 2016. 700 yen (+ tax)

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Contribution to the class: 30%

Essay: 30%

Textbook: 20%

Test: 20%

There is an absence limit of 1/3 of classes.

【学生の意見等からの気づき】

Variations in class size, students responses, etc. may lead to changes in this syllabus. All changes will be explained. Some flexibility is required.

【その他の重要事項】

Please bring your laptop every week.

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to enhance your ability to read critically and think logically, and to apply these skills to effective writing.

LANe200LC

アカデミック・ライティング

KOPROWSKI MARK

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.

Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Chapter 1 The Topic Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: personality words -Paragraph organization in English -The topic sentence -Simple sentences -The writing process (Part 1)
3	Chapter 2 Supporting Sentences	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: suffixes -Supporting sentences: major & minor -Using connectors -Parts of speech -The writing process (Part 2)
4	Chapter 3 The Concluding Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: family words -The concluding sentence -Transitions of conclusion -Simple & Compound sentences -The writing process (Part 3)
5	Chapter 4 Descriptive Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: describing people -Prepositions of place -Using adjectives [Write a descriptive paragraph]
6	Chapter 5 Narrative Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: simple past verbs -Transitions in narrative paragraphs -Complex sentences [Write a narrative paragraph]
7	Chapter 6 Expository Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: verbs for communicating -Transitions in expository paragraphs [Write an expository paragraph]

8	Chapter 7 Unity Chapter 8 Coherence	10-minute continuous writing Vocabulary builder: prepositions of time -Combining sentences -Avoiding fragments
9	Chapter 9 Cohesion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: dating & marriage customs -The definite article -Personal and demonstrative pronouns
10	Chapter 10 Process	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: sports -Using the imperative [Write a process paragraph]
11	Chapter 11 Reasons and Results	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: exercise -Connectors for reason and result -Review sentence types [Write a reasons and result paragraph]
12	Chapter 12 Opinion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: movies -Transitions for opinion paragraphs -Avoiding run-on sentences [Write an opinion paragraph]
13	Review for final writing exam	10-minute continuous writing
14	Final writing examination	60-minute final writing exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will include grammar exercises and/or writing assignments. All writing assignments must be typed. Students are also responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

Writing to Communicate 1

Author: Cynthia A. Boardman

(Pearson Longman, 2008 ISBN 978-0-13-614191-4)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be very useful.

A good online English-Japanese dictionary can be found here: <http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation/effort 10%

Homework assignments 20%

Writing assignments (6 paragraphs) 50%

Final writing exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.

Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

Grading Criteria:

Class participation/effort 10%

Homework assignments 20%

Writing assignments (6 paragraphs) 50%

Final writing exam 20%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.

Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Chapter 1 The Topic Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: personality words -Paragraph organization in English -The topic sentence -Simple sentences -The writing process (Part 1)
3	Chapter 2 Supporting Sentences	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: suffixes -Supporting sentences: major & minor -Using connectors -Parts of speech -The writing process (Part 2)
4	Chapter 3 The Concluding Sentence	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: family words -The concluding sentence -Transitions of conclusion -Simple & Compound sentences -The writing process (Part 3)
5	Chapter 4 Descriptive Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: describing people -Prepositions of place -Using adjectives [Write a descriptive paragraph]
6	Chapter 5 Narrative Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: simple past verbs -Transitions in narrative paragraphs -Complex sentences [Write a narrative paragraph]
7	Chapter 6 Expository Paragraphs	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: verbs for communicating -Transitions in expository paragraphs [Write an expository paragraph]

8	Chapter 7 Unity Chapter 8 Coherence	10-minute continuous writing Vocabulary builder: prepositions of time -Combining sentences -Avoiding fragments
9	Chapter 9 Cohesion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: dating & marriage customs -The definite article -Personal and demonstrative pronouns
10	Chapter 10 Process	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: sports -Using the imperative [Write a process paragraph]
11	Chapter 11 Reasons and Results	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: exercise -Connectors for reason and result -Review sentence types [Write a reasons and result paragraph]
12	Chapter 12 Opinion	10-minute continuous writing -Vocabulary builder: movies -Transitions for opinion paragraphs -Avoiding run-on sentences [Write an opinion paragraph]
13	Review for final writing exam	10-minute continuous writing
14	Final writing examination	60-minute final writing exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will include grammar exercises and/or writing assignments. All writing assignments must be typed. Students are also responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

Writing to Communicate 1

Author: Cynthia A. Boardman

(Pearson Longman, 2008 ISBN 978-0-13-614191-4)

【参考書】

An English-Japanese dictionary will be very useful.

A good online English-Japanese dictionary can be found here:

<http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation/effort 10%

Homework assignments 20%

Writing assignments (6 paragraphs) 50%

Final writing exam 20%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

The goal of this writing class is for students with a limited knowledge of spoken and written English to develop their academic writing skills. Through pair work activities as well as individual writing tasks, students will learn the basic principles.

This course integrates reading and speaking skills with prewriting, writing and revising. In class and at home, students will work on exercises and write a variety of paragraphs, including descriptive, narrative, exposition, process, and opinion.

Feedback will be given on each academic writing assignment, assessing important features of academic paragraphs, including the topic sentence, supporting sentences, organization, transitions, language use, style, mechanics, presentation, and the concluding sentence.

Grading Criteria:

Class participation/effort 10%

Homework assignments 20%

Writing assignments (6 paragraphs) 50%

Final writing exam 20%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

北原 久嗣

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

具体例に取り組みながら、文レベルの英語の文体（スタイル）を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は原則対面授業を予定していますが、感染状況によってはオンライン形態で実施する場合があります。いずれの授業形態においても、毎週課題に取り組み、平常点（2回の復習テストと授業への積極的参加）を成績評価の基準にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容および進め方の説明
第2回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第3回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第4回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第5回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第6回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第7回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第8回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第9回	英語はポジティブにいきましょう！	「否定」から「肯定」へ
第10回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第11回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第12回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第13回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第14回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習（当該授業で扱う章を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと）と復習（当該授業で扱った内容を復習し、例文を身につけ毎週の課題に取り組むこと）は不可欠です。

【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】

中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291円＋税 978-4-399-03099-2

その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（2回の復習テストと授業への積極的参加）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. Registered students are expected to attend every class and come prepared to work on the assigned material in depth. Your final grade will be based on the total score of the two Review Exams (100%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

小屋 多恵子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

英文論理構成の基礎や展開法を理解し、それをもとに論理的で説得力のある英語でパラグラフを書き、英語で発表することを目的とする。

- 1) 様々な状況において適切な語彙・語句を使って文法的に正しい文を書くことができる。
- 2) 効果的な英文論理構成の基礎を固め、それを基にあるテーマについて論理的で説得力のある英語でパラグラフを書くことができる。
- 3) 正式な書式・句読法に従ってパソコンでパラグラフを作成する。
- 4) 聞き手に理解してもらえる発音でプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の3つである。

- 1) 一文レベルの基本文を確認する。
- 2) パラグラフ・ライティングの構造を学び、理解し、書く。
- 3) 書いたパラグラフを適切に音読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Guidance	・ Introducing the class content and offering guidance ・ Discussing writing and process writing ・ Layout and rules of punctuation
2 回	What is a paragraph? (1)	Pre-writing, the structure of a paragraph (1)
3 回	What is a paragraph? (2)	The structure of a paragraph (2)
4 回	What is a paragraph? (3)	The development of a paragraph
5 回	Opinion paragraph (1)	・ What is an opinion paragraph? ・ Distinguishing between fact and opinion and using transition words to express causality
6 回	Opinion paragraph (2)	Organizing and writing an opinion paragraph
7 回	Opinion paragraph (3)	Peer editing and revising
8 回	Opinion paragraph (4)	・ Recording your opinion paragraph ・ Measure your achievement
9 回	Problem/solution paragraphs (1)	What are problem/solution paragraphs?
10 回	Problem/solution paragraphs (2)	Organizing and writing problem/solution paragraphs
11 回	Problem/solution paragraphs (3)	Organizing and writing problem/solution paragraphs
12 回	Problem/solution paragraphs (4)	Peer editing and revising
13 回	Problem/solution paragraphs (5)	・ Recording your problem/solution paragraphs ・ Measure your achievement
14 回	Review	Sharing your problem/solution paragraphs and making comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
- ・理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
- ・授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】

プリントを用意する。

【参考書】

PC/辞書

その他、必要に応じて授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題 40%

パラグラフ・エッセイ 60%

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度から担当するため、フィードバックはなし。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用する。

【Outline (in English)】

Course outline:

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. Write grammatically correct sentences using appropriate words and phrases in various situations.

B. Understand effective English structure and write logical and persuasive paragraphs on a given topic in English.

C. Write paragraphs on a computer according to formal format and punctuation.

D. Give a presentation with proper pronunciation that is understandable to the audience.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class.

Grading Criteria:

In-class activities, quizzes and assignments (40%), and essays (60%)

LANe200LC

アカデミック・ライティング

小屋 多恵子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

英文論理構成の基礎や展開法を理解し、それをもとに論理的で説得力のある英語でパラグラフを書き、英語で発表することを目的とする。

- 1) 様々な状況において適切な語彙・語句を使って文法的に正しい文を書くことができる。
- 2) 効果的な英文論理構成の基礎を固め、それを基にあるテーマについて論理的で説得力のある英語でパラグラフを書くことができる。
- 3) 正式な書式・句読法に従ってパソコンでパラグラフを作成する。
- 4) 聞き手に理解してもらえる発音でプレゼンテーションを行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、上記の目標を達成するために、授業中実施することは主に次の3つである。

- 1) 一文レベルの基本文を確認する。
- 2) パラグラフ・ライティングの構造を学び、理解し、書く。
- 3) 書いたパラグラフを適切に音読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Guidance	・ Introducing the class content and offering guidance ・ Discussing writing and process writing ・ Layout and rules of punctuation
2 回	What is a paragraph? (1)	Pre-writing, the structure of a paragraph (1)
3 回	What is a paragraph? (2)	the structure of a paragraph (2)
4 回	What is a paragraph? (3)	The development of a paragraph
5 回	Opinion paragraph (1)	・ What is an opinion paragraph? ・ Distinguishing between fact and opinion and using transition words to express causality
6 回	Opinion paragraph (2)	Organizing and writing an opinion paragraph
7 回	Opinion paragraph (3)	Peer editing and revising
8 回	Opinion paragraph (4)	・ Recording your opinion paragraph
	Review quiz (1)	・ Measure your achievement
9 回	Problem/solution paragraphs (1)	What are problem/solution paragraphs?
10 回	Problem/solution paragraphs (2)	Organizing and writing problem/solution paragraphs
11 回	Problem/solution paragraphs (3)	Organizing and writing problem/solution paragraphs
12 回	Problem/solution paragraphs (4)	Peer editing and revising
13 回	Problem/solution paragraphs (5)	・ Recording your problem/solution paragraphs ・ Measure your achievement
14 回	Review	Sharing your problem/solution paragraphs and making comments。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 各授業後に学習した内容を振り返り、理解した箇所と不明な箇所を明確にする。
- ・ 理解した内容は関係書物にあたって学習を深め、不明な点は自主学習によって解決を目指す。
- ・ 授業時間内に終わらなかったタスクを次の時間までに仕上げておく。

【テキスト（教科書）】

プリントを用意する。

【参考書】

PC/辞書

その他、必要に応じて授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題 40%

パラグラフ・エッセイ 60%

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度から担当するため、フィードバックはなし。

【学生が準備すべき機器他】

PC を使用する。

【Outline (in English)】

Course outline:

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Write grammatically correct sentences using appropriate words and phrases in various situations.
- B. Understand effective English structure and write logical and persuasive paragraphs on a given topic in English.
- C. Write paragraphs on a computer according to formal format and punctuation.
- D. Give a presentation with proper pronunciation that is understandable to the audience.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to complete any tasks that were not completed during the class by the next class.

Grading Criteria:

In-class activities, quizzes and assignments (40%), and essays (60%)

LANe200LC

アカデミック・ライティング

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、正確な情報に基づいて自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

大学生は、すでにかんがりの文法、語彙を知識として蓄えながらも、実際には頭のどこか深くにしまいこみ、不安定なスキルとなり、発信する英語に生かせないことが多い。

重要な文法、表現の復習を行いながら、大学生にふさわしいやや高度なトピックについて、自分の集めた情報、考えをまとめて、効果的な短いエッセイを作成する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

①ネットの学習用サイトからニュースを各自選んでもらい、口頭でわかりやすくまとめて発表してもらう。その過程で注意すべき文法、重要な表現などをクラスで学んでいく。

②①で紹介されたニュースについてクラス全体で **Brain Storming** を行う。ニュースに関連した情報、連想される問題や事象をその場で自由に話し合い、視野を広げる。その過程で、関連する基本的な英語表現を身に付ける。

③①、②で紹介されたニュースやブレインストーミングから着想を得て、各自自由にテーマを設定し、エッセイを書くことと仮定して、第一パラグラフを書く。その過程で効果的な段落構成、エッセイ作成の基本を学ぶ。

④学期前半終了時点で、③で書いた第一段落から一つ選び、必要なりサーチなどを行ってエッセイ全体を作成する。

⑤学期終了時点でも同様に別個のテーマについてエッセイを作成する。

⑥④、⑤のエッセイについては、クラスでの講評、教員からのアドバイスを受けて、1～2 回修正、書き直しを行い完成作品とする。

授業は対面とオンラインを併用して行う。授業の進捗状況に合わせて変更されることもあるので、随時学習支援システムで確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明 受講生各自の自己紹介など
第 2 回	学生さんによるニュースの発表 1～3 brain storming 1～3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大
第 3 回	学生さんによるニュースの発表 4～6 brain storming 1～3	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 エッセイ構成の学習 効果的な段落構成の学習
第 4 回	学生さんによるニュースの発表 4～6 brain storming 4～6	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 5 回	学生さんによるニュースの発表 7～9 brain storming 7～9	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 6 回	エッセイ 1 の作成	1～9 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 7 回	エッセイ 1 の添削、クラスでの講評	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評
第 8 回	エッセイ 1 の再作成	エッセイ 1 の再作成
第 9 回	学生さんによるニュースの発表 10～12 brain storming 10～12	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習

第 10 回	学生さんによるニュースの発表 13～15 brain storming 13～15	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 11 回	学生さんによるニュースの発表 16～18 brain storming 16～18	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 12 回	学生さんによるニュースの発表 19～21 brain storming 19～21	英語らしい文作成のための文法、表現の確認 視野、トピック、それに必要な語彙の拡大 効果的な段落構成の学習
第 13 回	エッセイ 2 の作成	10～21 までに関連するテーマでのエッセイの作成
第 14 回	エッセイ 2 の講評、再作成	各自作成したエッセイについての教師、クラスでの講評 再作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定されたネットサイトでニュースを選択し、内容をほかのクラスメートに伝わりやすくまとめたおし、必要な背景情報を収集する。

毎週、ないし隔週で、授業で紹介されたニュースや **brain storming** から着想を得てテーマを設定し、簡単なりサーチを行って第一パラグラフを作成する。教師の指示に従ってパラグラフの書き直しを行う。

学期中に二回程度作成するエッセイについて、より詳しいサーチなどを行い充実したエッセイを書く。また教師やクラスでの検討を経て、エッセイの再作成を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。ネットで視聴可能なものを教師が指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（ニュースの発表、ブレインストーミングへの貢献など）（30 %）、英文エッセイの作成の過程（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生各自が英語によって自己表現する楽しさを感じるだけにとどまらず、より正確な表現に向けて、地道な努力を継続できるように促していきたい

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' knowledge of how to write short essays on intellectual topics which deserve to be discussed by English learners in higher education.

For that purpose, activities in the course are designed to meet two goals.

Firstly, students will acquire a solid basis required for constructing accurate sentences through instantly expressing information and ideas in English and being given feedback from the instructor in each class.

Secondly, students will acquire the basic skill of writing English essays effectively by constantly writing paragraphs based on topics and research.

Students will be expected to do one or two preparations in the following list before each class.

1.Browse news websites created for English learners and select some stories.

2.Summarize one of those stories to be shared in class.

3.Do research to collect relevant information and/or shape your opinions.

4.Write first paragraphs.

After each class, students will be expected to do some of the following tasks.

1.Rewrite first paragraphs following advice from the instructor

2.Research more extensively or in a more focused manner.

3.Write short essays or rewrite them following instructions from the instructor.

Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Your final grading will be decided based on contribution and active participation in activities held in the classroom such as brainstorming and exchange of ideas and information (30%) and the process of writing essays (70%).

LANe200LC

アカデミック・ライティング

北原 久嗣

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

具体例に取り組みながら、文レベルの英語の文体（スタイル）を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は原則対面授業を予定していますが、感染状況によってはオンライン形態で実施する場合があります。いずれの授業形態においても、毎週課題に取り組み、平常点（2回の復習テストと授業への積極的参加）を成績評価の基準にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容および進め方の説明
第2回	英語では主語が大事	隠れた主語を見つけよう
第3回	まずは主語を決める	主語は人、それともモノ？
第4回	能動態を使おう	弱い動詞から強い動詞へ
第5回	魔法の前置詞	「前置詞は苦手」からの脱却
第6回	順番を考えて書く	どっちが先でどっちがあと？
第7回	日本語の影響から自由に！	「ある」から「する」へ
第8回	復習テスト（1）	理解度の確認・ディスカッション
第9回	英語はポジティブにいきましょう！	「否定」から「肯定」へ
第10回	具体的な言葉は伝わりやすい	「抽象」から「具体」へ
第11回	自信を持って言い切ろう	「あいまい」から「言い切り」へ
第12回	文は短いほうがわかりやすい	「冗長」から「簡潔」へ
第13回	和製英語には要注意	「カタカナ語」から「本物」へ
第14回	復習テスト（2）	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習（当該授業で扱う章を予習し、問題意識をもって授業に臨むこと）と復習（当該授業で扱った内容を復習し、例文を身につけ毎週の課題に取り組むこと）は不可欠です。

【テキスト（教科書）】

遠田和子・岩渕デボラ著『英語「なるほど！」ライティング』講談社 1,800円＋税 978-4-7700-4074-9

【参考書】

中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291円＋税 978-4-399-03099-2

その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（2回の復習テストと授業への積極的参加）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. Registered students are expected to attend every class and come prepared to work on the assigned material in depth. Your final grade will be based on the total score of the two Review Exams (100%).

LANe100LC

英語資格試験準備講座

柳川 浩三

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は受講生の TOEIC の点数を上げることを当面の目標としつつ、受講生の英語リスニング力の底上げを図ることです。この目的の達成のために、以下の3つにポイントをおきます。

1. TOEIC 受験方略（テクニック）への習熟
2. リスニング強化のための音（音声）の知識への習熟
3. 音読（reproduction）の正しいやり方の習得

【到達目標】

1. TOEIC リスニングパートに対するテクニックを適切に使える。
2. リスニングカトレニングを日ごろから実践する
3. 英語音声の（特に子音）特徴を体系的に理解しそれをリスニングやスピーキングに活かせる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3つのポイントから TOEIC の点数アップを目指します。1 テスト方略への習熟、2 リスニング力の強化のための戦略（a. 通訳トレーニング方の援用 b. 音変化の知識の習得と発音練習 c. リスニングを意識したリーディングへの習熟 d. メタ認知方略を用いたリスニングへの習熟）、3 TOEIC 特有の語彙力強化です。また、学期途中にそれぞれの TOEIC 点数の伸長を測るため3回の模擬試験を実施します。結果は、個別に学習支援システムを用いて伝え、次週に復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	TOEIC とは、この授業のねらい
2	実力を上げるために君は何を知っておくべきか その 1	弱く曖昧に発音する音 第 1 回リスニングテスト
3	その 2	/t/ の八変化
4	その 3	リスニングと発音を一体化する
5	その 4	舌の位置を意識化する
6	リスニングとリーディングを関連づける	リスニングを意識した速読の仕方
7	君は何をするべきか	静聴～口頭練習へ
8	リスニングの実際 1	BBC World
9	リスニングの実際：映画・歌 第 2 回リスニングテスト	タイタニック Just the way you are(Blueno Mars) Wonderful world (Eric Clapton) One thing (One Direction), Hero (Maria Carry)
10	Part1,2 をクリックする：今の力で 100 点上げる	Part1：聞く前の準備 Part2：文頭集中と反芻 第 2 回リスニングテスト返却と振り返り
11	Part3,4 をクリックする	聞きながら解く マークシート用紙はいつ塗るか 図表問題をどう解くか

- 12 Part5,6 をクリックする 形、意味、形+意味の 3 つに分ける。
アイスパンを調整する。
- 13 第 3 回リスニングテスト どれだけ伸びたか測ってみる。
- 14 Part7 をクリックする 解き方の手順
第 3 回リスニングテスト返却

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】英語のリスニング口頭練習（reproduction）が全 4 - 5 回ほど課されます。

【テキスト（教科書）】

「英語リスニング発音教本」柳川浩三著（オリジナルテキスト 非売品）

「公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 4」（財）国際ビジネスコミュニケーション協会

【参考書】

授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験:60 % 計 3 回のリスニングテスト（各回 100 問）各 20%。
平常点評価 40 %:課題（reproduction）の提出達成状況

【学生の意見等からの気づき】

日頃から、学生に英語を聞く習慣を植えつけたい。

【その他の重要事項】

3 回を超える理由なき欠席は単位不認定となります。

5 分を超える遅刻は欠席とみなします

短期間で点数 UP がしやすいリスニングに比重を置いた講座です。

例年、多くの学生が 50-100 点アップしています。

Part5-7 は授業回数 2 回分程度でポイントを絞ってお伝えします。学期中、音読の課題が出ます。しっかり取り組みましょう。

【Outline (in English)】

This class aims to enhance your TOEIC listening score by 100.

—

Goals: To deploy appropriate strategies for the TOEIC.

To keep repeated practice of oral reading.

To have a better understanding of the system of English consonants to improve listening proficiency.

Work to be done outside of class: To carry out the practice of oral reading four or five times over the term.

Grading criteria: Exam: 60%, Assignment : 40%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

川口 悠子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

・文法的に正しく、読み手に伝わりやすい文を書けるようになる。
・分かりやすく、かつ説得力のある文章構成がどのようなものか理解し、そのような文章を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、予習を元に、ひとつひとつの文を作文するための文法・語法とパラグラフ（段落）の構造を確認します。授業で確認した文法・語法を定着させるために期末テストをおこないます。また、学期中に3回、まとまった長さの作文を課します。授業中に予習部分の理解度を確認し、作文を添削して、フィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や予習の仕方について説明する。
第2回	Chapter 1 What Is a Paragraph?	パラグラフの基本構造について学ぶ。
第3回	Chapter 4 Describing Feelings	感情の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第4回	Chapter 6 Description of Place and Locations	場所や位置の描写について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第5回	Chapter 8 Comparison and Contrast	比較について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第6回	Essay Writing (1)	エッセイ（1）を執筆する。
第7回	Essay Review (2)	エッセイ（1）を返却し、演習形式で解説する。
第8回	Chapter 9 Cause and Effect	物事の原因や結果について、よく用いる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第9回	Chapter 10 Problems and Solutions	問題点を明確に指摘し、その解決策を説明する文章を書けるよう練習する。
第10回	Chapter 12 Your Opinion — Disagree	ある物事に対して反対意見を述べる際の表現を学び、自分の主張をまとめた文章を書く練習をする。
第11回	Chapter 13 Data Analysis	グラフや表について述べる際によく用いられる表現を学び、文章で説明する練習をする。
第12回	Essay Writing (2)	エッセイ（2）を執筆する。
第13回	Essay Review (2)	エッセイ（2）を返却し、演習形式で解説する。
第14回	まとめと期末試験	授業全体のまとめと期末試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
・語学の勉強に、予習と反復練習は決定的に重要です。テキストの指示された部分をしっかりと予習してきてください。
・作文の課題は、よく辞書を引き、言葉の意味を吟味しながら書いてください。
・授業で扱った文法・語法の定着を目的として、期末試験をおこないます。準備して臨んでください。

【テキスト（教科書）】

仲谷都、吉原学、Ruth Fallon, Smart Writing: Active Approach to Paragraph Writing (『はじめてのパラグラフ・ライティング』成美堂、2017年)

【参考書】

綿貫陽・マーク・ピーターセン『表現のための実践ロイヤル英文法』（旺文社、2006年）

小池直己、佐藤誠司『実践英文法 FOCUS』（南雲堂、2009年）

ほか、必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

エッセイ 各 30%×2 = 60%

期末試験 30%

授業参加度 10%

なお、5回以上正当な理由なく欠席した場合は不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんが質問や発言がしやすい雰囲気を作るよう、心がけます。

【その他の重要事項】

きちんとした辞書を毎回必ず持参して下さい。また、初回の授業で予習の仕方を説明しますので、それまでに必ずテキストを入手しておいてください。なお、授業の進度や受講生の皆さんの要望によって、シラバスの内容を変更することがあります。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Preparation and repetitive exercise are crucial in studying a language. Students should consult dictionaries frequently and carefully, especially when they write essays. A final exam is given to help build the vocabulary and grammar.

The final grade will be calculated based on 2 essays (30% each), the final exam (30%), and class participation (10%).

LANe300LC

英語中級コミュニケーション

北原 久嗣

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語とは何か。この問いを英語のデータを中心に様々な角度からとりあげます。関係する DVD 2本を視聴し、その英文 transcripts を読み進めていきます。視聴する DVD は下記の2本です。

Discovering the Human Language: Colorless Green Ideas
Acquiring the Human Language: Playing The Language Game

【到達目標】

言語研究が取り組む課題を通して、英語による議論の組み立て方、効果的な展開について学び、英語で専門的知識・意見の交換ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は原則対面授業を予定していますが、感染状況によってはオンライン形態で実施する場合があります。いずれの授業形態においても、毎週課題に取り組み、平常点（2回の復習テストと授業への積極的参加）を成績評価の基準にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance	授業の内容および進め方の説明
第2回	What is language?	内容把握・ディスカッション・課題
第3回	What do we have in our minds before we speak?	内容把握・ディスカッション・課題
第4回	Colorless green ideas sleep furiously.	内容把握・ディスカッション・課題
第5回	Universal Grammar	内容把握・ディスカッション・課題
第6回	Language will grow in the child's mind.	内容把握・ディスカッション・課題
第7回	Review Exam (1)	理解度の確認・ディスカッション
第8回	How do children acquire language without seeming to learn it?	内容把握・ディスカッション・課題
第9回	Language is essentially an organ of the mind.	内容把握・ディスカッション・課題
第10回	The Gavagai Problem	内容把握・ディスカッション・課題
第11回	Are languages utterly different from each other?	内容把握・ディスカッション・課題
第12回	The Human Language	内容把握・ディスカッション・課題
第13回	Review Exam (2)	理解度の確認・ディスカッション
第14回	Course Summary & Further Discussion	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠です。

【テキスト（教科書）】

視聴する DVD の英文 transcripts を Hoppii よりダウンロードできるようにします。

【参考書】

中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291 円＋税 978-4-399-03099-2

その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（2回の復習テストと授業への積極的参加）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

What is the real object of inquiry in the study of language today? We will discuss contemporary work concerned with this question. We will watch two DVDs, entitled "Discovering the Human Language: Colorless Green Ideas" and "Acquiring the Human Language: Playing The Language Game," and discuss the "cognitive revolution" and its impact on the contemporary study of human language, especially, the Chomskyan shift away from linguistic behaviors as the object of inquiry, to the study of the cognitive mechanisms that allows humans to acquire and use linguistic knowledge. Registered students are expected to attend every class and come prepared to work on the assigned material in depth. Your final grade will be based on the total score of the two Review Exams (100%).

LANe300LC

英語中級コミュニケーション

柳川 浩三

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Explore global issues and enjoy speaking English

【到達目標】

Objectives to be achieved.

1. Express opinions about global issues in a coherent way.
2. Discuss personal matters in English.
3. Enhance overall English proficiency

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The primary purpose of this class is to enhance your speaking skills in English. This purpose will be done using various communication tasks such as Show and tell, role plays, impromptu speeches, and public speech.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	explaining the purpose of this class
2	Ice breaking	Who is the most positive in this class?/What is good about you?/What is common between us?
3	Show and Tell	Individual presentation by using a photo/picture
4	Help me!	Making suggestions Asking for help
5	Group presentation 1	topic choice group making
6	Group presentation 2	Presentation by groups
7	Group presentation 3	Presentation by groups leading and developing the discussion
8	Human migration	reading and summarizing
9	Human migration	sharing information
10	Presumptions	retelling
11	Gender equality and roles	exchange opinions
12	Universal language of Humor	retelling speaking
13	Examination	writing
14	Another story	individual presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】
You are supposed to be a responsible member of this class. You are supposed to be well prepared for giving a short speech, a presentation about a global issue by working together with your group members.

【テキスト（教科書）】

Kozo YANAGAWA and Simon Johnson (2021).

Global issues in Action: Tasks that Work 東京：三修社

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

1. Examination (45%)
2. Presentations (Group and Solo 25%)
3. Attitude by classroom observation (10%)
4. Assignment (20%)

【学生の意見等からの気づき】

Overall, the students were very positive about this class, but I will try to make an every effort to tailor the content and procedures to meet the needs or interests of all students.

【その他の重要事項】

The more mistakes you make in speaking English, the better your English should be.

Being late for the class (over 5 minutes) is considered as absence.

【Outline (in English)】

To succeed in this course, you must get out of your chair and actively discuss global issues with partners, in small groups, and with the whole class. You will be asked to improvise, role play, hold debates, give presentations, and engage in other forms of structured discussion in English. The tasks in this course are designed to deepen your learning by nudging you out of your comfort zone. When you complete this course, you will have gained knowledge about the world, practical skills in using the English language, and experience in speaking out. The global issues of focus (poverty, nuclear threats, environmental issues, violations of human rights, and inequality) are selected to broaden your perspective by drawing your attention to different parts of the world.

Objectives to be achieved.

1. Express opinions about global issues in a coherent way.
2. Discuss personal matters in English.
3. Enhance overall English proficiency

Work to be done outside of the classroom:

You are supposed to be a responsible member of this class. You are supposed to be well prepared for giving a short speech, a presentation about a global issue by working together with your group members.

Grading criteria:

1. Examination (45%)
2. Presentations (Group and Solo 25%)
3. Attitude by classroom observation (10%)
4. Assignment (20%)

LANe300LC

英語中級コミュニケーション

北原 久嗣

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言語とは何か。この問いを英語のデータを中心に様々な角度からとりあげます。関係する DVD 2本を視聴し、その英文 transcripts を読み進めていきます。視聴する DVD は下記の2本です。

The Human Language Evolves: With and Without Words
Noam Chomsky: Language and Mind

【到達目標】

言語研究が取り組む課題を通して、英語による議論の組み立て方、効果的な展開について学び、英語で専門的知識・意見の交換ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式に加え、ディスカッションを行います。学生の積極的な参加を期待します。また、授業内テストを適宜行い、テキスト・配布資料に対する学生の理解度を確認します。フィードバックは、授業内、学習支援システム、メール（hisatsugu.kitahara.87@hosei.ac.jp）で行う予定です。授業形態は原則対面授業を予定していますが、感染状況によってはオンライン形態で実施する場合があります。いずれの授業形態においても、毎週課題に取り組み、平常点（2回の復習テストと授業への積極的参加）を成績評価の基準にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Guidance	授業の内容および進め方の説明
第2回	Does human language spring from human genetic makeup?	内容把握・ディスカッション・課題
第3回	Non-Verbal Communication and Facial Expressions	内容把握・ディスカッション・課題
第4回	Speech leaves our hands free to do other things.	内容把握・ディスカッション・課題
第5回	Speech as One Mode of Externalization	内容把握・ディスカッション・課題
第6回	How did language begin?	内容把握・ディスカッション・課題
第7回	Review Exam (1)	理解度の確認・ディスカッション
第8回	The Object of Inquiry	内容把握・ディスカッション・課題
第9回	The Language Organ	内容把握・ディスカッション・課題
第10回	Universal Grammar	内容把握・ディスカッション・課題
第11回	Language and Grammar	内容把握・ディスカッション・課題
第12回	Principles and Parameters	内容把握・ディスカッション・課題
第13回	Review Exam (2)	理解度の確認・ディスカッション
第14回	Course Summary & Further Discussion	理解度の確認・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠です。

【テキスト（教科書）】

視聴する DVD の英文 transcripts を Hoppii よりダウンロードできるようにします。

【参考書】

中村駿夫著『発音記号の正しい読み方』SHORYUDO 291 円＋税 978-4-399-03099-2

その他、適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（2回の復習テストと授業への積極的参加）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎週の課題への取り組みを重視します。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることがあります。

【Outline (in English)】

What is language? We will watch two DVDs, entitled "The Human Language Evolves: With and Without Words" and Noam Chomsky: Language and Mind," and discuss Chomsky's work concerned with this question. Chomsky argues that contemporary work on the nature, use, and acquisition of language is based on the revival and reconstitution of venerable themes, which considered the study of language to be part of the more general study of human cognition. From this perspective, the objects of inquiry are the inner mechanisms of the mind that account for the knowledge, use, and acquisition of language. We will review and discuss recent findings on such mechanisms, to which Chomsky has contributed for over half a century. Registered students are expected to attend every class and come prepared to work on the assigned material in depth. Your final grade will be based on the total score of the two Review Exams (100%).

LANe300LC

英語中級リーディング

村上 弥生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、英語での情報を身近に利用できるように英語力を向上させることである。また、グローバル化した世界の一員として、英語の資料に触れることを通じて、現代世界の直面する問題について知見を深めることも目的とする。

【到達目標】

グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 読み物については、現代の社会、世界における重要なテーマを 1～2 選び、関連する資料を、学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、その過程で必要な情報や背景のリサーチを行ってもらったり、また教師からも随時行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネットで聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テストや、訳の再作成や短い意見文の作成を行う。こうした提出物については、授業内、また学習支援システム上で教師による添削やコメントを行う。
授業は対面とオンラインを併用するが、授業の進捗状況によって予定が変更されることもあるので、学習支援システム上での連絡を確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第 2 回	トピック 1：（社会や時代の変化に添って新たに選り抜くが、以下は昨年度の例である）The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介 重要語句、表現の確認
第 3 回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 2	背景説明 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 4 回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 3	背景説明 前回までの表現の応用問題によるテスト
第 5 回	review test-1	背景説明
第 6 回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 4	和訳の発表 重要語句、表現の確認 内容に関する意見発表、交換
第 7 回	トピック-2 COVID-19 Cuts Jobs and Boosts Stocks, Widening Economic Gap in Japan-1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第 8 回	COVID-19 Cuts Jobs and Boosts Stocks, Widening Economic Gap in Japan-2	背景説明 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 9 回	review test-2	前回までの表現の応用問題によるテスト
第 10 回	トピック-3 Japan's Middle Class is Disappearing-1	背景説明

第 9 回	Japan's Middle Class is Disappearing-2	関連する視聴覚資料の紹介 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 10 回	Japan's Middle Class is Disappearing-3	和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 11 回	review test-3 Japan's Middle Class is Disappearing-4	前回までの表現の応用問題によるテスト 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 12 回	Japan's Middle Class is Disappearing-5	重要語句、表現の確認 資料に基づく意見発表
第 13 回	前回の意見発表表についての総評	前回の意見発表表についての総評
第 14 回	review test-4	前回までの表現の応用問題によるテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2. 読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3. 復習テストに備えて資料の再読を通じて、重要表現の定着に努める。もしくは訳の修正および短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】

初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】

参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

予習としての和訳、リサーチ 20 %、リサーチ・意見発表など授業への積極的取組 20 %、復習テスト 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

現代の世界の様々な側面を広く知ること意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

【Outline (in English)】

This course aims at getting students to gain English competence required of active global citizens who can access and accurately understand information conveyed in English. The other objective of this course is to enhance awareness and perspectives of contemporary global issues through reading and listening to English materials provided in the course.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. carefully read assigned part of the materials.
2. Summarize a short audio-visual material.
3. Do research on relevant topics.

After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted. You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.

Your required study time outside of classroom is at least one hour for each class.

Final grading will be decided based on your preparation for class (20%), contribution to class activities through presenting research and opinions (20%), and review tests(60%).

LANe300LC

英語中級リーディング

村上 弥生

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、英語での情報を身近に利用できるように英語力を向上させることである。また、グローバル化した世界の一員として、英語の資料に触れることを通じて、現代世界の直面する問題について知見を深めることも目的とする。

【到達目標】

グローバルな教養人として求められる英語の読解力、語彙力を身に着ける。異なる社会や、現代世界が直面する諸問題を論じる文章を主に取り上げ、英語の読解力のみならず、背景的な知識のリサーチなどを通じて、国際人としての視野を広げる。またリスニングや視覚材料を併用しながら、音声としての英語に触れる機会を多く持つことによって、英語独自の構造に慣れ、構造に従ってスムーズに受容できる力を高める。高度な英文の読み物については、精読、正確な和訳の作業を通して、文構造や表現、単語の理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 読み物については、現代の社会、世界における重要なテーマを 1～2 選び、関連する資料を、学生さんの予習を前提として、丁寧に読む。また、その過程で必要な情報や背景のリサーチを行ってもらったり、また教師からも随時行う。
2. テーマに関連する視聴覚材料をネットで聞き、内容確認等を行う
3. 各テーマ終了ごとに語彙や表現、内容についての応用的な小テストや、訳の再作成や短い意見文の作成を行う。こうした提出物については、授業内、また学習支援システム上で教師による添削やコメントを行う。
授業は対面とオンラインを併用するが、授業の進捗状況によって予定が変更されることもあるので、学習支援システム上での連絡を確認されたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方についての説明、受講生の自己紹介など
第 2 回	トピック 1：（社会や時代の変化に添って新たに選り抜くが、以下は昨年度の例である）The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介 重要語句、表現の確認
第 3 回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 2	背景説明 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 4 回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 3	背景説明 重要語句、表現の確認 前回までの表現の応用問題によるテスト
第 5 回	review test-1	背景説明
第 6 回	The Volunteer Army Helping Self-Isolating Neighbours (BBC) - 4	和訳の発表 重要語句、表現の確認 内容に関する意見発表、交換
第 7 回	トピック-2 COVID-19 Cuts Jobs and Boosts Stocks, Widening Economic Gap in Japan-1	背景説明 関連する視聴覚資料の紹介
第 8 回	COVID-19 Cuts Jobs and Boosts Stocks, Widening Economic Gap in Japan-2	背景説明 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 9 回	review test-2	背景説明
第 10 回	トピック-3 Japan's Middle Class is Disappearing-1	前回までの表現の応用問題によるテスト 背景説明

第 9 回	Japan's Middle Class is Disappearing-2	関連する視聴覚資料の紹介 和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 10 回	Japan's Middle Class is Disappearing-3	和訳、リサーチ等の発表 重要語句、表現の確認
第 11 回	review test-3 Japan's Middle Class is Disappearing-4	前回までの表現の応用問題によるテスト 和訳の発表 重要語句、表現の確認
第 12 回	Japan's Middle Class is Disappearing-5	和訳の発表 重要語句、表現の確認 資料に基づく意見発表
第 13 回	前回の意見発表表についての総評	資料に基づく意見発表 前回の意見発表についての総評
第 14 回	review test-4	前回までの表現の応用問題によるテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

1. 読み物については、わかりやすい日本語に訳せるように十分に細部まで正確な英文理解を行うとともに、背景となっている状況なども併せて調べることが求められる。
2. 読み物については音読、また、視聴覚教材については、シャドウイングなどを行いながら復習する。
3. 復習テストに備えて資料の再読を通じて、重要表現の定着に努める。もしくは訳の修正および短い意見文を作成する。

【テキスト（教科書）】

初回に指示する。また随時教師が提供する。

【参考書】

参考書はとくに指定しない。

【成績評価の方法と基準】

予習としての和訳、リサーチ 20 %、リサーチの発表など授業への積極的取組 20 %、復習テストもしくは和訳の修正や意見文の作成 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

現代の世界の様々な側面を広く知ること意義を見出してくれる学生さんが多く、十分こたえられるような題材を提供していくよう努力したい。

【Outline (in English)】

This course aims at getting students to gain English competence required of active global citizens who can access and accurately understand information conveyed in English. The other objective of this course is to enhance awareness and perspectives of contemporary global issues through reading and listening to English materials provided in the course.

Before each class meeting, students will be expected to do one or two of the following tasks.

1. carefully read assigned part of the materials.
2. Summarize a short audio-visual material.
3. Do research on relevant topics.

After each class meeting, students will be expected to read or watch materials again and prepare for a review test which will be frequently conducted. You will sometimes be requested to write your own ideas in English based on materials introduced in the course.

Your required study time outside of classroom is at least one hour for each class.

Final grading will be decided based on your preparation for class (20%), contribution to class activities through presenting research and opinions (20%), and review tests(60%).

LANe300LC

英語中級リーディング

宗像 俊輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

技術革新の一方で生じる社会問題について、CNN、BBC、Bloomberg などの報道記事を読みながら国際的な視野で理解を深める。また、長文読解のスキルを高める。受講者は、これらの問題をどのように捉え、いかに解決するかについて、自分なりの考えを表現できるようにする。

【到達目標】

- 最先端の技術と、それによって生じる社会問題について理解を深める。
- これらの社会問題の解決法について、議論ができるようにする。
- 英字新聞や雑誌の記事（Web 版を含む）を読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 受講者は、事前に配布された英字新聞や雑誌の記事を読む。
 - 講義の前半で、講師が記事全体の要約と段落ごとの解説をする。
 - 講義の後半で、記事に関係する話題を講師が提供し、受講者同士でディスカッションをする。
 - 講義の最後に、記事を音読する。
- ※講義前に小テストあり。
 ※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。
 ※授業中の言語使用は、日本語 7 割、英語 3 割の予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の方針説明
第 2 回	アイス・ブレイキング	受講者同士の交流。関心分野の共有。英文読解の基礎。
第 3 回	英文記事講読	交通と環境：「飛び恥」をめぐる
第 4 回	英文記事講読	健康をめぐる世界的な格差：COVAX を例に
第 5 回	英文記事講読	科学分野における男女差別
第 6 回	英文記事講読	監視技術とプライバシー
第 7 回	英文記事講読	ドローン技術の戦争への転用
第 8 回	英文記事講読	希少資源の獲得と環境汚染
第 9 回	英文記事講読	化学物質の適正な利用
第 10 回	英文記事講読	都市計画での差別問題
第 11 回	英文記事講読	SNS の「炎上」：プラットフォームの社会的責任
第 12 回	英文記事講読	オンライン授業とメンタルヘルス
第 13 回	まとめ	これまでの講義で取り上げたトピックについて復習する。また、期末試験について案内する。
第 14 回	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

- 毎週出される英文記事を事前に読む。
- 講義後は指定範囲を最低 10 回音読することが望ましい。
- 毎回の講義冒頭で実施する小テストの準備もすること。

【テキスト（教科書）】

配布資料（BBC、CNN、Bloomberg、その他英字新聞や英文雑誌の記事）

【参考書】

英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。
 各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 期末試験 (45%)
- 小テスト (20%)
- 発表 (Group and Solo 25%)
- 貢献と姿勢 (10%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline (in English)】

- 授業概要 (Course outline)

Students will read news articles from CNN, BBC, Bloomberg, etc., and deepen their understanding of social issues that recent technological innovation has caused. In this course, students will get accustomed to reading long texts. Students will be able to express their own ideas on how to view these issues and how to solve them.

2. 到達目標 (Learning Objectives)

- ① Students will deepen their understanding of social problems caused by cutting-edge technology.
 - ② Students will be able to discuss better, practical solutions to the problems.
 - ③ Students will be used to reading English-language newspapers and magazines.
3. 授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)
 ※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

- ① Students have to read articles before the lecture.
- ② After the lecture, students are expected to read the articles aloud at least ten times. (The lecturer designates the range you should read)
- ③ Students are required to prepare for the quiz at the beginning of each lecture.

4. 成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Term-end examination: 45%, Quiz: 20%, Presentation: 25%, In-class contribution: 10%.

LANe300LC

英語中級ライティング

福澤 レベッカ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、論理的構造のパラグラフを書く基本的な手法を身につけ、自分で書いた文章を発表することを目的にする。それをもとにして、エッセイ、アカデミック論文などの基礎も学ぶ。

【到達目標】

- 1) アカデミクライティングは論証に基づいていることを理解する。
- 2) 適切な単語・語句を使って文法的に正しい文を書くために、一文レベルの基本文を復習する。
- 3) パラグラフ構造を学び、理解し、様々なスタイルのパラグラフを書く。
- 4) パラグラフ構成を基にして、エッセイとアカデミック論文を作成する。
- 5) 書いたパラグラフを音読する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

目標を達成するために、授業中実施することは主に次の3つである。

- ・一文レベルの基本文法を確認する。
- ・パラグラフ・ライティングの構成や展開法を復習する。
- ・パラグラフ・ライティングを実践する。

提出されたライティングアサインメント、クイズについては採点のうえ、返却されます。春学期の授業は、原則として対面で行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	議論の構造を理解する	(1) アカデミックな議論は論理的である必要がある。ここでは以下の点を講義演習に含む。①論理とは何か、②接続の論理（接続詞の使い方）の復習、③議論を論証として捉える（トウルミン・モデル）。根拠、主張、論拠について講義、演習の後に練習問題を解いていただく。
2	議論の構造を理解する	(2) アカデミックな議論は論理的である必要がある。ここでは以下の点を講義演習に含む。①論理とは何か、②接続の論理（接続詞の使い方）の復習、③議論を論証として捉える（トウルミン・モデル）。根拠、主張、論拠について講義、演習の後に練習問題を解いていただく。
3	パラグラフ構造の復習：	1) パラグラフの書き方の手法（ブレインストーミングと計画、下書き、編集・校正）を復習する。2) パラグラフ構成の基礎学ぶ。3) パラグラフの書式を復習する。
4	論証と Illustration/Support の構造：	例示のパラグラフ構造を学ぶ。文法ポイント：時制、接続詞
5	論証と Illustration/Support の構造：	例示のパラグラフ構成。文章レベルのチェック。自分とクラスメートがパラグラフ構造で書いた文章をガイドラインに沿って編集する。文法ポイント：時制、接続詞
6	Cause and Effect の文章を書く：	一文レベルの基本な因果関係を表す文法を確認する。
7	Cause and Effect ：因果関係 パラグラフ構成	原因と結果を論理的に結び付けて因果関係型のパラグラフ構造を学ぶ。文法ポイント：従位接続詞
8	Cause and Effect ：因果関係 パラグラフ構成の編集と校正：	文章のレベルのチェック自分とクラスメートがパラグラフ構造で書いた文章を、ガイドラインに沿って編集する。
9	Paragraph to Essay Writing & Research Strategies.	パラグラフからエッセイに・リサーチストラテジー、パラグラフをエッセイに繋げて構成していく方法を学ぶ。図書館のオンラインデータベースとインターネットを利用して、自分のトピックについて情報収集をする。
10	Comparison & Contrast の文章を書く。	一文レベルの基本な比較級を表す文法を確認する。

11	Comparison & Contrast ：比較・対照 パラグラフ構造	比較・対照によるパラグラフの展開、文法ポイント：比較級・最上級の文章を書く。
12	Comparison & Contrast ：比較・最上 パラグラフ構造の編集と 校正：	文章レベルのチェック 自分とクラスメートがパラグラフ構造で書いた文章を、ガイドラインに沿って編集する。
13	発表方法の基礎：	効果的な発表とは何か、効果的な発表の論文構造・パワーポイント作りと話し方の基礎を学ぶ。
14	最終発表：	書いたエッセイを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

特に

- ・自分のトピックについて情報収集をする。
- ・授業で書いたパラグラフを書き終えて校正する。
- ・プレゼンの準備と練習をする。
- ・毎週の日記を書く。

【テキスト（教科書）】

プリントを学習支援システムによって配布する。

【参考書】

プリント

【成績評価の方法と基準】

平常点/クイズ（30 %）、ダイアリ（10 %）、ライティングアサインメント1 と2（30 %）、最終のエッセイと発表（30%）

【学生の意見等からの気づき】

ライティングのアサインメントの数を減らす。

【学生が準備すべき機器他】

PC を持参ください。

【Outline (in English)】

「Outline」

In this class, students will extend their ability to write and present a logically written paragraph. Based on these basic skills, they will learn to write academic essays and papers.

Learning Objectives

- 1) Students will understand the basis of logical writing in argumentation.
- 2) Students will review grammar and vocabulary to refine their writing at the sentence level.
- 3) Students will review paragraph writing and learn different paragraph patterns.
- 4) Based on review of paragraph structure, students will learn to write essays and academic papers.
- 5) Students will present their papers.

Learning activities outside of classroom:

Students will complete writing assignments started in class and rewrite papers based on teacher comments.

Students will prepare for and practice presentations.

Students will complete grammar practice exercises.

Grading Criteria:

Class participation（20 %）、Writing assignments（50 %）Final essay and presentation（30 %）

LANe300LC

英語中級ライティング

KOPROWSKI MARK

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate-level writing course will offer a step-by-step approach for the successful development of English composition skills.

【到達目標】

The goals of this writing class are to develop composition skills through the integration of reading and writing activities. Students will learn to write a variety of multi-paragraph composition types on a number of familiar everyday topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

In the classroom and at home, students will work on exercises and improve succeeding drafts of their composition assignments. Students will also maintain a vocabulary notebook which they may use during the final composition exam. Pair work will be emphasized. Written feedback will be given on each composition assignment, assessing important features such content, organization, transitions, language use, spelling, punctuation, and presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction & explanation	The students will receive a self-introduction from the teacher. The students will also write a brief self-introduction.
2	Describing Daily Routines	10-minute continuous writing Reading: Bruno's Daily Activities Grammar: Simple Present Tense; Frequency Words; Present Continuous Tense
3	Describing Daily Routines	10-minute continuous writing Reading: Maria's Day Grammar: Simple Present Tense; Frequency Words; Present Continuous Tense Start composition #1 (narration): Write about your daily activities and what you are doing and thinking right now
4	Describing a Friend	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Vocabulary quiz #1 Reading: My Friend, Roberto Grammar: Be/Predicate Adjectives; Be going to; Will; Cohesion; Punctuation
5	Describing a Friend	10-minute continuous writing Reading: My Girlfriend, Maria Grammar: Be/Predicate Adjectives; Be going to; Will; Cohesion; Punctuation Start composition #2 (description): Describe a friend, classmate, or family member
6	Giving Instructions/Directions	10-minute continuous writing Reading: A Party Grammar: Imperatives; Modals Vocabulary quiz #2
7	Giving Instructions/Directions	10-minute continuous writing Reading: Bruno's Cheese Pie Start composition #3 (process description): Tell someone how to do or make something
8	Making a Written Request	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Vocabulary quiz #3 Reading: A Business Letter Grammar: Indirect Requests with would + like to; Direct Requests

9	Making a Written Request	10-minute continuous writing Reading: A Business Letter #2 Start composition #4 (business letter): Write a business letter to a company or an institution
10	Describing Past Events	10-minute continuous writing Reading: A Terrible Trip
11	Describing Past Events	10-minute continuous writing Check vocabulary notebook Reading: A Memorable Trip Grammar: Simple Past Tense; Past Continuous Tense; Predicate Infinitives Start composition #5 (narration): Write about a trip
12	Review for final composition exam	10-minute continuous writing Vocabulary quiz #5
13	Final composition exam (60 minutes)	Review
14	Return final composition exams	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be given weekly out-of-class homework assignments, which will comprise of grammar exercises and/or writing assignments. All composition assignments must be typed. Students are responsible for completing all homework assignments, even if they are absent. It is important that homework be completed on time. Late assignments will not receive full credit.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required. The instructor will provide all materials.

【参考書】

Composition Practice Book 2 (Third Edition) by Linda Lonon Blanton (Published by Thomson)

An English-Japanese dictionary will be useful.

A good online English-Japanese dictionary can be found here: <http://www.alc.co.jp/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation/effort: 20%
Homework assignments: 10%
Vocabulary notebook/word cards: 10%
Vocabulary quizzes: 10%
Compositions: 30%
Final composition exam: 20%

【学生の意見等からの気づき】

None.

【Outline (in English)】

Students will learn to write a variety of multi-paragraph composition types. This intermediate-level writing course will offer a step-by-step approach for the successful development of English composition skills on a number of familiar everyday topics. The course will also help students improve their written organization, sentence-level grammar, vocabulary, and mechanics. Students will also develop revision skills through self-editing and teacher's comments.

The goals of this writing class are to develop composition skills through the integration of reading and writing activities. Students will learn to write a variety of multi-paragraph composition types on a number of familiar everyday topics.

In the classroom and at home, students will work on exercises and improve succeeding drafts of their composition assignments. Students will also maintain a vocabulary notebook which they may use during the final composition exam. Pair work will be emphasized.

Written feedback will be given on each composition assignment, assessing important features such content, organization, transitions, language use, spelling, punctuation, and presentation.

Class participation/effort: 20%
Homework assignments: 10%
Vocabulary notebook/word cards: 10%
Vocabulary quizzes: 10%
Compositions: 30%
Final composition exam: 20%

LANe300LC

英語中級ライティング

バリー ヘイタ

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Completing practical writing tasks utilizing models of such in order to learn how to organize information most effectively, optimally construct informative paragraphs, and better compose texts according to standard typographical conventions.

【到達目標】

Increased general and technical English writing ability and greater understanding of coherence and development in paragraphs through actual practice in composing drafts as well as rewriting for grammatical correctness and conventions of composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Visual materials are presented for both concise and comprehensive description in an integrated paragraph. The materials include tables, graphs, charts and objects. Some tasks involve reordering sentences to confirm understanding of integration as a necessity.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
First	Paragraph Types	topic, theme, definition, description, directions
Second	Paragraph Types	topic, theme, definition, description, directions
Third	Paragraph Types	topic, theme, definition, description, directions
Forth	Instructions	order, cohesion, caution, and comprehensiveness
Fifth	Instructions	order, cohesion, caution, and comprehensiveness
Sixth	Expositions	classification, constituents, content, and convenience
Seventh	Expositions	classification, constituents, content, and convenience
Eighth	Processes	events, connections, causes, consequences, and conditions
Ninth	Processes	events, connections, causes, consequences, and conditions
Tenth	Listing Features	main/minor points, precedents, and conformity
Eleventh	Listing Features	main/minor points, precedents, and conformity
Twelfth	Interpreting Graphs	comparison, contrast, change, continuity, and conversion
Thirteenth	Interpreting Graphs	comparison, contrast, change, continuity, and conversion
Forteenth	Interpreting Graphs	comparison, contrast, change, continuity, and conversion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Initial sentence reordering tasks and final drafts need to be conducted as individual out of class assignments. Also, those in-class tasks not completed within the period of a particular class session should be done outside the session for submission at the next class.

【テキスト（教科書）】

All practical materials will be provided by the instructor

【参考書】

Any Japanese-English dictionary containing sections on word usages and writing purposes

【成績評価の方法と基準】

Initial Sentence Reordering-15%

Final Draft and Rewriting-15%

First Draft Paragraphs-50%

Class Tasks-20%

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Paper, eraser, blackboard. and chalk

【その他の重要事項】

Regular, alert, and prepared attendance is indispensable for maximum benefit from and optimal contribution to the class

【Caution】

Changes to the content and schedule may be made in accordance with the general rate of class progress and improvement.

【Outline (in English)】

i)To increase general English writing skills.ii)To improve understanding of both typography and content as equally essential elements of composition.iii)To practice the acquisition and ordering of information as preparation for correctly constructing a standard paragraph.iv)To realize the need for editing and rewriting to complete a finished piece of work.

LANe300LC

英語中級ライティング

RYAN HARTLEY

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

例 1：理工系の学生を対象に、アカデミックライティングを紹介する中級コース。

例 2：コースは 2 つに分かれており、最初は理学、次に工学となる。科学・ビジネススタイルのレポート形式の文章を作成することを目標とします。

例 3：毎週、導入から方法論、結果、考察まで段階的に学習します。これらの「サイクル」またはプロジェクトの最後には、レポート形式の文章を作成します。

例 4:生徒はすでに英語の文章にある程度の自信があることが期待されます。

【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and write in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in written English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English.
- B. Become confident in engaging with others in English.
- C. Understand the different parts report writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

例 1:Every seven weeks, students will complete a research project. One on a science topic and one on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

例 2:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 3:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher to develop knowledge of report writing in English.

例 4:At the end of each project 'cycle', students will write a report using the set structure on their research, which will be read by other students and evaluated by the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming class goals.
2	Science report - Introduction	In this class we will be doing activities related to the introduction section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
3	Science report - Methods	In this class we will be doing activities related to the methods section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
4	Science report - Results	In this class we will be doing activities related to the results section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
5	Science report - Discussion	In this class we will be doing activities related to the discussion section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
6	Science report - Conclusion	In this class we will be doing activities related to the conclusion section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
7	Science report - Report 1 Deadline	Final reports due
8	Second half semester goal setting	In this class we will be brainstorming class goals.

9	Engineering report - Introduction	In this class we will be doing activities related to the introduction section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
10	Engineering report - Methods	In this class we will be doing activities related to the methods section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
11	Engineering report - Results	In this class we will be doing activities related to the results section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
12	Engineering report - Discussion	In this class we will be doing activities related to the discussion section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
13	Engineering report - Conclusion	In this class we will be doing activities related to the conclusion section. You will doing half R/L activities and half W/S activities.
14	Engineering report - Report 2 Deadline	Final reports due

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

例 3:Completion of writing tasks on Google Classroom.

【テキスト（教科書）】

"Science research writing for non-native speakers of English" by Hilary Glasman

【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x reports (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark is 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

Outline

例 1:This intermediate level course introduces academic writing to students studying science and engineering.

例 2:The course is divided into two halves, first science then engineering. The goal will be the production of a form of writing in the form of a scientific/business style report.

例 3:Each week we will study in stages, from introduction to methodology to results and discussion. The end of each of these 'cycles' or projects will be the production of a report style piece of writing.

例 4:Students are expected to have some confidence in written English already.

【到達目標】 Goal

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and write in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in written English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English.
- B. Become confident in engaging with others in English.
- C. Understand the different parts report writing.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Work to be done outside of class (preparation, etc.)

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

例 3:Completion of writing tasks on Google Classroom.

成績評価の方法と基準】 Grading criteria

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x reports (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark is 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

LAN f 300LC

フランス語中級リーディング

元木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語読解力の養成

【到達目標】

フランス語検定資格取得、留学などを目標に、フランス語読解能力の向上を図る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語検定試験問題などにあたって、文法のポイントを押さえる。インターネットのフランス語サイトの記事、新聞、シャンソン、映画のシナリオ、文学作品などで、さまざまなフランス語の表現に触れ、長文の読解にあたる。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業紹介	慣用句や熟語表現に注意を払って、文を読む。
第2回	動詞の法	動詞の法を見きわめながら、文を読む。
第3回	代名詞	代名詞の指し示すものを明確にしながら、文を読む。
第4回	前置詞	動詞と前置詞の結びつきに注意をはらいながら、文を読む。
第5回	冠詞と名詞	冠詞と名詞の使われ方に注意を払いながら、文を読む。
第6回	動詞の時制	動詞の時制に注意して、文を読む。
第7回	対話文の読解	対話文を読んで、話の流れをつかむ。
第8回	長文読解	代名詞や、動詞の法と時制に注意して、長文を読解する。
第9回	仏文和訳	さまざまなフランス語表現を翻訳してみる。
第10回	映画のシナリオ	会話体の訳を工夫する
第11回	インターネットでフランス語	フランス語サイトの記事を訳す。
第12回	歴史	フランス・フランス語圏についての観光ガイドブックで歴史を学ぶ
第13回	文学テキスト	フランス語表現の文学作品を読む
第14回	総復習	さまざまな種類の長文読解と訳出を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とします。】

授業で学んだことの定着を図るため、適宜課題を課します。

【テキスト（教科書）】

資料適宜配布

【参考書】

授業中に適宜指示します

【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

シャンソンや、フランス語圏についての映像に触れる機会をできるだけ多くもうけます

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students develop reading skill in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), French certification examination (20%) and in-class contribution (50%).

LAN f 300LC

フランス語中級ライティング

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語作文力の養成と仏検 3 級の受験対策

【到達目標】

フランス語検定資格習得、留学などを目標にして、フランス語で書き、自己表現する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フランス語検定試験問題に当たって、文法のポイントを押さえながら、フランス語で書き、自己表現する練習を重ねる。
インターネットでメールを送ったり、日本についての紹介記事を書いてみる。
そしてそれらの添削を行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。
詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業紹介 慣用表現・熟語	慣用句や熟語を用いて、仏作する
第 2 回	動詞の形 1：動詞の法	自分の習慣についてフランス語で紹介する。 丁寧に依頼する文を書く。
第 3 回	代名詞	日本語との違いに注意しながら、代名詞を用いたフランス語文を構成する。
第 4 回	前置詞	前置詞と名詞、動詞の結びつきに注意して、仏作する。
第 5 回	冠詞と名詞	冠詞と名詞の使い方や結びつきに注意して、仏作する。
第 6 回	動詞の形 2:過去の表現	過去時制を用いて、日記を書く。
第 7 回	動詞の形 3:未来の表現	未来時制を用いて、将来の計画を語る。
第 8 回	疑問文	級友にフランス語で手紙を書き、質問する。
第 9 回	自己紹介する	できるだけ詳しく、フランス語で自己紹介をする。
第 10 回	映画の感想	フランスの映画について、感想や意見を述べる。
第 11 回	メールを書く	フランス語で友人とメールのやりとりをする
第 12 回	注文する	フランス語で注文書を作成する
第 13 回	日本について解説する	フランス語話者に、日本の歴史、社会、文化などをフランス語で解説する。
第 14 回	詩を書く	フランス語で詩やシャンソンを書いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で学んだ事柄の定着を計るため、適宜課題を課します。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 5 0 %、仏語検定 2 0 %、期末試験 3 0 %として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、シャンソンや映像資料に触れる機会を設けます。

【Outline (in English)】

- ① Training of French writing skills and preparation for taking the 3rd grade of French certification examination
- ② Develop the ability to write and express yourself in French with the goal of acquiring French certification and studying abroad.
- ③ We will impose appropriate tasks in order to establish the things learned in class.
- ④ Final grade will be calculated according to the following process, French certification examination (2 0 %), the final exam (30%) and in-class contribution (5 0 %).

LAN f 300LC

フランス語中級コミュニケーションと文化

荻野 イザベル

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語は、フランスを含めたヨーロッパ、そしてアフリカ諸国でも使用される言語です。
フランス語を学びながら、世界へのイメージを広げていきましょう！

【到達目標】

フランス語の会話に親しむための授業です。
勉強しながら、フランス人の生活、料理、文化、社会、歴史などに触れること
になります。
楽しみながら見につけていきましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ビデオ教材にそって、フランスのさまざまな文化と生活を紹介します。
日常生活で便利な表現を身につける練習をします。
個人および複数での発話の機会を作りながら進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介する	parler de soi
2	会話に彩りを	des goûts et des couleurs ...
3	フランスの地方を知る	les régions de France
4	行先を決める	choisir une destination de voyage
5	趣味について語る	quels sont vos loisirs préférés
6	フランスの海外県、海外 領について	la France d'Outremer
7	四季の言葉	à propos des quatre saisons
8	酒盛りの歌	une chanson à boire: Chevaliers de la Table ronde
9	どうしたの？ 困っているときの言い方	J'ai un problème ...
10	お菓子とケーキの紹介	Qu'est-ce que vous prenez comme dessert?
11	フランスの美食と食べ方	la gastronomie française et les manières de table
12	フランスの祭り	le calendrier des Fêtes
13	電話での会話	au téléphone: allô, allô?
14	お正月をめぐる	coutumes du Nouvel An

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
簡単な予習と復習を出します

【テキスト（教科書）】

音声ペンで学ぶフランス語入門 パリの街角で

A Paris ... avec un stylo magique

Fumitaka Ogino / Isabelle Ogino

両風堂、2015 年 2800 円

【参考書】

地球の歩き方フランス ダイアモンド・ビッグ社：

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % 期末試験 40 % として総合的に評価します。

授業への積極的な参加を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

HOPPII に自然なフランス語の発音に馴染めるように新しい「教材」の URL
をアップしました。

【Outline (in English)】

This course is designed for improving your general communication skills
in French.

The level will be adjusted according to students' needs.

As a world language, French will give you access to a multiplicity of
cultures. Let's open a window into the French-speaking world!

LANe100LC

上級英語

ALDER mark

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class will be divided into two sections: 1) story telling and daily conversation.

【到達目標】

The first half of this class aims to develop the students awareness of how to enhance and extend conversations. The second focusses on longer story telling techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and explaining reasons (support) for opinions. Feedback will be provided to the class through (light)debate and discussion, as a class. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Techniques for handling introductions and increasing interest levels
2	Attitudes	Students will discuss memories, likes and dislikes
3	Money	Talking about lifestyle choices
4	Health	Questioning advice
5	Dating	How to meet and what to talk about
6	Bullying/harrassment	DVD listening and storytelling
7	Crime	Discussions of punishments
8	Consolidation of previous vocabulary lists	Increase daily vocabulary usage
9	Violence	making excuses, discussing world issues
10	DVD- the strange and unusual	Group writing summary
11	Economics	Starting a business
12	Happiness	Compliments and complaints
13	Globalization	Debating solutions for the future
14	Final storytelling	Consolidation of vocabulary and question periods

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 Some creative writing tasks will be assigned as well as some vocabulary consolidation.

【テキスト（教科書）】

Communication Strategies 2

David Paul

Cengage publishing

ISBN:978-981-4232-62-3

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

midterm assessment 30%

Final assessment 30%

Weekly assignments and homework 40%

【学生の意見等からの気づき】

Feedback sessions will be more in-depth.

【学生が準備すべき機器他】

Electronic dictionary

notebook

【Outline (in English)】

In the first half of this class the goal will be to pair work and small group conversation, with emphasis on enhanced conversation techniques. The second half will enhance students storytelling abilities.

The learning objectives of this class will develop the students awareness of how to enhance and extend conversations. The second learning objective will focus on longer story telling techniques.

This class will be student centred, largely focusing on pair work and group work(socially distanced). There will also be text based learning, focusing on vocabulary and explaining reasons (support) for opinions.

Feedback will be provided to the class through (light)debate and discussion, as a class. Individual feedback will also be offered for oral communication as well as written opinion pieces.

Learning objectives outside of the classroom will be to prepare summaries of current events and bring them into discussions in class. Also, students will be asked to watch some video content and create opinions and summaries.

Grading Criteria:

midterm assessment 30%

Final assessment 30%

Weekly assignments and homework 40%

LANs100LC

上級スペイン語

日高 憲三

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語はスペインのみならず南北アメリカ諸国でも話されており、その話者人口は4億人を超えています。このクラスではスペイン語の基本を学びつつ、魅力あふれるスペイン語圏の世界に皆さんを誘います。

【到達目標】

スペイン語の試験で最終的に「良い点」を取っても、それが単に試験で良い点を取るための勉強の結果だったり、卒業の「単位のため」だったら、少々むなしいですね。まあ、その気持ちはわかりますが…。まずは授業を通して「スペイン語を身につけて〇〇国に行ってみたい、〇〇をしてみたい」など主体的な目的意識が芽生えることを願っています。そうすれば、スペイン語の実力は自然と身につくものです。

尚、この時間はスペイン語検定対応クラスに指定されています。5級、6級の受検、合格を目指して頑張りましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このクラスはスペイン語科目を履修した人が対象です。昨年度はオンライン授業でしたので、今年度の対面授業では教科書に沿って文法事項や会話表現など、基礎的なことを復習しながら、新たな気持ちでゆっくり学んでいく予定です。同時にスペイン語が話されている国々の文化や社会、そこで暮らす人々に対する理解を深め、社会や文化の多様性を実感しながら、グローバルな感覚を養成していきたいと思います。また授業終了後はリアクションペーパーを提出し、適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、スペイン語世界の魅力再発見！	スペイン語はどんな言語か、スペイン語を学ぶと、どんな世界が広がるか、どんな楽しいことが待っているか。
第2回	教科書第1課	アファベット、母音、子音
第3回	教科書第1課	音節の分け方、アクセントのルール
第4回	教科書第2課	名詞の性、名詞の数
第5回	教科書第2課	冠詞、形容詞
第6回	教科書第3課	主格人称代名詞、ser 動詞
第7回	教科書第3課	文の構造、指示語
第8回	教科書第4課	estar 動詞、所有形容詞
第9回	教科書第4課	Hay の用法、Hay と Estar の比較
第10回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第11回	教科書第5課	直説法現在形・規則動詞
第12回	教科書第6課	現在形不規則動詞1
第13回	教科書第6課	直接目的格人称代名詞
第14回	教科書第7課	現在形不規則動詞2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

NHK のテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」の視聴をおすすめします。その効果的な活用方法については授業中に説明します。また自分の興味のある国や地域、関心のあるテーマ（世界遺産、音楽、ダンス、民族衣装、食文化など）について積極的に調べたり体験、体感することをおすすめします。

【テキスト（教科書）】

「改訂版エスピギータ-実りのスペイン語」岡田敦美、那須まどり著、朝日出版社（2022年）2300円

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業ではNHKのテレビ語学講座「旅するためのスペイン語」を活用しつつ、独自の課題を出して調べ学習をしてもらいました。これまでの対面授業の時よりも積極的に、また主体的にスペイン語に取り組むケースが多く見受けられ、私自身びっくりしました。「英語は苦手が好きではないが、スペイン語に大きな魅力を感じた」、「これまで知らなかったスペイン語圏の世界を知ることによって自分の視野が確実に広がった」、「コロナが終息したら絶対にスペイン語圏に行く！」など、スペイン語、スペイン語圏の文化や社会に対するポジティブな意見が多く寄せられました。今後も皆さんの目線に立ちながら、より良い授業ができるよう私自身も研鑽を積んでいきたいと思っています。

【Outline (in English)】

This is a Basic Spanish class for Global education.

Spanish is used widely in Latin America and English is not a common language. Learning Spanish can help you expand your vision of the world!

LANd100LC

上級ドイツ語

高橋 完治

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実践的な言語使用の観点のもとに文法の知識と語彙を拡充し、多くの表現を学んで、ドイツ語運用能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

日常のさまざまな場面においてドイツ語でやりとりできる。簡単な内容のエッセイなどの文章を読んで要点をつかむことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

視覚教材を活用した語彙・表現の導入と文法事項の提示・解説の後、文法問題、パートナーとのやりとり、聞き取り、ひな型に沿った作文、Lesetext から必要な情報を取り出すなど、種々の課題をこなしてドイツ語運用能力を鍛える。提出された答えは添削し、コメントを付して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	病気	いかなる症状がいつからあるのかを述べる
2	過去の事（1）	子供の頃の願望や禁止されていたことなどを話す
3	物を選ぶ／知覚動詞と使役動詞	「どの～？」「どんな～？」の表現／知覚動詞と使役動詞の構文
4	過去の事（2）	町並みの変化を語る
5	zu 不定詞（句）	したい事・したくない事や目的を表現する
6	街の中を移動する	場所の前置詞についての知識を増やし、道順の説明能力を高める
7	体の手入れ	再帰代名詞を学び、入浴や歯磨きなど身体衛生について話す
8	関心	「何に興味がある？」「何を楽しみにしている？」など関心の対象を聞き合う
9	問題と助言	相手の抱えている問題に助言する／要請を伝える
10	外交的接続法	礼儀正しい言い方を学ぶ
11	従属接続詞	従属接続詞を学び、理由を述べたり仮定を立てたりする
12	形容詞の付加語的用法	誕生日を訊く・答える／形容詞の格変化を学び、物や人を描写する
13	比較	いろいろな観点から事物を比較する
14	Was kann ich schon?	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業の後、学習事項を振り返る。音声教材に繰り返し接し、発音の質や聞き取り能力の向上に努める。

【テキスト（教科書）】

新倉・正木・中野『シュピッツェ！ 2』（朝日出版社）

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）にテストの成績（40%）を加えて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業の続編を望む声が寄せられたのは喜ばしい。

【Outline (in English)】

This course is intended to further teach students many common expressions as well as build on their grammatical knowledge and vocabulary from the viewpoint of practical language use in order that they can achieve German language ability at an advanced level. By the end of the course, students should be able to do the following:

- Make themselves understood and find out information in a variety of common situations

- Understand the main points of texts such as easy essays

After each class meeting, students will be expected to review learning content, listen to the native speakers on audio and talk along with them.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on usual performance score (60%) and term-end examination (40%).

LAN f 100LC

上級フランス語

元木 淳子

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語運用能力の総合的開発。

【到達目標】

フランス語運用 4 技能を総合的に開発する。
 フランス・フランス語圏について認識を深める。
 インターネットのフランス語サイトで情報を取得する。
 フランス語検定資格取得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

検定試験問題を解く。
 インターネットのフランス語サイトなどで、フランス・フランス語圏についての情報を取得して、発表し、議論する。
 授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーについて講評し、全体に対してフィードバックを行う。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介 名詞・代名詞	受講者が関心を抱くフランス・フランス語圏の事象について語る。 フランス語の名詞・代名詞について整理する。
2	冠詞・前置詞	定冠詞・不定冠詞・部分冠詞・前置詞について整理する。
3	第 1 群規則動詞	第 1 群規則動詞直説法現在の活用についてまとめ、仏作する。
4	第 2 群規則動詞・不規則動詞	第 2 群規則動詞、主な不規則動詞の直説法現在形についてまとめ、仏作する
5	代名動詞	代名動詞の直説法現在の活用と用法についてまとめ、仏作する
6	比較の表現	比較級・最上級の表現を整理し、仏作する。
7	疑問の表現	疑問文のパターンを整理し、疑問代名詞、疑問副詞、疑問形容詞についてまとめ、仏作する。
8	過去の表現：複合過去形	過去分詞・直説法複合過去形についてまとめ、仏作する。
9	未来の表現	直説法単純未来形についてまとめ、仏作する
10	過去の表現：半過去形	直説法半過去についてまとめ、仏作する
11	ジェロンディフ	現在分詞・ジェロンディフについてまとめ、仏作する。
12	条件法	条件法現在形の活用と用法についてまとめ、仏作する。
13	接続法	接続法現在形の活用と用法についてまとめ、仏作する。 フランス・フランス語圏について調べ、フランス語の資料を読む。
14	まとめ	フランス・フランス語圏について調べ、フランス語で作文し、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
 インターネットのフランス語サイトで、フランス・フランス語圏について調べます。

【テキスト（教科書）】

資料適宜配布

【参考書】

適宜指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %
 検定試験などへの取り組み 20 %
 期末試験 39 % として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

フランス・フランス語圏についてのビデオ映像、映画、シャンソンなどに触れる機会を設けます

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students develop reading and writing skills in French.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end examination (30%), French certification examination (20%) and in-class contribution (50%).

LANc100LC

上級中国語

東 会娟

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎知識を身につけている学生を対象とした中国語の授業である。読む・聞く・話すなど中国語の実践的運用能力の養成を目指す。

【到達目標】

中国語の読解能力および口頭表現能力の向上を目的とする。中国語で書かれた文章を読みこなすこと、また、内容について自分の意見が言えるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を進めるが、3 年次に中国語を選択しなかった学生の履修も歓迎する。

この授業では激動する中国の今を最新の記事と共に学び、厳選されたトピックスの読解を通じて自己表現力の向上を目標とする。

オンライン授業の場合、提出された課題を次の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のすすめかたについての説明を行う。
第 2 回	程永華大使より日本の若者へ贈る言葉	中国語のスピーチの表現と理解
第 3 回	二大「国民的料理」は今	中国料理と表現
第 4 回	AI が学校にやってきた	中国語の情報技術の表現
第 5 回	仕事に生きるか、人として生きるか	中国人の仕事観
第 6 回	宅配便で中国人の暮らしが一变	今風の生活をどう語るか
第 7 回	仮面家族がなぜ人気？	家族関係をどう語るか
第 8 回	呼び名に見る人間関係と社会の変化	社会生活の理解
第 9 回	茶葉古道の里——プーアル茶からコーヒー豆へ	話題のネタを作りましょう
第 10 回	都市こぼれ話	急速に変化している都市風景
第 11 回	中国マネーが日本の中小企業を救う	日中経済を理解しましょう
第 12 回	中国、総フィットネス時代へ	スポーツとその用語
第 13 回	北朝鮮へのノスタルジー・ツアー	国際関係の実態と表現
第 14 回	まとめとふりかえり	まとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とします。教科書についている CD を聞くなど予習して下さい。

【テキスト（教科書）】

時事中国語の教科書 2020 年度版 全民健康（CD+音声ダウンロード付）三瀧正道、陳祖蓓、古屋順子

【参考書】

『月刊聴く中国語』HSJ

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席＋課題）50 %、期末試験 50 % で合算して成績評価を行う。中国語の各種検定試験の受験による加点がある。

【学生の意見等からの気づき】

時事情報を多く取り入れるようにする。

【Outline (in English)】

This course is offered to the students who have learned the basics of the Chinese language. According to the students' level, it enhances vocabulary and grammar, and also cultivates skills to operate the Chinese language. Grading will be decided based on usual performance score (50%) and term-end examination (50%).

LANk100LC
上級朝鮮語

魏 聖鎔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：楽しく韓国語を学ぼう

【到達目標】

このコースは、韓国語の高度な能力を習得するために、多くの一般的な表現をさらに教え、実際の言語使用の観点から文法的な知識と語彙を構築することを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業形態については、学習支援システムでその都度提示する。提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

ハングル 5 級から 4 級レベルの文法・単語・表現を学習しながら、日常の会話に活用できるような授業を展開していきます。読む・聞くのインプット学習と「文を書く」・「自分で思ったことを話す」アウトプット学習がうまくリンクできるように、ペアワーク、グループワークも多く取り入れて授業を行います。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体の授業のガイダンス	自己紹介 前期の復習、後期の授業について
2	外来語 とアルファベット	表現：－（ ） ／動詞語幹＋てください（ / と（ ） の違い） 韓国の名所：水原 単語練習：外来語
3	アルファベットの表記について	／会話練習：音読コーナー：新大久保とホットク 異文化紹介：韓国の匙と箸
4	慶州旅行 ようだ、そうだ水量表現：（ ）	／ 問接法法の中での「依頼」表現： / 韓国の名所：慶州 / 単語練習：交通機関 / 応用コーナー：建物とマップ
5	変則の学習	短文: アルバイト / 異文化紹介：カルビとプルゴギ
6	ホワ イトクリスマス 表現（ ） 「－＋形容詞」	「－＋形容詞」表現： / 韓国の名所：安東 単語練習：スポーツ
7	韓国映画	会話練習：美味しいパン屋さん 美味しいパン屋へ行く行き方 / 異文化紹介：韓国のデリバリー文化
8	総復習とおさらい	ハングル能力検定試験 5 級& 4 級について
9	ソウ ルタワーと東京タワー ／ 原因・理由、事柄 の順序	表現： / / （し）たことがある/ない 韓国と日本の名所：ソウルタワー&東京タワー 単語練習：果物
10	疑問代名詞と縮約形 変則	変則の学習 応用短文：道を教える / 異文化：韓国のアパート（マンション）
11	釜山で買 い物 / （し）てもよい ／	表現：－ /－,－ 韓国の名所：釜山 単語練習：野菜
12	色、服装を表す表現について ／ 変則	変則の学習 音読コーナー 応用短文：;私が好きな色 / 異文化紹介：韓服と着物
13	韓国 語スピーチ大会 ／－て いる 2 -	逆接表現 / 韓国と日本のことわざ / 韓国の名所：仁川 単語練習：装身具、アクセサリー
14	まとめ。	まとめ。 韓国紙幣の人物 / 新幹線と富士山 ／異文化紹介： ソウル城郭

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】音声付きテキストなどで、耳に慣らすことをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

『韓国と日本くらべて学ぶ中級韓国語』 魏 聖鎔 朝日出版社

【参考書】

辞書は『朝鮮語辞典』（小学館）をはじめ、『コスモス朝和辞典』（白水社）、『韓日辞典』（民衆書林出版／三修社販売）・『ポータブル日韓・韓日辞典』（小学館）を勧めますが、電子辞書の方もお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

クラスの総合成績は、以下に基づいて決定されます。

クイズ 10 %

中間試験 20 %

まとめ 30 %

課題 20 %

クラス貢献 20 %

合格点は 60 以上です。

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %

Midterm exam 20 %

Finals 30 %

Assignment 20 %

Class contribution 20 %

A passing score is 60 or up.

【学生の意見等からの気づき】

楽しく、継続すれば、自分のものになる！

韓国の会話をより楽しもう！

【学生が準備すべき機器他】

赤色のペン

【Outline (in English)】

Advanced Korean

Students will increase their Korean reading comprehension ability with different forms of language, oral expression ability and their practical ability to deal with various situations. This course is intended to further teach students many common expressions as well as build on their grammatical knowledge and vocabulary from the viewpoint of practical language use in order that they can achieve Korean language ability at an advanced level.

One hour is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this lesson] It is recommended to familiarize yourself with the text with audio.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Quiz 10 %

Midterm exam 20 %

Finals 30 %

Assignment 20 %

Class contribution 20 %

A passing score is 60 or up.

LANc300LC

中国語中級リーディング

東 会娟

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年生を対象とした中国語の授業である。既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を行う。中級レベルの文法事項を学習しながら、実践的な中国語コミュニケーション能力を身に付ける。

【到達目標】

実践的な中国語会話がができるのに加え、ある程度まとまった分量の文章を読むことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期開講の「中国語中級コミュニケーションと文化」と通年で1冊の教科書を使用する。この授業では教科書の前半部分を使う。
オンライン授業の場合、課題へのフィードバックは基本的に次の授業内で解答を提示する形で行う（質問も授業内で全体共有する）が、大きく修正が必要な場合や提出漏れがある場合は個別にメールで連絡することがある。
また、教科書の内容とは別に、中国事情や文化を紹介するミニコーナーを設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方。
第1回	第1課 大学生活	ポイント
第2回	第1課 大学生活	生詞 課文 ドリル
第3回	第2課 大学の作息時間	ポイント
第4回	第2課 大学の作息時間	生詞 課文 ドリル
第5回	第3課 早飯	ポイント
第6回	第3課 早飯	生詞 課文 ドリル
第7回	第4課 喝茶	ポイント
第8回	第4課 喝茶	生詞 課文 ドリル
第9回	第5課 飲食	ポイント
第10回	第5課 飲食	生詞 課文 ドリル
第11回	第6課 生活習慣	ポイント
第12回	第6課 生活習慣	生詞 課文 ドリル
第13回	試験試験	期末試験
第14回	第7課	交通

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とします。】授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。
課が終わるごとに課題を学習支援システムに掲載しますので、回答し提出してください。

【テキスト（教科書）】

『ことばと文化 “一挙兩得” 中級中国語』朝日出版社、2017年

【参考書】

『中国語エッセイ 小点心～あつさり味の日中文化論』NHK出版、2005年
『月刊聴く中国語』HSJ

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席＋課題）50％、期末試験50％で合算して成績評価を行う。中国語の各種検定試験の受験による加点がある。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ授業中に練習する機会を多く持ちたいと考えている。

【その他の重要事項】

各種中国語検定試験を受ける予定のある学生に対して個別対応を行う。

【Outline (in English)】

This course is offered to the third graders who have learned the basics of the Chinese language. It deals with intermediate level grammatical issues, and also enhances practical Chinese communicational skills.

Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on usual performance score (50%) and term-end examination (50%).

LANc300LC

中国語中級ライティング

呉 曉林

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が自ら表現し、発信する立場から中国語を捉え直し、今まで習ってきたさまざまな文型・語彙、表現を日常生活のいろんな場面を想定してアクティブに使う訓練を行います。

【到達目標】

学習者がアプリとソフトを活用して確実に中国語で自分の身近な話題を発信できることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業ではスマホ、ノート PC などを使う書き読みの練習を行います。
手本となる文章をベースに模倣・書き換え練習を通して、中国語の文章力を着実に習得します。文章能力の基礎となる口頭表現の能力を重視し、文体的には書き言葉よりも話し言葉のほうに重点を置きます。

中国人のコミュニケーションツールとしてのスマホ・アプリケーション「微信」(WeChat) や LINE などを使用し、翻訳ソフトも活用していきます。

提出された課題のうちいくつかを次回の授業で取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画と学習方法の紹介、アプリとソフトの案内。
2	自己紹介と趣味	学校生活、趣味について書く。
3	私の家庭と日常生活	家族紹介、アルバイトについて書く
4	インターネットと私	インターネットの利用状況について書く
5	中国の大学を知る	情報収集して大学や教育に関する表現を習う。
6	日本の大学（法政大学）を語る	大学についての日本語記述を参考にし中国語で表現記述する。
7	私の学科と専攻	学科の教育内容、取り組んでいる学習や研究について作文する。
8	日本はこんな国！	日本の概況を中国語で記述する。
9	旅行	旅行の見聞についての記述。
10	食事会	表現の学習と日本の食文化について書く
11	冬休み	休みの予定について書く。
12	留学	将来の夢を語る
13	期末学習発表	学生が書いた作文を口頭で発表する。
14	期末レポートと学習の総括	文法と誤用例の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とします。】学生は基本的な中国語簡体字の読み書きを身につけ、教科書についている CD を授業前と後に聞いてみてください。中国語を使ってインターネットを利用してみてください。パソコンの中国語入力法を覚えてみてください。

【テキスト（教科書）】

劉穎・柴森・小沢正人著『2 冊目の中国語（講読クラス）』白水社 2013 年

【参考書】

池上貞子ほか著『新中国ってこんな国！-日々は変化』
池上貞子ほか著『中国ってこんな国！-素顔の漢流生活』
郭 春貴著『誤用から学ぶ中国語』白帝社
相原茂著『作文ルール 66 日中翻訳技法』朝日出版社

【成績評価の方法と基準】

受講状況と作文宿題などの平常点は 50%、学習発表 30 %、期末レポートは 20 % とします。

【学生の意見等からの気づき】

積極的にアプリやソフトの使い方を習いましょう。
実験、課題など取り組まなければならないことが多い中で、効率的な学習を如何に工夫するのか、一緒に考えていきたい。ライティングはリーディングと連動して、読み方の練習や表現の習得をきちんとやってみてください。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンやスマートフォンを授業に持参すること。

【Outline (in English)】

The course aims to help students develop their language skills. Students actively practice writing in a variety of imaginary daily scenarios using the sentence patterns and vocabulary they have learned. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Assignments are graded based on reading and writing materials (50%), presentations (30%), and short reports (20%).

LANc300LC

中国語中級コミュニケーションと文化

東 会娟

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3年生を対象とした中国語の授業である。既に中国語の基礎を習得していることを前提として授業を行う。中級レベルの文法事項を学習しながら、実践的な中国語コミュニケーション能力を身に付ける。

【到達目標】

実践的な中国語会話ができるように加え、ある程度まとまった分量の文章を読むことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期開講の「中国語中級リーディング」と通年で1冊の教科書を使用する。この授業では教科書の後半部分を使う。オンライン授業の場合、課題へのフィードバックは基本的に次回の授業内で解答を提示する形で行う（質問も授業内で全体共有する）が、大きく修正が必要な場合や提出漏れがある場合は個別にメールで連絡することがある。また、教科書の内容とは別に、中国事情や文化を紹介するミニコーナーを設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第7課 交通	生詞 課文 ドリル
第2回	第8課 校園節	ポイント
第3回	第8課 校園節	生詞 課文 ドリル
第4回	第9課 体育	ポイント
第5回	第9課 体育	生詞 課文 ドリル
第6回	第11課 方言	ポイント
第7回	第11課 方言	生詞 課文 ドリル
第8回	第12課 飯桌上的習慣	ポイント
第9回	第12課 飯桌上的習慣	生詞 課文 ドリル
第10回	第13課 過年	ポイント
第11回	第13課 過年	生詞 課文 ドリル
第12回	第14課 年輕人的婚事	ポイント
第13回	期末試験	期末試験
第14回	第14課 年輕人的婚事	生詞 課文 ドリル

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とします。】語学を身につけるには反復練習が重要です。授業で習った文章をできるだけ多く声に出して練習するようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ことばと文化 “一挙兩得” 中級中国語』朝日出版社、2017年

【参考書】

『中国語エッセイ 小点心～あつさり味の日中文化論』NHK出版、2005年
『月刊聴く中国語』HSJ

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席＋課題）50％、期末試験50％で合算で成績評価を行う。中国語の各種検定試験の受験による加点がある。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ授業中に練習する機会を多く持ちたいと考えている。

【その他の重要事項】

各種中国語検定試験を受ける予定のある学生に対して個別対応を行う。

【Outline (in English)】

This course is offered to the third graders who have learned the basics of the Chinese language. It deals with intermediate level grammatical issues, and also enhances practical Chinese communicational skills.

Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on usual performance score (50%) and term-end examination (50%).

LANc200LC

中国語中級

渡辺 浩司

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は基礎中国語を学習した学生を対象としています。教科書を利用し、「読む」・「話す」・「書く」ことを練習し、中国語の基礎力を固め、着実に中国語のレベルアップを図ります。

【到達目標】

(1) 正確な発音を身につけること、(2) 中国語の語順と基本的な構造をきちんと理解すること、(3) 基礎的な中国語を聞いて理解できること、(4) 日常的な話題について中国語で表現できること、を目標とします。
6 月後半に実施される中国検定試験で、準 4 級以上を取得できるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

少しまとまった文章に触れつつ、内容理解、発話練習、作文練習を行い、すでに学習してきた内容を定着させ、無理なく新しい内容を勉強します。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲載します。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと発音復習 (第一、二課)	授業計画 声調・単母音・複合母音 子音 (1)・第三声
第 2 回	発音復習 (第三、四課)	子音 (2)・“不”の変調 鼻母音・兒化音・“一”の変調
第 3 回	復習 1・あいさつ用語・ 教室用語	ピンイン表記上の注意点・数字 (年月 日・曜日)・確認テスト あいさつ用語、教室用語
第 4 回	第五課	“是”の用法・動詞述語文・形容詞述語 文・構造助詞“的”・疑問文
第 5 回	第五課	人称代詞・本文・練習
第 6 回	第六課	量詞・日時の語順・名詞述語文・前置 詞“在”・“在”の用法
第 7 回	第六課	指示代詞・本文・練習
第 8 回	第七課	助動詞“会”・助詞“了”・前置詞“在”・ 助動詞“想”・連動文
第 9 回	第七課	時刻・本文・練習
第 10 回	第八課	前置詞“离”・前置詞“从”“到”・助詞“ 的”・“是…的”構文・数量補語
第 11 回	第八課	回数・本文・練習
第 12 回	第九課	助動詞“能”・助動詞“可以”・助動詞“ 要”・動詞の重ね型・方向補語
第 13 回	第九課	方向補語・本文・練習
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストについている CD を十分に活用し、通学時にも何度も聴くくらいの努力を重ねてほしい。CD を活用した予習と復習は、文の暗記、暗唱にも大きな効果がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『すぐよめる中国語 改訂版』胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016 年。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 % で評価します。
中国語検定試験の受験者および合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。
毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットを利用できる環境

【その他の重要事項】

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This is a class for students who have already learned basic Chinese pronunciation and short sentence structure.

This course focuses on pronunciation, listening, expression and composition practice in order to cultivate verbal expression and listening ability.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANc200LC

中国語表現

渡辺 浩司

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は基礎中国語と中国語中級（前期）を学習した学生を対象とします。文章を読む・書くために必要な基本表現を身につけ、読解力と表現力の強化を図ります。

【到達目標】

中国語の文章表現を口（声に出して読める）、音（耳から聴きとれる）、手（漢字と単語を書ける）ようにマスターすることを目指します。
3月に実施される中国語検定（4級）の合格を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教材の文章を題材に、音読、リスニング、作文と翻訳の訓練を通して、基本的表現を習得します。また、必要に応じて中国語検定（4級）対策も行います。受講者の理解を優先しますので、下記の授業計画通りには進まない可能性があります。

小テストを実施した場合は返却・解答し、最終授業で実施する期末テストは、後日、総評を学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと復習2	授業計画 文法のまとめ・確認テスト
第2回	第10課	動態助詞“了”・構造助詞“得”・兼語文・“ ☐ ”の用法・疑問詞の用法
第3回	第10課	疑問詞・離合動詞・本文・練習
第4回	第11課	接続詞“要是”・動態助詞“了”・二重目的語・助詞“着”・語気助詞“吧”
第5回	第11課	方位詞・乗り物・本文・練習
第6回	第12課	“因 ☐ ～，所以…”・構造助詞“地”・結果補語・“把”構文・助詞“着”
第7回	第12課	結果補語・本文・練習
第8回	第13課	前置詞“比”・“ ☐ 沒有 ☐ ”・“被”構文・“一～，就…”・助動詞“会”
第9回	第13課	病気・天候・本文・練習
第10回	第14課	“快要～了”・“一点儿都（/也）”＋否定文・二つの“了”の併用・お金の言い方・可能補語
第11回	第14課	可能補語・通貨・本文・練習
第12回	復習3	文法のまとめ・確認テスト
第13回	第10課からの応用練習	第10課～第14課の文法や単語を利用した作文
第14回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各2時間を標準とします。教科書付録のCDを活用して、授業で学んだ教科書各課の新出単語や会話文、短文などの音読の反復練習をしてみましょう。NHKで放送される「テレビで中国語」や中国語のドラマ・映画を見てみましょう。中国語語学関連の携帯アプリも使ってみましょう。

【テキスト（教科書）】

『すぐよめる中国語 改訂版』胡金定・吐山明月著、朝日出版社、2016年。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 %で評価します。
中国語検定試験の受験者および合格者はそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ分かりやすく、全員が理解できるような授業を目指します。
毎回、出席者を複数回（なるべく多く）指名し、発音練習してもらうことも目指します。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットを利用できる環境

【その他の重要事項】

「学習支援システム（HOPPII）」を利用して、授業外でも質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

This is a class for students who have already learned "Intermediate Chinese".

This course will focus on Chinese pronunciation, how to read pronunciation notation, reading and writing kanji(simplified letters),and provide practice applying basic vocabulary, grammar and conversation patterns. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

LANe100LC

ビジネス英語

早船 由紀見

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本や世界の企業について書かれた英文テキストを読解し、ビジネス関連の用語や企業について学ぶ。リーディングが中心となるが、テキストから得た知識を基に、企業のことや自分の考えを英文にまとめる練習も行う。

【到達目標】

ビジネスの世界では何が行われているのかを知り、その世界に必要な英語は何かを理解すること、そしてそれを使うことができるようになるためにはどのような勉強が必要であるかを知ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

日本や海外の企業のビジネスの現場についての長文を読み、内容を理解する。その中でビジネス英語の基本を習得する。次に、その企業について得た知識を英文にまとめていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1. Zara's Recipe for Success	・ About Zara ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 2 回	Unit 2. Airbnb's Challenge and New Direction	・ About airbnb ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 3 回	Unit 3. Augmented Reality Ecosystem in Facebook	・ About Facebook ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 4 回	Unit 4. Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One Step Closer	・ About Adidas ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 5 回	Unit 5. At Toyota, the Automation Is Human-Powered	・ About Toyota ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 6 回	Unit 6. How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand	・ About Starbucks ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 7 回	Unit 7. McDonald's Modern Marketing Methods	・ About McDonald ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 8 回	Unit 8. How TED Evolves and Where It Wants to Go Next	・ About TED ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 9 回	Unit 9. Why Amazon Is the World's Most Innovative Company	・ About Amazon ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 10 回	Unit 10. Sony Comes Back from the Brink	・ About Sony ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 11 回	Unit 11. IKEA's New Business Move for Millennials	・ About IKEA ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 12 回	Unit 12. How Google Has Changed the World	・ About Google ・ Vocabulary ・ Reading ・ What do you think?
第 13 回	まとめ (1)	・ Companies ・ Vocabulary ・ What do you think?

第 14 回 まとめ (2)

・ Companies
・ Vocabulary
・ Reading

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】リーディングの予習。Vocabulary の意味と発音。

【テキスト（教科書）】

「Challenges of Global enterprises」
Kayoko Shiomi, Kazumi Tsutada, Angus McGregor 著（金星堂）

【参考書】

各企業の英語ウェブサイト。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度：30%

授業内演習：30%

期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の意向をよく聞いて、授業を進める。
課題へのフィードバックを行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on improving the English reading skills through reading various texts regarding Japan and overseas companies. Students also learn to write their opinions and knowledge.

【Learning Objectives】

To learn about what has been done in the business world and what kind of English is used in such a business world.

【Learning activities outside of classroom】

- Review of the class

- Assignments

- Next class preparation

【Grading Criteria/Policy】

Active participation in class 30%

In-class quizzes 30%

Final test 40%

LANe100LC
英語資格試験準備講座

宗像 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法と読解に焦点をあて、TOEIC テスト・リーディングおよびリスニングのスコアアップを目指す準備講座である。

【到達目標】

英文法の基本を理解し、リーディング問題とリスニング問題が解けるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 講義では主に【Best Practice for the TOEIC L&R Test（以下、BP）】を教科書として使用する。

①講義前半では教科書の単元に沿って、講義の冒頭でその単元のキーポイントを講師より説明する。

②教科書の各パートの問題を解く。答え合わせをしながら、講師より各問題の解き方を説明する。

③リーディングについては、必要に応じて文法の説明をする。

2. 講義後半で使う教科書【Listening Explorer for the TOEIC Test（以下、LE）】

①指定された範囲の問題を、講義前に解く。

②講義後半で、これらの問題と解答について解説する。

※記事の分量、内容、受講者の理解度に応じ時間配分を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の方針説明
第 2 回	【BP】 Unit 1 : Restaurants (人称代名詞)	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 3 回	Chapter 1 : College 【BP】 Unit 2 : Entertainment (不定代名詞)	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 4 回	Chapter 2 : Office 【BP】 Unit 3 : Business (現在・過去の時制)	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 5 回	Chapter 3 : Restaurant 【BP】 Unit 4 : The Office (現在完了)	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 6 回	Chapter 4 : Hotel 【BP】 Unit 5 : Telephone (前置詞 [時・期間])	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 7 回	Chapter 5 : Airport 【BP】 Unit 6 : Letters & E-mails (前置詞 [位置・場所])	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 8 回	Chapter 7 : Supermarket 【BP】 Unit 7 : Health (数量形容詞)	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
	Chapter 8 : Hospital	解説

第 9 回	【BP】 Unit 8 : The Bank & The Post Office (自動詞と他動詞) 【LE】 Chapter 9 : Train Station	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 10 回	【BP】 Unit 9 : New Products (接尾辞と品詞—形容詞) 【LE】 Chapter 10 : Post Office	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 11 回	【BP】 Unit 10 : Travel (接尾辞と品詞—副詞) 【LE】 Chapter 11 : Art Museum	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 12 回	【BP】 Unit 11 : Daily Life (分詞構文) 【LE】 Chapter 13 : Studying Abroad	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 13 回	【BP】 Unit 12 : Job Applications (比較) 【LE】 Chapter 14 : Business Trip	【BP】 キーポイントの説明、問題演習、文法解説 【LE】 解説
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】

テキスト・配布資料の予習と復習は不可欠。日常的に英語ニュースや洋書に親しんでおくとなおよい。

【テキスト（教科書）】

① Yoshizuka, Hiroshi, et al. Best Practice for the TOEIC Test: Intermediate. 成美堂, 2022. 定価 2,750 円。978-4-7919-7253-1。

② Ishii, Takayuki, et al. Listening Explorer for the TOEIC Test. 成美堂, 2016. 1,300 円＋税。978-4-7919-4790-4。

【参考書】

英和辞書、和英辞書を持参する。講義中のみならず、予習時や復習時にわからない単語があれば、すぐに辞書を引くように習慣づけること。各回のテーマの参考資料は、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験 (45%)
2. 小テスト (35%)
3. 貢献と姿勢 (20%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

授業計画は予定であり変更されることもあります。

【Outline (in English)】

1. 授業概要 (Course outline)

This course is designed to help students prepare for the listening and reading sections of the TOEIC Test, focusing on grammar and comprehension.

2. 到達目標 (Learning Objectives)

Students are to acquire basic knowledge of English grammar and to be able to solve reading and listening sections of the TOEIC tests.

3. 授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)

※ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Preparation and review are essential. The lecturer recommended that students should be familiar with newspaper articles and books that are written in English on a daily basis.

4. 成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 45%, Quiz: 35%, In-class contribution: 20%.

LANe100LC

生命機能学基礎英語 I

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、常重 アントニオ、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学の世界では英語が共通語である。新しい発見はすべて英語で報告されるため、生命科学を学ぶには科学英語の能力向上が必須である。著名な生物学の教科書を読解することで、科学を英語で理解するための基礎的能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

生物学のさまざまな分野に関する英文テキストを詳細に読解し、その科学的内容を理解する能力を身につけることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP1

【授業の進め方と方法】

履修生をグループに分け、少人数で講義を実施する。教員はテキストの内容を適宜補足する説明を行い、学生は各自が音読・翻訳・図の説明等を行う。学生の説明とそれに関連する事項についてその場でディスカッションする。オンラインの場合はメール・Hoppii・Zoom等で質問を受け付け、回答を同様にメール・Hoppii・Zoom等を通してフィードバックする。

今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語のテキストの配布、講義方針の説明。
第2回	英文テキストの講読-1	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第3回	英文テキストの講読-2	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第4回	英文テキストの講読-3	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第5回	英文テキストの講読-4	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第6回	英文テキストの講読-5	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第7回	英文テキストの講読-6	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第8回	英文テキストの講読-7	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第9回	英文テキストの講読-8	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第10回	英文テキストの講読-9	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第11回	英文テキストの講読-10	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第12回	英文テキストの講読-11	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第13回	英文テキストの講読-12	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第14回	アチーブメントテスト	これまでの復習と習熟度の検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする】

必ず予習（音読、翻訳、説明）をする。また、分子生物学Ⅰ・Ⅱ、生物化学Ⅰ・Ⅱ、細胞生物学Ⅰ・Ⅱ、生物物理学Ⅰ・Ⅱの内容とも関連するので、読解にあたって注意すること。

【テキスト（教科書）】

英語教科書「BIOLOGY 6th Edition」の第3章「Water and The Fitness of The Environment」、第6章「An Introduction to Metabolism」、第8章「Membrane Structure and Function」、第17章「From Gene to Protein」をテキストとする。テキストについてはガイダンス時に改めて説明する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞平常点（取り組みやレポート提出など）を30%、アチーブメントテストの成績を70%として評価する。ただし、一定以上の平常点がない場合、成績評価対象外となる。

＜評価基準＞英語による生命科学の基本的な原理の理解度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はZoomを利用した質問時間を設けた。今年度もオンラインとなった場合には実施する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出、連絡等には学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

毎回必ず出席して実践し、レポートを提出することが前提である。また、授業の各回の前に、テキスト（図の説明も含む）の音読と翻訳の予習を必ず行うこと。その過程で、テキスト中の科学的原理等について理解が不足していることに気づいた場合は、日本語教材などで学習しておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide freshman level students with basic knowledge and skills of academic English for Bioscience.

LANe200LC

生命機能学基礎英語 I I

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、常重 アントニオ、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学の世界では英語が共通語である。新しい発見はすべて英語で報告されるため、生命科学を学ぶには科学英語の能力向上が必須である。著名な生物学の教科書を読解することで、科学を英語で理解するための基礎的能力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

生物学のさまざまな分野に関する英文テキストを詳細に読解し、その科学的内容を理解する能力を身につけることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP1

【授業の進め方と方法】

履修生をグループに分け、少人数で講義を実施する。教員はテキストの内容を適宜補足する説明を行い、学生は各自が音読・翻訳・図の説明等を行う。学生の説明とそれに関連する事項についてその場でディスカッションする。オンラインの場合はメール・Hoppii・Zoom等で質問を受け付け、回答を同様にメール・Hoppii・Zoom等を通してフィードバックする。

今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	英語のテキストの配布、講義方針の説明。
第2回	英文テキストの講読-1	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第3回	英文テキストの講読-2	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第4回	英文テキストの講読-3	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第5回	英文テキストの講読-4	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第6回	英文テキストの講読-5	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第7回	英文テキストの講読-6	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第8回	英文テキストの講読-7	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第9回	英文テキストの講読-8	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第10回	英文テキストの講読-9	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第11回	英文テキストの講読-10	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第12回	英文テキストの講読-11	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第13回	英文テキストの講読-12	テキストの当該章の音読、翻訳、図を交えて内容の説明。
第14回	アチーブメントテスト	これまでの復習と習熟度の検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする】

必ず予習（音読、翻訳、説明）をする。また、分子生物学Ⅰ・Ⅱ、生物化学Ⅰ・Ⅱ、細胞生物学Ⅰ・Ⅱ、生物物理学Ⅰ・Ⅱの内容とも関連するので、読解にあたって注意すること。

【テキスト（教科書）】

英語教科書「BIOLOGY 6th Edition」の第3章「Water and The Fitness of The Environment」、第6章「An Introduction to Metabolism」、第8章「Membrane Structure and Function」、第17章「From Gene to Protein」をテキストとする。テキストについてはガイダンス時に改めて説明する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞平常点（取り組みやレポート提出など）を30%、アチーブメントテストの成績を70%として評価する。ただし、一定以上の平常点がない場合、成績評価対象外となる。

＜評価基準＞英語による生命科学の基本的な原理の理解度を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はZoomを利用した質問時間を設けた。今年度もオンラインとなった場合には実施する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出、連絡等には学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

毎回必ず出席して実践し、レポートを提出することが前提である。また、授業の各回の前に、テキスト（図の説明も含む）の音読と翻訳の予習を必ず行うこと。その過程で、テキスト中の科学的原理等について理解が不足していることに気づいた場合は、日本語教材などで学習しておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide sophomore level students with basic knowledge and skills of academic English for Bioscience.

BLS300LC

生命機能学英语 I

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生命機能学研究 I」「生命機能学演習 I」の履修とともに、実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う。配属研究室で与えられた課題について、自ら実験を行い、得られた結果を正しく解析し、研究成果をまとめる。そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため、英文学術論文等を読解する能力を身につける。

【到達目標】

各自の課題について研究を行うにあたり、参照すべき英語学術論文を正確に読解できること、その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP1

【授業の進め方と方法】

配属研究室の教員の指導の下に、各自に与えられた課題について、その内容と意義を正確に理解し、関連する英語学術論文を読解し、研究を遂行する。理解が不足している点や学生の質問については、教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする。今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、メール等で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等。
第 2 回	生命機能学英语- 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 3 回	生命機能学英语- 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 4 回	生命機能学英语- 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 5 回	生命機能学英语- 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 6 回	生命機能学英语- 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 7 回	生命機能学英语- 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 8 回	生命機能学英语- 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 9 回	生命機能学英语- 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 10 回	生命機能学英语- 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 11 回	生命機能学英语- 10	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 12 回	生命機能学英语- 11	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 13 回	生命機能学英语- 12	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 14 回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】
実験遂行上必要な内容について、原著論文や参考書等で情報収集し、理解を深める。
必要に応じ、研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

課題に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への継続的な取り組み、実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況、結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンは常時持参する。

その他に必要な情報機器および施設については、配属研究室の指導教員が指示する。

【その他の重要事項】

<本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え>

本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で、「生命機能学研究 I」「生命機能学演習 I」とリンクして実施する。4 年次開講の「生命機能学研究・演習・英語 II」および「生命機能学研究・演習・英語 III」へつながる科目である。最先端の研究を実践するものであるため、能動的な姿勢で履修することが必要である。

<研究室配属について>

7 月初旬に各研究室の説明会を開催する。その後、配属希望研究室の調査を行い、それをもとに配属研究室を決定する。

【Outline (in English)】

The aim of this laboratory course is to provide junior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience.

LANe400LC

生命機能学英语 I I

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生命機能学研究 II」「生命機能学演習 II」の履修とともに、実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う。配属研究室で与えられた課題について、自ら実験を行い、得られた結果を正しく解析し、研究成果をまとめる。そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため、英文学術論文等を読解する能力を身につける。

【到達目標】

各自の課題について研究を行うにあたり、参照すべき英語学術論文を正確に読解できること、その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP1

【授業の進め方と方法】

配属研究室の教員の指導の下に、各自に与えられた課題について、その内容と意義を正確に理解し、関連する英語学術論文を読解し、研究を遂行する。理解が不足している点や学生の質問については、教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする。今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、メール等で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等。
第 2 回	生命機能学英语－ 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 3 回	生命機能学英语－ 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 4 回	生命機能学英语－ 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 5 回	生命機能学英语－ 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 6 回	生命機能学英语－ 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 7 回	生命機能学英语－ 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 8 回	生命機能学英语－ 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 9 回	生命機能学英语－ 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 10 回	生命機能学英语－ 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 11 回	生命機能学英语－ 10	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 12 回	生命機能学英语－ 11	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 13 回	生命機能学英语－ 12	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 14 回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】

実験遂行上必要な内容について、原著論文や参考書等で情報収集し、理解を深める。

必要に応じ、研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

課題に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への継続的な取り組み、実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況、結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンは常時持参する。

その他に必要な情報機器および施設については、配属先の指導教員が指示する。

【その他の重要事項】

＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞

本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で、「生命機能学研究 II」「生命機能学演習 II」とリンクして実施する。「生命機能学研究・演習・英語 III」へつながる科目である。最先端の研究を実践するものであるため、自分の課題に関連する論文を積極的に探して読むなど、能動的な姿勢で履修することが必要である。

【Outline (in English)】

The aim of this laboratory course is to provide senior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience.

LANe400LC

生命機能学英语 III

金子 智行、川岸 郁朗、佐藤 勉、曾和 義幸、廣野 雅文、水澤 直樹、山本 兼由、西川 正俊、今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生命機能学研究 III」「生命機能学演習 III」の履修とともに、実験実証を基盤とする生命科学研究を自立的に実施する能力を養う。配属研究室で与えられた課題について、自ら実験を行い、得られた結果を正しく解析し、研究成果をまとめる。そのために必要な最先端生命科学の情報を得るため、英文学術論文等を読解する能力を身につける。

【到達目標】

各自の課題について研究を行うにあたり、参照すべき英語学術論文を正確に読解できること、その内容をまとめて第三者に論理的に説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP1

【授業の進め方と方法】

配属研究室の教員の指導の下に、各自に与えられた課題について、その内容と意義を正確に理解し、関連する英語学術論文を読解し、研究を遂行する。理解が不足している点や学生の質問については、教員と随時ディスカッションすることでフィードバックする。今年度は基本的に対面で行うが、状況によってはオンラインで行う可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、メール等で連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	課題研究を中心とした授業の進め方や目標の設定等。
第 2 回	生命機能学英语- 1	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 3 回	生命機能学英语- 2	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 4 回	生命機能学英语- 3	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 5 回	生命機能学英语- 4	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 6 回	生命機能学英语- 5	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 7 回	生命機能学英语- 6	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 8 回	生命機能学英语- 7	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。

第 9 回	生命機能学英语- 8	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 10 回	生命機能学英语- 9	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 11 回	生命機能学英语- 10	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 12 回	生命機能学英语- 11	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 13 回	生命機能学英语- 12	課題研究の背景および実施実験結果に関連した英語学術論文の読解と発表。（各自の研究進行状況により具体的な内容は異なる）。
第 14 回	講評	これまでの理解度に対する評価および新たな目標の設定。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・学習時間は、各 4 時間を標準とする】

実験遂行上必要な内容について、原著論文や参考書等で情報収集し、理解を深める。
必要に応じ、研究討論などのために配当時間外での取り組みが必要である。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

課題に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

研究への継続的な取り組み、実験に関する計画立案・実施・結果取得の状況、結果の解釈と考察の内容を総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコンは常時持参する。

その他に必要な情報機器および施設については、配属研究室の指導教員が指示する。

【その他の重要事項】

＜本科目のカリキュラム上の位置づけと履修の心構え＞

本科目は配属研究室で行われる少人数教育の一環で、「生命機能学研究 III」「生命機能学演習 III」とリンクして実施する。最先端の研究を実践し、その集大成として成果をまとめるためには、自分の課題に関連する論文を積極的に探して読むなど、能動的な姿勢で履修することが必要である。

【Outline (in English)】

The aim of this laboratory course is to provide senior level students with essential knowledge and skills of academic English required for conducting research in bioscience.

BSP100LC

線形代数学演習 I

佐藤 巖

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。

2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。

2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。

3) 正則行列と連立1次方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメル公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通し、前回の

授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題される。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】

成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断して評価する。

レポート提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%) として、成績を付ける。

なお、初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the following:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学演習 I

佐藤 巖

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、 ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、 平面の方程式、 連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、 行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、 連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメル の公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通し、前回の授業に対する演習問題を解くなど、復習することが望ましい。授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題される。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。】成績は、レポート提出、期末試験の成績等の成績を総合的に、判断して評価する。レポート提出及び成果(30%)、期末試験の成績(70%)として、成績を付ける。なお、初回の授業で課題の提出の仕方について、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の予習、復習、また、講義の時に分からないことがあれば、質問すること。講義中、講義の終了後でも構いません。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学演習 I

間下 克哉

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。時間外学習は復習を主にし、授業開始までに前回の授業内容をきちんと理解しておくことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、小テストを毎回実施する。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円＋税

【参考書】

必要があれば指示する。

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、ほぼ毎回実施する小テストの合計点 (30%)、期末試験の得点 (70%) により評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

Hoppii のテスト機能に受講者が慣れる機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講に必要な情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学演習 I

間下 克哉

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。時間外学習は復習を主にし、授業開始までに前回の授業内容をきちんと理解しておくことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、小テストを毎回実施する。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200円＋税

【参考書】

必要があれば指示する。

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、ほぼ毎回実施する小テストの合計点(30%)、期末試験の得点(70%)により評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

Hoppii のテスト機能に受講者が慣れる機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

・オンライン受講に必要な情報の提供

・授業資料の配布

・課題の出題および提出

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学演習 I

三橋 秀生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円＋税

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

その他は適宜、指示する。

【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学演習 I

三橋 秀生

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円＋税

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味などをきちんと理解して使いこなせるようになったかを評価する。

成績は、期末試験、演習課題等の成績を総合的に判断して評価する。

期末試験を70%、演習課題等を30%として成績をつける。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

成績評価の方法と基準を変更する場合がある。その場合の具体的な方法と基準は、担当教員が学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を予習して、講義のときに分からないことを質問すること。これは講義中でも講義の後でも構いません。また章末の演習問題をやっておくこと。

【学生が準備すべき機器他】

初回時に貸与ノート PC を持参すること。

その他は適宜、指示する。

【その他の重要事項】

「学習支援システム」の「お知らせ」のチェックを怠らないこと。

担当教員から、学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからメールも含め、確認をよくするようにしてください。

その他の重要事項は適宜、指示します。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学演習 I

大野 修一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。

2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。

2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの理由を十分に理解する。

3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、平面の方程式、連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメル公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】

基本的に、1回の授業は教科書の1つの節が対応するように構成されている。

授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、これに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」裳華房 2200円+税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ¥ 2178

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、毎回の課題及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

初回の授業でルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

今年も、分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

折に触れ、学習支援システムを利用する。

・オンライン受講に必要な情報の提供

【その他の重要事項】

気になることがあったらどんどん「質問」してください。

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

線形代数学及び演習 I

神谷 亮

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の学生にとって必須の知識である線形代数学の初歩を学ぶ。

- 1) ベクトルと行列の計算方法を修得し、連立1次方程式の解法への応用を理解する。
- 2) 正則行列や階数などの概念を知り、正則行列であることの同値条件を理解する。

【到達目標】

- 1) 行列式、逆行列、行列の階数、掃き出し法などを理解して十分な計算技能を身に付ける。
- 2) 行基本変形によって連立1次方程式が解けること、逆行列が求められることの原因を十分に理解する。
- 3) 正則行列と連立方程式の解法、行列の階数の理論等との関連を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

受講者には十分な予習・復習をし、実際に手を動かして練習問題を解きながら理解を深めていく態度が求められる。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ベクトル	幾何ベクトルと数ベクトル、 ベクトルの内積と外積
2	平面の方程式	直線の方程式、 平面の方程式、 連立1次方程式
3	行列	行列の定義、行列の和およびスカラー 倍、転置行列、対称行列、交代行列
4	行列の積	行列の積の定義、 分割した行列による積
5	正則行列	単位行列、正則行列、正則行列の性質
6	連立1次方程式（1）	連立1次方程式の解法、 行列を用いた連立1次方程式の解法
7	逆行列	逆行列、 連立1次方程式と逆行列
8	連立1次方程式（2）	連立1次方程式の解と解法
9	行列の階数	階数の定義と求め方
10	置換と行列式	置換、行列式
11	行列式の性質	列に関する行列式の性質、基本変形と 行列式、積の行列式
12	余因子展開	行列式の余因子展開
13	余因子展開の応用	正則行列の判定条件、クラメルの公式
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

前回の授業に対する演習問題を解くことが望ましい。

授業内容の理解を助けるため、毎回課題が出題されるので、必要に応じて講義資料を見返しながらかこれに取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 線形代数」 裳華房 2200 円＋税

【参考書】

寺田文行『新版 演習線形代数』サイエンス社 ￥2178

三宅敏恒『入門線形代数』培風館 ￥1650

【成績評価の方法と基準】

行列の計算、連立方程式の解法および行列の階数や基本変形の意味をきちんと理解して使いこなせるようになったかを、

毎回の課題の提出及び成果 (30%)、期末試験の成績 (70%)

により評価する。

初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

行列と行列式の表記の違いを意識するなど、適切に記述するための認識を促し、それによって講義内容の理解度の向上を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

- ・オンライン受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【Outline (in English)】

Learn the beginning of linear algebra which is essential knowledge for science and engineering students.

1) Learn how to calculate vectors and matrices and understand the application to simultaneous linear equations.

2) Know concepts such as regular matrix and rank, and understand equivalence condition of being regular matrix.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1) Students understand determinants, inverse matrices, the rank of matrices, and solving simultaneous linear equations and acquire sufficient computational skills.

2) Students understand why simultaneous linear equations can be solved and the inverse matrix is obtained by the elementary operations for matrices.

3) Students understand the relationship among regular matrices, solving simultaneous equations, and the rank of matrices.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

微分積分学演習Ⅰ

清田 正夫

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験や演習で判断する。原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う。成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する場合が多く、「知っている」として学習を怠る傾向があり、これがつまづきの原因となることを忘れないよう。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 10%, Term-end examination 90%.

BSP100LC

微分積分学演習Ⅰ

清田 正夫

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験や演習で判断する。原則として毎授業時間に復習確認のクイズを行う。成績は期末試験の成績（90%）を主とし演習の成績や授業中の態度を平常点（10%）として加味して総合的に評価する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する場合が多く、「知っている」として学習を怠る傾向があり、これがつまづきの原因となることを忘れないよう。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 10%, Term-end examination 90%.

BSP100LC

微分積分学演習 I

森田 純

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学演習 I

森田 純

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野で必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson. (Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学演習 I

塚田 和美

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。

期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。
成績は期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習とその解説を効果的に行う。

スライドや板書を効果的に用い、学生が効率的に理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
 - 2) Inverse triangular functions and their derivative
 - 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
 - 4) Taylor series expansion
 - 5) Investigating the extrema of two-variable functions
(Learning activities outside of classroom)
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.
(Grading Criteria)
Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Short reports 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学演習 I

陸名 雄一

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限値や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (60%)、提出課題 (40%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

※ 期末試験は、対面試験が可能な場合のみ、機械工学科、電気電子工学科、応用情報工学科で統一試験として行う。

※ 出席率や提出課題の提出率が低い者には、期末試験の受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

講義中に質問することを躊躇する学生が多いようだが、教室全体の理解度向上に資する行為であるので是非積極的に質問してもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器（対面講義中の使用は想定していない）。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

BSP100LC

微分積分学演習Ⅰ

大野 修一

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】一度聞いただけで数学の知識が定着することはないので、学生は予習をして講義に臨み、講義後は復習し、さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを主に期末試験で判断する。

成績は期末試験の成績 (60%)、毎回の演習、中間テスト (4 0%) として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

高校での学習内容と重複する部分もあるが、より地に足のついた議論を学ぶことになる。

問題を解けることも重要であるが、大学で学ぶ数学独自の論理の展開も楽しんでいただけたらと思う。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports and Mid-term examination 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

微分積分学及び演習 I

神谷 亮

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の様々な分野に必要な数学の基礎となる、微分法・偏微分法およびその応用について学ぶ。

【到達目標】

極限值や導関数・偏導関数などの計算能力、逆三角関数の理解、平均値の定理、テイラーの定理の意味を理解し応用できること、簡単な関数のテイラー級数展開ができること、偏導関数を用いて 2 変数関数の性質を調べることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	数列の極限	実数、数列の極限
2	関数の極限と連続関数	関数の極限、連続関数
3	導関数（1）	導関数の定義、導関数の公式、三角関数・指数関数の導関数
4	逆三角関数	逆三角関数、逆三角関数の導関数
5	導関数（2）	双曲線関数、対数微分法、媒介変数表示
6	平均値の定理とその応用	極値、平均値の定理、ロピタルの定理
7	テイラーの定理	高次導関数、テイラーの定理
8	テイラー級数	近似式と誤差の評価、テイラー級数展開、オイラーの公式
9	テイラーの定理の応用	極値、微分とグラフの凹凸、増減表
10	多変数関数	基本的な用語、多変数関数のグラフ
11	偏微分	偏微分係数、偏導関数、高階偏導関数
12	合成関数の導関数	合成関数の微分の公式、線形近似と接平面、全微分
13	2 変数関数の極値	合成関数の第 2 次導関数、2 変数のテイラーの定理、2 変数関数の極値
14	総合演習	講義の総まとめとして演習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

講義後は講義資料と教科書をもとに復習せよ。さらには講義中に指示されたものや教科書の練習問題を解く等して、計算の技術を身につけて貰いたい。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房 2300 円+税
(第 1 章、第 2 章、第 4 章 4.1 節～ 4.4 節を学ぶ)

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

微分及び偏微分の計算、逆三角関数や双曲線関数の理解、テイラーの定理の利用、多変数関数の極値の問題の解法等について、十分な能力を身につけたかを期末試験の成績 (70%)、提出課題 (30%) として総合的に評価する。初回の授業で課題の提出ルールを説明する。

【学生の意見等からの気づき】

偏微分、全微分やラグランジュの未定乗数法などについて、計算法だけでなく、それがどのような知見を与えるものかを提示する。

【その他の重要事項】

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

「～の計算法の～より先が分からないので、詳しく教えてほしい。」「～について、計算法は分かるが気持ち分からない。どのように考えれば気持ちが分かるか教えてほしい」のような要望があれば、講義前後やメールで私に伝えること。できる限り対応する。

【Outline (in English)】

Learn the method of differentiation and partial differentiation and its application which form the foundation of mathematics required in various fields of science and engineering.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

BSP100LC

入門数学

大野 修一

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微分積分学（及び）演習Ⅰをフォローする講義・演習です。そのために高校数学の復習から始め、上述講義の進度に合わせて演習、解説を行います。

【到達目標】

高校で習う微分法の復習から始め、逆三角関数や陰関数の理解をし、極限值や導関数、偏導関数などの計算能力を高めることを目標とします。さらにそれを用いて工学に応用するための基礎を勉強します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

演習を中心として解説授業を行います。具体的な例を豊富に扱い具体的な計算を行います。自ら積極的に問題を解くことが要求されます。授業後半は「演習」を行い、その解答を確認します。当日課題の「フィードバック」として利用してください。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	当科目の概要を説明します。
2	三角関数（積和公式等）	三角関数の復習および演習を行います。
3	数列の極限	数列の極限の難しさを観察し、演習を行います。
4	指数関数・対数関数・逆三角関数	指数関数、対数関数、逆三角関数を解説します。
5	関数の極限	導関数の定義、三角関数・指数関数の導関数の計算を行います。
6	微分法	極値、平均値の定理、ロピタルの定理を解説します。
7	初等関数の微分（計算演習）	様々な関数の計算演習です。
8	微分法の実用（増減表）	微分がどういった場面で必要とされるかを解説します。
9	微分法の実用（曲線の凹凸、極値の判定）	具体的な例をあげ、計算演習をします。
10	偏微分	偏微分係数、偏導関数の解説です。
11	偏微分	偏微分法の演習です。
12	偏微分の実用	接線の方程式、接平面の方程式を具体的に計算します。
13	偏微分の実用2	曲面の極大値、極小値を求める練習をします。
14	総合演習	これまで習った事項の総合演習です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。】基本的に、1 回の授業は教科書の 1 つの節が対応するように構成されている。授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと、前回の授業に対する演習問題を解くことが必要である。

【テキスト（教科書）】

磯島・桂・間下・安田共著「コア講義 微分積分」裳華房

【参考書】

初歩からの入門数学 吉村善一・足立俊明著、数理工学社

【成績評価の方法と基準】

授業目標の到達度を、毎回行う演習点と中間テスト（40 %）、期末試験（60 %）で評価する。なお、オンライン授業の期間延長等により成績評価の方法や基準が変更される場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

「質問の時間が十分取ってある」→ 質問から授業が始まります。利用してください。「もっと演習問題を解きたかった」→ 黒板の大きさによりますが、心掛けます。授業内の演習に積極的に取り組むことが単位取得のための良い方法である。

【その他の重要事項】

同時に微分積分学（及び）演習Ⅰを履修すること。

オンライン授業実施時には、「学習支援システム」の「お知らせ」にて配布資料などの情報と担当教員への連絡方法を提示するので、毎回必ずチェックすること。

【Outline (in English)】

The main object is to support the student could understand fundamental properties of Calculus.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Calculation of limit value, derivative, and partial derivative
- 2) Inverse triangular functions and their derivative
- 3) Understanding mean-value theorem and Taylor's theorem, and their applications
- 4) Taylor series expansion
- 5) Investigating the extrema of two-variable functions (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Mid-term examination 40%, Term-end examination 60%.

BSP100LC

入門物理学

湯口 秀敏

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は自然科学や工学の基礎である。この授業では力学を中心に物理現象へのアプローチの仕方を実際に体験し、自ら考え、作業することを通じて物理を身に着ける力を養う。

【到達目標】

- ・力の理解（つり合い、力のベクトル性、作用反作用の法則）。
- ・運動方程式を典型的な例（等加速度直線運動、等速円運動、単振動）に適用し使いこなせるようにする。
- ・運動量と力積、運動量保存則の理解。
- ・仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存則について概念を理解し、基礎的な問題に適用できるようにする。
- ・熱力学、波動、電気について基本的な内容のいくつかについて理解を深める。上記の諸項目についてその概念を取り囲む背景を踏まえてその数学的記述（グラフ化、数式化）ができるようにする。微積分など数学的な手法は必要に応じて使い、高校から大学への移行が自然に行われるように進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と内容に沿った実験、実習を組み合わせる授業を進める。相互作用型演習実験講義 (ILDs) である。学習内容をもとに実験結果を個人、そしてグループで討論し予想した上で実験結果を確認する。さらにグループで問題に取り組み理解を深めた上で確認テストにより理解度を確認する。さらに YouTube の動画で繰り返し学習する機会を作る。講義では確認テストの結果をもとに補足を行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、力とそのつり合い	ガイダンス。 ・ナサゲーム。 ・力の表現。 ・力のつり合い。 ・作用反作用。 ・ばねの役割 ・浮力
2	運動方程式Ⅰ：等加速度運動。	力が一定の場合。 ・位置、速度、加速度と力の関係 ・2物体の運動 ・重力、摩擦力を含む。
3	運動方程式Ⅱ：等速円運動	運動に対して直角に力がはたらく場合。 ・向心力 ・万有引力
4	運動方程式Ⅲ：単振動	復元力がはたらく場合。 ・位置、速度、加速度 ・単振り子 ・連成振動重力のもとでの運動。
5	運動量と力積	2物体の衝突 ・力積と運動量の関係 ・運動量保存法則
6	仕事とエネルギー	仕事とエネルギー ・仕事の原理 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・重力とばね
7	力学的エネルギー保存則	力学的エネルギー保存則の考え方とその適用。 ・第二宇宙速度。 ・適用できない場合
8	熱と熱平衡。	・温度と熱平衡。 ・熱量保存 ・熱力学第一法則。 ・気体分子運動論
9	波動Ⅰ（波の表現）	波の表現 ・y-x, y-t グラフ ・横波、縦波 ・重ね合わせの原理

10	波動Ⅱ（干渉）	干渉 ・定常波 ・うなり ・音や光の干渉とその利用
11	電気回路Ⅰ（電場と電位）	電場と電位 ・静電気 ・電場と電位 ・オームの法則 ・電力
12	電気回路Ⅱ（コンデンサーを含む回路）	電気回路の基本 ・電位と電位差 ・電流 ・コンデンサーの性質 ・コンデンサーを含む回路
13	電流と磁場	・磁場 ・電流が磁場から受ける力。 ・ローレンツ力。
14	電磁誘導	電磁誘導の仕組み ・発電機。 ・電池とモーターと豆電球。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】準備では授業計画に示されたテーマについて教科書に目を通す、復習では授業中に行った問題演習を見直し理解が浅い部分を集中的に学習する。また、4 回程度課題が出る。これにかかる時間は最低 2 時間を想定している。

【テキスト（教科書）】

高校物理基礎、物理の教科書（数研出版 物理基礎、物理）。持っていない場合は生協等で購入。

【参考書】

物理学 小出昭一郎著 裳華房

【成績評価の方法と基準】

試験 (50 %)、毎時間ごとの振り返り、確認テスト (20 %)、課題 (30 %) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンラインによる授業の中で演示実験を見せた。予想をして実験を行うことによって理解を深めることができたように感じた。また、波の干渉のところでは課題として無料アプリ (PHET) による実習を出した。繰り返してできることでかなり理解を深めることができた感触がある。今回は波以外も検討しており課題の中に加える予定である。

今年度は対面授業の予定であるがまたオンラインになった場合、話し合いのやり方は改善して行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、電卓、ストップウォッチ (スマホなど電卓、ストップウォッチの機能を持つものがあればそれでよい。)

【Outline (in English)】

Physics is the basis of natural science and engineering. This lesson is mainly focused on equation of motion which is one of the most important contents in Physics. The concepts of work and energy are the second contents of learning. Basic concepts of thermodynamics, waves, and electricity will be learned at the last part.

The main purpose of this lesson is bridging the gap between high school way of learning and university way.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

高橋 正則

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】

スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力して練習やゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態（実技）： この授業は主に体育館またはグラウンド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知し、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。春学期の授業は、原則として対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、継続した身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ディスクゴルフの基礎	フライングディスクの特徴を理解し、基本的な投げ方を習得する。また目標への正確な投法を目指したディスクゴルフを行う。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60%）、競技特性とルールの理解（30%）、技術の習得（10%）により総合的に評価します。なお、オンデマンド型授業に変更した場合には、成績評価の方法と基準も変更し、具体的内容は学習支援システムに提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】

実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class. Your final grade in the class will be calculated affording to the the following process:

- Usual performance score: 60%
- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

高橋 正則

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】

スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態（実技）： この授業は主に体育館またはグラウンド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知し、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。春学期の授業は、原則として対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、および継続した身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ディスクゴルフの基礎	フライングディスクの特徴を理解し、基本的な投げ方を習得する。また目標への正確な投法を目指したディスクゴルフを行う。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、競技特性とルールの理解（30％）、技術の習得（10％）により総合的に評価します。なお、オンデマンド型授業に変更した場合には、成績評価の方法と基準も変更し、具体的内容は学習支援システムに提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】

実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class. Your final grade in the class will be calculated according to the the following process:

- Usual performance score: 60%
- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

街 勝憲

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。詳細については、初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を掲示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット（フリスビー）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット（フリスビー）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート（個人カード）の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度（10%）とします。オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておいてください。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けるようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution (60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

街 勝憲

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。詳細については、初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を掲示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット（フリスビー）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット（フリスビー）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート（個人カード）の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度（10%）とします。オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておいてください。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けるようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution (60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習 I

植村 直己

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】

- ①ゴール型スポーツ種目の基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員 30 名として受講者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 4 回	アルティメット	フライングディスク基礎、ゲーム
第 5 回	サッカー	基礎練習、ゲーム
第 6 回	アルティメット	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第 7 回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	競技特性、ルールの理解、ゲーム
第 9 回	バスケットボール	基礎練習、ルール、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を 30 名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

【Outline (in English)】

In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

高橋 正則

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】

スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態（実技）： この授業は主に体育館またはグラウンド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知し、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。この授業は、原則として対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ディスクゴルフの基礎	フライングディスクの特徴を理解し、基本的な投げ方を習得する。また目標への正確な投法を目指したディスクゴルフを行う。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、競技特性とルールの理解（30％）、技術の習得（10％）により総合的に評価します。なお、オンデマンド型授業に変更した場合には、成績評価の方法と基準も変更し、具体的内容は学習支援システムに提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】

実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class. Your final grade in the class will be calculated according to the the following process:

- Usual performance score: 60%
- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

高橋 正則

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、様々なスポーツ活動を通して、自身の身体運動に関する実践知を修得します。また、生涯にわたって健康の維持・増進を図るために、他者との関わりの中でスポーツ活動や身体運動を継続することの重要性を学びます。

【到達目標】

スポーツの基本的なルールや技術を理解し、チームメイトと協力してゲームすることができるとともに、運動継続に必要な基礎的知識や態度（振り返り）を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態（実技）： この授業は主に体育館またはグラウンド等の体育施設でゴール型ゲームを中心とした実技を行ないます。毎回の授業では、授業目標を確認し、主に安全性や受講生の運動量を考慮して基礎から応用に至る授業を展開します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知し、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。この授業は、原則として対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと身体活動の効果について	授業の目的や方法、スケジュール、注意事項、身体活動の効果について説明する。
2	体力測定	基礎体力（筋力、筋持久力、柔軟性、瞬発力、敏捷性等）をチェックし、自分自身の体力を知る。
3	バスケットボールの基礎（パス、ドリブル、シュート）	パス、ドリブル、シュート等の基本技術を習得するとともに、それらを積極的に活用しながらチームメイトと協力してゲームを行う。
4	バスケットボールの基礎（ドリブルシュート、ジャンプシュート、フリースロー、ディフェンス）	高度な技術に挑戦するとともに、チームメイトと協力して戦術を意識したゲームを行う。
5	バスケットボール（応用）試合	ゾーンディフェンスや速攻等、高度な戦術を意識してチームメイトと協力してゲームを行う。
6	フットサルの基礎	サッカーボールに慣れるとともに、フットサル用コートでチームメイトと協力してゲームを行う。
7	サッカーの基礎	ボールコントロール、パス、シュート等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
8	サッカー（応用）試合	チームメイトと協力し、攻守における戦術を意識したゲームを行う。
9	ディスクゴルフの基礎	フライングディスクの特徴を理解し、基本的な投げ方を習得する。また目標への正確な投法を目指したディスクゴルフを行う。
10	ソフトバレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を確認する。またチームメイトと協力し、戦術を意識したゲームを行う。
11	卓球の基礎	フォアハンド、バックハンド、サーブ、ラリー等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
12	バレーボールの基礎	オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、サーブ等の基本技術を積極的に活用し、チームメイトと協力してゲームを行う。
13	バドミントンの基礎	オーバーヘッド、サイドアーム、アンダーハンドストローク等の基本技術を積極的に活用し、ペアと協力してゲームを行う。
14	総括	全学習内容の振り返りと体力測定結果のフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】授業前における健康の維持・管理に留意するとともに、授業で行うスポーツ種目に関する競技特性やルールをあらかじめ調べておいて下さい。また、授業後には授業内容に関する自身の経験を振り返り、自己評価や今後の課題をノート等を用いてまとめて下さい。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（60％）、競技特性とルールの理解（30％）、技術の習得（10％）により総合的に評価します。なお、オンデマンド型授業に変更した場合には、成績評価の方法と基準も変更し、具体的内容は学習支援システムに提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容は、新型コロナウイルス感染症の予防対策を講じながら、受講人数と使用可能な体育施設等を考慮し、参加学生に十分な運動量を確保できるよう配慮します。

【学生が準備すべき機器他】

実技実施の際には体育実技に適した服装および運動靴（室内用及び屋外用）を必ず用意して下さい（素足での授業出席は不可）。

【その他の重要事項】

受講希望者が多い場合には、履修年次等を考慮して抽選によって受講者を決定します。なお、使用可能な体育施設または天候等により、授業内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course introduces an importance of continuable sport activities or physical exercise throughout concerns with others to students taking this course so as to attempt to maintain and promote the health. Some sports of goal type are mainly utilized in this class. Your final grade in the class will be calculated according to the the following process:

- Usual performance score: 60%
- Understanding of competition characteristics and rules: 30%
- Acquisition of skills: 10%

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

街 勝憲

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。詳細については、初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を掲示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット（フリスビー）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット（フリスビー）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート（個人カード）の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度（10%）とします。オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしてください。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けるようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution (60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

街 勝憲

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、リーダーシップやコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、ゴール型ゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。詳細については、初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を掲示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
3	アルティメット（フリスビー）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
4	アルティメット（フリスビー）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
5	サッカー	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	サッカー	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
8	バドミントン	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
9	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
10	ニュースポーツ（ゴール型スポーツ）	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
11	バスケットボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
12	バスケットボール	競技特性の理解、応用技術を習得し、ゲームを中心に実践を行う
13	バレーボール	競技特性・ルールの理解をし、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
14	総括	これまでの授業の振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】授業は東館体育館および、緑町グラウンドにて行います。普段の生活から自分自身の体調の維持・管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解・リアクションシート（個人カード）の内容・授業内レポート等提出物（30%）、技術の習得度（10%）とします。オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。授業支援システムを利用して告知をする場合があるため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておいてください。

履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。

競技レベルや性別を問いません。

シューズ（室内・屋外）を含めて、体育実技にふさわしい服装で参加してください。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けるようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution (60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅰ

植村 直己

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主にゴール型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】

- ①ゴール型スポーツ種目の基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

週1回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員30名として受講者を決定します。第2回は体力測定を実施します。第3回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、主にゴール型ボールゲームを中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第2回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第3回	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第4回	アルティメット	フライングディスク基礎、ゲーム
第5回	サッカー	基礎練習、ゲーム
第6回	アルティメット	ルール、競技特性の理解、ゲーム
第7回	ソフトバレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第8回	バスケットボール	競技特性、ルールの理解、ゲーム
第9回	バスケットボール	基礎練習、ルール、ゲーム
第10回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第11回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第12回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第13回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第14回	総括	これまでの授業を振り返り、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60％）、競技特性やルールの理解度（30％）、技術の習得度（10％）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を30名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

【Outline (in English)】

In this class, you will understand the significance and importance of sports and physical exercise through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on goal-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】 日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

金光 興二

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となる場合もあります。詳細は学習支援システム上でお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。担当教員は、企業在籍中に社会人野球現役選手および高校・大学において野球部監督の経験を有しており、その経験を生かしたスポーツ指導を行います。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process in-class contribution(60%), level of understanding(30%), and technical acquisition(10%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅱ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主としてベースボール型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトボール	ルールを理解、ゲーム
4	ソフトボール	競技特性、ゲーム
5	ソフトボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	ソフトボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
11	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

植田 央

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

原則的には対面授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

高田 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、目的、到達目標、履修上の注意と成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	ソフトバレーボール（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 4 回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第 5 回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第 6 回	バドミントン（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第 7 回	バドミントン（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第 8 回	バスケットボール（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	テニス（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第 12 回	テニス（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。

・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。
・【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や、学生間で協力する姿勢を高く評価します。
ただし、オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】

・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は、日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course. Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

植田 央

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

原則的には対面授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

高田 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、目的、到達目標、履修上の注意と成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	ソフトバレーボール（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 4 回	バレーボール（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第 5 回	バレーボール（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第 6 回	バドミントン（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第 7 回	バドミントン（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第 8 回	バスケットボール（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	テニス（導入）	競技特性とルールの理解、ゲーム
第 12 回	テニス（基本技術）	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ（基本技術）	競技特性とルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	授業のまとめと解説	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。

・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60%）、競技特性やルールの理解度（30%）、技術の習得度（10%）とします。
・【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
・臨機応変に柔軟かつ積極的に対応する姿勢や、学生間で協力する姿勢を高く評価します。
ただし、オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】

・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
・競技レベルや性別は問いません。
・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
・担当教員は、日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline (in English)】

This course deals with the sports and physical activities. It also enhances the development of students' skill in a communication with others.

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course. Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋内ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。具体的には、教材をアップロードし、課題やレポートを提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	ソフトバレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
5	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
6	バレーボール	応用的技術の理解、ゲーム
7	バドミントン	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	テニス	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the importance of sports and physical activities to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植田 央

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

原則的には対面授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
6	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールを理解、ゲーム
7	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールを理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールを理解、ゲーム
10	卓球	競技特性・ルールを理解、ゲーム
11	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
13	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】

- ・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
- ・競技レベルや性別は問いません。
- ・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
- ・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
- ・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
- ・担当教員は、日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村 直己

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取り入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】

- ①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合は、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員 30 名として受講者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	テニス	基本ストロークのグリップ、スイング法
第 4 回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第 5 回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第 6 回	テニス	ダブルスゲーム
第 7 回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を 30 名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

【Outline (in English)】

In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村 直己

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取り入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】

- ①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員 30 名として受講者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	テニス	基本ストロークのグリップ、スイング法
第 4 回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第 5 回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第 6 回	テニス	ダブルスゲーム
第 7 回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を 30 名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

【Outline (in English)】

In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
6	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールを理解、ゲーム
7	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールを理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールを理解、ゲーム
10	卓球	競技特性・ルールを理解、ゲーム
11	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
13	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】

- ・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
- ・競技レベルや性別は問いません。
- ・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
- ・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
- ・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
- ・担当教員は、日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植田 央

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。

原則的には対面授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合がありますので、その際は「学習支援システム」にて通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	ルールを理解、ゲーム
4	テニス	競技特性、ゲーム
5	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
6	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
7	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
8	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
9	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
10	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
11	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
12	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
13	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】日頃から自分自身の体調管理につとめてください。各種スポーツの競技特性やルールを確認した上で授業にのぞんでください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により「学習支援システム」を活用したオンデマンド型授業に変更となる場合、成績評価の方法と基準も変更します。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートをもとに、授業内容の変更を検討します。

【その他の重要事項】

履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選します。競技レベルや性別を問いません。シューズ（室内・屋外）を含めて、実技にふさわしい服装で参加してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion. This course also introduces the importance of sports and physical activities.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニュースポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
6	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールを理解、ゲーム
7	ニュースポーツ	競技の紹介・ルールを理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールを理解、ゲーム
10	卓球	競技特性・ルールを理解、ゲーム
11	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
13	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】

- ・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
- ・競技レベルや性別は問いません。
- ・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
- ・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
- ・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
- ・担当教員は、日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村 直己

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取り入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】

- ①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合は、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員 30 名として受講者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	テニス	基本ストロークのグリップ、スイング法
第 4 回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第 5 回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第 6 回	テニス	ダブルスゲーム
第 7 回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を 30 名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

【Outline (in English)】

In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

植村 直己

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を自分自身や他者との関わりによって実技を通じて理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を実技と講義の両面から学びます。

主に屋外ネット型のボールゲームを中心とした種目を通して、基本技術の習得やコミュニケーションの重要性を学ぶことで、基礎的かつ総合的なところから健康づくりの方法を習得します。

また、体力測定の実施により自分自身の体力を知り、運動・生活習慣を見直すと共に、授業を通して、大学卒業後にスポーツを取り入れたライフスタイルをどのように構築していくかを学習します。

【到達目標】

- ①屋外ネット型スポーツ種目を中心として、基本的技術、競技特性、ルール、ゲーム方法を学ぶ。
- ②体力の向上を通じて、心身の健康維持を図ることができる。
- ③体力測定の実施により自身の体力を把握し、運動・生活習慣を見直すことができる。
- ④スポーツ実技を通じて規律やコミュニケーション能力といった社会性を習得できる。
- ⑤実技・講義を通して、生涯にわたる運動習慣を学習することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

週 1 回の実技を半期にわたって実施します。履修希望者が多数の場合には、初回のガイダンスにて授業ごとに抽選で定員 30 名として受講者を決定します。第 2 回は体力測定を実施します。第 3 回以降は各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ種目では、屋外ネット型ゲーム等を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮を説明します。最終回授業では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。

本授業は、原則対面で実施します。

但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン、オンデマンド型授業となる場合は、学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明
第 2 回	体力測定	安静時心拍数、体脂肪率、長座体前屈、握力などの測定
第 3 回	テニス	基本ストロークのグリップ、スイング法
第 4 回	テニス	基礎練習、ルール、ゲーム
第 5 回	テニス	競技特性・ルールの理解、ダブルス形式
第 6 回	テニス	ダブルスゲーム
第 7 回	バスケットボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 8 回	バスケットボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 9 回	卓球	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 10 回	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
第 11 回	バレーボール	競技特性・ルールの理解、ゲーム
第 12 回	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
第 13 回	ニュースポーツ	競技特性・ルールの理解、基本的技術の習得、ゲーム
第 14 回	総括	これまでの授業を振り返り、体力測定データの解説、将来のスポーツ・身体運動について議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】実技に当たって心身の不備が無いよう、体調を十分に整えた上で授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要に応じて適宜資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点（60 %）、競技特性やルールの理解度（30 %）、技術の習得度（10 %）とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生が要望するスポーツをできるだけ実施したい。また、要望を参考にゲームの実施方法について都度検討する。

【その他の重要事項】

初回の授業でガイダンスと履修希望者が多数の場合は、定員を 30 名として抽選を行います。受講希望者は集合場所を体育館事務室前の掲示板で確認したうえで、必ず初回の授業に参加してください。

天候等により教場が変更になることがありますので、その場合は掲示板で確認してください。

【Outline (in English)】

In this course, you will understand the significance and importance of sports and physical activity through practical skills through relationships with yourself and others, and learn the basics for maintaining and improving physical and mental health throughout your life from both practical skills and lectures.

By learning basic skills and the importance of communication, mainly through events centered on net-type ball games, you will learn how to improve your health from a basic and comprehensive perspective.

In addition, you will learn about your own physical fitness by conducting physical fitness tests, review your exercise and lifestyle, and learn how to build a lifestyle that incorporates sports after graduating from university through classes.

HSS100LC

スポーツ健康科学実習Ⅳ

高田 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ・身体運動の意義や重要性を、自分自身や他者との関わりによって理解し、生涯にわたる心身の健康の維持・増進のための基礎を学びます。

【到達目標】

1. スポーツ・身体運動の意義や重要性を理解する
2. 自分のからだを良く理解し、からだやものを安全かつうまく使える
3. 他者を良く理解し、うまくコミュニケーションがとれる
4. 各種スポーツの基本的な技術を習得する
5. 各種スポーツの競技特性・ルールを理解し、かつレベルに応じたルールの設定ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目です。週 1 回の実技を半期にわたって実施します。具体的には、初回のガイダンス及び第 2 回の体力測定の後、各種スポーツ実技を実施します。各種スポーツ実技では、主として屋外ネット型の運動種目を中心に基本的技術・ルールを学びます。あわせて、準備・整理運動などの安全面の配慮やニューススポーツを紹介します。詳細については初回のガイダンスで説明します。授業の最終回では、これまでの授業の振り返りや体力測定データの解説、スポーツ・身体運動の意義・重要性について概説します。なお、対面形式で授業を実施する予定ですが、新型コロナウイルスなどの感染状況に伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、履修上の注意、成績評価などの説明 *希望者が多数の場合は抽選
2	体力測定	体脂肪率、長座体前屈、握力など
3	テニス	競技特性・ルールを理解、ゲーム
4	テニス	基本的技術の習得、ゲーム
5	テニス	応用的技術の理解、ゲーム
6	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールを理解、ゲーム
7	ニューススポーツ	競技の紹介・ルールを理解、ゲーム
8	バドミントン	基本的技術の習得、ゲーム
9	バドミントン	競技特性・ルールを理解、ゲーム
10	卓球	競技特性・ルールを理解、ゲーム
11	卓球	基本的技術の習得、ゲーム
12	バレーボール	競技特性・ルールを理解、ゲーム
13	バレーボール	基本的技術の習得、ゲーム
14	総括	これまでの授業の振り返り、体力測定データのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
・実技形式の授業のため、心身を十分に整えた上で授業に臨むこと。
・準備学習として、各競技の基本的なルールを調べる。
・復習として、授業での自身の反省をまとめる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リーダーシップ、積極性、態度などの平常点 (60%)、競技特性やルールの理解度 (30%)、技術の習得度 (10%) とします。評価の際には、【個人カード】を重視し、総合的に評価します。
オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

シューズ（屋内、屋外）を含めて、スポーツを実施するためにふさわしい服装を準備してください。素足やサンダルでの受講は認めません。

【その他の重要事項】

- ・履修を希望する学生が多数の場合は、初回のガイダンス時に抽選をします。
- ・競技レベルや性別は問いません。
- ・安全面を考慮し、アクセサリ類は外して臨んでください。
- ・履修者数や天候などによって実施する種目や回数を変更する可能性があります。
- ・授業前に必ず体育館事務室前の掲示板で授業の実施場所を確認してください。
- ・担当教員は、日本バスケットボール協会公認 C 級コーチおよび日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かしたスポーツの指導を行います。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce essential the importance of sports and physical activities to students taking this course.
Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of fundamental principles of life-long health promotion.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on skills of sports (10%), understanding rules and characteristics of sports (30%), and in-class contribution(60%).

HSS100LC

スポーツ健康科学講義 I

水野 沙洸

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

講義を通して、学生生活さらには今後の社会人生活において、健康を獲得・維持するために必要となる知識を身に付けることができる。また、身に付けた知識を日常生活で実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回の授業で個人の考え・意見をまとめたリアクションペーパーを課し、これを評価の一部にします。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	オリエンテーション
2	ライフスタイルと健康の科学 1	食生活、アルコール、喫煙
3	ライフスタイルと健康の科学 2	休養、睡眠
4	ライフスタイルと健康の科学 3	運動とその他の身体活動
5	生活習慣病の科学 1	肥満の発症メカニズムとその予防・改善方法
6	生活習慣病の科学 2	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムとその予防・改善方法
7	生活習慣病の科学 3	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムとその予防・改善方法
8	生活習慣病の科学 4	骨粗鬆症の発症メカニズムとその予防・改善方法
9	加齢と健康の科学	サルコペニア、栄養摂取
10	健康増進のための運動の科学 1	筋力トレーニング
11	健康増進のための運動の科学 2	持久性トレーニング
12	安全に運動を行うための方法 1	熱中症、低体温症、スポーツ外傷
13	安全に運動を行うための方法 2	低酸素、高酸素
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて授業支援システムを通じ、または授業中に資料を配付する。

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参画度（50 %）とレポートや試験など（50%）によって、授業の理解度、意欲、関心、態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や、発言など授業への取り組み方で評価します。ただし、オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見を考慮し、改善できることはその都度検討する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、受講者は初回の授業には必ず出席すること。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduce the influence of a variety of lifestyle including exercise and physical activity on health benefit based on scientific insights.

Learning Objectives:

The end of the course, students should be able to explain how to incorporate effectively and safety appropriate exercise and physical activity into daily life .

Learning activities outside of classroom:

Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

HSS100LC

スポーツ健康科学講義 I

水野 沙洸

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、運動・身体活動を含む様々な生活習慣が健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、適切な運動やその他の身体活動を効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

講義を通して、学生生活さらには今後の社会人生活において、健康を獲得・維持するために必要となる知識を身に付けることができる。また、身に付けた知識を日常生活で実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回の授業で個人の考え・意見をまとめたリアクションペーパーを課し、これを評価の一部にします。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

なお、新型コロナウイルスの感染状況に伴い、オンライン・オンデマンド授業に変更となった場合は、学習支援システム上に各回の授業計画を提示するので確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	総論	オリエンテーション
2	ライフスタイルと健康の科学 1	食生活、アルコール、喫煙
3	ライフスタイルと健康の科学 2	休養、睡眠
4	ライフスタイルと健康の科学 3	運動とその他の身体活動
5	生活習慣病の科学 1	肥満の発症メカニズムとその予防・改善方法
6	生活習慣病の科学 2	糖尿病、脂質異常症の発症メカニズムとその予防・改善方法
7	生活習慣病の科学 3	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムとその予防・改善方法
8	生活習慣病の科学 4	骨粗鬆症の発症メカニズムとその予防・改善方法
9	加齢と健康の科学	サルコペニア、栄養摂取
10	健康増進のための運動の科学 1	筋力トレーニング
11	健康増進のための運動の科学 2	持久性トレーニング
12	安全に運動を行うための方法 1	熱中症、低体温症、スポーツ外傷
13	安全に運動を行うための方法 2	低酸素、高酸素
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で使用するパワーポイントのスライドを用いて授業内容の復習を十分にすること。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて授業支援システムを通じ、または授業中に資料を配付する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参画度（50 %）とレポートや試験など（50%）によって、授業の理解度、意欲、関心、態度を総合的に評価します。授業への参画度は毎回のリアクションペーパーの内容や、発言など授業への取り組み方で評価します。ただし、オンライン・オンデマンド授業に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見を考慮し、改善できることはその都度検討します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明などを行うため、受講者は初回の授業には必ず出席すること。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduce the influence of a variety of lifestyle including exercise and physical activity on health benefit based on scientific insights.

Learning Objectives:

The end of the course, students should be able to explain how to incorporate effectively and safely appropriate exercise and physical activity into daily life .

Learning activities outside of classroom:

Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

HSS100LC

スポーツ健康科学講義Ⅱ

高田 佑輔

開講時期：春学期授業/Spring

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、運動やトレーニングが健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、適切な運動やトレーニングを効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ・健康を獲得および維持するために必要となる運動やトレーニングの基礎知識を身につけることができる。
- ・身につけた知識を単なる知識として留めるだけでなく、日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し、次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また、グループワークを実施することもあります。なお、対面形式で実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況などに伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の進め方（ルール）、評価方法や履修上の注意点などを説明します
第 2 回	スポーツと体育の定義	言葉の語源や定義および世界の中等教育段階のスポーツの状況を説明します
第 3 回	健康とは何か？	日常的に使われる「健康」や日本の健康づくりの取り組みについて説明します
第 4 回	体力の概念	体力の概念と、行動体力と防衛体力について説明します
第 5 回	骨格筋の働き	骨格筋の構造と筋線維の特性について説明します
第 6 回	トレーニングの理論	トレーニングの原理・原則と誤ったダイエット法について説明します
第 7 回	トレーニング 1	筋力トレーニングについて説明します
第 8 回	トレーニング 2	持久力のトレーニングについて説明します
第 9 回	トレーニング 3	柔軟性のトレーニングと敏捷性のトレーニングについて説明します
第 10 回	発育発達と運動	トレーニングを最適化するための栄養や発育・発達と運動との関係を説明します
第 11 回	スポーツの実践のために	様々な環境下で行う運動の注意や水分補給について説明します
第 12 回	生涯スポーツ	世界の生涯スポーツの現状とニュースポーツについて説明します

第 13 回 古代オリンピックと近代オリンピック

古代オリンピックのはじまりと終焉、そして近代オリンピックの復興と合わせてドーピング問題について説明します

第 14 回 試験および解説

本授業の試験を行い、その後解説をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
 ・準備学習として、授業のトピックスについて一週間の新聞記事から調べる。
 ・復習として、授業で使用する資料を用いて知識の定着を図る。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず、毎回資料を配付します。

【参考書】

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参画度（36%）、リアクションペーパーなどのショートレポート（24%）と期末試験（40%）によって、意欲、関心、態度、授業の理解度などを総合的に評価します。
 ただし、オンライン形式に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上を通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを通じて行うこともあります。

【その他の重要事項】

- ・授業の妨げになる言動や、授業に関係のない携帯電話など電子機器類の使用には厳しく対処します。
- ・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて、運動や健康への関心を高めてください。
- ・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かした授業を展開します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In modern society, it is necessary to incorporate appropriate exercise, nutrition, and rest in daily life for healthy and abundance. This class learn the effects of exercise and training on health based on scientific knowledge.

(Learning Objectives)

The purpose of this class is to acquire an understanding of appropriate exercise and training in daily life

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Short reports: 24%, in class contribution: 36%

HSS100LC

スポーツ健康科学講義Ⅱ

高田 佑輔

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において、「健康」を獲得・維持し豊かで独立した生活を送るためには、適切な運動・栄養・休養を日常生活に取り入れることが必要である。本講義では、運動やトレーニングが健康にどのような影響を及ぼすかを科学的知見に基づき学ぶ。これを通じ、適切な運動やトレーニングを効果的また安全に日常生活に取り入れる方法を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ・健康を獲得および維持するために必要となる運動やトレーニングの基礎知識を身につけることができる。
- ・身につけた知識を単なる知識として留めるだけでなく、日常生活での実践につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。授業の最後に個人の考えや意見をまとめたリアクションペーパーを課し、次回授業で全体に対してフィードバックを行います。また、グループワークを実施することもあります。なお、対面形式で実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況などに伴い、オンライン形式に変更となる場合は、学習支援システムを通じてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方（ルール）、評価方法や履修上の注意点などを説明します
第2回	スポーツと体育の定義	言葉の語源や定義および世界の中等教育段階のスポーツの状況を説明します
第3回	健康とは何か？	日常的に使われる「健康」や日本の健康づくりの取り組みについて説明します
第4回	体力の概念	体力の概念と、行動体力と防衛体力について説明します
第5回	骨格筋の働き	骨格筋の構造と筋線維の特性について説明します
第6回	トレーニングの理論	トレーニングの原理・原則と誤ったダイエット法について説明します
第7回	トレーニング 1	筋力トレーニングについて説明します
第8回	トレーニング 2	持久力のトレーニングについて説明します
第9回	トレーニング 3	柔軟性のトレーニングと敏捷性のトレーニングについて説明します
第10回	発育発達と運動	トレーニングを最適化するための栄養や発育・発達と運動との関係を説明します
第11回	スポーツの実践のために	様々な環境下で行う運動の注意や水分補給について説明します
第12回	生涯スポーツ	世界の生涯スポーツの現状とニュースポーツについて説明します

第13回 古代オリンピックと近代オリンピック

古代オリンピックのはじまりと終焉、そして近代オリンピックの復興と合わせてドーピング問題について説明します

第14回 試験および解説

本授業の試験を行い、その後解説をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
 ・準備学習として、授業のトピックスについて一週間の新聞記事から調べる。
 ・復習として、授業で使用する資料を用いて知識の定着を図る。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず、毎回資料を配付します。

【参考書】

特に指定せず、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参画度（36%）、リアクションペーパーなどのショートレポート（24%）と期末試験（40%）によって、意欲、関心、態度、授業の理解度などを総合的に評価します。ただし、オンライン形式に変更される場合は、成績評価の方法と基準も変更します。その際は学習支援システム上を通じてお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生の意見を考慮し、改善できることはその都度検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを通じて行うこともあります。

【その他の重要事項】

- ・授業の妨げになる言動や、授業に関係のない携帯電話など電子機器類の使用には厳しく対処します。
- ・実技科目の「スポーツ健康科学実習」と合わせて、運動や健康への関心を高めてください。
- ・担当教員は日本スポーツ協会公認スポーツリーダーの資格を有し、その経験を生かした授業を展開します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In modern society, it is necessary to incorporate appropriate exercise, nutrition, and rest in daily life for healthy and abundance. This class learn the effects of exercise and training on health based on scientific knowledge.

【Learning Objectives】

The purpose of this class is to acquire an understanding of appropriate exercise and training in daily life

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Short reports: 24%, in class contribution: 36%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

長谷川 秀子

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

授業では英語で自分の考えや、身の回りのことを話す、書くということから始め、英語のアカデミックライティングまでを学んでいく。"Output English"にフォーカスを置き、いままで学んだ"Input English"を使いながら、話す、書くを磨く。授業中は書く時間やミニプレゼンテーションの時間をとる。このクラスは少人数構成が望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーや課題などからからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。教科書を使いながら英文の書き方を学び、トピックに関する意見や考えを発表する時間、グループディスカッション、ミニプレゼンも行う。オリエンテーションで教科書の使い方、準備すべきことを説明の予定。1つのユニットを大体2回で終わるように授業を行うが、教科書以外の内容もカバーする予定。クラスの中で書いたり、発表する時間には積極的な参加を望む。COVID-19による感染状況により授業形態や成績評価の方法が変更する場合は、学習支援システムにて予定を提示するので確認のこと。春学期の授業は、原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	テキストの使い方と授業準備授業の進め方の説明 Writing
第2回	Unit 1 (1) Mini presentation	What is a Paragraph?
第3回	Unit 1 (2)	What is a Paragraph? Writing
第4回	Unit 2 (1) Mini presentation	Narration Writing
第5回	Unit 2 (2)	Narration Writing
第6回	Unit 3 (1) Mini presentation	Mini presentation Process Writing
第7回	Unit 3 (2)	Process Writing
第8回	Unit 4 (1) Mini presentation	Description of Feelings Writing
第9回	Unit 4 (2)	Description of Feelings Writing
第10回	Unit 5 (1) Mini presentation	Description of People Writing
第11回	Unit 5 (2)	Description of People Writing (1) Outline
第12回	Unit 6	Description of Places & Locations Writing (2) Introduction, Body
第13回	Unit 7	Definition Writing (3) Conclusion, References
第14回	Term Exam	試験範囲 Unit 1-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1.5時間程度を標準とする】
各ユニットの項目を理解すること。課題などの Writing, ミニプレゼンの用意をする。

【テキスト（教科書）】

はじめてのパラグラフ・ライティング
"Smart Writing"

Active Approach to Paragraph Writing

By Miyako Nakaya, Manabu Yoshihara, Ruth Fallon (2017)

SEIBIDO

ISBN978-4-7919-6032-3

【参考書】

必要に応じて授業、学習主演システムで紹介。

【成績評価の方法と基準】

ミニプレゼンテーション、課題 50%

期末試験 50%

【注意事項】原則としてすべての授業に出席すること。やむをえない理由で長期にわたって欠席の場合は、速やかに担当教員に連絡すること。考慮すべき理由なく3分の1以上欠席した者は、評価の対象とならない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料配布や課題提出が行われる。

【その他の重要事項】

担当者の連絡先はオリエンテーションで連絡。

授業では辞書が必要なので用意をしておくこと。

学習支援システムで連絡、確認事項、授業資料などを確認すること。

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Goals: We focus on "Output English" using "Input English" you have already learned, and practice expressing yourself (speaking and writing) and your opinions in English.

Work outside of the classroom: Understand each unit's contents, complete homework and prepare for mini presentations.

Grading: Assignment mini presentation 50%

Term exam 50%

LANe200LC

アカデミック・ライティング

RYAN HARTLEY

開講時期：秋学期授業/Fall

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、英文をセンテンスレベルで正確に組み立てるための基本的な知識や、自分の意見や考えをまとめてパラグラフを書く基礎力を身につけ、エッセイ・ライティング、アカデミック・ライティングを視野に入れた力へと発展させることを目的とする。伝えたいテーマについて調査し、その結果をパラグラフ構成に則って効果的に書く経験を通して、学生に達成感と自信を与える。授業は習熟度別で少人数で行う。

【到達目標】

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and write in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in written English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Understand the different parts of writing that result in the production of an essay (sentences, paragraphs, essay structure).

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

例 1:Every seven weeks, students will complete a research project. One on a science topic and one on an engineering topic. In preparation for this students will conduct research in class and for homework.

例 2:For homework, students will be expected to learn about their topic, take notes, and bring those notes to class for discussion.

例 3:In class, students will discuss their research in small groups in addition to individually completing tasks assigned by the teacher to develop knowledge of writing in English.

例 4:At the end of each project 'cycle', students will write an essay on their research, which will be read by other students and evaluated by the teacher.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions, first half semester goal setting	In this class we will be getting to know each other and brainstorming class goals.
2	Sentences	In this class we will be moving from vocabulary > sentence level composition.
3	Paragraphs	In this class we will be moving from sentence > paragraph level composition.
4	Essays	In this class we will be moving from paragraph > essay level composition.

5	Science issue discussion	In this class we will move to you putting the skills into practice and begin your individual research project.
6	Science essay outlining	In this class you will be discussing your research and creating an essay plan.
7	Science essay writing and presentation deadline	Final deadlines for your science essay.
8	Second half semester goal setting	In this class we will be brainstorming class goals.
9	Sentences	In this class we will be moving from vocabulary > sentence level composition.
10	Paragraphs	In this class we will be moving from sentence > paragraph level composition.
11	Essays	In this class we will be moving from paragraph > essay level composition.
12	Engineering issue discussion	In this class we will move to you putting the skills into practice and begin your individual research project.
13	Engineering essay outlining	In this class you will be discussing your research and creating an essay plan.
14	Engineering Essay Writing and Presentation Deadline	Final deadlines for your engineering essay.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

例 3:Completion of writing tasks on Google Classroom.

【テキスト（教科書）】

Homework (first half semester): one chapter per week from "Professional English in Use Engineering With Answers Technical English for Professionals", by Mark Ibbotson

Homework (second half semester): one chapter per week from "English for Science", by Fran Zimmerman

【参考書】

A Google Classroom will be created for activities and assignments. The class codes provided in due time.

【成績評価の方法と基準】

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x essays (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark is 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness.

Outline

This class aims at developing students' basic knowledge of accurately constructing English sentences leading to writing paragraphs and essays in which students develop the foundations of academic writing. Attention will be paid to not merely translating to English, but to developing the awareness and skill of writing in a more English-like way, finding and researching good topics, and content-based writing. Classes are leveled and enrollment held to approximately 20 students in order to maximize teaching effectiveness. 3) Please copy what you have written in English for the following categories

【到達目標】 Goal

例 1:The goals of this course are to be able to research, discuss, and write in English on a variety of science and engineering topics.

例 2:At the end of the course, students are expected to be able to comprehend authentic materials and express themselves in written English so they are understood to others.

例 3:By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Read and listen to science and engineering materials in English
- B. Become confident in engaging with others in English
- C. Understand the different parts of writing that result in the production of an essay (sentences, paragraphs, essay structure).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Work to be done outside of class (preparation, etc.)

例 1:Students will be expected to be self-motivated and do at least two hours of research on their chosen issues.

例 2:Proof of research in the form of notes and materials will be checked in class.

例 3:Completion of writing tasks on Google Classroom.

成績評価の方法と基準】 Grading criteria

例 1:Your overall grade in the class will be decided based on the following: 2 x essays (40% each). Class participation (20%). There will be no final test. Pass mark is 60%.

例 2:Students receive a higher class participation score when they are prepared with the homework, volunteer to answer or ask questions, and participate effectively in pair/group work.

例 3:Students who miss five or more class sessions without a valid excuse (like an extended illness) may be failed.

